

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第164集

本郷遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

ほんごう

本郷遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600カ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保持し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務で在ります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に高速道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成元・2年度に発掘調査した本郷遺跡の調査結果をまとめたものであります。本遺跡は和賀川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、縄文時代中期の住居跡、土壌群が数多く発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力、御支援を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所、旧和賀町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成4年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 工藤 巖

例 言

- 1 本報告書は、岩手県北上市和賀町煤孫第2地割159-3に所在する本郷遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と日本道路公団仙台建設局との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はME63-1262、遺跡略号はHG-89・90、発掘調査面積は15,490m²である。
- 4 発掘調査期間は平成元年4月11日～10月31日、平成2年5月23日～9月3日、整理期間は平成元年11月1日～3年3月31日である。
- 5 野外調査および室内整理担当者は次のとおりである。
平成元年度 小田野哲憲・酒井宗孝・菊地達哉・及川 渉
平成2年度 酒井宗孝・千葉 悟・小田野哲憲
- 6 本報告書の執筆はIを佐々木嘉直、土師器・須恵器・塚を酒井、その他を小田野が担当した。
- 7 遺物の鑑定は次の方に依頼した。石質・佐藤二郎氏(佐藤地質工学研究所)、炭化材・早坂松次郎氏(岩手県木炭協会)、火山灰・三辻利一氏(奈良教育大学)。
- 8 発掘・整理・執筆にあたっては下記の方々にご協力・ご指導いただいた。
相原淳一・阿部明彦・稲野祐介・稲野彰子・岡田康博・鎌田裕二・桐生正一・熊谷常正・黒坂雅人・小井川和夫・小林 克・斎藤尚巳・佐々木清文・佐々木勝・佐藤嘉広・鈴木良一・鈴木克彦・高田和徳・高橋重貴子・高橋憲太郎・高橋文明・中村良幸・藤沼邦彦・藤村東男・本堂寿一・三宅徹也・(旧)和賀町教育委員会。(50音順、敬称略)
- 9 野外調査では熊谷健一氏ほか40名の、室内整理では村上幹子さんほか17名のご協力を得た。
- 10 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

序
例言

本 文

I 調査に至る経過	1	4. 古代の遺構と遺物	252
II 立地と環境	2	(1) 竪穴住居跡	252
1. 遺跡の位置と地形	2	(2) 土 壙	270
2. 遺跡および周辺の地形	5	(3) 焼 土	271
3. 周辺の遺跡	5	(4) 遺構外出土遺跡	271
III 調査・整理の方法	11	(5) まとめ	275
1. 野外調査	11	5. 中世以降の遺構と出土遺物	278
2. 室内整理	11	(1) 塚・集合墓	278
IV 遺構と遺物	12	V 鑑定・分析結果	284
1. 縄文時代の遺構と遺物	12	VI 考察とまとめ	286
(1) 住居跡	12	1. 縄文時代	286
(2) 土壙類	116	2. 弥生時代	291
(3) 陥 穴	136	3. 古代・中世以降	291
(4) 屋外炉・焼土	160		
(5) 集 石	160		
(6) 溝・その他の遺構	160		
2. 弥生時代の遺構と遺物	168		
3. 縄文・弥生時代遺構外出土の遺物	170		
(1) 縄文時代の土器	170		
(2) 石 器	207		
(3) 土・石製品	210		
(4) 弥生時代の土器	249		
(5) 先土器時代の遺物	249		

図 版

第1図	遺跡位置図	4
第2図	地形区分図	3・4
第3図	遺跡地形図	7・8
第4図	調査区位置図	9
第5図	周辺の遺跡分布図	10
第6図	調査区・遺構配置図	13・14
第7図	I B-1号住居跡	15
第8図	I B-1号住居跡遺物(1)	16
第9図	I B-1号住居跡遺物(2)	17
第10図	I B-2号住居跡・遺物	19
第11図	II G-1号住居跡	21
第12図	II G-1号住居跡遺物(1)	22
第13図	II G-1号住居跡遺物(2)	23
第14図	II G-1号住居跡遺物(3)	24
第15図	II G-1号住居跡遺物(4)	25
第16図	II G-1号住居跡遺物(5)	26
第17図	II G-1号住居跡遺物(6)	27
第18図	II G-2号、5号住居跡(1)	30
第19図	II G-2号、5号住居跡(2)	31
第20図	II G-2号住居跡遺物(1)	32
第21図	II G-2号住居跡遺物(2)	33
第22図	II G-2号住居跡遺物(3)	31
第23図	II G-3号住居跡	35
第24図	II G-3号住居跡遺物(1)	36
第25図	II G-3号住居跡遺物(2)	37
第26図	II G-3号住居跡遺物(3)	38
第27図	II G-3号住居跡遺物(4)	39
第28図	II G-3号住居跡遺物(5)	40
第29図	II G-3号住居跡遺物(6)	41
第30図	II G-3号住居跡遺物(7)	42
第31図	II G-4号、6号住居跡	46
第32図	II G-4号住居跡遺物(1)	47
第33図	II G-4号住居跡遺物(2)	48
第34図	II G-4号住居跡遺物(3)	49
第35図	II G-4号住居跡遺物(4)	50
第36図	II G-4号住居跡遺物(5)	51
第37図	II G-4号住居跡遺物(6)	52
第38図	II G-5号住居跡遺物(1)	55
第39図	II G-5号住居跡遺物(2)	56
第40図	II G-5号住居跡遺物(3)	57
第41図	II G-7号住居跡	61・62
第42図	II G区遺構重複図	63
第43図	II G-7号住居跡遺物(1)	64
第44図	II G-7号住居跡遺物(2)	65
第45図	II G-7号住居跡遺物(3)	66
第46図	II G-8号住居跡	69
第47図	II G-8号住居跡遺物(1)	70
第48図	II G-8号住居跡遺物(2)	71
第49図	II G-8号住居跡遺物(3)	69
第50図	I H-1号住居跡・遺物	73
第51図	II H-1号住居跡	74
第52図	II H-1号住居跡遺物(1)	75
第53図	II H-1号住居跡遺物(2)	76
第54図	II H-1号住居跡遺物(3)	77
第55図	II H-1号住居跡遺物(4)	78
第56図	II H-1号住居跡遺物(5)	79
第57図	II H-1号住居跡遺物(6)	80
第58図	II H-2号、3号住居跡	83
第59図	II H-2号住居跡遺物(1)	84
第60図	II H-2号住居跡遺物(2)	86
第61図	II H-2号住居跡遺物(3)	87
第62図	II H-2号住居跡遺物(4)	88

第63図	Ⅱ H-2号住居跡遺物(5)……………89	第91図	Ⅱ G-2、Ⅰ I-1号集石土壙……………126
第64図	Ⅱ H-3号住居跡遺物(1)……………91	第92図	Ⅰ J区集石土壙・円形土壙配置図…127
第65図	Ⅱ H-3号住居跡遺物(2)……………92	第93図	Ⅰ B-2、Ⅰ C-3、4、16、19号 円形土壙……………130
第66図	Ⅱ H-4号住居跡……………94	第94図	Ⅰ B-3、Ⅰ C-14、22、Ⅰ D-1、 2、3号円形土壙……………131
第67図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(1)……………95	第95図	Ⅱ G-1号円形土壙・遺物……………132
第68図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(2)……………96	第96図	Ⅱ G-3号、Ⅰ H-1、Ⅰ O H-1号円 形土壙・遺物……………133
第69図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(3)……………98	第97図	Ⅱ H-1、2、3号円形土壙・遺物 ……………134
第70図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(4)……………99	第98図	Ⅰ I-1、Ⅱ H-4、Ⅱ I-1、 Ⅰ J-3号円形土壙……………135
第71図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(5)……………100	第99図	Ⅰ C-1号方形土壙……………136
第72図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(6)……………101	第100図	Ⅰ B-2、3、Ⅰ G-2号陥穴……………140
第73図	Ⅱ H-4号住居跡遺物(7)……………102	第101図	Ⅰ B-1、Ⅰ C-1号陥穴……………141
第74図	Ⅱ H-5・6号住居跡……………104	第102図	Ⅱ C-1、2号陥穴……………142
第75図	Ⅱ H-5号住居跡遺物(1)……………105	第103図	Ⅱ C-3、Ⅰ G-1号陥穴……………143
第76図	Ⅱ H-5号住居跡遺物(2)・Ⅱ H-6 号住居跡遺物……………106	第104図	Ⅰ G-3、5、6号陥穴……………144
第77図	Ⅱ J-1号住居跡(1)……………110	第105図	Ⅰ G-4、10号陥穴……………145
第78図	Ⅱ J-1号住居跡(2)……………111	第106図	Ⅰ G-11、Ⅱ H-1号陥穴……………146
第79図	Ⅱ J-1号住居跡遺物(1)……………112	第107図	Ⅱ G-9、Ⅰ H-1、2号陥穴……………147
第80図	Ⅱ J-1号住居跡遺物(2)……………113	第108図	Ⅰ G-9、Ⅱ G-1号陥穴……………148
第81図	Ⅱ J-1号住居跡遺物(3)……………114	第109図	Ⅱ H-2号陥穴・遺物……………149
第82図	Ⅱ J-1号住居跡遺物(4)……………115	第110図	Ⅰ C-2、Ⅱ G-2、8、Ⅰ G-7号 陥穴……………150
第83図	Ⅰ C-1号、Ⅱ H-1号 フラスコピット……………118	第111図	Ⅰ G-8、Ⅱ G-10号陥穴・遺物…151
第84図	Ⅱ H-1号フラスコピット遺物(1)…119	第112図	Ⅱ G-3、4、11号陥穴……………152
第85図	Ⅱ H-1号フラスコピット遺物(2)…120	第113図	Ⅱ G-5、6、7、Ⅱ H-9号陥穴…153
第86図	Ⅱ G-1号フラスコピット遺物…121	第114図	Ⅰ H-3、Ⅱ H-4、5号陥穴……………154
第87図	Ⅰ B-4、5号集石土壙 Ⅰ B-1、Ⅰ C-15号円形土壙……………122	第115図	Ⅱ H-6、7、8号陥穴・遺物……………155
第88図	Ⅰ C区集石土壙配置図……………123	第116図	Ⅱ H-3号陥穴・遺物、Ⅰ J-1号陥穴156
第89図	Ⅰ C-1、2、5、6、7号 集石土壙・遺物……………124	第117図	Ⅱ H-3号陥穴遺物……………158
第90図	Ⅰ C-8、9、10、12、20、23号 集石土壙……………125		

第118図	I J-1、3号陷穴・遺物……………158	第149図	遺構外遺物：縄文土器(22)……………201
第119図	Ⅱ H区陷穴・土壙・住居跡重複図…159	第150図	遺構外遺物：縄文土器(23)……………202
第120図	屋外炉、焼土遺構・遺物……………161	第151図	遺構外遺物：縄文土器(24)……………203
第121図	I H-1号集石・遺物……………162	第152図	遺構外遺物：縄文土器(25)……………204
第121図	I I-1号集石・遺物……………163	第153図	遺構外遺物：縄文土器(26)……………205
第122図	I I-1号集石遺物	第154図	遺構外遺物：縄文土器(27)……………206
第123図	I H-2号集石、Ⅱ I 炭窯……………164	第155図	遺構外遺物：石器(1)……………218
第124図	I H-2号集石遺物……………165	第156図	遺構外遺物：石器(2)……………219
第125図	I H区溝……………166	第157図	遺構外遺物：石器(3)……………220
第126図	I I 区溝、Ⅱ I 炭窯……………167	第158図	遺構外遺物：石器(4)……………221
第127図	I C-3、I J-10、Ⅱ J-1号 土壙・遺物……………169	第159図	遺構外遺物：石器(5)……………222
第128図	遺構外遺物：縄文土器(1)……………180	第160図	遺構外遺物：石器(6)……………223
第129図	遺構外遺物：縄文土器(2)……………181	第161図	遺構外遺物：石器(7)……………224
第130図	遺構外遺物：縄文土器(3)……………182	第162図	遺構外遺物：石器(8)……………225
第131図	遺構外遺物：縄文土器(4)……………183	第163図	遺構外遺物：石器(9)……………226
第132図	遺構外遺物：縄文土器(5)……………184	第164図	遺構外遺物：石器(10)……………227
第133図	遺構外遺物：縄文土器(6)……………185	第165図	遺構外遺物：石器(11)……………228
第134図	遺構外遺物：縄文土器(7)……………186	第166図	遺構外遺物：石器(12)……………229
第135図	遺構外遺物：縄文土器(8)……………187	第167図	遺構外遺物：石器(13)……………230
第136図	遺構外遺物：縄文土器(9)……………188	第168図	遺構外遺物：石器(14)……………231
第137図	遺構外遺物：縄文土器(10)……………189	第169図	遺構外遺物：石器(15)……………232
第138図	遺構外遺物：縄文土器(11)……………190	第170図	遺構外遺物：石器(16)……………233
第139図	遺構外遺物：縄文土器(12)……………191	第171図	遺構外遺物：石器(17)……………234
第140図	遺構外遺物：縄文土器(13)……………192	第172図	遺構外遺物：石器(18)……………235
第141図	遺構外遺物：縄文土器(14)……………193	第173図	遺構外遺物：石器(19)……………236
第142図	遺構外遺物：縄文土器(15)……………194	第174図	遺構外遺物：石器(20)……………237
第143図	遺構外遺物：縄文土器(16)……………195	第175図	遺構外遺物：石器(21)……………238
第144図	遺構外遺物：縄文土器(17)……………196	第176図	遺構外遺物：石器(22)……………239
第145図	遺構外遺物：縄文土器(18)……………197	第177図	遺構外遺物：石器(23)……………240
第146図	遺構外遺物：縄文土器(19)……………198	第178図	遺構外遺物：石器(24)……………241
第147図	遺構外遺物：縄文土器(20)……………199	第179図	遺構外遺物：石器(25)……………242
第148図	遺構外遺物：縄文土器(21)……………200	第180図	遺構外遺物：石器(26)……………243
		第181図	遺構外遺物：石器(27)……………244

第182图	遺構外遺物：石器(28)·····	245
第183图	遺構外遺物：土·石製品(1)·····	246
第184图	遺構外遺物：土·石製品(2)·····	247
第185图	遺構外遺物：土·石製品(3)·····	248
第186图	遺構外遺物：弥生土器(1)·····	250
第187图	遺構外遺物：弥生土器(2)·····	251
第188图	I F-1号住居跡·····	253
第189图	I F-1号住居跡遺物·····	254
第190图	I F-2号住居跡·····	256
第191图	I F-2号住居跡遺物(1)·····	257
第192图	I F-2号住居跡遺物(2)·····	258
第193图	I G-1号住居跡·····	260
第194图	I G-1号住居跡遺物(1)·····	261

第195图	I G-1号住居跡遺物(2)·····	262
第196图	I G-1号住居跡遺物(3)·····	263
第197图	I G-1号住居跡遺物(4)·····	264
第198图	I G-2号住居跡·····	266
第199图	I G-2号住居跡遺物(1)·····	268
第200图	I G-2号住居跡遺物(2)·····	269
第201图	I G-1号土壙·遺物·····	270
第202图	I G-2号土壙·遺物·····	272
第203图	I G-1号焼土·遺物·····	273
第204图	古代遺構外遺物·····	274
第205图	I A-1塚·····	279·280
第206图	I A-1塚遺物·····	282
第207图	I A-2塚·····	283

写真図版

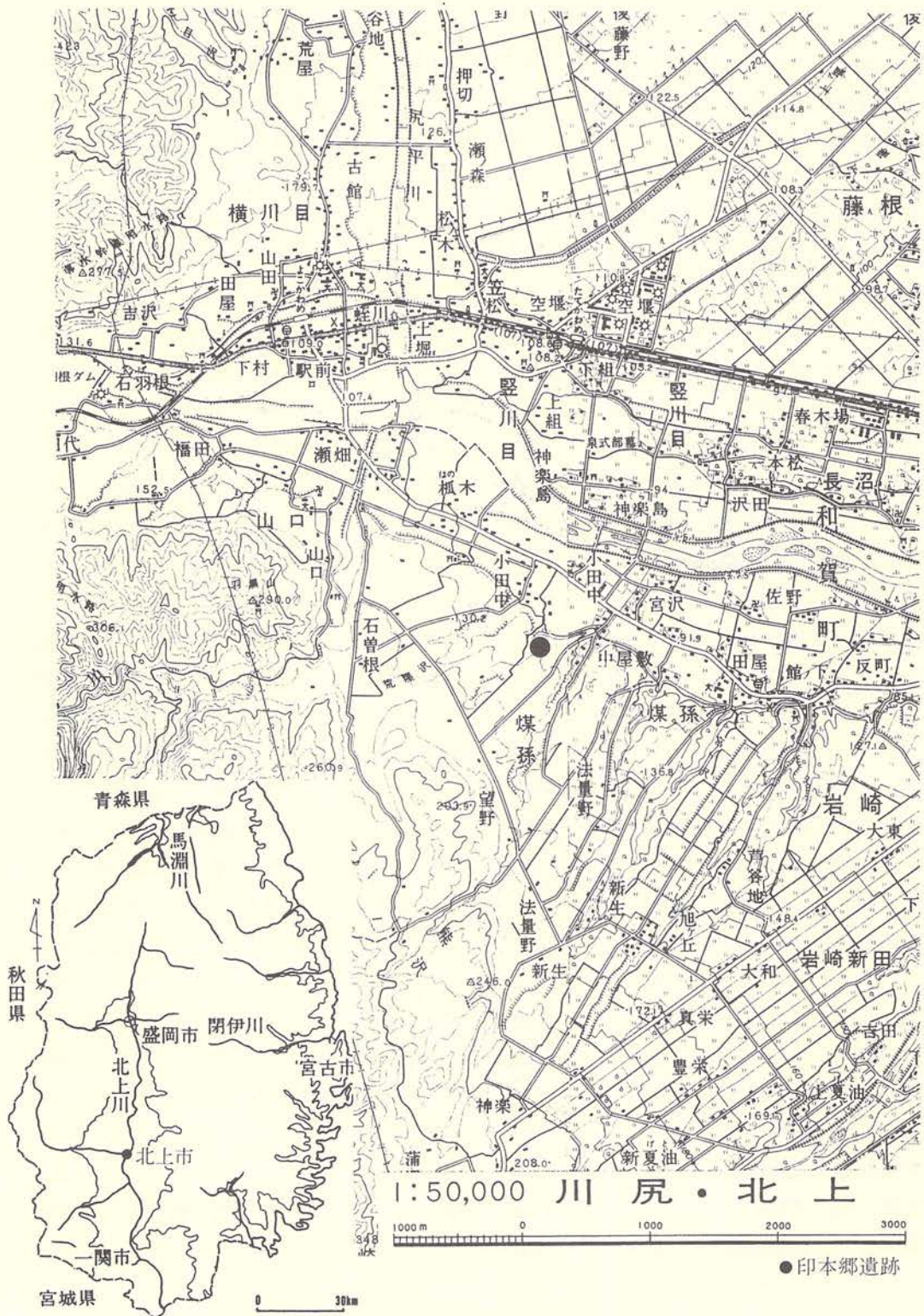
写真図版1	空中写真(1)·····	295
写真図版2	空中写真(2)·基本層序·····	296
写真図版3	I B-1号住居跡·····	297
写真図版4	I B-1号、2号住居跡遺物·····	298
写真図版5	II G-1号住居跡(1)·····	299
写真図版6	II G-1号住居跡(2)·····	300
写真図版7	II G-1号住居跡遺物(1)·····	301
写真図版8	II G-1号住居跡遺物(2)·····	302
写真図版9	II G-1号住居跡遺物(3)·····	303
写真図版10	II G-1号住居跡遺物(4)·····	304
写真図版11	II G-2号住居跡·····	305
写真図版12	II G-2号住居跡遺物(1)·····	306
写真図版13	II G-2号住居跡遺物(2)·····	307
写真図版14	II G-3号住居跡·····	308
写真図版15	II G-3号住居跡遺物(1)·····	309
写真図版16	II G-3号住居跡遺物(2)·····	310
写真図版17	II G-3号住居跡遺物(3)·····	311
写真図版18	II G-3号住居跡遺物(4)·····	312

写真図版19	II G-3号住居跡遺物(5)·····	313
写真図版20	II G-4号、6号住居跡·····	314
写真図版21	II G-4号住居跡遺物(1)·····	315
写真図版22	II G-4号住居跡遺物(2)·····	316
写真図版23	II G-4号住居跡遺物(3)·····	317
写真図版24	II G-4号住居跡遺物(4)·····	318
写真図版25	II G-4号住居跡遺物(5)·····	319
写真図版26	II G-5号住居跡·····	320
写真図版27	II G-5号住居跡遺物(1)·····	321
写真図版28	II G-5号住居跡遺物(2)·····	322
写真図版29	II G-7号住居跡(1)·····	323
写真図版30	II G-7号住居跡(2)·····	324
写真図版31	II G-7号住居跡遺物(1)·····	325
写真図版32	II G-7号住居跡遺物(2)·····	326
写真図版33	II G-8号住居跡·····	327
写真図版34	II G-8号住居跡遺物(1)·····	328
写真図版35	II G-8号住居跡遺物(2)·····	329
写真図版36	I H-1号、I B-2号住居跡·····	330

写真図版37	Ⅱ H-1 号住居跡……………331	写真図版69	I J-4、5、6号集石土壙……………363
写真図版38	Ⅱ H-1 号住居跡遺物(1)……………332	写真図版70	I J-7、8、9号(集石)土壙……………364
写真図版39	Ⅱ H-1 号住居跡遺物(2)……………333	写真図版71	集石土壙遺物……………365
写真図版40	Ⅱ H-1 号住居跡遺物(3)……………334	写真図版72	I B-1、I C-4、15号土壙……………366
写真図版41	Ⅱ H-2 号、3号住居跡……………335	写真図版73	I C-3、16、18号土壙……………367
写真図版42	Ⅱ H-2 号住居跡遺物(1)……………336	写真図版74	I C-19、I B-2、3号土壙……………368
写真図版43	Ⅱ H-2 号住居跡遺物(2)……………337	写真図版75	I C-14、22、0H-1号土壙……………369
写真図版44	Ⅱ H-2 号住居跡遺物(3)……………338	写真図版76	I D-1、2、3、Ⅱ G-1号土壙……………370
写真図版45	Ⅱ H-3 号住居跡遺物……………339	写真図版77	I H-1、Ⅱ H-1、2、3号土壙……………371
写真図版46	Ⅱ H-4 号住居跡……………340	写真図版78	I I-1、2、Ⅱ I-1号土壙……………372
写真図版47	Ⅱ H-4 号住居跡遺物(1)……………341	写真図版79	土壙出土遺物……………373
写真図版48	Ⅱ H-4 号住居跡遺物(2)……………342	写真図版80	方形土壙・基本土層……………374
写真図版49	Ⅱ H-4 号住居跡遺物(3)……………343	写真図版81	I B-1、2、3号陥穴……………375
写真図版50	Ⅱ H-4 号住居跡遺物(4)……………344	写真図版82	I C-1、Ⅱ C-1、2号陥穴……………376
写真図版51	Ⅱ H-4 号住居跡遺物(5)……………345	写真図版83	Ⅱ C-3、I G-1、2号陥穴……………377
写真図版52	Ⅱ H-5 号、6号住居跡……………346	写真図版84	I G-3、4、5号陥穴……………378
写真図版53	Ⅱ H-5 号住居跡遺物(1)……………347	写真図版85	I G-6、10号陥穴……………379
写真図版54	Ⅱ H-5 号住居跡遺物(2)……………348	写真図版86	I G-11、I H-1、2号陥穴……………380
写真図版55	Ⅱ J-1 号住居跡……………349	写真図版87	Ⅱ G-1、2、9号陥穴……………381
写真図版56	Ⅱ J-1 号住居跡遺物(1)……………350	写真図版88	Ⅱ H-1、2、I G-9号陥穴……………382
写真図版57	Ⅱ J-1 号住居跡遺物(2)……………351	写真図版89	I C-2、I G-7、8号陥穴……………383
写真図版58	Ⅱ G-1、Ⅱ H-1 号 フラスコピット……………352	写真図版90	I H-3、Ⅱ G-3、4号陥穴……………384
写真図版59	フラスコピット遺物……………353	写真図版91	Ⅱ G-5、6、7号陥穴……………385
写真図版60	I B-4、I B-5号集石土壙……………354	写真図版92	Ⅱ G-10、11、Ⅱ H-3号陥穴……………386
写真図版61	I C-1、I C-2号集石土壙……………355	写真図版93	Ⅱ H-4、5、6号陥穴……………387
写真図版62	I C-5、I C-6号集石土壙……………356	写真図版94	Ⅱ H-7、8、9号陥穴……………388
写真図版63	I C-7、I C-8号集石土壙……………357	写真図版95	I J-1、2、3号陥穴……………389
写真図版64	I C-9、I C-12号集石土壙……………358	写真図版96	陥穴出土遺物(1)……………390
写真図版65	I C-10、I C-20号集石土壙……………359	写真図版97	陥穴出土遺物(2)……………391
写真図版66	I C-21、I C-23号集石土壙……………360	写真図版98	屋外炉・焼土と遺物……………392
写真図版67	Ⅱ G-2号集石、3号土壙……………361	写真図版99	I I-1、2号集石……………393
写真図版68	I J土壙群、I J-1、2号土壙……………362	写真図版100	I I-1、2号集石遺物……………394
		写真図版101	I H、I I溝・Ⅱ I炭窯……………395

写真図版102	弥生時代の遺構・土壌……………	396
写真図版103	弥生時代の遺構内遺物……………	397
写真図版104	遺構外遺物：縄文土器(1)…	398
写真図版105	遺構外遺物：縄文土器(2)…	399
写真図版106	遺構外遺物：縄文土器(3)…	400
写真図版107	遺構外遺物：縄文土器(4)…	401
写真図版108	遺構外遺物：縄文土器(5)…	402
写真図版109	遺構外遺物：縄文土器(6)…	403
写真図版110	遺構外遺物：縄文土器(7)…	404
写真図版111	遺構外遺物：縄文土器(8)…	405
写真図版112	遺構外遺物：縄文土器(9)…	406
写真図版113	遺構外遺物：縄文土器(10)…	407
写真図版114	遺構外遺物：縄文土器(11)…	408
写真図版115	遺構外遺物：縄文土器(12)…	409
写真図版116	遺構外遺物：縄文土器(13)…	410
写真図版117	遺構外遺物：縄文土器(14)…	411
写真図版118	遺構外遺物：縄文土器(15)…	412
写真図版119	遺構外遺物：縄文土器(16)…	413
写真図版120	遺構外遺物：縄文土器(17)…	414
写真図版121	遺構外遺物：縄文土器(18)…	415
写真図版122	遺構外遺物：縄文土器(19)…	416
写真図版123	遺構外遺物：縄文土器(20)…	417
写真図版124	遺構外遺物：縄文土器(21)…	418
写真図版125	遺構外遺物：石器(1)……………	419
写真図版126	遺構外遺物：石器(2)……………	420
写真図版127	遺構外遺物：石器(3)……………	421
写真図版128	遺構外遺物：石器(4)……………	422
写真図版129	遺構外遺物：石器(5)……………	423
写真図版130	遺構外遺物：石器(6)……………	424
写真図版131	遺構外遺物：石器(7)……………	425
写真図版132	遺構外遺物：石器(8)……………	426
写真図版133	遺構外遺物：石器(9)……………	427

写真図版134	遺構外遺物：石器(10)……………	428
写真図版135	遺構外遺物：石器(11)……………	429
写真図版136	遺構外遺物：石器(12)……………	430
写真図版137	遺構外遺物：石器(13)……………	431
写真図版138	遺構外遺物：石器(14)……………	432
写真図版139	遺構外遺物：石器(15)……………	433
写真図版140	遺構外遺物：石器(16)……………	434
写真図版141	遺構外特殊遺物(1)……………	435
写真図版142	遺構外特殊遺物(2)……………	436
写真図版143	遺構外特殊遺物(3)……………	437
写真図版144	遺構外遺物：弥生土器……………	438
写真図版145	I F-1号住居跡……………	439
写真図版146	I F-2号住居跡……………	440
写真図版147	I G-1号住居跡……………	441
写真図版148	I G-2号住居跡(1)……………	442
写真図版149	I G-2号住居跡(2)……………	443
写真図版150	I F-1、2号住居跡遺物……………	444
写真図版151	I F-2、I G-1号住居跡遺物……………	445
写真図版152	I G-1号住居跡遺物……………	446
写真図版153	I G-1、2号住居跡遺物……………	447
写真図版154	I G-2号住居跡遺物……………	448
写真図版155	I G-1、2号方形土壌……………	449
写真図版156	I G-1焼土遺構A、B、C……………	450
写真図版157	土壌・遺構外・I A-1塚遺物……………	451
写真図版158	I A-1塚(1)……………	452
写真図版159	I A-1塚(2)……………	453
写真図版160	I A-1塚(3)……………	454
写真図版161	I A-1塚(4)……………	455
写真図版162	I A-1塚(5)……………	456
写真図版163	I A-2塚……………	457
写真図版164	I A-1、2塚完掘写真……………	480



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経過

東北横断自動車道秋田線は、岩手県北上市から秋田県秋田市に至る総延長107kmの高速道路である。このうち、第9次・第10次施工命令区間は、北上ジャンクションから秋田県境までの延長33.9kmである。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行っており、昭和62年4月13日付け「仙建北工第35号」による依頼を受けて分布調査結果を同年5月25日付け「教文第117号」により日本道路公団仙台建設局に回答し、その取り扱いについて協議が重ねられ、止むを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとした。

発掘調査の実施については、昭和63年度以降、岩手県教育委員会が発掘調査事業を日本道路公団仙台建設局に照会し、回答を受けたのち日本道路公団仙台建設局、岩手教育委員会、岩手県文化振興事業団の3者の協議を経て、埋蔵文化財センターが担当することとした。事業着手後に調査の変更がある場合もその都度協議しながら進め、岩手県教育委員会文化課の調整を経て事業計画を変更して進めた。

本報告書の本郷遺跡の調査は、昭和63年12月27日及び平成元年1月21日の3者協議を経て平成元年度に実施することとなり、4月1日付け委託契約により着手したものである。が、用地未買収部分は次年度の継続調査とした。2年度の調査は、平成2年3月2日付け「教文第731号」による平成2年度埋蔵文化財調査事業の通知を受け、平成2年4月1日付け委託契約により着手したものである。

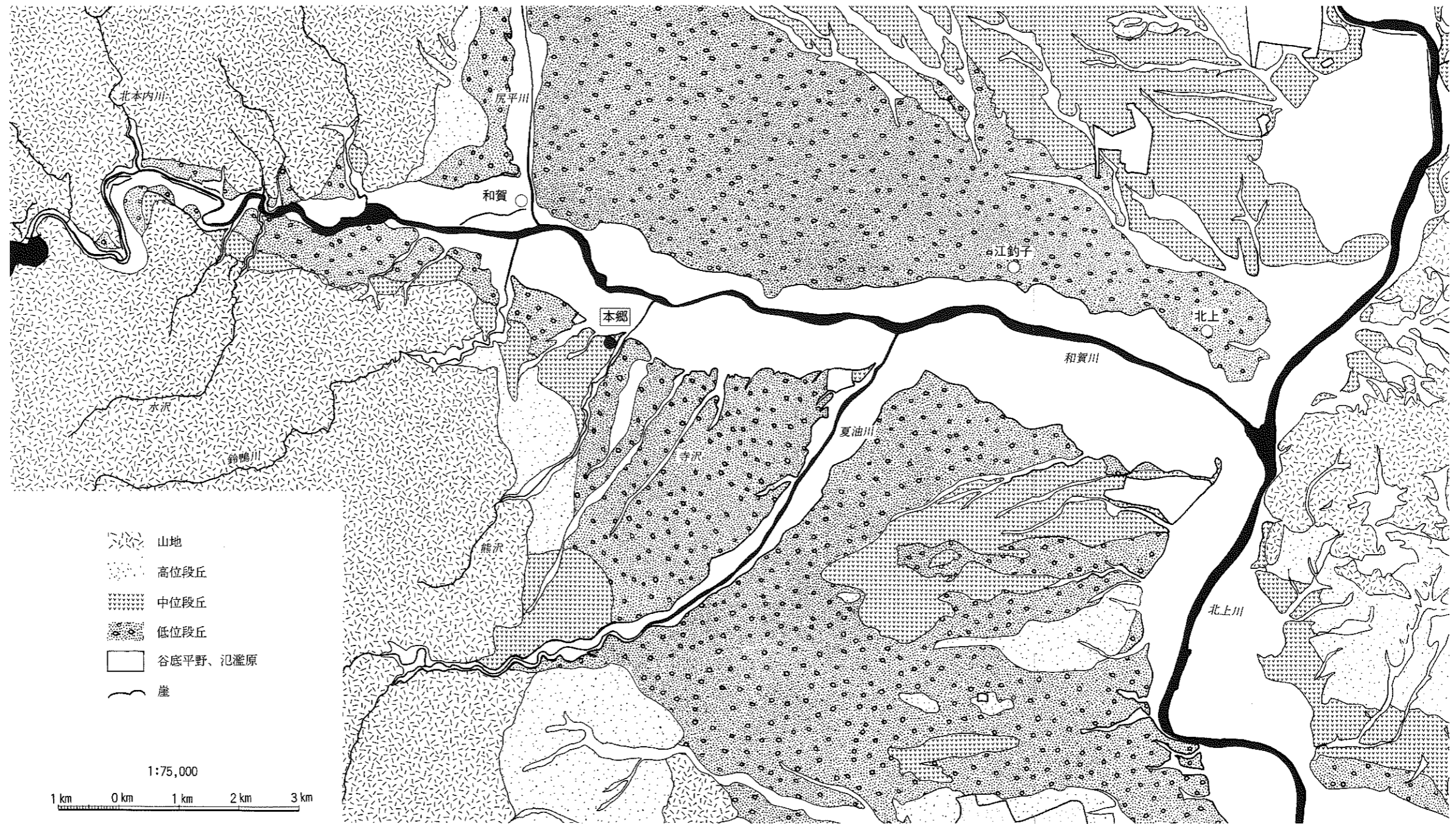
Ⅱ 立地と環境

1. 遺跡の位置と地形（第1、2図）

本郷遺跡は岩手県北上市和賀町煤孫第2地割159-3にあり、東日本旅客鉄道北上線立川目駅の南約2.5kmに位置する。北上市は盛岡市の南方約60kmにあり、市内を県内最大の北上川が南流している。遺跡のある和賀町は北上川最大の支流、和賀川の南岸に位置する。（第1図）

和賀川は奥羽山脈の和賀岳、高下岳の麓よりほぼ南北に流れ、沢内盆地を涵養する。湯田町川尻で東に向きを変え、仙人溪谷で奥羽東列山脈を横断する。湯田ダムはこの谷の出口部分に建設されている。その後、和賀町横川目付近で山地を離れ平野部を東流したのち市内黒沢尻で北上川本流に合流する。その長さ75.3km、北上川水系最大の支流である。主な支流は上流から横川、本内川、下前川、左草川、鬼ヶ瀬川、南本内川、北本内川、鈴鴨川、尻平川、夏油川がある。下流にある尻平川、夏油川は他の支流と異なり、一度平野部を流れてから和賀川に合流し、山地からの出口にあたる北上盆地の西縁部に扇状地を形成する。本流である和賀川自身は大きな扇状地を形成することはなく、両支流の扇状地の扇端部を侵食している。夏油川の上流部には焼石岳、牛形山、駒ヶ岳の火山があり、周囲に火山灰や浮石等を噴出している。特に市内の村崎野、相去町に分布している浮石層は最大層厚3mにもなるが、扇状地状を示す地形面は火山灰に覆われない。和賀川の南岸と北岸では段丘の発達に差があり、南岸には沖積平野と比高が20~30mの急崖によって区切られた段丘面が広がる。段丘面上は単一の面のように見えるが、崖に近い所に幅の狭い段丘面が僅かにみられる。北岸は比高数mの崖で区切られる複数の段丘が発達しており、南岸ほど明瞭の急崖はみられず、和賀川が南に偏って流れたことが多かった状況を示している。それらの段丘を侵食してできた河岸平野上には流路の変遷の跡である弧状の旧河道が網の目のように分布し、主に水田に利用されている。旧河道に沿って並ぶ自然堤防などの微高地は宅地や畑地に利用されているが、現在は開発によって改変されつつある。また、段丘を開析した沢が沖積平野に出る所には扇型の崖錐がみられ、宅地等に利用されている。

北上川中流域（盛岡市～一関市）の第四系および地形の研究は、中川他(1963b, 1971, 1981)多数がある。これらを参考に、和賀川下流南岸の河岸段丘を大きく三段に分け、概略を述べる。高位段丘は、岩手県土地分類基本調査地形分類図（1976、以下「地形分類図」）の丘陵地2で、当地域では望野（和賀川との比高70m）付近に存在する。本段丘は中川他の西根段丘に相当しかなりの開析をうけているため、「地形分類図」では段丘と丘陵地としている。中位段丘は「地形分類図」の砂礫段丘2で、中川地の村崎野段丘に相当する。当地域では岩崎城跡（比高30m）、石曽根遺跡（比高30~50m）などがこの面にのる。本段丘の構成層は、砂、粘土を基質



(中川他1963・1971、岩手県1976、和賀町1983および現地調査による)

第2図 地形区分図

とする層（飯豊礫層）であり、その上位に黒沢尻火山灰をのせる。黒沢尻火山灰は本郷遺跡の南西約20kmに位置する焼石岳(1548m)の火山灰であり、その北東から東にかけて北上浮石が飛散している（井上・小沼1981）。この浮石の堆積時期は、ウルム氷期前半（B.P4～7万年）と考えられている。低位段丘は「地形分類図」の砂礫段丘3で、中川他の金ヶ崎段丘に相当する。和賀川下流南岸を最も広く覆っており、岩崎台地遺跡（比高25～30m）、梅ノ木台地1遺跡（比高30m）などがこの面にのる。本段丘は西部ではより高位の段丘を覆い、東部では高位の段丘の開析谷中にのびる。構成層は礫層（瘤木礫層）で、火山灰に覆われないのが特徴である。村崎野段丘よりも傾斜が急であるが、西部ほど両者の比高は小さく、明瞭な崖線をもたない。和賀町横川目以西には、さらに低位の段丘（中川他、1971の切留、横川目段丘など）があるが、地形区分図では谷底平野、氾濫原に区分した。（第2図）

2. 遺跡および周辺の地形（第3・4図）

本郷遺跡は、西に隣接する石曽根遺跡とともに、和賀川南岸の河岸段丘上に立地する。西側には荒屋沢、東側では熊沢が北東に流れ、段丘は和賀川の氾濫原に向けて北東にはり出す。調査区はこの段丘の末端部にあたる。遺跡調査区の標高は123～130mで、表層は火山灰質粘土ないし軽石質粘土からなる。本郷遺跡ののる段丘面は「地形分類図」をはじめ、多くの研究では低位段丘（金ヶ崎段丘）とされてきたが、隣接する石曽根遺跡も同様に火山灰質粘土に覆われており、両遺跡とも中位段丘（村崎野段丘）と考えられる。日本道路公団のボウリング調査によれば、本郷遺跡の東南東約2kmの寺沢より西、おおむね標高120m以上の段丘末端部では、火山灰質の粘性土が表層を覆っており、中位段丘である可能性がたかい。その面的な広がりともに、今後の検討課題としたい。なお、地形区分図では熊沢、荒屋沢間のみを村崎野段丘としてある。

本郷遺跡そのものは、調査範囲のさらに東方と西方にのびている。より低い東側では平安時代の集落が、より高い面の西側には縄文時代の集落の存在が予想される。特に、縄文時代の遺構が集中したⅡG区の西側の墓地付近は、標高132mのピークをなしており遺跡の中心部と考えられる。

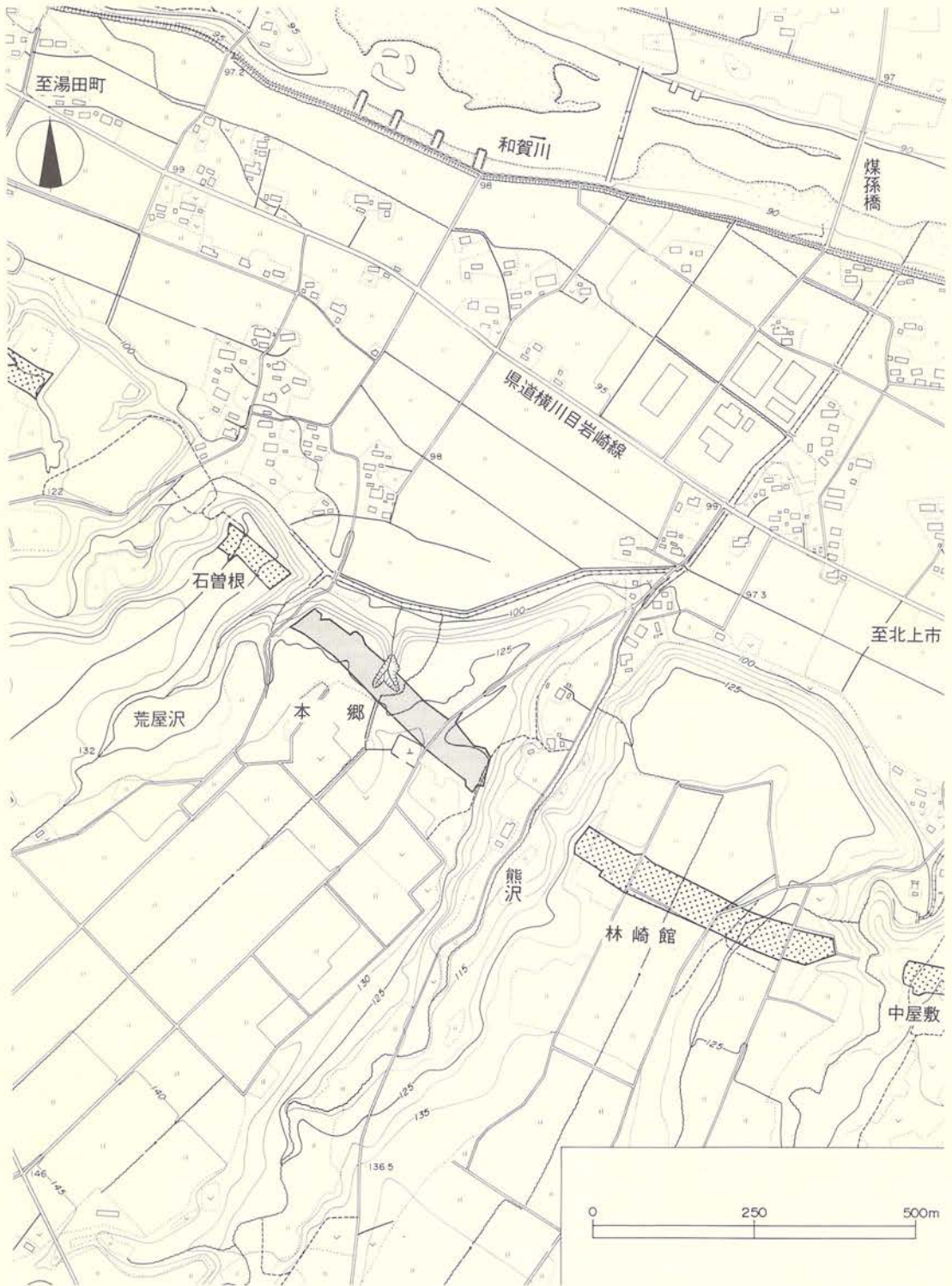
3. 周辺の遺跡（第5図）

旧和賀町内では現在までに180箇所をこす遺跡が搭載されている。その概要は和賀町教育委員会から一部が報告されている（和賀町教委1989～1991）。本郷遺跡からは縄文時代中期、晩期、平安時代～鎌倉時代の遺構と遺物が確認されたので、同時代の遺跡を中心に記述する。第5図の遺跡分布図は旧和賀町教委と旧江釣子村教委の刊行物をもとに該期の代表的な遺跡を抽出したものである。

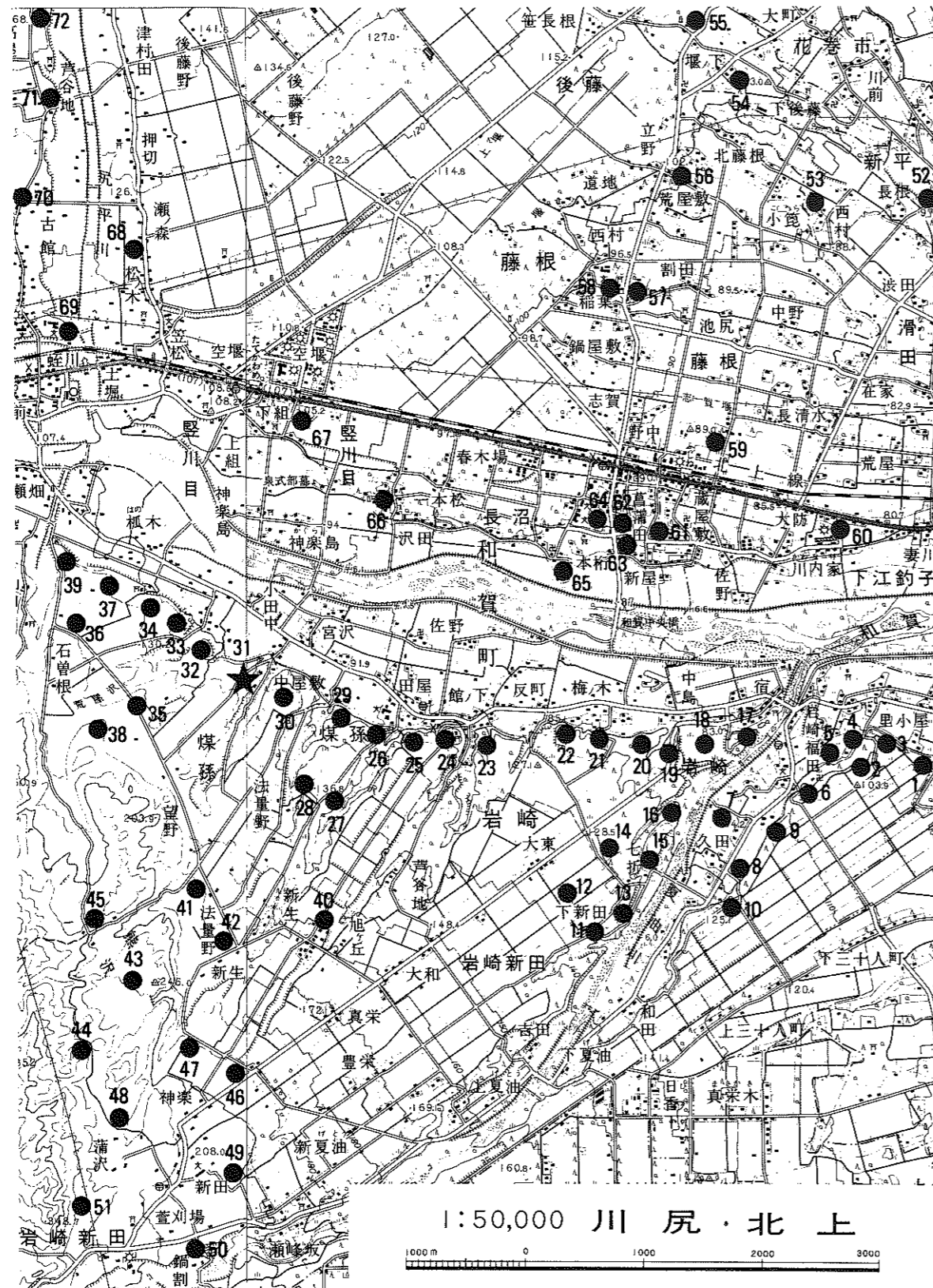
和賀川南岸では、丘陵縁辺や中・低位段丘上及び開析された支谷に沿って縄文時代～平安時代の遺跡が分布し、段丘の縁辺部には深く入り込んだ沢や急崖を利用した城館跡が立地している。縄文時代前・中期の遺跡としては大木7・8式期の竪穴住居、埋設土器、土壙を検出した梅ノ木遺跡（田村他1981）がある。横断自動車道関連で当センターが調査した遺跡としては大木6・7式期の集落が確認された煤孫遺跡、大木8式の集落跡である林崎館遺跡、同じく大木8式の集落である石曾根遺跡などがある。他に、望野、岩崎城、岩沢Ⅲ、人当遺跡などで中期の土器片が採集されている。これらの遺跡はいずれも中・低位段丘の先端部に位置している。平安時代の集落は、上記の梅ノ木遺跡のほかに、当センターで調査中の岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地、兵庫館、八幡館、八幡野Ⅱ遺跡などで確認されている。また、隣接する旧北上市にある上鬼柳Ⅰ～Ⅳ遺跡でも竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出されている。これらの遺跡の報告書は近日中に刊行の予定である。平安～鎌倉時代と思われる塚が検出されたが、同様の例は、時期の違いは別として梅ノ木古墓群、福田蝦夷塚（菊池1977）があり、対岸の旧江釣子村では鳩岡崎遺跡に類例がある。和賀川北岸では、中位段丘やその縁辺部および開析された小支谷沿って縄文時代の遺跡が比較的多く分布し、低地にも若干みられる。奈良～平安時代の遺跡の多くは、低位段丘上や縁辺に沿う河岸底地に形成された自然堤防上に分布する傾向が認められる。縄文時代前・中期の遺跡は旧江釣子村に多く、大木6～7式期の大型住居跡を伴う鳩岡崎（相原他1982）、新平（草間1971）、高橋（高橋1981a）、鳩岡崎上ノ台遺跡（同1983）、などが知られているが、和賀町内では少ない。平安時代の遺跡としては、和賀町内では複数の住居跡が検出された蟹沢館が、江釣子村では八幡（高橋1984）、本宿羽場遺跡（同1981b）などがある。

《引用参考文献》

- 相原 康二 他 1982：「江釣子村鳩岡崎遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XV』
- 井上克弘・小沼 敦 1981：「北上川中流域における黒沢尻火山灰の層序、分布と強磁性鉱物の化学組成」
 第四紀研究 20-1
- 菊池啓治郎 1977：「掘り出された古代中世」『和賀町史』岩手県和賀町
- 草間 俊一 1971：「岩手県江釣子村新平遺跡」日本考古学年報19
- 高橋 文明 1981a：「高橋遺跡」江釣子村教育委員会
- 同 1981b：「江釣子遺跡群（本宿羽場遺跡）」同
- 同 1983：「同（鳩岡崎上ノ台）」同
- 同 1984：「同（八幡遺跡）」同
- 和賀町教委 1989～1991：「和賀町内遺跡分布調査報告書Ⅰ～Ⅲ」



第4図 調査区位置図



第5図 周辺の遺跡分布図

表1 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考	番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考
1	欠の下台地	平安 竪穴住居跡 堀立柱建物	37	八幡野Ⅱ	縄文陥穴、奈良～平安土墳、平安住居
2	伍大坂Ⅰ	〃 〃 〃	38	八幡野Ⅲ	
3	伍大坂Ⅱ	〃 〃 〃	39	田中館	縄文、平安、中世
6	高田坂	奈良・平安・古墳 〃 〃	40	旭ヶ丘	縄文
9	久田Ⅱ	〃 〃 〃	41	望野Ⅰ	縄文中～後期
4	小平	平安、縄文	42	望野Ⅱ	旧石器? 縄文
5	小寺	〃	43	代官森Ⅰ	縄文中～後期
7	寺村	〃 中世?	44	代官森Ⅱ	〃
8	久田Ⅰ	〃	45	代官森Ⅲ	〃
10	八天坂	〃	46	神楽Ⅰ	縄文
11	新田Ⅰ	平安～中世?	47	神楽Ⅱ	
12	新田Ⅱ	〃 〃	48	蒲沢	縄文
13	花曾根	平安	49	萱刈場	〃
14	花曾根上	縄文、平安	50	立石	〃
15	七折	縄文・後晩期土器	51	水神	〃
16	七折館	中世、縄文	52	新平	旧石器、縄文中期、奈良、平安、駅家擬定地
17	岩崎城	中世、堀立柱建物、溝地	53	道の下長根	奈良、平安
18	梅ノ木Ⅰ～Ⅳ	縄文中期集落、平安	54	長根	平安
19	岩崎城西	柱穴列、縄文・弥生土器	55	堰ノ下	縄文
20	梅ノ木台地Ⅰ	縄文、平安	56	北藤根	縄文後期
21	梅ノ木台地Ⅱ	〃 弥生、埋蔵、平安住居	57	藤根八幡館	中世
22	兵庫館	弥生・再葬墓、中世城館・構列・堀	58	稲葉(運見)	縄文、平安
23	上反町	中世城館・土壘、柱穴列	59	藤根駅北	平安
24	観音館	中世・溝地	60	下江釣子羽場	奈良、平安、住居
25	煤孫	縄文中期・住居、平安・住居、集落	61	蔵屋敷	縄文晩期、弥生
26	法量野Ⅰ	縄文・陥穴・土墳・中～晩・弥生土器	62	念仏車Ⅰ	〃 〃
27	法量野Ⅱ	縄文、中世	63	念仏車Ⅱ	奈良、平安
28	法量野Ⅲ	〃 〃	64	長沼古墳群	奈良、古墳
29	中屋敷	弥生・土壘、縄文晩期～弥生土器	65	菖蒲田古墳群	〃 〃
30	林崎館	縄文中期住居、集落	66	上長沼	平安
31	本郷	本文参照	67	堅川目	縄文後期
32	石曾根	縄文中期住居、集落	68	瀬ノ森古墳群	
33	月館(槻館)	中～近世	69	蛭川館	中世、縄文中期
34	八幡館	〃 〃	70	古館(八幡館)	縄文晩期、弥生
35	荒屋沢	縄文晩期	71	時田館	縄文中期
36	八幡野Ⅰ	縄文	72	戸花館	縄文

Ⅲ 調査・整理の方法

1. 野外調査

(1) 調査区の設定と遺構の命名 (第6図)

遺構、遺物の整理、記録のため、調査区域に40m四方のグリットを単位とする平面直角座標を設定し地区割りを行った。座標原点は平面直角座標第X系、 $X=-79,600\text{m}$ 、 $Y=14,270\text{m}$ を用いた。この原点を通る磁北から西へ 45° 振った直線を基準緯線とし、これに直交する線を基準経線とした。調査区域内の位置は、基準経緯線を用い座標原点からの距離を (E40m、S20m) のようにあらわした。また、W240mから40mごとに0、I、IIの区画名を与え、IA、IIFなどのグリット名を付した。

遺構名はグリットごと、検出順に1、2、3の番号を付し、IG-1号住居跡、IJ-3号土壙のように命名した。遺構が複数のグリットにかかる場合は、より若いグリット名によった。また整理の段階で別種の遺構となったり、遺構と認められなかった場合は欠番としてある。

(2) 粗掘り・遺構検出

当初、2m幅のトレンチを地形に応じて入れ、遺跡の状況把握につとめた。その結果、町道の両側が最も堆積があつく、且つ大量の縄文土器が出土し、傾斜する北側は堆積土が薄く部分的に土師器が集中することを確認した。遺物の少ない部分は重機により表土を除去し、多い部分は人力で粗掘りし、遺構を検出した。遺構は、高い個所では表土直下で、低い個所では黒色もしくは黒褐色層の上面で確認された。検出された遺構は原則として住居跡の場合は4分法、土壙類は2分法、溝跡は適宜土層観察用のベルトを残して埋土を除去した。

(3) 実測・写真撮影

平面実測はグリット軸に合わせた1mメッシュを基本とした。住居跡の場合は1/20、土壙類や炉は1/10、1/5の縮尺をもちいた。写真撮影は35mmモノクロームとカラースライド1台、6×7cmモノクローム1台を使用。実際の撮影は、各種の埋土堆積状況や、遺物の出土状況、完掘全景などについて行い、調査がほぼ終了する段階でセスナ機による空中写真を撮影した。なお、塚の空中写真はラジコンヘリによる撮影である。

2. 室内整理

野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は、室内整理の段階で次のように処理、整理し報告書作成の基礎にするとともに、資料化を行った。

各実測図は遺構ごとに分類し、原図点検の上、必要なものについては第二原図を作成しトレースを行った。撮影されたフィルムは、ネガアルバムにベタ焼き写真と一組にして収納した。

カラースライドはスライドファイルに、撮影順に収納した。遺物は現地および当所整理室で水洗いした後、出土地点・層位等を注記した。その後、各出土地点、層位毎に仕分けを行い復原接合作業を実施した。遺物実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。火山灰、炭化物、石材の分析については外部の専門家に鑑定を委託した。

報告書は以上の作業を経て編集した。各遺構、遺物図面の体裁や細部については例言に記してある。

IV 遺構と遺物

1. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 住居跡 (第6図)

I B-1号住居跡 (第7図、写真図版3)

〈検出状況〉遺跡の西端に位置し、IV層(黄褐色土)中にはほぼ円形の黒褐色土の広がりを見出した。

〈形状・規模〉径5.35×5.20mのほぼ円形プランである。

〈埋土〉自然堆積で6層に分類される。上層は黒褐色土、下層は褐色土に大別され、下層は炭化物、焼土を含む。

〈壁・床面〉壁はゆるやかに外し、高さは検出面から平均して15cmである。床面はそれほど堅くはない。

〈柱穴〉13本検出された。主柱穴はP₁~P₂と推定され、正方形となる。他の9本は径も小さく壁際に寄っており、支柱穴とおもわれる。

〈炉〉不明。掘り方・焼土は検出できなかったが、床の中央部分の埋土下部に炭化物、焼土が集中していた。明瞭な炉ではなく、焚火程度の炉であった可能性もある。

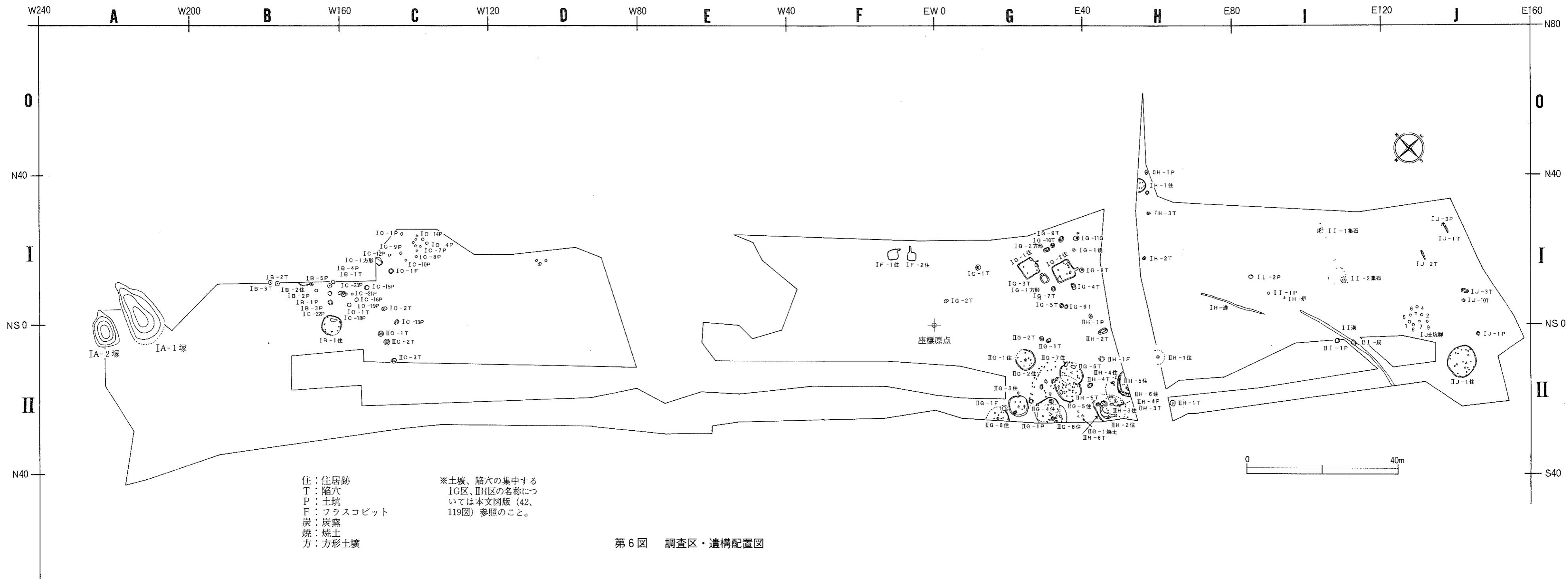
遺物 (第8~9図、写真図版4)

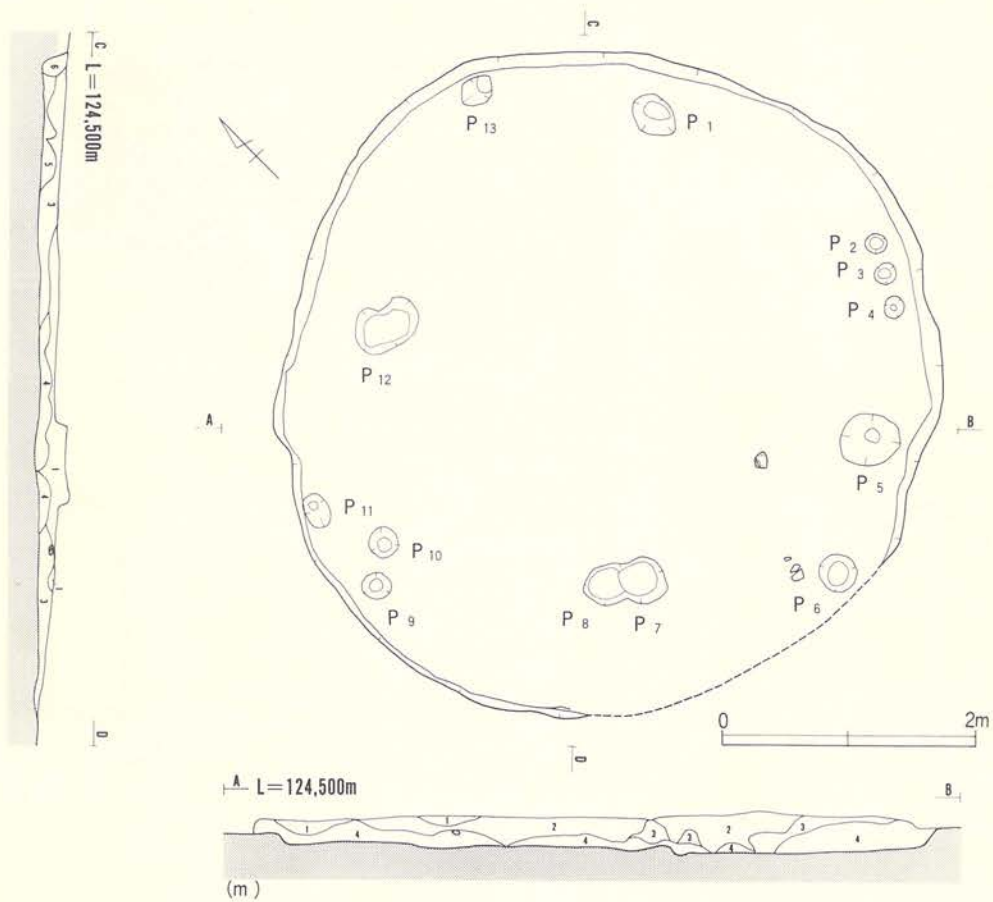
〈出土状況〉埋土、床面から出土しているが、土器は少なく、石器が圧倒的に多い。特に、擦石は西側部分のP₁とP₂の間から集中的に出土している。

〈土器〉1、2は床直、3は埋土出土。1はキャリバー形で、口縁部にS字状の突起がつく。口縁部文様は隆線でモチーフは不明。胴部には隆線の懸垂文がある。縄文はLRで口縁部はヨコ体部はタテ回転。2、3は深鉢の底部と胴部の破片。詳細は下表

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床直	深鉢	キャリバー・隆線貼付・口縁LRヨコ、体部LRタテ
2	床面	〃	底径7.3cmミガキ
3	埋土	〃	LRタテ

〈石器〉細長い自然石の側面を使用している擦石のみ13点出土。楕円形あるいは三角形の縦の側面あるいは両面(13)を擦っているのが特徴で、厚みの少ない側を使用している。擦痕はタ





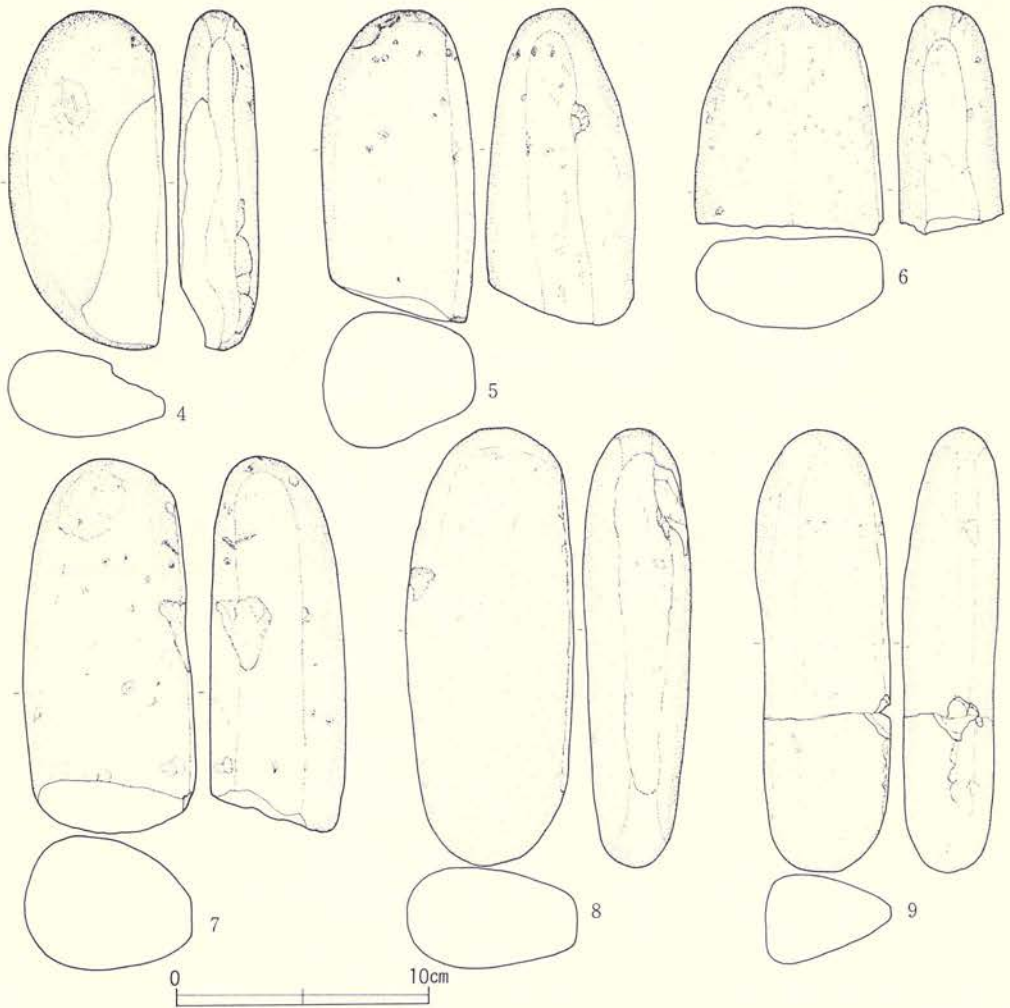
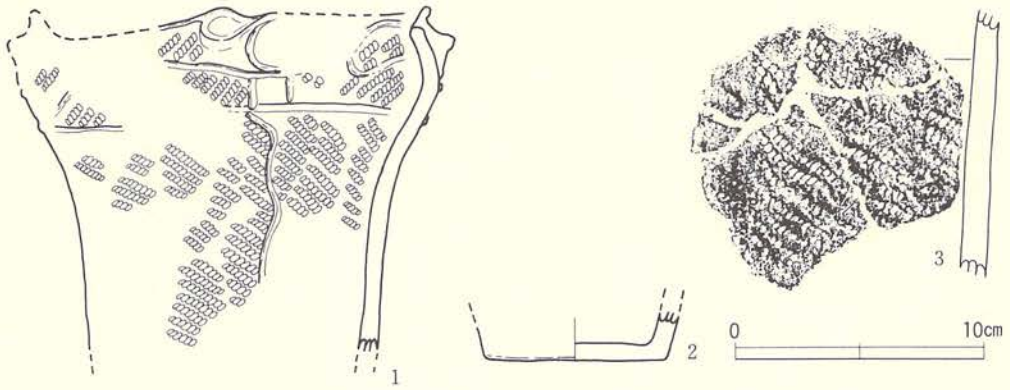
(cm)							
PNO	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
径	40	18	18	18	48	30	37
深	22	13	19	18	16	13	11

PNO	P8	P9	P10	P11	P12	P13
径	34	24	24	26	54	30
深	7	7	13	36	10	25

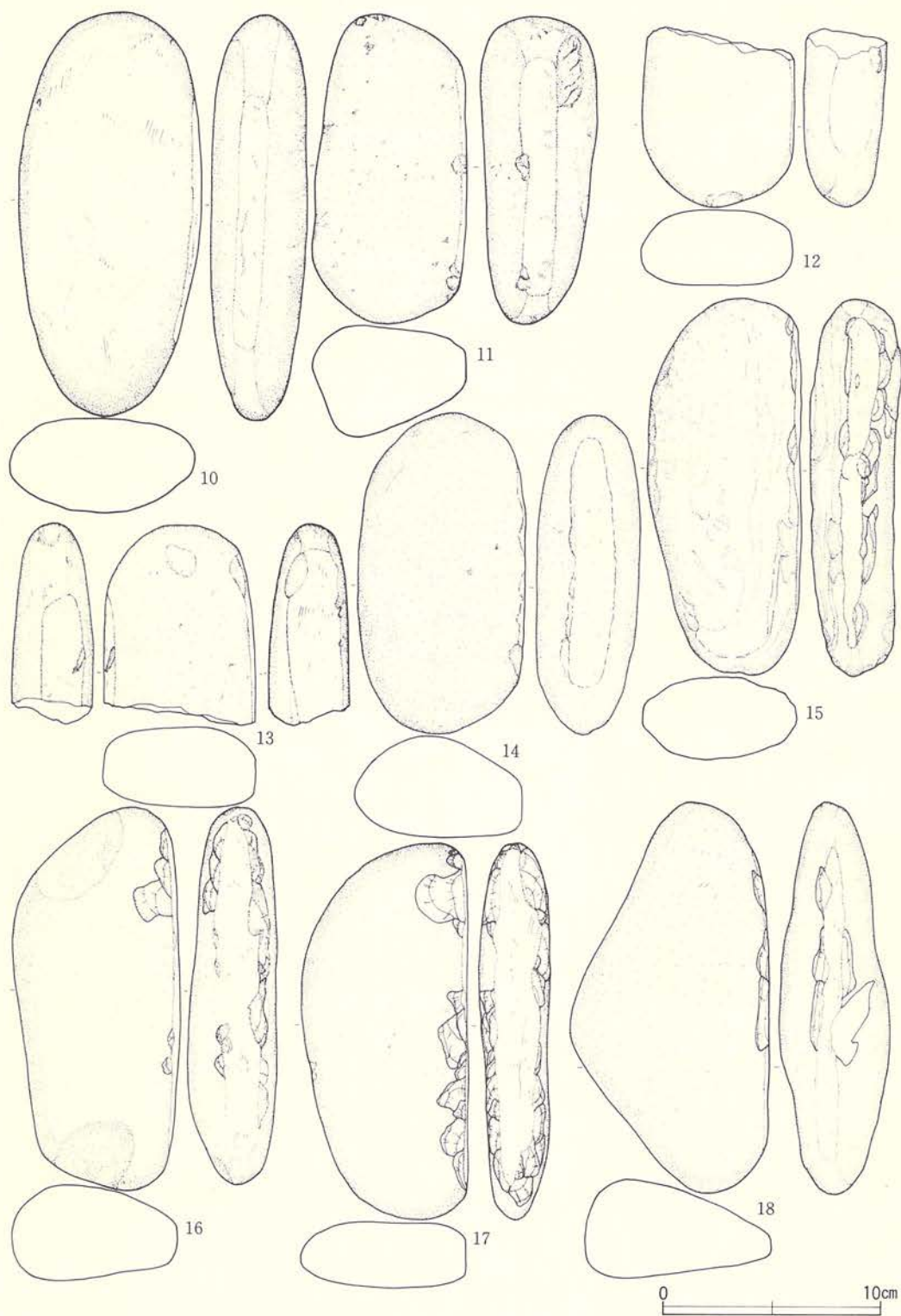
- A-B
- | | | |
|----|------------|------------------|
| 層位 | 色調 | 土性 |
| 1 | 10YR2/2 黑 | |
| 2 | 10YR3/1 黑褐 | 含炭化物(微量) |
| 3 | 10YR3/4 暗褐 | 含炭化物(微量) |
| 4 | 10YR4/4 褐 | 含炭化物(少量)、燒土粒(微量) |

- C-D
- | | | |
|----|------------|------------------|
| 層位 | 色調 | 土性 |
| 1 | 10YR2/2 黑 | |
| 2 | 10YR3/1 黑褐 | 含炭化物(微量) |
| 3 | 10YR3/4 暗褐 | 含炭化物(微量) |
| 4 | 10YR4/4 褐 | 含炭化物(少量)、燒土粒(微量) |
| 5 | 10YR4/6 褐 | |
| 6 | 10YR5/6 黃褐 | |

第7図 I B-1号住居跡



第8図 I B-1号住居跡遺物(1) [観察表はP292]



第9図 I B-1号住居跡遺物(2)

テあるいはナナメについている。また、擦り面の両側や片側に剥離痕を持つものがある（15～18）。

〈時期〉1のキャリパー形深鉢の隆線貼付文は大木8a式土器であり、縄文時代中期に属する。

I B-2号住居跡（第10図、写真図版36）

〈検出状況〉Ⅲ層面で褐色土のやや不整形な広がりを検出したが、大部分は調査区外にかかっている。遺構の西側は風倒木に攪乱されている。東側壁部分でIB-5号土壙と截合っているが、当住居のほうが古い。

〈形状・規模〉壁の一部分を検出したのみで不明であるが、中型の大きさと推定される。

〈壁・床面〉外反する約10cmの壁を検出。床面は北側にやや傾斜しているが、硬くしまっている。

〈柱穴・炉〉不明。

遺物（第10図、写真図版4）

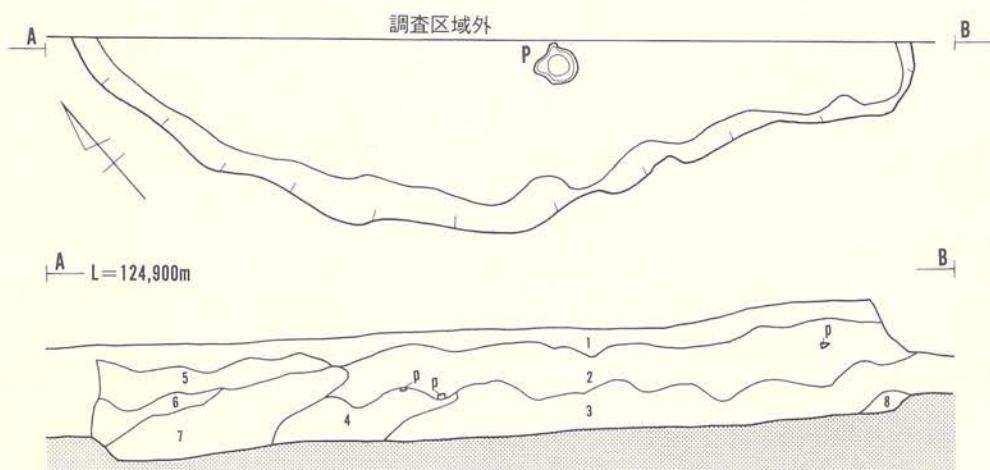
〈出土状況〉床面と埋土中から出土している。

〈土器〉1は唯一床面からの出土で、底径14cm。一部に隆沈線の貼付けがある。2～4は埋土出土で、2は波状口縁、2、3は平縁の深鉢。文様は隆線の渦文、原体圧痕、結節縄文、沈線文などである。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面	深鉢	隆沈線貼付、底径14.5cmミガキ、RLRタテ
2	埋土	〃	波状口縁、粘土紐貼付、LR原体押圧、胎土に金雲母
3	〃	〃	平縁、沈線、LRヨコ
4	〃	〃	キャリパー状、LRヨコ及び押圧縄文2段
5	〃	〃	押し引き状沈線、弧文
6	〃	〃	末端結節LRタテ

〈石器〉7は抉入りの石鏃で脚の一部を欠く。8は石槍の先端部とおもわれるもの。9は片面調整のスクレイパーで、一部に自然面を残す。

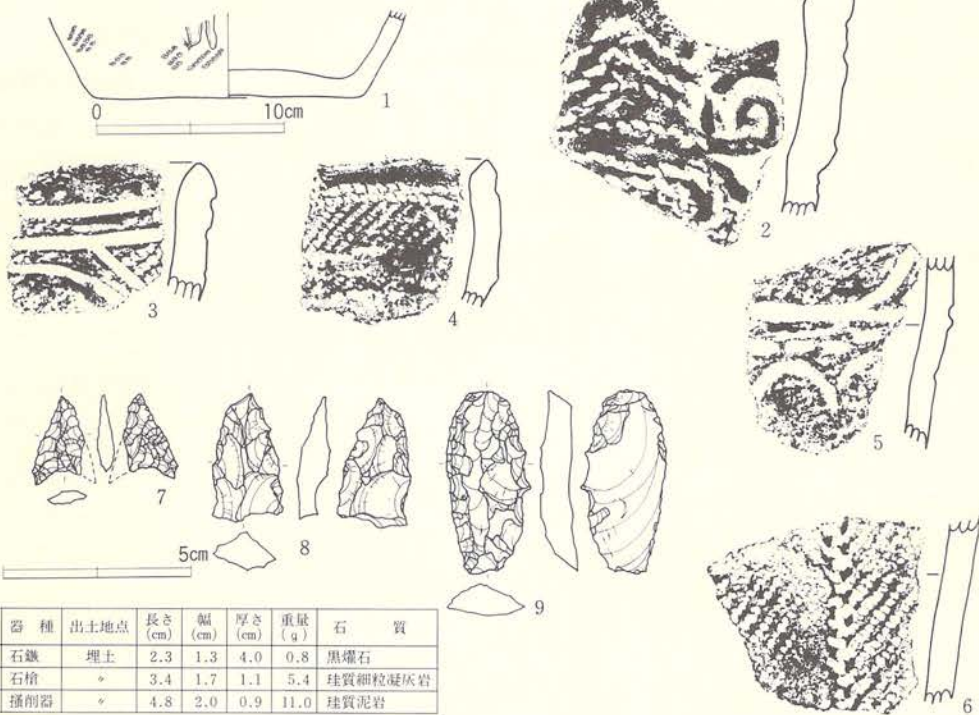
〈時期〉埋土出土の土器は大木7式であるが、床面出土の土器は大木8b式の特徴を備えており、縄文時代中期に属する。



A-B

- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|------------|----------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐 | |
| 2 | 10YR2/2 黒褐 | |
| 3 | 10YR4/4 褐 | 含炭化物(少量) |
| 4 | 10YR3/3 暗褐 | |
| 5 | 10YR2/3 黒褐 | |
| 6 | 10YR3/2 黒褐 | 風倒木埋土 |
| 7 | 10YR2/1 黒 | 風倒木埋土 |
| 8 | 10YR4/6 褐 | |

0 1m



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
7	石鏃	埋土	2.3	1.3	4.0	0.8	黒燻石
8	石槍	〃	3.4	1.7	1.1	5.4	珧質細粒凝灰岩
9	搔削器	〃	4.8	2.0	0.9	11.0	珧質泥岩

第10図 I B-2号住居跡・遺物

II G-1号住居跡（第11図、写真図版5・6）

〈検出状況〉II G区のII層掘下げ中に褐色の広がりを検出した。II G、II H区は縄文時代の住居が集中しており総じて平坦であるが、この住居跡の付近から北に向かって傾斜している。他の遺構との重複はない。

〈埋土〉7層に分類される。北から南側への堆積であるが、火山灰、焼土の混じる3～5層は人為的な投げ込みとおもわれる。2層上部の中央には一括土器が多数廃棄されていた。

〈壁・床面〉ほぼ直立する壁で、南側の最も深いところで50cm、浅いところで10cmをはかる。床はほぼ平坦で、硬くしまっている。

〈柱穴〉8本検出されたが、支柱穴は深さ39～55cmのP₁～P₆の6本で長方形の配置をなすものと考えられる。

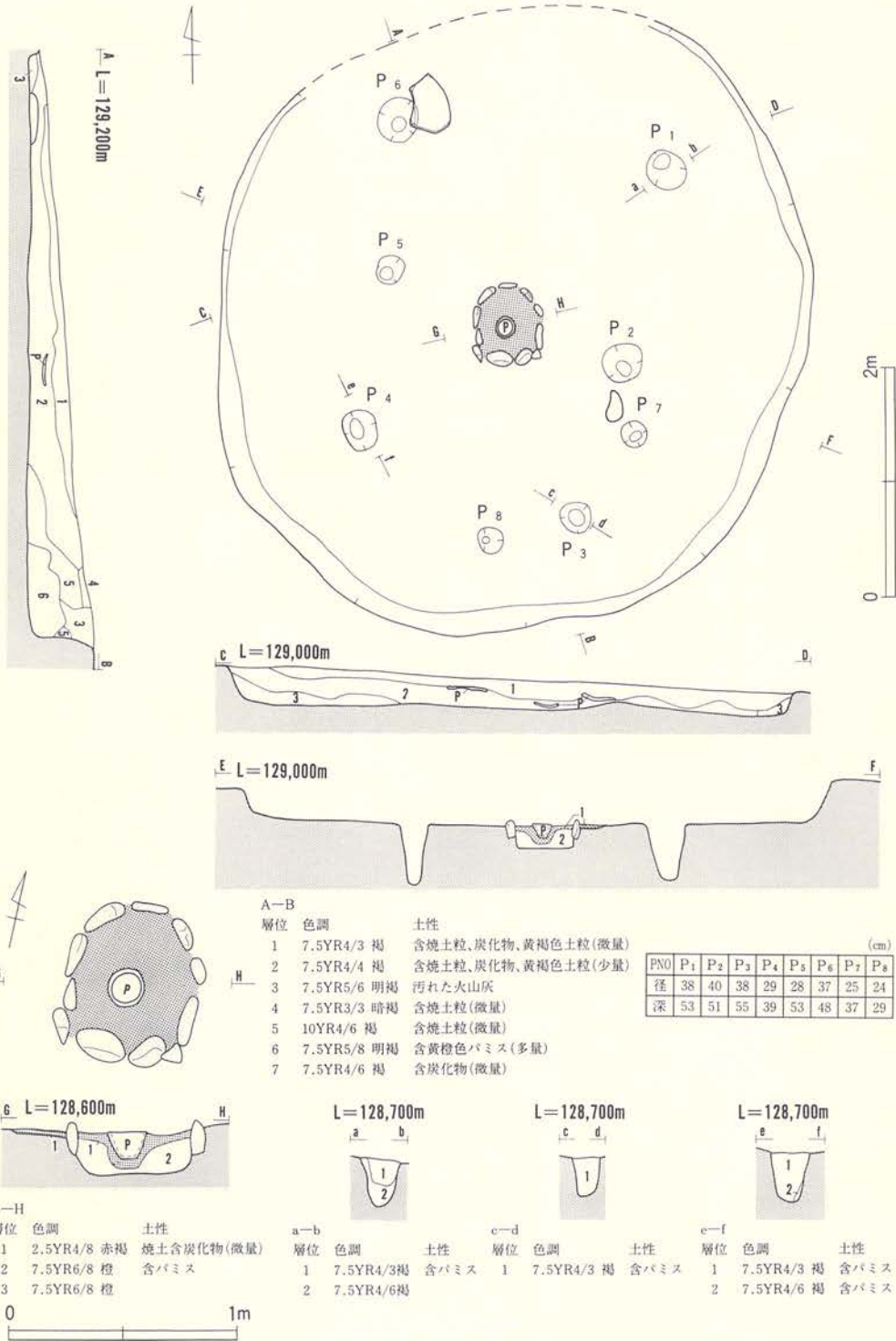
〈炉〉ほぼ中央の位置に、70×60cmの土器埋設石囲炉を検出した。土器(2)は深鉢の下半部を利用している。焼土は土器の周辺によく発達しているが、土器の外側はそれほど加熱されていない。

遺物（第12～17図、写真図版7～10）

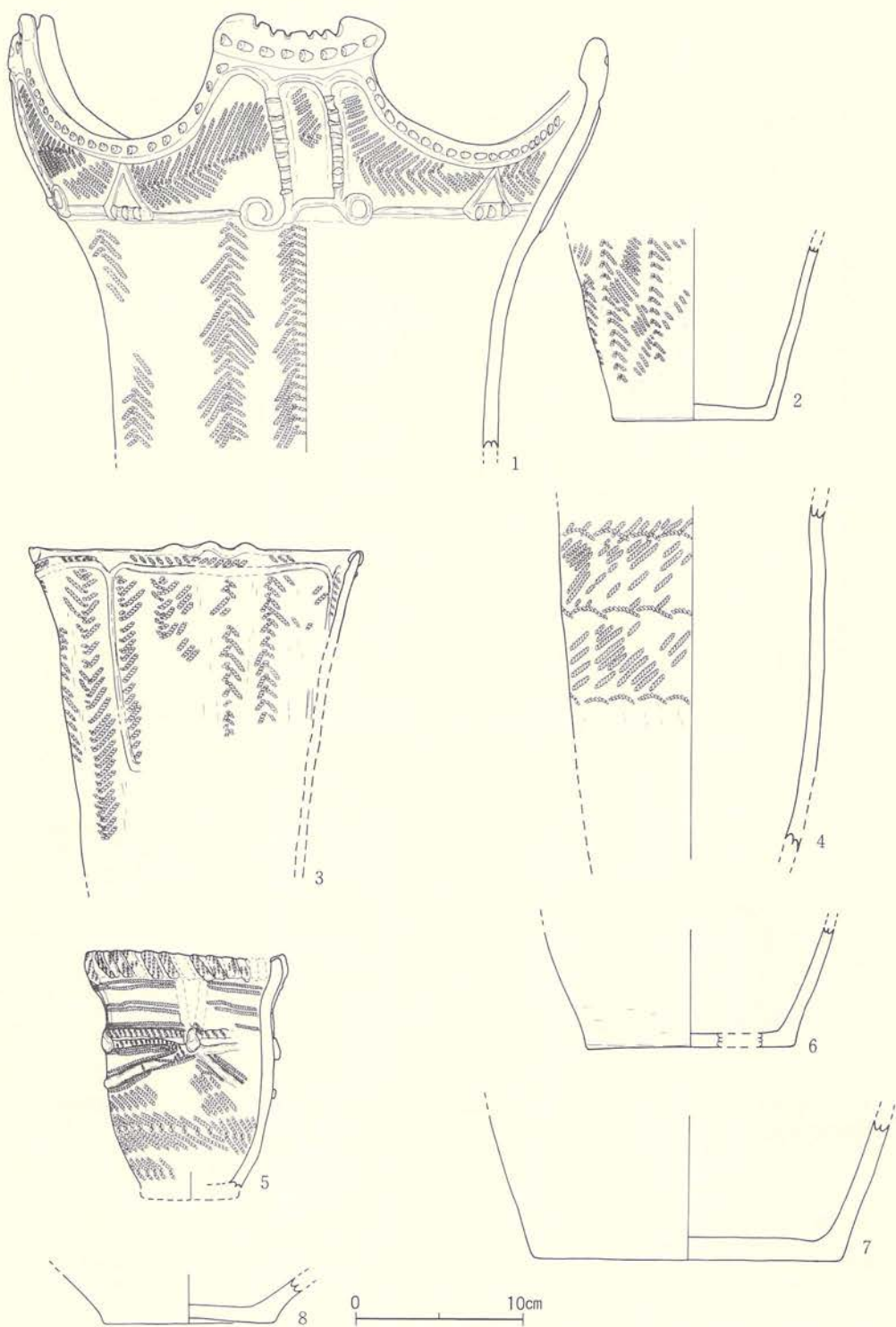
〈出土状況〉埋土、床面、炉内から出土している。埋土中の一括土器は2層の上層と下層に分けられる。

〈土器〉床面、埋土とも深鉢が殆どで、浅鉢が数点混じる。深鉢には大波状、小波状、突起、平縁などの口縁部があり、器形もキャリバー状、筒形、頸部を持つもの、口縁部外反するものなど様々である。文様帯は、5の円筒系を除いて体部上半に限られるが、たまに胴部まで隆線あるいは沈線が数本施文される。底部付近は縄文が無くなり、磨かれている例が多い。底部はミガキあるいはケズリである。浅鉢は4点出土。内面および無文部分はよく磨かれている。床面から小形鉢2点出土。縄文以外の文様は無い。胎土はいずれも砂、細かい粒子を含むが数点金雲母の混じる例がある。詳細は下表

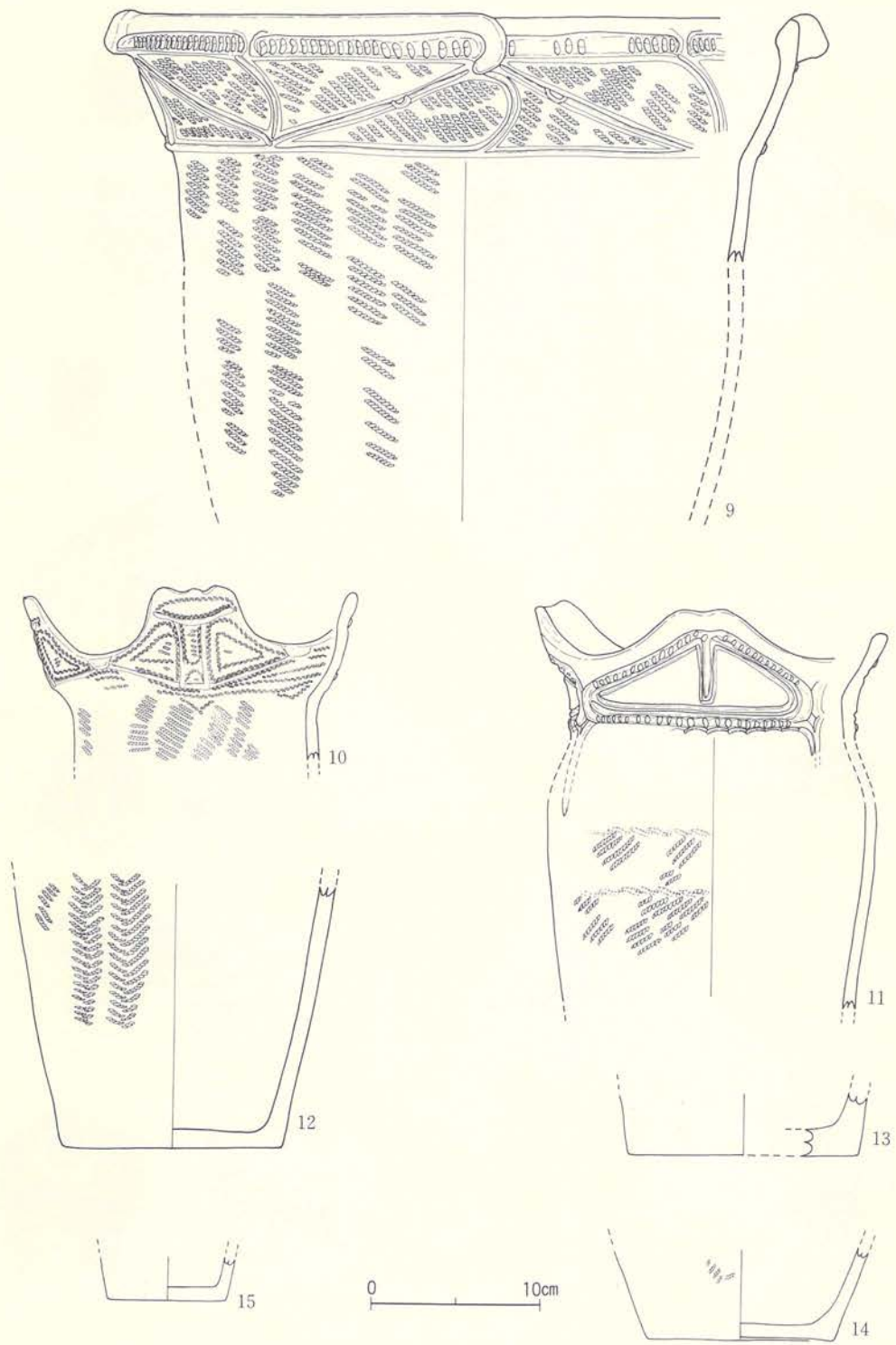
No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床	深鉢	波状口縁、左右の頂部刻みなし、隆線区画、結束羽状縄文、円文、三角文
2	炉内	〃	底径9.6残高11.0cm、内面炭化物、外面加熱痕少ない、底面ミガキ末端結節縄文LRタテ
3	床	〃	口縁小波状文貼付、隆線区画、体部結束羽状縄文LR+RL
4	〃	〃	結節LRヨコ、胴下半部ケズリ
5	〃	〃	口縁・肩部隆線、頸部と隆線沿に押圧縄文L、隆線上はRL、胴下半部結束縄文RL
6	2層下部	〃	底面ケズリ
7	〃	〃	胴部ミガキ、底面ケズリ



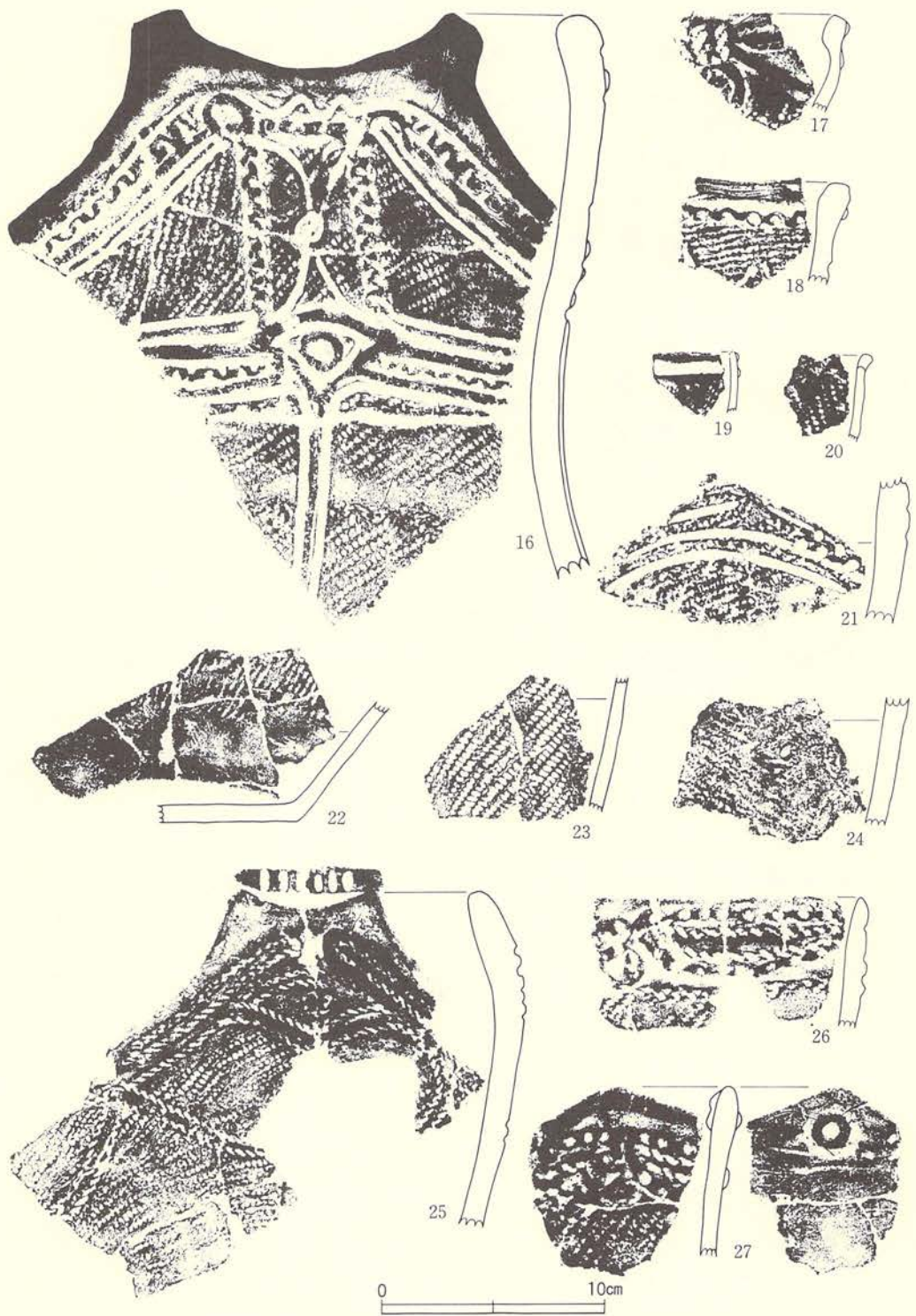
第11図 II G-1号住居跡



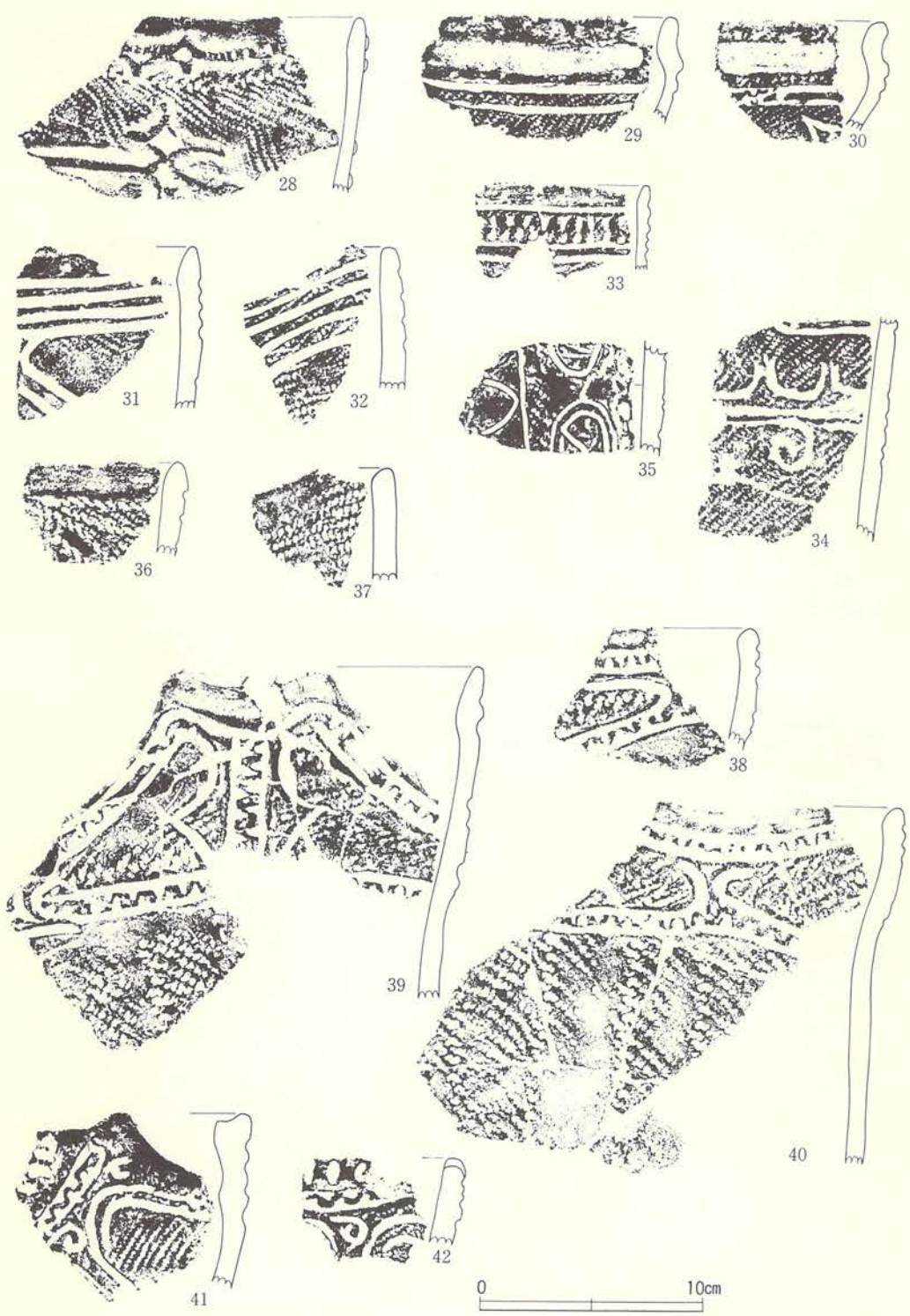
第12图 II G-1号住居跡遺物(1)



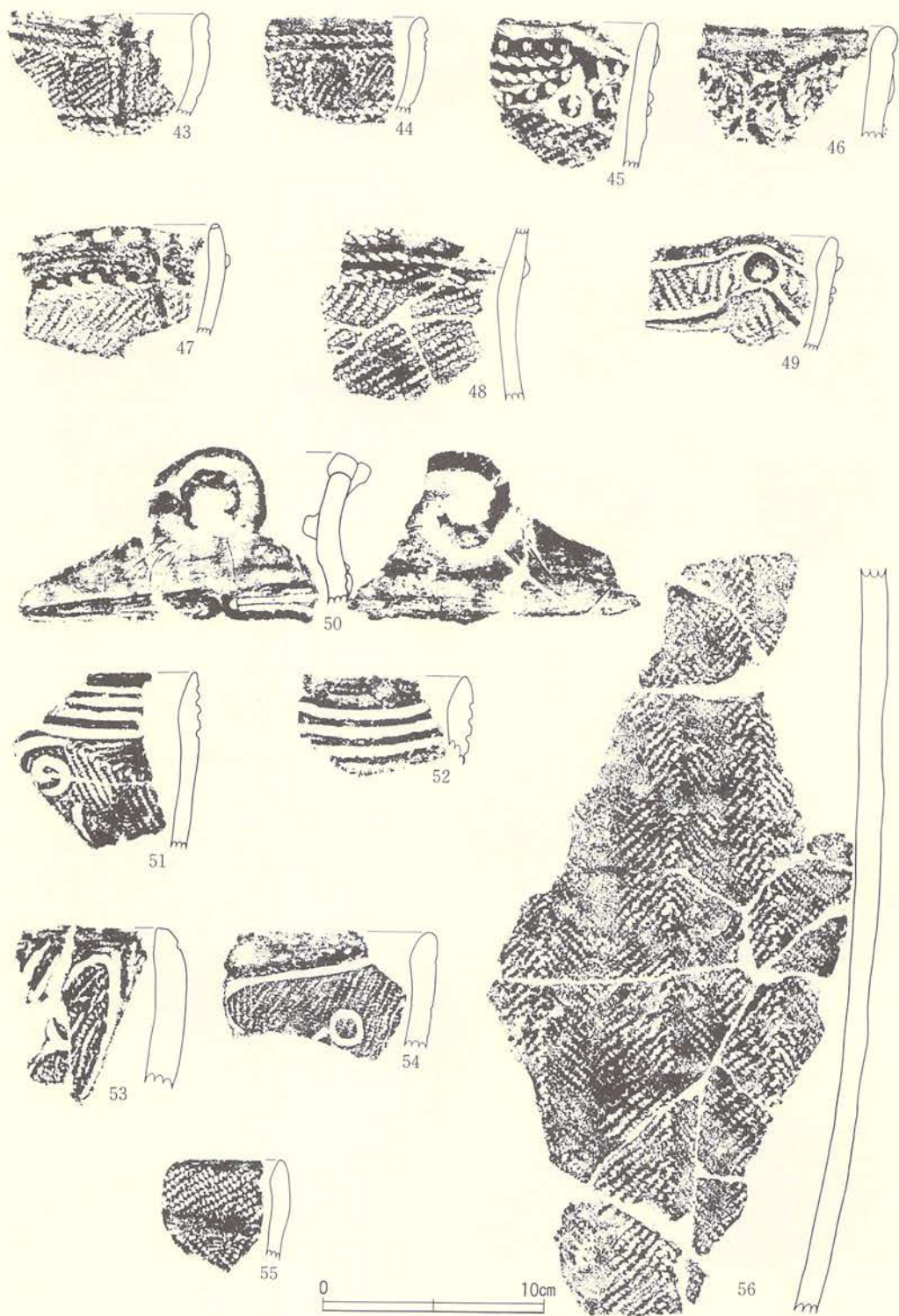
第13图 II G-1号住居跡遺物(2)



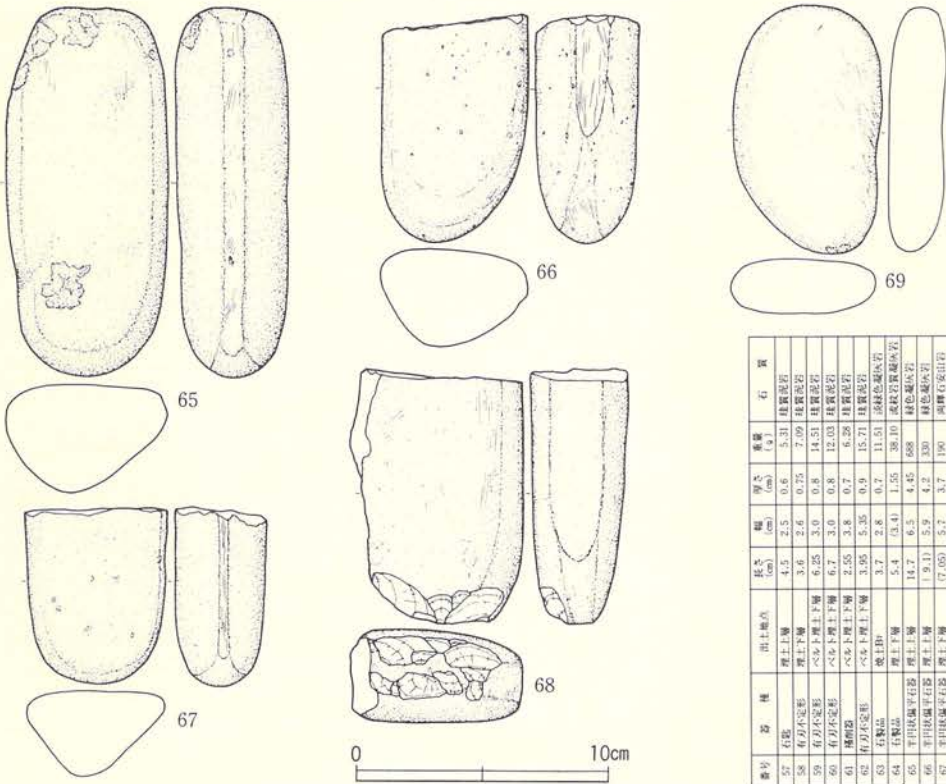
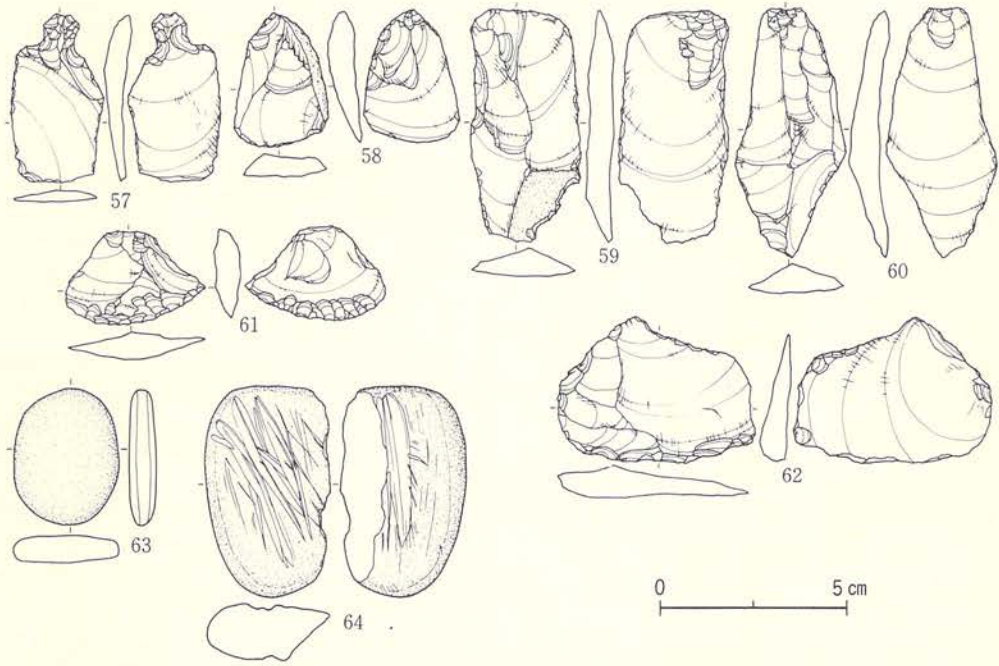
第14图 II G-1号住居跡遺物(3)



第15图 II G-1号住居跡遺物(4)



第16图 II G-1号住居跡遺物(5)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質
57	石匙	埋土上層	4.3	2.3	0.6	3.31	埴原凝灰岩
58	有角不定形	埋土下層	3.6	2.6	0.75	7.09	埴原凝灰岩
59	有角不定形	≠50下埋土下層	6.25	3.0	0.8	14.51	埴原凝灰岩
60	有角不定形	≠50下埋土下層	6.7	3.0	0.8	12.03	埴原凝灰岩
61	磨盤	≠50下埋土下層	2.95	2.8	0.7	6.28	埴原凝灰岩
62	有角不定形	≠50下埋土下層	3.95	5.35	0.9	15.71	埴原凝灰岩
63	石珠	埋土層	3.7	2.8	0.55	30.30	埴原凝灰岩
64	石珠	埋土層	3.4	4.4	4.45	68.00	埴原凝灰岩
65	半凹面扁平石	埋土上層	14.1	5.2	4.2	330	埴原凝灰岩
66	半凹面扁平石	埋土上層	17.0	5.2	3.2	190	埴原凝灰岩
67	半凹面扁平石	埋土上層	10.0	5.2	3.2	147.2	埴原凝灰岩
68	半凹面扁平石	埋土上層	10.0	6.30	3.65	186	埴原凝灰岩
69	磨石	埋土下層	9.65	5.9	2.25	186	埴原凝灰岩

第17図 II G-1号住居跡遺物(6)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
8	ク	浅鉢	全面ミガキ、底面やや上げ底で網代痕
9	ク	深鉢	区画隆線文、口縁部4個の突起、中間に対峙する弧状文、斜隆線上に勾玉状の縄文LRタテ
10	2層下部	ク	波状口縁頂部山形、区画文様帯は押圧縄文LR、体部LRタテ
11	ク	ク	波状口縁、隆線上に刻文、頸部連弧文、体部末端結節縄文LR
12	埋土	ク	結束羽状縄文、底面ケズリ
13	ク	ク	内面に炭化物、底面ケズリ
14	ク	ク	底面ケズリ
15	ク	ク	底面ケズリ
16	床	ク	波状口縁沈線文と交互刺突文、貼付、円形文、結節縄文LRヨコ、含金雲母
17	ク	ク	隆線貼付、突起に押圧縄文、原体LRヨコ
18	ク	ク	隆線下側から圧痕・沈線、LRヨコ
19	ク	小形鉢	口縁部二本の隆線、RLタテ
20	ク	ク	山形の突起、LRタテ
21	ク	深鉢	平行沈線、交互刺突文、LRヨコ
22	ク	浅鉢	底部・底面ミガキ、LRヨコ
23	ク	深鉢	RLタテ
24	ク	ク	RLヨコ
25	2層下部	ク	波状口縁頂部に刻文、隆線沿に押圧縄文LR
26	2層下部	深鉢	平縁、隆線刻文、押圧縄文LR、体部LRヨコ
27	ク	ク	小波状口縁、隆線間に押圧縄文LR、地文LRヨコ、内面に貼付円形文
28	ク	ク	波状口縁、隆線の口縁部は刻文、縦に菱形文、末端結節縄文RLヨコ、含金雲母
29-30	2層上・下部	浅鉢	同一個体、頸部無文、平行沈線、LRヨコ
31	2層下部	深鉢	太い平行沈線、LRタテ、含金雲母
32	ク	ク	波状口縁、縄文LRヨコの上から太い沈線
33	ク	ク	平縁、平行沈線間に縦二段の棒状刺突文
34	ク	ク	沈線上向連弧文「の」の文字、LRヨコ
35	ク	ク	縦の隆線に刻文、一部磨消？RLヨコ
36	ク	ク	平縁、斜めの隆線、押圧縄文LR
37	ク	ク	波状口縁、粗製、LRヨコ
38-40	ク	ク	波状口縁、沈線と交互刺突文、末端結節縄文LRタテ、同一個体
41	2層下部	ク	波状口縁、口唇部左側刻文、平行沈線、交互刺突文「の」字文、LRヨコ
42	ク	ク	平縁、口唇部刻文、交互刺突文の、「の」字文、平行沈線LRヨコ
43	ク	ク	平縁、縦の隆線上下端膨らみ、押圧縄文隆線沿いに三角文、原体LR
44	ク	ク	平縁、43と同一個体が、押圧縄文LRの三角・円形文
45	埋土	ク	小波状口縁頂部下に円形貼付、押圧縄文LR、体部LRヨコ
46	2層下部	ク	平縁？「X」字状隆線、押圧縄文LR
47	ク	浅鉢？	口唇部刻文による小波状「X」字文隆線に刻目と押圧縄文LR、体部LRヨコ
48	埋土	深鉢	隆線沿に押圧縄文LR、体部LRヨコ
49	2層下部	ク	波状口縁、頂部に貼付円形文、口縁縦のスリット、LRタテ、含金雲母
50	埋土	ク	波状口縁頂部に貼付、「X」の字状隆線の中は沈線、内面に「の」字文貼付
51	2層下部	ク	平縁、口縁部平行沈線「の」字文、結束羽状縄文
52	ク	ク	平縁、平行沈線
53	ク	ク	波状口縁？沈線文、三角文、原体LRヨコ
54	埋土	深鉢	波状口縁、沈線の円形文、LRヨコ
55	ク	ク	口縁部肥厚、口縁部LRヨコ、体部LRタテ
56	2層下部	ク	胴下半部、結束羽状縄文タテ

〈石器〉13点全てが埋土からである。57の石匙をのぞく剥片石器は、縁辺の一部に調整剥離をもつ。61のみ両面剥離。63は側面を擦りあげた扁平な石製品。64は不規則な刻線の走る石で、砥石の可能性もある。65～68は片側の側面を利用した擦石。68は先端部を敲石として使用している。69は面の一部に擦痕の残るもの。

〈時期〉土器はすべて大木7aあるいは7b式で、縄文時代中期に属する。

Ⅱ G-2号住居跡（第18・19図、写真図版11）

〈検出状況〉表土除去した段階でまとまりのある土器を検出、遺構と確認した。東側は傾斜しており、壁を検出できなかった。西側でⅡ G-5号住、Ⅱ G-7号住と重複している。5号住の東側の壁は当住居の埋土中にあり、P₄を貼って床としており当住居よりは新しい。また7号住の焼土が当住居の床上にあり、3棟の中では最も旧く位置づけられる。さらに、東側でⅡ G-5、6号陥穴と重複しているが新旧関係については陥穴の項で触れる。

〈形状・規模〉長径6.3m、短径（5.8m）のやや楕円形に近い形状である。北東部分は遺構の截合い等で検出できなかったが、支柱穴が規則的に配置されておりプランを推定できる。

〈埋土〉11層に分類した。（第18図A-B）5層はⅡ G-5号住の壁とおもわれる土で、5号住は当住居の4層埋土を床面としている。西から東への自然堆積とおもわれる。

〈壁・床面〉平均して15cmの壁高である。西側の壁は5号住の床下にある。床面は北東方向にやや傾斜し、硬く踏み固められている。

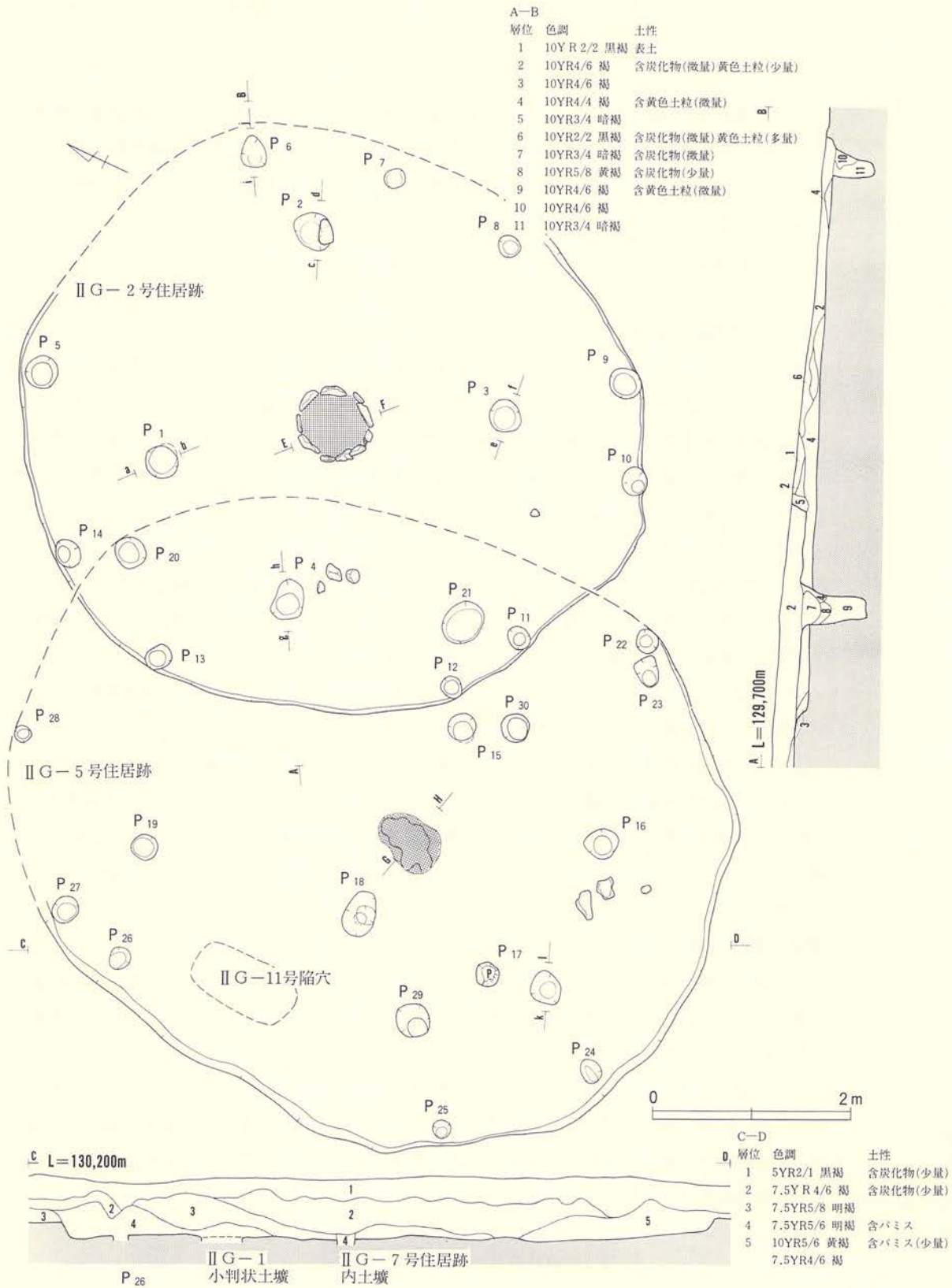
〈柱穴〉当住居に付随する柱穴はP₁～P₁₄で、深さ57～94cmのP₁～P₄が主柱穴。10本の支柱穴は深さ平均32cmでやや深い。間隔的には、P₉とP₁₀、P₁₁とP₁₂、P₁₃とP₁₄のように2本一対にもみえる。

〈炉〉ほぼ中央と推定される位置に10個の礫で構成される石囲炉が検出された。内部に40cmの掘り込みがあり、その中に焼土が落ち込んでいる。おそらく炉廃棄の際に埋設土器を引き抜いた痕跡とおもわれる。

遺物（第20～22図、写真図版12・13）

〈出土状況〉直接床面からは出土していない。埋土最下部としたものは4層下層で、床面に最も近い。埋土上層としたものは主に2層の遺物で、一定の量がまとまって出土しており、復原できたのが2～4である。

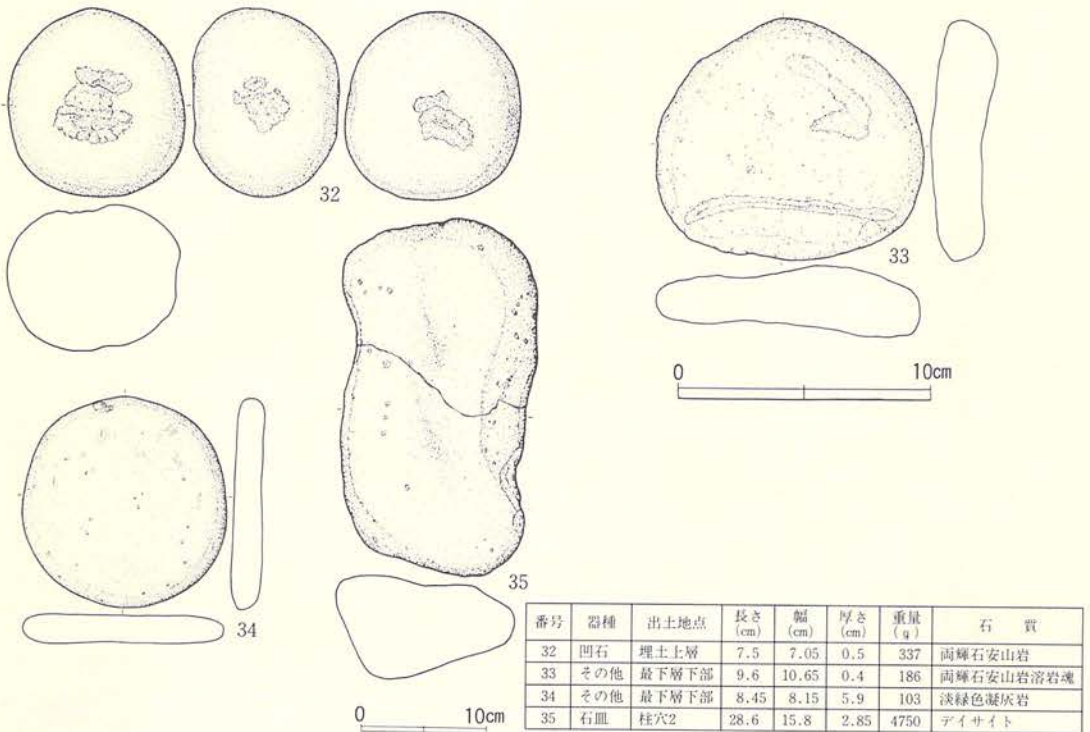
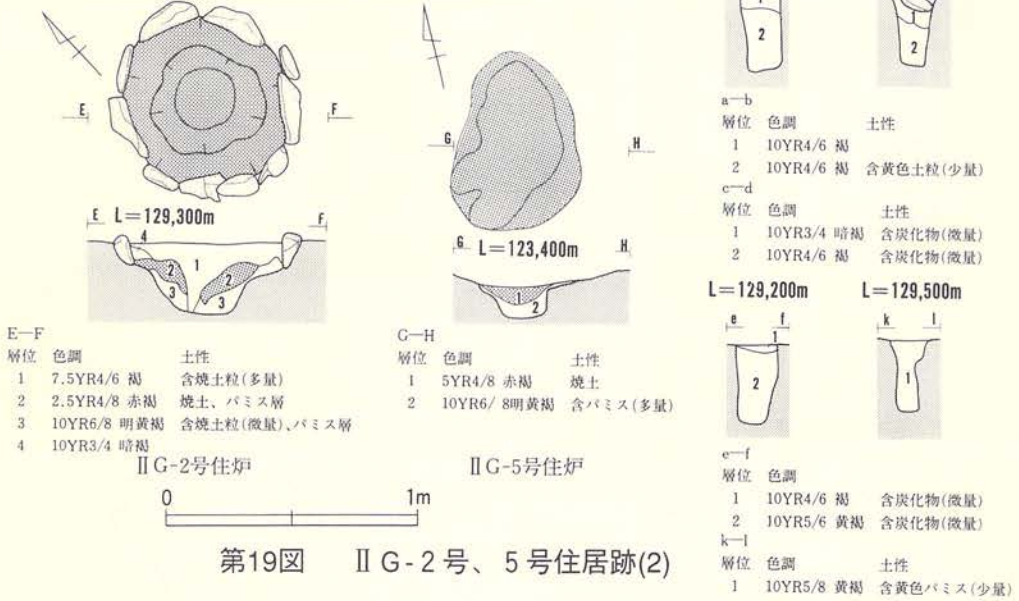
〈土器〉最下部出土は7～12、17、18、21で隆線・沈線・押圧縄文のほかに、11、17のように体部に細い隆線を巡らす例もある。下層の土器も最下部のものと大きな違いはないが、1、19のような蛇行する隆線文がある。上層の土器は隆沈線が多く、押圧縄文はみられない。3は4単位の橋状把手がS字状につく。詳細は次表。

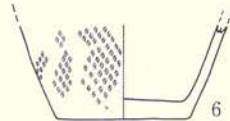
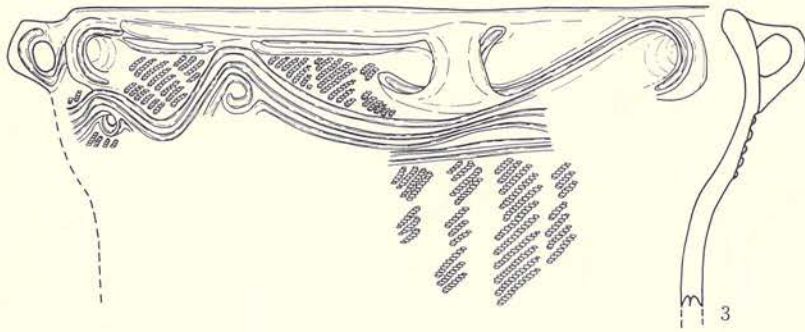
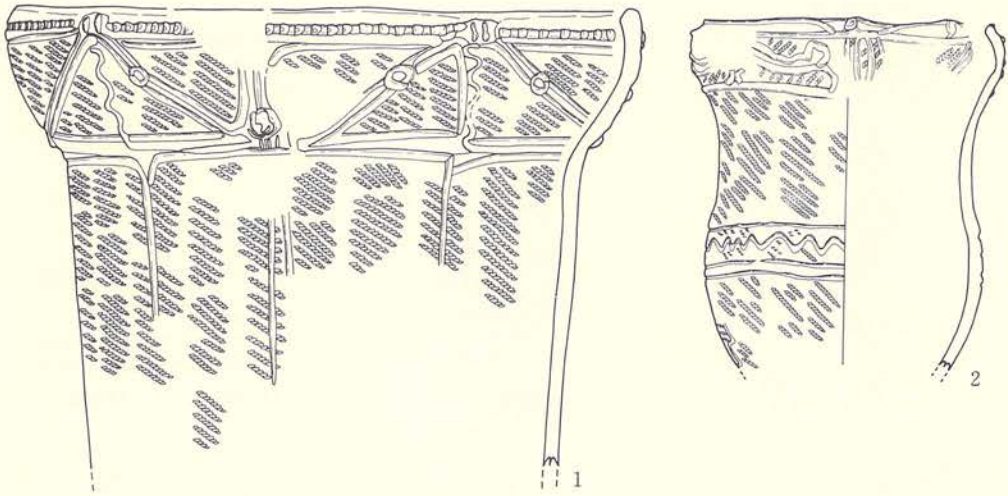


第18図 II G-2号、5号住居跡(1)

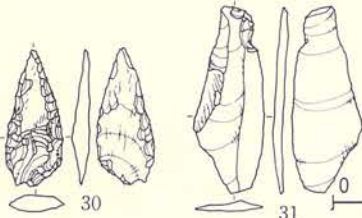
(cm)															
PN ₀	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	P ₁₀	P ₁₁	P ₁₂	P ₁₃	P ₁₄	P ₁₅
径	35	44	35	40	35	34	23	24	33	31	28	22	29	32	30
深	74	94	93	57	37	55	19	18	23	26	50	40	42	15	65

PN ₀	P ₁₆	P ₁₇	P ₁₈	P ₁₉	P ₂₀	P ₂₁	P ₂₂	P ₂₃	P ₂₄	P ₂₅	P ₂₆	P ₂₇	P ₂₈	P ₂₉	P ₃₀
径	37	36	47	27	33	46	26	32	28	17	24	28	17	38	30
深	48	63	69	53	30	24	30	43	32	35	32	50	37	70	59



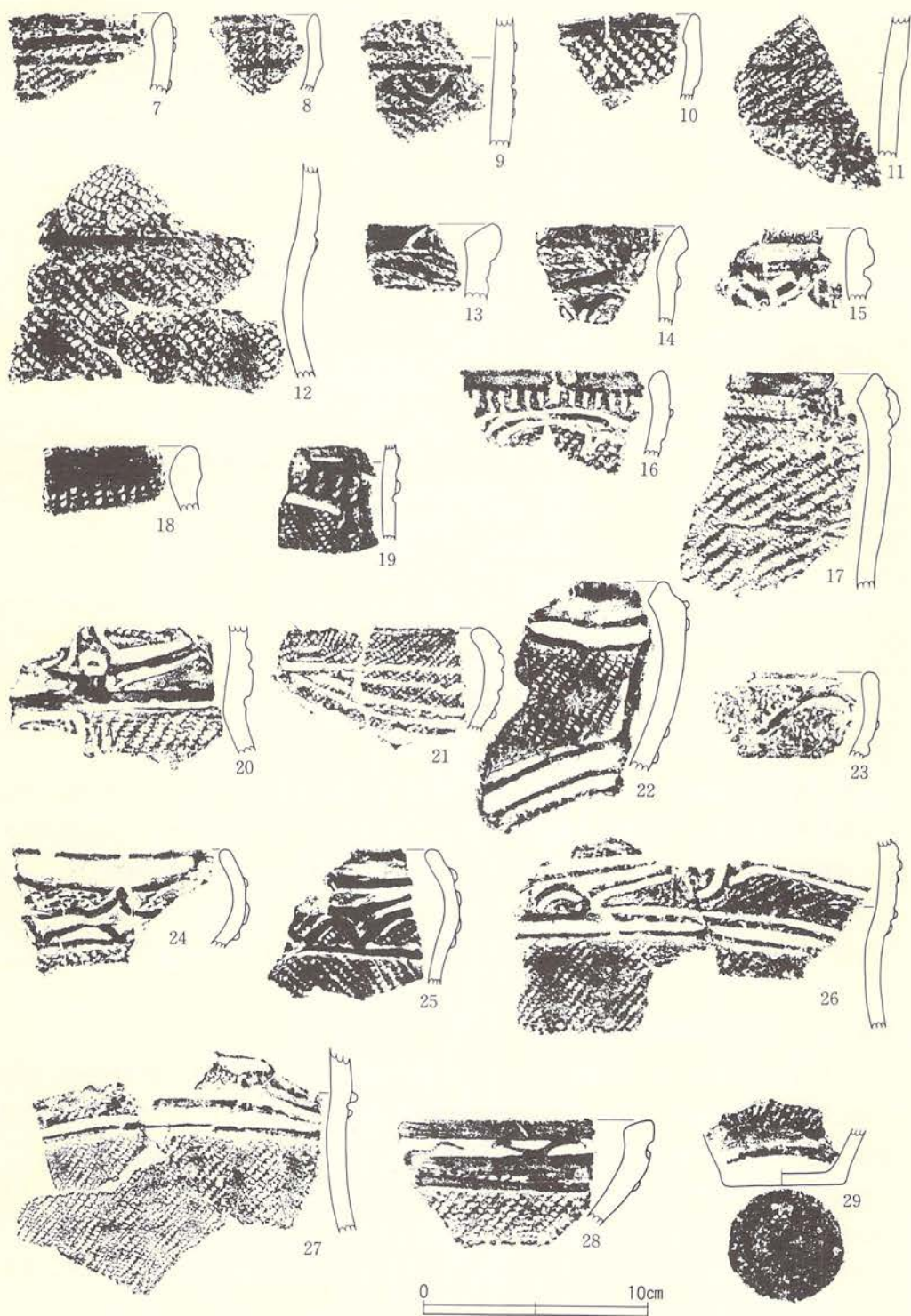


0 10cm



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
30	石鏃	最下層	3.7	1.6	0.5	2.38	流紋岩
31	その他	埋土下層	5.05	1.95	0.4	2.47	珪質泥岩

第20図 II G-2号住居跡遺物(1)



第21图 II G-2号住居跡遺物(2)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土下層	深鉢	口縁部半截竹管刺突文、隆線三角形で頂部にタテのスリット・隆線蛇行、「の」字文胴部沈線、縄文LRタテ
2	埋土上層	〃	口縁部隆線区画、胴部沈線施文、口唇部突起、縄文LRのヨコとタテ
3	〃	〃	平縁、橋状把手S字状、施文隆沈線、縄文RLタテ
4	〃	〃	「S」字状起の対面のみ小波状他は平縁、口縁部隆沈線、胴部沈線施文 顔部無文、縄文LRヨコとタテ
5	埋土下層	〃	底面ケズリ、やや上底、RLタテ
6	埋土上層	〃	底面ミガキ、LRLタテ
7	埋土最下層	〃	平縁、平行隆線、LRヨコ
8	〃	〃	平縁、縦位押圧縄文LR
9	〃	〃	平行・波状隆線、LRタテ
10	〃	〃	平縁、粗製、口縁やや肥厚、RLヨコ、体部LRタテ
11	〃	〃	胴部、二本の細い隆線の上から縄文LRヨコ
12	〃	〃	胴部、隆線の上側に押圧縄文LR、体部LRタテ
13	埋土下層	〃	波状口縁、押圧縄文LR、合金雲母
14	〃	〃	平縁? 「X」字状の接点に円形押圧縄文LR
15	〃	〃	平縁、口縁直下で弧状の隆線と竹管文
16	〃	〃	平縁、縦位刻文、隆線の上下沈線
17	埋土最下層	〃	平縁、貼瘤の上にも押圧縄文LR、体部に横の隆線、LRヨコ
18	〃	〃	波状口縁、縦位押圧縄文LR
19	埋土上層	小形鉢	隆線間に縦位押圧縄文LR、縦に隆線蛇行、LRタテ
20	埋土最下層	深鉢	隆沈線、円文、刺突文、RLヨコとタテ
21	埋土最下層	〃	平縁、下端の弧状のみ隆線、LRヨコ
22	埋土上層	〃	平縁、隆線区画、LRヨコ
23	〃	〃	平縁、隆線区画、RLヨコ
24	〃	〃	平縁、隆線区画、LRヨコとタテ
25	〃	〃	隆沈線、RLタテ
26	〃	〃	隆沈線、RLタテ
27	埋土上層	深鉢	平行隆沈線、LRヨコ縦に磨消状ナデ
28	〃	浅鉢	平縁、口縁の凹間に波状隆線、体部捺糸文L
29	〃	小形鉢	底径5.4cm、ケズリ、RLタテ

〈石器〉30は基部調整が雑な石鏃、31は縦長の剥片の一端に調整痕があり、先端は欠損、21は三面利用の凹凸、33は溶岩の周辺を擦り上げた石製品で表裏に太い擦痕がある。34は周囲を丸く、表裏を扁平に擦りあげた石、35はP₁にかかって出土した唯一の床面からの遺物である。長方形の上面が擦られて凹んでおり石皿として扱った。

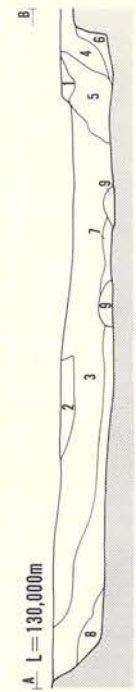
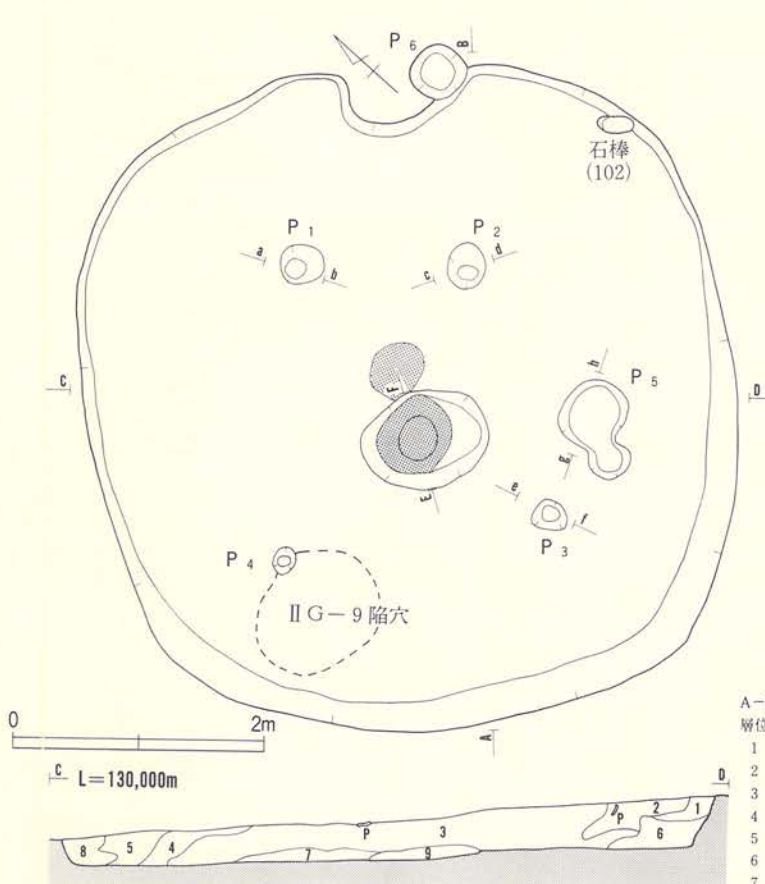
〈時期〉埋土上層の土器は大木8a式であり、下層の土器は大木7b式で縄文時代中期に属する。

II G-3号住居跡（第23図、写真図版14）

〈検出状況〉II G区の調査区西端、II G-3、5号住の中間に位置している。表土除去後、褐色土中に暗褐色土の拵がりを確認した。検出面は南から北へ傾斜しており、南北の壁上面での高度差は約70cmある。西側隅でII G-9号陥穴と重視しているが、陥穴の埋藏中にP₄がある。

〈形状・規模〉5.2×5.15mの隅丸方形で北東の一辺の中央に中に向けた張り出しがある。出入り口に関する施設と考えられるが、P₆との関連は不明である。

〈埋土〉9層に分類される。自然堆積で壁際では部分的に木痕による攪乱が認められる。9層は床面にあった粘土ブロックである。



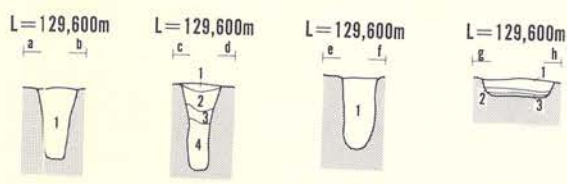
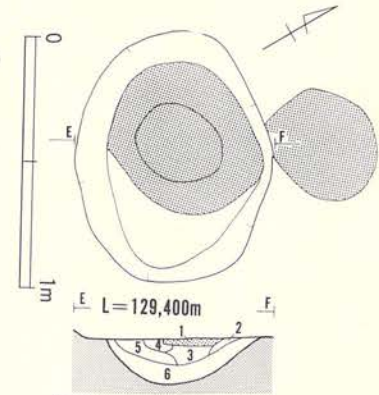
A-B

層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐	含炭化物(微量)
2	10YR4/4 褐	含炭化物(微量), 黄色土粒(少量)
3	10YR3/4 暗褐	含炭化物, 黄褐色パミス(微量)
4	10YR3/2 黒褐	含炭化物(微量)
5	10YR3/4 暗褐	含炭化物(微量)
6	7.5YR4/4 褐	含炭化物(微量)
7	10YR4/4 褐	含炭化物, 黄褐色パミス(微量)
8	7.5YR5/8 明褐	
9	5Y7/3 浅黄	

C-D

層位	色調	土性
1	7.5YR4/6 褐	
2	10YR4/4 褐	含炭化物(微量)
3	10YR3/4 暗褐	含炭化物, 焼土粒, 黄色土粒(微量)
4	10YR2/2 黒褐	含炭化物, 焼土粒(微量)
5	10YR3/4 暗褐	
6	7.5YR5/8 明褐	
7	10YR4/4 褐	含炭化物(少量), 黄色土粒(微量)
8	10YR4/6 褐	
9	5Y7/3 浅黄	

(cm)						
PNo	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆
径	36	37	28	24	81	46
深	76	80	76	53	14	20



a-b

層位	色調
1	7.5YR5/8 明褐

c-d

層位	色調
1	7.5YR6/8 橙
2	7.5YR4/6 褐
3	7.5YR5/8 明褐
4	7.5YR4/6 褐

e-f

層位	色調
1	7.5YR5/6 明褐

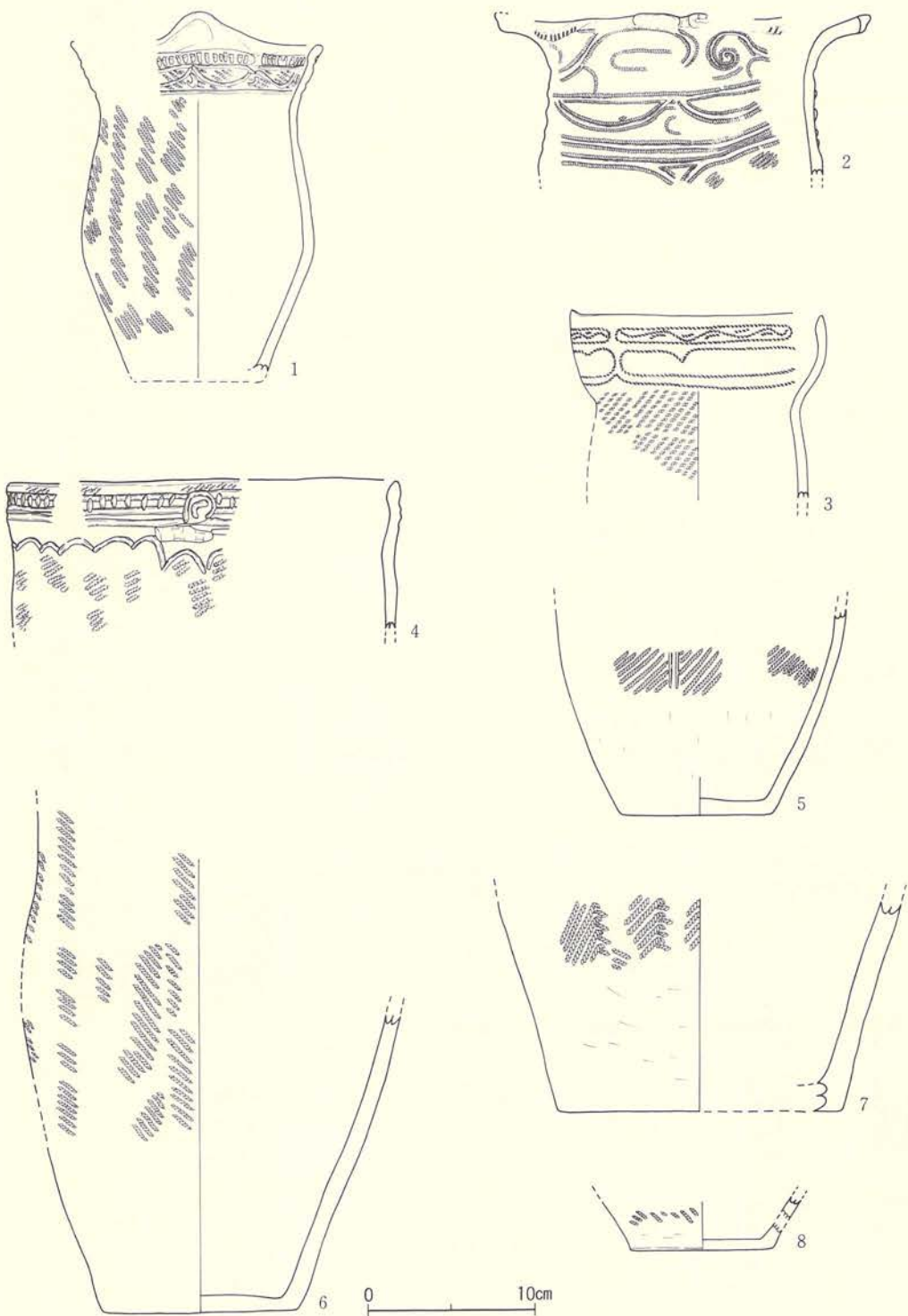
g-h

層位	色調
1	7.5YR6/8 橙
2	7.5YR5/6 明褐
3	7.5YR6/8 橙

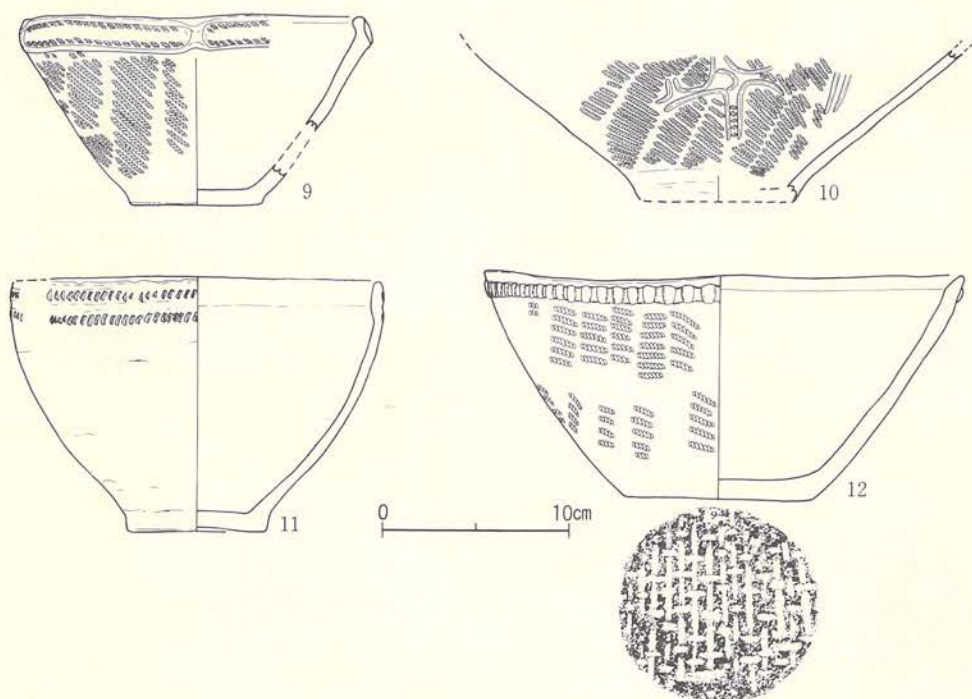
E-F

層位	色調	土性
1	5YR4/6 赤褐	含焼土(少量)
2	10YR4/8 赤	焼土
3	7.5YR3/6 暗褐	
4	5YR4/6 赤褐	
5	7.5YR4/6 褐	
6	7.5YR5/8 明褐	含パミス

第23図 II G-3号住居跡



第24图 II G-3号住居跡遺物(1)



第25図 II G-3号住居跡遺物(2)

〈壁・床面〉斜面に位置しているため1~40cmと差があるが、ほぼ直立する壁である。床は斜面に沿ってやや傾いており高度差20cmであるが、凹凸はなく硬くしまっている。陥穴の部分は粘土が貼られている。

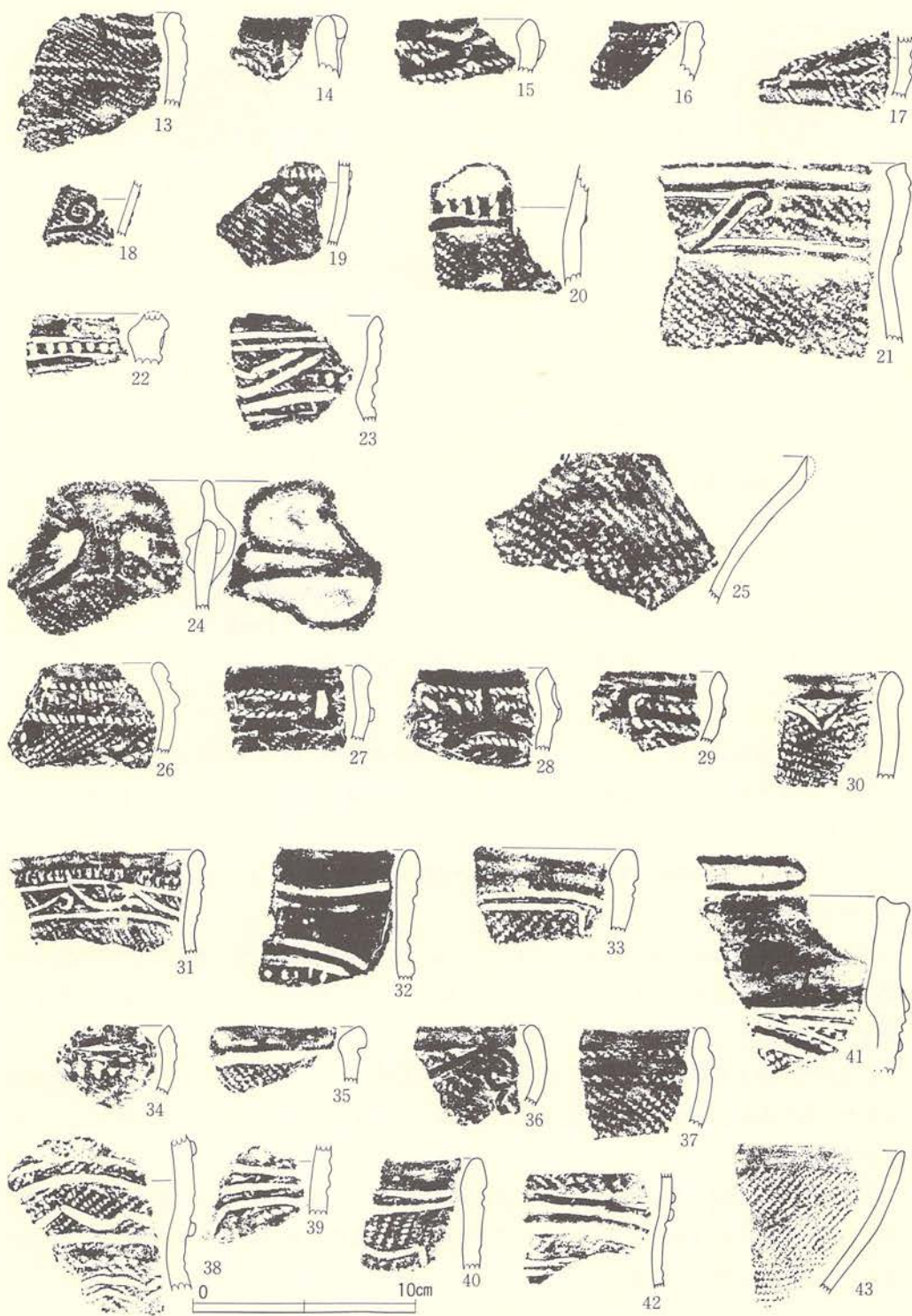
〈柱穴〉深さ53~80cmのP₁~P₄が主柱穴で、P₆の性格は不明である。P₅は15cmと浅く、物置的なピットとも考えられる。

〈炉〉中央やや西寄りに径100×80cmの掘り方を持つ地床炉を検出した。焼土の広がりはあるが厚さはない。東側にある焼土ブロックは床面に載っており、炉内から掻き出した焼土である。

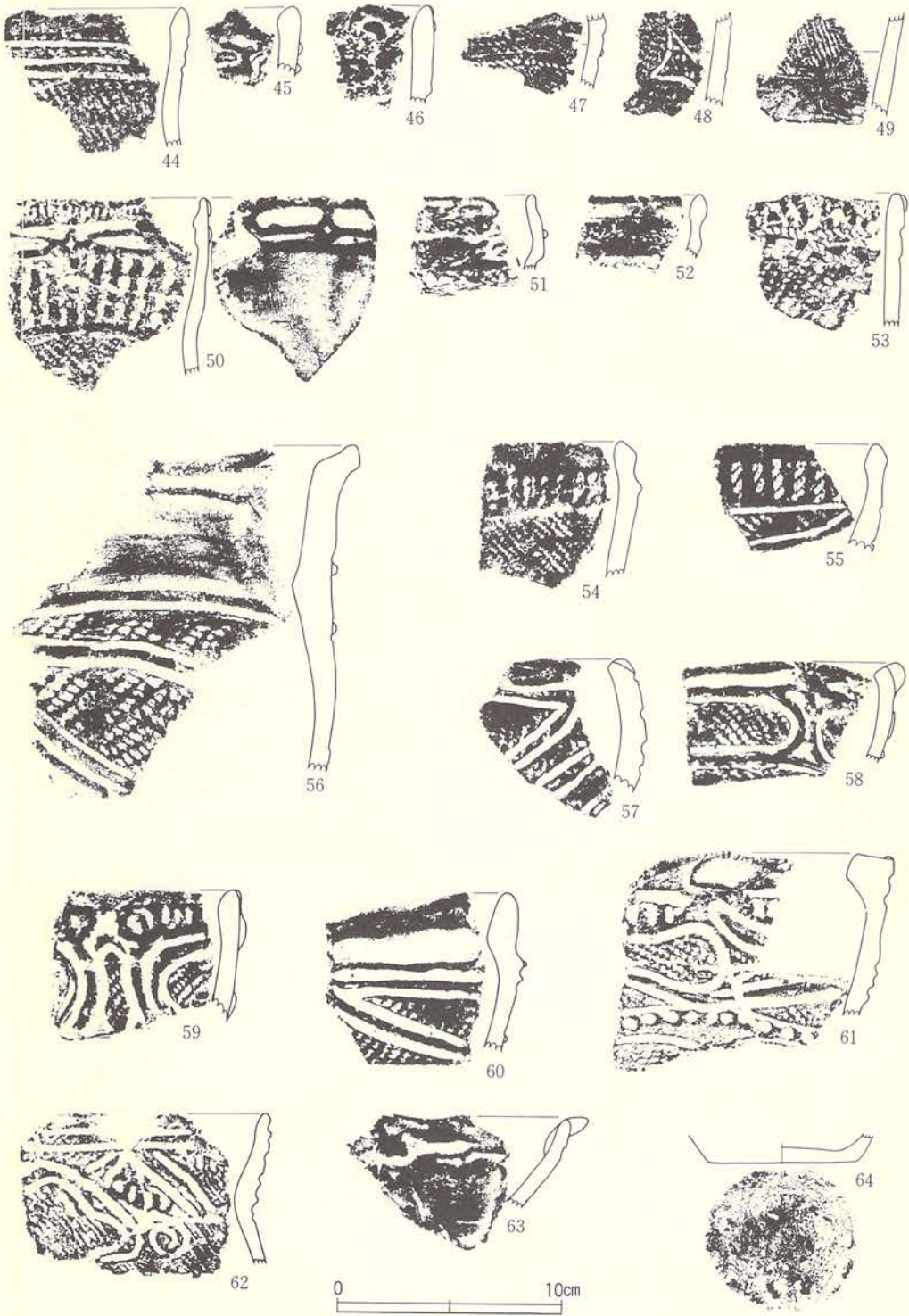
遺物(第24~30図、写真図版15~19)

〈出土状況〉埋土各層から万遍なく出土している。図化できた土器は埋土上~中層に一括廃棄された一群である。床面出土の完形品はなく、床としたものは数センチ浮いた状況で出土したものである。

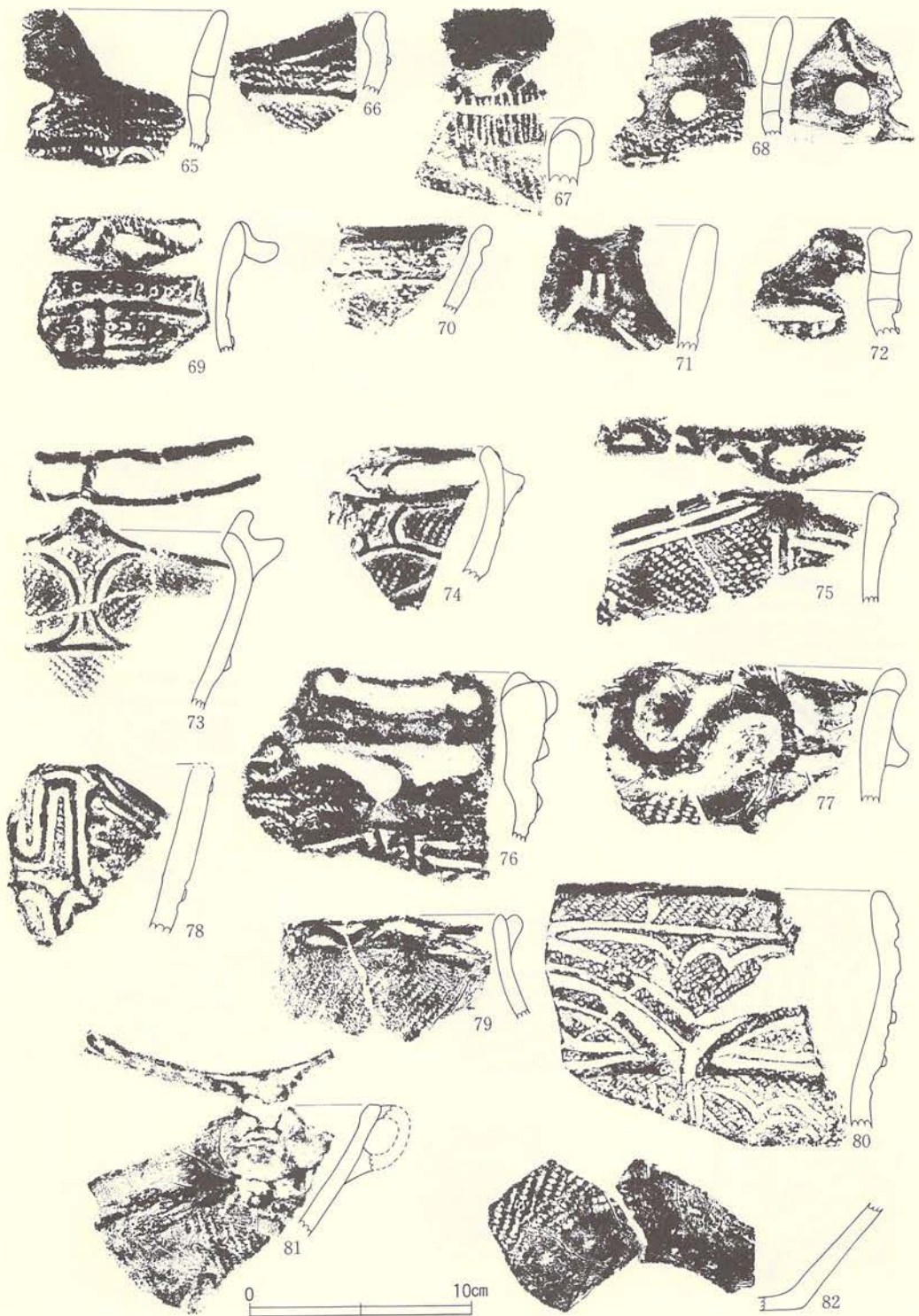
〈土器〉器種は深鉢が主体であるが、他の住居跡にくらべて浅鉢がめだつ。波状口縁と平縁は半々で、地文はLRが圧倒的に多い。胎土に金雲母に含むものが数点あり、底部網代痕の残るのは12の浅鉢のみである。詳細は次表。



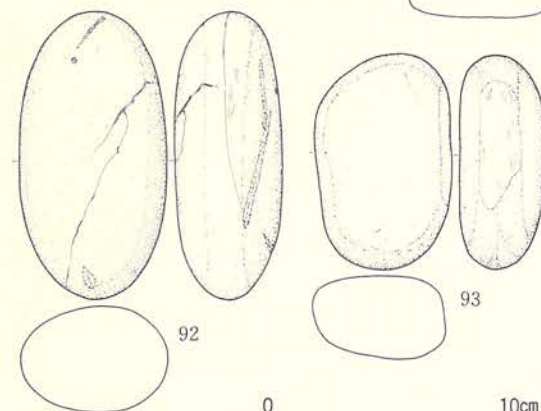
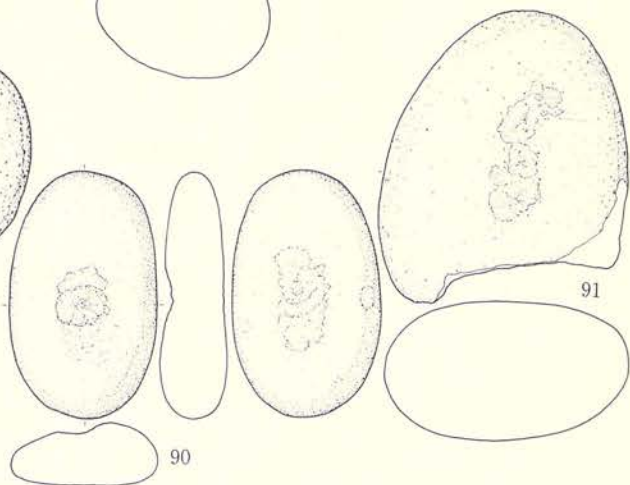
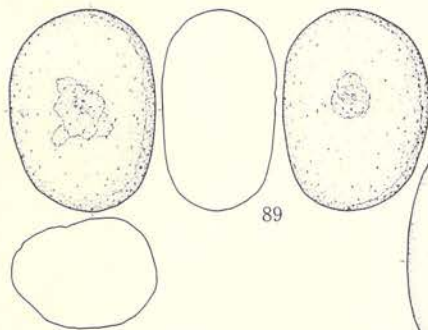
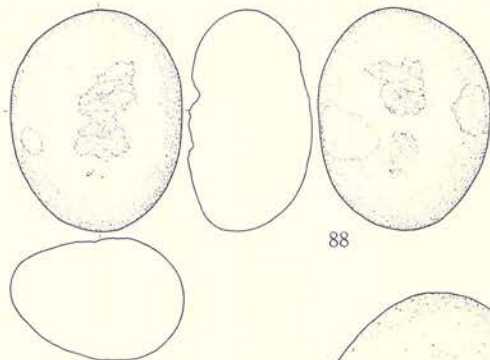
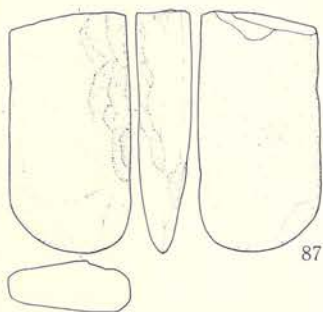
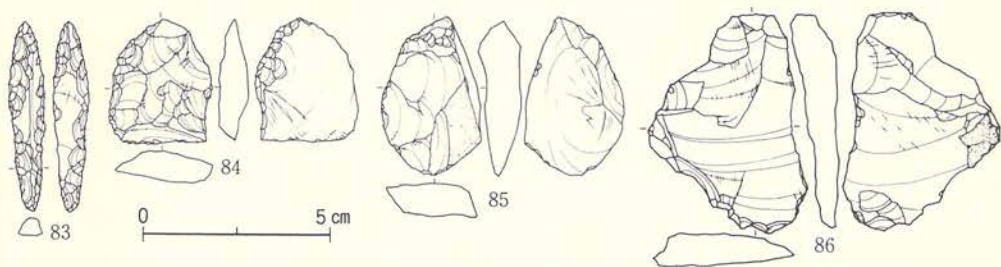
第26图 II G-3号住居跡遺物(3)



第27图 II G-3号住居跡遺物(4)

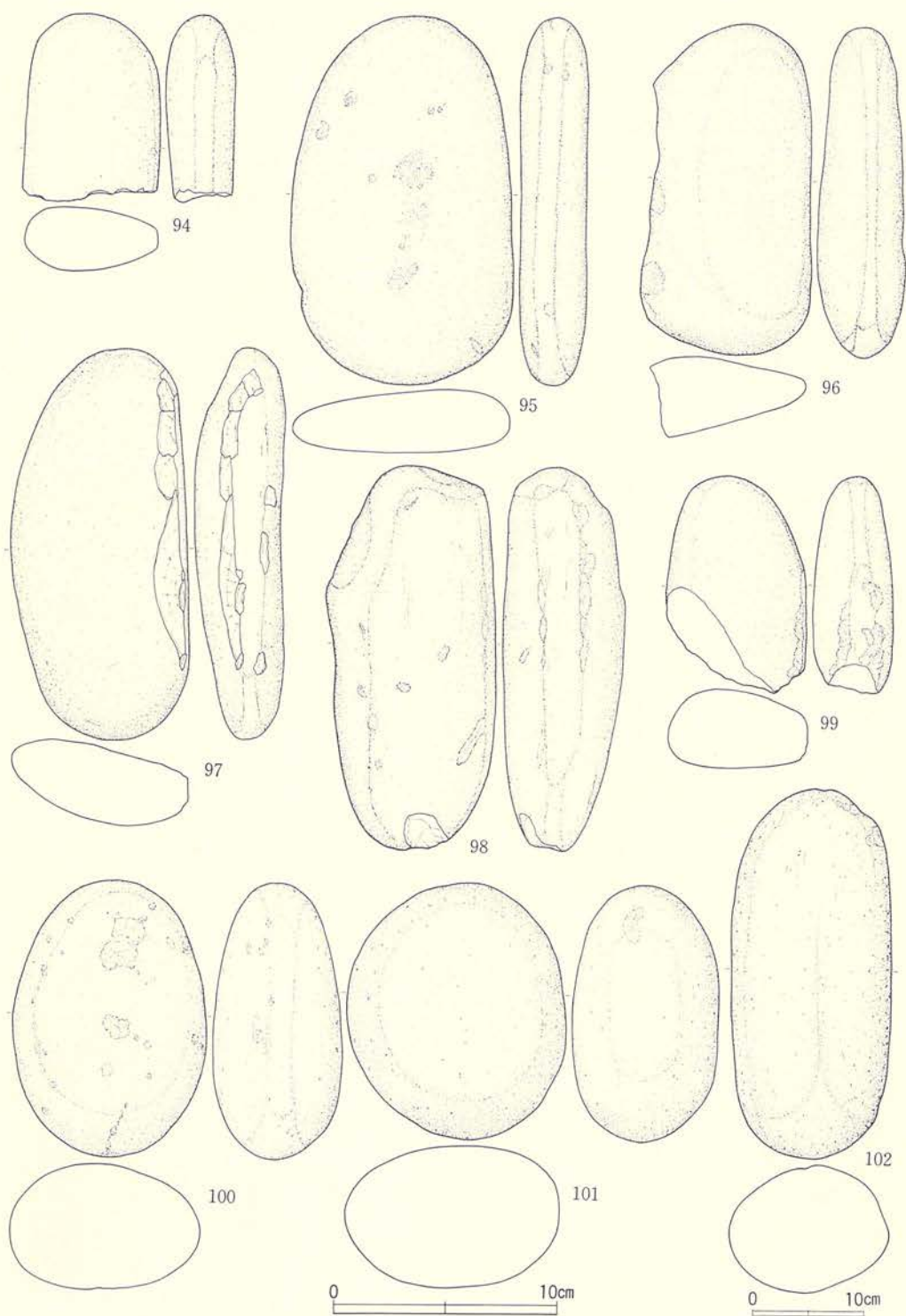


第28图 II G-3号住居跡遺物(5)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
83	石槍	埋土中層	5.1	1.0	0.5	3.01	埴貫泥岩
84	搔削器	埋土下層	3.3	2.75	0.8	7.73	埴貫泥岩
85	有刃不定形	埋土中層	4.25	2.7	1.15	11.53	埴貫泥岩
86	有刃不定形	埋土中層	5.9	4.3	1.1	20.64	埴貫細粒凝灰岩
87	石斧	埋土上層	19.61	4.9	3.2	181	綠色凝灰岩
88	凹石	埋土上層	8.9	6.9	5.0	366	アイサイト
89	凹石	褐色一括	8.1	5.85	4.6	220	高輝石安山岩
90	凹石	埋土中層	9.85	5.9	2.7	180	綠色凝灰岩
91	礫石	(11.6)	19.95	5.9	870	高輝石安山岩	
92	礫石	埋土上層	11.6	5.85	4.25	427	凝灰質砂岩
93	礫石	埋土中層	8.65	5.5	3.45	227	高輝石安山岩
94	半円状偏平石器	埋土中層	(8.2)	6.2	3.15	243	綠色凝灰岩
95	半円状偏平石器	埋土上層	16.6	10.0	3.05	705	綠色凝灰岩
96	半円状偏平石器	埋土上層	14.95	(7.65)	4.0	600	綠色凝灰岩
97	半円状偏平石器	埋土上層	17.6	8.0	4.15	747	綠色凝灰岩
98	半円状偏平石器	埋土上層	17.3	7.7	5.5	972	綠色凝灰岩
99	半円状偏平石器	埋土中層	(7.85)	(6.3)	3.65	313	綠色凝灰岩
100	礫石	褐色一括	12.45	8.8	5.85	797	高輝石安山岩
101	礫石	埋土上層	11.6	9.85	6.6	1061	花園内輝岩
102	石棒	床面	33.5	14.3	11.6	7500	アイサイト

第29図 II G-3号住居跡遺物(6)



第30图 II G-3号住居跡遺物(7)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土中～下層	深鉢	波状口縁、口縁部縦位刻文、弧文、沈線区画、RLタテ、胴部タテにナデ
2	〃	〃	口唇二突起と粘土帯貼付に縦位捺系圧痕、体部隆線両側に捺系圧痕R
3	埋土一括中層	〃	口縁一部小波状、口縁部押圧縄文LR施文、体部RLR
4	埋土上・下層	〃	平縁、平行沈線と連弧文の「の」字文、縦刻文、RLタテ、上・下層で接合
5	埋土東壁際	〃	縦の平行沈線、LRヨコ、底面ナデ
6	埋土上層	〃	底面網代の上からナデ、LRタテ
7	〃	〃	底面ナデ、結束羽状縄文
8	〃	浅鉢	内面ミガキ、底面ヘラケズリ、LRタテ
9	埋土一括上層	〃	隆線間に二本の押圧縄文LR、体部LRタテ、底面ナデ
10	埋土上層一括	〃	沈線施文、内面荒いミガキ、LRタテ
11	埋土上層	〃	口縁部二段の半截竹管、内外ミガキ、底面ナデ
12	埋土中～上層	〃	口縁部粘土隆帯に圧痕、底面網代
13	床	深鉢	波状口縁、地文LRタテの上から押圧縄文LR
14	〃	〃	波状口縁？縦位置に隆線、押圧縄文LR
15	〃	〃	平縁？「X」字状隆線、押圧縄文LR
16	〃	〃	波状口縁、押圧縄文LRとナナメLR
17	〃	〃	隆線と押圧縄文LR
18	〃	小形鉢	「の」字状隆線、LRタテ
19	〃	〃	上端に横の刻文、波状の隆線、RLヨコ
20	〃	深鉢	口縁～胴部、縦の押圧縄文LRの下に隆線、LRタテ
21	〃	〃	平縁、文様区画帯隆沈線、LRタテ
22	〃	〃	隆沈線間に刻文
23	〃	〃	平縁、RLヨコの上から太目の平行と山形の沈線、隆帯に円形の刺突
24	〃	〃	山形突起の口縁、頂部下は橋状、LRタテ
25	〃	浅鉢	平縁、口唇部隆帯部分剥落、LRタテ、内面はハケ
26	埋土下層	深鉢	平縁・キャリバー状、隆線の下に押圧縄文、間に閉じた末端のLRの押圧、LRヨコ
27	〃	〃	平縁、浅鉢の可能性も、縦に2本隆線で区画、隆線の内側押圧縄文RL、RLヨコ
28	〃	〃	小波状口縁、施文は26に同じ、縦と弧状の隆線
29	〃	小形鉢	平縁、隆線による「X」状、押圧縄文LR
30	〃7層	深鉢	波状口縁、地文LRの上から上向きの連弧文
31	〃	〃	平縁、半截竹管の刻文連弧文、「の」字状は押圧縄文LR
32	〃	〃	波状口縁、太い沈線文様、隆線に刻文、含金雲母
33	〃	〃	波状口縁、沈線文様、LRヨコ、含金雲母
34	埋土下層、7層	小形鉢	平縁、平行沈線下に刻文
35	埋土下層	深鉢	平縁で強く外反、LRタテ、含金雲母
36	〃	〃	平縁キャリバー状、隆線施文、RLヨコ
37	〃	〃	平縁、隆帯の上下に押圧縄文LR、胴部LRタテ
38	〃	〃	縄文のある隆線間に山形文、原体LR口縁部ヨコ・胴部タテ
39	〃7層	〃	沈線施文、LRヨコ
40	〃	〃	波状口縁、平行と弧状沈線、RLナナメ
41	埋土中層	〃	波状口縁頂部楕円形の凹み、隆沈線、LRヨコ
42	〃	〃	隆沈線と沈線、縄文口縁部RLヨコ、体部RLタテ
43	〃	浅鉢	平縁、口唇部粘土帯剥落、体部LRヨコとナナメ
44	〃	深鉢	小山形口縁、三本平行沈線、LRタテ
45	〃	〃	波状口縁、隆線「X」字状
46	〃	〃	波状口縁、「の」字「X」字貼付、但し一部剥落、押圧縄文LR
47	〃	〃	隆線に沿って押圧縄文LR
48	〃	〃	三角状の沈線文様、LRタテ、ナナメ、44と同一個体か

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
49	埋土中層	深鉢	底部付近、LRタテ、ヨコミガキ
50	〃	〃	段違い口縁、口唇部刻文と刺突、隆線区画、太い縦押圧縄文LR、体部LRタテ、内面隆線区画
51	埋土中層、3層下	深鉢	平縁、隆線区画、押圧縄文LRによる「の」字、隆線内の施文
52	〃	浅鉢	平縁肥厚する口縁下に押圧縄文LR、内面ヘラミガキ
53	〃	深鉢	平縁、口縁部山形隆線、全面に押圧縄文LR
54	〃	〃	波状口縁、隆沈線、原体RLRタテ
55	〃	〃	平縁、口縁隆線間に押圧縄文LRタテ、体部も同じ
56	〃	〃	平縁、口縁下押圧縄文LR、沈線、体部LRタテ
57	〃	〃	波状口縁、縄文LRの上から沈線施文
58	〃	〃	平縁、口唇、口縁隆線「X」字状に区画、LRタテ
59	埋土中層、3層	〃	平縁、隆沈線文様、口縁部押圧縄文RL（閉じた末端）沈線内LRヨコ
60	〃	〃	波状口縁、隆沈線、RLタテ、含金雲母少量
61	埋土上・中層	〃	平縁、口縁突起頂部に「S」字状貼付、隆沈線、上下に刺突列、RLヨコとタテ
62	埋土中層	〃	平縁、頸部楕円形貼付に3個の刺突、沈線渦文と山形、LRタテ
63	〃 3層	浅鉢	平縁、口唇部に「S」字状貼付、無文、内面ミガキ
64	〃	〃	内外面ナデ、やや上底
65-66	〃	深鉢	山形突起の下に円形の透し、口縁部弧状押圧縄文LR、隆線の下沈線、弧文
67	〃	〃	波状口縁、口縁部太い粘土帯貼付、その部分に燃糸圧痕L
68	〃	〃	山形の頂部及び左側に透し、隆線沿いに燃糸圧痕L、山形部内面隆沈線
69	〃	〃	平縁、口縁部「S」字状突起刻目文、頸部隆線、竹管ナナメと直の刺突
70	〃	浅鉢	平縁、幅広隆線の上下に押圧縄文LR、体部LRタテ、内面ミガキ
71	〃	深鉢	頂部が凹む波状口縁、頂部下に三角形の沈線
72	〃	〃	頂部突起の波状口縁、円形透し、「X」字状貼付内部に刻目
73-74	〃	〃	小波状口縁「U」字状、隆線区画、原体LRヨコとタテ、同一個体
75	〃	〃	平縁、口唇部波状隆線貼付、突起下に縦に二本沈線、LRタテ
76	〃	〃	波状口縁、頂部浅い「U」字状貼付、太い隆帯間に「U」字、弧状の燃糸圧痕L
77	〃	〃	口縁部「S」字貼付により口縁小突起、LRヨコ
78	埋土上層	深鉢	波状口縁、隆沈線文区画、連続「U」字状、縦の連弧状隆線
79	〃	〃	平縁、口唇部に波状隆線及び突起、75と同一文様、RLタテ
80	〃	〃	平縁、隆線区画、口縁と頸部に連弧文、原体による「の」字文、隆線に縄文、LRヨコとタテ
81	〃	浅鉢	平縁、橋状把手、口縁下に浅い隆線、体部RLヨコ、含金雲母、内面ミガキ
82	〃	〃	内面、底部ミガキ、体部LRヨコ

〈石器〉土器と同様、埋土中が多く床面出土は1点のみである。83は断面三角形の錐で両端が尖る。84は両面に、85は片面に調整痕がある。86は下端の両面に調整痕があるが石匙のような明瞭なつまみとはならない、が機能は石匙的なものであろう。87は磨製石斧、右側の荒い打欠きは磨きが及んでいない部分である。縦断面はやや湾曲する。88～91は楕円形で両面にくぼみのある凹石であるが、いずれも長辺の側面に擦跡が残る。92～101は擦石。92～96は側面を擦上げている一群。断面は92、93が厚く、94～96は扁平。97～99は側面を打ち欠いた後に擦上げた一群。100、101は両面と側面を擦っている。102は唯一の床面出土の石器で、石棒状の形態をしている。楕円形で全体に擦上げた痕跡がある。床面北東隅で壁に接して出土した。

〈時期〉床面の破片、埋土下層の土器はおおむね大木7b式の特徴を示しており縄文時代中期に属する。

II G-4 号住居跡（第31図、写真図版20）

〈検出状況〉II G区の西端の黒褐色土を掘下げたところ、多数の土器、焼土、不整形な壁のラインを検出した。截合のある遺構と推定し壁、焼土を検出した結果、2棟の住居跡と判明した。北側が4号、南側が6号住居跡である。4号の壁と推定されるラインが6号の床、炉を截っており4号住のほうが新しい。北側では7号住と截合うが、これについては後述する。

〈形状・規模〉南側半分が6号住と重複しているので全形は不明であるが、7.0×5.6mの隅丸方形状を呈するものと推定される。

〈埋土〉A-Bラインで11層に分類した。上位黒褐色土、下位暗褐色土で、一部にぶい黄色土、褐色土、明褐色土が混じる。2、3層は6号住の埋土で4号柱の壁となっている。

〈壁・床面〉壁高は平均して15cmで、ほぼ垂直に立つ。床面はやや凹凸があるが、おおむね平坦でかたく締まっている。床面にII G-2号土壙、II G-8、10号陥穴があるが、2号土壙、8号陥穴の埋土中に柱穴があり、10号陥穴の1層は貼床となっており、4号住が最も新しい。

〈柱穴〉II G-6、7号住の柱穴と推定されるものは図示していない。当住居に伴うと考えられる柱穴はP₁~P₁₁で、主柱穴はP₁~₄あるいはP_{1,4,6,8}の4本で深さの平均は40cmである。他は支柱とおもわれる。

〈炉〉やや南側に寄った位置で長楕円形状の焼土を検出した。右隣の柱穴に截られており、この柱穴はII G-7号柱のものと考えられる。掘り込みは2箇所あり、いずれも数cmと浅いが現地性の焼土である。

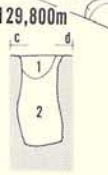
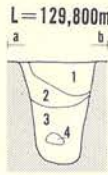
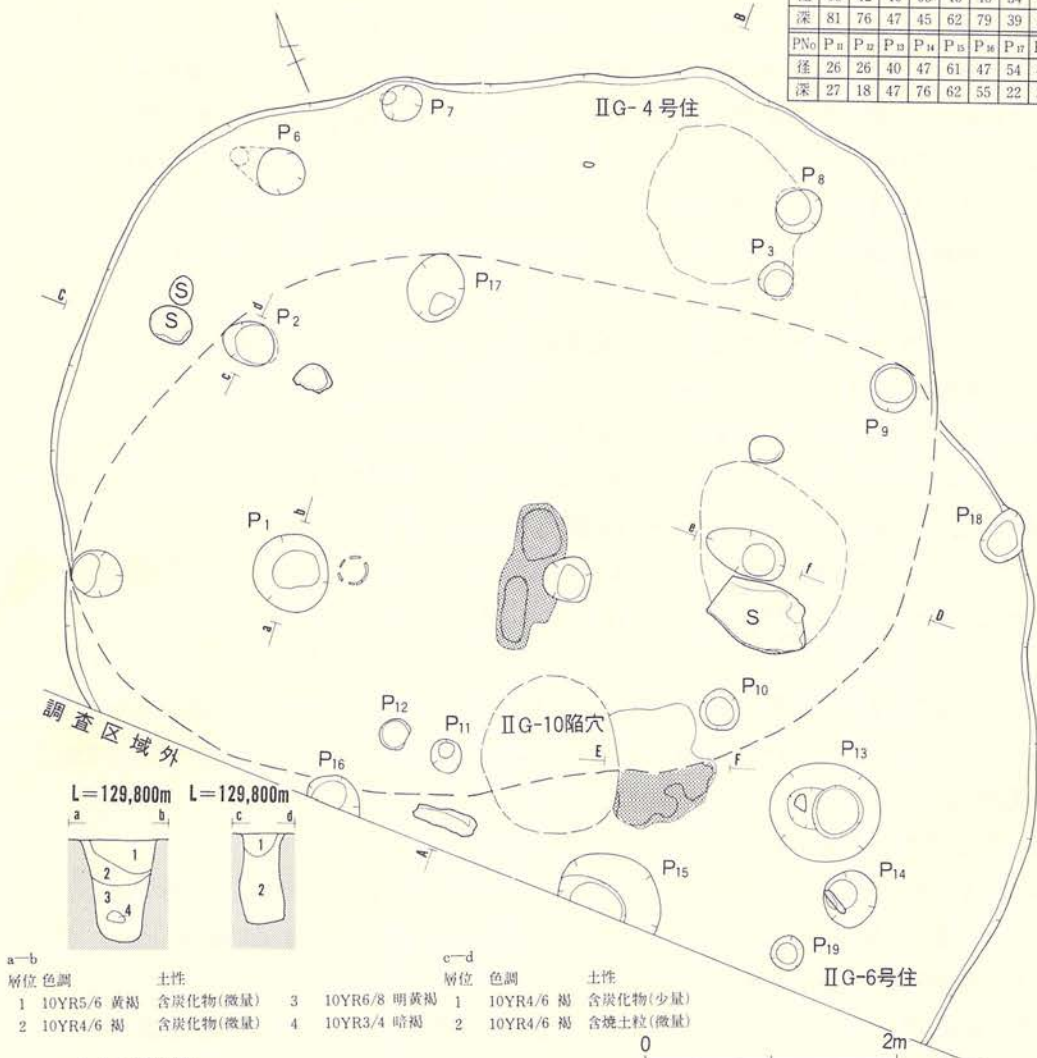
遺物（第32~37図、写真図版21~25）

〈出土状況〉埋土各層から万遍なく出土している。床面出土の土器は殆どが破片であるが、3の深鉢は口縁部と胴下半部の欠損部を水平に修正して、浅く埋設された状況で検出された。接合する土器は層位に関係なく出土している。

〈土器〉深鉢がほとんどでキャリバー形が多く、数点浅鉢が混じる。文様は隆線と沈線および隆沈線で描かれるが、隆線によるものが最も多い。平行隆・沈線間に渦文などの曲線文が描かれ、小型の深鉢では沈線が縦に展開する。底部はミガキカナデが多く、網代の痕跡は一部に残るが殆ど消されている。縄文原体はRL、LRが半々で無節が一例ある。詳細は下表。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土下層	深鉢	平縁、太い隆線貼付「X」状部分橋状、体部RLタテ
2	〃	〃	ゆるやかな波状口縁、隆線貼付、縦の割付4単位底部ミガキRLヨコ
3	床面	〃	隆線貼付施文、渦文、LRタテ、口縁、胴部破損部水平に修正
4	埋土上層	〃	平縁、隆沈線施文、渦文横に展開、口縁LRヨコ、体部タテ
5	〃	〃	正面のみ山形口縁、口縁、頸部のみ隆線無文、体部沈線、施文、RLタテ
6	埋土下層	浅鉢?	内面ミガキ、底部ナデ、体部RLタテ
7	〃	深鉢	内面炭化物付着、底部網代の上からミガキ、体部LRヨコ
8	〃	〃	内面炭化物付着、底部ミガキ

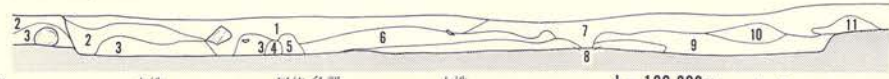
											(cm)										
PN ₀	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	P ₁₀	径	63	42	40	65	45	40	34	40	40	34
深	81	76	47	45	62	79	39	35	34	28	深	26	26	40	47	61	47	54	46	28	
PN ₀	P ₁₁	P ₁₂	P ₁₃	P ₁₄	P ₁₅	P ₁₆	P ₁₇	P ₁₈	P ₁₉		径	27	18	47	76	62	55	22	36	48	



a-b
 層位 色調 土性
 1 10YR5/6 黄褐 含炭化物(微量)
 2 10YR4/6 褐 含炭化物(微量)

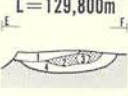
c-d
 層位 色調 土性
 3 10YR6/8 明黄褐
 4 10YR3/4 暗褐
 1 10YR4/6 褐 含炭化物(少量)
 2 10YR4/6 褐 含烧土粒(微量)

A L=130,100m



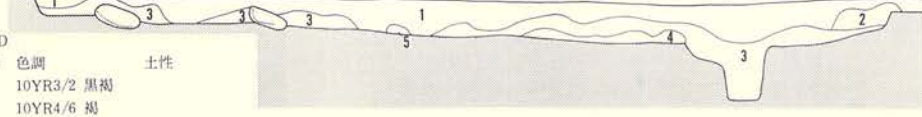
層位 色調 土性
 1 10YR2/2 黑褐
 2 10YR3/3 暗褐
 3 10YR4/4 褐
 4 10YR4/3 にぶい黄褐
 5 10YR4/6 褐
 6 10YR3/4 暗褐

層位 色調 土性
 7 10YR2/1 黑 含炭化物(少量)
 8 10YR6/8 明黄褐 含黄褐色バミス(多量)
 9 10YR5/8 黄褐
 10 10YR4/4 褐
 11 10YR4/6 褐



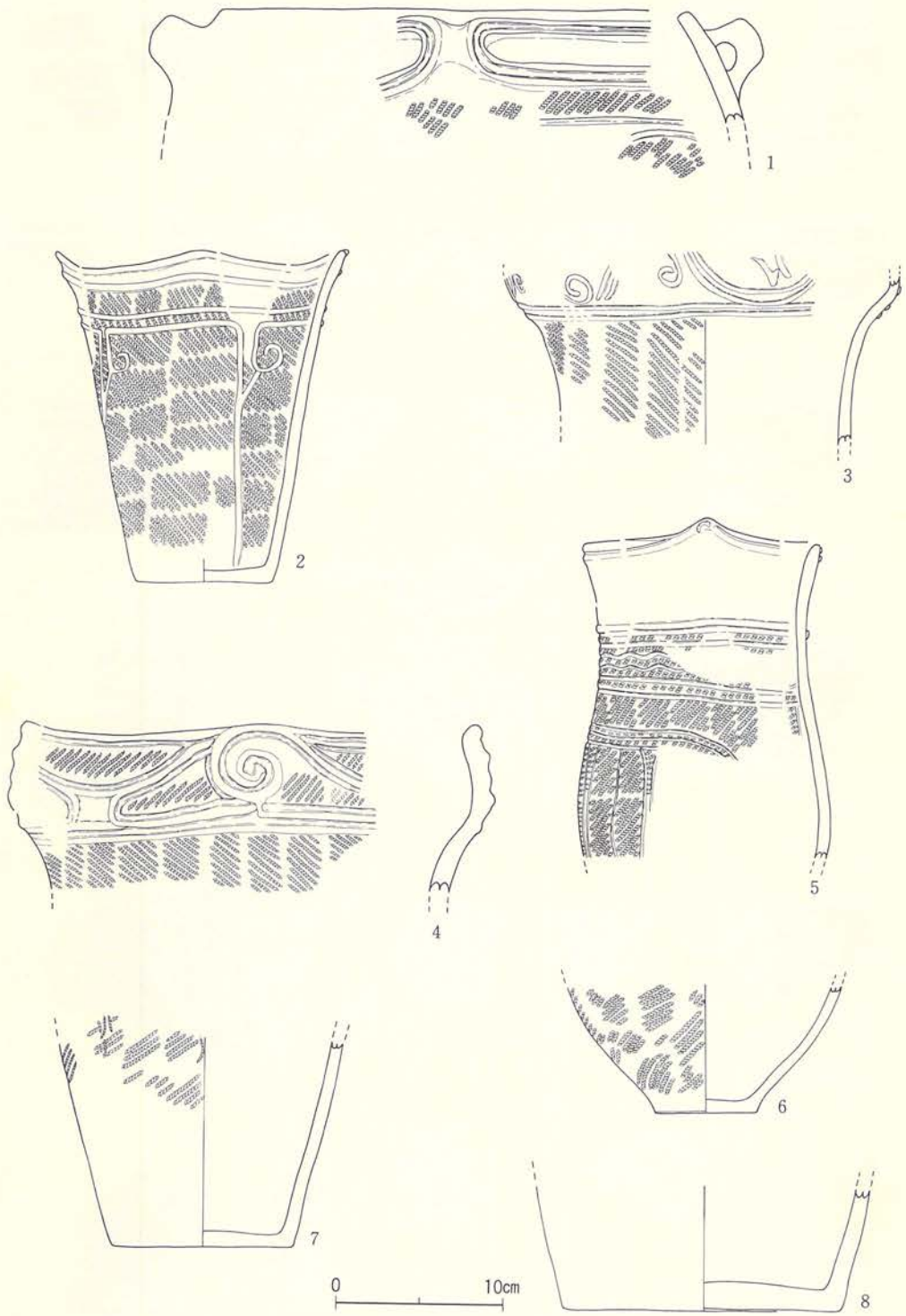
E-F
 層位 色調 土性
 1 7.5YR4/4 褐
 2 2.5YR4/8 赤褐 含黄色バミス(多量)
 3 10YR3/2 黑褐
 4 5YR5/8 明赤褐 含黄色バミス(多量)

C L=130,100m



C-D
 層位 色調 土性
 1 10YR3/2 黑褐
 2 10YR4/6 褐
 3 10YR3/4 暗褐
 4 10YR6/8 明黄褐 含黄褐色バミス
 5 10YR4/6 褐

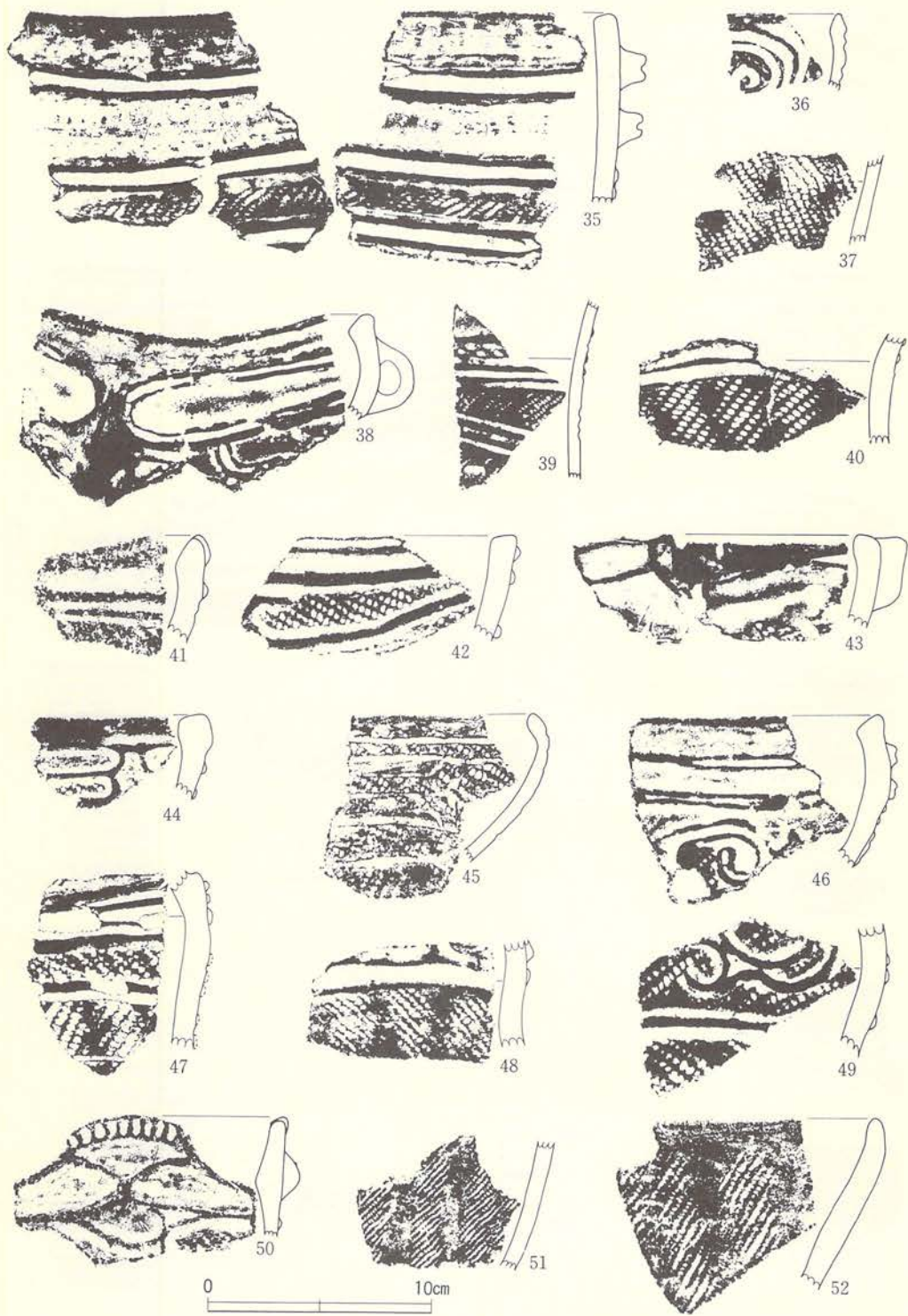
第31図 II G-4号, 6号住居跡



第32图 II G-4号住居跡遺物(1)



第33图 II G-4号住居跡遺物(2)



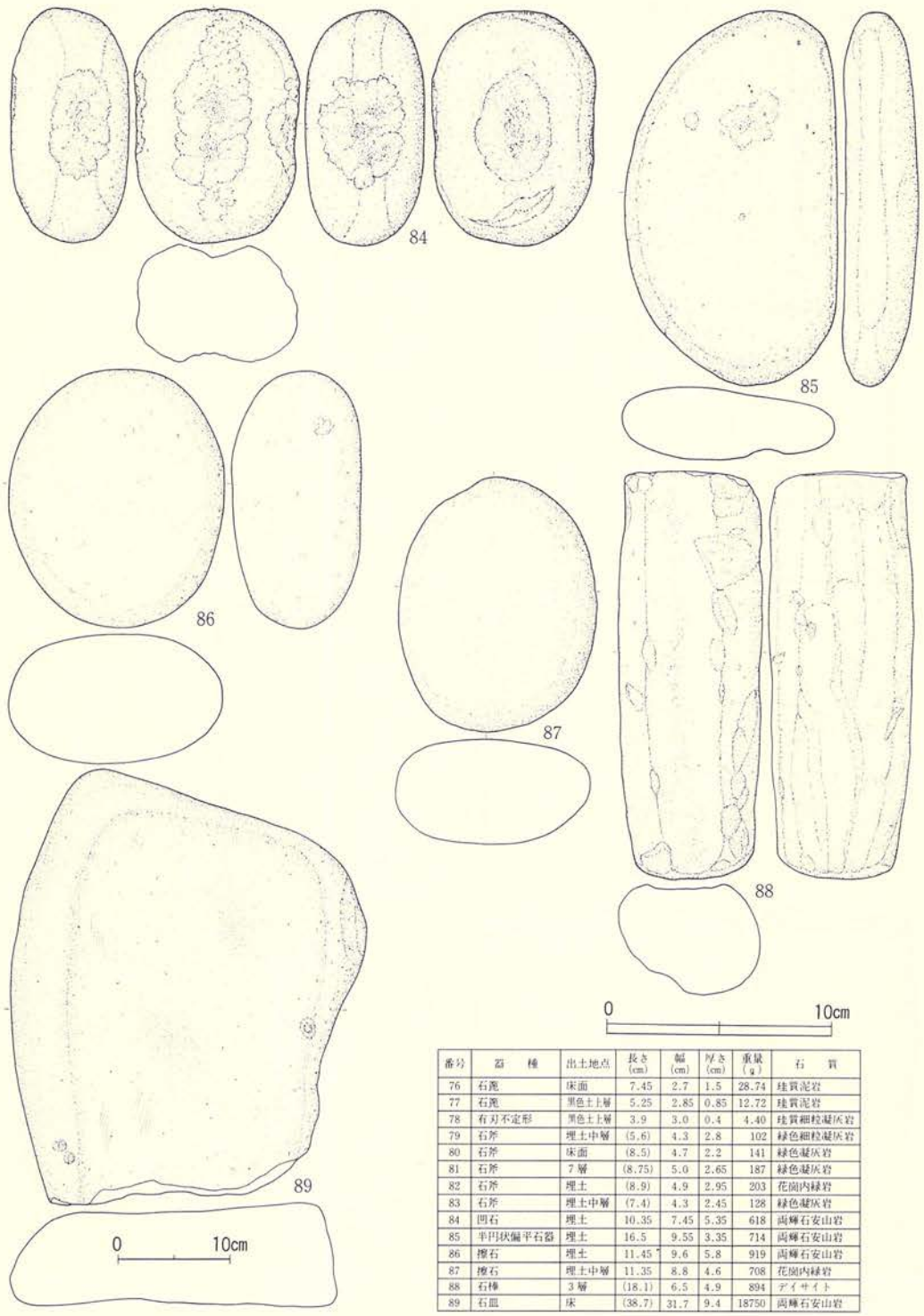
第34图 II G-4号住居跡遺物(3)



第35图 II G-4号住居跡遺物(4)



第36图 II G-4号住居跡遺物(5)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
76	石匙	床面	7.45	2.7	1.5	28.74	珪質泥岩
77	石匙	黒色土上層	5.25	2.85	0.85	12.72	珪質泥岩
78	有刃不定形	黒色土上層	3.9	3.0	0.4	4.40	緑色細粒凝灰岩
79	石斧	埋土中層	(5.6)	4.3	2.8	102	緑色細粒凝灰岩
80	石斧	床面	(8.5)	4.7	2.2	141	緑色凝灰岩
81	石斧	7層	(8.75)	5.0	2.65	187	緑色凝灰岩
82	石斧	埋土	(8.9)	4.9	2.95	203	花崗内緑岩
83	石斧	埋土中層	(7.4)	4.3	2.45	128	緑色凝灰岩
84	凹石	埋土	10.35	7.45	5.35	618	高輝石安山岩
85	半円状偏平石器	埋土	16.5	9.55	3.35	714	高輝石安山岩
86	擽石	埋土	11.45	9.6	5.8	919	高輝石安山岩
87	擽石	埋土中層	11.35	8.8	4.6	708	花崗内緑岩
88	石棒	3層	(18.1)	6.5	4.9	894	アイサイト
89	石皿	床	(38.7)	31.7	9.4	18750	高輝石安山岩

第37図 II G-4号住居跡遺物(6)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
9	床面	深鉢	5と同一個体
10	〃	〃	平縁、口縁部隆線、頸部無文
11	〃	〃	平縁、口縁直下に巾広の隆帯、全面ナデ
12	〃	〃	平縁、口縁、頸部に隆線、外面炭化物付着
13	〃	〃	平縁、地文の上から隆線貼付、LRヨコ
14	〃	〃	平縁、〃 〃 RLヨコ
15	〃	〃	平縁、隆線貼付と沈線、LRヨコ
16	〃	〃	平縁、平行隆線三本貼付、LRヨコ
17	〃	〃	平縁、隆沈線
18	〃	〃	平縁、隆線貼付RLヨコ
19	〃	〃	「の」字状貼付文の突起口縁、頸部沈線、LRヨコ、外面に炭化物
20	〃	〃	平縁、隆線貼付、LRヨコ
21	埋土下層	〃	平縁、平行隆線三本、一と二本目間のみに燃紋L、外面に炭化物
22	床面	〃	平縁、隆沈線施文、RLヨコ、内外面炭化物
23	〃	〃	平縁、頸部の隆帯に粗い刻み、口縁した擦痕、体部LRヨコ
24	〃	〃	波状口縁、波頂部S字状か、口縁沈線、頸部隆沈線、縄文RLナナメ
25	〃	〃	深鉢、12の体部、隆帯以下浅い二本単位の平行沈線、LRヨコ
26	床面	深鉢	キャリバー形の頸部、隆線貼付、LRヨコ
27・28	〃	〃	胴下部～底部、二本の縦沈線、LRヨコ、外面炭化物
29	〃	浅鉢	地文の上から隆線貼付、口縁部LRヨコ、体部タテで末端を縦に消している
30	〃	深鉢	平行沈線の上連弧文、RLヨコ
31	〃	〃	波状口縁、内面粗いハケ目、RLタテ
32	〃	小形鉢	底部ミガキ
33	〃	深鉢	底部、網代の上からミガキ
34	〃	小形鉢	体部下半、底部ミガキRLタテ、加熱痕
35	埋土下(9)層	深鉢	平縁、大隆帯二本凹状、縄文(RLタテ)以外はミガキ、ミガキ部分に丹彩残る
36	〃	〃	平縁、隆沈線による渦文、RLヨコ
37	〃	〃	体部片、LRタテ
38	埋土下層(6層)	〃	平縁、隆帯の上に隆線施文「X」字状部分橋状
39	〃 (〃)	〃	胴部片、上半隆沈線、下半沈線のみ、鎖状刺突列、RLタテ、内外面炭化物
40	〃 (〃)	〃	胴部片、隆線の上下浅く広い沈線、RLタテ
41	〃	〃	波状口縁、平行隆沈線、RLヨコ
42	〃	〃	平縁、地文の上から隆線貼付、RLヨコ
43	〃	〃	平縁、口縁部太い隆帯の「S」字状、RLタテ
44	〃	〃	平縁、隆線貼付文、RLヨコ
45	〃	浅鉢	平縁、隆沈線であるが隆線剥落、RLヨコ、内面ミガキ
46	〃	深鉢	平縁、キャリバー型、隆線二本単位の施文、LRヨコ、内面ミガキ
47	〃(3層)	〃	隆沈線、隆線一部剥落、RLヨコとタテ
48	〃(〃)	〃	隆沈線、胴部上半、LRタテ
49	〃(〃)	〃	隆線施文、キャリバー型、LRヨコとタテ
50	〃	〃	波状口縁、頂部に刻目その下「X」字状隆線、RLヨコ
51	〃	〃	胴下半部、LRタテ、縄文間を縦にナデ、磨消状
52	埋土下層	浅鉢	平縁、縄文RL、一部縦方向にナデ、内面ヘラミガキ
53	埋土上層	深鉢	平縁、隆線貼付、双渦文、口縁LRヨコ、体部タテ、内面ミガキ
54	〃	〃	口縁部、橋状突起
55	〃(7層)	〃	波状口縁、頸部無文、LRタテの上から浅い沈線
56	〃	〃	平縁、口縁部突帯、頸部隆線貼付、RLヨコ
57	〃	〃	平縁、キャリバー形、隆線貼付、双渦文(一部剥落)頸部LRタテ、ヨコ
58	〃	〃	平縁、キャリバー形、隆線貼付、LRヨコ
59	〃	〃	平縁、口縁部隆沈線、頸部沈線、ゆるい鋸歯文、LRタテ
60	〃	〃	キャリバー型、隆線施文、ミガキ

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
61	埋土	深鉢	平縁、頸部平行沈線、体部縦の沈線、LRタテ
62	〃	〃	平行沈線間の頸部に山形文、RLタテ、内外面炭化物
63	〃	〃	平縁、キャリバー形、隆線貼付、RLヨコ
64	〃	〃	平縁、キャリバー形、二本の平行隆線、RLヨコ
65	〃	小形鉢	平縁、平行隆沈線、口縁部斜位のスリット、体部縄文不明
66	〃(10層)	浅鉢	平縁、燃糸Lの押圧施文
67	〃	深鉢	波状口縁、頸部に太い隆線その下に細い隆線「の」字文、燃糸圧痕L
68	〃	小形鉢	平縁、口縁部縦の隆帯と縦の押圧縄文LR
69	〃	深鉢	波状口縁、隆線の前後に燃糸圧痕L、内面頂部に横長「X」字状貼付
70	〃	〃	「の」字状隆線の両側に燃糸圧痕L、縄文LRヨコ
71	〃	〃	波状口縁、口縁部粘土貼付一部剥落、隆線貼付施文
72	〃	浅鉢	平縁、口唇部に突起、口縁貼付、体部LRタテ
73	〃	〃	平縁、隆線、RLヨコ
74	〃	深鉢	平縁、縄文のみ、LRタテヨコ羽状、内面ミガキ
75	〃	〃	平縁、縄文のみ、LRタテ、口縁部ミガキ

〈石器〉14点出土したが剥片石器は3点と少ない。床面からは76、80、89の石器と数点の大きな礫が出土しているが、自然礫のため扱わなかった。76は基部に自然面を残し、両側面に調整が加えた鑿状の、77は両面加工の扁平な石筥。78は片面の周縁に二次調整のある剥片。79～83は磨製石斧で、5点とも中央付近で折れており、欠損した基部は出土していない。刃はいずれも良く研磨されており、83を除いて稜が明瞭である。すべて両刃で、79は身幅に対して厚みがある。84は四面を加工した凹石。85～87は擦石で85は半円状で上部に浅い窪みがある。他の2点は厚みがあり両面および片側面を利用している。88は3層出土で石棒として扱った。断面は卵形で全体を磨いた後二面に浅い抉りを入れている。一面はきれいに窪むが他面は幅1～2cmの溝状となっている。下端部は平にみがかれている。中央部と推定される位置で折れており、全長35cm前後の石棒であったとおもわれる。89は床面出土の石皿で縁辺以外が極く浅く凹んでおり、裏面は加工していない。

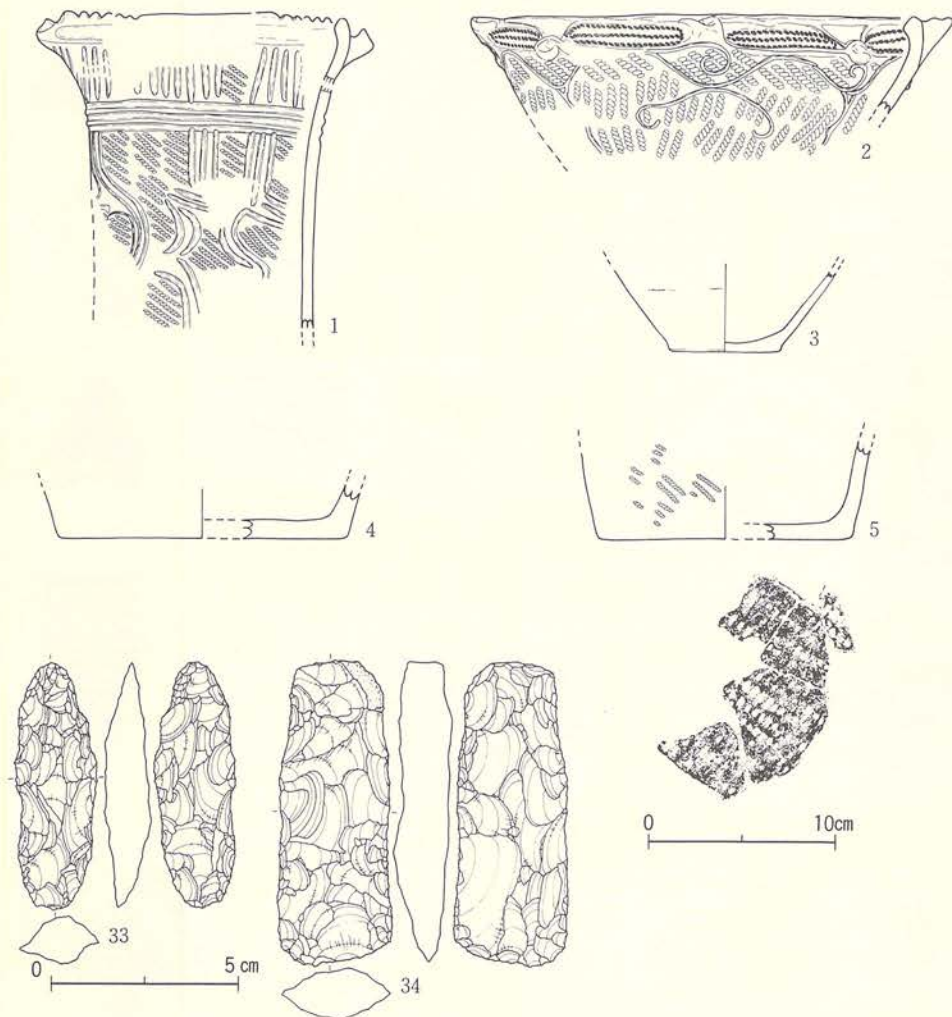
〈時期〉埋土には大木7式土器を若干含むが、床面の土器は大木8a式で縄文時代中期に属する。

II G-5号住居跡（第18・19図、写真図版26）

〈検出状況〉II G-2号住の精査中に、プランから外れる柱穴と床面を検出した。東側でII G-2号住と、北側でII G-7住と重複し床面にII G-11号陥穴がある。当住居の東側の床面は2号住の壁と埋土中にあり2号住の上に築かれている。7号住との関連は後述。11号陥穴との新旧は不明であるが、この部分に貼床は認められなかった。住居が新しい場合は貼床をする例が多く、それからするとピットの方が新しい。

〈形状・規模〉長径(7.3)、短径6.2mの楕円形をなすものと推定される。北側は傾斜しているためプランを確認できなかったが、壁柱穴の存在により推定した。

〈埋土〉南北(C-D)で5層、東西(A-B)11層に分類した。自然堆積である。上層は黒

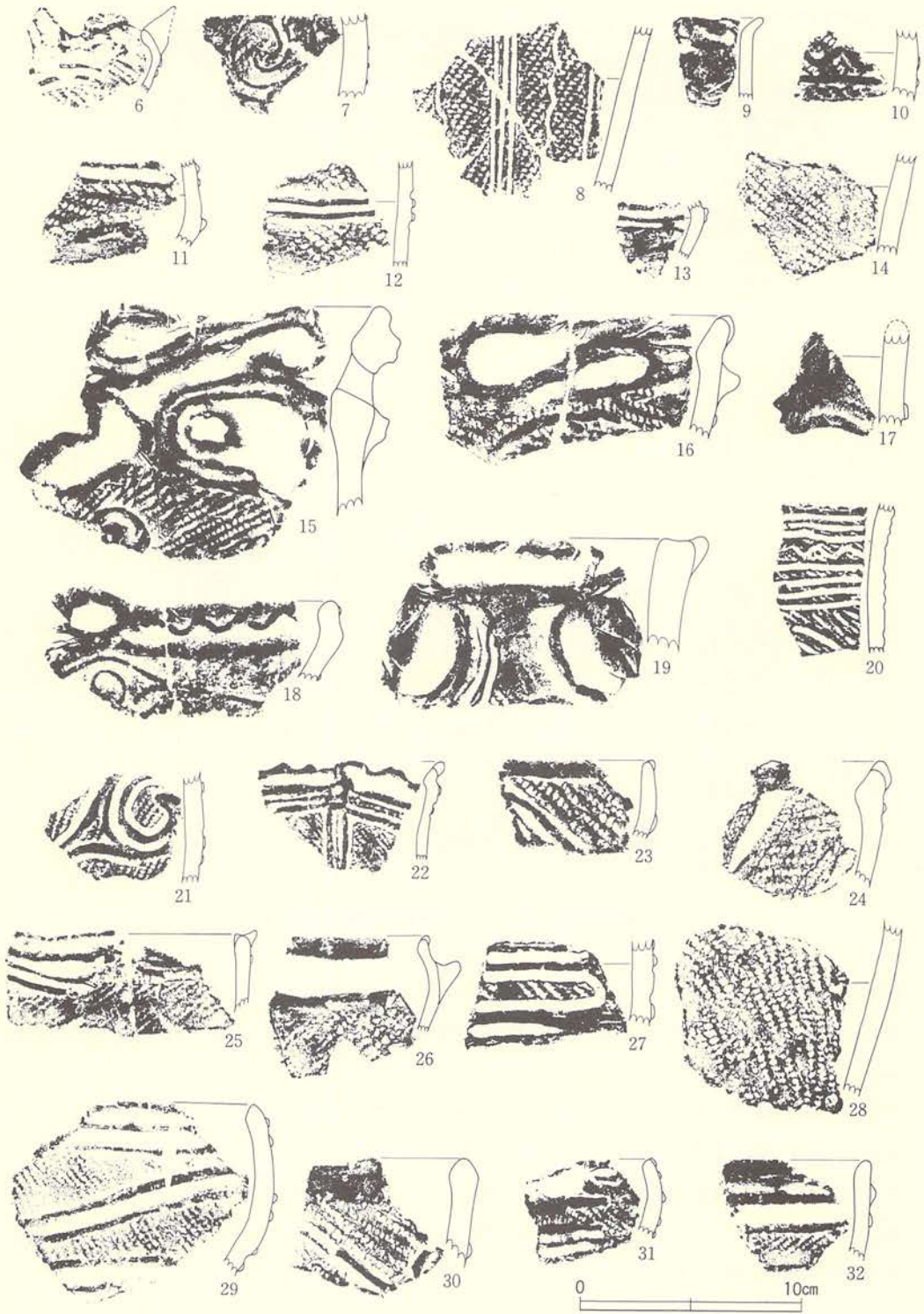


第38図 II G-5号住居跡遺物(1)

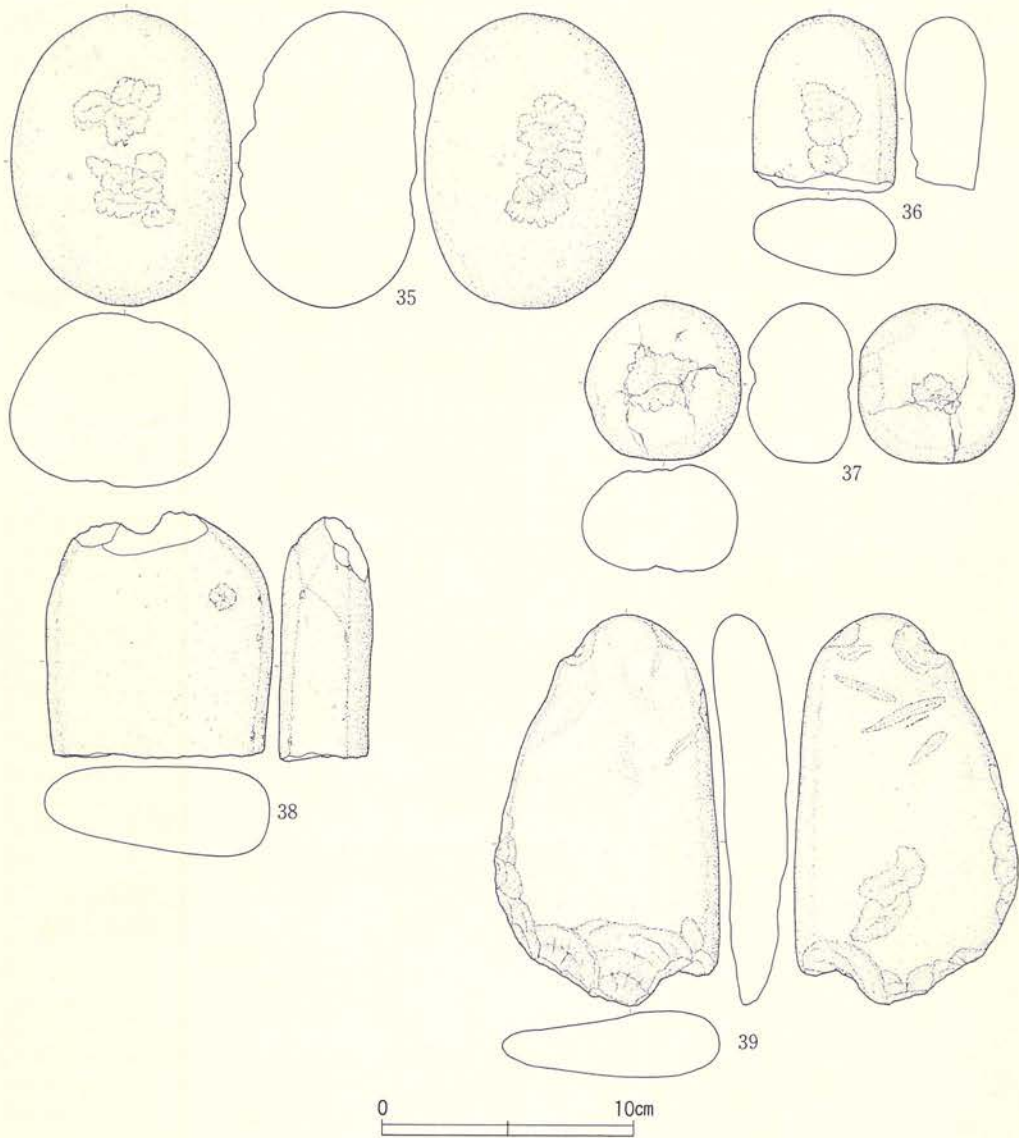
褐色で下層になるにつれて、明褐色となる。東西断面によると5号住の3、4層が当住居の床面となっている。5層のブロックが壁面と推定されるが、明確なラインとしては検出できなかった。

〈壁・床面〉検出できた壁高は平均すると20cmではほぼ垂直に立ち上がる。東側の壁は前述したとおりで、明確にはできなかった。床面はほぼ水平で堅くしまっている。

〈柱穴〉他の住居の柱穴も含まれており、断定することは困難であるが主柱穴の可能性の高いのは径、深さからしてP₄₋₃₀₋₂₉₋₁₉の4本柱か、P₄₋₁₅₋₁₉の6本柱と考えられる。壁際を一周する支柱穴はいずれも30cm以上を測る。



第39图 II G-5号住居跡遺物(2)



番号	器種	出土地点	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
33	石槍	1層黒褐色土	6.6	2.2	1.3	17.54	珪質泥岩
34	石鏃	3層褐色土	8.2	3.1	1.4	48.56	珪質泥岩
35	凹石	床面	11.7	8.75	7.1	964	變質安山岩
36	凹石	柱穴埋土	(7.05)	5.8	3.25	153	綠色凝灰岩
37	凹石	1層黒褐色土	6.4	5.3	4.25	203	兩輝石安山岩
38	半円状偏平石器	1層黒褐色土	(9.8)	9.1	3.7	513	兩輝石安山岩
39	敲石	1層黒褐色土	15.55	8.9	2.95	495	綠色凝灰岩

第40図 II G-5号住居跡遺物(3)

〈炉〉中央部のやや南寄りのところに70×50cmの地床炉を検出した。掘り込みは浅いが、ほぼ中央に垂直な掘り方がある。埋設土器があった可能性もある。1層の焼土はそれほど密ではなく、流れ込みも考えられる。

遺物（第38～40図、写真図版27・28）

〈出土状況〉床面、埋土、柱穴から出土している。床面からは2の浅鉢と35の凹石の2点である。3・5層の遺物は床よりやや浮いている。4層からは殆ど出土しなかった。

〈土器〉深鉢が圧倒的に多いが、唯一の床面出土は浅鉢である。口縁部は平縁が多く、大波状は少なくなる。縄文はLRが多く、一例結節縄文がある（28）。詳細は下表。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土3層	深鉢	平縁、口唇部4ヶ所に刻目、その間に「の」字状突起4個、太い沈線施文、LRタテ
2	床面Po1	浅鉢	平縁、口縁と肩に4個づつ「の」字状突起、口縁部押圧縄文、体部隆線貼付、LRヨコ、内面ミガキ
3	埋土2層	〃	体部、底部、内面ミガキ
4	埋土1層	〃	底部網代の上からナデ
5	埋土1・5層	〃	底部1・5層が接合、底部ミガキ網代かすかに残る、LRタテ
6	埋土5層	深鉢	波状口縁「S」字状突起欠落、隆沈線、LRヨコ？
7	〃	〃	胴部片、隆帯による渦文
8	〃	〃	縦区画文沈線と懸垂文、RLタテ、内面炭化物
9	〃	小形鉢	平縁で外反、無文
10	柱穴17埋土	深鉢	隆線貼付、RLヨコ
11	埋土3層	〃	隆線下押圧縄文、地文ナナメLR
12	〃	〃	胴部片、隆沈線、LRタテ
13	〃	小形鉢	隆沈線、口縁部内傾、縄文晩期？
14	P17埋土	深鉢	縄文LRのみ
15	埋土2層	〃	波状口縁、口唇部「S」字状に窓、頸部隆線貼付、LRヨコ
16	〃	〃	小波状口縁部に「S」字状文、隆線貼付、RLヨコ
17	〃	〃	波状(山形)口縁隆線の下側沈線
18	〃	浅鉢	平縁の一部に貼付突起、口縁部波状隆線、体部更に細い隆線施文
19	〃	深鉢	波状口縁、口唇部「O」状、波状部三ヶ月状貼付、左側のみに沈線
20	〃	〃	平行沈線間に波状と斜行沈線、LRタテ
21	〃	〃	胴部片、隆線の片側のみ沈線、RLタテ
22	〃	〃	小波状口縁、縦と横に隆沈線、LRタテ
23	〃	〃	平縁、キャリパー型、隆線両側浅い沈線、RLヨコ
24	〃	〃	平縁、隆沈線、一部欠落、LRヨコ
25	〃	〃	小波状口縁、頸部二本の隆線、右側欠落、LRヨコ
26	埋土2層	浅鉢	平縁、頸部に突起、LRヨコ、内面ミガキ
27	〃	深鉢	隆沈線、LRタテ
28	〃	〃	胴部片、LR結節タテ、上部破損部に押圧縄文
29	埋土1層	〃	平縁、キャリパー形、隆線の間のみ沈線状、LRタテ
30	〃	〃	平縁、地文RLヨコの上から隆線貼付、一部欠落
31	〃	〃	平縁、キャリパー形、隆線貼付、RLヨコ
32	〃	〃	平縁、平行隆線、LRヨコ

〈石器〉33は両面加工の石器で槍として扱った。34は両面加工の石筥で、基部と側面の一部に自然面を残す。35～37は凹石で、35は両面2箇所ずつに凹みがある、36は片面に凹みと左側面に擦痕が、37は両面に凸みがある。38は側面に擦痕を持つ扁平石器で、頂部は破損。39は下縁と側

面に両側から荒い剥離を加えたもので、敲石として扱った。剥離痕のほかに凹みや太い擦痕が不規則に残っている。

〈時期〉床面出土の浅鉢は大木7b式の特徴を示しているが、この形態の土器は往々、大木8a式に伴うことがある(熊谷1989)。埋土下層からの土器は1の3本一組沈線にみられるように8a式の特徴を示すものも多く出土している。敢えて限定せず、大木7b～8a式期としておく。

II G-6 号住居跡 (第31図、写真図版20)

〈検出状況〉北側の半分以上をII G-4号住に截られており、西側は調査区外にのびる。従って東側の一部と西側の極く一部を検出したにすぎない。炉の西側はII G-10号陥穴に、北側はII G-4号住の壁に截られている。

〈形状・規模〉東西に僅かに残る壁を手掛かりに推定すると、7.6×6.0m程度の規模で、形状は楕円形に近いものとおもわれる。

〈埋土〉残存状態が不良だったため、当住居にかかる良好な土層断面を記録できなかった。A-Bラインで見ると、2・3層を截って4号住の壁としている。

〈壁・床面〉壁高は平均して数cmで10cmに満たないが、ほぼ垂直に立ち上がる。床は凹凸はあるが堅くしまっている。

〈柱穴〉配置から判断するとP₁₄₋₁₆が主柱穴とおもわれる。P₂₋₅₋₉₋₁₇₋₁₈は壁の推定ラインにあり、深さも一定しているので支柱穴であろう。

〈炉〉中央部より東側の位置で焼土を検出した。北側と西側は截られているが、北側に掘り方は残っている。推定90×80cm程度の地床炉であったとおもわれる。

遺物 無し。本来、壁・床の部分には残されていたと思われるが、壁自体が浅くプランを確認したのは床上であったため、埋土中の遺物も原位置が不明となった。

〈時期〉II G-4号住は大木8式期に属しており、これと同時期か或は古い時期に相当する。この住居群は大木7～8式期以外は無く、このいずれかに含まれるものと推定される。

II G-7 号住居跡 (第41・42図、写真図版29・30)

〈検出状況〉II G区を精査中に大型の地床炉とおもわれる焼土を検出した。この検出面で床を追いかけ確認しようとしたができず、二列に並ぶような柱穴群を検出した。東西でそれぞれII G-2・5、4・6号住と重複しているが、これらの中では当住居が最も新しい。また数基の土壙や陥穴も重複しているが、当住居が最も新しい。炉の下にII G-7号陥穴があるが、明らかにこれを埋めて炉を築いている。(重複関係については、第42図を参照のこと)

〈形状・規模〉柱穴が壁際に配置されていると仮定すれば、15.3×11.0m前後の卵形に近い大住

居跡となる。長軸と短軸はそれぞれ東西、南北の線上にある。壁の存在が明らかではないので規模を確定できないが、当遺跡での最大の遺構である。

〈埋土〉壁が検出できなかったため、大型住居と確認したのが遅く良好なベルトを設置できなかった。したがって、南北断面は途中で切れている。6層に分類したが、他の遺構と同様に上層は黒褐色で、下層になるにつれて明褐色になる。南側で地山の高まりが認められたが意味は不明である。この部分はⅡG-5号住と重複しており、それとの関連も考えられる。

〈壁・床面〉壁は前述したように確認できなかった。北端の断面にかすかに地山の高まりが認められるが壁とする根拠にとぼしい。炉の周辺は堅く踏み固められているが、他は遺構が重複したり、凹凸があったりして一様ではない。他の住居跡の床面と比べて締りはない。

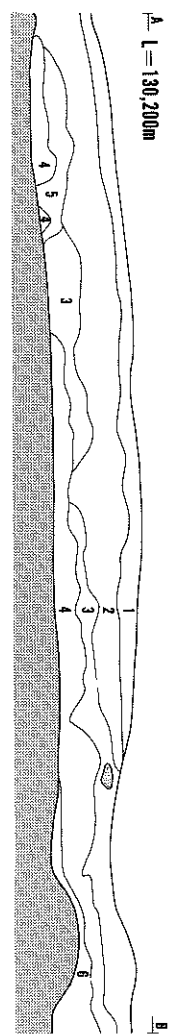
〈柱穴〉他の住居跡の柱穴も混じっているが、当住居に伴うとおもわれる73個を抽出した。2個一対とおもえる配列もあるが、部分的でありこれが建替えを意味するかどうか不明である。中央炉の南側にはアーチ状の配列がある。内側に支柱穴とおもわれる大形例はない。ただ、東西の中心線上に径30cm前後の柱穴5基が並ぶ(P₇₃₋₆₅₋₆₃₋₇₁₋₇₂)。深さ60cm以上の柱はP₆₄を除いて外側にある。

〈炉〉ほぼ中央の位置とその東側に2基検出した。西側にやや離れている焼土は、掘り込みもなく二次堆積したものである。当住居に伴うものかどうかは不明。中央炉の焼土の広がりには180×175cmのほぼ円形で、掘り方は140×120cmで断面は半円状である。焼土は3層までで、4層は上部に若干の炭化物、焼土粒を含むのみである。焼土際に円形の礫があるが、炉石のように埋めこまれたものではなく床面にのついているだけである。なお、炉中にⅡG-5号住の壁柱穴P₂₈があり焼土を被っていることからして、当住居が新しい。東側の小炉は65×55cmで、深さ10cmの掘り込みがある。現地性の焼土であり炉の機能を果たしている。

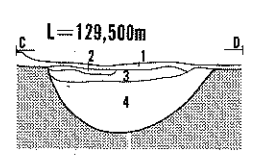
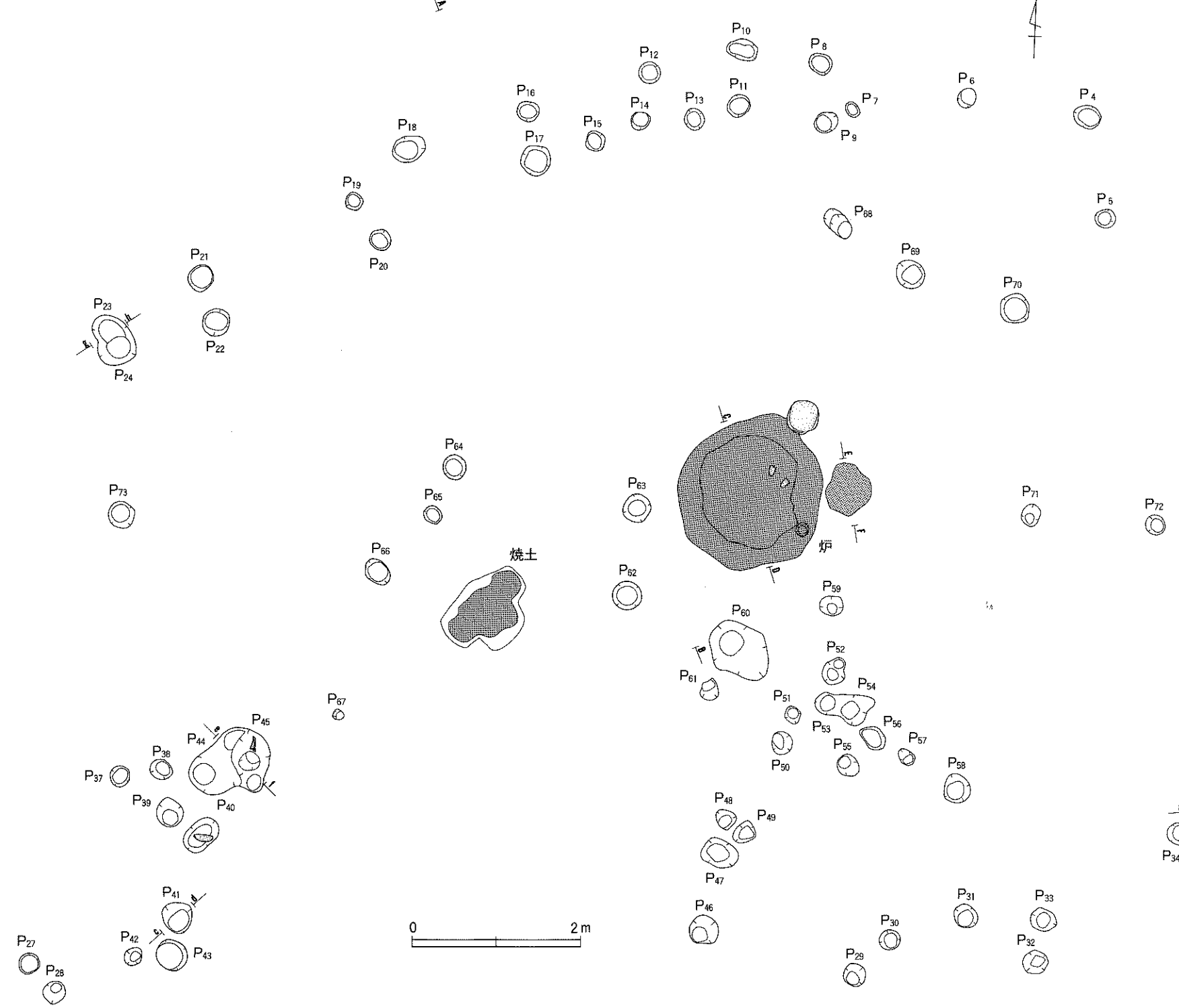
遺物 (第43～45図、写真図版31・32)

〈出土状況〉床面出土の遺物は少ない。本来は存在していたと思われるが、大型住居と確認したのが遅く、相当量の遺物を包含層出土で取り上げ処理した。また、図示した遺物のなかには截り合う遺構の遺物も混在している可能性がある。

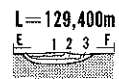
〈土器〉1～12が埋土下層に相当する3、4層出土の土器である。10～12はそれ以外の土器とは異質で混入の可能性が高い。詳細は下表の通りである。



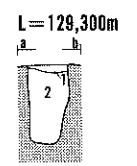
- A-B
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|-------------|----------|
| 1 | 7.5YR2/2 黒褐 | |
| 2 | 10YR2/2 黒褐 | 含炭化物(少量) |
| 3 | 7.5YR3/4 暗褐 | 含炭化物(少量) |
| 4 | 10YR4/ 褐 | 含炭化物(少量) |
| 5 | 10YR4/4 褐 | |
| 6 | 7.5YR5/8 明褐 | |



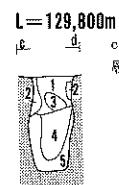
- C-D
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|----------------|--------------|
| 1 | 7.5YR4/4 褐 | 含焼土粒、炭化物(多量) |
| 2 | 10YR5/8 赤 | 焼土 |
| 3 | 2.5YR4/4 にぶい赤褐 | 焼土、含パミス(多量) |
| 4 | 7.5YR5/8 明褐 | 焼土、含パミス(多量) |



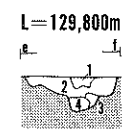
- E-F
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|-------------|--------------|
| 1 | 7.5YR5/8 明褐 | 含炭化物、焼土粒(多量) |
| 2 | 2.5YR5/8 明赤 | 焼土 |
| 3 | 2.5YR5/8 赤褐 | 焼土 |



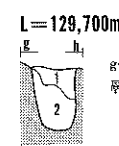
- a-b
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|------------|----------|
| 1 | 10YR4/6 褐 | 含炭化物(微量) |
| 2 | 10YR5/6 黄褐 | 含炭化物(微量) |



- e-d
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|------------|------------|
| 1 | 10YR3/4 暗褐 | |
| 2 | 10YR6/8 明褐 | 含黄色パミス(多量) |
| 3 | 10YR4/6 褐 | |
| 4 | 10YR5/8 黄褐 | 含黄色パミス(少量) |
| 5 | 10YR5/6 黄褐 | |



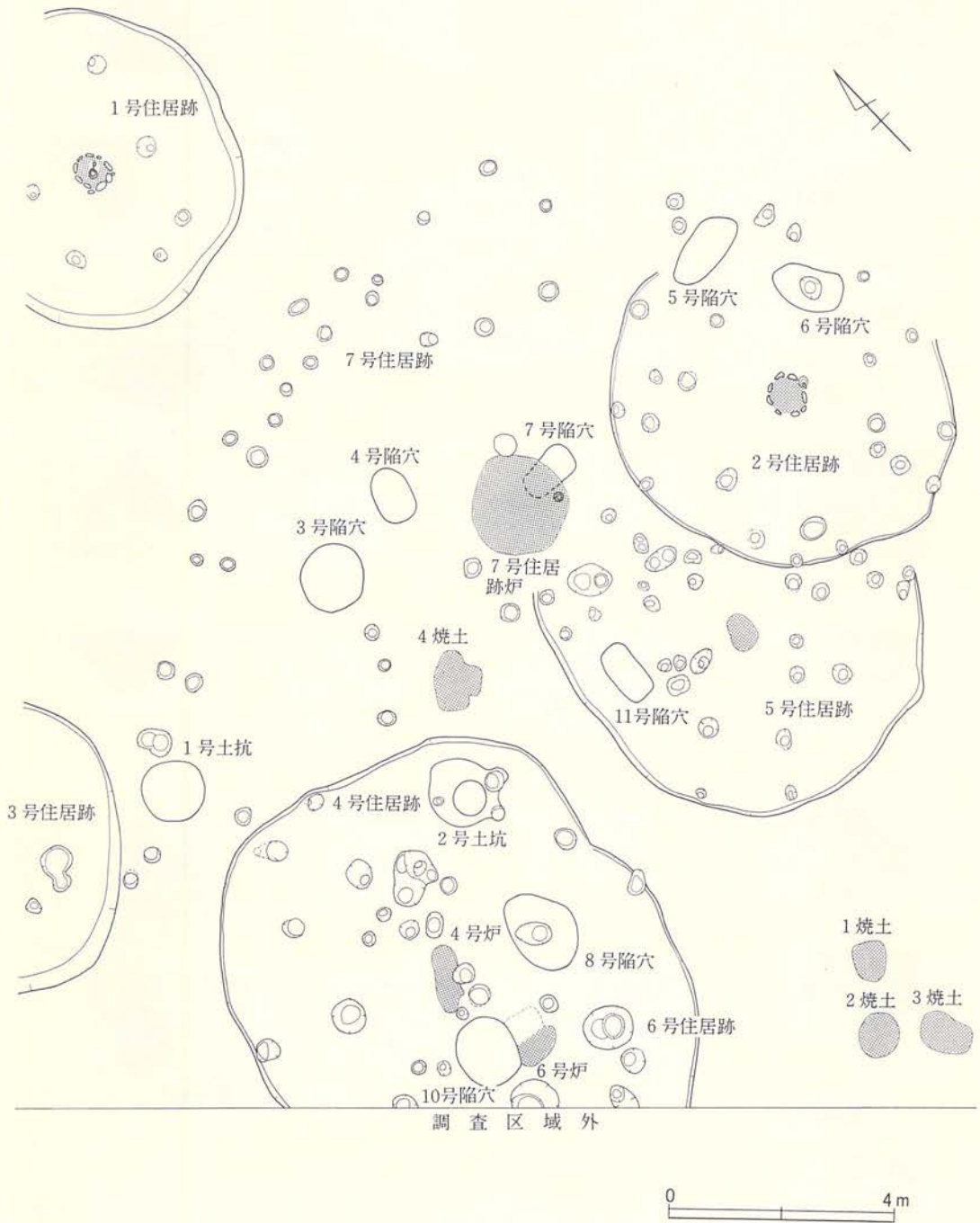
- r-h
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|-------------|----------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐 | 含炭化物(微量) |
| 2 | 10YR4/6 褐 | 含炭化物(微量) |
| 3 | 10YR5/8 黄褐 | |
| 4 | 7.5YR2/2 黒褐 | |



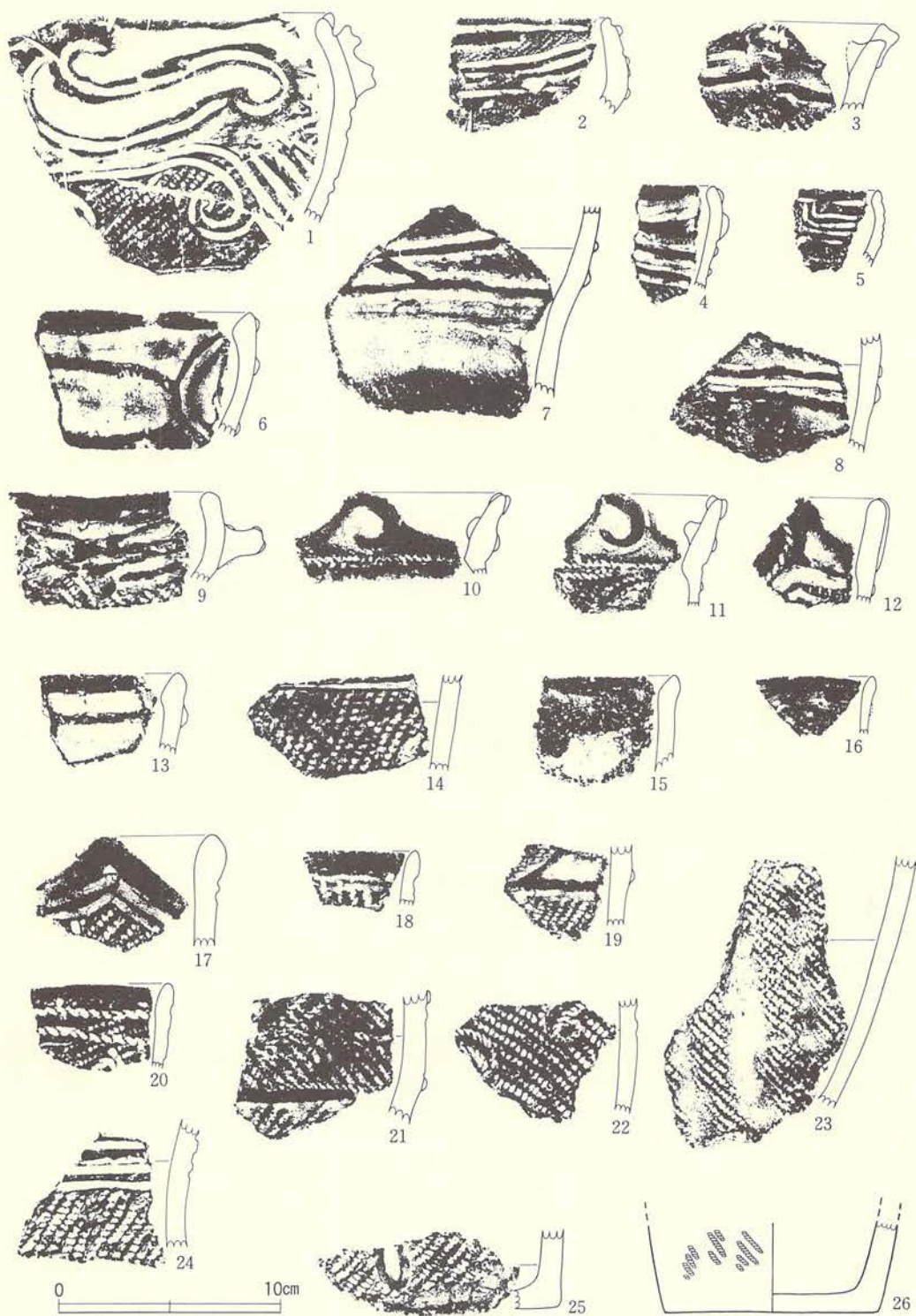
- s-h
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|------------|----|
| 1 | 10YR2/3 黒褐 | |
| 2 | 10YR5/8 黄褐 | |

	(cm)																								
	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25
径	44	29	34	34	24	26	22	27	29	40	29	26	28	24	26	26	40	41	21	27	32	35	64	64	29
深	68	39	39	26	19	11	18	27	24	48	48	38	42	39	31	24	58	37	28	30	29	41	39	53	55
	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50
径	31	26	26	31	26	30	32	33	30	36	24	26	26	36	48	40	24	38	47	25	37	45	26	30	30
深	54	14	29	29	25	59	28	26	59	93	11	13	16	70	53	77	20	48	13	40	70	72	30	49	40
	P51	P52	P53	P54	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72	P73	P74	P75
径	22	35	30	45	30	35	21	36	31	82	26	35	35	28	25	35	18	42	36	28	25	32	32		
深	28	26	35	66	46	41	22	36	39	19	20	53	49	64	18	56	24	43	45	44	22	50	39		

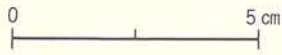
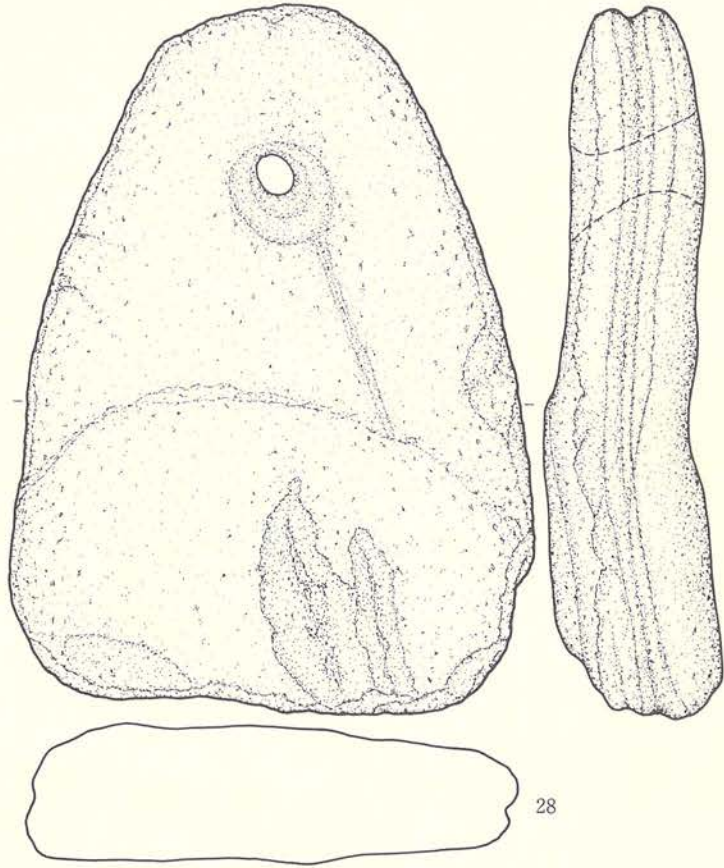
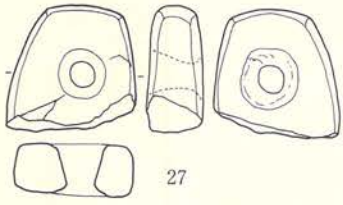
第41図 II G-7号住居跡



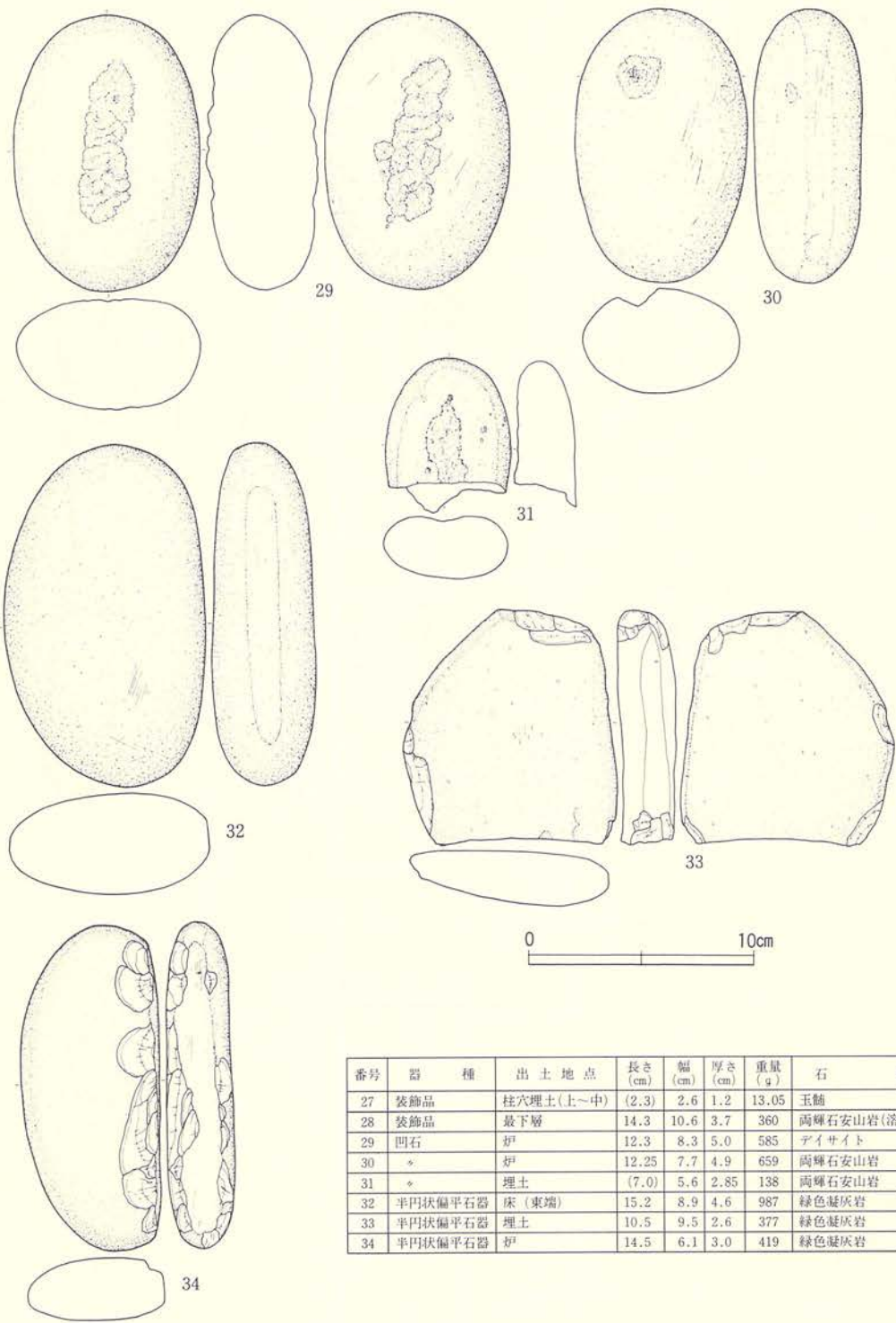
第42図 II G区遺構重複図



第43图 II G-7号住居跡遺物(1)



第44图 II G-7号住居跡遺物(2)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
27	装飾品	柱穴埋土(上~中)	(2.3)	2.6	1.2	13.05	玉髓
28	装飾品	最下層	14.3	10.6	3.7	360	高碑石安山岩(溶岩塊)
29	凹石	炉	12.3	8.3	5.0	585	デイサイト
30	☉	炉	12.25	7.7	4.9	659	高碑石安山岩
31	☉	埋土	(7.0)	5.6	2.85	138	高碑石安山岩
32	半円状偏平石器	床(東端)	15.2	8.9	4.6	987	緑色凝灰岩
33	半円状偏平石器	埋土	10.5	9.5	2.6	377	緑色凝灰岩
34	半円状偏平石器	炉	14.5	6.1	3.0	419	緑色凝灰岩

第45図 II G-7号住居跡遺物(3)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土3・4層	深鉢	平縁、「S」字状貼付、体部沈線、LRヨコ
2	埋土下層	〃	平縁、キャリバー形、地文の上から隆沈線、LRヨコ
3	〃	〃	小波状口縁、口唇部貼付、RLヨコ、内外面炭化物
4	〃	〃	平縁で内傾、隆沈線、RLヨコ
5	〃	小形鉢	平縁、沈線施文、RLヨコ
6・7	〃	深鉢	平縁、隆線により不規則な「X」字状、同一個体、LRタテ
8	〃	〃	2本の平行隆沈線、LRヨコ
9	〃	〃	平縁、キャリバー形、突起上の隆線剥落モチーフ不明、RLヨコ
10・11	〃	〃	同一個体、波状口縁頂部内外面に「の」字状、頸部と隆線側面に押圧縄文LR
12	〃	〃	波状口縁、隆線に刻目、頂部左側に押圧縄文RL
13	埋土2層	〃	平縁、2本の平行隆線
14	埋土	〃	体部、沈線下にRLタテ
15	〃	〃	平縁、粗製、RLヨコ
16	〃	小形鉢	平縁、頸部隆線欠落、RLヨコ
17	〃	深鉢	波状口縁下に2本の山形沈線、LRヨコ
18	埋土2層	〃	平縁下に縦の押圧縄文LR、口縁肥厚
19	〃	〃	体部、隆線貼付、RLタテ
20	埋土	〃	平縁、押圧縄文LRによる平行線と渦文
21	埋土2層	〃	隆線際に押圧縄文LR、口縁部RLヨコ、体部タテ
22	〃	〃	RLヨコの地文上から撚糸圧痕Lの渦文
23	〃	〃	体部LRタテ、外面炭化物
24	〃	〃	体部平行沈線、RLタテ
25	〃	〃	底部、隆線貼付、RLタテ
26	埋土下層	〃	底部網代の上からナデ、LRタテ

〈石製品〉27は住居西側のP₂₄の埋土下層から出土したヒスイ製の垂飾り。やや粗雑な原石で表面は茶色がかっているが、穿孔部および破損面にはヒスイ特有の緑色の輝きがみとめられる。埋土下層からの出土状況は、偶然に混入と言うより意図的に廃棄されたことを示しているように思われる。片側からの穿孔で、裏側の孔の周辺には浅い抉りがある。貫通した際に整形した痕跡と思われる。形態は、頂部が平らではあるが最大幅が破損部にあり逆三角形とは成り得ない。左側がやや膨らむ鏝節型の上下を截断した形と推定される。28は埋土最下層でII G-2号住と接する地点で出土した。隅丸三角形で側縁は溝が一周する。穿孔は両側からで表は下から、裏は上方向からそれぞれ穿っている。上方は丁寧に擦っているが、下方は整形が粗く凹凸があり削りを加えたままの状況である。溶岩塊製である。29は両面、31は片面利用の凹石、30は片面に凹み側面に擦痕のある石器。32～33は半円状扁平石器で一方の側縁に擦面をもつ。32は頂部に槌状の加工痕あり、34は擦面周囲に剥離痕がある。

〈時期〉埋土中には大木7b式も混じるが、最下層の土器は大木8a式で縄文時代中期に属する遺構の截合関係でも当住居が最も新しく、大木8a式期であることを裏付けている。

II G-8号住居跡（第46図、写真図版33）

〈検出状況〉 II G区西側、調査区外にかかる個所で遺物集中地点を検出し、壁の一部を確認したので住居跡と断定した。北側は傾斜しているため壁および床の一部は検出できなかった。北側の壁にかかってII G-1号フラスコピットに截られている。

〈形状・規模〉 検出できたのは東側的一部分のみである。敢えて推測すれば、径6 m前後の円形もしくは楕円形とおもわれる。

〈埋土〉 7層に分類した。東から西への自然堆積である。上層は黒褐色で下層になるにつれて明褐色になるのは他の住居と同様である。5層下部に数cmの段差が認められるが、これは炉が2つあることを前提とすると建替えが考えられる。5層右側の立ち上がりを壁とすれば埋土の状況は拡張であることを示している。

〈壁・床面〉 東側の一部の壁を検出したのみであるが壁は40～50cmある。床面は北側に向かってやや傾斜しており、斜面部で消失する。貼床の痕跡は認められなかった。土層断面右側の床面段差は拡張前の床と壁の残りの可能性がある。

〈柱穴〉 6本のピットが検出されたが主柱穴の可能性のあるのは深さ30cm以上のP₁～P₄である。A炉を中心に置くとこの4本は正方形となり拡張前のプランを示す。B炉を中心に置くと調査区外に2本の存在が推定される。4あるいは6本の配置が考えられる。柱穴の埋土は4本とも同じである。

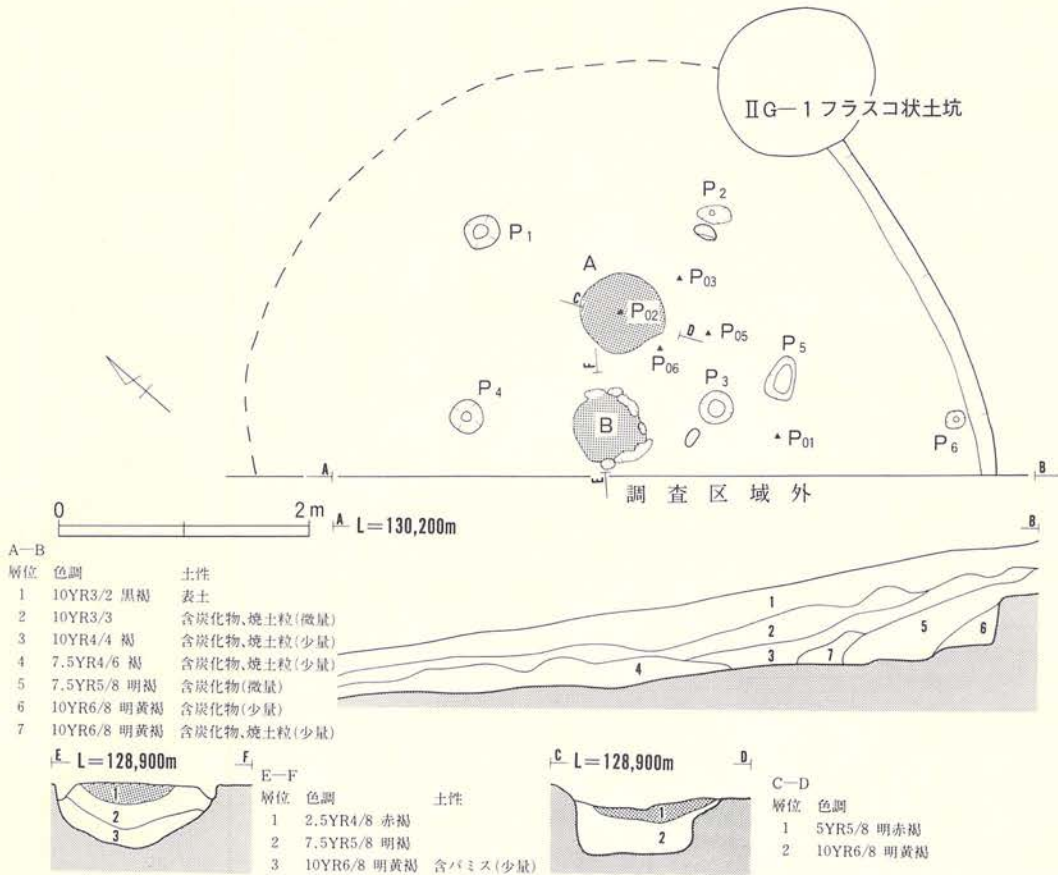
〈炉〉 A、Bの2基を検出した。レベルには殆ど差がなく、一方が埋められた痕跡もなく同時存在も考えられる。B炉の東側半分には炉石を抜き取った痕が明瞭に残されていた。両基とも1層の焼土はよく発達している。

遺物（第47～49図、写真図版34～35）

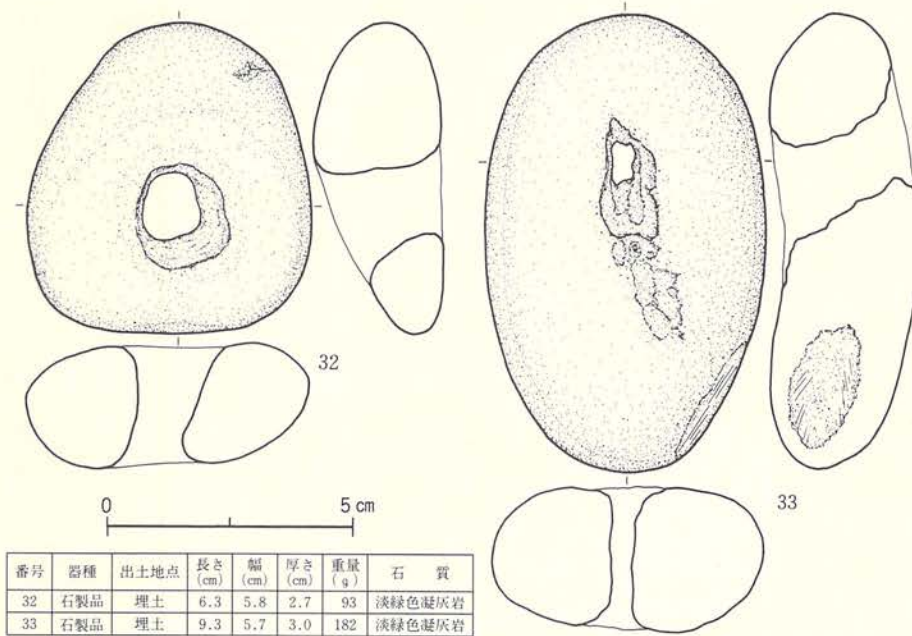
〈出土状況〉 炉、床面、埋土中から出土している。特に、床面からは復原可能な土器が数点検出された。遺構図のP₀₁～6（土器実測図番号に同じ）は床面からの出土地点を示している。

〈土器〉 1、3、5、6、は床面、2はA炉の焼土上、4は埋土の出土。2は加熱痕あるが体部の半分と底部を欠く。器種は深鉢、小形鉢、浅鉢で、縄文はRLが圧倒的で、条は横送するものが多い。同一個体にRLとLRの押圧縄文を施文した例が2点ある(17,18)。詳細は下表の通りである。

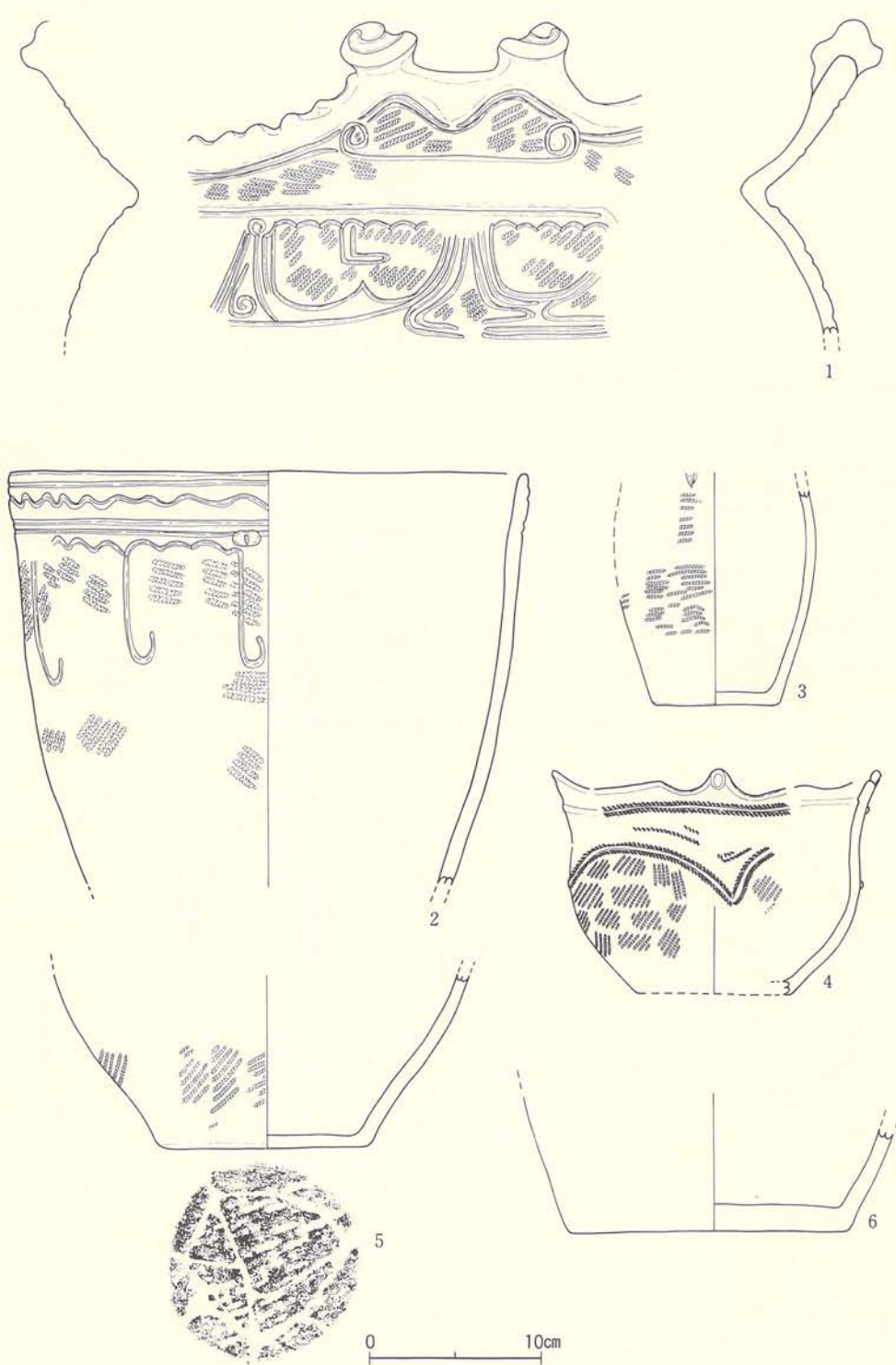
No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面 P ₀₁	深鉢	波状口縁、腹部に二つの突起、口縁深鉢小波状、隆線の双連文、沈線の連弧文、「L」字文、LRナナメ、ヨコ、胎土に少量の金雲母
2	A炉面 P ₀₂	ク	平縁、沈線による平行、波状連弧「J」字文、頸部に刺突のある貼付、LRヨコ、ナナメ
3	床面 P ₀₃	ク	体部内面、炭化物、底部ミガキ、LRナナメ
4	埋土上層 P ₀₄	鉢	小突起口縁、隆線の両側に押圧縄文LR、体部LRヨコ
5	床面 P ₀₅	ク	内面ミガキ、底部網代痕、体部LRヨコ
6	ク P ₀₆	深鉢	内面炭化物、体部・底部ミガキ、胎土に雲母



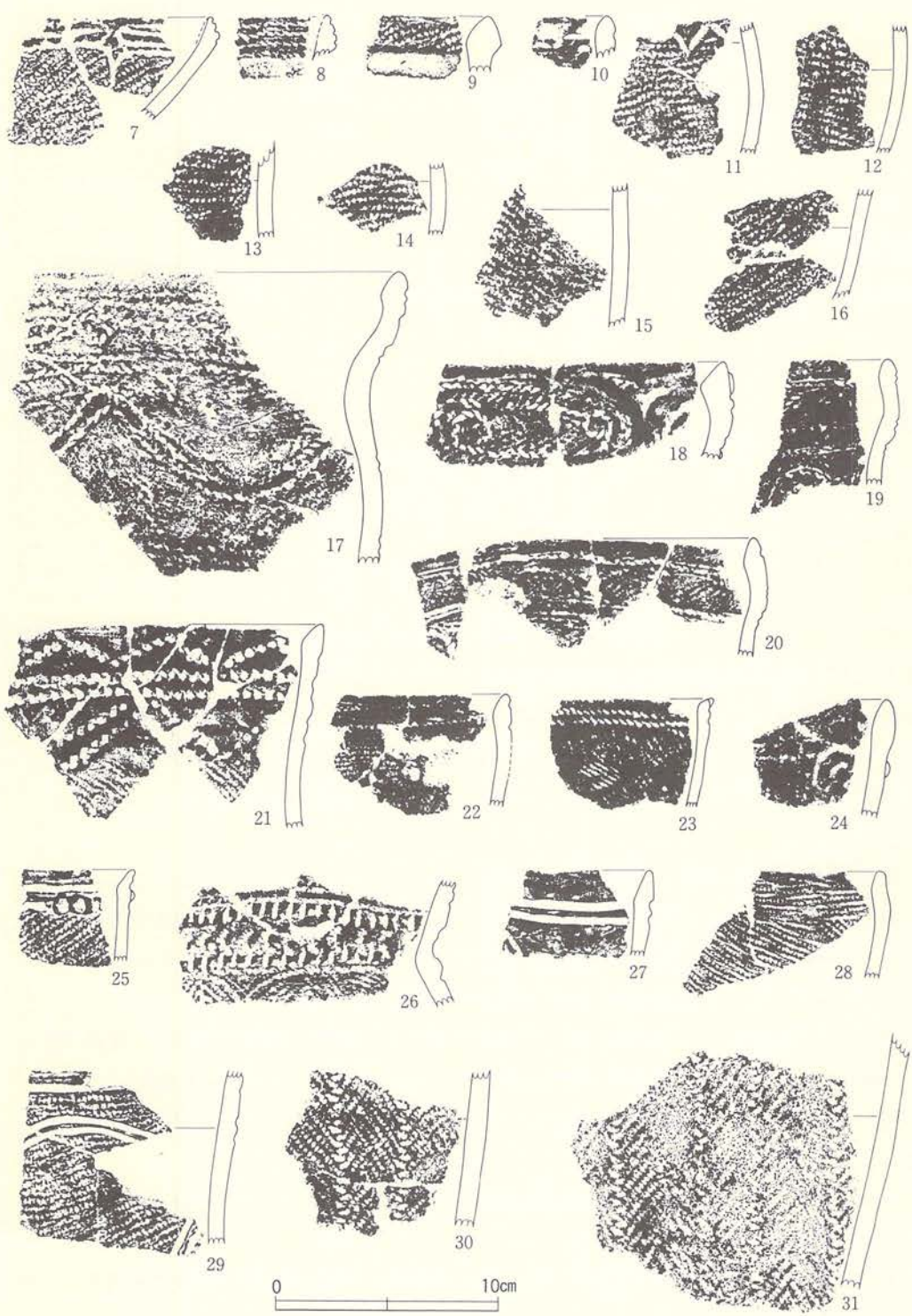
第46図 II G-8号住居跡



第49図 II G-8号住居跡遺物(3)



第47图 II G-8号住居跡遺物(1)



第48图 II G-8号住居跡遺物(2)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
7・8	床面	浅鉢	平縁、口縁部4段の押圧縄文LR「X」字状の下に三角文の押圧、同一個体
9	〃	深鉢	平縁、口縁下無文、LRヨコ
10	〃	〃	平縁、弧文の間に円形刺突か？
11・12	〃	〃	沈線の連弧文LRナナメ、同一個体
13	〃	〃	体部片、LRナナメ
14	〃	〃	底部付近、LRナナメ
15	〃	〃	体部片、LRタテ
16	〃	〃	体部片、RLタテ
17	埋土中層	〃	平縁、施文は押圧縄文LRとRLによる弧状円、三角文、体部原体摩滅のため不明
18	〃	〃	平縁、「X」字状隆線貼付、内側に押圧縄文LRとRLによる渦文
19・20	〃	〃	平縁、キャリバー形、押圧縄文と細い沈線の組合せによる弧文、LRヨコ、同一個体
21	〃	〃	平縁、押圧縄文の代わりに幅広の刻目で山形文、LRタテ
22	〃	小形鉢	平縁、口縁2本の押圧縄文LR、体部LRナナメ
23	〃	〃	平縁、〃 〃 〃 体部LRタテ・ナナメ
24	〃	深鉢	波状口縁、頂部に隆線貼付、原体縦走、RLナナメか
25	〃	小形鉢	平縁、線上に刻みのある貼付文、LRヨコ
26	〃	深鉢	口縁と肩部細い押圧縄文LR、頸部太い押圧縄文LR三段に、体部LR
27	〃	小形鉢	平縁、口縁下2本の平行沈線
28	埋土中層	深鉢	平縁、粗製、口縁LRナナメ、体部タテ
29	埋土上層	深鉢	沈線施文、モチーフ不明、体部LRヨコ、胎土に少量金雲母
30・31	床面	〃	No5と同伴、結束羽状縄文、体部下半

〈製品石〉2点の有孔石製品を埋土中から検出したのみで、利器は全く出土しなかった。32は隅丸三角形の礫のはぼ中央に一方から孔を穿ったもので、孔内には回転痕が残る。周辺に加工痕は認められない。33は楕円形の上部に斜めの孔がある。孔自体に凹凸があり、明瞭な穿孔痕は見られない。石自体の不純物を抜いたか、打ち砕いて貫通させたかの何れとかがと思われる。

〈時期〉床面、埋土の土器とも大木7b式の特徴を示しており縄文時代中期に属する。

I H-1号住居跡（第50図、写真図版36）

〈検出状況〉I H区のはぼ中央、道路にかかって基本層序4層面で黒褐色土の広がりとして検出した。西側は道路下にある。当遺跡の縄文時代の堅穴としては最も底位面に立地している。

〈形状・規模〉径3.7m前後の円形あるいは楕円形と考えられる。

〈埋土〉自然堆積で上部は黒褐色、中、下部は黒褐色土～暗褐色土で高位面にある遺構の埋土とは様相を異にしている。埋土中の遺物は少なく、各層に少量の炭化物、焼土を含む。

〈壁・床面〉壁高は10cm前後で、斜めに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが壁際で若干高くなる。硬くしまっている。

〈柱穴〉6本検出したが、いずれも浅く支柱穴となりえるか不明である。ただ、径を無視するとP₁₋₆、P₃₋₅は対応する位置にある。

〈炉〉明瞭な焼土は検出されなかったが、道路にかかる中央部に焼土粒、炭化物が周囲より多

く出土した。また、かすかに窪んでいることから使用度の少ない地床炉であった可能性がある。

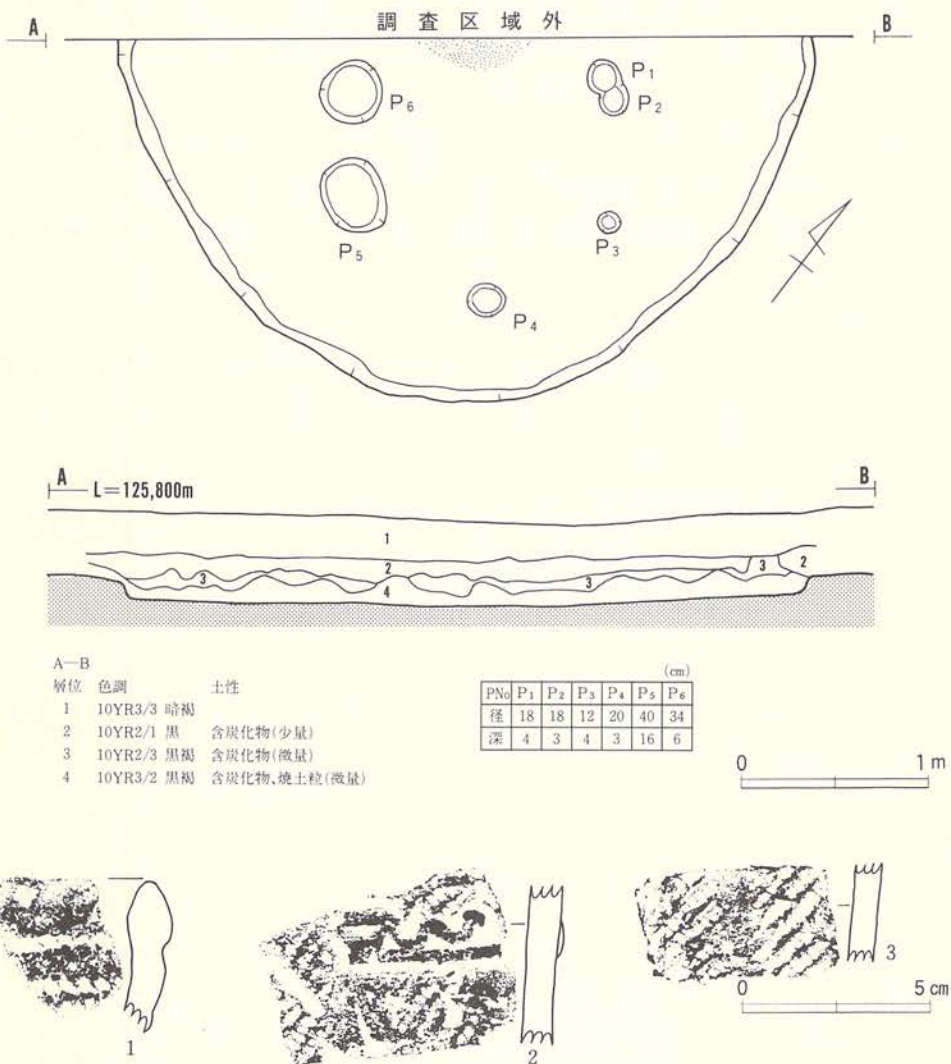
遺物 (第50図、写真図版36)

〈出土状況〉埋土下部、4層から土器3片が出土したのみである。

〈土器〉深鉢と浅鉢の破片のみである。詳細は下表の通りである。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土下層	浅鉢	平縁、口縁部に二本の押圧縄文LR
2	〃	深鉢	体部、隆線二本の間に波状隆線、RLタテ
3	〃	〃	体部、左端隆線剥落痕、RLタテ

〈時期〉3片とも大木7b式の特徴を示しており、縄文時代中期に属する。



第50図 IH-1号住居跡・遺物

Ⅱ H-1 号住居跡 (第51図、写真図版37)

〈検出状況〉遺跡の東側を横断する町道を含むⅡ H区の東端に位置する。町道の東側は斜面となっており高位面からの遺物の流れこみが多く、深いところで1.5m以上の包含層を形成していた。試掘の結果、地山も傾斜していることを確認し、町道東側の斜面部は包含層と判断して調査を進めた。ある程度掘下げた段階で町道の直下に炉石を検出、作業を止めたがこの段階で住居の半分の床と壁を破壊した。黒色土に堀こんだ遺構とはいえ、これを見逃した調査員の責任は重大である。炉石検出後、町道下に潜っている床面の一部を確認した。

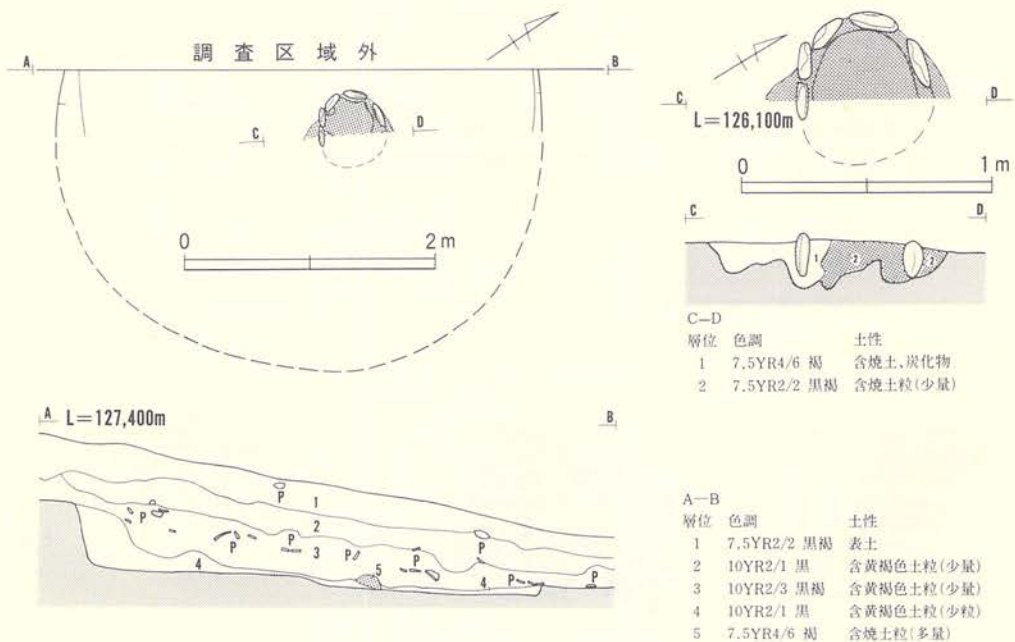
〈形状・規模〉壁の残りから推定すると、径3.8mの円形あるいは楕円形と思われる。

〈埋土〉道路の盛土を除いて5層に分類した。黒色土と黒褐色土の互層で、壁と床は1、3層と同じ黒褐色土中にある。西から東側への自然堆積で、各層から土器が出土したが3層の遺物が最も多く、かつ良好なまとまりを持っている。

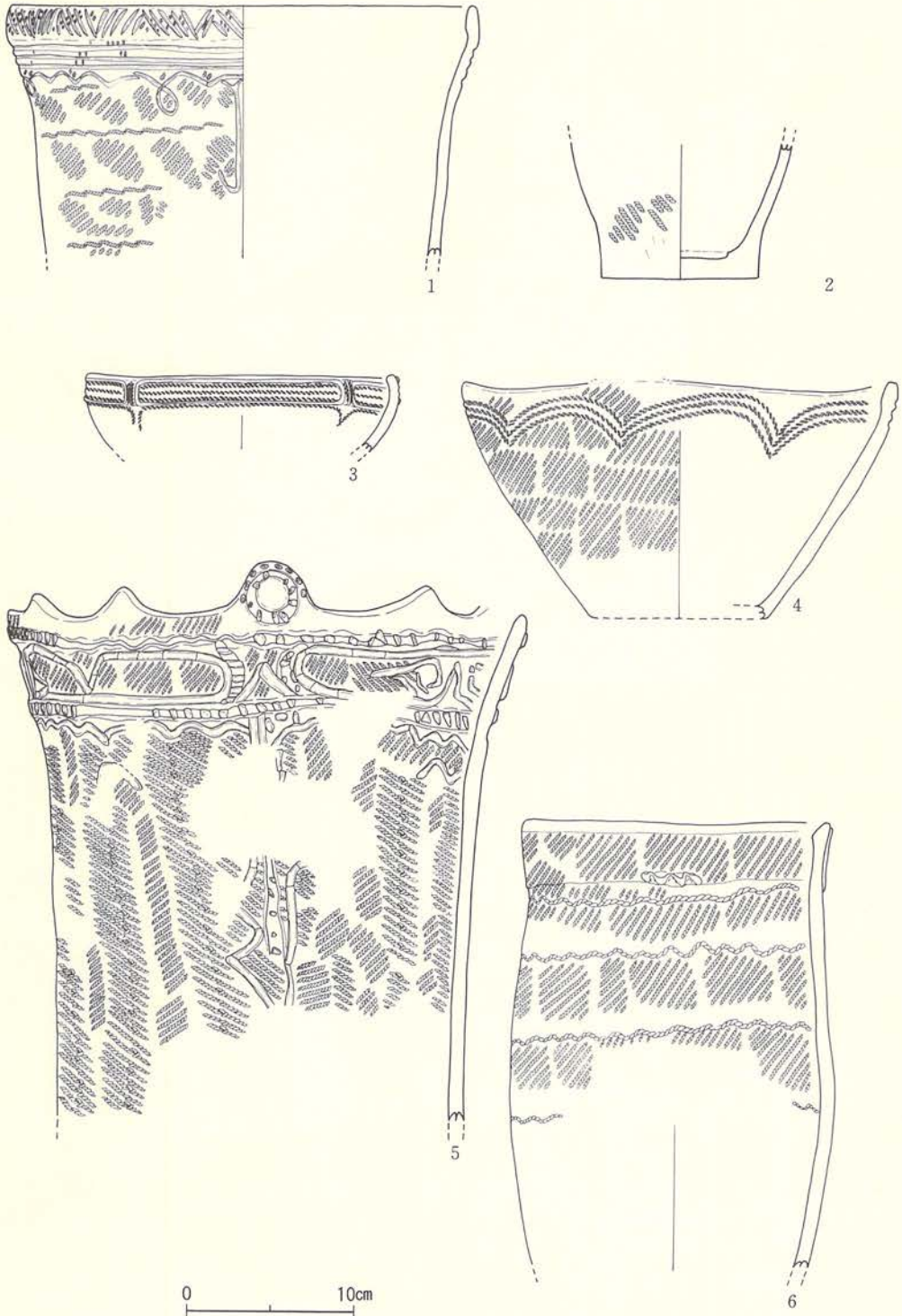
〈壁・床面〉壁は斜面に構築されているため、西側で高く40cm、東側は低く8cmである。床面は埋土断面でかすかに判別できる程度であり、土質のせいか堅くはない。壁、床とも幅50cmを検出したのみである。包含層中の遺構であるため当然、床下からも数は多くないが遺物は出土している。

〈柱穴〉確認した床面では検出できなかった。

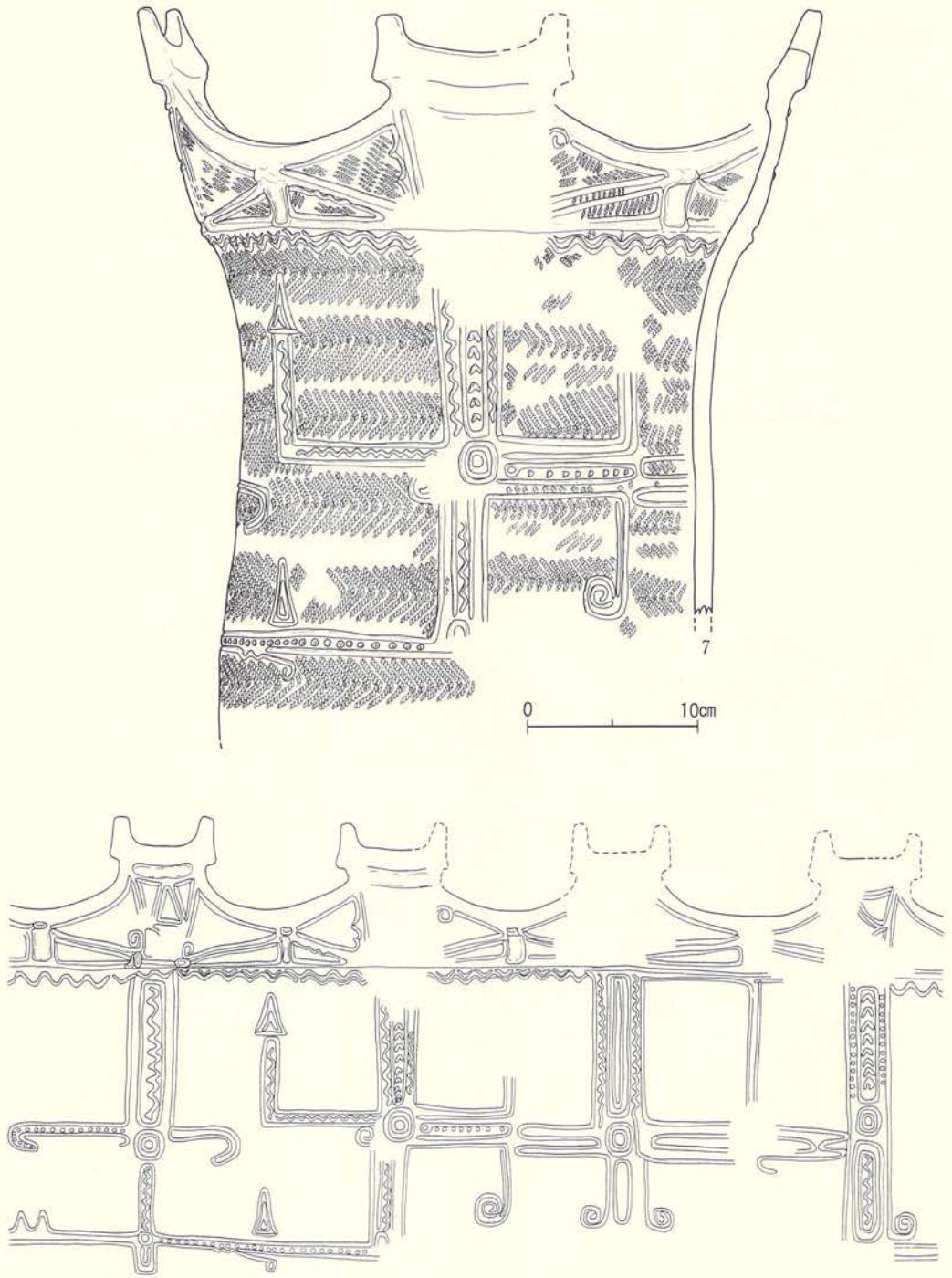
〈炉〉床中央と推定される所よりやや東寄りで石囲炉を検出。調査員の不手際で半分を破壊した。径55cmの円形であったと思われる。掘り込みは不正形で焼土は東側に偏っている。



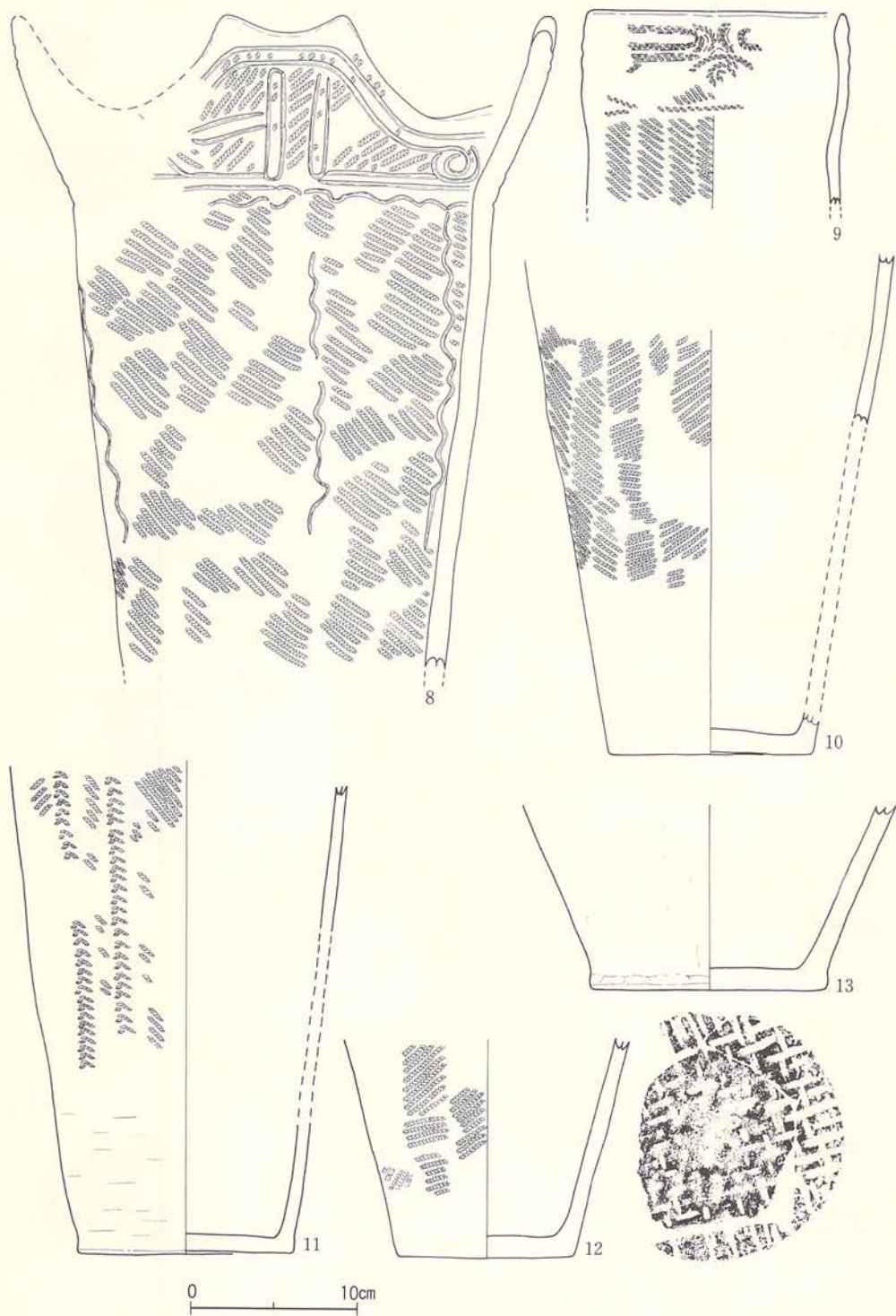
第51図 Ⅱ H-1 号住居跡



第52图 II H-1号住居跡遺物(1)



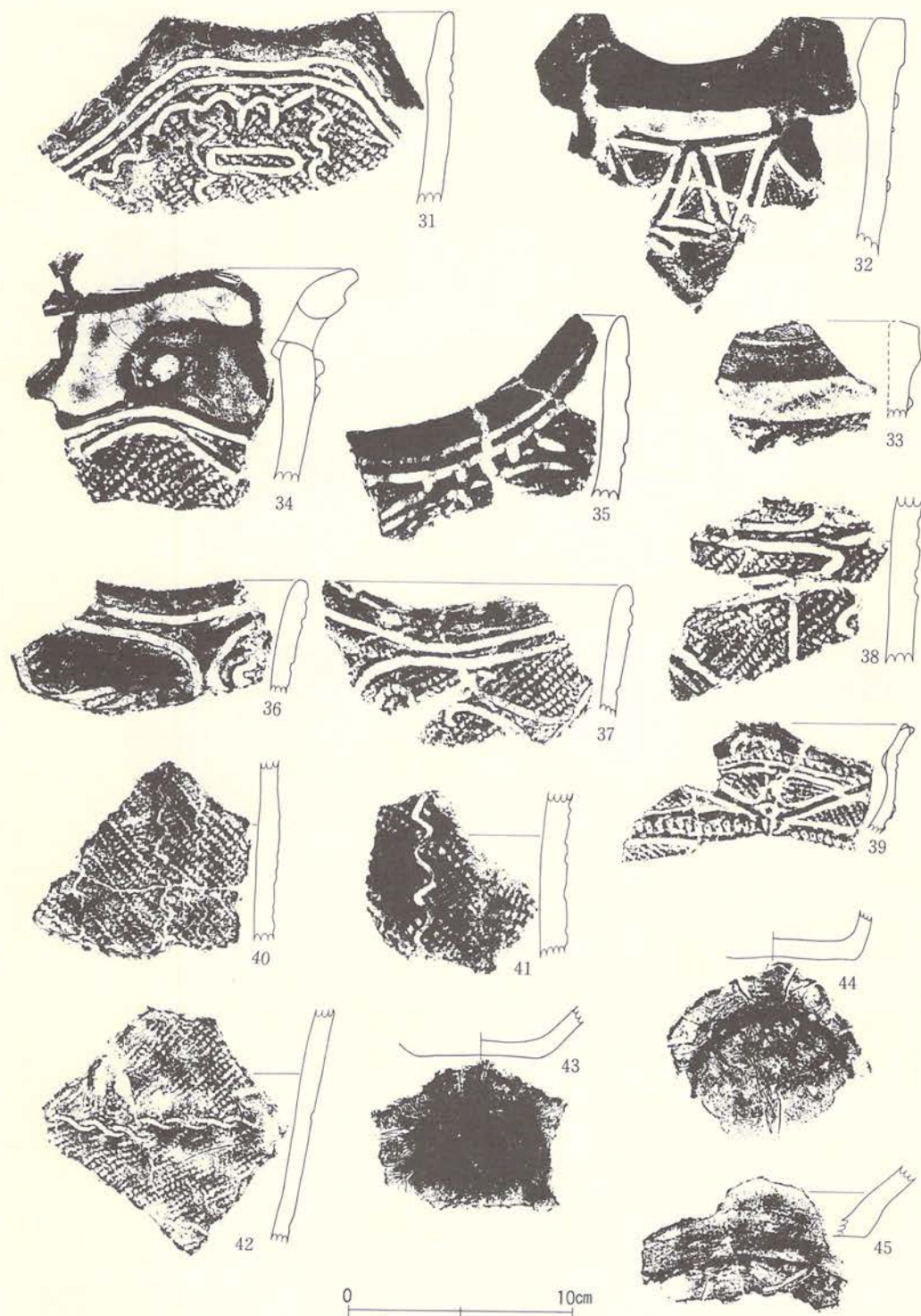
第53图 II H-1号住居跡遺物(2)



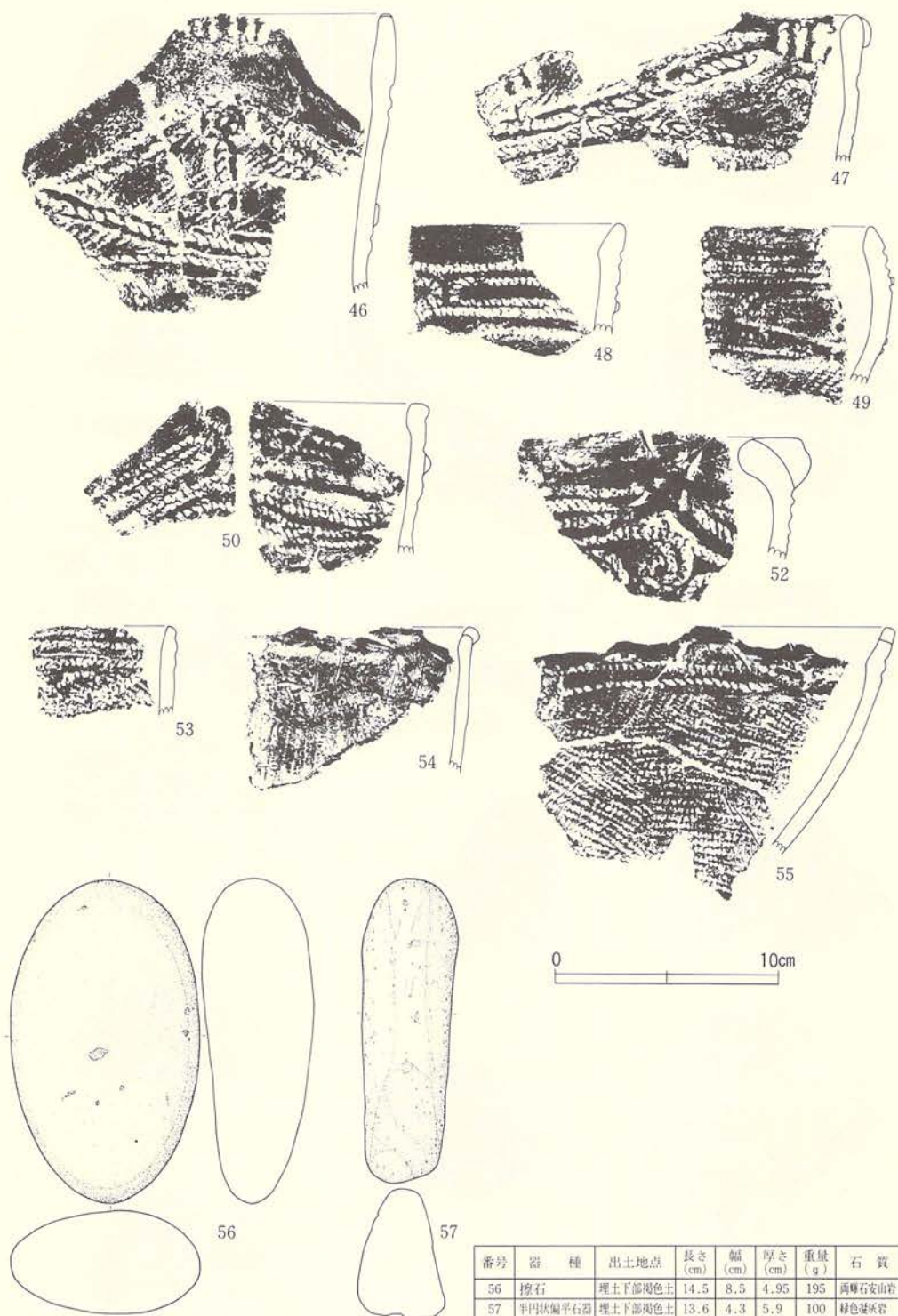
第54图 II H-1号住居跡遺物(3)



第55图 II H-1号住居跡遺物(4)



第56图 II H-1号住居跡遺物(5)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
56	擦石	埋土下部褐色土	14.5	8.5	4.95	195	両輝石安山岩
57	半円状扁平石器	埋土下部褐色土	13.6	4.3	5.9	100	緑色凝灰岩

第57図 II H-1号住居跡遺物(6)

遺物（第52～57図、写真図版38～40）

〈出土状況〉床面および各層から出土している。最も量の多い（2～3層）の記載は、検出中に土層の区別がつかず一緒に取り上げたものである。断面で見ると圧倒的に3層が多く、2～3層を3層と置き換えできよう。この層は掘った体積の割に量が多く、殆どは西側からの流れ込みと思われる。但し3層の復原品に床面の破片が接合する例もあるので（7、21）、全てとは言えない。4層の壁際は遺物は少ないが、床面直上および5層からは良好な破片資料が出土している。

〈土器〉床面出土の土器は破片のみで、復原できた土器は殆ど3層出土である。器種は深鉢、小形鉢、浅鉢で構成される。精製土器は文様帯を区画するが、区画帯は沈線、隆線の両者がある。原体の圧痕が多く、地文はLRに結束および結節を加えた例がめだつ。詳細は下表の通りである。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面	深鉢	平縁、口縁山形スリット、頸部平行沈線下に連弧文「J」字文、末端結節LRヨコ
2	埋土4層	ク	体部下半、底部ヘラ削り、LRタテの上からヘラ整形
3	埋土2～3層	浅鉢	平縁、口縁文様四区画・間に2本のスリット、4本の押圧縄文L、内外面ミガキ
4	ク	ク	小波状口縁、3本の押圧縄文LRによる連弧文、体部上半LRヨコ、下半ミガキ
5	埋土3層	深鉢	部分的に波状口縁、正面突起の周辺に竹管一周、口縁と頸部に隆帯貼付、その中に区画文様、隆帯の下は山形文、凹形突起の下のみ体部に文様、LR結束タテ
6	埋土2～3層	ク	平縁、頸部、粘土貼付に波状の突起2ヶ所、末端、結節LRヨコ
7	ク	ク	波状口縁四単位、口頸部隆線区画、体部沈線施文、重円、渦文、連弧文、竹管三角文他、口縁部LR、体部結束羽状縄文ヨコ
8	ク	ク	波状口縁四単位頸部に区画帯に二本単位の沈線施文、頸部横・体部縦の波状文、LRヨコ・タテ
9	埋土3層	ク	平縁、隆線「X」字文、口頸部押圧縄文LRの「X」字文・渦文他、体部LRタテ
10	埋土2～3層	ク	体部、底部ミガキ、LRタテ、ヨコの不正な羽状縄文
11	埋土3層	ク	体部、底部ミガキ、上半結束羽状縄文部分的に縦にミガキ、含金雲母
12	埋土2～3層	ク	体部、底部網代の上からミガキ、RLタテ・ナナム
13	ク	ク	体部、底部網代痕、内外面ヘラ整形
14	床直	ク	波状口縁、口縁に沿ってと頸部に2本沈線・間に方形、波状文、LRタテ
15	ク	ク	波状口縁の頂部片、隆線区画、LRヨコ
16	ク	浅鉢?	平縁、口縁部貼付、RLヨコ
17	ク	深鉢	頸部～胴部、隆帯貼付に指頭圧痕
18	ク	ク	平縁、口縁部山形スリット、その下平行沈線、LRヨコ、1と同一個体
19	ク	ク	波状口縁頂部に刻目、隆線に刺突、渦文
20	ク	ク	体部、2本沈線の半円? LRヨコ
21	床・3層接合	ク	ゆるやかな波状口縁、隆線「X」字文、内側に押圧縄文LR
22	床直	小形鉢	体部、沈線の円文? 刺突、結束羽状縄文
23	ク	深鉢	体部下半、ミガキ
24	埋土5層	ク	15と同一個体か波状口縁、頸部隆線区画三角文? 体部沈線と竹管、頸部LRヨコ、体部結束、羽状縄文ヨコ
25	ク	浅鉢	体部下半、RLナナム、内面ミガキ、含金雲母
26	埋土3層	深鉢	波状口縁、口縁突起下に4個の刺突、隆線施文、RLヨコ
27	ク	ク	波状口縁、頂部より2本、口縁部に沿って2本の沈線、LRヨコ
28	ク	ク	平縁「X」字状の突起、隆線施文、LRヨコ
29	ク	ク	口縁部分、頸部に隆帯指頭圧痕、平行沈線と連弧文
30	ク	ク	体部、付加条文LRナナム
31	埋土2～3層	ク	14と同一個体、波状口縁、口縁に沿って2本沈線、連弧文、方形文、LRヨコ

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
32・33	埋土2～3層	ク	波状口縁に突起、隆線施文三角文、LRヨコ、同一個体
34	ク	ク	波状口縁、頂部「S」字状突起、穿孔、隆線施文、LRヨコ
35	ク	ク	波状口縁、口縁に沿って2本沈線、刺突3個、LRナナメ
36・37	ク	ク	波状口縁、沈線施文、LRヨコ、含金雲母、同一個体
38	ク	ク	体部、沈線モチーフ不明、LRヨコ、14、31の体部か
39	ク	ク	波状口縁、口縁部隆線区画では三角形・接点に刺突、上下二段に竹管列、頂部の内面に隆線「X」字状、LRタテ
40	ク	ク	体部、結束縄文LRタテ
41	ク	ク	体部、懸垂文、LRタテ
42	ク	ク	体部、末端結節縄文LRヨコ
43	ク	浅鉢	底部、内外面ミガキ
44	埋土3層	小形鉢	底部、底面ケズリ、外面ケズリ
45	埋土2～3層	浅鉢	底部、内外面ミガキ
46	ク	深鉢	波状口縁、頂部刻目の下の隆線貼付に沿って押圧縄文、押圧縄文LRで区画
47	ク	ク	波状口縁、口縁に沿う及び頂部の隆帯に押圧縄文LR、押圧で区画
48	ク	ク	平縁、押圧縄文LR施文、頸部に隆線
49	ク	ク	平縁、隆線区画内に燃糸圧痕L
50	ク	ク	波状口縁、頂部に「X」状隆線、内外に燃糸圧痕L
52	ク	ク	平縁、隆線、押圧縄文LR、突起下に渦文
53	ク	小形鉢	平縁、押圧縄文LRの平行線と波状文
54	埋土2～3	深鉢	小波状口縁無文、ヘラ整形
55	ク	浅鉢	小波状と台形状の口縁、口縁部長楕円形の押圧縄文LR、体部LRタテ、ナナメ、内面ミガキ、炭化物

〈石器〉数は少なく4層中から2点出土したのみである。56は楕円形の両面に擦痕のある擦石。57は不正形な半月状の石の一方の側面にも擦痕のある擦石。

〈時期〉埋土上層には大木8式土器も含まれているが、床面の土器は大木7式であり縄文時代中期に属する。

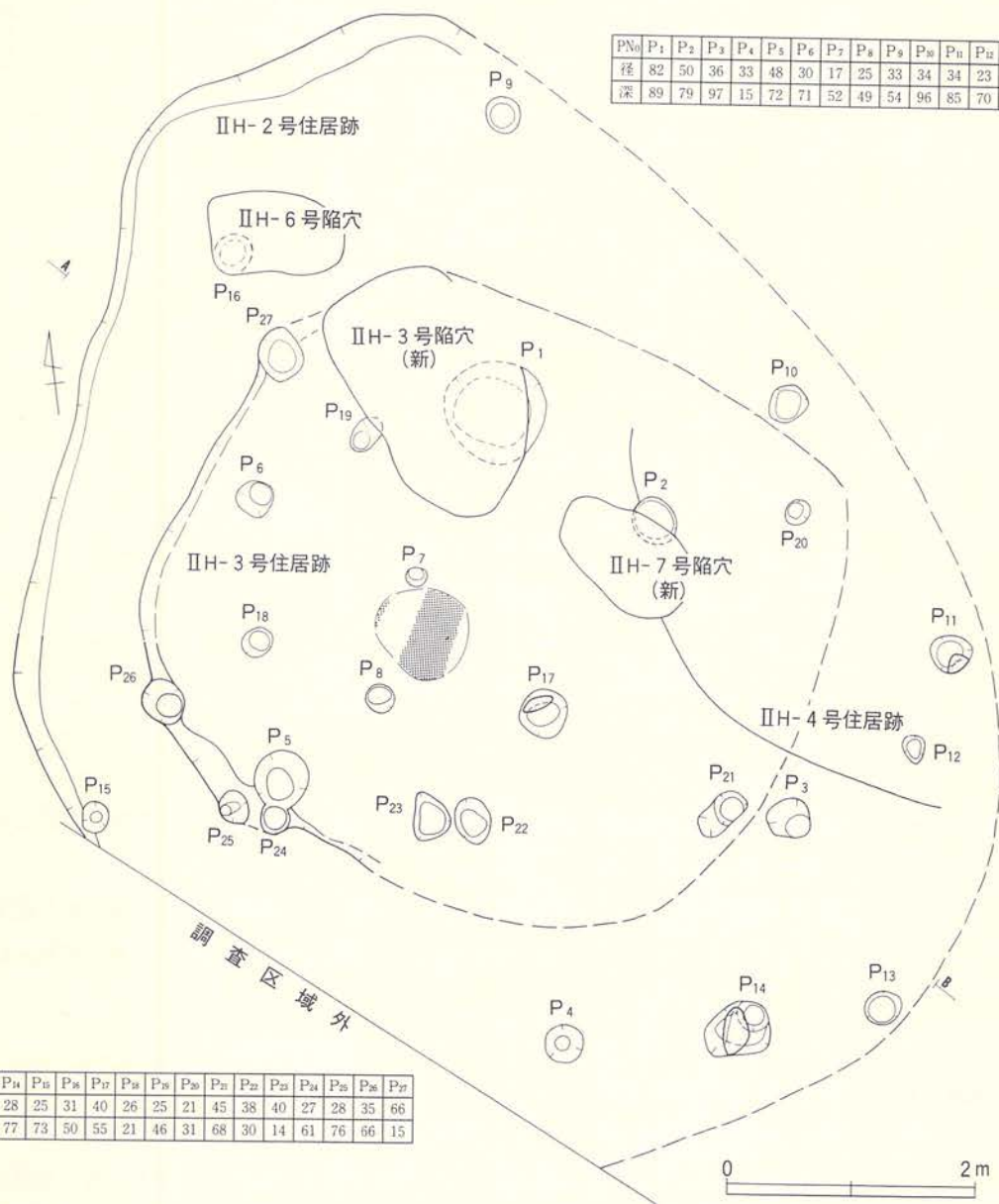
II H-2号住居跡（第58図、写真図版41）

〈検出状況〉II H区西側、調査区外にかかる地点、北東に向かって低くなる緩斜面で検出された。この付近は現在の町道が舗装される以前の道路でかなり破壊されており、遺構の截合い前後関係を把握するのが困難にしている。埋土断面から判断すると当住居跡はII H-3号住の上に築かれており、4号住より新しい（後述）。土壌、陥穴とも重複しているが攪乱の激しい所は新旧不明である。6、7号陥穴は当住居の柱穴、床面を截っており、3号陥穴も柱穴を截っており、いずれも当住居跡よりは新しい。

〈形状・規模〉西側は調査区外に、東側は旧道、他の遺構と錯綜しておりプランを確認できたのは北西のみである。壁を確かなものとすれば一辺4.8mの隅丸形状となり、P₉₋₁₅を壁柱穴とすると不正な楕円形状となる。

〈埋土〉東南は旧道に破壊されており、西側の一部しか図化できなかった。黒褐色土の上層から次第に黄褐色に変わるの他の住居跡と同様である。5、6層の下部0層は3号柱の床と壁

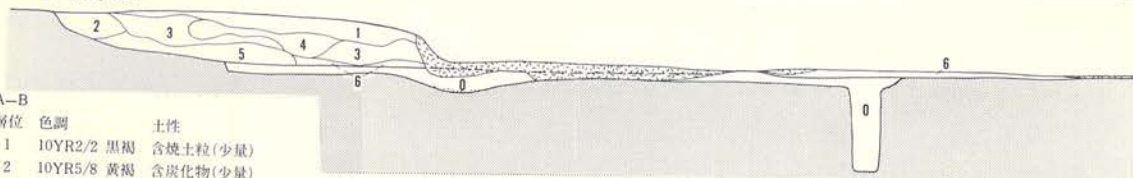
PN ₀	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	P ₁₀	P ₁₁	P ₁₂	P ₁₃
径	82	50	36	33	48	30	17	25	33	34	34	23	31
深	89	79	97	15	72	71	52	49	54	96	85	70	97



PN ₀	P ₁₄	P ₁₅	P ₁₆	P ₁₇	P ₁₈	P ₁₉	P ₂₀	P ₂₁	P ₂₂	P ₂₃	P ₂₄	P ₂₅	P ₂₆	P ₂₇
径	28	25	31	40	26	25	21	45	38	40	27	28	35	66
深	77	73	50	55	21	46	31	68	30	14	61	76	66	15

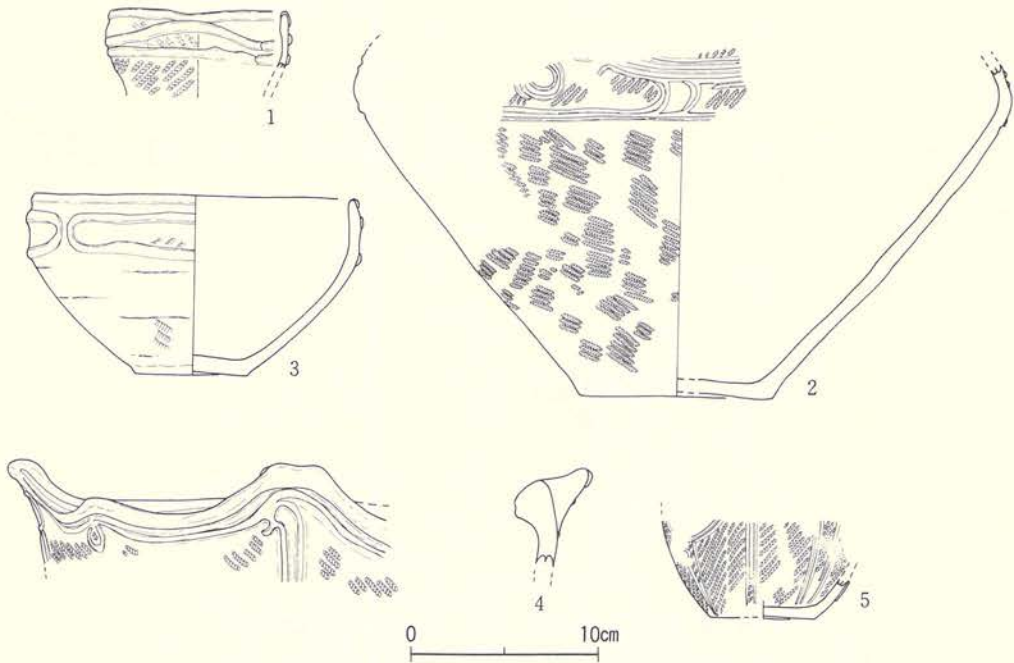


A L=129,800m



層位	色調	土性
1	10YR2/2 黑褐	含焼土粒(少量)
2	10YR5/8 黄褐	含炭化物(少量)
3	10YR4/6 褐	含焼土粒、炭化物(多量)
4	10YR3/3 暗褐	含焼土粒、炭化物(多量)
5	10YR4/6 褐	含炭化物(少量)
6	10YR5/6 黄褐	含焼土粒、炭化物(少量)
○	10YR5/8 黄褐	にこりあり

第58図 IIH-2号, 3号住居跡



第59図 II H-2号住居跡遺物(1)

である。

〈壁・床面〉壁高10~40cmで北側をのぞいてはほぼ垂直に立ち上がる。床面は北側で確認したかぎりでは堅く良好に残されていた。

〈柱穴〉深さ70-90 cmのP_{3-5,6-10-14}などが支柱穴と考えられる。4または6本柱であったと推定される。P₉₋₁₁₋₁₃₋₁₅を支柱穴として促えたいが、壁が確認されている西側で検出しておらず断定はできない。

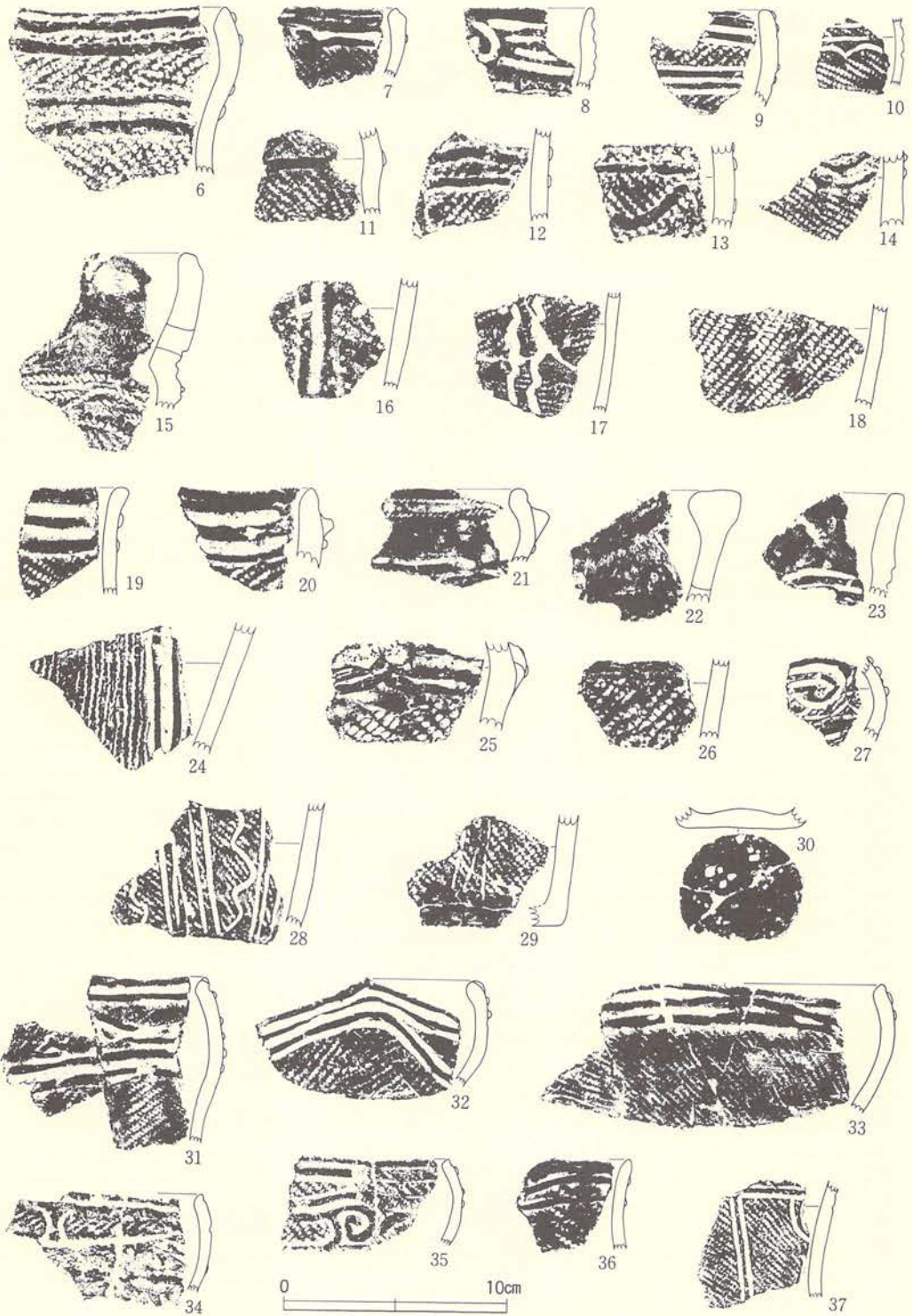
〈炉〉未検出。中央付近に在ったと仮定すると旧道によって破壊されている。

遺物 (第59~63図、写真図版42~44)

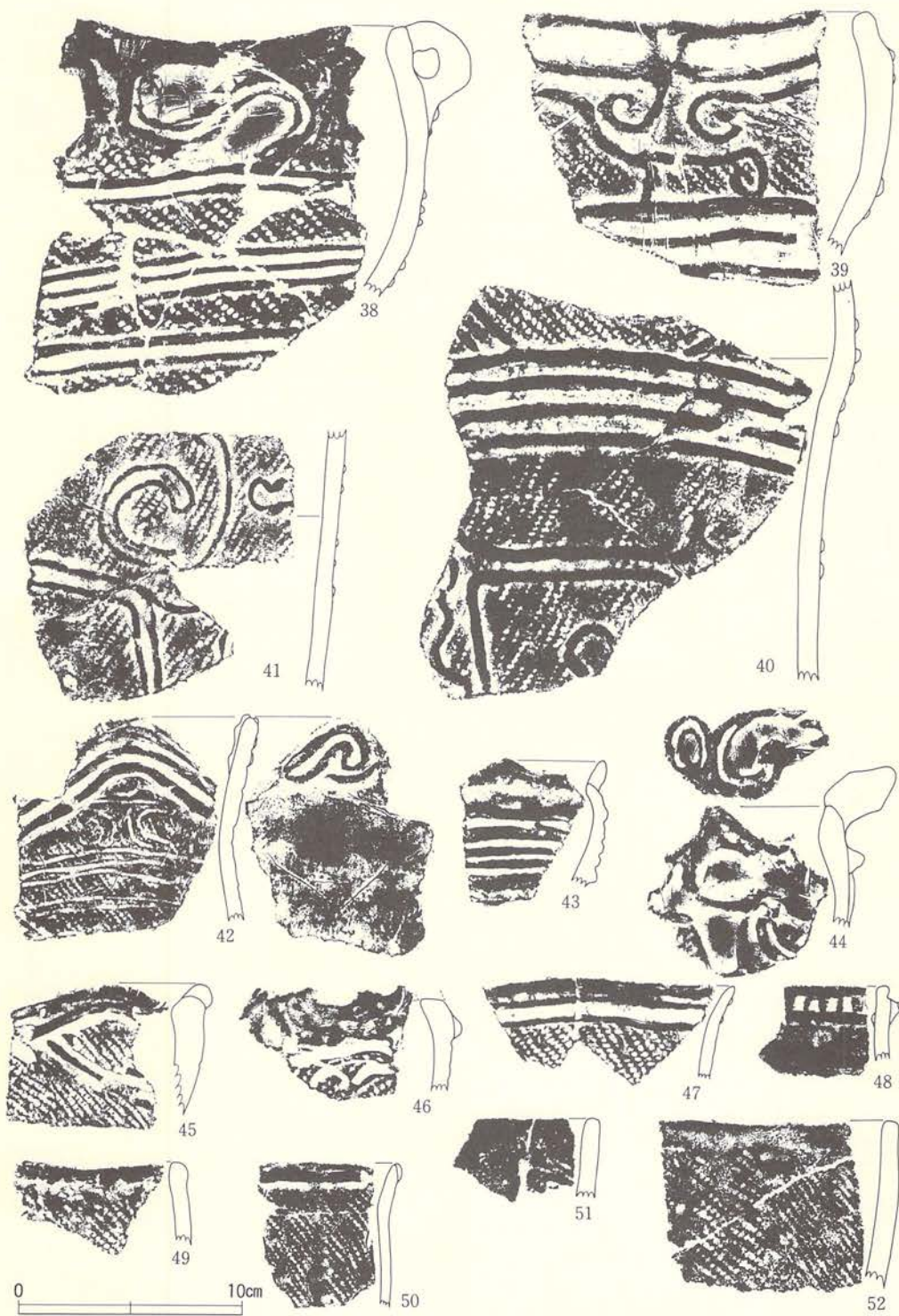
〈出土状況〉床面、埋土、攪乱部分から万遍なく出土しているが、他の遺構との截合いが激しく、特に床面出土とした土器が原位置を留めているか疑問がある。埋土下層は3、5、6層に上層はその他の層に略相当する。

〈土器〉器種は深鉢、小形鉢、浅鉢で構成されている。床面、埋土下層の土器はキャリパー形が多く、隆沈線よりは隆線の貼付文が優先し、縄文原体はRL、LRほぼ同数である。詳細は次表の通り。

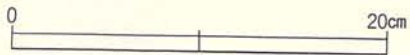
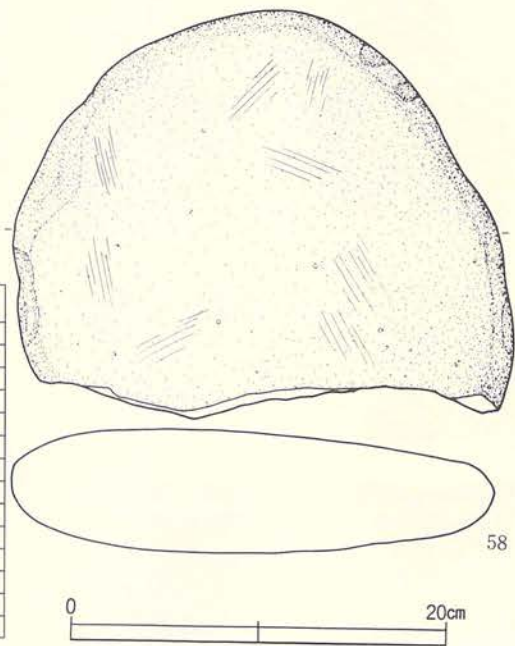
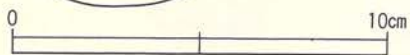
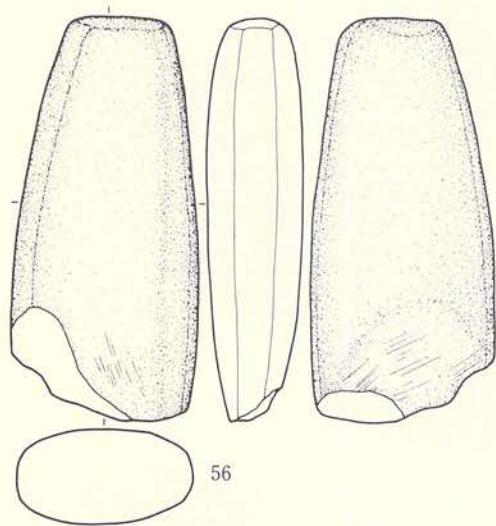
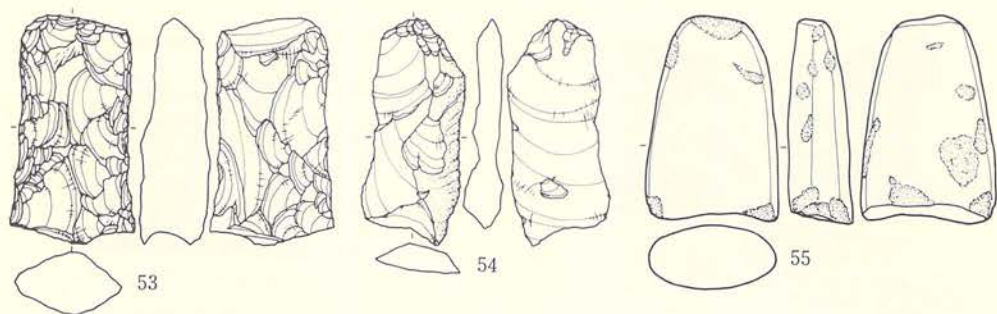
No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面	小形鉢	平縁、キャリバー形、口頸部隆線中央波状、RLヨコ、タテ
2	埋土下層	浅鉢	肩まで隆沈線の施文、渦文他、LRヨコ、タテ
3	〃	〃	平縁、隆線「U」字状貼付、LRタテ、ナナメの上からヘラ、底部ヘラ整形
4	埋土上層	深鉢	波状口縁、四個の頂部間に小波状入る、縦横の隆沈線、RLヨコ
5	〃	小形鉢	体部下半、隆沈線と沈線、縦に文様展開、肩部ミガキ、RLタテ
6	床面	深鉢	平縁、キャリバー形、口頸部2本の隆線貼付、LRヨコ、タテ
7	〃	〃	平縁、波状隆線貼付、LRタテ
8	〃	〃	平縁、沈線中央に「の」字文
9	〃	〃	平縁、キャリバー形、隆沈線、LRヨコ
10	〃	〃	体部上半、沈線下に連弧文、RLヨコ
11	〃	〃	キャリバー形、頸部隆線貼付、LRタテ
12	〃	〃	体部、隆線貼付、LRヨコ
13	〃	〃	口縁部付近、隆線貼付、RLヨコ
14	〃	〃	体部、隆線渦文か、RLヨコ
15	〃	〃	波状口縁、頂部凹み、円形穿孔、押圧縄文LR
16	〃	〃	体部、縦の隆線間ナデ、RLヨコ
17	〃	〃	体部、太い2本の波状文タテ、LRナナメ
18	〃	〃	体部、燃の太さの異なるRLタテ
19	埋土下層	〃	平縁、2本の平行隆線、LRタテ
20	〃	〃	平縁、太細2本の隆線「X」状、RLタテ
21	〃	浅鉢	平縁、肩に山形状の隆帯、口縁部に2本の燃糸圧痕R
22	〃	深鉢	波状口縁、頂部肥厚、円形穿孔、全面ミガキ
23	〃	〃	波状口縁、沈線、原体不明
24	〃	〃	体部下半、縦の平行隆沈線、燃糸Lタテ
25	〃	〃	キャリバー状頸部、円形突起から2本の隆線、LRタテ
26	埋土下層	深鉢	体部、RLタテ
27	〃	〃	キャリバー部分、隆沈線、RLヨコ
28	〃	〃	体部下半、平行沈線、波状文縦に展開LRタテ
29	〃	〃	体部下半、底部、3本沈線、底部ヘラ整形、LRタテ
30	〃	小形鉢	底部、網代の上からナデ
31	埋土	深鉢	平縁、キャリバー形、隆線貼付、口縁部LRヨコ、体部RLタテ
32	〃	〃	波状口縁、キャリバー形、隆沈線、LRヨコ
33	〃	〃	平縁、口縁部2本の隆線、LRタテ、浅鉢の可能性あり
34	〃	〃	平縁、沈線「X」状、隆線一部剥落、LRヨコ
35	〃	〃	平縁、隆沈線、RLヨコ
36	〃	小形鉢	波状口縁、2本隆線貼付、LRタテ
37	〃	深鉢	体部、沈線縦に展開、LRタテ
38	〃	〃	平縁、口縁部太い「S」字状、2～3本の隆線貼付、LRタテ
39・40	〃	〃	波状口縁、隆帯貼付、渦文、棘状など、RLヨコ、タテ、ⅡH-3陥穴の土器と接合
41	〃	〃	体部、隆線貼付2本単位、間をナデ、渦文他、RLタテ
42	〃	〃	波状口縁、口縁部のみ2本隆線、細い沈線で半円「U」字状他、LRタテ、頂部内面入組文
43	〃	〃	波状口縁、太く深い平行沈線
44	〃	〃	波状口縁、突起の両側にも施文、太い隆線と削りで施文
45	〃	〃	波状口縁、楕円状の隆沈線RLヨコ
46	〃	〃	波状口縁、円形穿孔部上半欠損、連弧文、LRヨコ
47	〃	〃	平縁、口縁2本隆線間をナデ、LRタテ
48	〃	〃	平縁、口縁部隆線と口唇部の間に深い長方形の刻目、内面にも隆線
49	〃	〃	平縁、粗製、口縁部折り返し、LRタテ
50	〃	〃	平縁、粗製、口縁貼付、LRタテ
51・52	〃	〃	平縁、粗製、口縁部ナデ、LRタテ



第60图 II H-2号住居跡遺物(2)

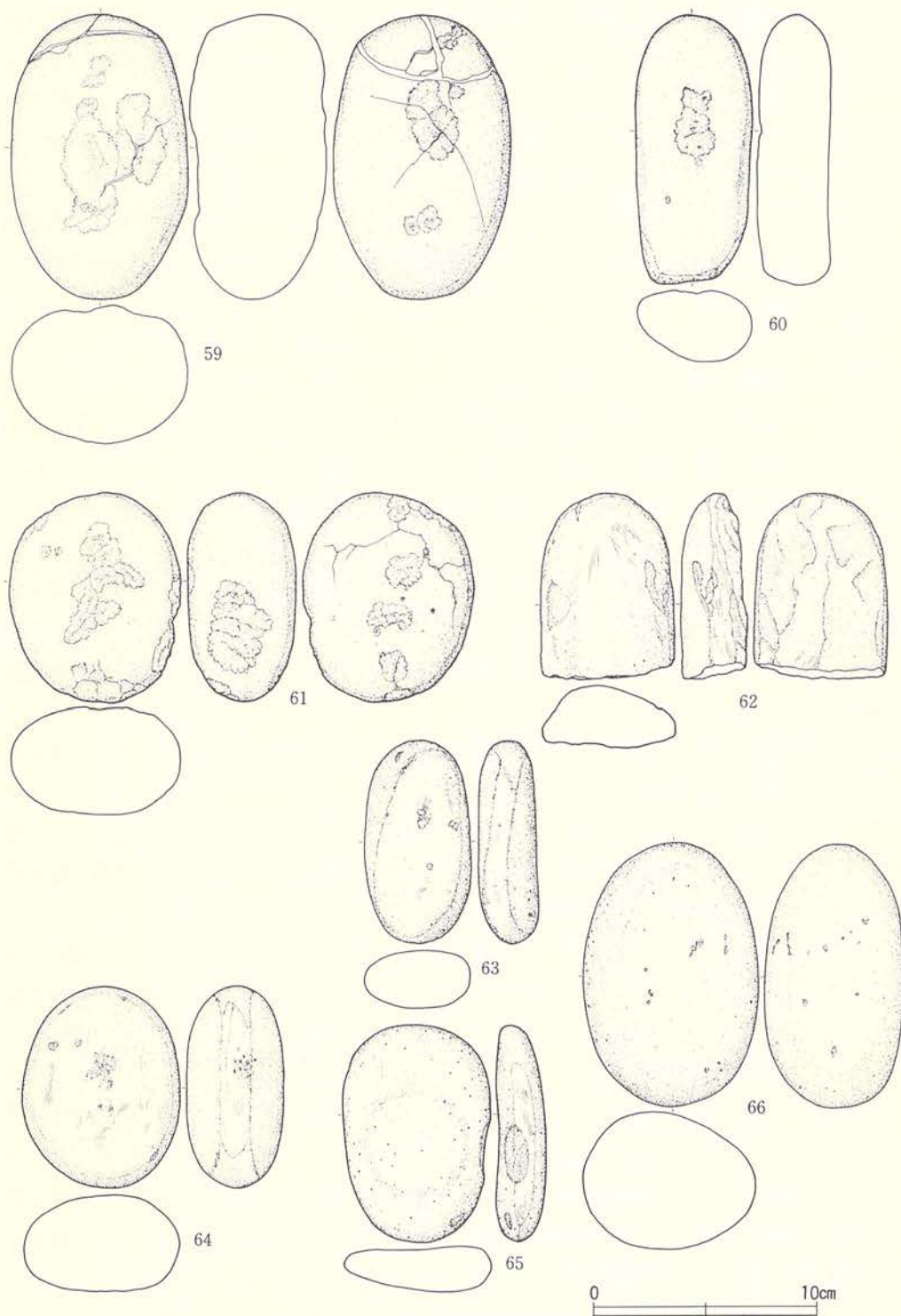


第61图 II H-2号住居跡遺物(3)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
53	石匱	床上	(6.1)	3.35	1.8	14.10	珪質泥岩
54	有刀不定形	埋土	(6.1)	2.75	1.0	15.30	珪質泥岩
55	石斧	埋土	(5.5)	3.6	1.7	53.20	綠色細粒凝灰岩
56	石斧	埋土	(10.8)	5.0	2.6	230	花崗内綠岩
57	その他	2層	8.2	4.8	2.35	131	輝石安山岩
58	その他	床面	(20.8)	26.8	6.6	5600	両輝石安山岩
59	凹石	床	12.8	8.0	6.15	773	両輝石安山岩
60	敲石	埋土	12.0	5.3	3.3	331	綠色凝灰岩
61	凹石	埋土	9.4	7.75	4.9	430	両輝石安山岩
62	半円状扁平石器	埋土	(8.35)	6.0	3.0	220	綠色凝灰岩
63	擦石	床面	9.1	4.8	2.7	158	砂質凝灰岩
64	擦石	埋土	9.1	7.05	4.4	370	両輝石安山岩
65	擦石	埋土	9.85	6.65	2.25	209	両輝石安山灰
66	擦石	埋土	11.8	7.8	5.2	820	両輝石安山岩

第62図 II H-2号住居跡遺物(4)



第63图 II H-2号住居跡遺物(5)

〈石器〉床面と埋土中から14点出土。53は両面加工の石筥で中程で折損。54は自然面を残す剥片の先端部に微細な剥離を施している。穿穴具の可能性はある。55、56は磨製石斧、2点とも定形的で刃部を欠損する。57は亀頭状の石製品で両面に擦痕が走る。58は両面に擦痕を持つ石皿状の石器ではあるが窪みはなく、台石と考えられる。59～61は凹石で60の基部は敲石としても使用されている。62～66は擦石で66を除き側面の一方にも擦面がある。

〈時期〉床面の土器には大木7、8式が混在しているが、後者のほうが量的に多い。また、住居同士の截合関係で当住居が最も新しいことを勘案すると、大木8a式期とするのが適当であり縄文時代中期に属する。

ⅡH-3号住居跡（第58図、写真図版41）

〈検出状況〉ⅡH-2号住居精査中に壁と思われる立ち上がりを検出、併せて旧道の下から炉底の一部を検出し独立した住居として扱った。ⅡH-2号住居は当住居の上に築かれており、ⅡH-4号住居の埋土中に床があったとおもわれるが、攪乱のため不明である。3、7号陥穴が床面を截っており当住居より新しい。

〈形状・規模〉西側のみで検出した壁および当住居に伴うと推定される柱穴から判断すると一辺4m前後の隅丸形状と成り得る。

〈埋土〉重複、攪乱のため床面と直上の0層が残っているのみである。0層の窪みは炉の底部に相当する。

〈壁・床面〉残存している壁は2号住居の埋土下で検出された。壁高は10cm前後である。床面もごく一部を除いて攪乱されており、不明瞭である。

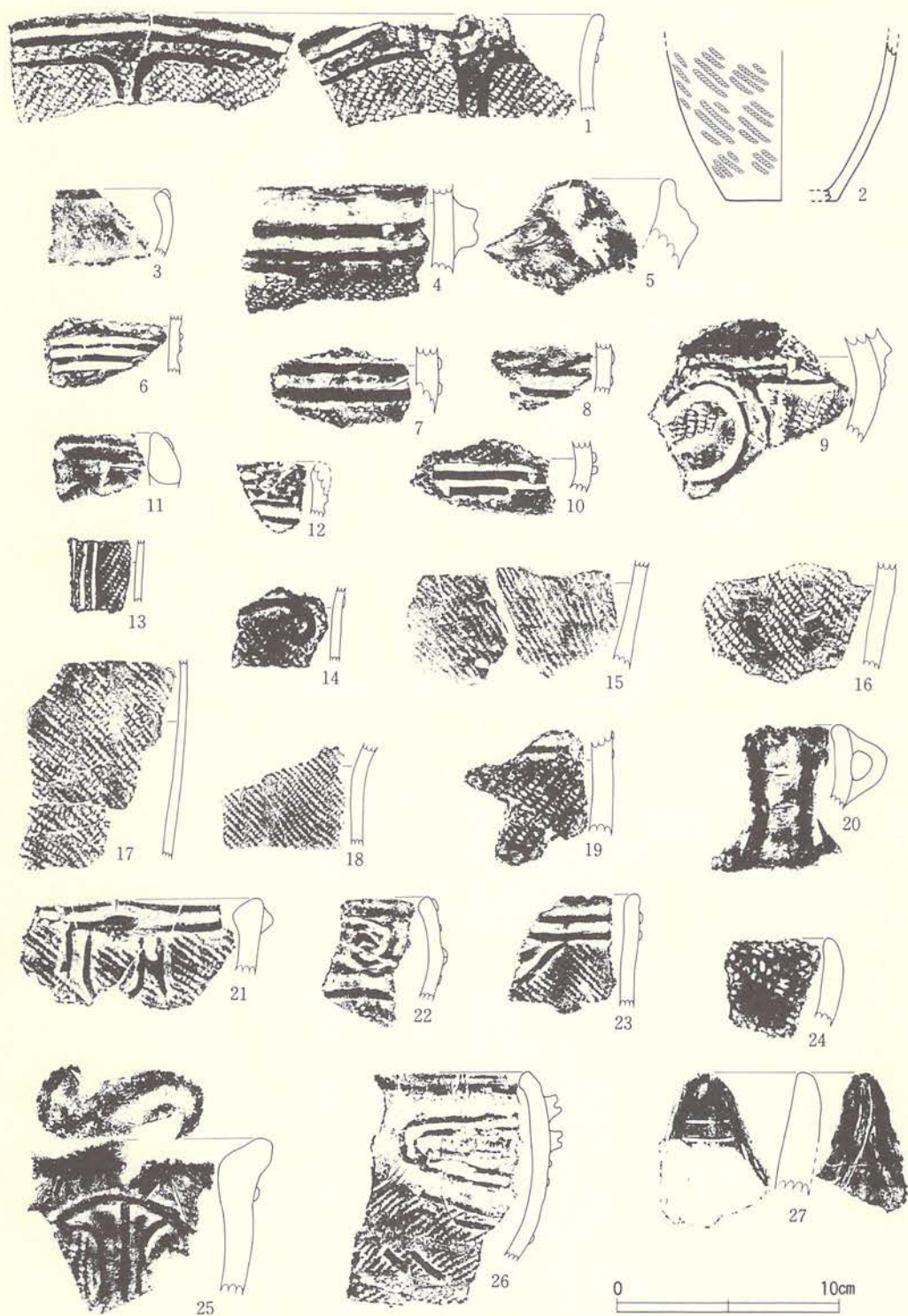
〈柱穴〉主柱穴はP₁₈₋₁₉₋₂₂で他の1本は2号土壌に截られているものと思われる。P₂₅₋₂₆は入口の柱と考えられる。小柱穴が推定プランの壁際に数本沿って位置しているが、他の住居と重複しており当住居の支柱穴となるかどうか明確ではない。

〈炉〉やや南西寄りの位置で径75cmの炉跡を検出した。殆ど旧道に破壊されており、掘り方のプランと炉底を確認したのみであり、焼土はかすかに残っていたにすぎない。炉石の痕跡は見当たらず地床炉であったと思われる。

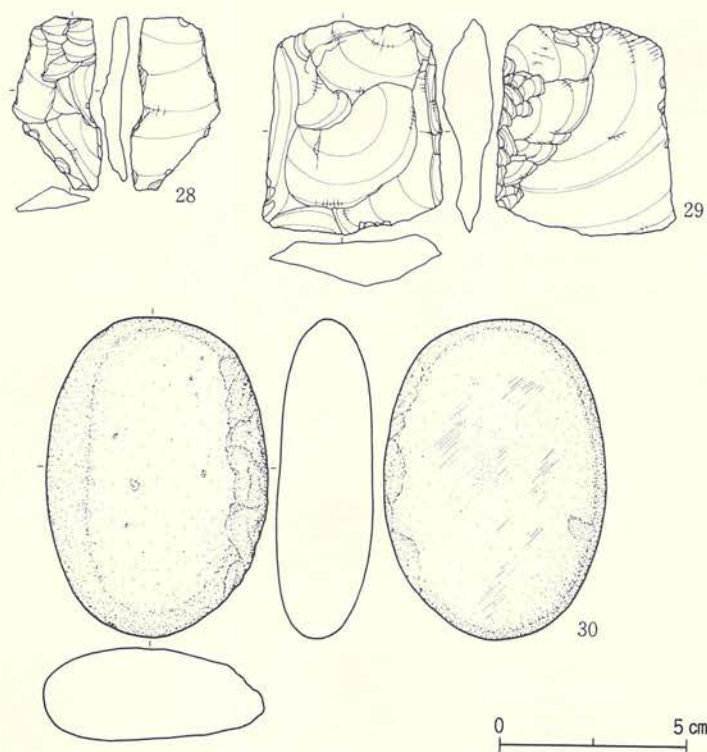
遺物（第64～65図、写真図版45）

〈出土状況〉0層および6層付近の遺物を床面として扱ったが2H-2号住居に伴う例も含まれている可能性がある。埋土中とした遺物は攪乱層の出土である。

〈土器〉床面とおもわれる部分からは破片のみが出土した。器種は深鉢と小形鉢で浅鉢は見当たらない。床面の土器は2本の隆線貼付が多く、その間をナデている。縄文原体はLRが優先である。詳細は次表の通りである。



第64图 II H-3号住居跡遺物(1)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
28	右月不定形	床面	4.6	2.45	0.6	6.17	粘板岩
29	右月不定形	床面	5.8	4.85	1.3	35.44	硬質泥岩
30	敲石	床面	8.5	5.9	2.6	186	変質輝石安山岩

第65図 II H-3号住居跡遺物(2)

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面	深鉢	平縁、隆線貼付、縦展開、RLタテ
2	〃	〃	体部、内面、底部へラ整形、LRタテ
3	〃	小形鉢	平縁、口唇部貼付、RLヨコ?
4	〃	深鉢	体部上半、隆帯貼付の下にRLタテ
5	〃	〃	波状口縁、頂部隆線による「S」字状か
6	〃	〃	体部、平行沈線、LRヨコ
7	〃	〃	体部、隆線の間をナデ、RLヨコ
8	〃	〃	体部、隆線貼付
9	〃	〃	口縁部、キャリパー形、隆線間ナデ、渦文?、LRナナメ、ヨコ
10	〃	〃	体部、キャリパー形の頸部、平行隆沈線、LRヨコ
11	〃	〃	ゆるやかな波状口縁か、円形穿孔あり
12	〃	小形鉢	平縁、隆線貼付、口縁部表面剥落
13	〃	〃	体部、縦の平行沈線、RLタテ
14	〃	〃	体部、隆線貼付「の」字状、LRタテ
15	〃	深鉢	体部下半、撚糸文L
16	〃	〃	体部下半、LRタテ
17	〃	〃	体部、LRタテ
18	〃	小形鉢	体部、LRタテ
19	埋土	深鉢	体部上半、隆線間ナデ、LRヨコ
20	〃	〃	平縁、橋状突起、無文

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
21	埋土	深鉢	平縁、口縁部小突起、隆線間ナデ、RLヨコ
22	〃	〃	平縁、隆線貼付、「の」字状、RLヨコ
23	〃	〃	平縁、隆線貼付、RLヨコ
24	〃	〃	平縁、粗製、口縁部内湾、RLタテ、ヨコの羽状
25	〃	〃	波状口縁、口唇部「S」字状突起、その下隆線貼付、LRナナメ
26	〃	〃	波状口縁、口縁部隆帯、体部隆線貼付、LRヨコ
27	〃	〃	突起頂部、表に細い平行、裏に弧状の平行沈線、ミガキ

〈時期〉床面の土器は大半が大木8a式であり縄文時代中期に属する。

Ⅱ H-4 号住居跡 (第66図、写真図版46)

〈検出状況〉Ⅱ H区のほぼ中央、町道際で検出された。東側が低くなる緩斜面に位置している。西側でⅡ H-2・3号住と東側で5・6住と重複し、床面は土壌類と重複している。新旧関係は後述。

〈形状・規模〉東側は緩斜面で流失しており、南側は調査区外で西側の一部を検出したのみである。炉の位置を中央部と推定すると長径8m前後の楕円形にプランとなる。

〈埋土〉検出面が浅いのと重複が激しいため住居と認識するのが遅れ、土層断面を観察しえなかった。調査区外の町道下で観察しようとしたが、普請の際に床面下まで攪乱されており果たせなかった。他の住居跡と同様、暗褐色土から明褐色土に変化するのには確実である。

〈壁・床面〉壁は西側の一部を検出したのみで、壁高は15~18cmである。P_{6,7}を結ぶように周溝があるが、他では確認できなかった。炉の東側は攪乱のため良好な床は検出できなかったが、西側は部分的ではあるが良好な状態である。6号住の埋土上には貼床が認められた。

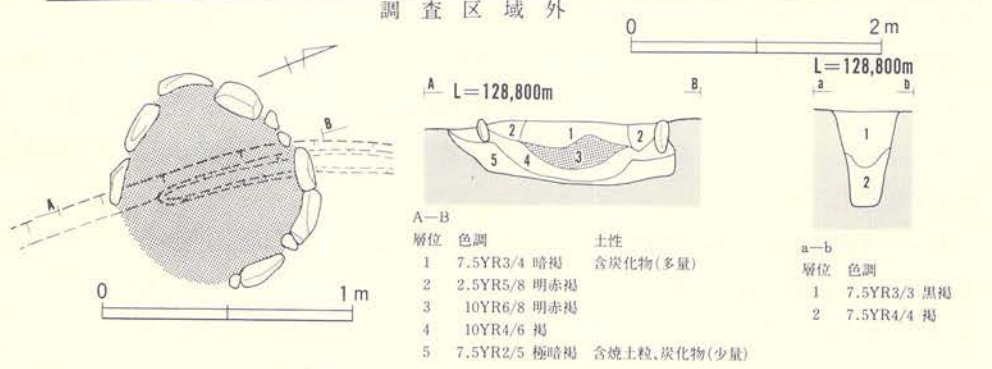
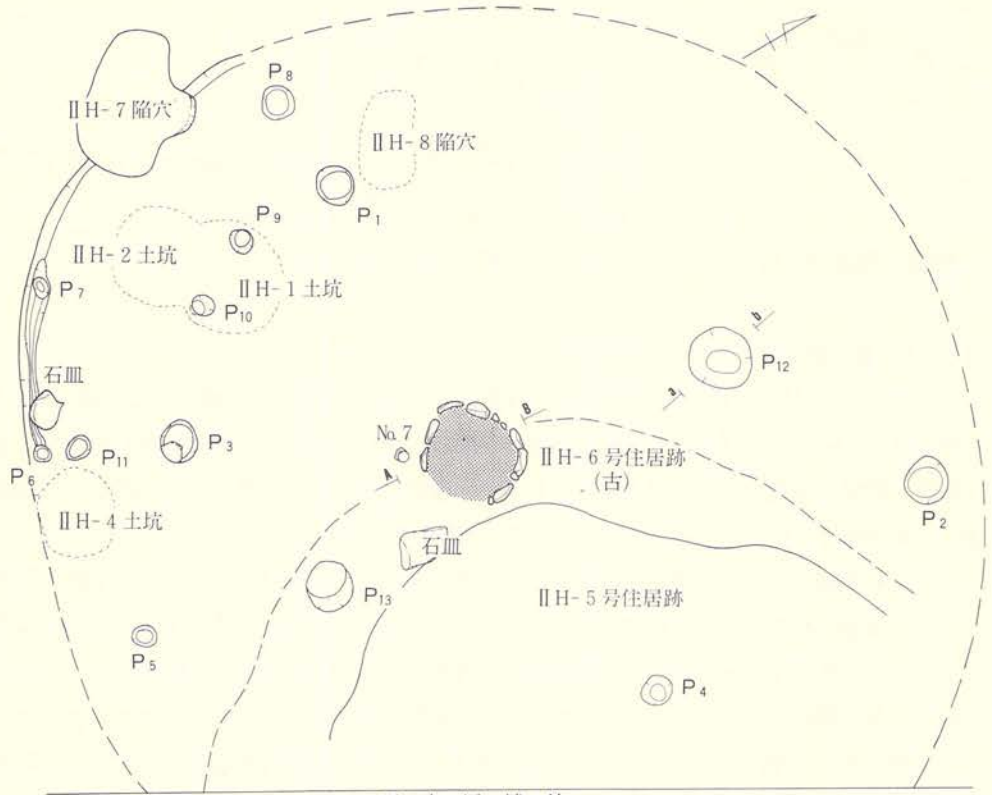
〈柱穴〉他の住居と柱穴も重複しているので当住居に係わると確定される柱穴、柱穴底面のレベル値が近似するものを選んで図示した。竪穴の規模からすると6本柱が想定されるが、良好な対応関係とはならない。深さ42cm以上のP_{1-4,12-13}が相当すると考えられる。P_{6,7}は入口の施設と係わる可能性が高い。

〈炉〉中央部と推定される位置にはほぼ円形の石囲炉を検出。南側の石は失われている。掘り込みは径90cmで炉径は84cmである。埋土の上層は炭化物が多く、焼土は中層に発達している。6号住壁と埋土の上に築かれている。

遺物 (第67~73図、写真図版47~51)

〈出土状況〉集中的に出土したのは炉の西側から壁にかけての部分で、他は攪乱等により散発的であった。復原できた土器および石器はいずれもこの地点で、床面直上に面をなして出土した。7の深鉢は炉の西側に接し倒立していた。

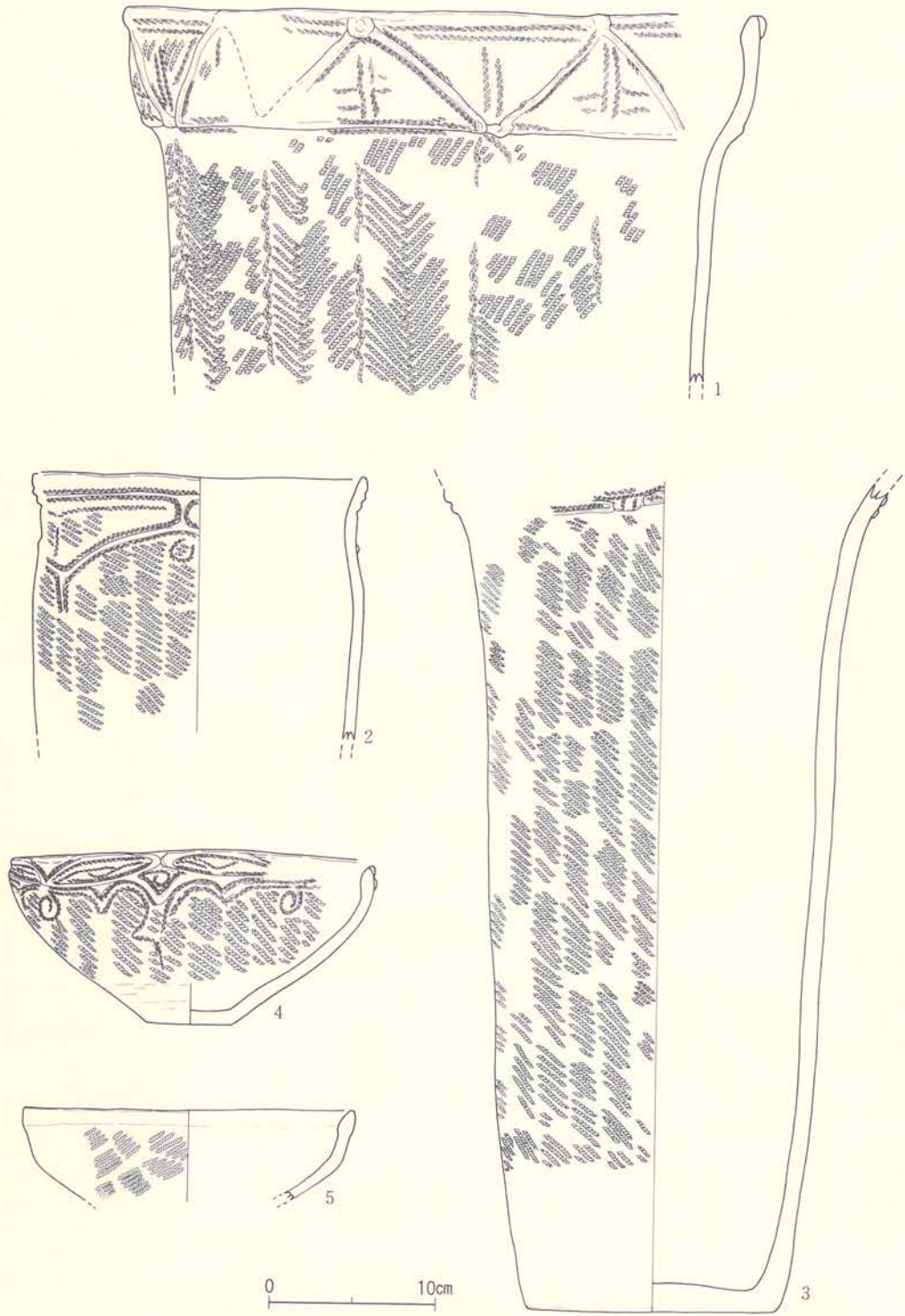
〈土器〉深鉢、浅鉢、小形鉢で構成される。床面の土器は押圧縄文と隆線の組合せの施文が最も多く、次に沈線となり隆沈線は少ない。縄文原体はLRの縦回転が多く、結束・結節縄文は全て縦回転である。胎土に金雲母を含む例数点がある。また、円筒式の影響を受けていると思わ



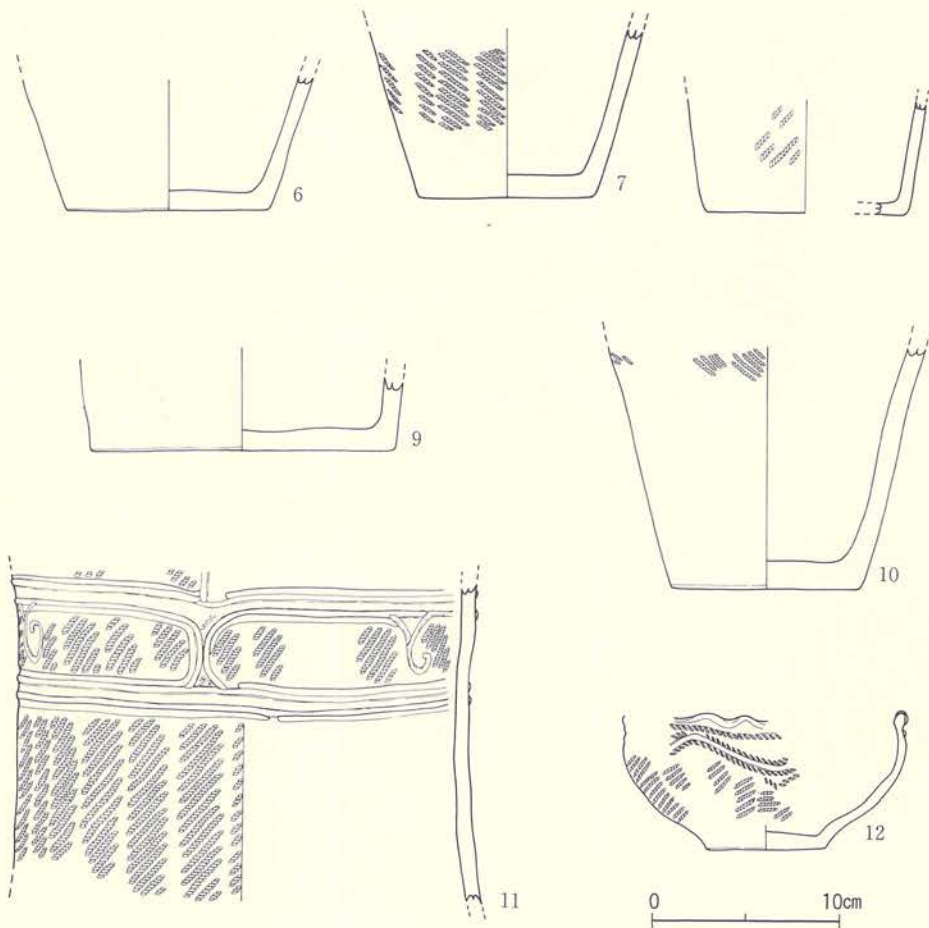
- A-B
- | 層位 | 色調 | 土性 |
|----|--------------|--------------|
| 1 | 7.5YR3/4 暗褐 | 含炭化物(多量) |
| 2 | 2.5YR5/8 明赤褐 | |
| 3 | 10YR6/8 明赤褐 | |
| 4 | 10YR4/6 褐 | |
| 5 | 7.5YR2/5 極暗褐 | 含燒土粒、炭化物(少量) |
- a-b
- | 層位 | 色調 |
|----|-------------|
| 1 | 7.5YR3/3 黑褐 |
| 2 | 7.5YR4/4 褐 |

(cm)													
PN0	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P13	
径	34	38	30	25	20	16	19	28	20	20	22	52	40
深	54	47	44	48	47	8	9	18	49	45	31	83	42

第66図 II H-4 号住居跡



第67图 II H-4号住居跡遺物(1)

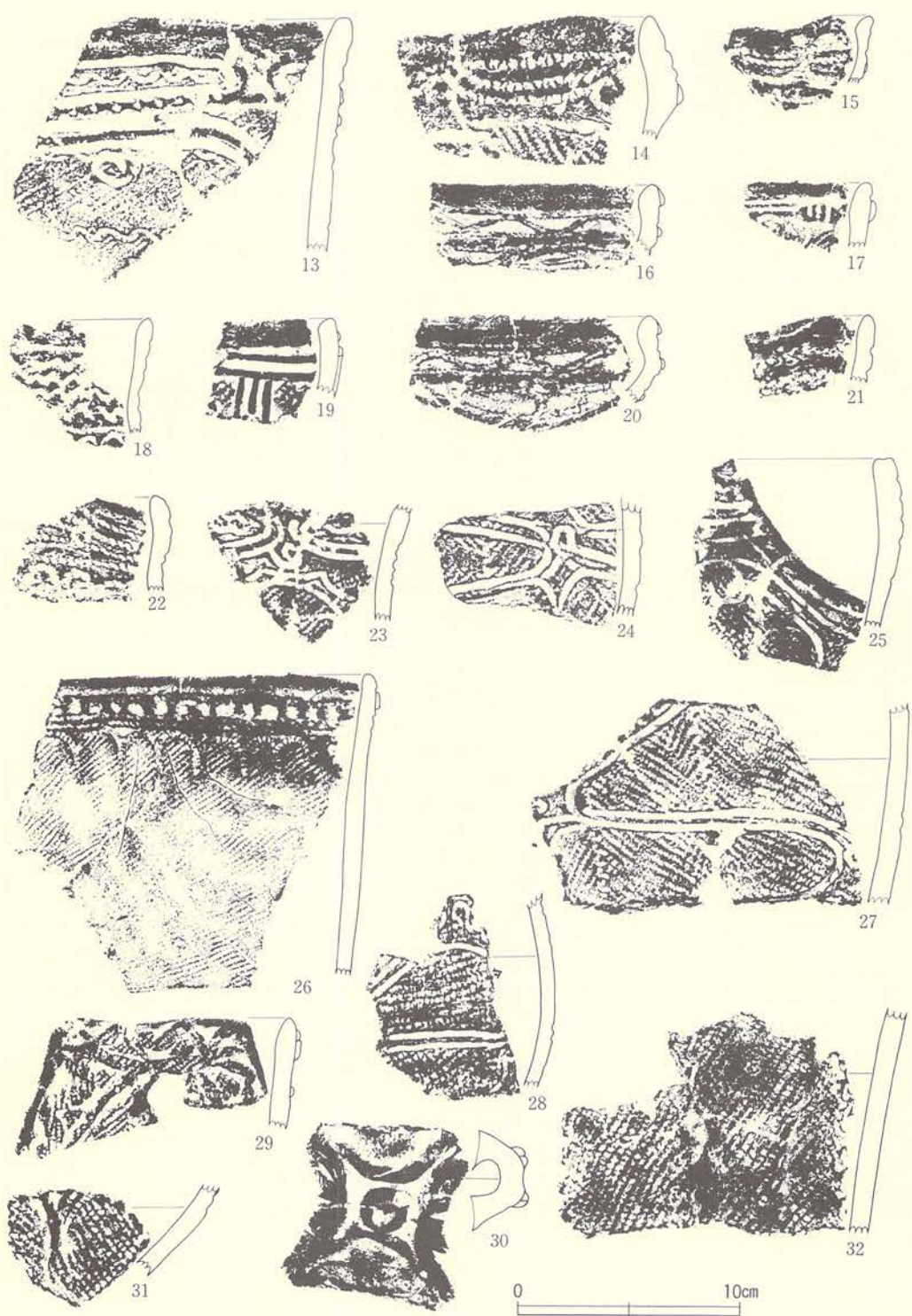


第68図 II H-4号住居跡遺物(2)

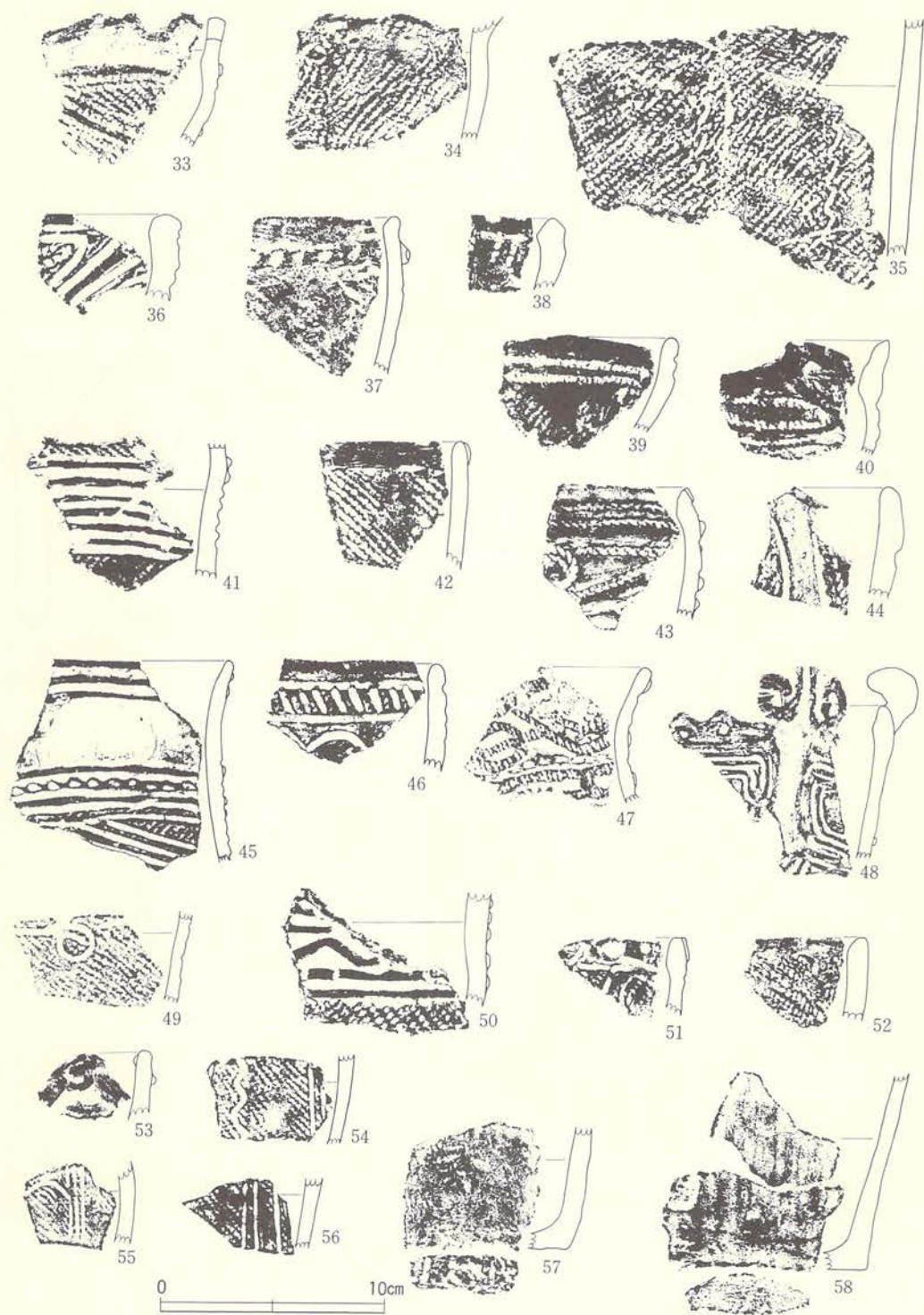
れる隆帯上に縄文を施文する例が2点ある (29、47)。詳細は下表の通りである。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面	深鉢	平縁、隆線区画三角文、隆線内側押圧縄文LR、口縁部LRヨコ、体部結束羽状縄文タテ、LRのみ、末端結節片結び
2	〃	〃	平縁、1/2欠、隆線三角形区画、両側に押圧縄文LR「の」字文、LRタテ
3	〃	〃	頸部の隆線の内側と円形貼付文に押圧縄文LR、体部LRヨコ、底部ヘラ整形
4・31	〃	浅鉢	平縁、口縁部隆線による楕円、菱形文、押圧縄文のLRの弧文、「の」字文他、大夫LRタテ内面・底部ヘラミガキ
5	〃	〃	平縁、口縁部ヨコナデ、体部LRヨコ
6	〃	深鉢	体部下半ヘラミガキ、内面炭化物、底部網代の上からミガキ
7	〃	〃	体部下半、底部網代の上からナデ、LRタテ
8	〃	〃	体部下半、底部ナデ、LRヨコ
9	〃	〃	体部下半ミガキ、底部網代の上からヘラ整形
10	〃	〃	体部下半、底部ミガキ、LRタテ

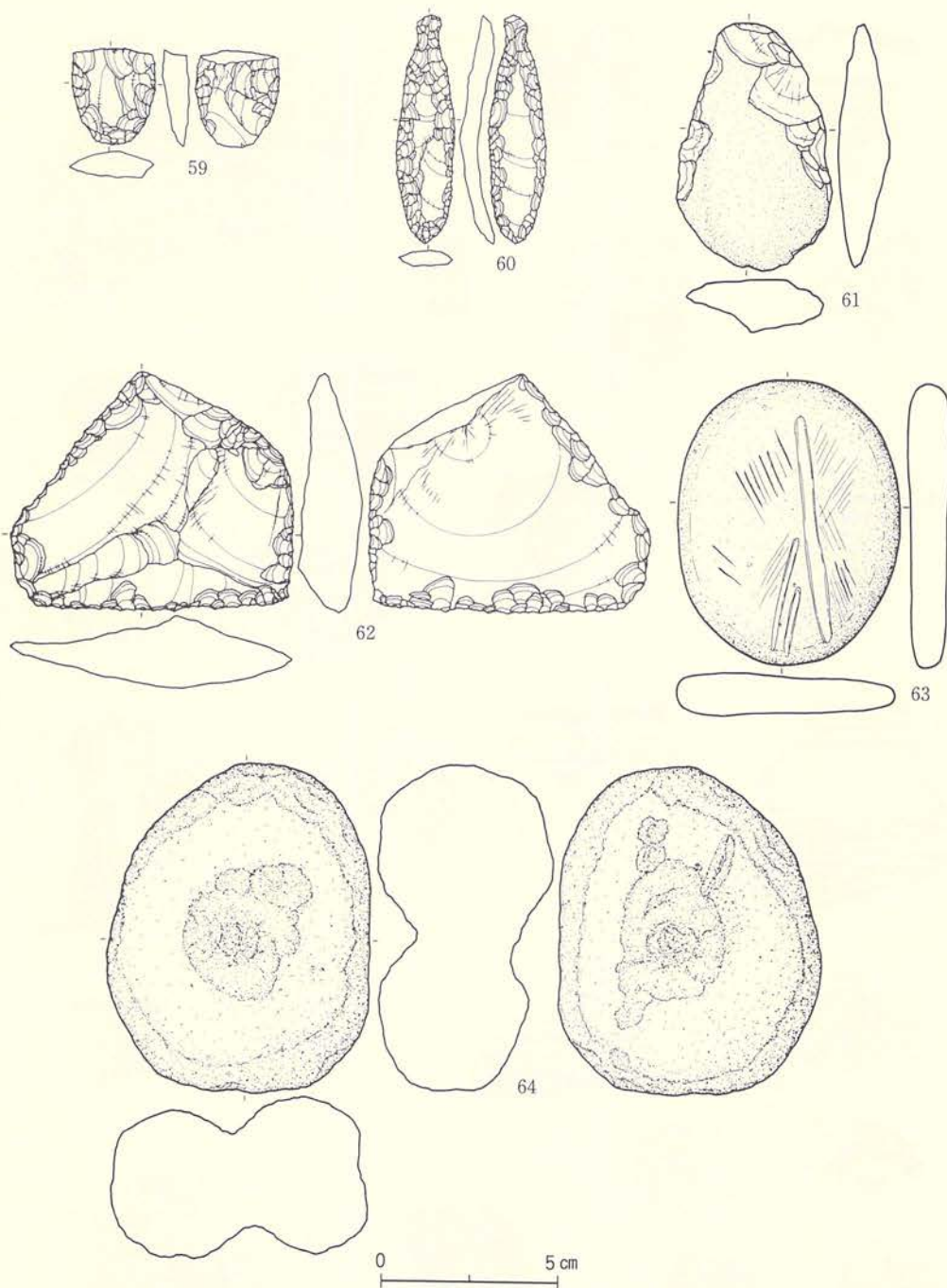
No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
11	壁際	深鉢	体部上半、隆線貼付「X」「の」字状、RLタテ
12	床やや上	浅鉢	口縁小さな山形突起、頸部と波状隆線の両側に押圧縄文LR、底部ミガキ、体部LRヨコ
13	床面	深鉢	平縁、口縁部「X」状貼付、隆線2本のうち上縁に刻目、沈線波状文、「の」字文、末端結節、LRヨコ、含金雲母
14	〃	浅鉢	波状口縁、弧状「の」字状押圧縄文LR、体部LRヨコ
15	〃	小形鉢	波状口縁、ゆるい弧状、山形の押圧縄文LR
16・17	〃	浅鉢	平縁、同一個体、口縁部隆線間に波状の押圧縄文LR、体部弧状隆線の内側、押圧縄文
18	〃	深鉢	平縁、口縁部楕円形貼付に刻目、沈線施文
19	〃	〃	小波状口縁、平行沈線間に5本の波状沈線、肩部連弧文
20	〃	〃	平縁、2本の平行隆線と3本の縦隆線、LRヨコ
21	〃	〃	波状口縁、2本の太い押圧縄文LR
22	〃	〃	波状口縁、押圧縄文LRによる平行「の」字連弧文
23	〃	〃	体部、沈線による波状、連弧、「の」字文他、LRヨコ
24	〃	〃	波状口縁、頂部平行沈線の下に「の」字文、口縁に沿う沈線
25	〃	〃	波状口縁、頂部平行沈線の下に「の」字文、口縁に沿う沈線、RLヨコ
26	〃	〃	平縁、口縁部刻目の突帯、両側に押圧縄文、その下足の長い押圧連弧文LR、LRヨコ
27	床面	深鉢	体部、2本沈線三角・楕円形の文様、結束羽状縄文タテ
28	〃	〃	体部、沈線施文「の」字、三角形文？LRヨコ
29	〃	〃	波状口縁、平坦な頂部下に円穿、粘土帯にも縄文LR
30	〃	〃	橋状突起、粘土紐四方形の中央に円文貼付
32	〃	〃	体部下半、片側結節縄文RLタテ
33	〃	浅鉢	ゆるやかな波状口縁、一部に半円の抉り、隆線に沿って押圧縄文LR、体部LRタテ
34	〃	深鉢	体部上半、末端結節RLタテ
35	〃	〃	体部、結節RLタテ
36	〃	〃	平縁、沈線文、LRヨコ
37	〃	〃	小波状口縁、突帯に刻目、LRタテ
38	〃	〃	波状口縁、縦に貼付、押圧縄文RLタテ
39	〃	浅鉢	平縁、口縁2本の押圧縄文、「の」字文LR、体部LRヨコ
40	〃	深鉢	波状口縁、隆線「X」状、押圧縄文LR
41	P9埋土	〃	体部、上端の2本隆線他は沈線、RLヨコ・タテ
42	〃	〃	平縁、粗製、口唇部貼付、LRタテ
43	埋土	〃	平縁、隆線両側押圧縄文、渦文、LR
44	〃	〃	波状文、細い頂部の左側沈線、右側隆線に沿って押圧縄文LR
45	〃	〃	平縁、無文帯、隆線貼付、隆帯に鎖状刺突、体部沈線文、RLタテ
46	〃	〃	平縁、平行沈線間斜めのスリット、連弧文、LRヨコ、含金雲母
47	〃	〃	波状口縁、粘土紐貼付上に押圧縄文LRタテ、頸部隆帯の上下に刺突列
48	〃	〃	小波状口縁に嚙状突起、波頂下穿孔、頂部両側から刺突、隆線区画、内側沈線、含金雲母
49	〃	〃	体部、沈線「の」字文、LRタテ
50	〃	〃	体部上半、平行隆線間はナデ、間に波状文、RLヨコ
51	〃	〃	平縁、口縁部突帯に指頭圧痕、沈線、円文、原体不明
52	〃	〃	平縁、粗製、RLヨコ
53	炉上	小形鉢	波状口縁、頂部の表裏に馬蹄形の貼付
54-56	埋土	〃	体部、沈線縦展開LRタテ
57	〃	深鉢	体部下半、縄文の上からミガキ、底部網代痕
58	〃	〃	体部下半、ヘラミガキタテ、底部網代の上からナデ



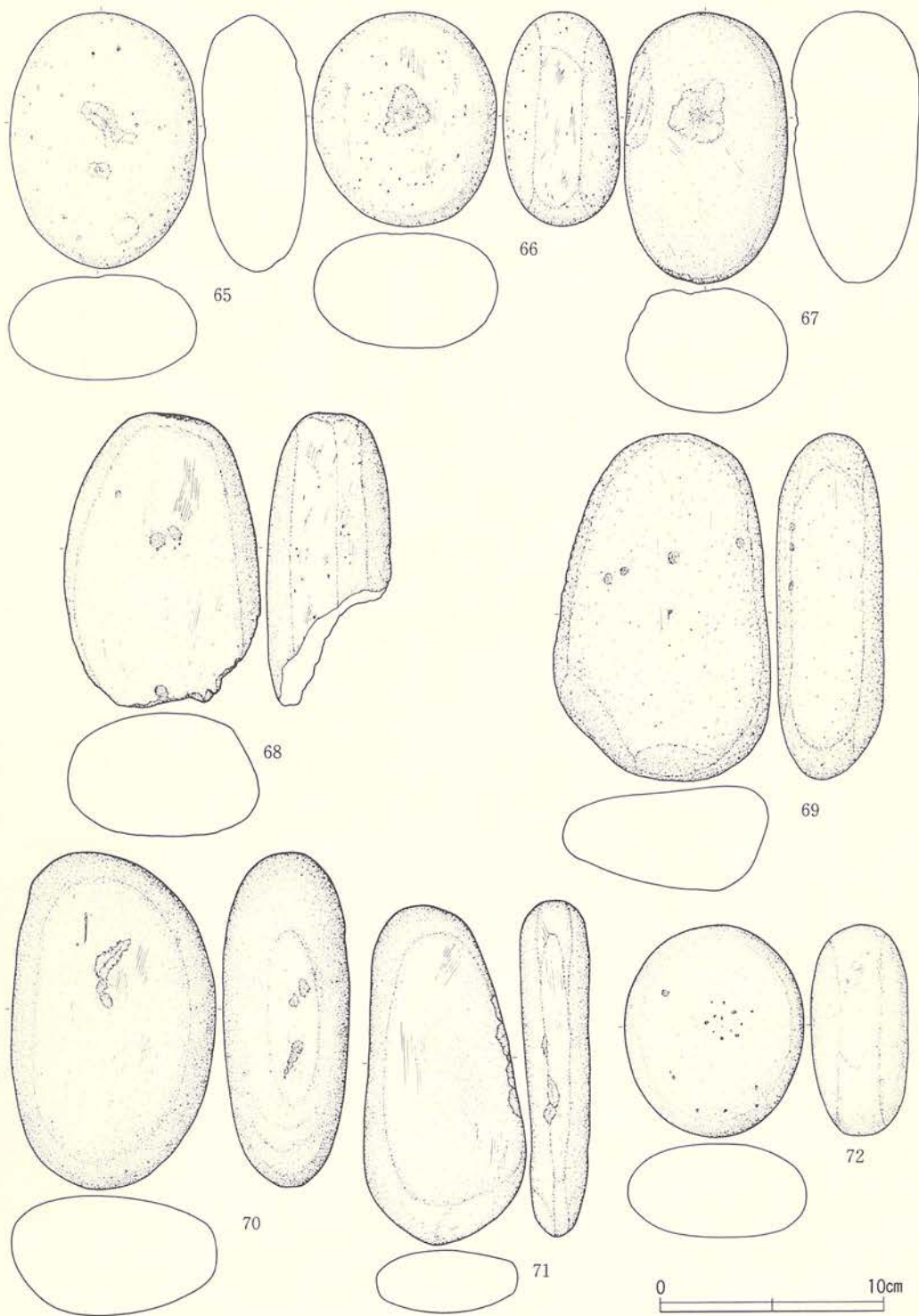
第69图 II H-4号住居跡遺物(3)



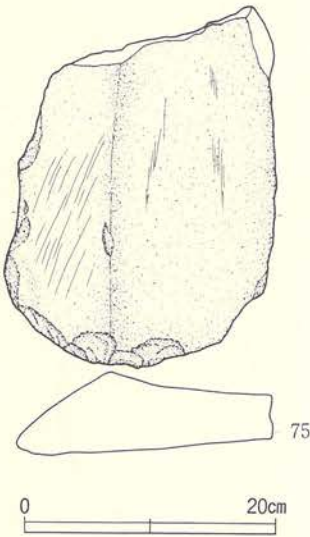
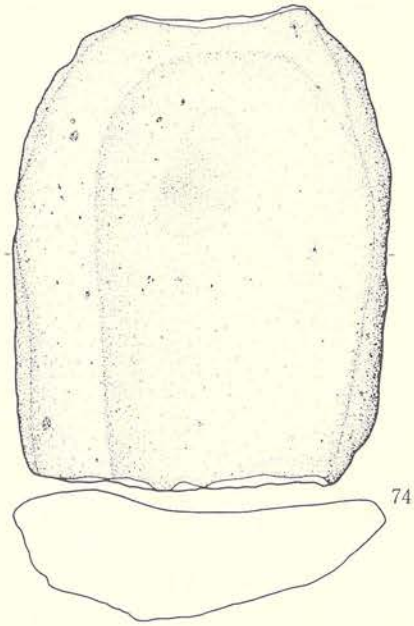
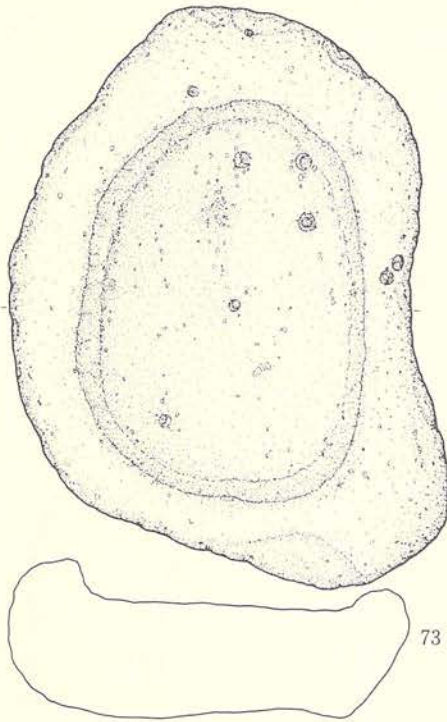
第70图 II H-4号住居跡遺物(4)



第71图 II H-4号住居跡遺物(5)



第72図 II H-4号住居跡遺物(6)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
59	石槍	床面	(2.7)	2.4	0.8	6.12	珪質細粒凝灰岩
60	石匙	埋土	6.45	1.65	0.5	7.19	珪質泥岩
61	石斧	埋土柱穴	7.0	4.4	1.5	44	粘板岩
62	有刃不定形	床面	(6.8)	8.05	2.0	95	珪質泥岩
63	裝飾品	床面	8.1	6.25	1.2	72.41	淡綠色凝灰岩
64	凹石	床面	9.35	7.4	5.0	323	両輝石安山岩
65	擦石	床面	11.5	8.4	4.7	653	両輝石安山岩
66	擦石	床面	9.6	8.2	5.15	577	両輝石安山岩
67	凹石	床面	12.2	7.35	5.75	743	両輝石安山岩
68	擦石	床面	(13.15)	8.8	5.6	757	両輝石安山岩
69	擦石	周溝及柱穴(西端)埋土	15.5	9.7	4.75	975	両輝石安山岩
70	擦石	床直	15.1	9.2	5.7	1123	凝灰質砂岩
71	半円状偏平石	床面	15.2	8.9	4.6	490	綠色凝灰岩
72	擦石	床面	9.5	8.05	4.4	481	両輝石安山岩
73	石皿	床面	46.6	35.2	12.7	15800	デイサイト質凝灰岩
74	石皿	床面	(38.8)	30.3	10.6	19750	両輝石安山岩
75	石皿	炉石(皿転用)	(29.0)	(21.8)	6.8	5500	両輝石安山岩

第73図 II H-4号住居跡遺物(7)

〈石器〉59は両面加工のエンドスクレイパー、60は両面の両側に剥離を持つ石匙。61は柱穴内出土で片側に自然面を残し刃部は厚く、裏面は一部剥落。62は台形状の剥片の表裏三辺に調整を加えたを刃器。63は周辺を擦上げた偏平な礫で縦に大小の溝と擦痕が走る。装飾品の未完成品か。64～67は凹石で64は両面を、66は側面を擦っている。68～72は両面と一方の側面に擦痕のある擦石で69は先端部に敲き痕がある。71の側面には小さな剥離面があり、その上から擦っている。73～75は石皿で、73は炉の南側、5号柱の壁上に伏せた状態で出土した。楕円形の窪みをもつが周辺と裏面は加工していない。74も同様で中央が窪んでおり上下が欠損している。西側の壁、周溝の上に伏せられていた。75は炉石に転用されていたもので加熱されている。74と同じ形である。

〈時期〉床面出土の土器はほとんどが大木7b式であり、縄文時代中期に属する。

Ⅱ H-5 住居跡（第74図、写真図版52）

〈検出状況〉Ⅱ H-4号住居床面検出中に暗褐色土の拡がりとして確認された。半分以上が道路の下にある。Ⅱ H-6号住居を截って内側にあり、4号柱の貼床を截って構築されており3棟のなかでは最も新しい時期に属する。6号住居の壁と床面を当住居のテラスあるいは縮小とする説は4号柱との截合関係からして成り立たない。

〈形状・規模〉径5.0m前後の隅丸形状と推定される。北東側は緩斜面で流失しており検出できなかった。

〈埋土〉検出面が浅く、道路下も舗装の際に攪乱されており図化できなかった。他の住居と同様、暗褐色から明褐色に変化する。

〈壁・床面〉ほぼ垂直に立ち上がる壁で、壁高は15～20cmを測る。4号柱の床面までは60～70cmある。床はほぼ平坦で硬くしまっている。

〈柱穴〉支柱穴は深さ40cm台のP₄₋₁₃が対応する4本とおもわれるが確証に乏しい。壁際の柱穴はP₈を除いて支柱穴と思われる。P₅₋₆間のみ溝があり、位置は異なるが4号住居と全く同じである。入口遺構として促えたい。

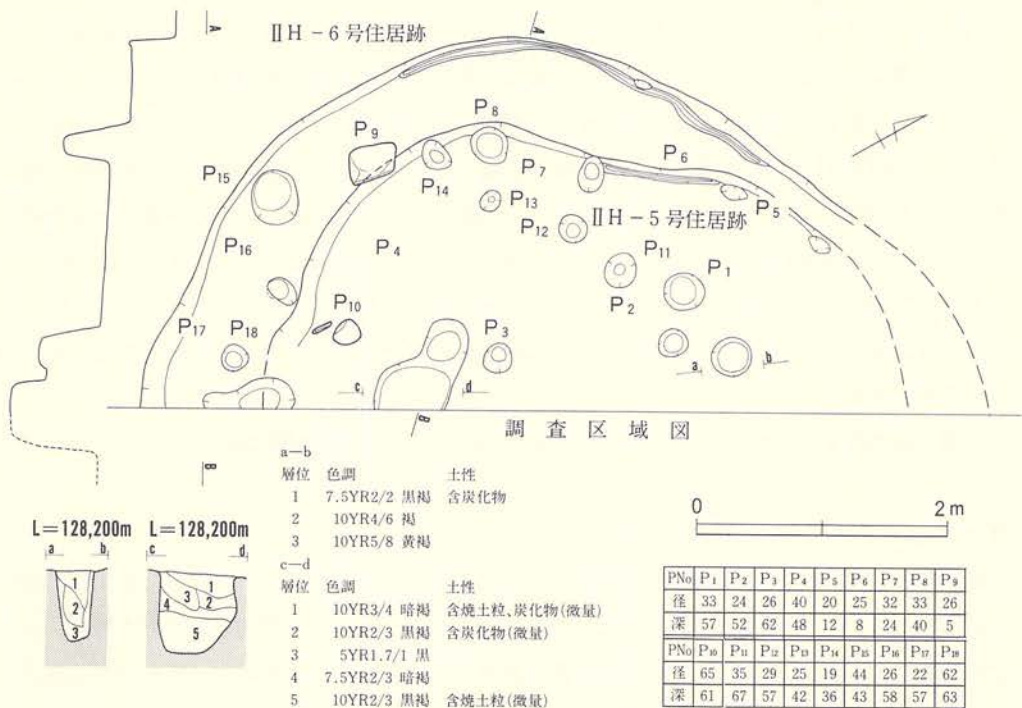
〈炉〉道路下に存在すると思われるが調査区外なので未調査。

〈その他〉床面南側、道路下にかかって短径55、深さ60cmの土壇がある。埋土は自然堆積で中からは土器片（19、20、29）が出土した。

遺物（第75～76図、写真図版53、54）

〈出土状況〉床面から出土した遺物は無く、すべて埋土中である。埋土自体もかなりの部分削平されており、出土した遺物は埋土下部に相当する。

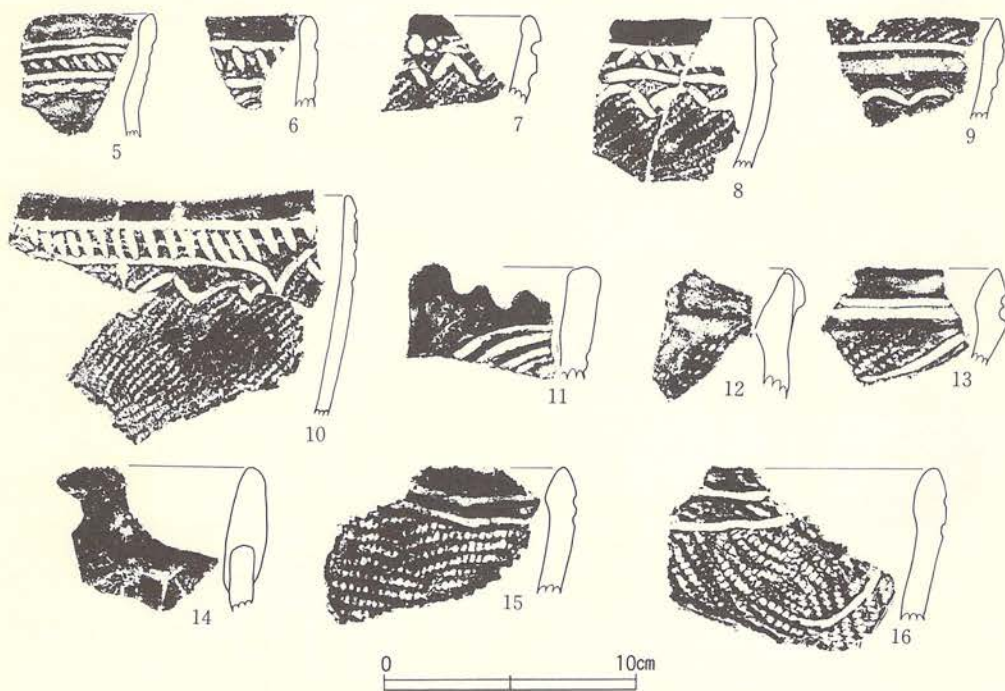
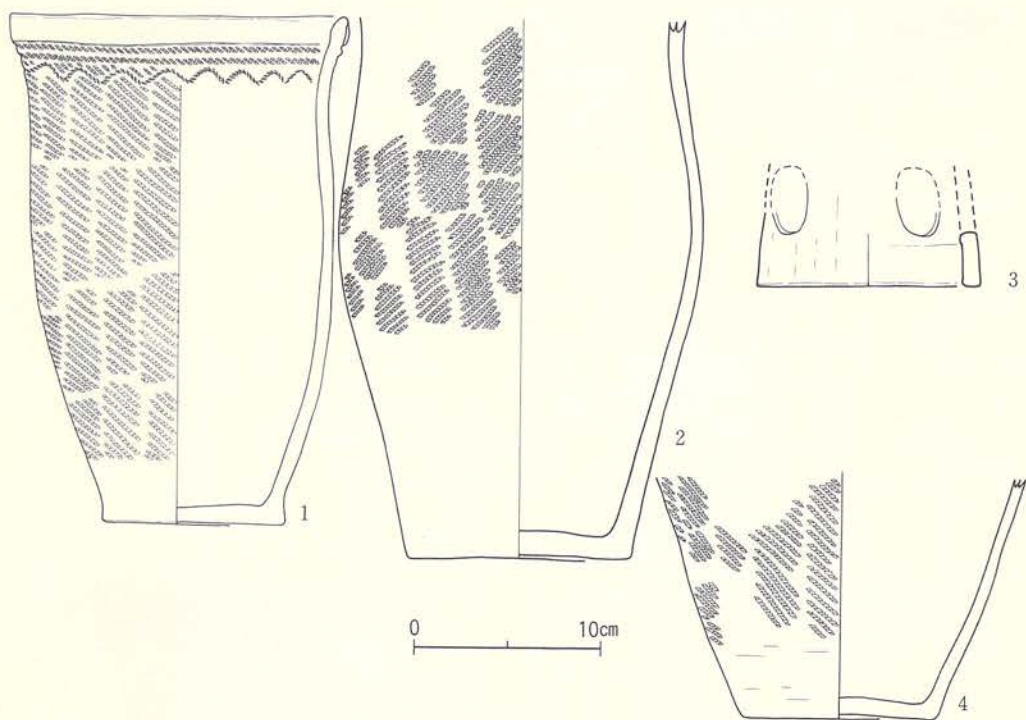
〈土器〉深鉢、浅鉢、小形鉢からなる。3は円形の透かしのある脚部で他に類例はなく、この



第74図 II H-5・6号住居跡

1点のみである。沈線、押圧縄文が多く隆線施文は少ない。縄文原体はLRが多く、回転方向は体部でヨコが比較的多い。詳細は次表の通りである。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	埋土	深鉢	平縁、頸部に押圧縄文LRの平行線、波状文、体部LRタテ、底部ヘラ
2	〃	〃	体部、下半ヘラミガキ、上半RLタテ、底部ナデ
3	〃	台付鉢	脚部、5～6個の円形穿孔、粗いヘラケズリ、内面無調整
4	〃	深鉢	体部、LRタテ、底部ヘラナデ
5	〃	〃	平縁、平行沈線間に斜めの刻目、下に波状
6	〃	〃	平縁、平行沈線間に斜め刻目、下波状か、原体不明
7	〃	〃	平縁、口縁飛ぶ深い刺突の右側交互刺突状、その下連続山形文、LRヨコ
8	〃	〃	平縁、口縁部の刻目一部は「ハ」字状、連続山形文、LRヨコ、7とは別個体
9	〃	〃	平縁、太い平行沈線下に連弧文、縄文口縁部LRヨコ
10	〃	〃	平縁、沈線間に斜めの刻目、その下連続山形文？LRヨコ
11	埋土	深鉢	波状、頂部波形、左右対称か、沈線、含金雲母
12	〃	〃	波状、隆線貼付、LRタテ
13	〃	〃	平縁、口縁部平行沈線、その下波状？LRヨコ
14	〃	〃	波状口縁、頂部喙状、隆線貼付、LRヨコ
15・16	〃	〃	平縁、同一個体、口縁下揃いの平行沈線、体部に曲沈線、LRタテ、ナナメ
17・18	〃	浅鉢	平縁、口縁部にゆるやかな波状押圧縄文LR、体部にも押圧
19	〃	深鉢	平縁、隆線区画文の中に押圧縄文LR、体部LRタテ
20	土坑埋土	〃	波状口縁、口唇部太い隆帯波状「の」字状貼付に押圧縄文RL、隆線に沿って刺突列、RLタテ
21	〃	〃	体部、平行隆線、円文、隆線に沿って押圧縄文LR、体部LRタテ



第75图 II H-5号住居跡遺物(1)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
31	石製品	壁上	16.0	10.45	1.15	280	淡綠色、凝灰岩

第76図 II H-5号住居跡遺物(2)・II H-6号住居跡遺物

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
22	埋土	深鉢	頸部～体部、LRタテ
23	ク	ク	頸部、隆線に沿って押圧縄文LR、体部LRヨコ
24	ク	ク	体部、結束羽縄文タテ
25	ク	ク	体部下半、LRナナメ
26	ク	ク	体部下半、一方の末端結節縄文LRタテ
27	ク	ク	体部下半、隆線貼付、RLタテ、底部ヘラミガキ
28	埋土	ク	体部下半～底部、ナデ、内面炭化物
29	土坑埋土	ク	底部、網代の上からナデ
30	埋土	ク	体部下半～底部ミガキ

ⅡH-6 住

32	柱穴埋土	深鉢	波状口縁、口縁部押圧縄文LR、隆線貼付、LRヨコ
----	------	----	--------------------------

〈石製品〉利器の類はなく、31が壁上、6号住の床面にかかって出土した。6号柱の遺物の可能性もあるが、壁際であり6号住が攪乱著しく遺物が殆ど無いことなどから、当住居の遺物であると判断した。隅丸形形状の扁平な凝灰岩で表裏、周辺を丁寧に擦っているが下方は粗割りのままで、無整形である。装飾品あるいは岩版等の未製品であろう。

〈時期〉埋土下層の土器は大部分が大木7b式であり、当住居は該期かそれより古い縄文時代中期に属する。

ⅡH-6号住居跡（第74図、写真図版52）

〈検出状況〉5号住居跡の壁面検出中に床面を確認、併せて4号住が貼床であることが判明しプランを検出することができた。3棟の中では最も古い時期に属する。

〈埋土〉5、6号住と同様の理由で図化できなかった。

〈壁・床面〉西側の面を検出したのみであるが、壁高15～30cmでほぼ垂直に立つ。床面は北東に向かって少し傾斜するが硬くしまっている。西側に5号住と同様、部分的な周溝巡るがピットは見当たらなかった。

〈柱穴〉規模からすると4または6本柱が想定される。柱穴底面のベルが近似するものを選ぶと北側ではP_{1,12,8}あるいはP_{8,11}が対応すると考えられる。

〈炉〉5号柱に削平されており不明。

遺物（第76図-32）

〈出土状況〉P₁₈の埋土中から土器3片が出土したのみである。2片は無文で1片のみ図示した。

〈土器〉波状の口縁部に押圧縄文が一段めぐり、その下は斜めの隆線貼付文の小形の深鉢である。

〈時期〉柱穴内の土器は大期7式であり、これと同じ時期かやや古い時期に相当、縄文時代中期に属する。

Ⅱ J-1号住居跡（第77、78図、写真図版55）

〈検出状況〉調査区の東側、Ⅱ J区のはほぼ中央で表土除去後、遺物の集中する地点を検出。遺構と想定して精査した結果、住居跡と判明したが埋土が浅く壁は部分的にしか確認できなかった。Ⅰ I、Ⅰ J、Ⅱ I、Ⅱ J区周辺は中期の遺構、遺物は少なく、当住居のみが孤立しているが南側に拡がる可能性はある。当住居から10m東は熊沢の急崖となっている。

〈形状・規模〉長径8.12、短径7.65mの円形に近い形状である。東側は壁を検出できなかった。炉の位置、柱穴配置からすると建替えの可能性が高い。

〈埋土〉5層に分類できる自然堆積土である。表土は黒褐色土、上層は黒色土、中層は暗褐色土、下層は褐色土である。4層には汚れた火山灰が混じる。0層はP₂₃を埋め戻した汚れた褐色土である。

〈壁・床面〉壁高10cm未満が殆どで、北側の一部では壁柱穴と想定して壁をきめた箇所もある。床面は硬くしまっているが凹凸がある。

〈柱穴〉23個のピットを検出した。主柱穴と推定されるものには深さに二種類ある。前者は30-50cm前後で、一号炉を囲むP_{2・4・22・23}の4本。後者は深さ70~120cm前後のP_{8・10・12・13}の一群である。前者に伴うP₂₃は人為的に埋められており、後者の方が新しい。これら以外にも深さ100cmを越す柱穴は数本あり、P₉、P₁₀は99cmと118cmで載り合っており、さらなる建替の可能性もある。それは、P_{8・10・13}の埋土のから土器が出土することからも充分考えられる。

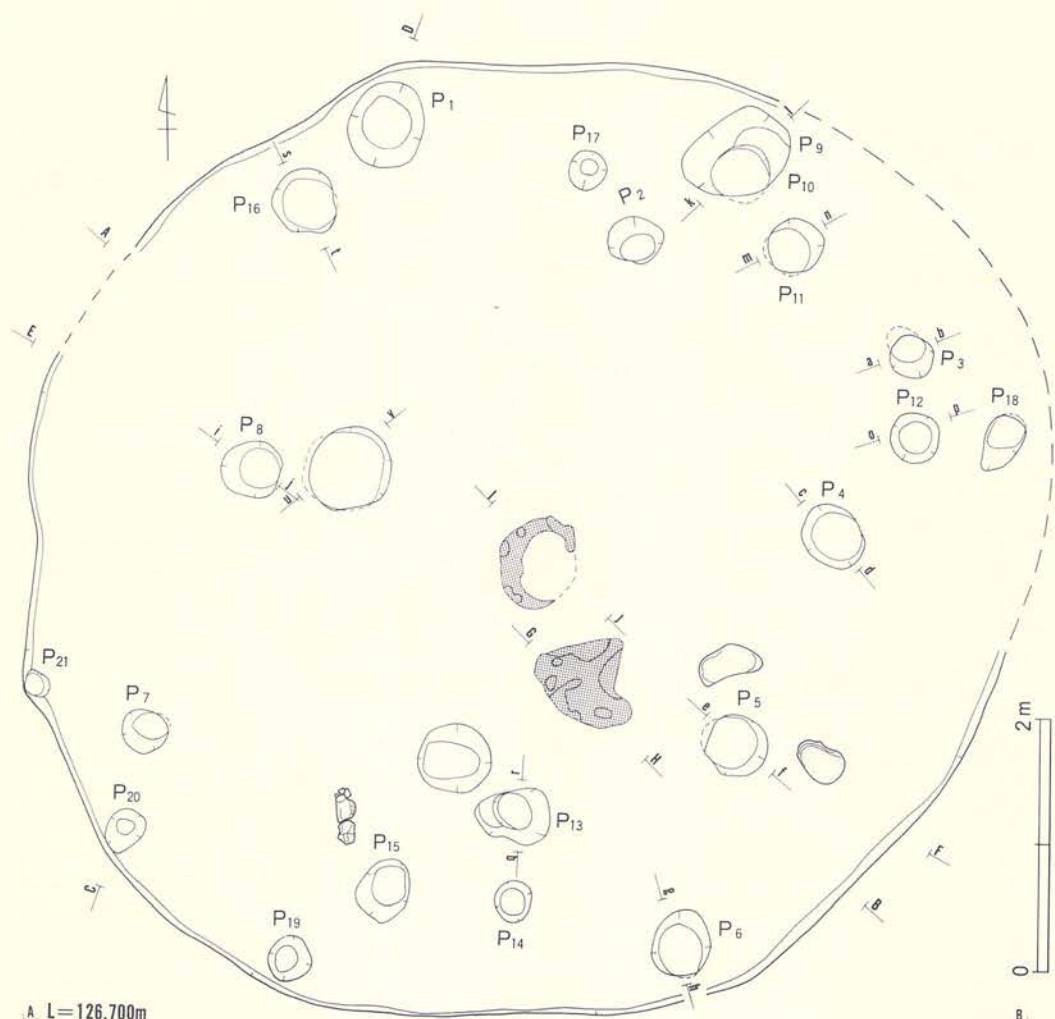
〈炉〉中央に位置する1号炉と、その東南に位置する2号炉の二基が検出された。1号炉の焼土・炭化物の範囲は62×57cmの楕円形であったと思われるが、東側は攪乱されており、西側もブロック状で原位置を留めていない状況である。掘り方は1m前後である。2号炉の焼土・炭化物は70×70cmの三角状に分布し、焼土は中央にレンズ状に入る。掘り方は径120cm前後の円形状である。焼土の在り方からすると1号炉が古く、2号炉が新しいが、後者は位置的に中央部からずれることになる。2基とも炉石の痕跡はなく地床炉である。

遺物（第79~82図、写真図版56~57）

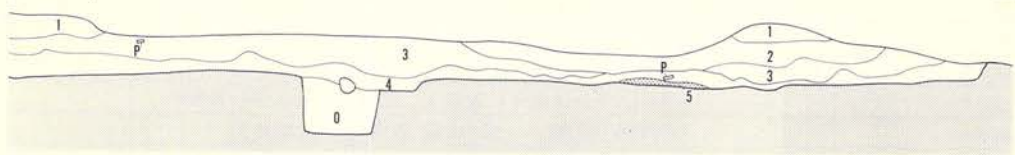
〈出土状況〉埋土中から万遍なく出土しているが、土器の完形品はない。床面、埋土下層中にまとまりのある土器片を検出しナンバーを付したが、いずれも接合しない別個体であった。2号炉の北に接して1の深鉢が出土。53以下の土器は柱穴埋土出土で、P_{8・9}中の57と58は接合する。柱穴内に遺物の多いことは、建替や拡張の可能性の高いことを示しているよう。

〈土器〉すべてが破片で、床面、埋土最下層の資料は少ない。埋土と表記した土器は、プラン検出前に出土したもので、1、2層にはこの時期の土器が若干混じる（20、41）。詳細は次表の通りである。

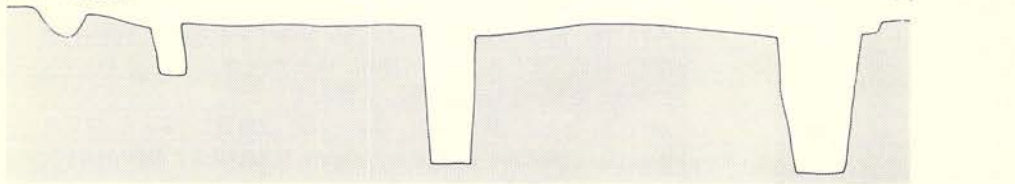
No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面	深鉢	波状口縁、2号や北側出土、沈線施文、頂部から文差する「L」状、沈線、末端円文、頸部上向き連弧文、口縁部貼付、体部貼付、部分的に末端結節
2	〃	〃	体部、隆沈線、LRタテ
3	〃	〃	体部、RLタテの上からナデ整形
4	埋土4層	〃	頸部付近、末端結節RLタテ
5	〃	〃	体部、結束羽状縄文タテ、底部ミガキ
6	埋土3層	〃	体部下半～底部、縄文(不明)の上からミガキ
7	〃	深鉢	波状口縁部隆帯貼付上に押圧縄文LR、地文LRタテ
8	〃	〃	平縁、口縁下2本平行沈線、その下弧状の沈線
9	〃	〃	波状口縁、頂部平坦、円形穿孔、隆沈線
10	〃	〃	体部、上部に細い沈線その下無文
11	〃	〃	体部～底部、縄文の上からナデ、原体不明、底部ミガキ
12	埋土2層	〃	口縁部片、斜めの刻目
13	〃	〃	波状口縁、頂部下に押圧縄文LRの「の」字状
14	〃	〃	平縁、粗製、口縁部折り返し、LRヨコの上からナデ
15	〃	〃	体部、結節縄文RLタテ
16	〃	小形鉢	体部上半、LRヨコ
17	埋土3層	深鉢	体部、結節縄文RLタテ
18・19	埋土2・4	〃	波状口縁、口縁下太い沈線3本RLヨコ
20	埋土2層	小形鉢	体部、平行沈線間に細かい縄文LRヨコ、晚期
21	〃	浅鉢	平縁、口縁部「X」状、円形貼付、押圧縄文LR
22	埋土	深鉢	平縁、口唇部部粘土帯剥落、縦に太い沈線
23	〃	〃	平縁、隆線貼付、LRタテ
24	〃	〃	波状口縁、頂部に深い押圧縄文LR、波状隆線貼付、LRヨコ、タテ
25	〃	〃	平縁、口縁部2本の押圧縄文LR
26	〃	〃	波状口縁、断面三角の隆線間に不規則波状文
27・31	埋土	深鉢	波状口縁、地文の上から平行沈線、LRヨコ
28	〃	〃	波状口縁、弧状の隆線に沿って沈線
29	〃	〃	平縁、沈線下に斜めの深いスリット
30	〃	〃	平縁、地文の上から平行沈線、LRタテ
32	〃	〃	体部、平行沈線下に山形・円文、RLナナム
33	〃	〃	体部、平行沈線下に連弧文、RLヨコ、32と同一個体か
34	〃	〃	口縁部、沈線、一部に隆線(剥落)、交互刺突文
35	〃	〃	弧波状口縁、ミガキ弧状の沈線
37・40	〃	〃	平縁「X」状沈線、原体不鮮明
38	〃	〃	波状口縁、頂部の口唇に一文字沈線、頂部下山形沈線、無節L斜め
39	〃	〃	体部、隆線「X」状に沿って沈線、LRナナム
41	〃	皿	口縁部B突起、平行沈線磨消、大洞BC式
42	〃	深鉢	波状口縁、頂部に二個の大突起、隆線菱形、沈線渦文、菱形文、LRヨコ
44	〃	〃	波状口縁、口縁に沿って隆線波状文、縦の弧状貼付(「X」状か)、LRヨコ
45	〃	〃	体部、2本隆線の上浅い連弧文、下菱形沈線、RLヨコ
46	〃	〃	波状口縁、平行押圧縄文LRの下に細い沈線
47	〃	〃	平縁、隆線の上下に平行押圧縄文LR
48	〃	〃	波状口縁、沈線文、RLヨコの上からナデ
49	〃	〃	体部、外面ミガキ、内面ナデ
50	〃	〃	体部、文様帯下端の波状文、結束羽状縄文タテ
51	〃	〃	平縁、無文



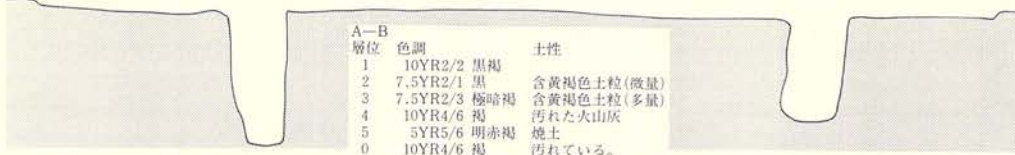
A L=126,700m



C L=126,300m

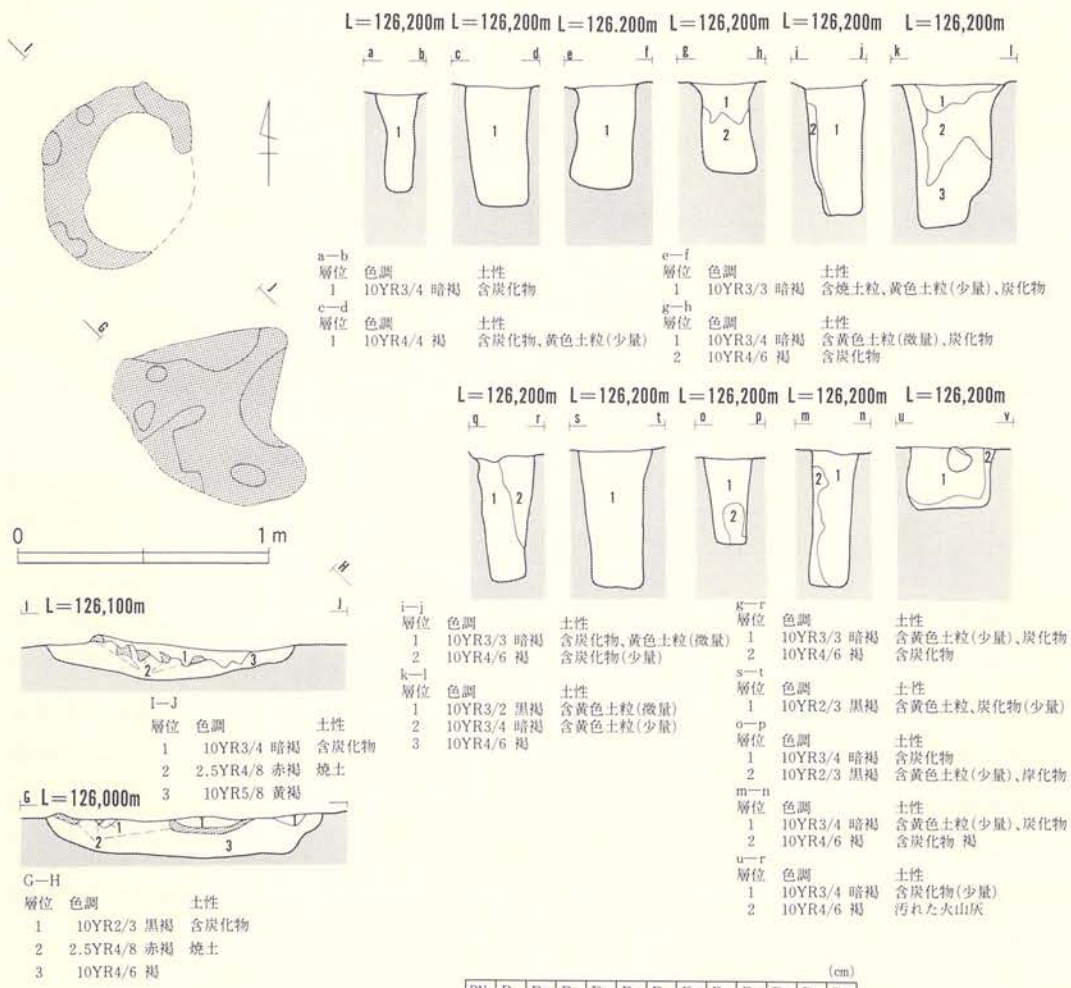


E L=126,200m



A-B	層位	色調	土性
	1	10YR2/2	黒褐
	2	7.5YR2/1	黒
	3	7.5YR2/3	極暗褐
	4	10YR4/6	褐
	5	5YR5/6	明赤褐
	0	10YR4/6	汚れている。
			含黄褐色土粒(微量)
			含黄褐色土粒(多量)
			汚れた火山灰
			焼土

第77図 II J-1号住居跡(1)



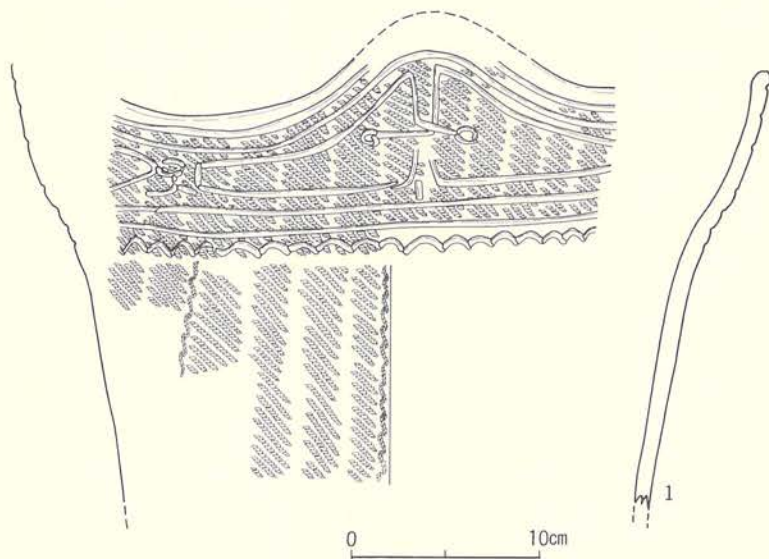
(cm)												
PN ₀	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	P ₅	P ₆	P ₇	P ₈	P ₉	P ₁₀	P ₁₁	P ₁₂
徑	72	47	35	54	50	57	40	47	91	91	46	42
深	111	41	80	96	84	73	42	111	99	118	110	70
PN ₀	P ₁₃	P ₁₄	P ₁₅	P ₁₆	P ₁₇	P ₁₈	P ₁₉	P ₂₀	P ₂₁	P ₂₂	P ₂₃	
徑	60	34	53	55	32	48	40	38	21	60	72	
深	105	19	40	111	40	52	54	17	9	28	50	

第78図 II J-1号住居跡(2)

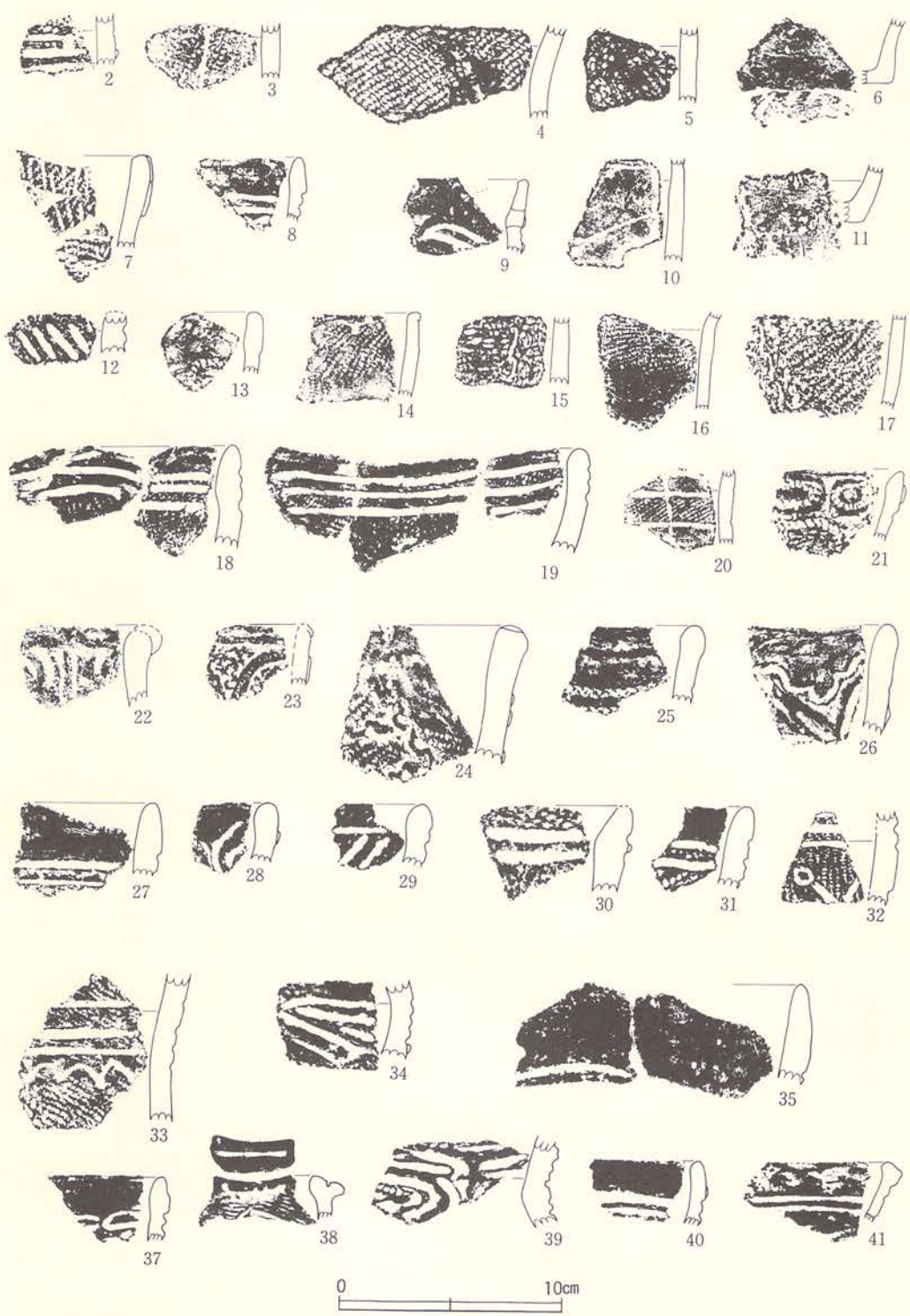
No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
52	埋土	深鉢	体部、無文、内面ナデ
53	P ₂ 埋土	〃	波状口縁、沈線三角文、中間に円文、RLヨコ、外面炭化物
55	P ₈ 埋土	〃	小波状口縁、波状隆帯に押圧縄文LR、LRタテ、ヨコ
56	〃	浅鉢	平縁、口唇部と突帯の間に押圧縄文LR、体部LRヨコ
57	P ₈ 埋土	深鉢	波状口縁、太い平行沈線、LRヨコ
58	P ₉ 埋土	〃	57と接合
59	〃	〃	体部、3本の平行沈線、LRヨコ
60	〃	〃	波状口縁、沈線2本
61	〃	〃	体部、深い沈線文、RLタテ
62	P ₁₀ 埋土	〃	体部、結節縄文LRタテ
63	〃	〃	体部、平行沈線下にLR押圧縄文弧状
64	P ₁₁ 埋土	〃	平縁、押圧縄文LR平行に四段
65・66	〃	〃	体部、LRタテ
67	〃	〃	体部下半、LRタテ
68	P ₁₃ 埋土	〃	体部、隆沈線、原体不明
69	〃	〃	体部、結束RLタテ
70	P ₄ 埋土	〃	体部下半～底部、外面ミガキ、内面、底部ヘラ整形

〈石器〉1層から床面まで数は少ないが出土している。71は3層の石鏃で、身は厚く茎は一方に寄る。72はP₁埋土中で石筥あるいは石槍の基部とおもわれるもの。73も同じくP₁₁の埋土から剥片の二辺に調整を加えた刃器。74は粘板岩製の石鏃で基部は丸く調整しているが、刃は鈍い。75は扁平な自然石の周辺を打ち欠いただけの粗い石斧で、基部は折損。76、77は一方の側面を使用しているの擦石で、両者とも周囲に剥離痕を持つ。78は床面出土の石核で上下、左右に規則性のない打点が残る。

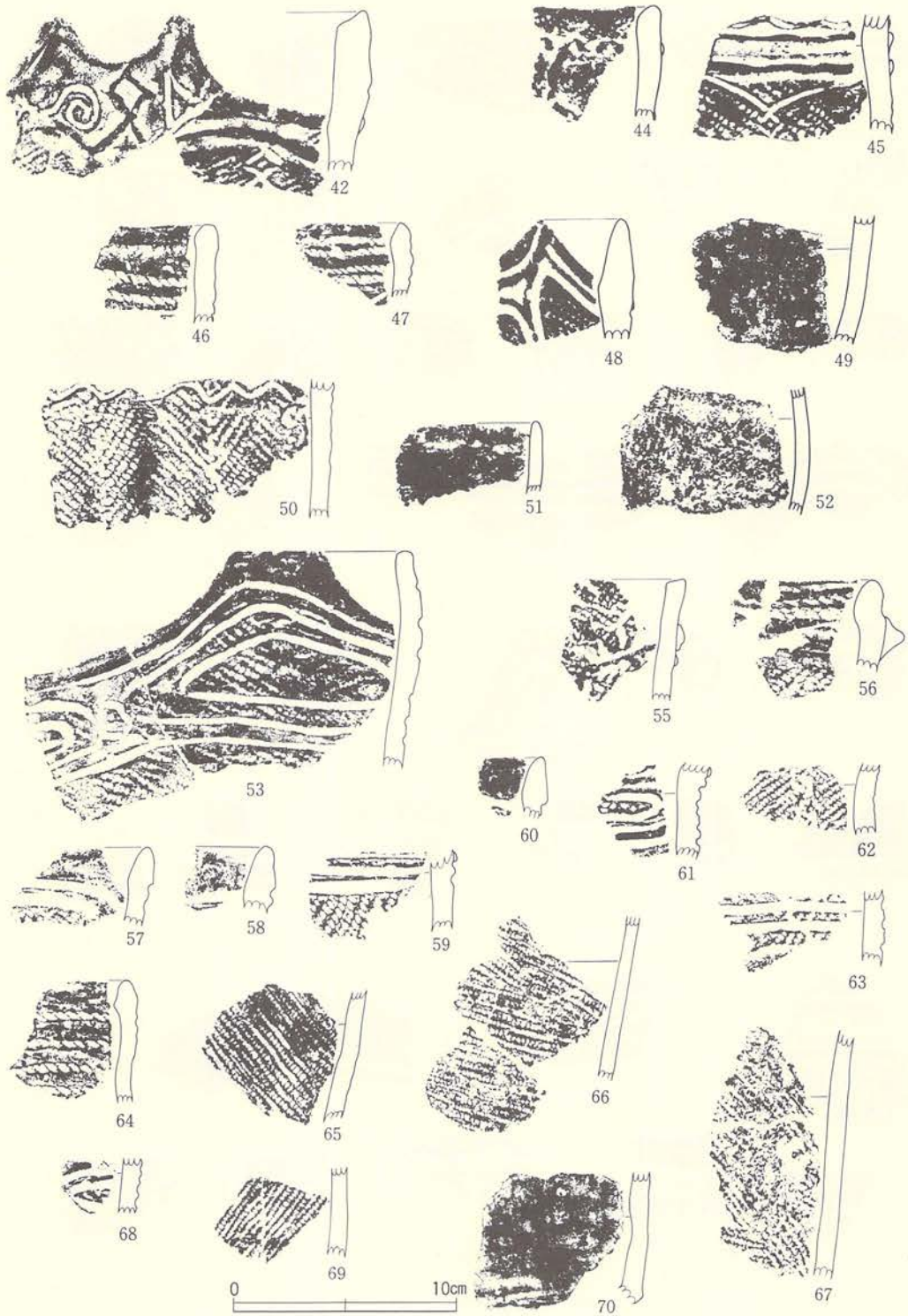
〈時期〉床面、埋土下層、柱穴から出土する土器の殆どは大木7b式であり、縄文時代中期に属する。



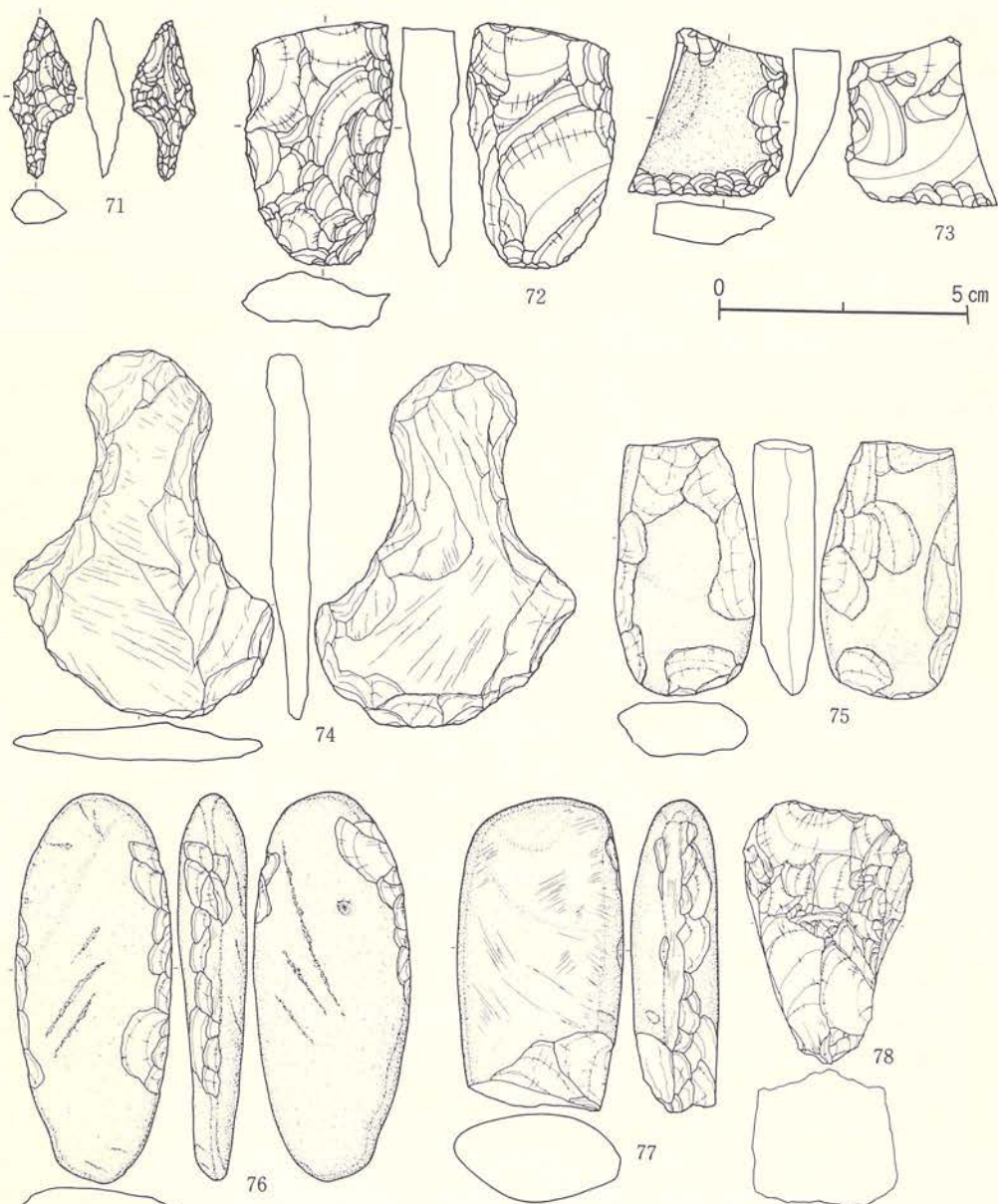
第79図 II J-1号住居跡遺物(1)



第80图 II J-1号住居跡遺物(2)



第81图 II J-1号住居跡遺物(3)



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
71	石鏃	3層	3.2	1.35	0.8	1.90	流紋岩
72	石篋	P ₁ 埋土	(4.9)	3.0	1.2	22.74	流紋岩
73	有刃不定形	P _{II} 埋土	(3.35)	(3.1)	0.95	10.01	珉質泥岩
74	石鏃	埋土	14.7	10.4	2.0	216	粘板岩
75	石斧	1層	(10.3)	5.65	2.5	233	綠色凝灰岩
76	半円状扁平石器	床面	15.6	6.3	2.8	279	綠色凝灰岩
77	半円状扁平石器	1層	(12.4)	6.65	3.5	435	綠色凝灰岩
78	石核	床面	10.55	6.8	5.6	430	流紋岩

第82図 II J-1号住居跡遺物(4)

(2) 土壌類

調査区全体にわたってフラスコピット、礫を伴う土壌（集石土壌）、円・楕円・隅丸方形土壌、方形土壌が検出された。これらの分布は一様ではなく、時期もまた複数期にわたっているので土壌の形態毎に記述する。

ア. フラスコピット（第83～86図、写真図版58・59）

3基を検出したがⅠC、ⅡH、ⅡG区からそれぞれ1基ずつで、地域も離れており集中する傾向は見られない。形状、規模もそれぞれことなり、特にⅡH-1号は西側に大きな副穴があり、この埋土から多量の炭化物が出土し、その中から数点の植物種子を抽出した。パリーノ・サーヴェイ株式会社分析結果は下記の通りである。

分析結果1

1. 試料

試料は、本郷遺跡HⅡ1号フラスコ状ピット内より得られたものである。多くの炭化材破片とともに数点の炭化種子が検出された。属する時代は、縄文時代（中期）である。

保存状態は炭化し、表面の特徴が失われているため、良好とはいえない。

同定した種子は分類しビニール袋に、種子以外の炭化物片はそのままシャーレに入れた。

2. 方法

種子同定方法は、実体顕微鏡を用いて観察した。

3. 結果・考察

本遺跡から得られた大型植物遺体は、多くの炭化材破片に混じって炭化状態で産出した。個体数も多くなく、その保存状態も発泡したりして良くない。

組成はマメ類としたもの以外、外形の特徴が不十分なため、同定には至らず詳しいことは不明である。

炭化材破片が多かったことから推定すると、食糧とした大型種子のみを焼いたのではなく、むしろ火を受けた後に投棄されたものであると考えられる。

以下に各種類の特徴を述べる。

・マメ類 (Leguminosae)種子

炭化した種子(1粒)が得られた。完形ではないが、側面観・上面観とも楕円形。長さ4mm、幅2.9mm、厚さ2.2mm程度。「へそ」の部分は破損し、不明。外形・大きさなどの特徴によりマメ類とした。

・不明A (Undetermined A)

炭化した個体(2粒)が得られた。直径2mm程度の球形。外表面の特徴は不明。

一般に遺跡から産出する大型植物遺体の中で、直径2mm程度の球形のものは、エゴマ類・シソ類・アブラナ類などがあるが、本標本は表面の特徴が不明かつ部分的に破損しているため、同定には至らない。

・不明B (Undetermined B)

炭化した不完全な個体(数片)が得られた。側面観は楕円形、上面観は円形。長さ3.5mm、幅2.7mm程度。表面の特徴は不明である。

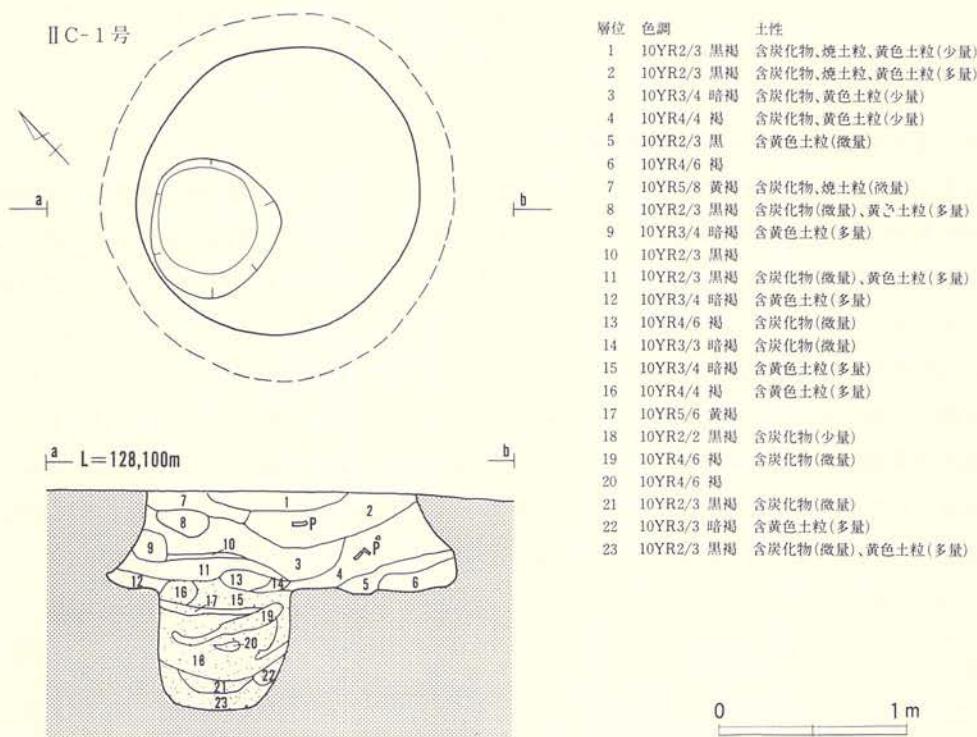
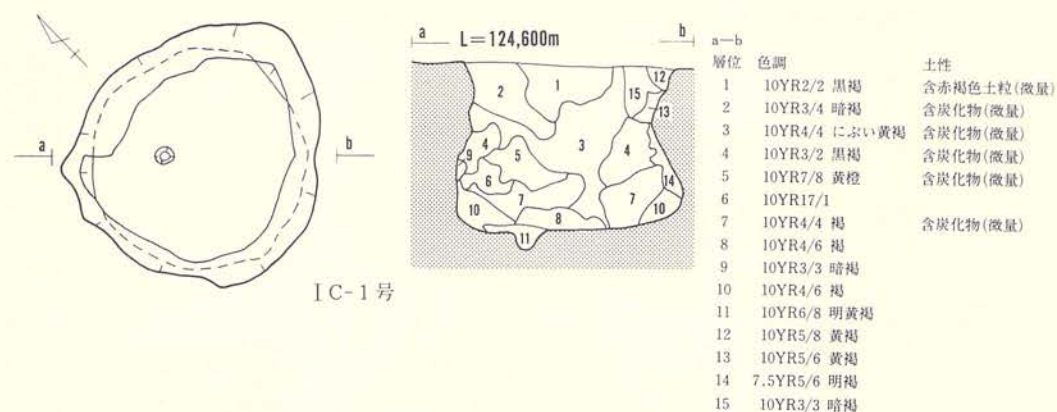
3基の詳細なデータは下表の通りである。

遺構名	形状	規模(cm)	埋土	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ				写真
I C-1	上面不正形 10×10cmの 副穴	130×110×86	上層から黒～褐～黄褐色土 の変化は住居の埋土と同様 の傾向を示す。	なし。	不明	83
II G-1	楕円形	118×208×122	II G-8号住を載っている。 東から西への自然堆積。	埋土下層から土器片3、擦石1の4点が出土。1 は山形沈線に突起LR。2は結節ヨコ、3は結東羽 状縄文、4は片面を使用した擦石。	大木7式	86 58、59
II H-1	円形・副穴 あり	145×186×52 72×50×64	上部は旧道によって削平、 副穴は人為的。フラスコ部 は自然堆積。	4～2層出集中的に出土。1・3～7は4層出土ま で、1・4・5は同一固体。結節縄文の上に隆帯・ 刻目・突起。3は頂部に刻目・タテの結節。1と同 様の突起、6・7は沈線施文、4層の上層はすべて 沈線文様。8～12は3層。8は押圧縄文、9は頸部 交互刺突状、12は浅鉢、3層は押圧縄文、沈線、結 節、縄文の文様、13～17は2層、19～21は他の埋土、 2層は押圧縄文、結節縄文多いが、19は唯一隆沈線 施文、16は浅鉢、22は大形剥片の両側に微細な調整。 23は片面擦痕・側面に敲痕。24は片面と側面、25は 片面使用の擦石。	大木7式	83～85 58、59

イ. 集石土壌 (第87～92図、写真図版60～71)

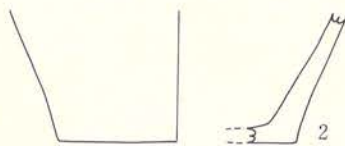
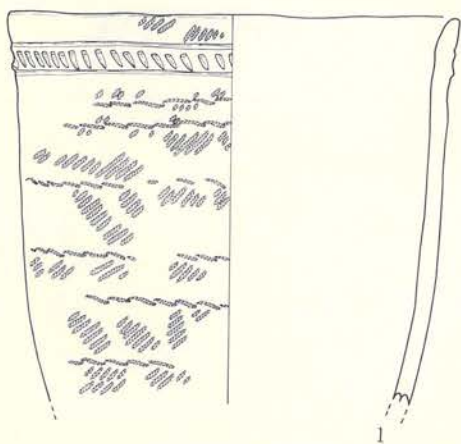
調査区の北西端と東南端に離れた場所で、埋土あるいは底面に1～10数個の礫を持つ土壌が
検出された。プランは円形を基調とするが楕円形、隅丸方形もあり、断面形もフラスコ状、ピ
ーカー状、皿状などがあり一定していない。土壌中の礫も最少は1個から小礫を含めて数百個
まで様々ある。II G-2号は底面に焼土と炭化物をもつが礫は焼けていない。また、I J-2号
には20数個の小礫が加熱された痕跡があるが、土壌にその痕跡は認められない。数例埋土中に
炭化物が認められるが、土壌の中で火を用いた形跡は無く、大きな礫も加熱されてはいない。
礫以外の遺物は土器片と石器のみで、装飾品や特殊な遺物はなく、礫の密度からしても墓塚と
はみなしがたく、性格は不明である。時期は数少ない土器から判断して、中期(大木7～8式)
と推定されるが、全ての土壌が同時期かは定かではないが可能性は高い。各土壌のデータは下
表の通りである。

遺構名	形状	規模 (cm)	埋土・その他	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ				写真
I B-4	楕円形	125×70×61	人為的堆積、炭化物微量含む。埋土上・中層から大小の礫15個以上	土層より2片、深鉢部2片とも結節縄文3片ナチ	縄文中期	87
I B-5	楕円形・副穴あり	83×73×60	I B-2号住と重複、3層中に径20～30cm礫8個、土色から判断すると人為的堆積	4層礫の下から名張1点先端部基部欠損	不明	60
I C-1	円形	58×51×17	ほぼ単層、3層層すぎ、底面に10～20cm5個	なし	々	89
I C-2	円形・フラスコ状	73×75×38	人為的堆積、底面に10～30cmの礫14個	々	々	61
I C-5	円形	62×52×17	単層、中央部に8～26cmの礫9個、1部は検出面の上に出る	々	々	89
I C-6	楕円形・フラスコ状	28	ほぼ単層、13～40cmの礫19個が積まれた状態	々	々	62
I C-7	円形	74×57×10	単層、中央部に10～21cmの礫8個	底面より深鉢2片、1は腹線に沿って 押圧縄文、2は「S」字状突起1個	縄文中期(大木7式)	89、90
I C-8	隅丸方形	82×72×39	人為的堆積、底面に17～35cmの礫8個平面的に配置	なし	不明	63
I C-9	楕円形・フラスコ状	70×90×53	人為的堆積、底面全体に11～37cmの礫27個平面的に配置	々	々	90
I C-10	楕円形	68×53×20	単層、11～30cmの礫12個検出面まで積石状態	々	々	64、65

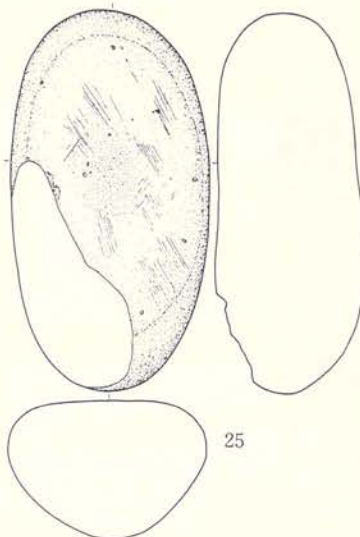
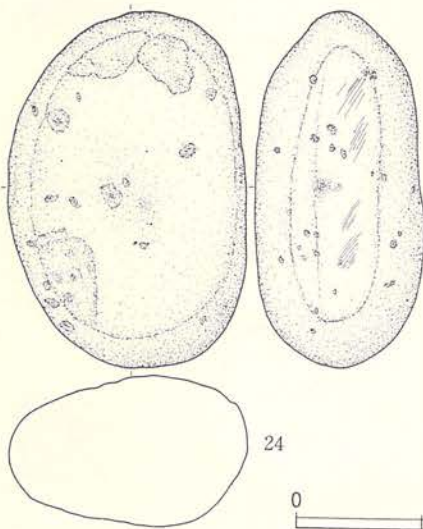
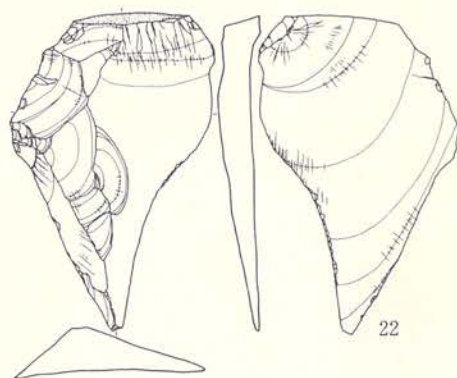
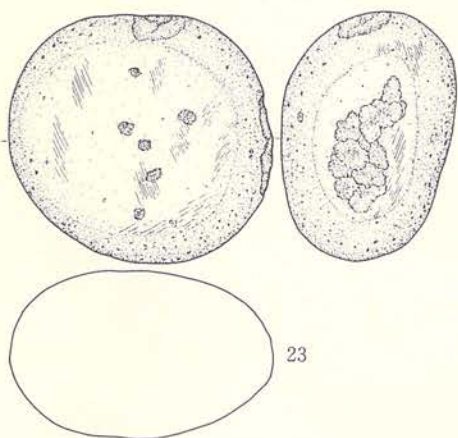


番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
22	その他	II H 1号フラスコ状ビット	12.7	8.1	2.1	124	花崗内緑岩
23	擦石	同上埋土	9.9	10.5	6.9	1017	珪質泥岩
24	擦石	同上	14.2	9.55	5.6	966	両輝石安山岩
25	擦石	同上	15.15	(7.9)	5.95	959	両輝石安山岩

第83図 IC-1号、II H-1号フラスコビット

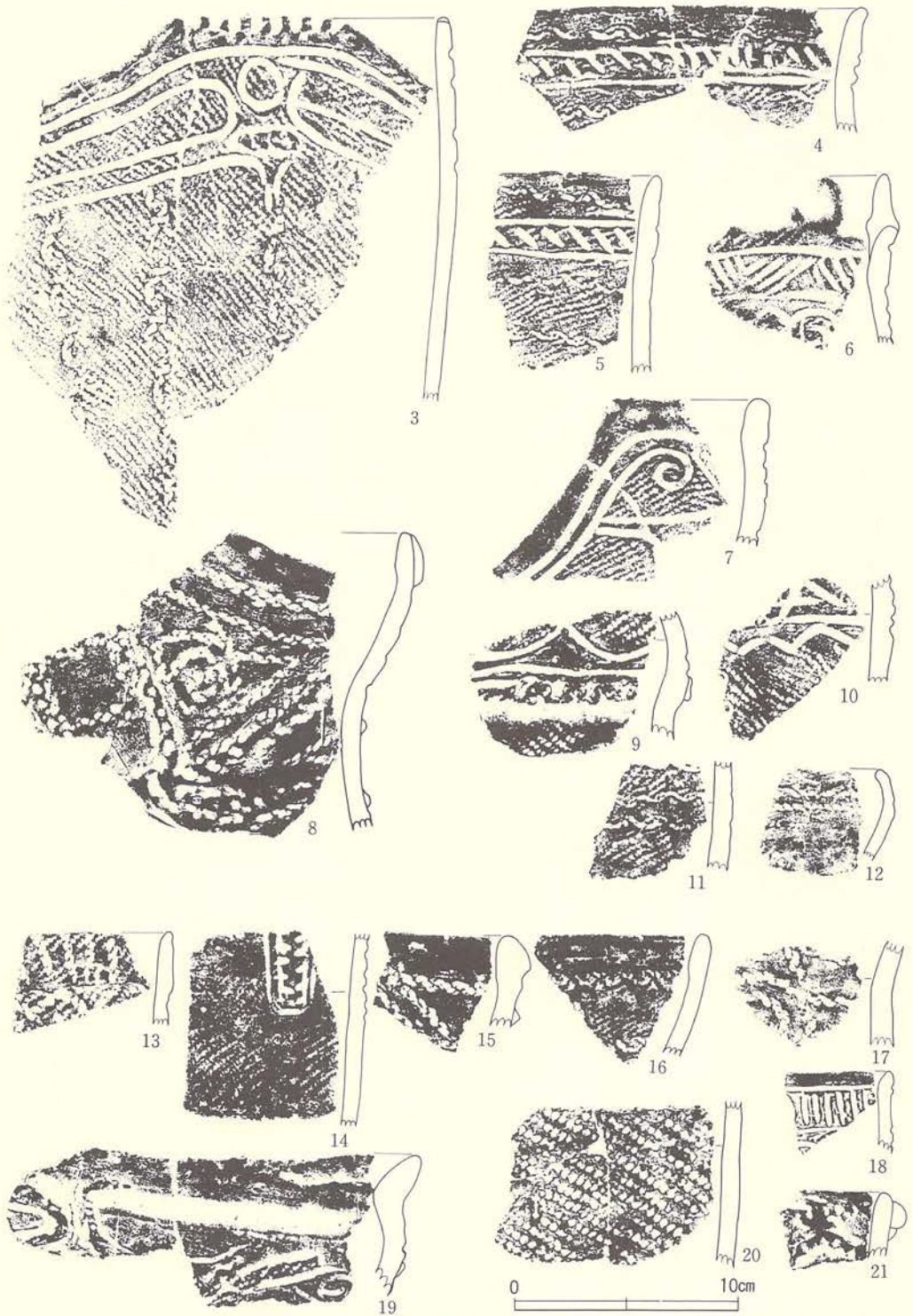


0 10cm

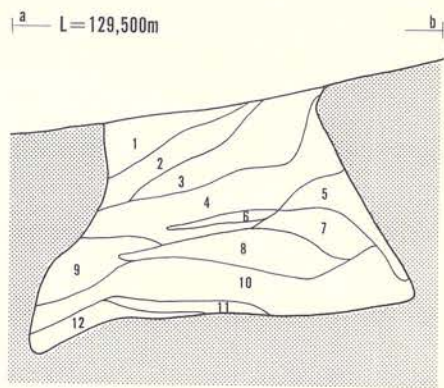
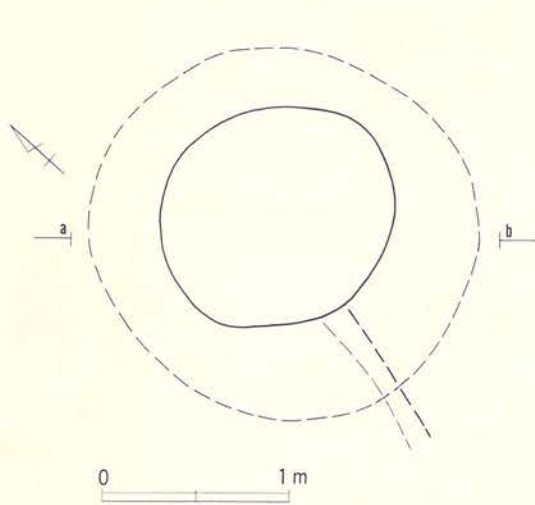


0 10cm

第84図 II H-1号フラスコピット遺物(1)

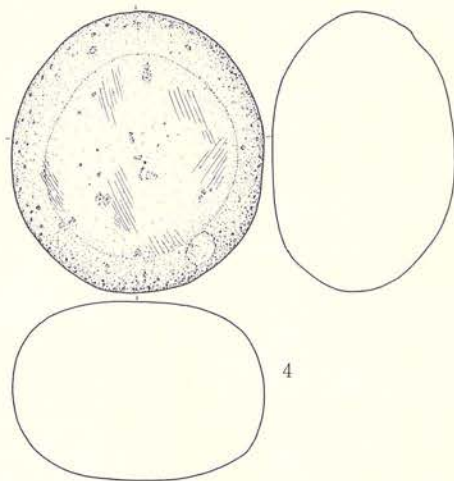
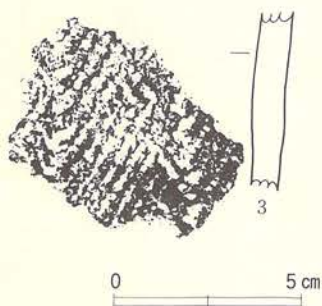
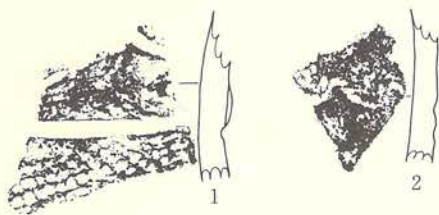


第85図 II H-1号フラスコピット遺物(2)



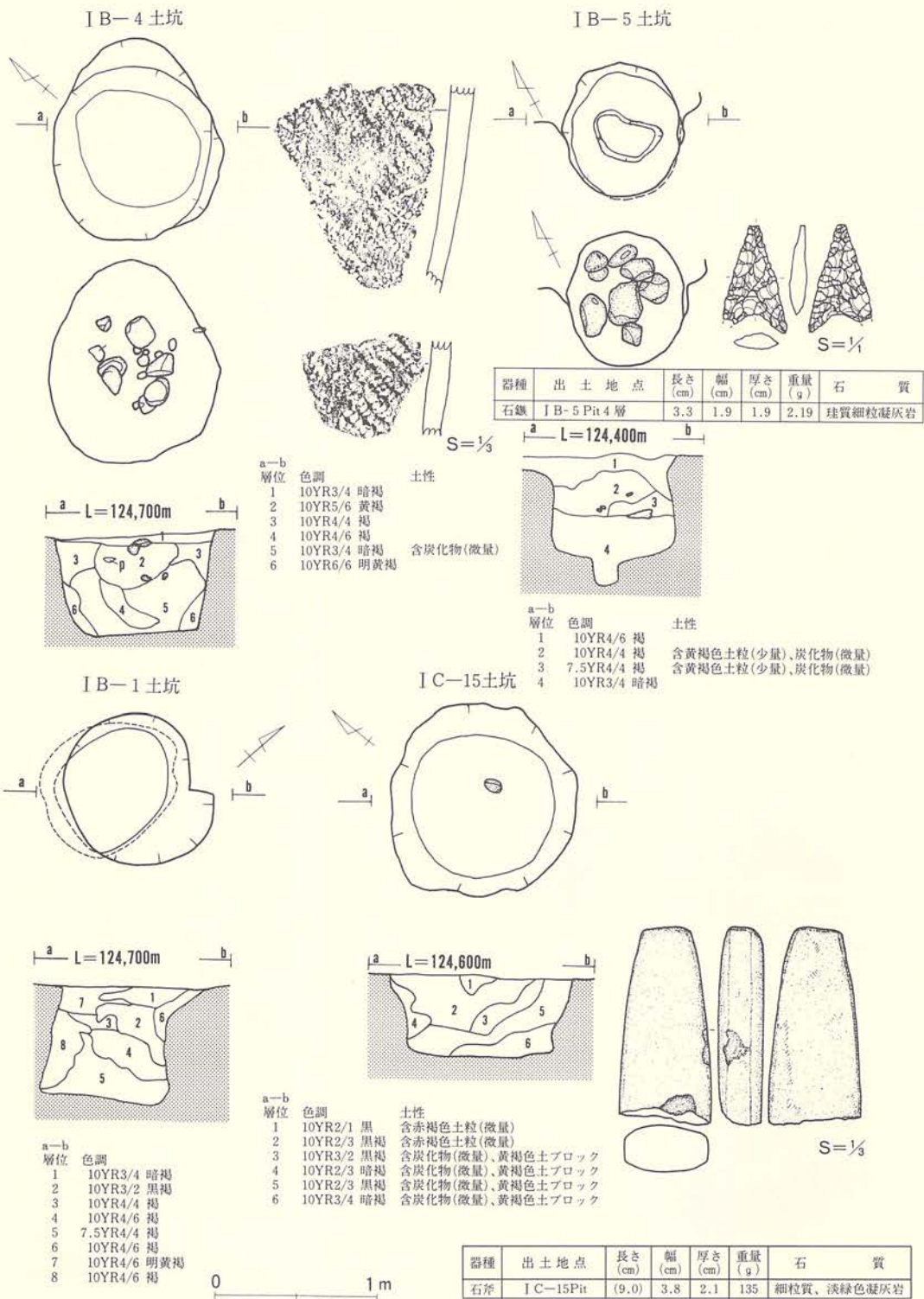
a-b

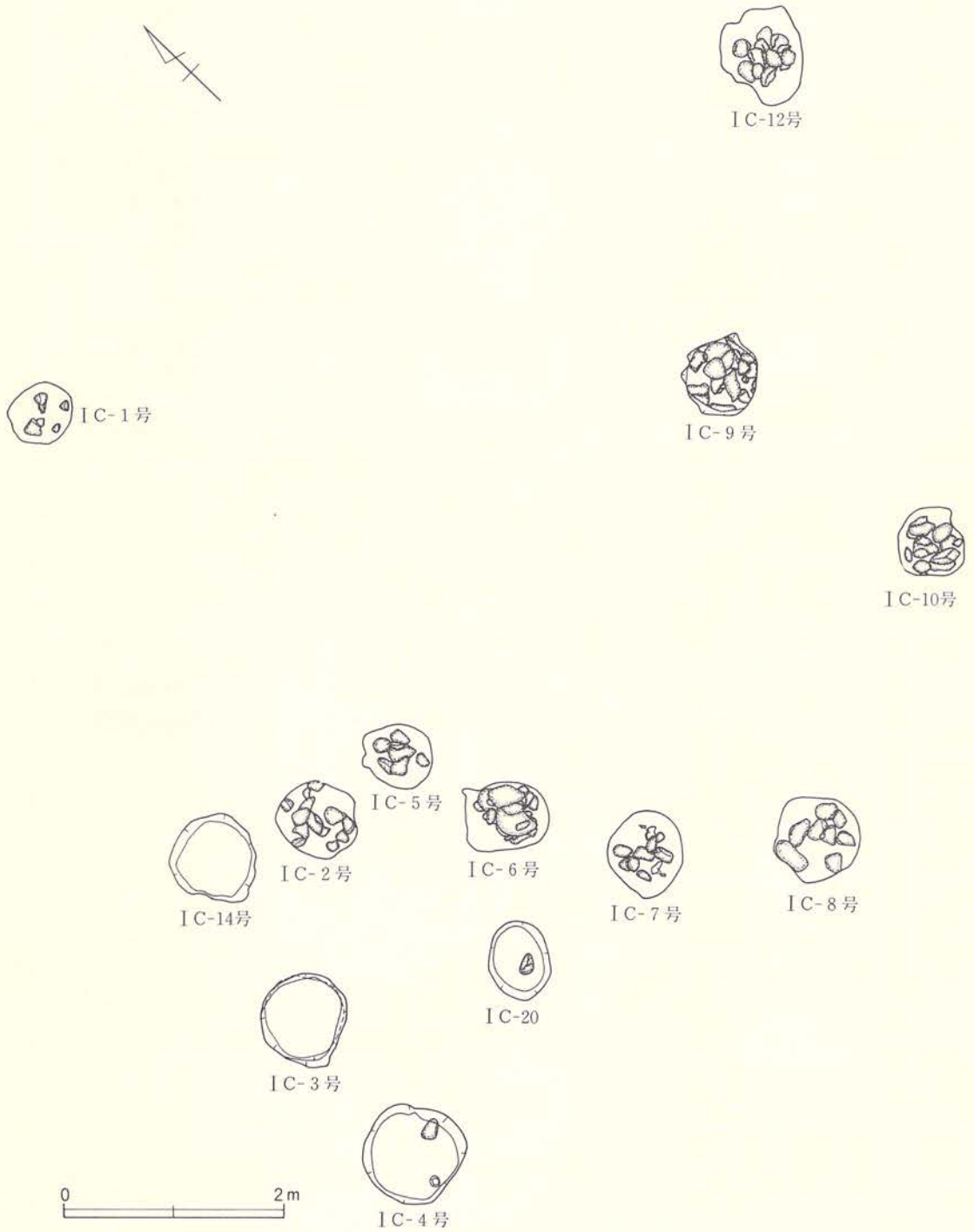
層位	色調	土性
1	7.5YR2/3 極暗褐	
2	7.5YR3/4 暗褐	
3	5YR2/2 黒褐	含バミス(少量)
4	5YR3/3 暗赤褐	含バミス(少量)
5	5YR3/2 暗赤褐	含炭化物(多量)
6	5YR3/1 黒褐	含炭化物(多量)
7	5.5YR5/8 明褐	
8	7.5YR3/2 黒褐	
9	7.5YR6/8 橙	含バミス(少量)
10	7.5YR4/6 褐	
11	7.5YR3/4 暗褐	含炭化物
12	7.5YR7/8 黄橙	



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
4	擦石	埋土下層	11.2	10.5	7.3	1178	両輝石安山岩

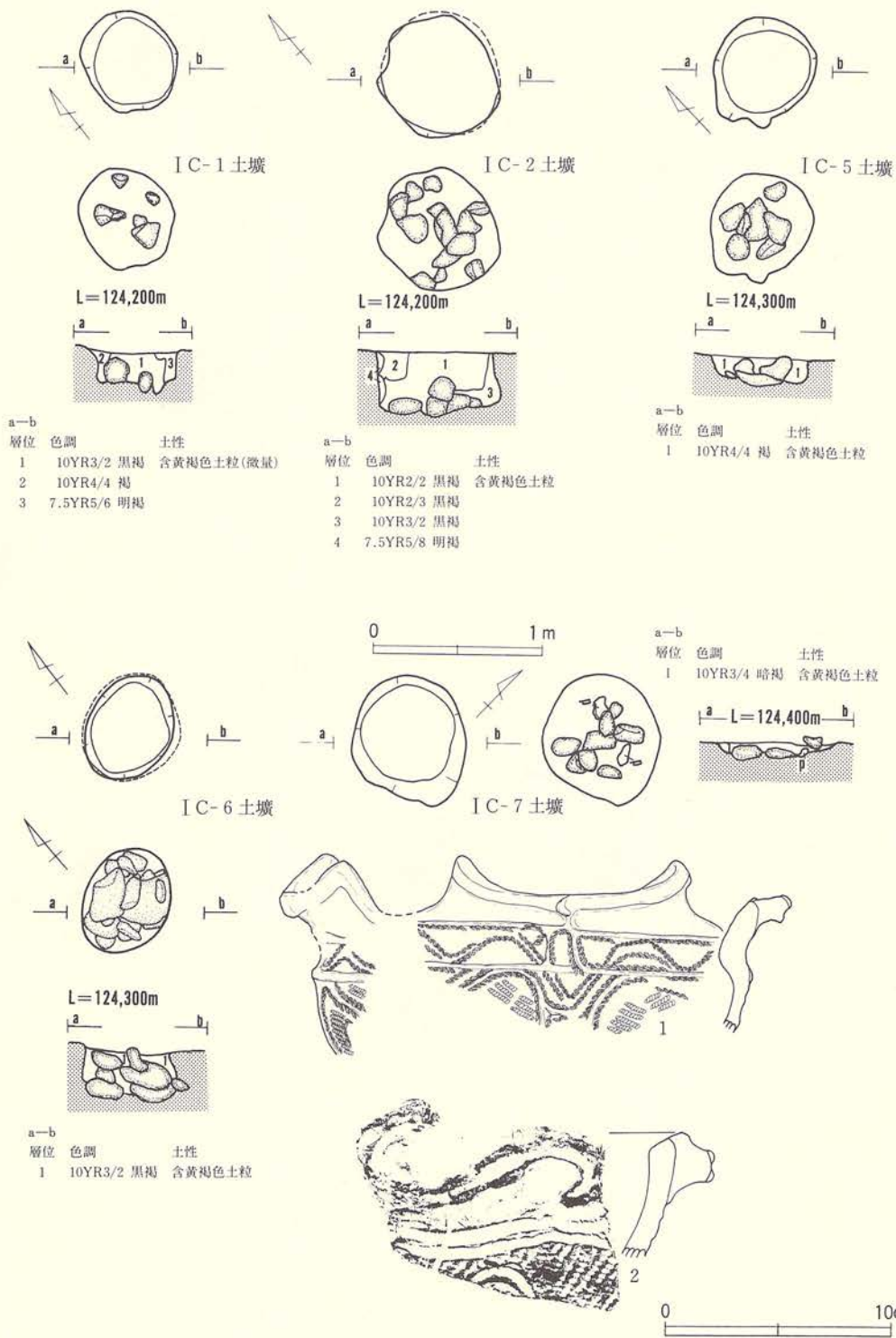
第86図 II G-1号フラスコピット・遺物



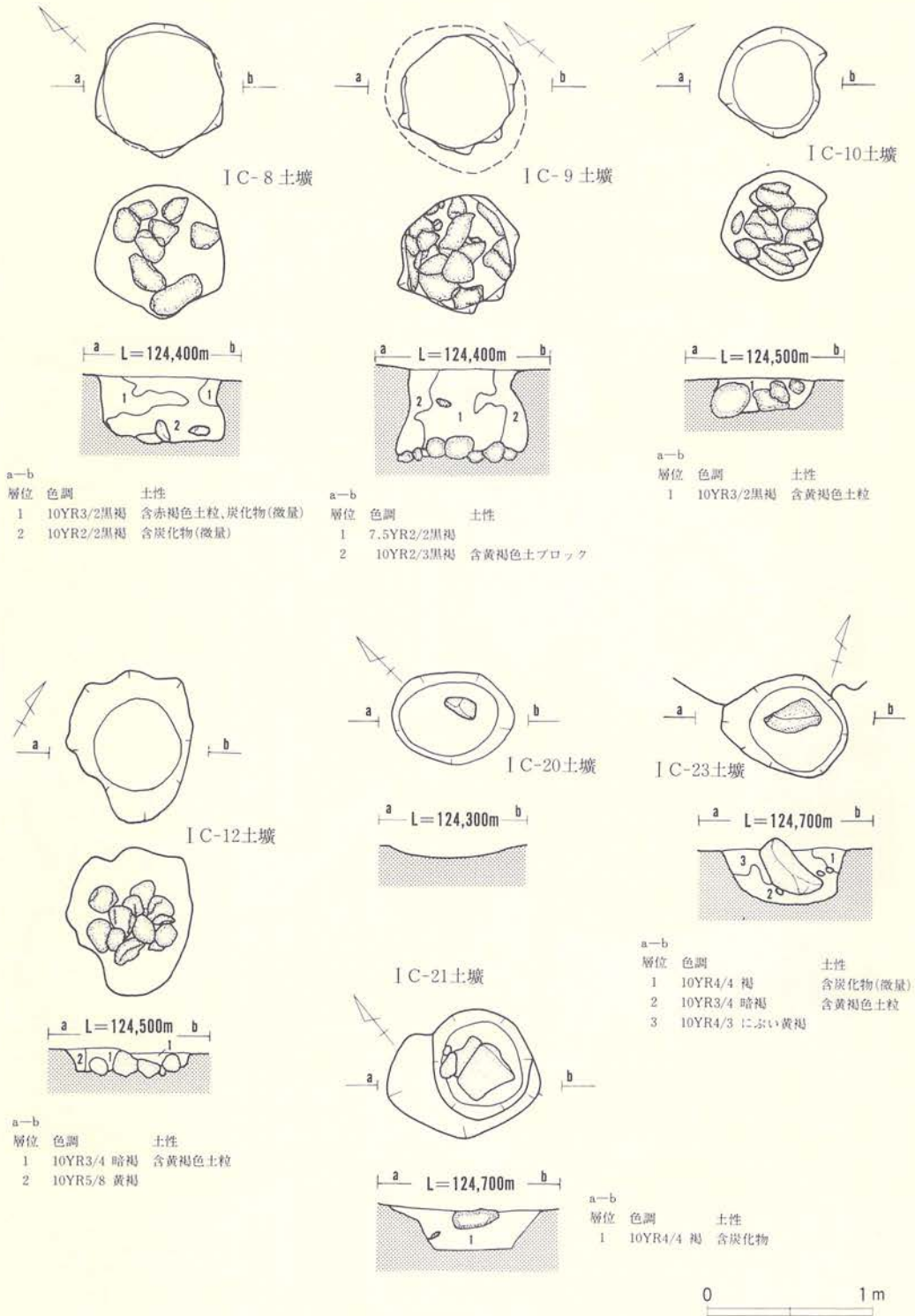


[3、14号は礫なし]

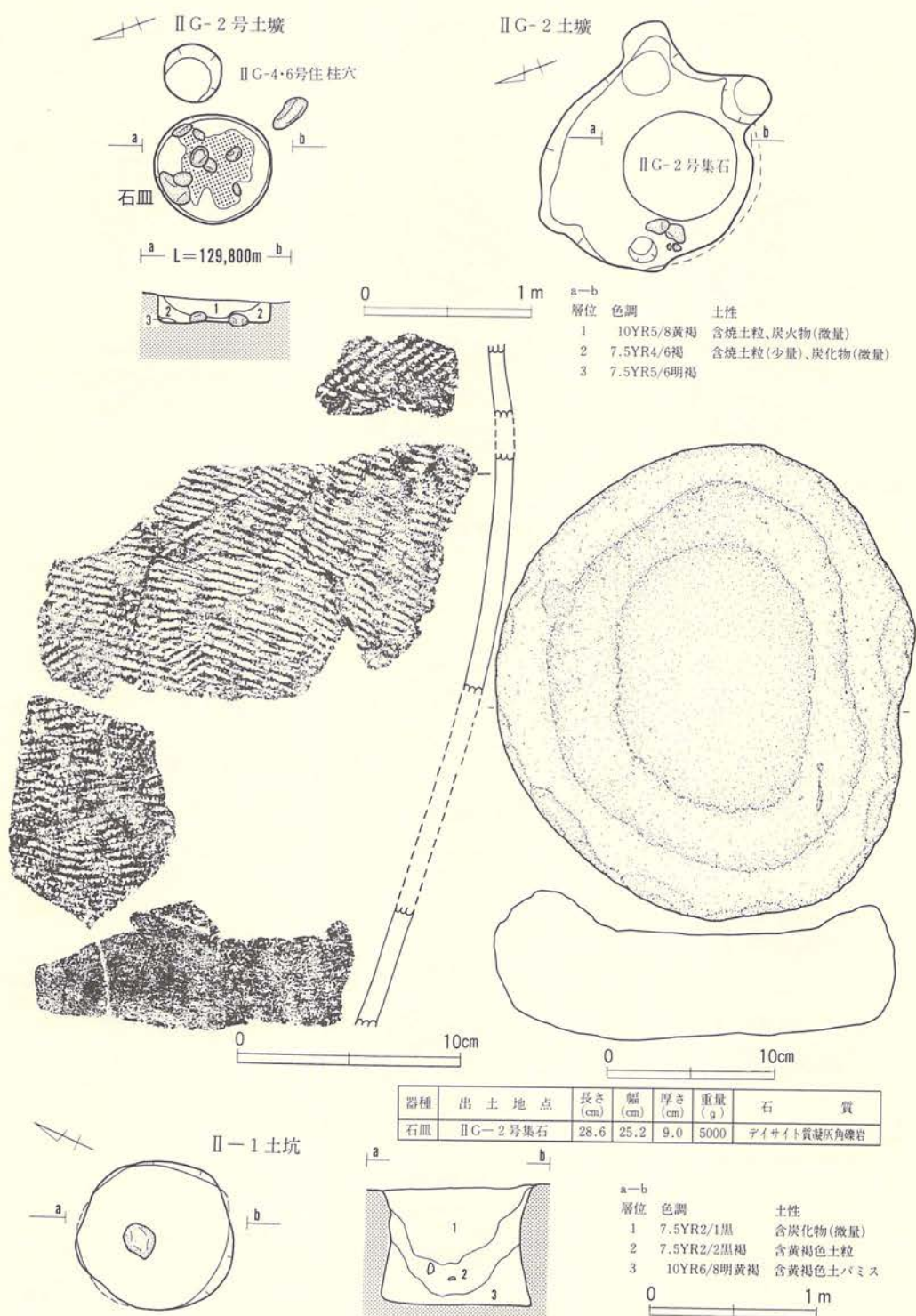
第88図 IC区集石土壌配置図



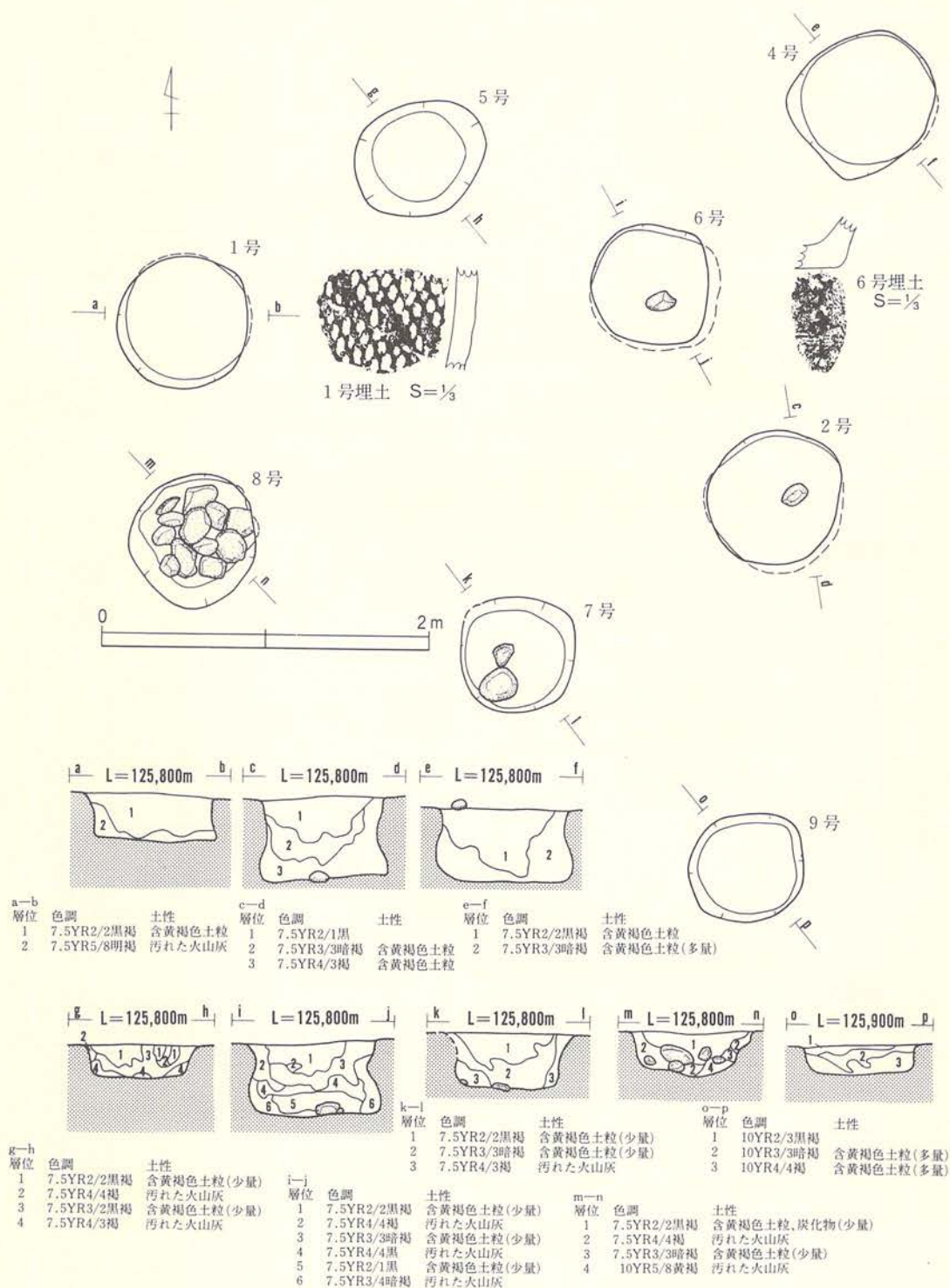
第89圖 IC-1、2、5、6、7号集石土壤・遺物



第90図 IC-8、9、10、12、20、21、23号集石土坑



第91図 II G-2、II I-1号集石土坑



第92図 I J区集石土壌・円形土壌配置図 [2、6、7、8号が集石土壌]

遺構名	形状	規模 (cm)	埋土・その他	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ				写真
I C-12	楕円形	90×55×15	検出面擾乱、2層は掘りすぎ、底面に12～26cmの礫14個	＊	＊	90
I C-20	楕円形	74×60×7	浅皿状で単層、20cmの礫1個のみ	＊	＊	64、65
I C-21	隅丸方形	65×51×24	複層を伴う、単層。上面に33cm、その下に15～20cm3層、底面に2～3cmの小礫2個目6個	＊	＊	90
I C-23	隅丸方形	67×53×33	I C-1階状を覆っている人為堆積？底面より浮いて43cmの巨礫、周辺に2～3cmの小礫数個	＊	＊	66
II G-2	円形	70×67×17	I C-4・5の階内、この下に54cmに穴は見あり（I G-2と同一の位置中にI G-4の貯穴がある。東と北の両面には壁土、南西等も覆っている。底面に4～25cmの礫3個、礫は掘りこいていない）	図示した右面は構成層の一つ、土層は土壁のさらに下の土壁から出土。	縄文中期（大木7式）	91 67
I J-1	円形	90×90×70	自然堆積が底面に36cmの礫1個、壁の周辺に1～7cmの小礫70個以上、土は加熱されている。	なし	不明	92
I J-2	楕円形・フラスコ状	86×87×49	自然堆積？底面に20cmの礫と小礫2個、埋土中に2～10cmの小礫15個以上	＊	＊	68
I J-6	楕円形・フラスコ状	72×78×44	自然堆積、底面に15・25cmの礫2個、壁際に小礫	＊	＊	92
I J-7	楕円形・フラスコ状	72×60×35	底面凹凸、自然堆積が場方に沿って10～25cmの礫15個	＊	＊	69、70
I J-8	隅丸方形	78×68×28	1層から3～11cmの小礫約300個、2層に17～26cmの石数個、底面に礫1個	＊	＊	

ウ. 円形土壌（第87、93～98図、写真図版72～79）

円形、楕円形、隅丸方形を含めて呼称である。この主の土壌は(ア)断面形がフラスコ、ピーカー状のもの(イ)皿状のもの、に分類できるそのデータは下表の通りである。

(ア) 断面形がフラスコ・ピーカー状のもの（第87・92・93図、写真図版68～73）

遺構名	形状	規模 (cm)	埋土・その他	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ				写真
I B-1	楕円形・フラスコ状		周側木痕と重複、人為堆積か	なし	不明	87
I C-15	円形・ピーカー状	120×88×50	埋土中に炭化物と赤褐色土粒（火山灰？）を含む	埋土中層より刃部を欠損した磨製等1点	＊	72
I C-4	隅丸方形・ピーカー状	91×75×58	5・6層は木痕の擾乱か、北側壁際に20cmの礫、底面より浮いている	埋土上層より深鉢片1点、隆線に押圧縄文、LRタテ	縄文中期（大木7b式）	
I C-3	不正円形・フラスコ状	42	埋土自然堆積状、2層は汚れた火山灰	なし	不明	93
I C-16	楕円形・ピーカー状	94×76×42	東から西への自然堆積、3・5層に微量な炭化物	＊	＊	73
I C-18	(円形)・ピーカー状	94×72×54	C-19土坑に載られている。自然堆積	＊	＊	
I C-19	隅丸方形・ピーカー状	120×100×65	I C-18土坑、I C-1号階層を載っている。埋土下層、底面から礫4個、兼石かどうか不明	＊	＊	93
I B-2	隅丸方形・ピーカー状	76×67×50	断面図省略。人為堆積状で暗・黒褐色土で構成される。埋土下層には黄褐色土粒を含む。全層に微量の炭化物混る。底面から17cmの礫1個。	＊	＊	74
I J-1	円形・ピーカー状	79×76×30	自然堆積か	1層から深鉢体部片LRヨコ1片	縄文中期（大木7b式）	92
I J-4	隅丸方形・フラスコ状	79×80×44	検出面で小礫1個。直接的関連なし	なし	不明	68、69

(イ) 断面形が皿状のもの（第92・94図、写真図版69～74）

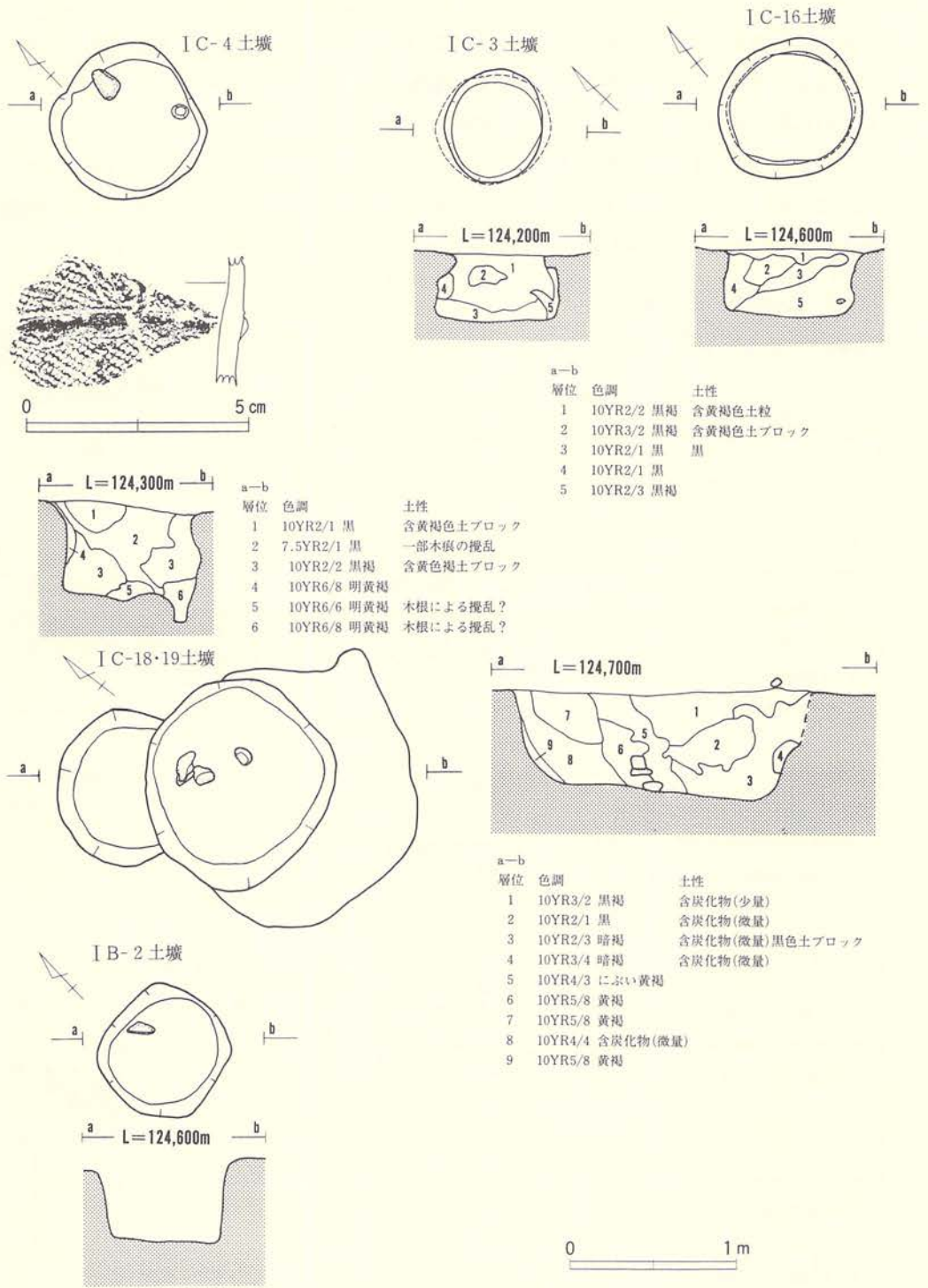
遺構名	形状	規模 (cm)	埋土・その他	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ				写真
I B-3	楕円形	147×108×23	自然堆積	なし	不明	94 74
I C-14	隅丸方形	78×64×17	＊、炭化物微量含む	＊	＊	94 75
I C-22	隅丸方形	94×78×28	検出面に礫1小、底面不整形、埋土の状況は自然堆積	＊	＊	94 75
I J-5	楕円形、皿状	84×54×22	自然堆積	＊	＊	92 69
I J-9	隅丸方形、皿状	69×60×18	＊	＊	＊	92 70

形状、断面形、埋土など石を伴う土壌と特段の差異は認められず、出土する遺物、時期も同じである。ただし、断面が皿状の土壌からは遺物が一切出土していないことが目につくが、浅いために埋土を削平されたのか、本来無遺物なのかは不明である。

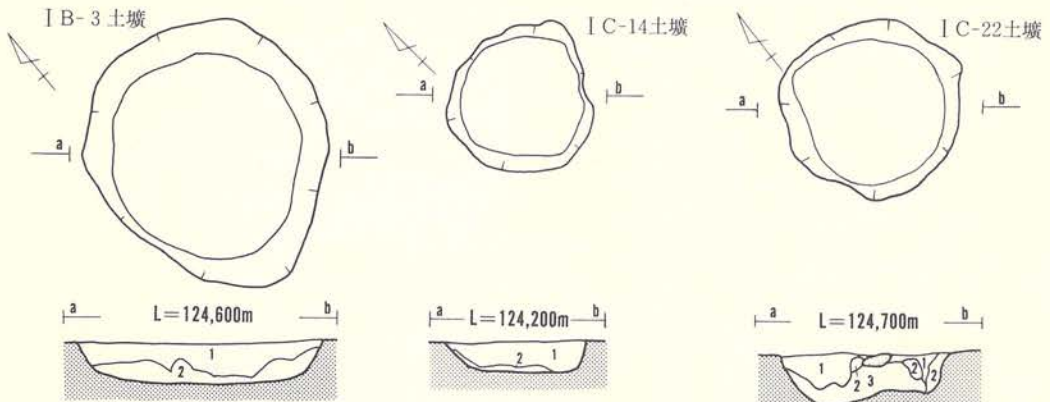
これらの他に、主として住居跡辺りに分布している円形の土壌があり(ウ)、その他の土壌として下表に示した。時期はいずれも縄文時代中期(大木7、8式期)とおもわれ、形状、規模、埋土、遺物など前述の土壌と変わるところはない。

(ウ) その他の円形土壌

遺構名	形状	規模 (cm)	埋土・その他	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ				写真
I D-1	隅丸方形、片貫ビーカー状	108×18×33	暗褐色土単層・中央に副穴	1～3同一固体、隆線による口縁～頸部文様区画、キャリパー状、口縁部LRヨコ、体部LRタテ	大木7bor8a式	94 76
I D-2	円形	67×63×18	◇	なし	不明	94 76
I D-3	円形	78×70×33	◇	◇	◇	94 76,79
II G-1	楕円形	116×98×33	2層に炭化物、II G-7号住の西端壁にかかるが新旧関係不明	1～5・2層、6～10・1層出土。1～3同一固体、頸部に隆線他は沈線、口縁部LRヨコ・体部タテ。4・5は深鉢体部下半、6、7隆線施文、8、9は圧搾縄文、8の刺突。	大木7bor8a式	95 76
II G-3	隅丸方形、ビーカー状	69×48×82	II G-3号住の北側、1層に多量の炭化物と微量の焼土	1は1層、2・3は4層、5・6は5層出土。1は橋状把手と旬玉状貼状、底部無文。3・4は層位異なるが同一個体で接合、圧搾縄文。6は深鉢体部下半	大木7式	96 67,79
I H-1	楕円形	122×75×55	自然堆積	なし	不明	96 77
O H-1	楕円形	120×47×32	◇、極めて不整形	◇	◇	96 75
II H-1	隅丸方形状	86×75×33	一つの土坑と判断し、中央部で断面図作成したが2基の土坑であった。2基の新旧は不明、埋土1層はII H-4号住の貼床。1号の両脇に深さ50の小ピット。	埋土上層より長さ20cmの碟	◇	97 77
II H-2	◇	78×68×62		埋土中より4片土器、1は小型鉢・波状隆沈線・区画帯の上下に刻目列LRヨコ、2は口脛部に波状隆線、3、4は体部片、4は小型で胎土に金雲母	大木7b式	97 77,79
II H-3	楕円形・ビーカー状	83×68×46	II H-2号住内にあると推定されるが、新旧は不明、1号貼床の可能性あり。	埋土2層から土器片、1は複合口縁押圧縄文LR、2は隆線、3は隆沈線、4は口縁部に波状隆線、5は隆線施文の大形深鉢片	大木8a式か?	97 77,79
II H-4	円形・ビーカー状	68×65×82	II H-4号住内にあり、1層に貼床がある(断面図省略)	なし	II H-4住(大木7b式期)と同期か古期	98
I I-1	円形・ビーカー状	70×60×48	自然堆積	◇	不明	98 78
II I-1	円形・皿状	124×100×25	◇	◇	◇	98 78
I J-3	不整形・フラスコ状	75×82×35	I J-1号陥穴に載られている	◇	◇	98



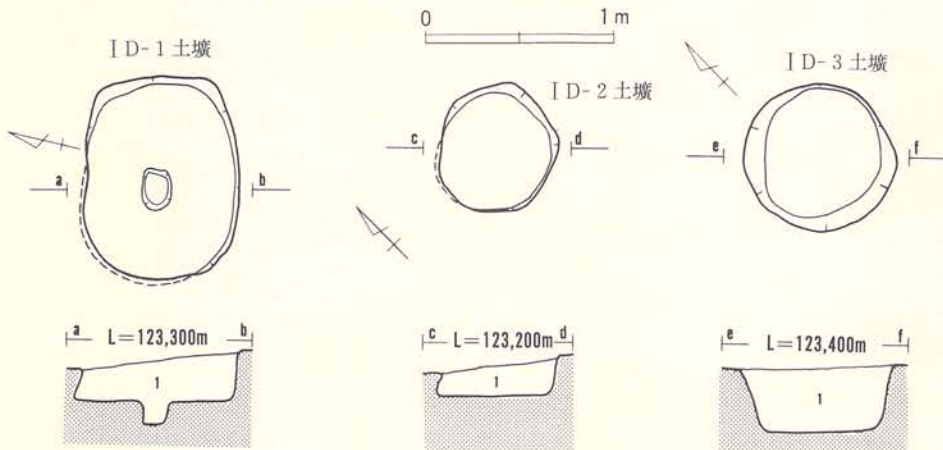
第93図 I B-2、I C-3、4、16、18、19号円形土壇



a-b
 層位 色調
 1 10YR2/3 黑褐
 2 10YR3/4 暗褐

a-b
 層位 色調 土性
 1 10YR2/3 黑褐 含炭化物(微量)
 2 10YR5/8 黃褐

a-b
 層位 色調
 1 10YR3/2 黑褐
 2 10YR3/3 暗褐
 3 10YR5/6 黃褐



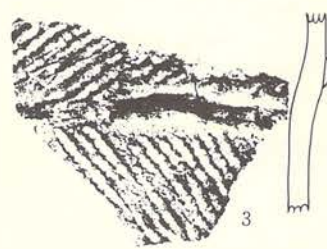
a-b
 層位 色調
 1 10YR3/3 暗褐

c-d
 層位 色調
 1 10YR3/3 暗褐

e-f
 層位 色調
 1 10YR3/3 暗褐

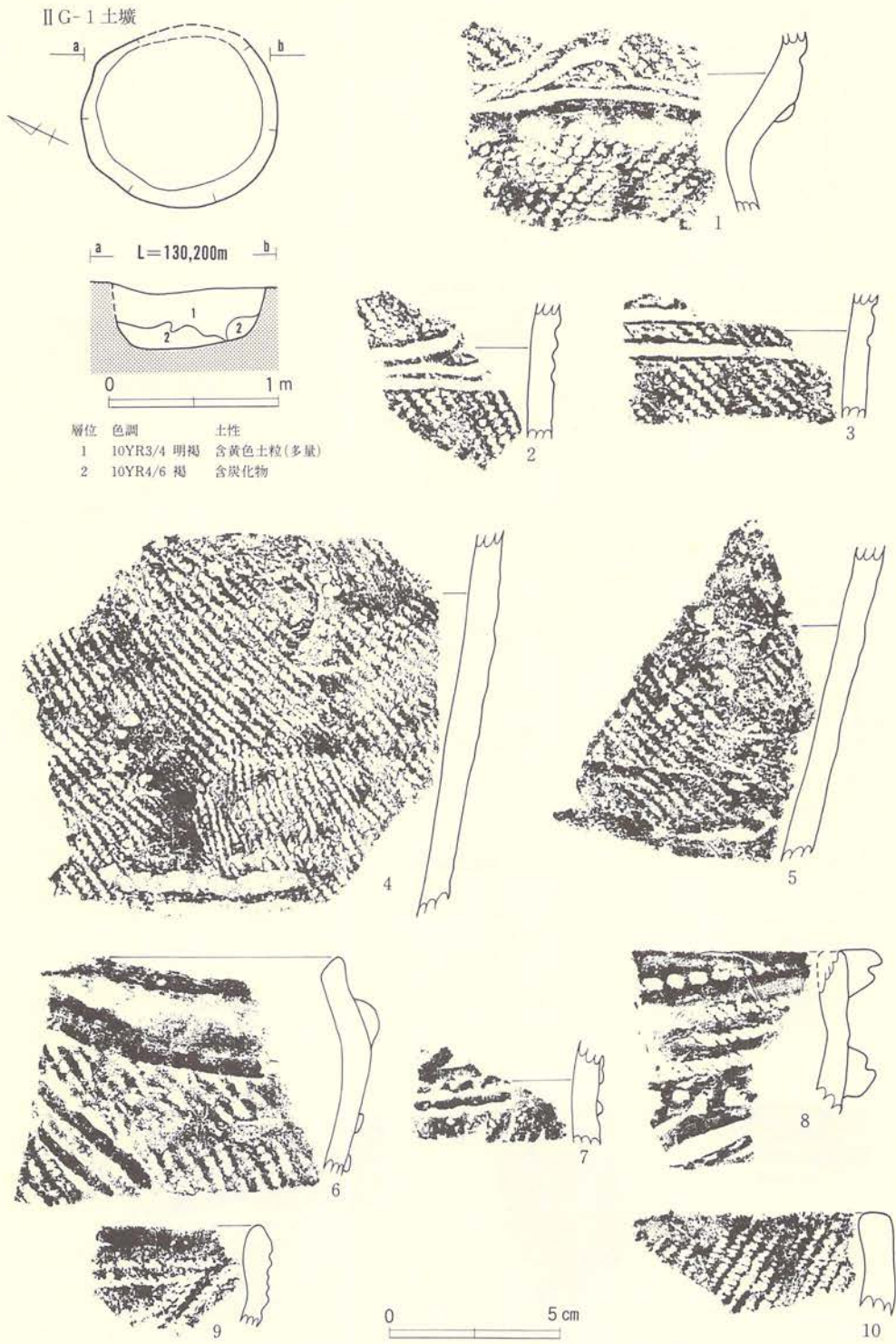


1~3: ID-1号土壤

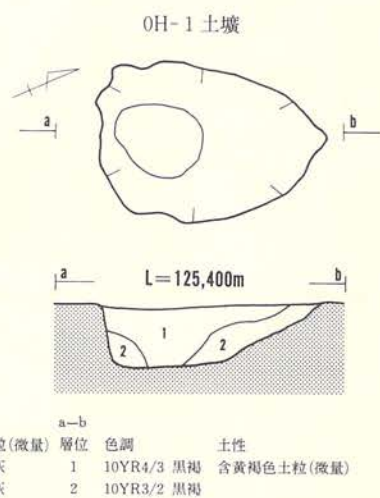
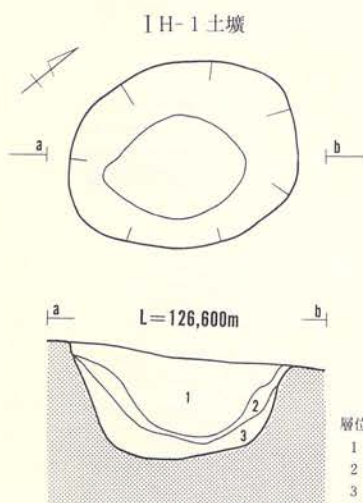
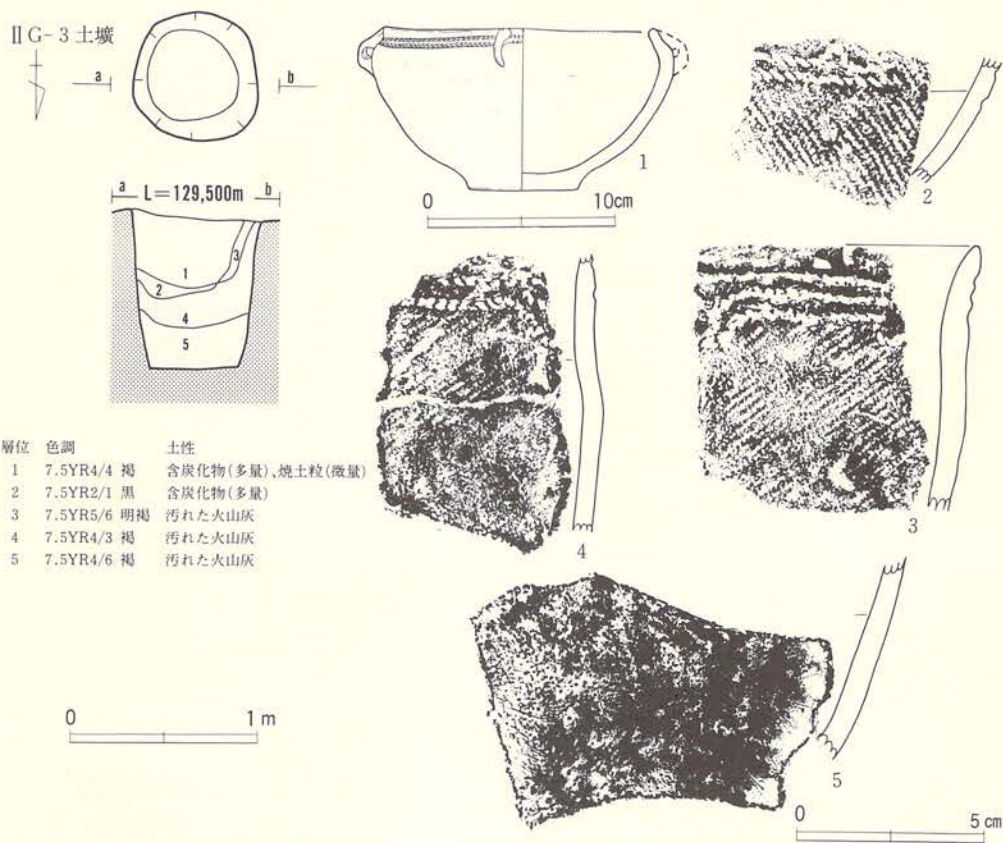


0 5 cm

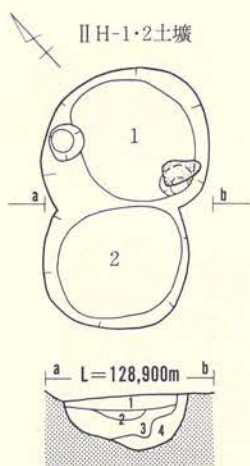
第94図 IB-3、IC-14、22、ID-1、2、3号円形土壤



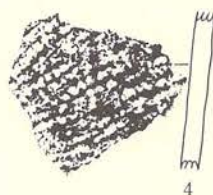
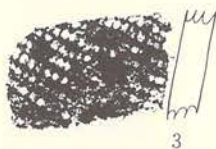
第95图 II G-1 号円形土壙・遺物



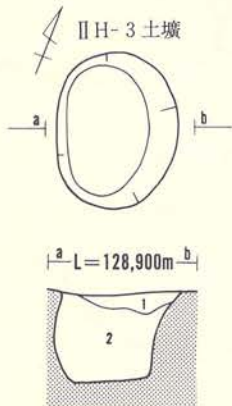
第96図 II G-3号、I H-1、OH-1号円形土壌・遺物



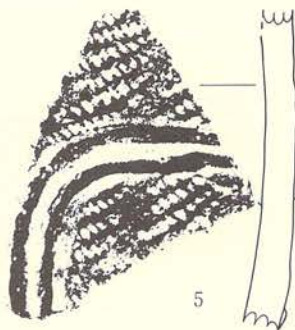
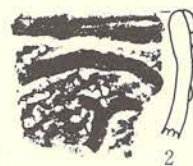
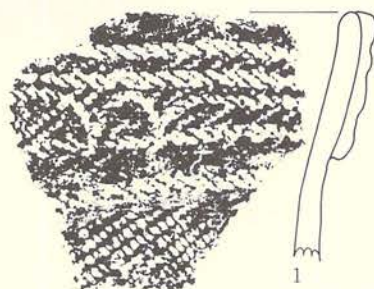
層位	色調	土性
1	10YR3/4 暗褐	含炭化物(微量)
2	YR2/3 黒褐	
3	10YR4/4 褐	含炭化物(少量)
4	10YR4/6 褐	含パミス(多量)



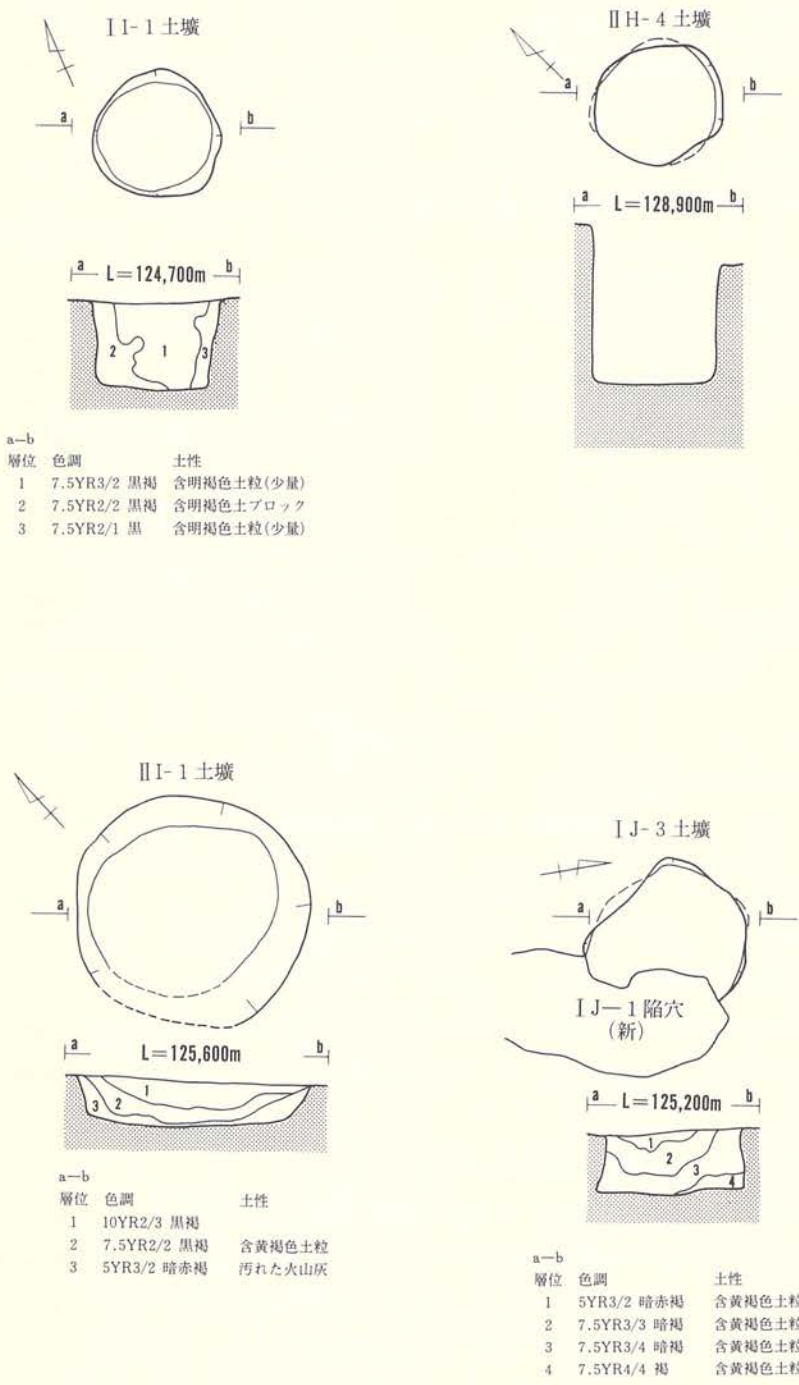
II H-2号土壙出土



層位	色調	土性
1	10YR4/4 褐	含炭化物(少量)
2	10YR4/6 褐	含炭化物、焼土粒(少量)



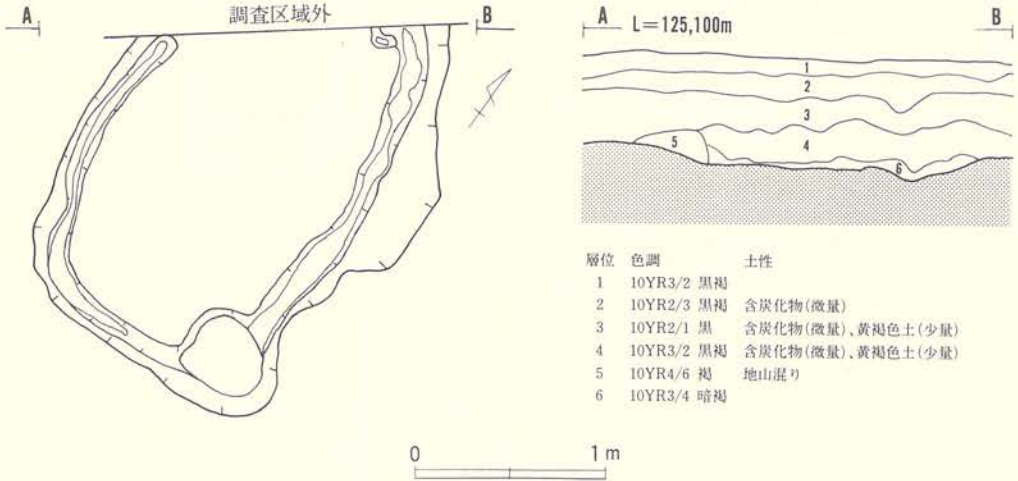
第97図 II H-1、2、3号円形土壙・遺物



第98図 I I-1、II H-4、II I-1、I J-3号円形土坑

エ. 方形土壙（第99図、写真図版80）

I C区の北側、調査区外にかけて長方形の土壙が検出された。推定長径2.4、短径1.65、深さ0.1m前後で、壁際に沿って幅10～15cmの溝がめぐり、東南隅には床面より15cmほど下がる凹みがある。床面は比較的堅く、小さな凹凸がある。遺物は全く出土せず、性格は不明である。遺構の検出面は他の縄文時代のものと同様である。



第99図 I C-1号方形土壙

(3) 陥穴（第100～119図、写真図版81～97）

陥穴状遺構（以下、陥穴）は、ア・円もしくは隅丸方形、楕円形で副穴をもつもの、イ・アと同様の形状で副穴をもたないもの、ウ・溝状のもの、とに分けられる。これら三つのタイプは、それぞれブロック的に集中する傾向が認められる。アとイは西端部のB・C区と調査区中央のG・H区に、イはG・H区に、ウはJ区にそれぞれ集中している。タイプごとの特徴は以下のとおりである。

アのタイプ（第100～109図、写真図版81～88・96）

上面は円形あるいは隅丸方形で（一部楕円形状も含む）で、底面は隅丸（長）方形を呈するものが多く、副穴はほぼ中央に位置するものと、ややずれるものとの二者がある。複数の副穴をもつ例4基あるが、明瞭なのはI G-9、II H-2号の2基で両端にある。II H-1号は中央に3本が集中している。II G-2号は片側に寄っており、他の陥穴に比較して浅く土壙の可能性もある。

B・C区の8基のうちIC-2号を除いた7基は、IB・IC区の東西に並ぶIB-3、IB-2、IB-3、IC-1号の一群と、II Cの南北に並ぶII C-1、2、3号の一群にわけられる。前者はやや隅丸長方形後者は円形に近い検出プランである。C区とG区の間D・E・F区に遺構はない。G・H区のAタイプは16基あるが、その分布は前面にわたるが斜面部はやや少ない。IG区西側にIG-1、2号がやや離れて位置している。その東側はIG-3、4、5、6号が南北に並び、IG-10、11号は東西に並び、道路を隔てた東側は同じ形態のIH-1、2号が並ぶ。斜面部にはII G-1、2号が位置するが形状は異なる。高位面にはII G-9号が住居と截り合っている。さらに、道路を隔ててII H-1号が位置するが両者の関連は、検出地の南側が調査区外のため不明である。底面の両側に副穴をもつ2基は南北に25m離れて位置する。以上の陥穴のデータの詳細は下表の通りである。

(アのタイプ)

遺構名	形状	規模：上×下×深 副穴：上×下×深	検出状況・重複関係	埋土	遺物	時期	備考	図版
								写真
IB-3	開口部不整形、底面長方形、中央に副穴	(106×95)×(92×52)×86 25×15×36	IB区調査区外にかけて検出	自然堆積か、全体に微量な炭化物を含む	なし	不明	規模形態同じ	100 81
IB-2	開口部、底面とも楕円形、副穴やや東寄り	(125×96)×(102×72)×87 20×13×33	同上、IB調査区外で検出。両側と東側にピット(1B-1、1B-4)	下層の土に炭化物含む、2層は人為的か	なし	不明		100 81
IB-1	開口部円形状で底面は長方形、断面キャリパー状、副穴やや東寄り	(132×132)×(88×70)×118 26×18×42	II C 1～3号陥穴の最も北側に位置する	自然堆積、各層中に微量な炭化物、埋土下層で副穴痕検出	なし	不明	規模、形態、断面共通性あり	101 81
IC-1	重複のため開口部不明、底面は長方形、副穴やや東寄り、断面キャリパー状	(160×)×(92×86)×116 22×16×50	同上、IB調査区外で検出。両側と東側にピット(1B-1、1B-4)	上半はIC-19ピットの埋土、炭化物を微量含む自然堆積	なし	不明	IC-23ピットは縄文中期	101 82
II C-1	開口部一部崩落しているが、底面と同様ほぼ円形、断面は袋状	(158×145)×(108×102)×115 27×16×35	同上、IB調査区外で検出。両側と東側にピット(1B-1、1B-4)	自然堆積、2層は粉状パーミス	なし	不明	埋土は3基共通しているが、II C-3の形状はIB 1～3号に近い。	102 82
II C-2	開口部、底面とも円形、断面はピーカー状	(159×158)×(116×106)×105 28×19×25	II C-1号とは1.2mの間隔	自然堆積、3層は粉状パーミス	なし	不明		102 82
II C-3	開口部不正な隅丸方形、底面長方形状、断面フラスコ状、南側の壁崩落	(134×128)×(85×78)×100 23×12×34	II C-2号とは4mの間隔	自然堆積、3層は粉状パーミス	なし	不明		103 83
IG-1	開口部不整形な隅丸方形状底面長方形、南壁崩落	(135×132)×(68×60)×114 18×7×27	IG区北側で単独に近い状況、周辺に遺構なし	自然堆積、下層の埋土パーミスを含む	なし	不明		103 83
IG-2	開口部、底面とも楕円形、断面ピーカー状、副穴東寄り	(75×90)×(90×62)×105 26×10×20	斜面部で単独検出、IG-1号とは11mの間隔	自然堆積、汚れた火山灰卓越	なし	不明	規模形態はIB区のものとは異なる。	100 83
IG-3	開口部、底面とも隅丸長方形、断面ピーカー状、副穴中央	(110×88)×(83×69)×81 24×15×27	平安時代の土壌に上面を載られている。	自然堆積、副穴に3層の埋土	なし	不明	IG-3、4、6は南北に一直線に並び、規模、形状に共通性がある。IG-5号は底面のプランが異なり正方形となる。	104 84
IG-4	開口部、底面とも隅丸方形状、副穴やや東寄り、断面ピーカー状	(111×108)×(78×76)×97 22×17×30	IG-3号の真南3.7mの間隔で検出。	自然堆積、汚れた火山灰卓越	なし	不明		105 84
IG-5	開口部楕円形、底面方形、南側壁上部崩落、断面ピーカー状	(123×113)×(86×85)×92 13×8×40	IG-4号とは3.6mの間隔、IG-6号と並ぶ。	自然堆積	なし	不明		104 84
IG-6	開口部不正円形、中段・底面楕円形、副穴南側崩落	(105×105)×(94×65)×62 17×10×16	IG-5号と接する東側は別の遺構に載られている可能性あり。	自然堆積、7・8層は載り合った遺構の埋土か	なし	不明		104 85
IG-10	開口部隅丸方形(一部崩落)底面も隅丸方形、副穴東寄り	(112×110)×(64×57)×98 20×15×36	本遺跡の最も低位面で検出	自然堆積	なし	不明		105 85
IG-11	開口部円形(北側上部覆乱)底面楕円形、断面ピーカー状、副穴斜め	(134×118)×(75×65)×97 22×15×48	IG-10号との間隔5m、中間に楕円形プラン・副穴3本のIG-9号あり	自然堆積、汚れた火山灰卓越	埋土上層から自然面を残す石核、上・下から打欠き、珪質凝灰岩製	不明		106 86,96

遺構名	形 状	規模：上×下×深		検出状況・重複関係	埋 土	遺 物	時 期	備 考	図版
		副穴：上×下×深							写真
I H-1	開口部不正楕円形、底面長方形、断面ピーカー状、副穴3本、北寄り	(105×92)×(88×50)×94	8×4×20、他の2本は深さ10cm以下	I H区のはは中央、緩斜面で検出道路下にも存在する可能性大。	自然堆積、上部に火山灰少量混じる	なし	不明	規模・形状・埋土とも共通	107 86
I H-2	開口部楕円形、底面長方形、断面ピーカー状、副穴東寄り	(108×81)×(93×52)×90	9×4×22	I H-1号との南側に位置し、間隔11.0m	自然堆積、同上	なし	不明		107 86
II G-1	開口部、底面とも楕円形、断面筒形、副穴やや東寄りで浅い	(144×102)×(124×60)×145	44×36×15	II G区の斜面部で検出、西側にII G-2号より	自然堆積、上部は汚れた火山灰草越	なし	不明		108 87
II G-2	開口部、底面とも不正楕円形、形状は陥穴であるが浅く、土坑の可能性もある。	(120×112)×(92×80)×35、42×22×16・15(2本)		I G-1号と並ぶが形状、規模は異なる。	同上	なし	不明		110 87
II G-9	開口部楕円形、底面長方形、断面ピーカー状、副穴東寄り	(106×88)×(72×52)×74	21×5×43	II G-3号住居跡の床が開口部を貼っている。	自然堆積、1・2層は貼床土	なし	不明	II G-3号世は大木7式でこれと同期がこれ以前	107 87
II H-1	開口部円形形状、底面隅丸方形、断面ピーカー状、副穴中央	(149×148)×(77×68)×122	20×8×44	II H区南側の斜面部で検出、検出面より上層は多量の土器が出土。	自然堆積、下部に汚れた火山灰	なし	不明		106 88
I G-9	開口部、底面楕円形、断面バケツ状、東面に副穴	(193×132)×(135×62)×98、13×8×36、18×11×50		I G区の低位面で検出、西側にI G-10、東側にI G-11号陥穴	自然堆積	なし	不明	形状・規模類似するが間隔は25mある	108 88
II H-2	開口部、底面長楕円形、断面ピーカー状、東西に浅い副穴4本	(252×134)×(212×65)×116、副穴の深さ5、7、8、13cm		II H区北側の緩斜面で検出、この面での類似陥穴はなく単独検出	自然堆積、2層は十和田a火山灰か、東端に木根痕	埋土下層から土層片3、上層(1-4層)で多数の土器片と石斧1点出土。土層は緩斜面、沈積、剥交代、草屑堆積	大木7式		109 88,96

イのタイプ（第110～116図、写真図版89～94・96）

分布は調査区西側のI C区から中央部のII H区に渡るが、集中しているのはII G、II H区の高位面で、低位面のI C区は1基、I G区は2基、I H区は1基と少ない。I G-7、8号の2基はやや大型で他と離れて位置している。道路を隔てたI H-3号は円形小型で深く、別の系統と考えられ調査区北側に伸びる可能性がある。これらを除いたものは、高位面にあり殆どが住居跡群と重複している。そのうち、楕円形でやや幅のあるものはII G区とII H区の西側に集中し、小型で長方形に近い開口部を持つものはII H区の南側に集中する傾向が認められる（II H-6～9号）が、これは住居跡と重複のため上部が削平され、検出面が中途のため長方形で、他と比較して浅い可能性もある。

イのタイプは総じて配置に規則性はなく、長・短軸の向きにも統一性は認められない。したがって、各々の陥穴がどのような組み合わせで配列されているのか、推定するのが困難である。以上の陥穴のデータの詳細は下表の通りである。

(イのタイプ)

遺構名	形 状	規模：上×下×深		検出状況・重複関係	埋 土	遺 物	時 期	備 考	図版
		副穴：上×下×深							写真
I C-2	開口部、底面とも楕円形、断面バケツ状	(142×105)×(98×30)×75		I C区南側で検出、この形状はこれ1基のみで周辺にはなし。	自然堆積、下層は粘土質土草越。	なし	不明		110 89
I G-7	開口部楕円形、底面隅丸長方形、断面バケツ状	(165×106)×(77×36)×70		低位面のI G区で検出、I G-8号と間隔3.5m。	自然堆積、はは単層に近い。	＊	＊	I G区は副穴なしであるが、形状、長軸とも異なる	110 89
I G-8	開口部不正円形、底面楕円形、断面バケツ状	(126×124)×(71×52)×73		I G-7号と隣接するが、形状、埋土は異なる。	自然堆積、汚れた火山灰草越。	＊	＊		111 89
I H-3	開口部、底面とも円形、断面一部プラスチック状	(102×96)×(64×63)×149		I H-1号世の前層で、I H-1号陥穴とは4.5mの間隔であるが、形状は異なる。	自然堆積、中・上層土炭化物を含む。	＊	＊		114 90
II G-3	開口部円形、底面長方形、断面筒形	(124×112)×(86×45)×160		II G-7号住がこの上に築かれており、住居跡よりは古い。	下部自然堆積、1層は人為的埋戻しか。	＊	縄文中期以前	II G-1号世は大木8式でこれと同期がこれ以前	112 90

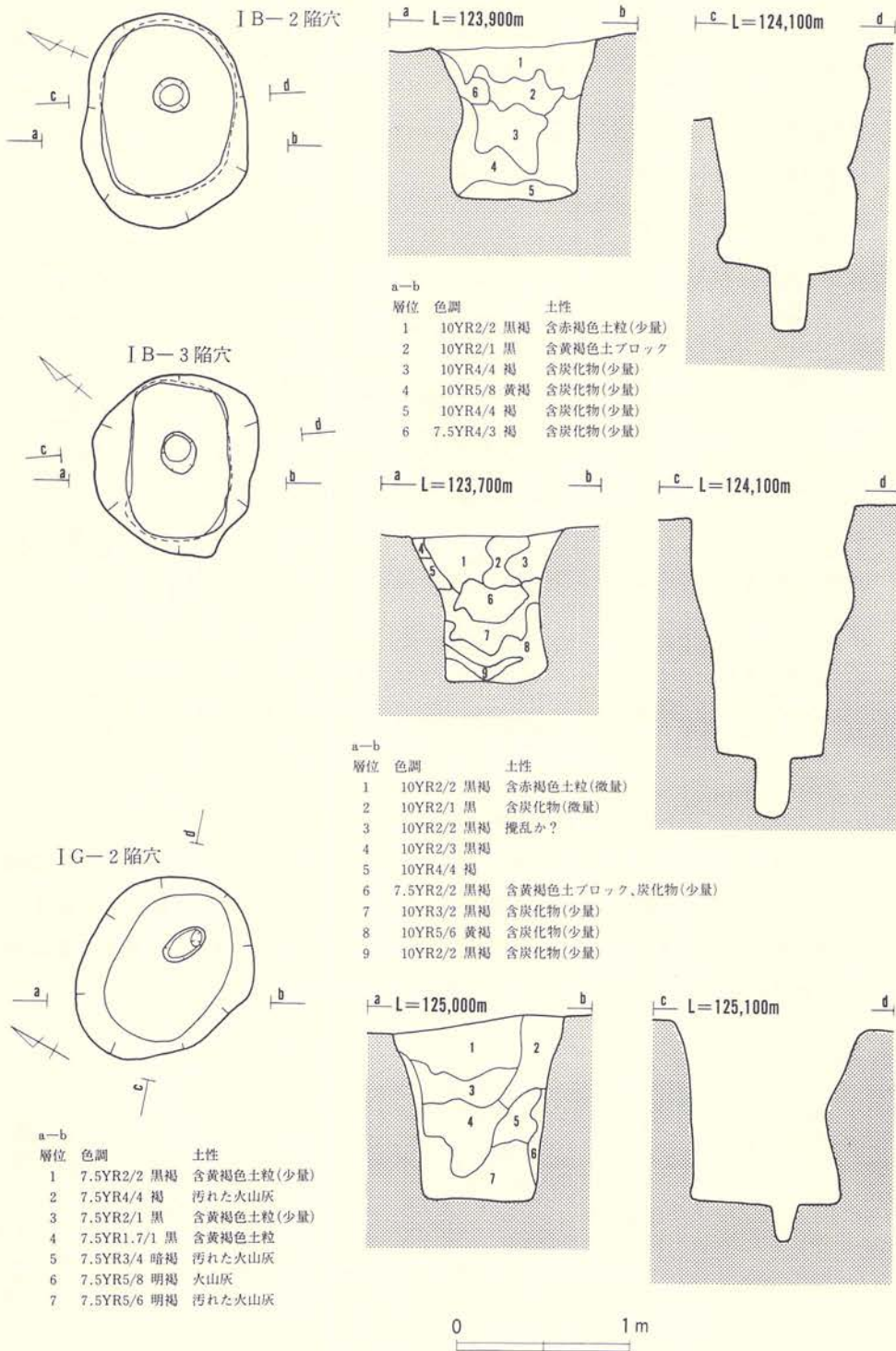
遺構名	形状	規模：上×下×深		検出状況・重複関係	埋土	遺物	時期	備考	図版	
		副穴：上×下×深							写真	
II G-4	開口部、底面とも楕円形、断面筒形、一部崩落	(100×71)×(78×40)×127		II G-7号住の床面下、住居より古。II G-3とは80cmの間隔。	単層に近く、人為的埋戻しか。	〃	〃	〃	112 90	
II G-5	開口部、底面とも楕円形、断面筒形	(148×70)×(117×48)×84		II G-7号住、II G 2号住と重複、2号住の床を載っており、7号住の床面下にある。	〃	〃	縄文時代中期(大木7 b又は8 d式)	II G 2は大木7 a式、II G 7は大木8 a式埋	113 91	
II G-6	開口部、底面とも楕円形、断面筒形	(128×76)×(103×49)×92		II G 2号住の柱穴に載られている。II G 5とは主軸の方向異なる。	1～3層はII G 2号住の柱穴埋土、4層は埋戻しか。記録なし。	柱穴埋土から礫	縄文中期以前	大木7 b式期に載せられている	113 91	
II G-7	開口部、底面とも隅丸長方形、断面筒形	(100×60)×(74×48)×100		II G 7号住の板に載せられている。	記録なし。	なし	〃	II G 7号住は大木8 a式	113 91	
II G-8	II G-4号住の柱穴と重複しているため不整形、底面隅丸形状、断面ピーカー状	(155×117)×(43×36)×70		II G 4号の柱穴が埋土中にある。	1層はII G 4号住の柱穴(P4)の埋土、本遺構の記録なし。	埋土下層から径15mmの自然礫	〃	II G 4号住は大木8 a式	110	
II G-10	開口部、底面楕円形、断面ピーカー状	(125×112)×(60×52)×86		II G 4・5号住と重複、II G 6号住の床を載っており、II G 4号住の床を載られている。	自然堆積、1層はII G 4号住の床	埋土上層から3点出土、いずれも礫線貼付	縄文時代中期(大木8 a式)		111 92,96	
II G-11	開口部、底面とも長方形、断面筒形	(108×57)×(80×38)×154		II G 5住・II H 4住の中間で検出。重複なし	自然堆積、II G 5号床面に埋土1層検出。住居よりは新しいか。	なし	縄文中期以降	II G 5号住は大木7 b～8 a式期	112 92	
II H-3	開口部不正長方形、底面長方形、断面ピーカー状	(218×120)×(178×70)×116		II H 2・3号と重複、当該遺構はII H 2号住・柱穴を載っており、住居より新しい。	自然堆積、他の陥穴に比して褐色土が多い。	埋土上層から半円板(厚5mm)・横溝(断面は長方形)、底面から径10cmの自然礫	〃	II G 2・3号住は大木8 a式期	116 92	
II H-4	開口部、底面武蓮形、断面ピーカー状、一部崩落	(144×118)×(99×64)×105		II G 5住・II H 4住の中間で検出。重複なし。	自然堆積	なし	不明		114 93	
II H-5	開口部不正楕円形、底面隅丸長方形、断面ピーカー状	(128×118)×(95×73)×112		II H 2号住に接して検出。形状の異なるII H 4号陥穴とは4mの間隔	自然堆積、黒褐色土多い	なし	不明	II H 4号と形状共通するが主軸の方向異なる	114 93	
II H-6	開口部、底面隅丸長方形、断面筒状	(108×62)×(87×40)×82		II H 2号住と重複、住居の床面を載っている。	自然堆積、明褐色土が多い	なし	縄文中期以降	II H 2号住は大木8 a式期	115	
II H-7	開口部、底面隅丸長方形、断面筒状、一部崩落	(117×65)×(123×50)×73		II H 2・3号住と重複、II H 3号住の柱穴を載っている。形状の異なるII H 5号とは42.5mの間隔	上部は住居の埋土で不明	埋土上層から深鉢片2点、縄文のみで型式不明	不明	II H 2・3号住は大木8 a式期	115 94,96	
II H-8	開口部、底面隅丸長方形、断面筒形	(77×44)×(70×35)×53		II H 2・4号住と重複、埋土上層との住居の陥穴となっている。	自然堆積、1層はII H 2または4号住の床面	なし	不明	II H 4号住は大木7 b、II H 2号住は大木7 a式期に新しい可能性がある	115 94	
II H-9	開口部、底面隅丸長方形、東寄りにさらに長方形の壁込み	(104×73)×(86×50)×84、(74×26)×(60×17)×24		II H 4号住と重複、新旧関係不明埋土上層に陥穴はない。	自然堆積1～3層はII H 4号住柱穴の埋土の可能性あり	なし	不明	陥穴がないことからII H 4号住と新しい可能性がある	113 94	

ウのタイプ (第116～118図、写真図版95・96)

溝状の陥穴は調査区東端のI J区に集中している。3基うちの2基、I J-1、2号は規模、形状とも共通しており、東側の調査区外に連なると思われる。これに対してI J-3号は溝状ではなく、長方形に近い。埋土に十和田a火山灰を含み出土する土器も新しく、時期は縄文時代終末か弥生時代初頭に属する。3基のデータの詳細は下表の通りである。

(ウのタイプ)

遺構名	形状	規模：上×下×深		検出状況・重複関係	埋土	遺物	時期	備考	図版	
		副穴：上×下×深							写真	
I J-1	開口部、底面とも溝状	(287×55)×(290×10)×105		I J区北側の埋土で検出。I J 3号土坑と重複土坑を載っている。	ブロック状の埋土人為的埋戻しか。	なし	不明	I J 2号と形状共通する。中期の可能性高い	116 95	
I J-2	〃	(260×50)×(258×11)×105		I J-1号の西側、3.2mの間隔で検出長軸はI J-1号と同じ。	自然堆積、黒色土卓越	埋土上層から六点出土。3点は小破片、いずれも深鉢で1点粘束羽状縄文	縄文時代中期	大木7 a～7 b式	118 95,96	
I J-3	開口部、底面とも長方形、断面筒形	(242×100)×(184×26)×128		遺跡の東端部崩落で検出。	自然堆積、2層は十和田a火山灰	6層中より土器5片出土。左下の大木7式(混入か)を除く4片は縄文時代終末～弥生時代の土器	縄文時代以前	厳密には長方形方に含まれる	118 95,96	



a-b

層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐	含赤褐色土粒(少量)
2	10YR2/1 黒	含黄褐色土ブロック
3	10YR4/4 褐	含炭化物(少量)
4	10YR5/8 黄褐	含炭化物(少量)
5	10YR4/4 褐	含炭化物(少量)
6	7.5YR4/3 褐	含炭化物(少量)

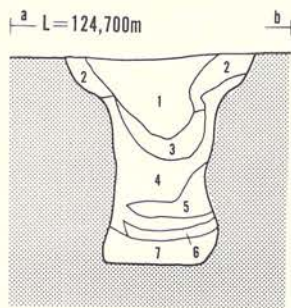
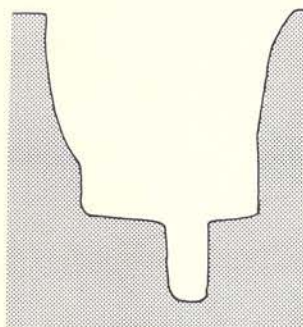
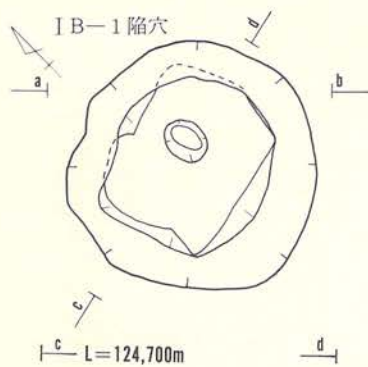
a-b

層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐	含赤褐色土粒(微量)
2	10YR2/1 黒	含炭化物(微量)
3	10YR2/2 黒褐	攪乱か?
4	10YR2/3 黒褐	
5	10YR4/4 褐	
6	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色土ブロック、炭化物(少量)
7	10YR3/2 黒褐	含炭化物(少量)
8	10YR5/6 黄褐	含炭化物(少量)
9	10YR2/2 黒褐	含炭化物(少量)

a-b

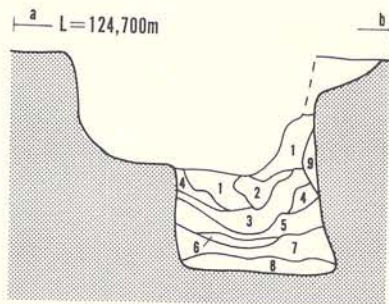
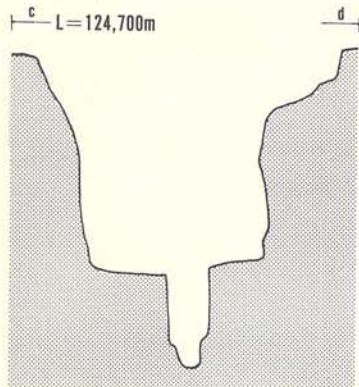
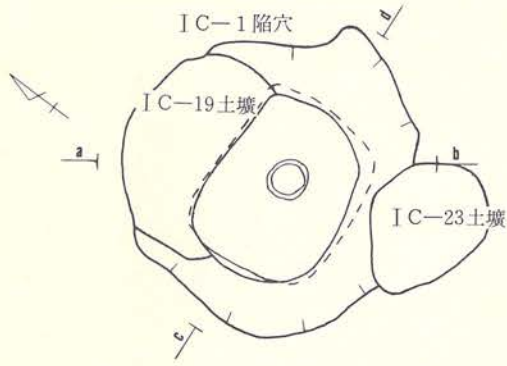
層位	色調	土性
1	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
2	7.5YR4/4 褐	汚れた火山灰
3	7.5YR2/1 黒	含黄褐色土粒(少量)
4	7.5YR1.7/1 黒	含黄褐色土粒
5	7.5YR3/4 暗褐	汚れた火山灰
6	7.5YR5/8 明褐	火山灰
7	7.5YR5/6 明褐	汚れた火山灰

第100図 IB-2、3、IG-2号陥穴



a-b

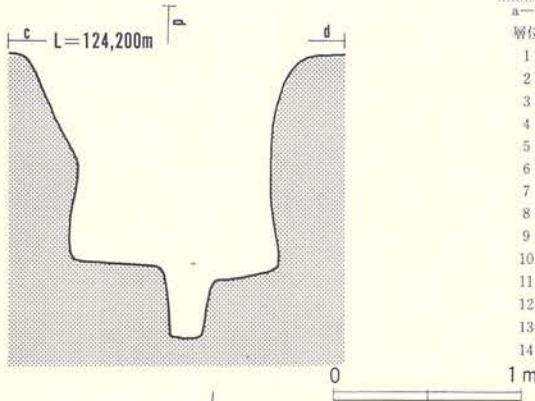
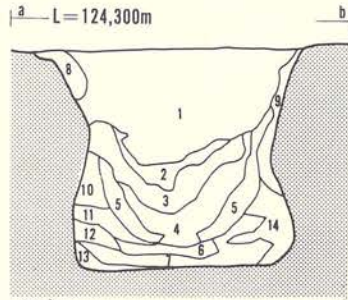
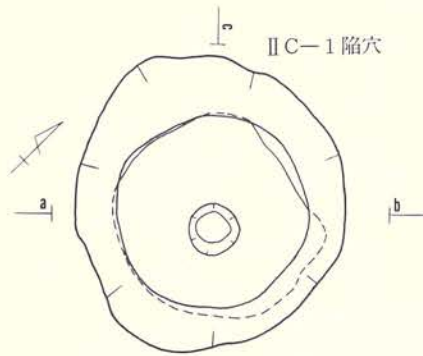
層位	色調	土性
1	10YR3/4 暗褐	含炭化物(微量)
2	10YR4/4 褐	
3	7.5YR4/6 褐	含炭化物(少量)
4	10YR4/6 褐	含炭化物(少量)
5	7.5YR5/8 明褐	
6	7.5YR5/8 明褐	
7	10YR3/3 暗褐	



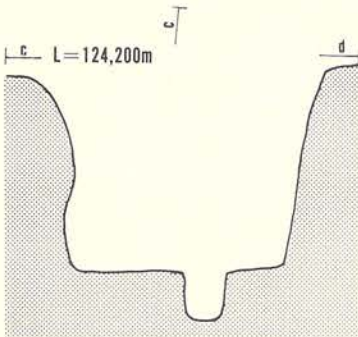
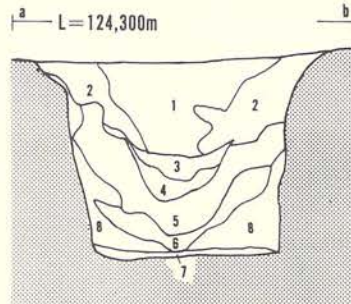
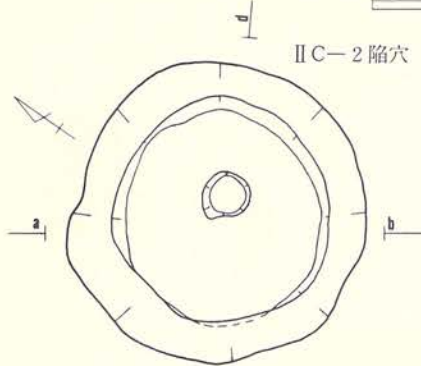
a-b

層位	色調	土性
1	10YR4/4 褐	
2	10YR3/3 暗褐	
3	7.5YR4/3 褐	含炭化物(少量)
4	7.5YR4/6 褐	
5	7.5YR5/6 黄褐	含炭化物(微量)
6	7.5YR4/6 褐	含炭化物(微量)
7	7.5YR5/6 黄褐	含炭化物(微量)
8	7.5YR3/4 暗褐	含炭化物(微量)
9	7.5YR7/8 黄橙	

第101图 IB-1、IC-1号陷穴

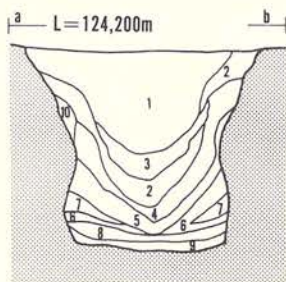
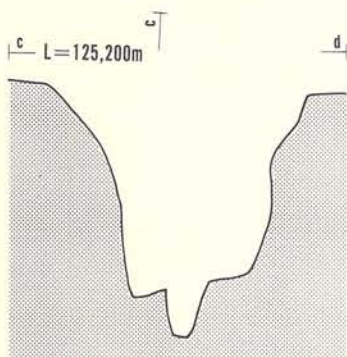
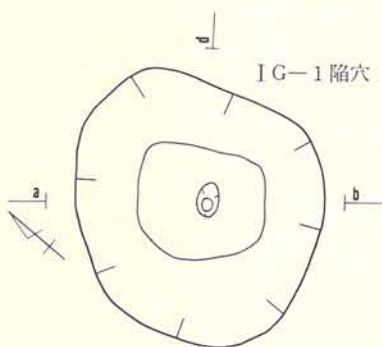
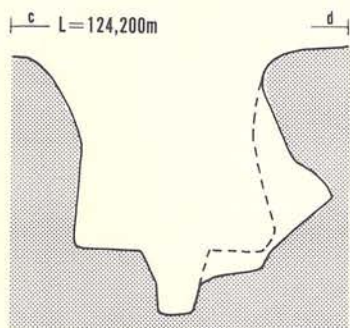
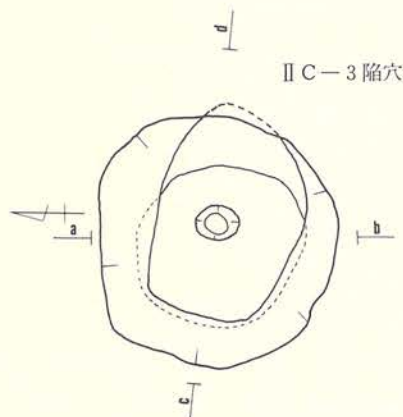


層位	色調	土性
1	7.5YR 2/1 黒	含赤褐色土粒(微量)
2	7.5YR 5/8 明褐	粉状バミス層
3	10YR 2/2 黒褐	
4	10YR 2/3 黒褐	
5	10YR 6/8 明黄褐	
6	10YR 6/8 黄褐	
7	10YR 7/8 黄橙	
8	10YR 3/2 黒褐	
9	10YR 6/8 明黄褐	
10	10YR 5/8 黄褐	
11	10YR 5/8 黄褐	
12	10YR 7/8 黄橙	
13	10YR 8/8 黄橙	
14	10YR 5/8 黄褐	

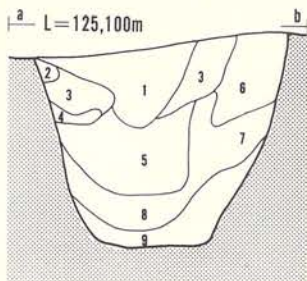
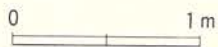


層位	色調	土性
1	10YR 1.6/1 黒	含赤褐色土粒(微量)
2	10YR 2/2 黒褐	含赤褐色土粒(微量)
3	10YR 4/6 褐	粉状バミス層
4	7.5YR 1.7/1 黒	
5	10YR 2/3 黒褐	
6	10YR 3/4 暗褐	
7	10YR 5/8 黄褐	
8	10YR 6/8 明黄褐	

第102図 II C-1、2号陥穴

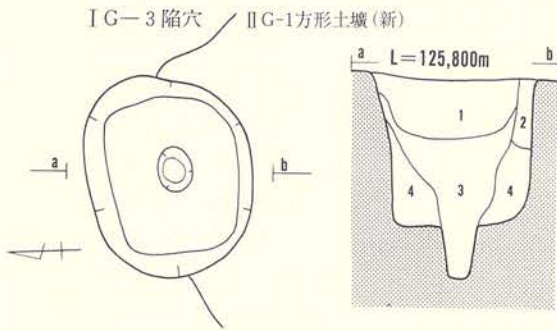


層位	色調	土性
1	7.5YR1.7/1 黒	含赤褐色土粒(微量)
2	10YR2/1 黒	
3	7.5YR5/8 明褐	粒状バミス層
4	7.5YR2/1 黒	
5	7.5YR3/1 黒褐	
6	10YR3/2 黒褐	
7	10YR5/4 にぶい黄褐	
8	10YR5/3 にぶい黄褐	
9	10YR3/3 暗褐	
10	10YR4/2 灰褐色	

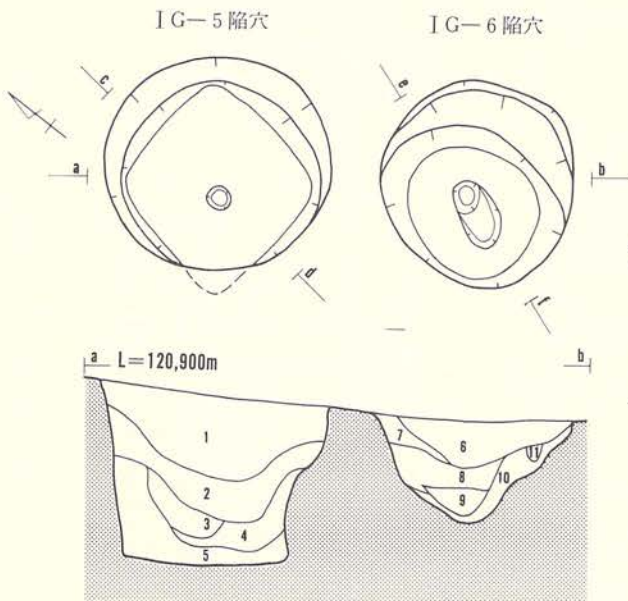


層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	含黄褐色バミス(多量)
2	10YR4/6 褐	汚れた火山灰
3	7.5YR3/2 黒褐	含黄褐色バミス(微量), 黄褐色土粒(少量)
4	7.5YR5/6 明褐	汚れた火山灰
5	10YR3/3 明褐	含黄褐色バミス(微量)
6	10YR6/8 明黄褐	含橙色土、炭化物(少量)
7	10YR3/2 黒褐	含黄褐色土粒、バミス(多量)、炭化物(少量)
8	10YR3/1 黒褐	含黄褐色土粒、バミス(多量)
9	10YR8/8 黄橙	火山灰

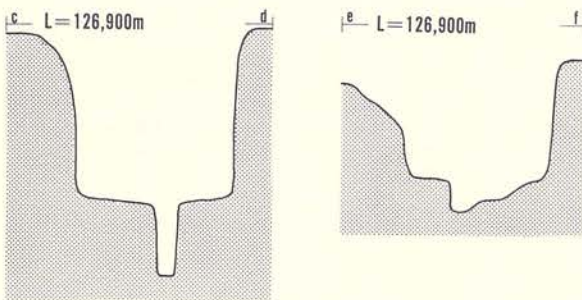
第103図 II C-3、I G-1号陥穴



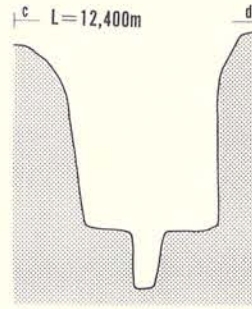
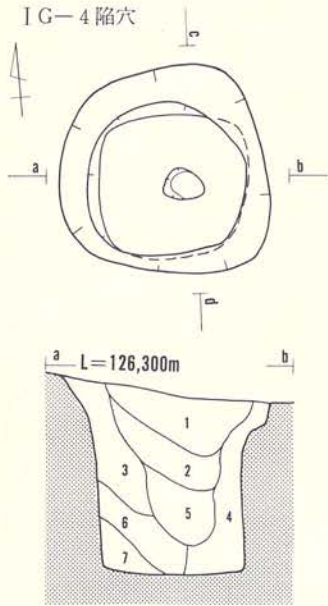
層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	
2	7.5YR3/3 暗褐	含黄褐色土粒(多量)
3	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
4	7.5YR4/3 褐	混黒褐色土



層位	色調	土性
1	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(多量)
2	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
3	7.5YR3/3 暗褐	汚れの多い火山灰
4	5YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
5	7.5YR4/3 褐	含黄褐色土粒(多量)
6	5YR3/1 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
7	5YR3/2 暗赤褐	含赤褐色土粒(微量)
8	5YR3/3 暗赤褐	含黄褐色土粒(多量)
9	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色パミス(少量)
10	7.5YR4/6 褐	汚れた火山灰
11	5YR2/3 極暗赤褐	

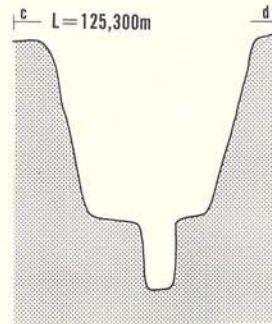
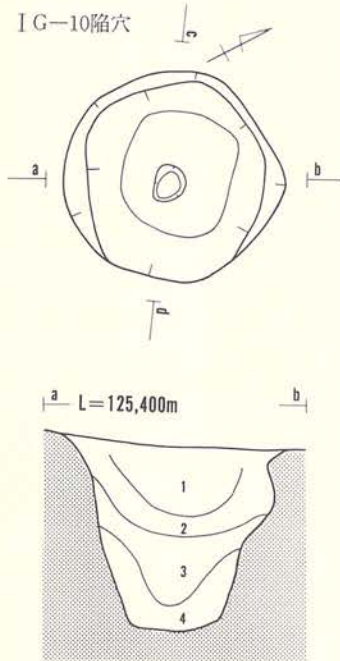


第104図 I G-3、5、6号陥穴



a-d

層位	色調	土性
1	7.5YR2/2 黒褐	含黄褐色土粉(微量)
2	10YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
3	7.5YR3/2 黒褐	含黄褐色土粒(多量)
4	7.5YR5/6 明褐	汚れた火山灰
5	10YR2/3 黒褐	含黄褐色土粒(多量)
6	7.5YR3/3 暗褐	汚れの多い火山灰
7	10YR3/4 暗褐	汚れの多い火山灰

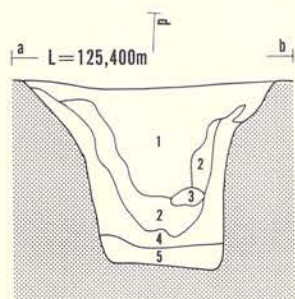
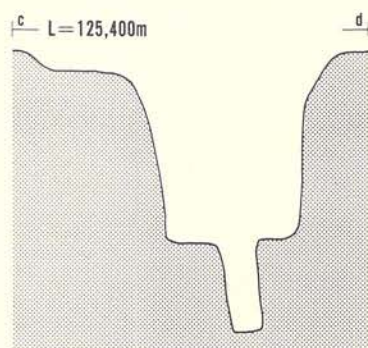
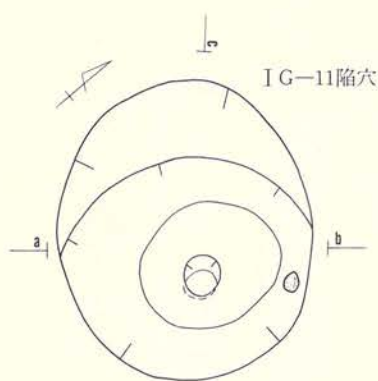


a-b

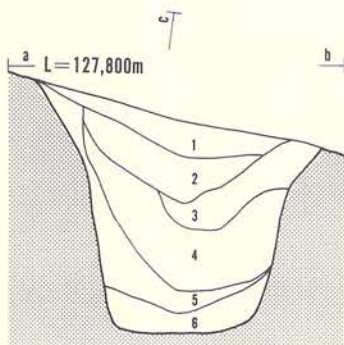
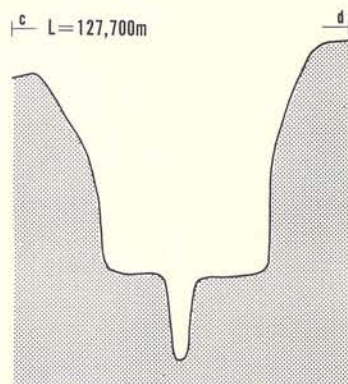
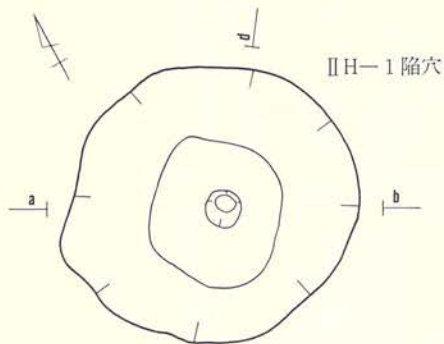
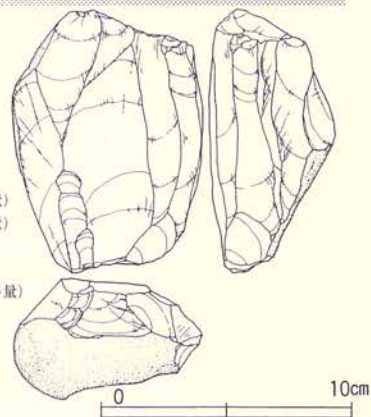
層位	色調	土性
1	7.5YR1.7/1 黒	
2	7.5YR2/1 黒	含黄褐色土粒(少量)
3	7.5YR2/1 黒	含黄褐色土粒(少量)
4	10YR5/6 黄褐	汚れた火山灰

0 1 m

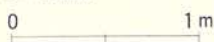
第105図 IG-4、10号陥穴



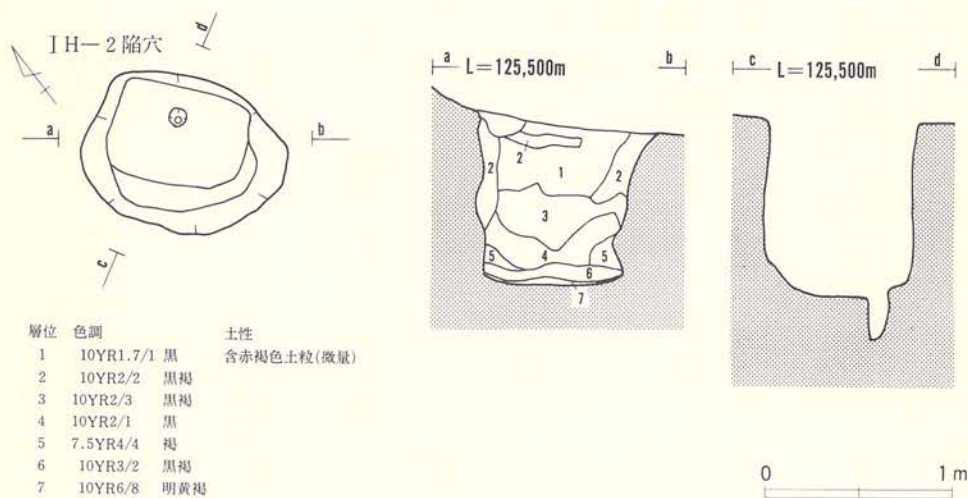
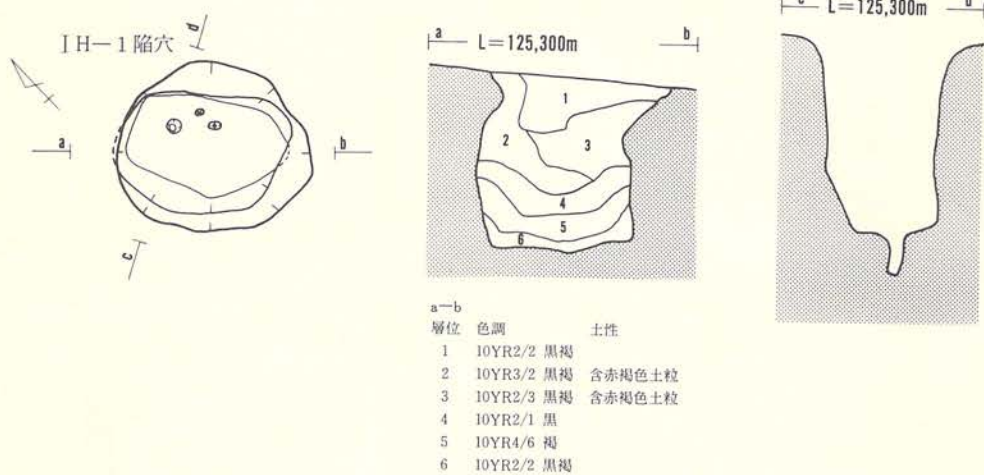
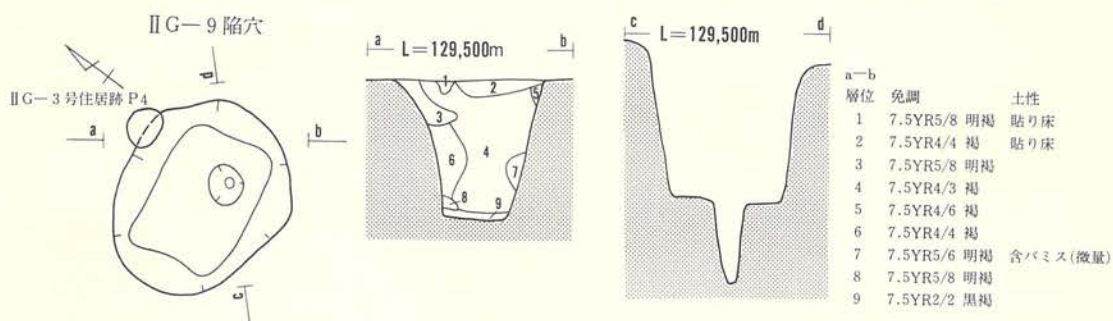
層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐	含黄色土粒(微量)
2	10YR3/3 暗褐	含黄色土粒(多量)
3	10YR4/4 褐	火山灰
4	10YR5/8 黄褐	汚れた火山灰
5	10YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(多量)



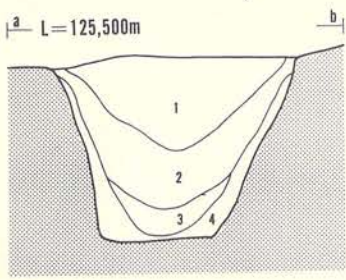
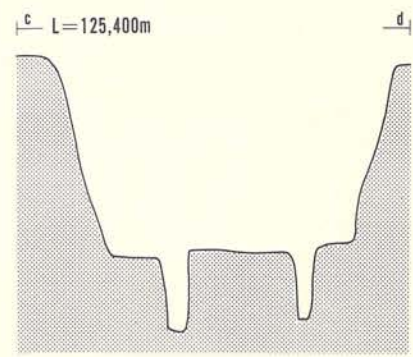
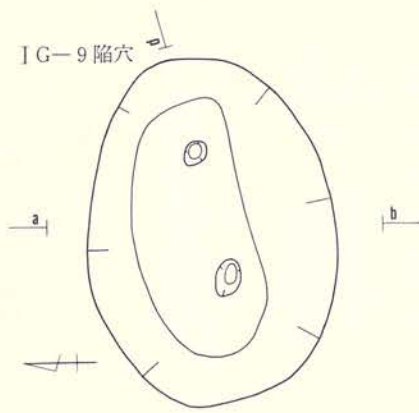
層位	色調	土性
1	5YR2/1 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
2	7.5YR2/1 黒	含黄褐色土粒(微量)
3	7.5YR3/1 黒褐	含黄褐色土粒(多量)
4	10YR2/1 黒	
5	7.5YR4/4 褐	汚れた火山灰
6	7.5YR4/6 赤褐	汚れた火山灰



第106図 I G-11、II H-1号陥穴

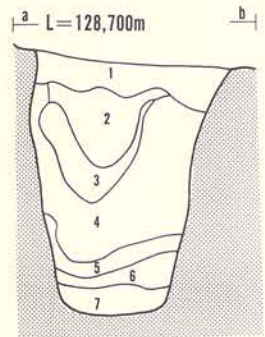
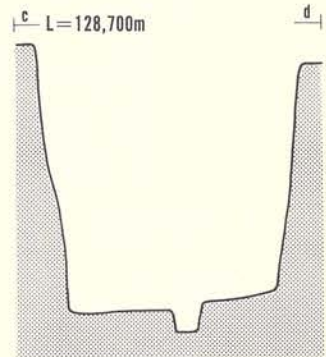
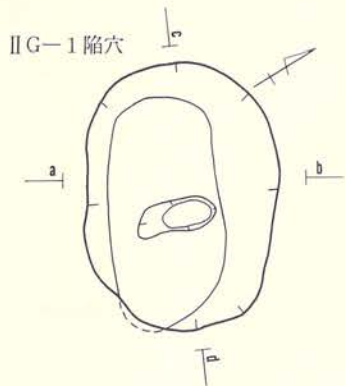
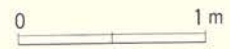


第107図 II G-9、I H-1、2号陥穴



a-b

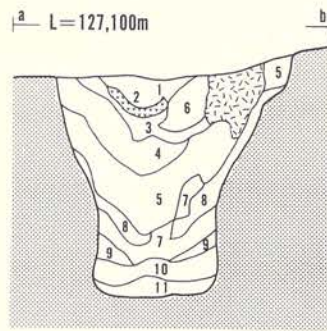
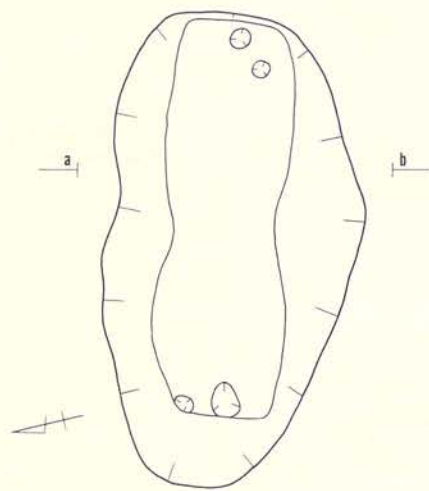
層位	色調	土性
1	10YR2/1 黒	
2	10YR2/2 黒褐	含褐色土粒 (多量)
3	10YR3/2 黒褐	含褐色土粒 (多量)
4	10YR4/4 褐	含バミス



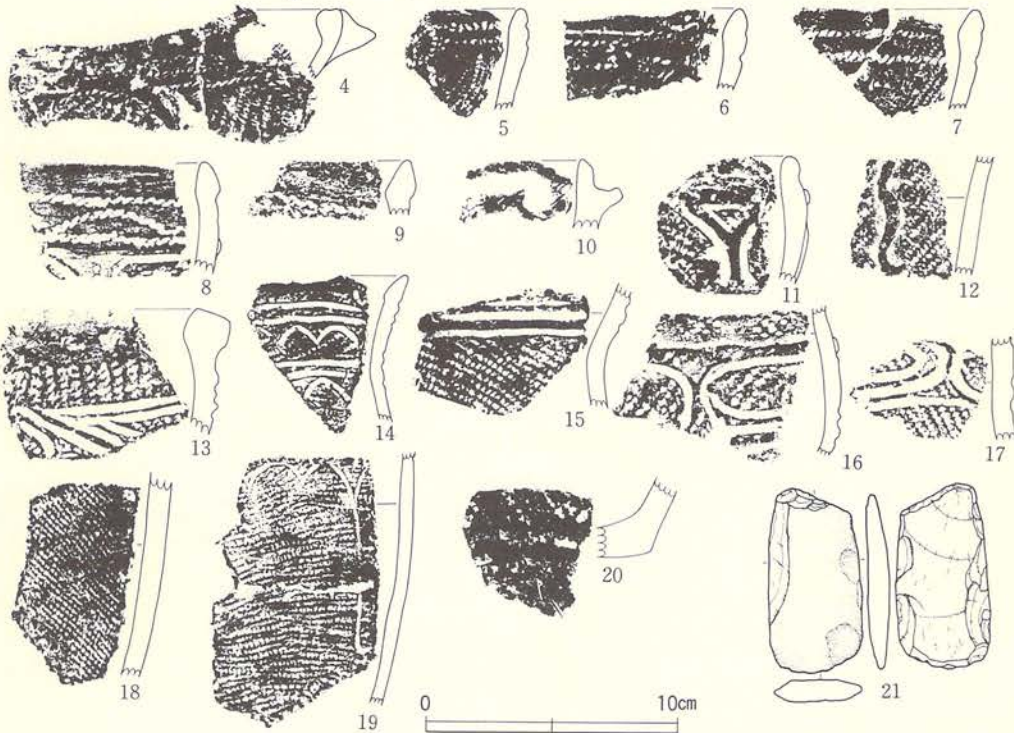
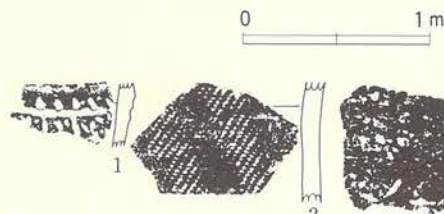
a-b

層位	色調	土性
1	10YR3/4 暗褐	汚れた火山灰
2	10YR2/3 黒褐	汚れた火山灰
3	10YR4/6 褐	汚れた火山灰
4	10YR5/8 黄褐	汚れた火山灰
5	10YR6/8 明黄褐	含黄褐色バミス
6	10YR5/4 にぶ黄褐	含黄褐色バミス
7	10YR6/8 明黄褐	含黄褐色バミス

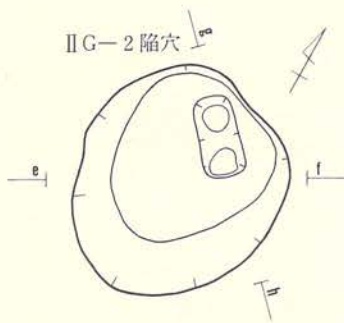
第108図 I G-9、II G-1号陥穴



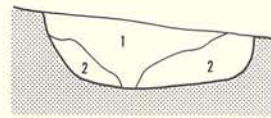
層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	含黄褐色土粒(微量)
2	2.5YR8/4 淡黄	火山灰、含炭化物(微量)
3	7.5YR2/3 極暗褐	含炭化物(少量)、黄褐色土粒(微量)
4	7.5YR4/4 褐	含烧土粒
5	7.5YR2/2 黑褐	含黄褐色土粒(微量)
6	7.5YR3/2 黑褐	含炭化物(微量)
7	10YR2/2 黑褐	
8	10YR4/6 褐	火山灰
9	10YR4/6 褐	汚れた火山灰
10	10YR3/4 暗褐	含黄褐色土粒(微量)
11	7.5YR5/6 明褐	火山灰



第109図 II H-2号陥穴・遺物

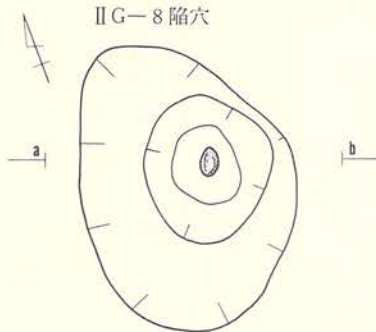
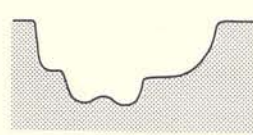


e-f L=128,700m

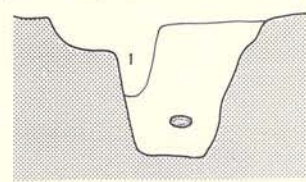


層位	色調	土性
1	10YR3/4 暗褐	汚れた火山灰
2	10YR6/8 明黄褐	汚れた火山灰

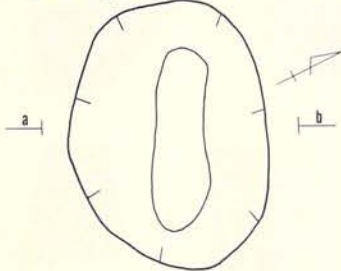
g-h L=128,700m



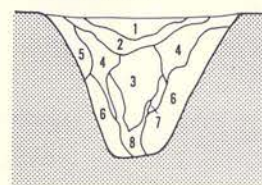
a-b L=128,700m



I C-2 陥穴

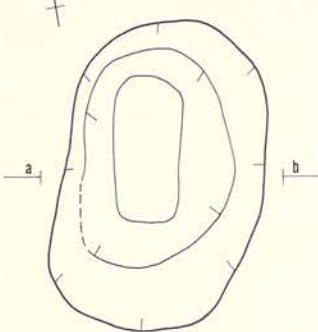


a-b L=124,500m

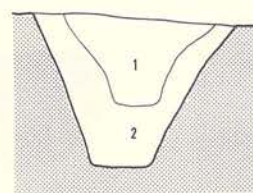


層位	色調	土性
1	10YR2/1 黒	
2	10YR2/2 黒褐	
3	7.5YR2/1 黒	含炭化物(微量)
4	10YR3/2 黒褐	含炭化物(微量)
5	10YR4/4 褐	
6	10YR5/6 黄褐	
7	10YR4/4 褐	
8	10YR4/4 褐	

I G-7 陥穴



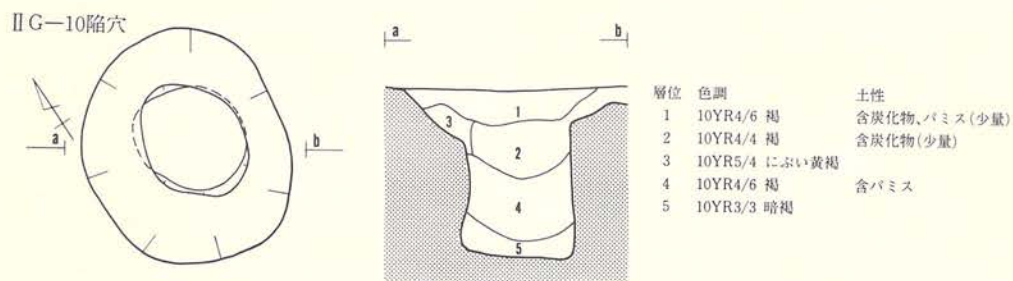
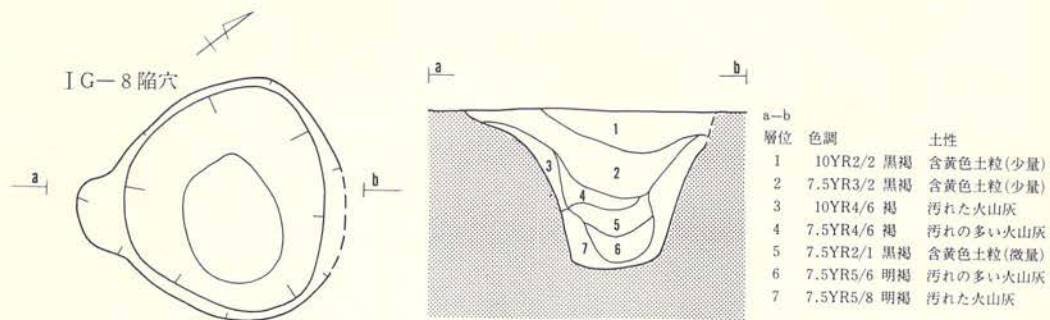
a-b L=126,100m



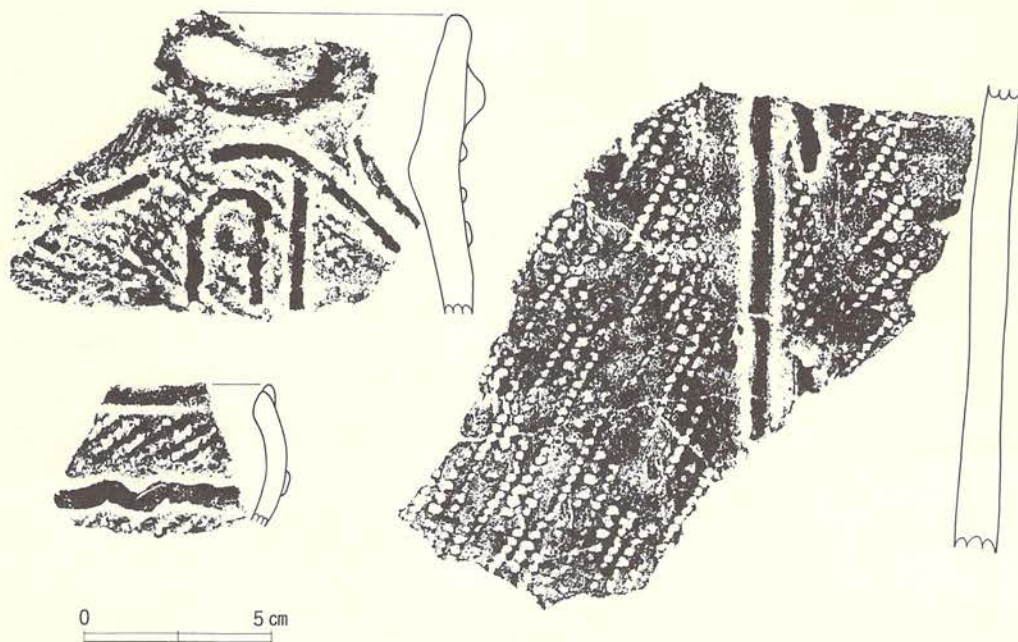
層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐	含黄褐色土粒(少量)
2	7.5YR4/6 褐	汚れた火山灰

0 1m

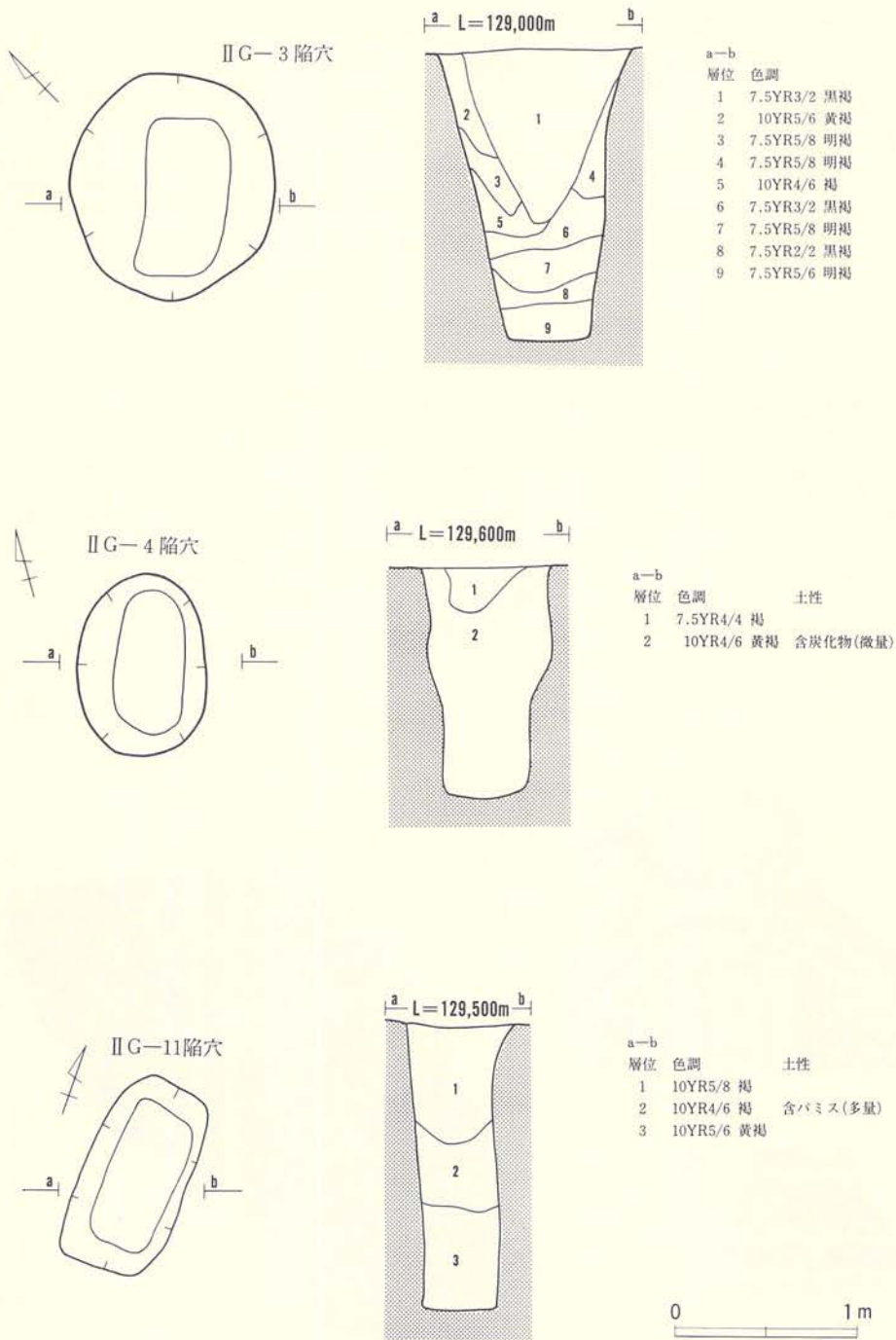
第110図 I C-2、II G-2、8、I G-7号陥穴



0 1 m



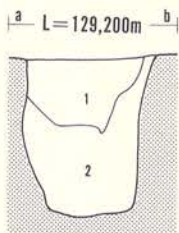
第111図 I G-8、II G-10号陥穴・遺物



第112図 II G-3、4、11号陥穴

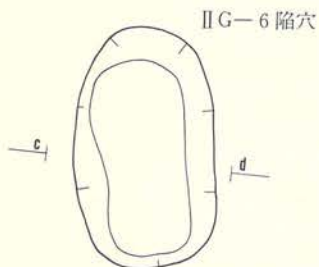


II G-5 陷穴

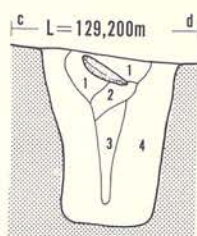


a-b

層位	色調	土性
1	10YR2/2 黑褐	含炭化物(少量)
2	10YR4/6 褐	

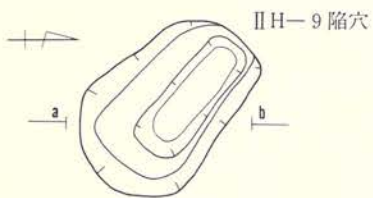


II G-6 陷穴

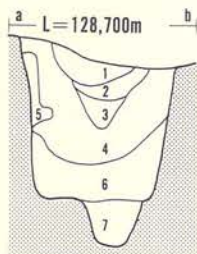


c-d

層位	色調
1	10YR3/4 暗褐
2	10YR4/6 褐
3	10YR5/6 黄褐
4	10YR6/8 明黄褐



II H-9 陷穴



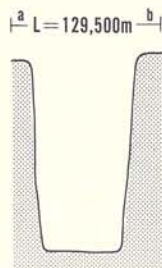
a-b

層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黑	
2	7.5YR6/6 橙	
3	7.5YR4/4 褐	
4	7.5YR5/6 明褐	
5	7.5YR7/6 黄橙	含浮石
6	7.5YR4/6 褐	
7	7.5YR5/8 明褐	



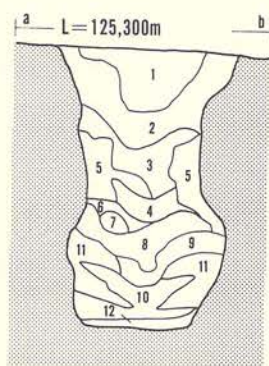
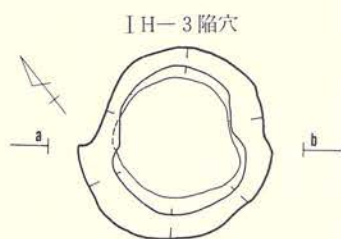
II G-7 号住居跡

II G-7 住居跡炉(新)

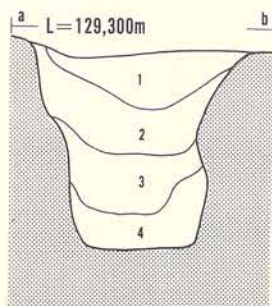
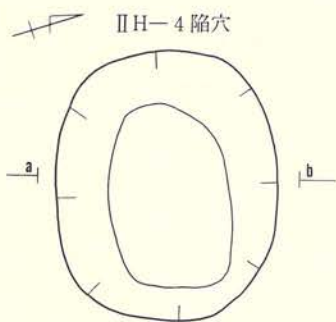


0 1 m

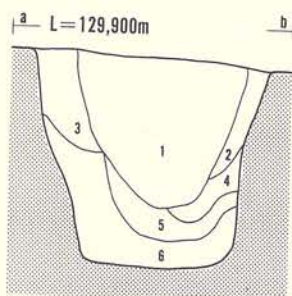
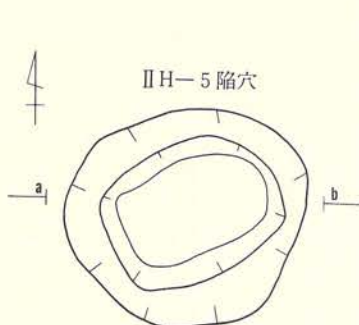
第113图 II G-5、6、7、II H-9号陷穴



層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐	含赤褐色土粒
2	10YR2/3 暗褐	含炭化物(微量)
3	10YR3/2 黒褐	含炭化物(少量)
4	10YR3/4 暗褐	含炭化物(微量)
5	10YR4/6 褐	
6	10YR3/2 黒褐	含炭化物(少量)
7	10YR4/6 褐	
8	10YR1.7/1 黒	含炭化物(少量)
9	10YR3/4 暗褐	
10	10YR4/6 褐	
11	10YR5/6 黄褐	
12	7.5YR5/8 明褐	



層位	色調	土性
1	7.5YR4/4 褐	
2	7.5YR5/6 明褐	含バミス
3	7.5YR6/8 橙	含バミス
4	7.5YR4/6 褐	



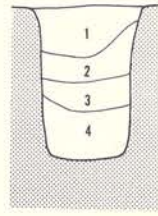
層位	色調	土性
1	7.5YR1.7/1 黒	
2	7.5YR5/8 明褐	
3	7.5YR4/6 褐	
4	7.5YR2/2 黒褐	
5	7.5YR3/1 黒褐	
6	7.5YR2/2 黒褐	

0 ————— 1m

第114図 I H-3、II H-4、5号陥穴

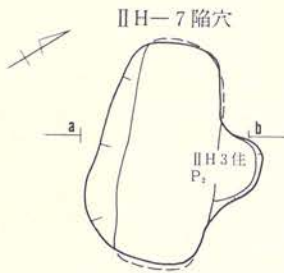


┌^a L=129,500m ┐^b

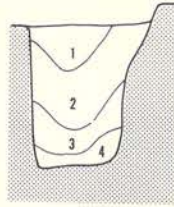


a-b

層位	色調	土性
1	7.5YR5/8 明褐	含バミス(少量)
2	7.5YR4/6 褐	
3	7.5YR5/8 橙	含バミス(微量)
4	7.5YR5/6 明褐	



┌^a L=129,200m ┐^b

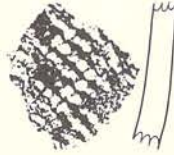


a-b

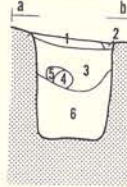
層位	色調	土性
1	10YR3/4 暗褐	
2	10YR4/6 褐	含炭化物(微量)
3	10YR5/6 黄褐	
4	10YR5/8 黄褐	



S=1/2



L=128,900m

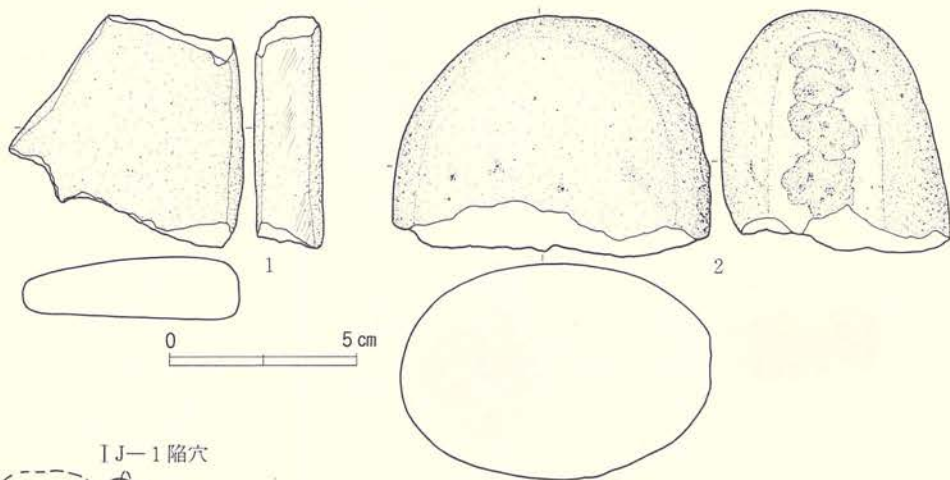
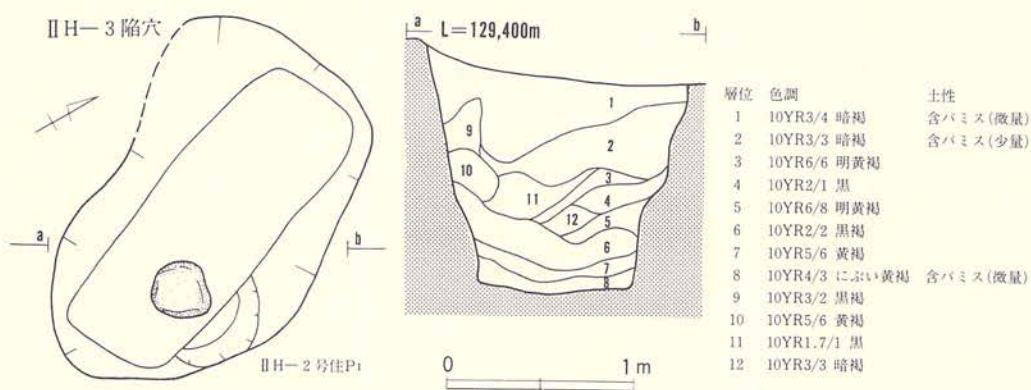


a-b

層位	色調
1	7.5YR5/6 明褐
2	7.5YR4/4 褐
3	7.5YR5/8 明褐
4	7.5YR3/4 暗褐
5	7.5YR5/8 明褐
6	7.5YR6/8 橙

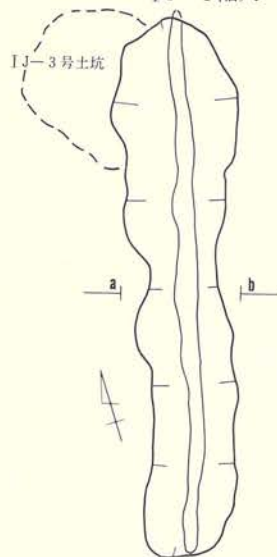


第115図 II H-6、7、8号陥穴・遺物



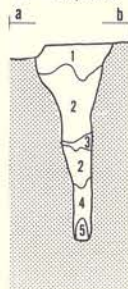
ⅠJ-1 陥穴

ⅠJ-3 号土坑



番号	器種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質
1	半円状偏平石器	ⅡH-3 号附し穴	(6.2)	6.35	1.8	89	高輝石安山岩
2	擦石	ⅡH-3 号陥し穴	(6.5)	8.55	6.1	459	高輝石安山岩

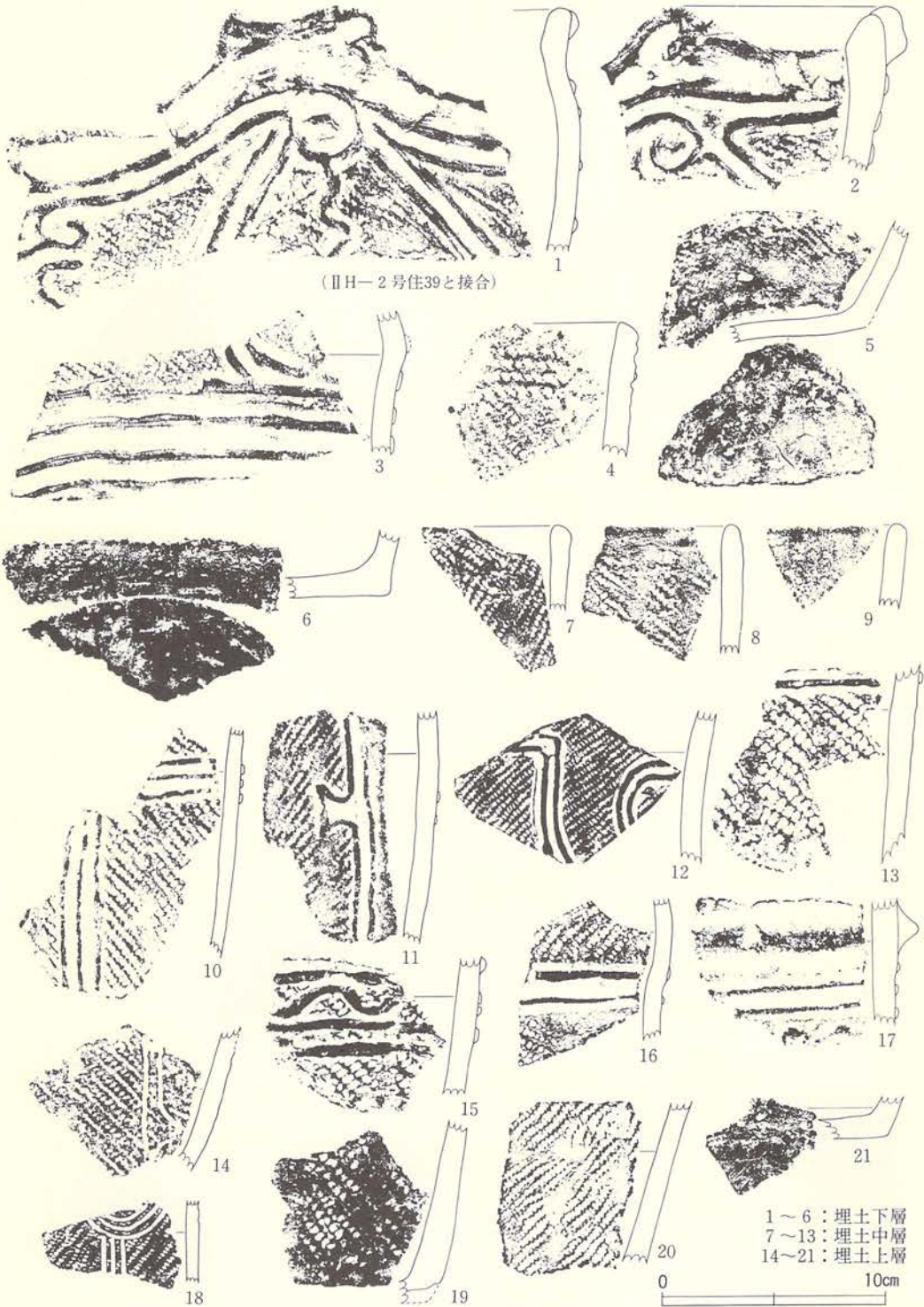
L=125,200m



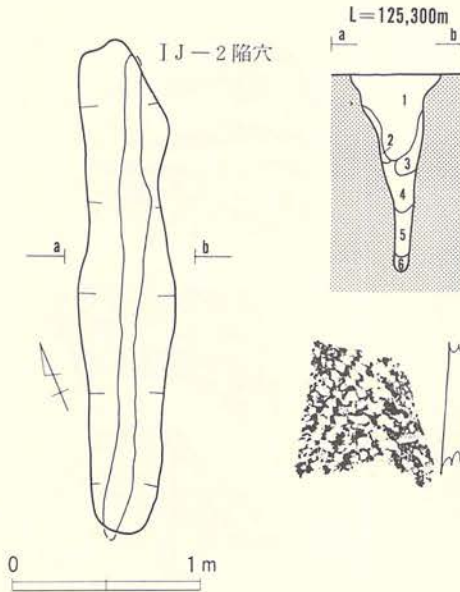
a-b

層位	色調	土性
1	7.5YR2/2 黒褐	
2	7.5YR3/3 暗褐	含炭化物
3	7.5YR4/6 褐	含粘土質ブロック
4	7.5YR5/6 褐	含粘土質ブロック
5	10YR4/6 褐	汚れた火山灰

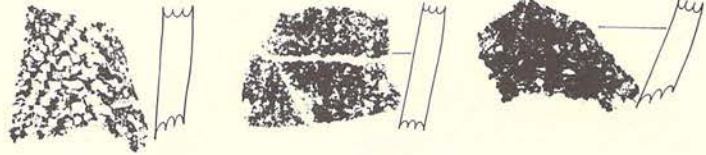
第116図 ⅡH-3号陥穴・遺物、ⅠJ-1号陥穴



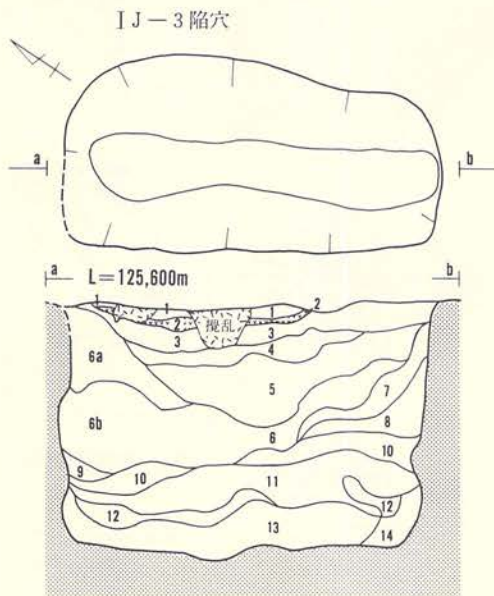
第117図 ⅡH-3号陷穴遺物



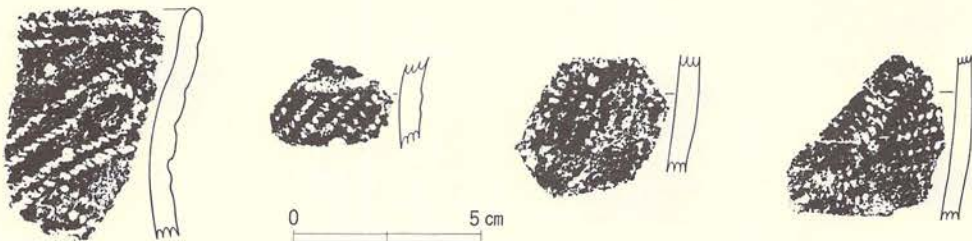
層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	
2	10YR3/4 暗褐	
3	10YR5/8 黄褐	
4	10YR2/1 黒	
5	7.5YR5/6 明褐	
6	10YR2/3 黒褐	含黄褐色土粒



0 5 cm

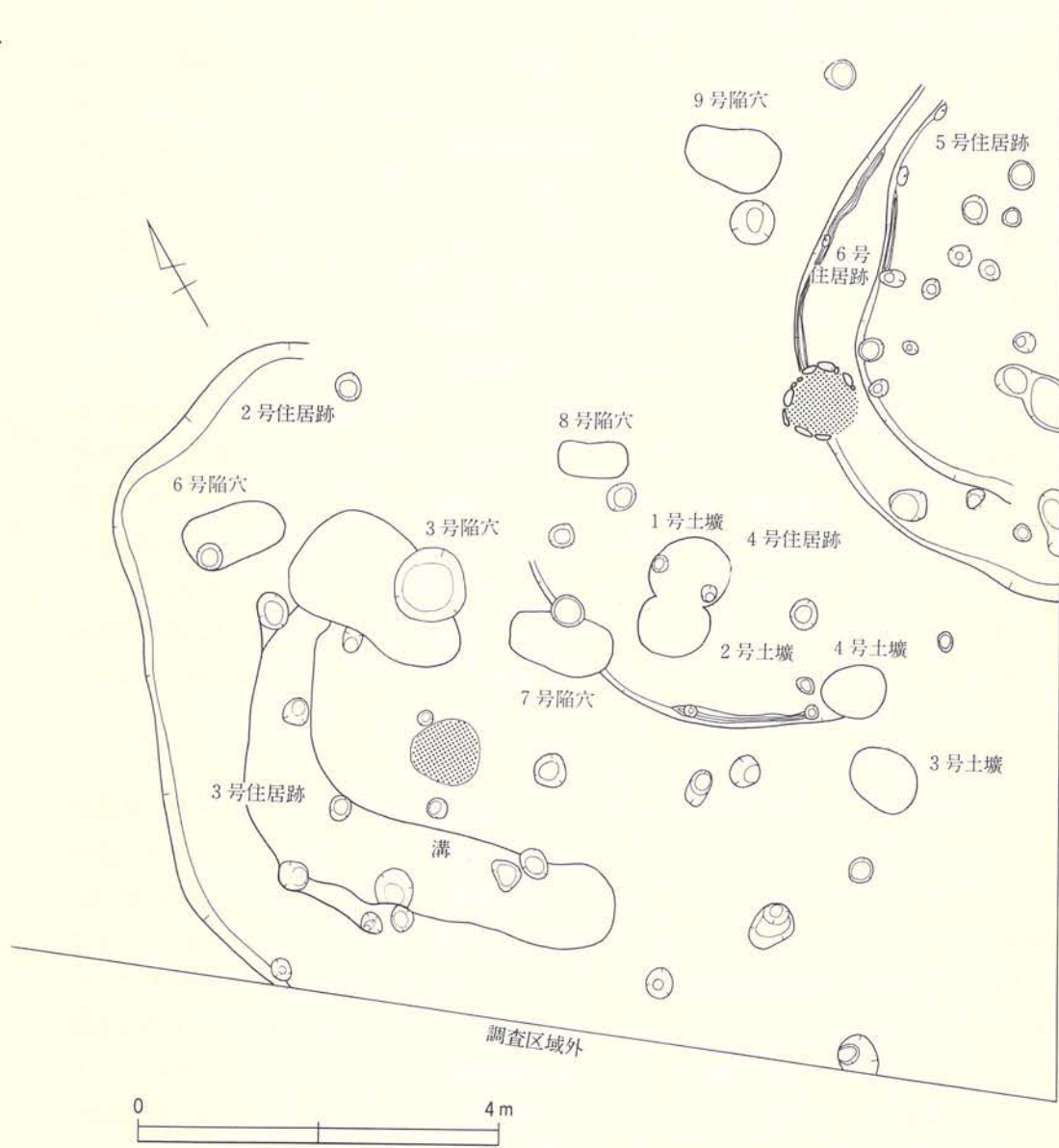


層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	
2	2.5YR8/4 淡黄	火山灰
3	7.5YR4/3 暗褐	含黄橙色土粒
4	7.5YR3/3 暗褐	含黄橙色土粒、赤褐色土粒
5	7.5YR4/4 暗褐	含黄橙色パミス
6	7.5YR3/4 暗褐	含黄橙色土粒、赤褐色パミス
a	7.5YR3/2 黒褐	含パミス
b	7.5YR3/2 黒褐	含黄橙色土粒
7	10YR2/2 黒	含黄橙色土粒
8	7.5YR7/8 黄橙	
9	7.5YR4/4 褐	含黒色土粒
10	10YR2/1 黒	含黄橙色土粒
11	7.5YR5/6 明褐	
12	7.5YR2/2 黒褐	含黄橙色土粒
13	7.5YR7/6 橙	汚れた火山灰
14	10 YR3/4 暗褐	含黄橙色土粒



0 5 cm

第118図 I J-2、3号陥穴・遺物



第119図 II H区陷穴・土壙・住居跡重複図

(4) 屋外炉・焼土 (第120図、写真図版98)

I H埋設炉：I I区でI I-1号土壙の近くで検出された。3個の大きな礫と1個の小さな礫の中に埋設土器位置している。埋土は1層に少量の焼土を含むが、2層は全く含まない。土器の中にも焼土は少なく、礫も1個を除いて明瞭な加熱跡が認められない。土器の掘方ははっきりしているが、炉のそれは断面では確認できたが、プランとしては把握できなかった。図では波線で表してある。礫と焼土を伴う集石土壙の可能性もある。埋設土器は深鉢の胴下半部で、2本の浅い沈線が縦に走るのみで、底部は無文。大木7式の範疇に含まれるものと考えられる。

I G-2号焼土：I G区西端の緩斜面で検出。ごく小規模で遺物はないが、周辺からは中期の土器が多く出土しており、この時期に相当しよう。現地性とおもわれる。

II G-1～3号焼土：II G-6号住とII H-5号住の中間に3基集中して検出された。3基とも長径40cm前後、焼土の厚さ5～6cmであるが、灰や褐色土混じりである。土層断面に土色の変化は観察されるが、掘り込みは確認できなかった。住居の焼土、灰の捨場と考えられる。2号の埋土から4点の土器片が出土した。縄文、沈線、結節縦回転の文様があり、大木7a式に含まれる。他の2基もレベル、層的に共通しており、この時期に属するものと推定される。

II H-1号焼土 (図、写真略)：II H区調査区西端で検出。長径60、短径45cmで、厚さは1cmに満たない。焼土と灰がまばらに分布しており、焚火でいどの痕跡である。周辺からは大木7～8式土器が出土している。

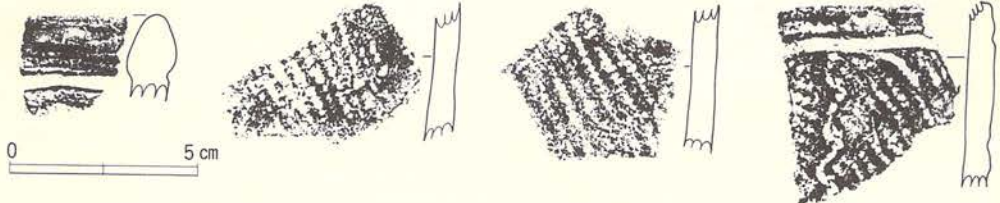
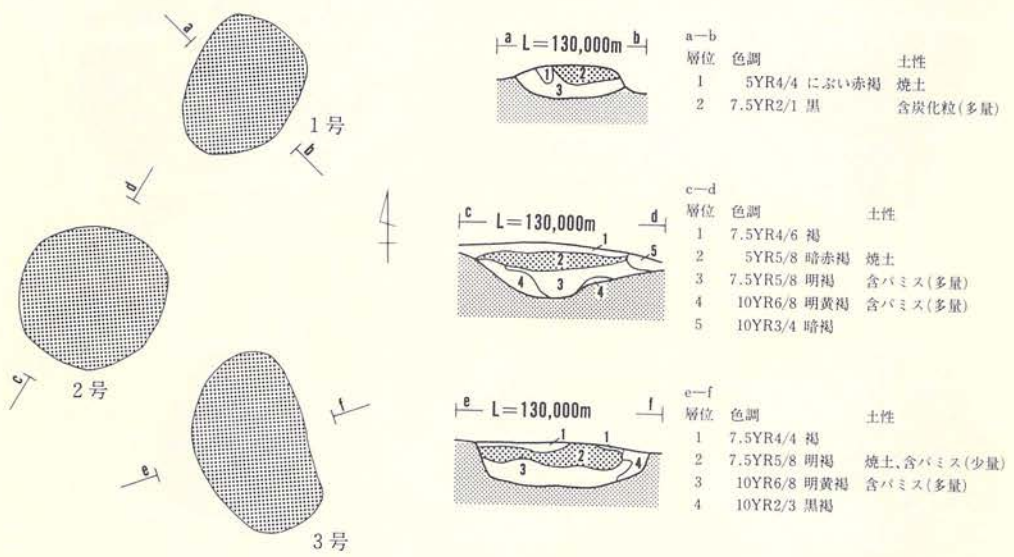
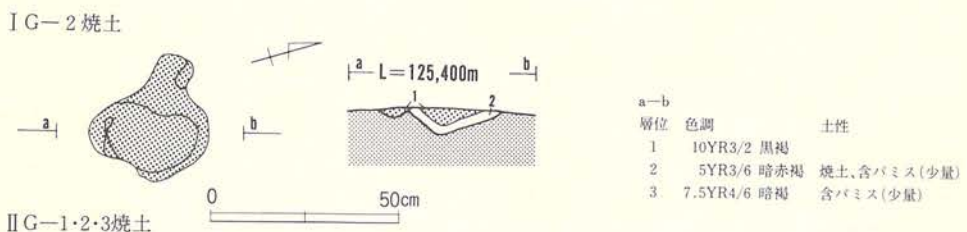
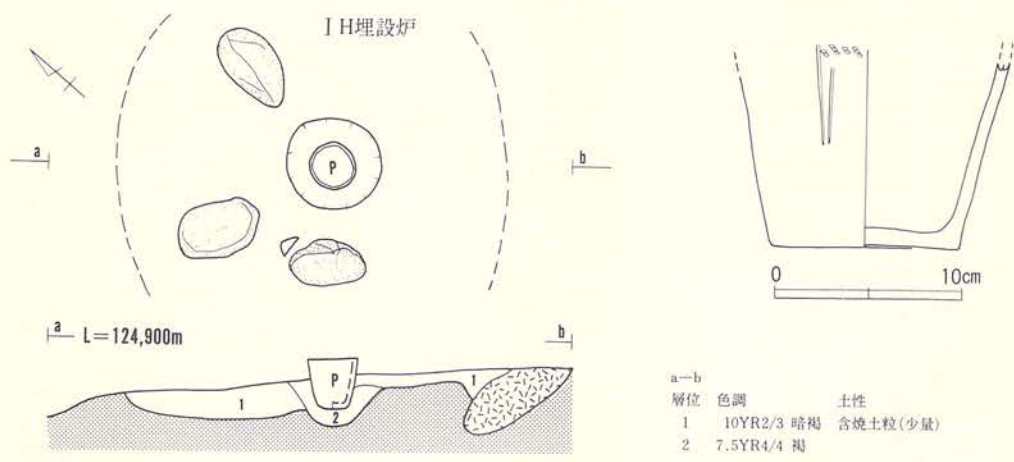
(5) 集石 (第121～124図、写真図版99～100)

I I-1号集石：I I区北東端で検出。表土1層から出土しはじめ2層に渡っている。検出面のレベルが高く、他の遺構の検出面の殆どは基本層序3層に相当し、この層からは縄文土器の出土も多い。これらから判断すると、当集石は耕作時に邪魔な礫類を一箇所にまとめた跡の可能性が高い。礫中から出土した土器は5片で同一個体、ゆるやかな波状口縁で、頸部の上下に1本の沈線が巡る。晩期中葉大洞C₁～C₂式に相当する。図示した石器も礫の中に混在していたもので、大型の石器のみで小型のものは出土しなかった。このことも邪魔な大きい石のみを集めたことを示している。石器の種類は石鋏、石錘、擦石など他の調査区と変わるところがない。

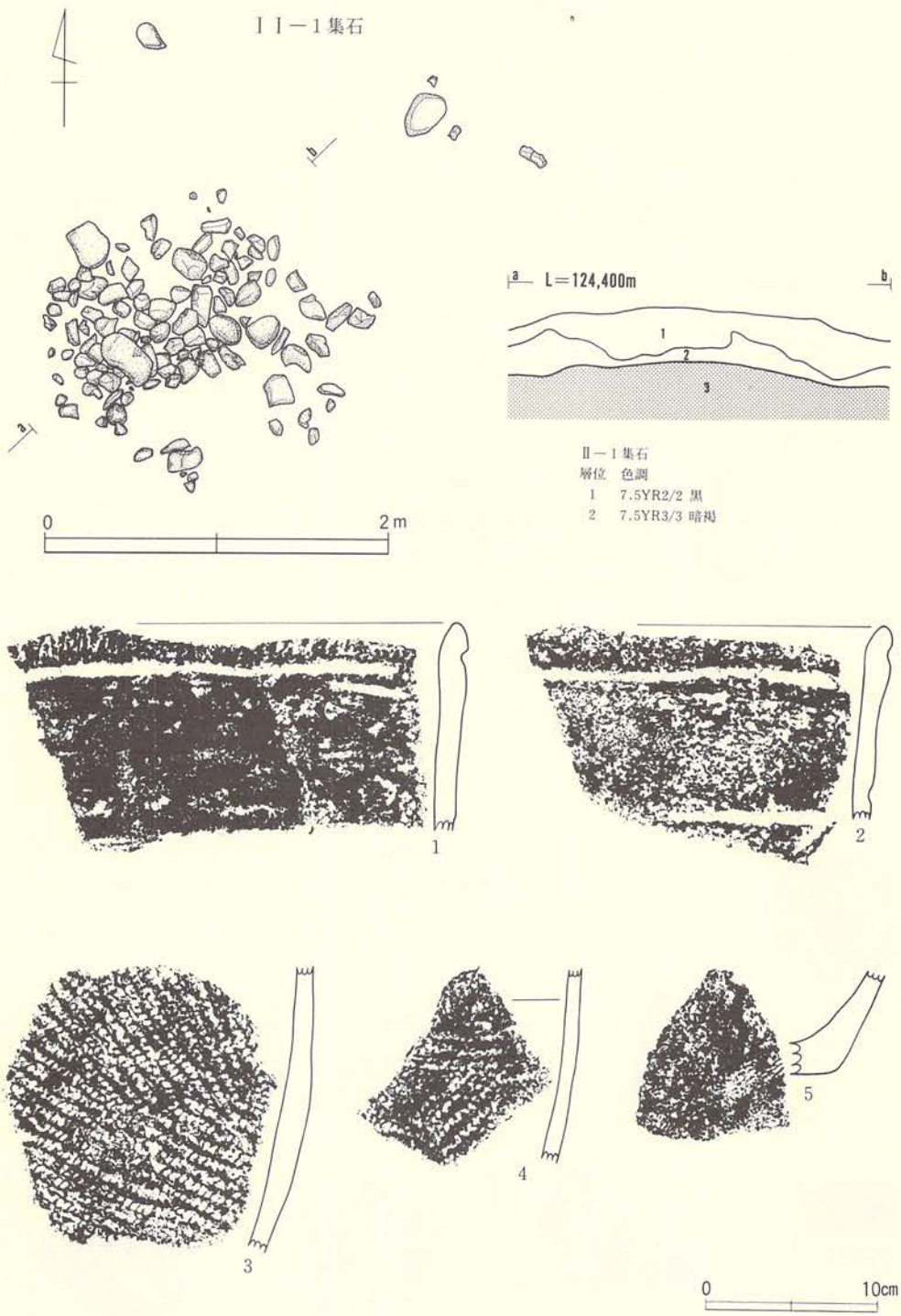
I I-2号集石：1号集石の約10m南側で検出。検出状況、層位等は1号と全く同じであるが、礫の状態が密でないことのみ異なる。出土した遺物も1号と同様大型の石器のみである。

(6) 溝・その他の遺構 (第125・126、写真図版101)

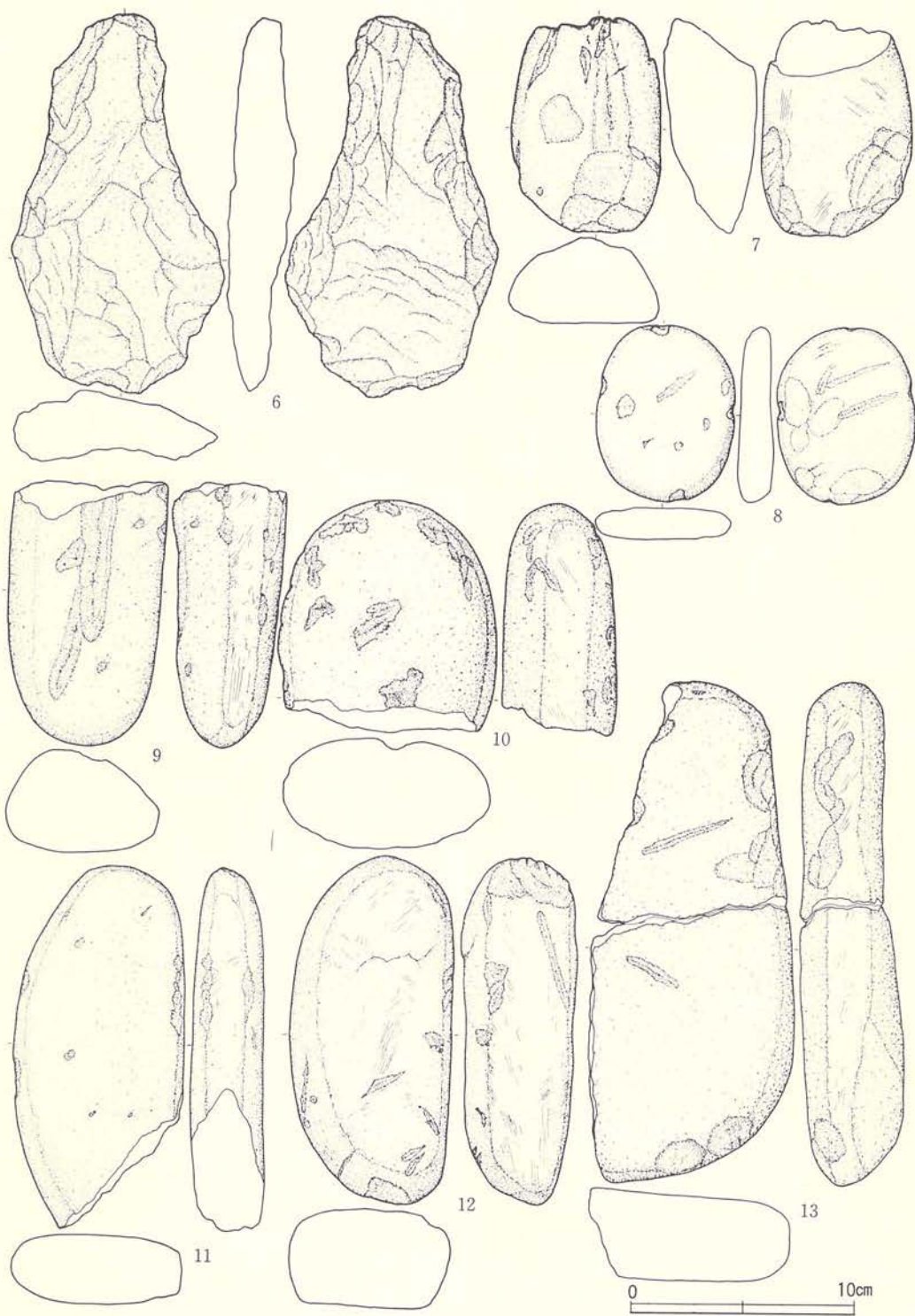
I H、I I、II I、II J区にかけて2条の溝が検出された。I H溝はほぼ直線で、I I溝はやや湾曲して南側の調査区外に伸びる。2条ともほぼ南北に走る。地表下50～80cmの基本層序4層 (明褐色～黄褐色土層) の上面の検出で、埋土は他の縄文時代の遺構の層と共通するところ



第120図 屋外炉、焼土遺構・遺物

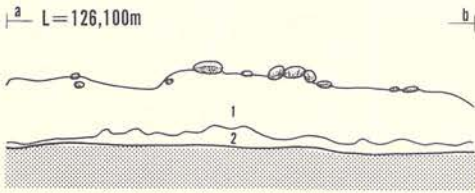
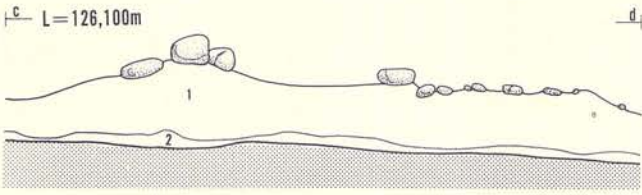


第121図 II-1号集石・遺物

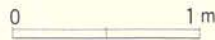
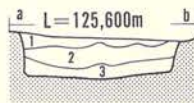
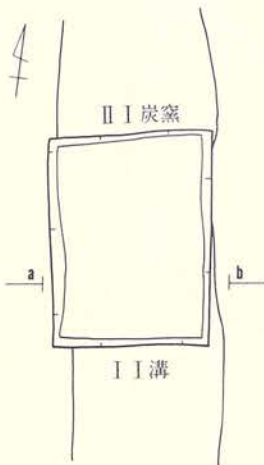
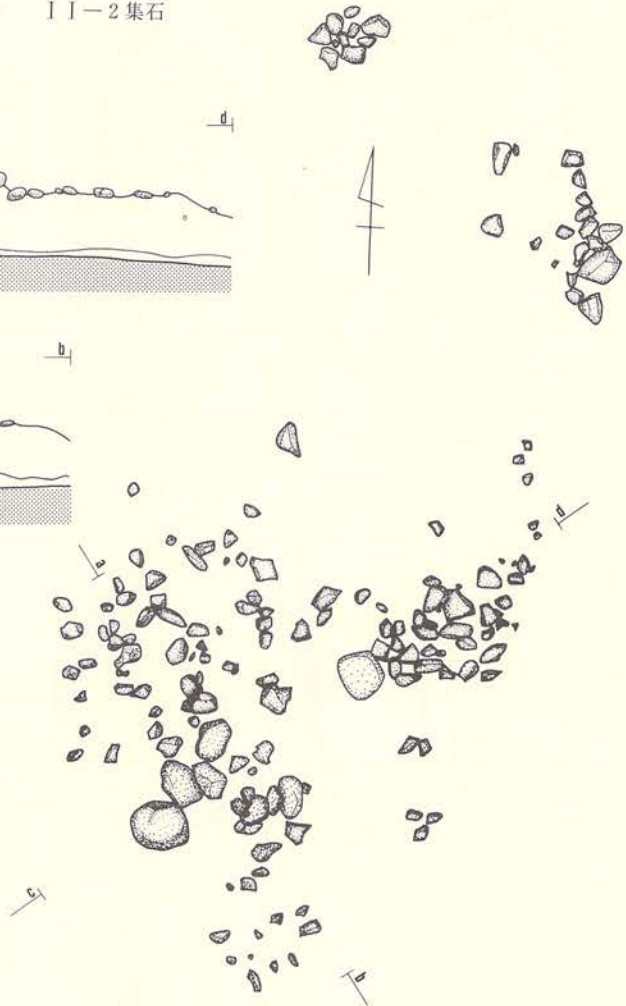


第122図 I 1-1号集石遺物 (観察表は166ページ)

I I-2 集石

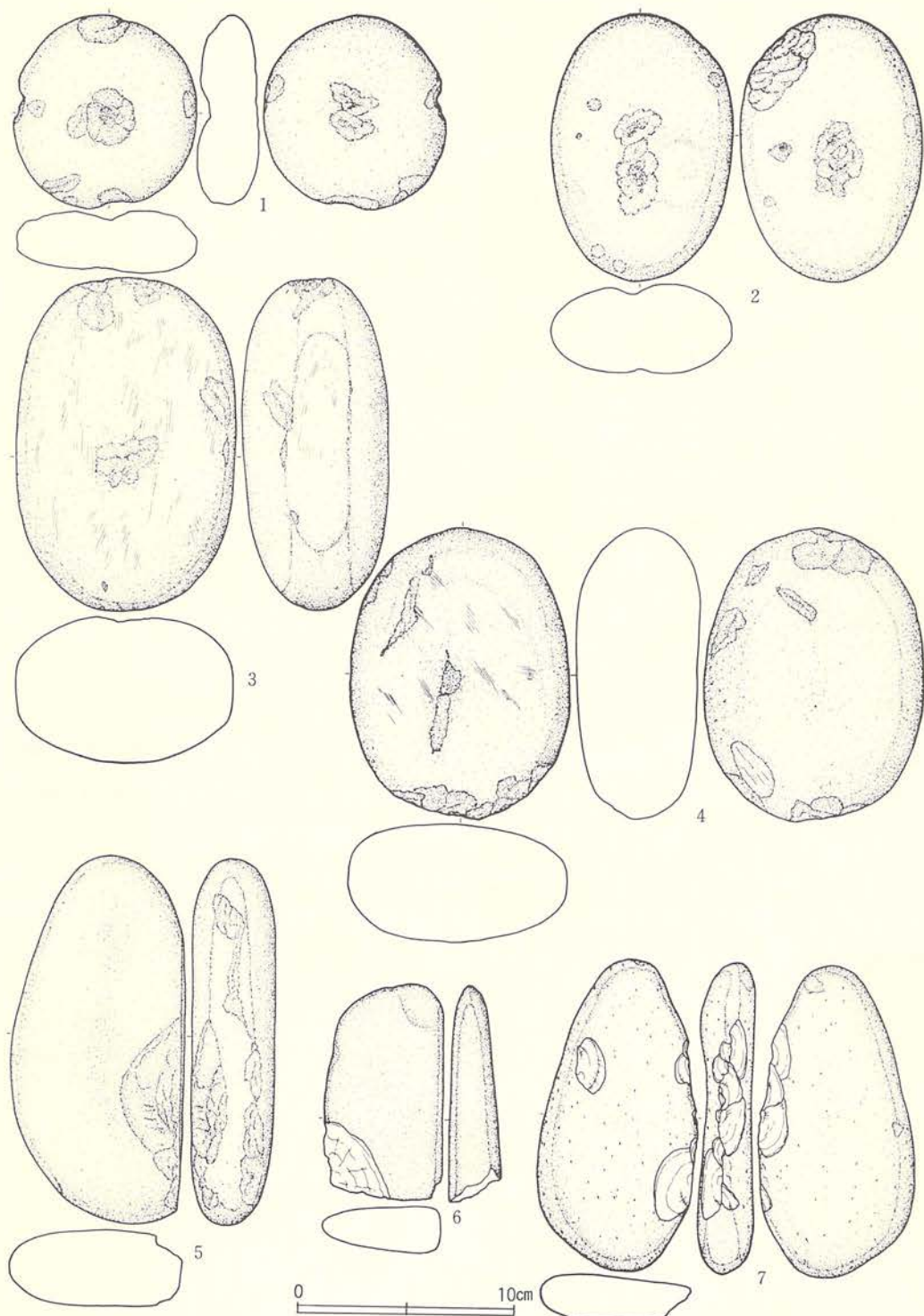


- II-2 集石
 層位 色調 土性
 1 7.5YR2/2 黒
 2 7.5YR3/3 暗褐 汚れた火山灰

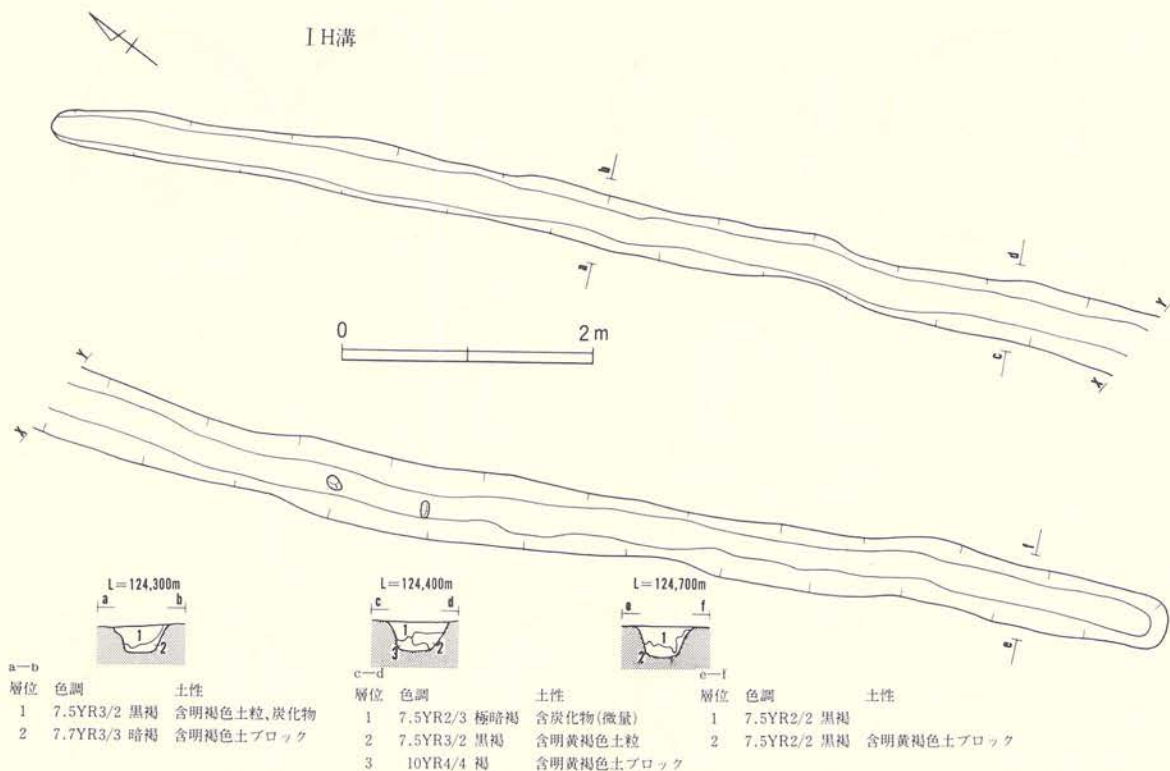


- a-b
 層位 色調 土性
 1 7.5YR2/1 黒 含炭化物
 2 7.5YR2/2 黒褐 炭化物中に含黄褐色ブロック、バミス
 3 5YR2/1 黒褐 炭化物

第123図 I H-2号集石、II I 炭窯



第124図 IH-2号集石遺物 (観察表は166ページ)



第125図 IH区溝

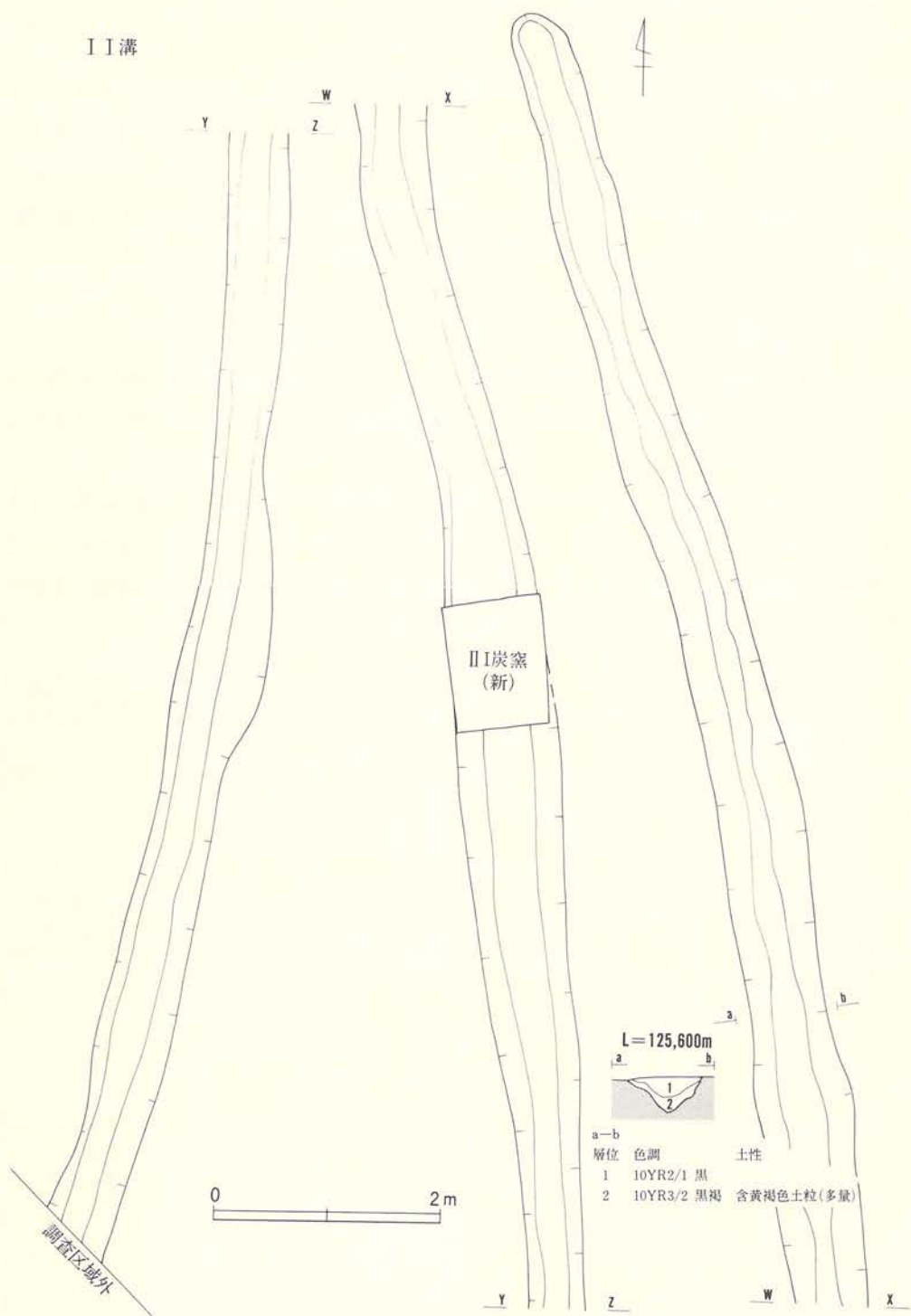
がある。溝幅、深さもほぼ同じである。遺物は殆ど無く、縄文土器と思われる微細な破片が数点出土しているのみであるが、検出面・埋土の状況から判断すると、縄文時代の遺構の可能性が高い。(図はサイズの都合により分断して示している。全体図は遺構配置図参照のこと。)
 その他：II I溝の中間に115×85cmの長方形の土壌を検出。溝を截って構築しており、当遺構のほうが新しい。壁は火を受けて脆くて堅く、埋土は炭化物が詰まっている状況である。遺物は無く時代は不明であるが、炭焼用の伏窯と思われる。

II-1号石器観察表

番号	器種	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質
6	石鍬	II-1構成礎	17.15	9.55	3.1	450	流紋岩
7	敲石	II-1構成礎	9.7	6.75	4.2	328	緑色凝灰岩
8	石錘	II-1構成礎	7.9	6.2	1.6	107	変質輝石安山岩
9	半円状偏平石器	II-1構成礎	12.0	7.0	5.1	532	両輝石安山岩
10	擦石	II-1構成礎	10.55	9.9	5.2	811	両輝石安山岩
11	半円状偏平石器	II-1構成礎	16.4	7.7	3.3	5813	緑色凝灰岩
12	擦石	II-1構成礎	15.75	7.25	5.2	920	両輝石安山岩
13	半円状偏平石器	II-1構成礎	22.65	9.25	4.1	1184	両輝石安山岩

II-2集石器

番号	器種	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質
1	凹石	II-2構成礎	8.7	8.2	2.8	241	緑色凝灰岩
2	凹石	II-2構成礎	11.9	8.15	4.0	521	緑色凝灰岩
3	擦石	II-2構成礎	14.9	9.75	6.5	1409	花崗内緑岩
4	敲石	II-2構成礎	13.0	9.8	5.5	956	変質輝石安山岩
5	半円状偏平石器	II-2構成礎	16.4	7.7	3.8	735	凝灰質砂岩
6	半円状偏平石器	II-2構成礎	(9.65)	5.3	2.3	166	両輝石安山岩
7	半円状偏平石器	II-2構成礎	15.0	6.95	2.5	264	緑色凝灰岩



第126図 II 区溝、II 炭窯

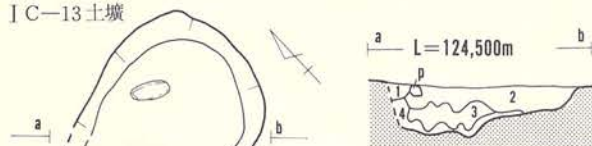
2. 弥生時代の遺構と遺物（第127図、写真図版102、103）

弥生時代に属する遺構は土壌3基のみで、他は検出できなかった。1基は調査区西端に近いC区で、他の2基は東端のJ区でかなりの距離がある。西側のIC-13号土壌は隅丸長方形もしくは楕円形プランで、埋土中に土器片、礫、炭化物を含む。甕の肩部の裏面に1粒の粳圧痕がある。和賀川流域では最古の米である。IJ-10号は円形に近い隅丸方形で、埋土中に小型土器、礫、炭化物を含む。IIJ-1号は隅丸長方形で、埋土上層に甕を、中層に焼土を含む。3基とも境内に土器があり、いずれも甕あるいは粗製の鉢である。礫を有するもの2基、炭化物はすべてにあり、1基は焼土を有する。距離的には離れているが、同じ性格、形態とみなすことができよう。東側の2基は相互に関連を持っていると推測されるが、西側は単独の遺構で材料に乏しい。ただ、周辺からは同時期の土器片が出土しており、この土壌と関連する遺構が存在していた可能性はある。

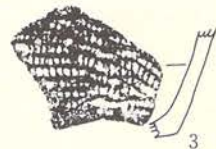
3基とも形状、遺物から判断して同一の性格が考えられる。その場合、他の遺跡の例などから墓塚とするのが最も適切であろう。その際はプラン、深さからして再埋葬を想定するのが妥当である。時期は、精製土器が出土していないので判断できないが、弥生時代の初頭に位置づけられる。3基の土壌の詳細なデータは下表の通りである。

遺構名	形 状	規模：上×下×深	検出状況・重複関係	埋 土	遺 物	時 期	備 考	図版
		副穴：上×下×深						写真
IC-13	隅丸長方形(楕円形) 木痕による擾乱多い	(130×90)×(115×72)×25	C区の南側で検出、周辺には同じタイプの上土坑は存在しない。	西側の底部付近は木痕の擾乱。2・3層中から土器片、2層上面で礫出土。2層中に炭化物	3片出土したか同一個体である。頸部ヨコナデ。内面糸痕、2の内面にも痕。埋土上部径20cmの礫	弥生時代		127 102,103
IJ-10	円形に近い隅丸方形、断面皿状	(72×66)×(47×44)×15	J区東端の以降、集石をもつ土坑群とはやや離れている。	2層中に土器と礫出土。1層に炭化物を含む	1はほぼ完形の小型鉢。頸部ヨコナデ底部無文、内外面にタール状の付着物、2も小型鉢で胴下半から底部	○	土器の中は無遺物	127 102,103
IIJ-1	隅丸長方形、断面筒状、木痕により形状崩れる	(105×94)×(83×76)×46	当遺跡の最東端の遺跡、J-10号と3.4mの間隔。	1層に横位もしくは斜位の甕、2層中に焼土(人為的な布設)、1層は木痕および耕作で削平されている。	1は押潰状態で底部不明。外面炭化物付着、2・3は同一個体で1層下部の出土、1と異なり頸部ヨコナデ	○	焼土は人為的に敷いている。	127 102,103

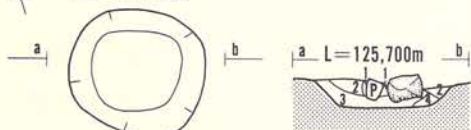
I C-13 土壌



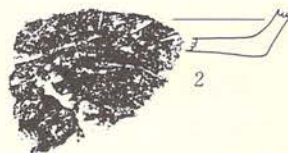
層位	色調	土性
1	10YR5/4 にぶい黄褐	含高矽小僧(多量), 混土
2	10YR2/2 黒褐	含炭化物
3	10YR3/2 黒褐	含黄褐色土ブロック
4	10YR5/6 黄褐	



I J-10 土壌

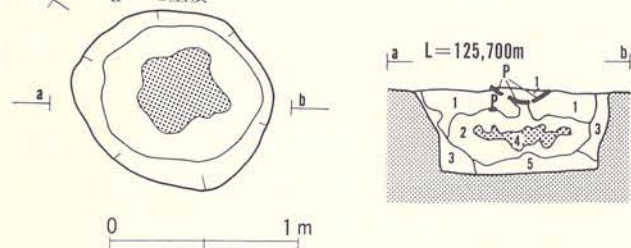


層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	含黄褐色土粒, 炭化物(少量)
2	7.5YR3/3 暗褐	汚れの多い火山灰
3	7.5YR3/4 暗褐	汚れの多い火山灰
4	7.5YR5/8 明褐	火山灰



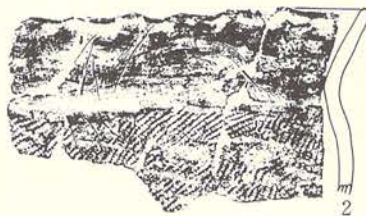
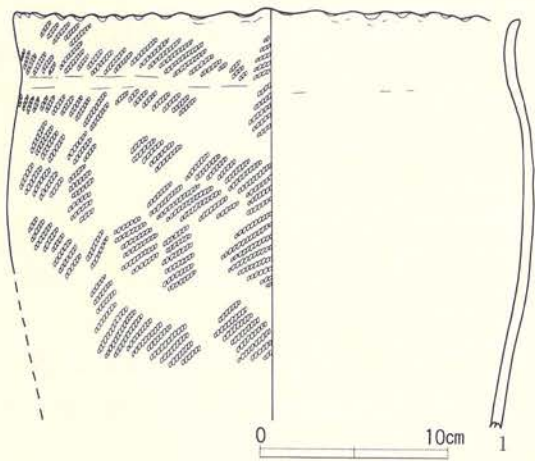
0 10cm

II J-1 土壌



層位	色調	土性
1	7.5YR2/1 黒	含炭化物, 黄褐色パミス(少量)
2	7.5YR2/2 黒褐	含焼土粒, 炭化物
3	7.5YR3/3 暗褐	含黄褐色土粒
4	5 YR4/6 赤褐	焼土
5	10YR2/3 黒褐	含黄褐色土粒

0 1m



0 10cm

第127図 I C-3、I J-10、II J-1 号土壌・遺物

3. 縄文・弥生時代遺構外出土の遺物

(1) 縄文時代の土器 (第128～154図、写真図版104～124)

縄文土器は調査区全体にわたって出土しているが、中期の土器は西側および北側で少なく、G、H区の高位面とそれに続く緩斜面、東側のJ区に多い。後期に属するものは殆どなく、J区で晩期の土器が少量出土している。多量な資料のなかから554点を抽出して図示した。各グリット毎の数量、出土層位は一覧表の通りである。I層は表土、II層は黒色土で、層厚のあるグリットでは2a、2b層に分層して取り上げたが表では2層に統一してある。3層は黒褐色土で部分的にしか存在しない。とくに、層厚の薄い北側では全く見られない。

図版はA～Hグリットまでを西側地区、I、Jグリットを東側地区として作成してある。これはHとIグリットの間小さな沢があり、遺構、遺物が少ないことによる。記述は1類土器のみ数が少ないので両地区を区別しないで扱った。

東側地区

1類土器 (第128・129図1～19、第133図93、第144図310、第151図450・451、写真図版104・105、109、117、122)

器種は深鉢がほとんどであるが、1例(11)口縁部が強く外反する広口壺状の器種がある。口縁部は平縁が多いが、ゆるやかな波状、大波状、小突起、口唇部刻目を持つものも含まれる文様は口頸部に集中するが、体部まで展開する例も含まれる(7、11、12、16、450)。沈線による施文が主体であるが、隆線施文も存在する。モチーフは交互刺突文、C字状貼付文、円形浮文、連続山形・弧文、刺突文、刻目文などで構成されている。地文は末端結節縄文のタテ・ヨコ回転、結束(羽状)縄文、羽状縄文などで、撚糸文は見られない。これら1類土器はG～I区にかけて出土しているが、IIH区2層黒色土で最も多く、IIG区4～5層がこれに続いており、調査区西端と東端からの出土はない。出土区と層位は下表の通りである。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I G		8					1
II G				2, 12, 18	13		4
I H		5, 17		4			3
II H		6, 7, 9, 10, 11, 14, 15, 16, 19, 93, 310		1, 3			13
I I		451					1
II I		450					1
計	—	16	—	6	1	—	23

2類土器 (第129・130図20～38、写真図版105・106)

器種は大波状口縁の深鉢が多く、平縁のものはすくない。波状口縁はすべて4単位と推定され、頂部が縦位の刻目文をもつもの(20、22、36、37)や、小波状を呈するもの(28、35)、平

坦なもの、弧状をなすものなど、バラエティーに富む。平縁口縁(39)には縦位の捺糸圧痕文が施文されている。文様は沈線による弧状文、渦文、小波状文や円形・方形の刺突文、隆線による縦、横位の波状文などで、捺糸圧痕文は波状あるいはゆるやかな山形文をなし、渦文はない。文様帯は破片のみで不明であるが、36、37の隆線と捺糸圧痕文、指頭圧痕状の隆帯文などをみると頸部で区画しているようである。地文はLR、RL縄文のタテ、ヨコ、ナナメ回転で、結節、結束縄文はなく、捺糸文は文様として押圧されているが、地文としては用いられていない。これら2類土器はG、H区で最も多く出土している。19点中、2層黒色土から9点、4・5層から7点が出土しており、層位的差は認められない。出土区と層位は下表の通り。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I G		20, 26					2
II G		28		22, 29, 32, 33		36	6
II H		21, 23, 25, 30, 34, 38		31, 35	27	37	10
II I		24					1
計	—	10	—	6	1	2	19

3類土器 (第131~134図40~117、第144図307~309、311・312、写真図版110、117)

器種は深鉢で、口縁部が内湾気味に外反するもの(40~49他)、直立気味のもの、ゆるやかに外反するもの、キャリパー状に口縁部膨らむもの、内湾するもの(106、107)、壺状に肩のはるもの(97)など様々である。口縁部の形態は平縁が最も多いが、このほかに単位の不規則は山形突起をもつもの(53、57、72、309)や不規則な小突起のあるもの(308)が出現する。波状口縁は(69~77)大波状とはならず、波頂部は2類よりは短く縦位の刻目文はみられない。両端に突起の付く例(72)もある。このほかに「の」文あるいは円形浮文の頂部が山形を呈するもの(109~111)や、口唇部がやや肥厚して無文帯となり、その直下に施文するもの(59、60、74、90~93)などがある。それぞれの器形と口縁部の形態の組み合わせに関連性は認められないようである。文様は沈線文を主とする一群(40~71)、隆沈線文を主とする一群(72~92)、隆線貼付文を主とする一群(93~103)に分けられる。

沈線文：波状文、C字文、渦文、X字文、Y字文、「の」字文、(連)弧文、三角文、平行沈線文、縦位のやや長めの刻目文などの種類がある。これらの文様の多くは口縁部から頸部にかけて施文されているが、Y字文のように縦に伸びる文様は胴部にまで及んでいる(308、309)。

隆沈線文：隆沈線セットで施文するものと、別々に施文するものとの二者がある。モチーフは連弧文、X字文、渦文、円形文および三叉状文(76)、三角状文(85)、楕円文と刺突文(79)などである。指頭圧痕状の波状隆帯をもつ87は橋状把手が付く。文様帯は頸部を隆沈線あるいは沈線で区画しているものが多いが、大形深鉢の一部には胴部

全体に文様が展開されるものもある(115~117)。

隆線文：隆線文のほかに沈線文、隆沈線文、刺突文などが用いられているが、セットで施文されることはなく、1例(95)原体圧痕文との組み合わせがあるのみである。モチーフは円形浮文、波状文、平行隆線、連弧文、C字文(101)、入組状文(100)および橋状把手、口縁部の突起などである。波状文、平行隆線は口縁部から頸部にかけて横に展開するが入組状文(101、102)や原体圧痕文を伴う例(95)は縦あるいは不規則に施文されている。これらを除くと文様は口縁部に集中する傾向が認められる。なお、93は1類に属する資料である。

地文：RL、LR縄文のタテ・ヨコ回転を基本としており捺糸文は原体圧痕文(95、113)を除いて施文されていない。これ以外には結束2種タテ回転(45)、結束1種羽状縄文(71)、末端結節片結びヨコ回転(100、308)、羽状縄文(76)、左右太さの異なるLR縄文(105)などがある。

これら3類土器はC区からH区にわたって出土しているが、C区で1点、F区で2点と西側で少ない。G区からは23点、H区からは58点出土している。層位別には、1層から1点、2層から42点、3層から2点、4層から34点、5層から5点で、全体量のなかで占める割合は相対的なもので、層位毎の多寡は認められない。出土区と層位は下表の通り。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I C				109			1
II F				66, 114			2
I G		44, 63, 67, 68, 89, 107		50, 82			8
II G		72, 81, 95, 96		47, 57, 69, 71, 85, 90, 98, 102, 111, 308			14
I H		59, 65, 309,		53, 73, 88, 112, 113			8
II H	55	43, 45, 48, 54, 56, 61, 70, 74, 75, 76, 77, 78, 86, 93, 94, 97, 100, 101, 104, 105, 106, 108, 110, 115, 116, 117, 307, 311, 312	41, 62	40, 42, 49, 58, 60, 64, 79, 80, 83, 84, 87, 99, 103	46, 51, 52, 91, 92		50
計	1	42	2	33	5	—	83

4類土器(第135~137図118~190、第144図313~315、写真図版110~112・117)

文様の主体が押圧縄文および捺糸圧痕文である一群を4類とした。器種は深鉢である。器形は口縁部が内湾気味のもの、やや短く外反するもの、直立気味のものなどに分かれる。口縁部の形態には、平縁、ゆるやかあるいは小さな山形口縁(139、142など)、波状口縁(149~155)、突起のある口縁(189、190)などがある。主文様は縄文原体の押圧、あるいは捺糸文、絡条体の圧痕によって施文されている。捺糸圧痕文は、原体の末端を縦位に押すもの(118~121など)、平行、斜行、波状、渦文状のほかに馬蹄状や連弧状(127、315など)X字状文などがあり、このほかには隆線に沿う例も多い(164~167ほか)。絡条体圧痕文は少なく、口唇部の幅に沿って施

文されている1例のみである(124)。押圧縄文も基本的には撚糸圧痕文と変わることはなく、X字文、波状文、渦文など隆線文とセットで施文されたり、区画文様の内側に押圧されている。地文はLR、RL単節縄文のほかに、左右太さの異なるRL縄文の連続結節片結び(128)、結束羽状縄文(139)、結節縄文(147)が1例ずつある。4類として取り上げた76点はA区からH区まで出土しているが、西側では極端に少なくA、C区で1点ずつ、B、D、F区は皆無である。ほかの類と同様G、Hで最も多く出土している。層位別では1層から4点、2層から26点、3層から4点、4層から39点、5層から2点、その他1点の内訳である。出土区と層位は下表の通り。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I A	139						1
II C				141			1
I G		172, 180, 185		137, 150			5
II G		120, 127, 135, 174, 183		124, 134, 142, 144, 145, 147, 149, 154, 156, 160, 163, 169, 170, 173, 186, 187, 188, 313	143		24
I H		119, 314		125, 148, 162, 167, 178			7
II H	121, 122, 152	118, 123, 128, 131, 132, 136, 155, 175, 164, 165, 168, 171, 176, 177, 181, 189, 315	153, 161, 179, 184	129, 130, 133, 138, 146, 151, 158, 159, 166, 175, 182, 190	140	126	38
計	4	27	4	38	2	1	76

5類土器(第138~141図191~267、第144・145図316~320、写真図版113~115、117・118)

器種はすべて深鉢である。器形は口縁部が小さく外反するもの、内湾するもの(キャリパー状)が多く、直立気味のもの少ない(255)。口縁部は、円形、C字形の有孔をもつ大突起の付くもの、外反して肥厚するものが多く、キャリパー形は平縁となる。また、口縁部下に橋状把手が付くのも特徴の一つである。文様は、口縁部に付く横位S字位(191、192、218~224)、沈線隆沈線、粘土貼付の波状文や曲折文(192~199ほか)、渦文、C字文、刻目文などで、1例連弧状の押圧縄文(208)がある。キャリパー形の土器(225~249)の文様は粘土貼付による平行沈線、弧文、渦文、波状文、棘状文(227)が主体となる。

口縁部直立気味の一群(250~258)の文様は簡略化され、横走あるいは曲線化した隆線文となる。地文はLR、RL単節縄文が多く、これに少量の絡条体回転文(259~261)が加わる。結節、結束縄文はない。図示した82点の土器のグリット毎の内訳はB区から4点、G区から34点、H区から44点、B~F区からは皆無である。層位別では、1層から3点、2層から32点、3層から1点、4層から39点、5層から6点、その他1点で、2層と4層の出土状況に大きな差は認められない。出土区と層位は次表の通り。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I B		244, 259, 260, 261					4
I G		220, 229, 230		201			4
II G	222	217, 242, 246, 247, 248, 256, 264, 265		192, 194, 198, 199, 200, 204, 206, 210, 212, 224, 234, 236, 238, 239, 243, 250, 252, 255, 262, 318, 319			30
I H	320			191, 197, 208, 216, 228, 253, 257			8
I H	215	196, 205, 207, 213, 218, 219, 223, 227, 231, 232, 235, 237, 241, 263, 266	226	203, 209, 211, 214, 225, 233, 240, 251, 254, 258, 316, 317	193, 202, 221, 245, 249, 267	195	36
計	3	30	1	41	6	1	82

6 類土器 (第142~143図268~306、写真図版116)

浅鉢形土器を6類としたが、器形、文様等から二分することが可能であり、これを6a・6bとする。

6a (268~291)：器形は口縁部が外反状のもの(268、277、286ほか)、頸部が直立気味のもの(269、285、287ほか)、内傾するもの(280、282、290、291)がある。口縁部の形態は平縁が殆どであるが268のみは4単位の大波状口縁で頂部からM字状を呈する。文様は口縁部から頸部にかけて施文されており、体部にまで及ぶものは少ない。隆線や押圧縄文で区画された口頸部に、縦位の押圧縄文・C字文(282~284)、連弧文、X字文、刻目文などが施文されている。頸部の窪みを無文としている例もある(279~281)。体部の文様は押圧縄文によるY字文、連弧文、渦文などで、このほかに沈線による連弧文、平行沈線(279、280)がある。地文は1例結東羽状縄文(286)を除いて、単節LR、RL縄文である。

6b (292~299)：器形は6a類とそれほど変化はないが、口縁部が内頸ではなく内湾するものが出現し(297~299)大形化する。また、口縁部のX字文、渦文が立体的、突起状に変化するのも特徴の一つである。文様は隆線(隆帯)貼付けが多く、1例押圧縄文がある(297)。地文は単節縄文のみである。

300~302は無文であるが、器形からすると6aに含まれると判断される。6類の底部は判明している限りにおいては、すべてヘラケズリかミガキである。図示した資料は遺構外出土の浅鉢の全てである。39点はB区から2点、C区から1点、G区から10点、H区から26点で、層位別では2層から18点、4層から19点、5層から2点で、6a、6b類とも平均して出土している。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I B		294, 299					2
II C		271					1
I G		281		280, 303			3
II G		296		283, 284, 290, 293, 297, 302, 306			8
I H		272, 274					2
II H		269, 270, 282, 285, 286, 287, 291, 292, 300, 301, 304		268, 273, 275, 276, 277, 288, 289, 295, 298, 305	278, 279		23
計	—	18	—	19	2	—	39

7 類土器 (第147～149図331～425、写真図版118～120)

粗製土器の類を一括した。器種はすべて深鉢で、最大径は口縁部にあるものが多い。器形は口縁部がゆるやかに外反するもの、やや内湾するもの、直立するものがある。平縁が殆どあるが、数例ゆるやかな波状口縁(324、396)、山形口縁(374)、複合口縁(379～381)、突起のある口縁(376)が含まれている。地文以外の文様は口縁部に集中しており、頸部無文帯のつくり出し(354～358)、隆線の区画(360～369)、隆帯貼付(370、371)、沈線、口縁部無文帯もしくは帯状の縄文(402～409)、口唇部に隆線貼付文(410～412)などが施文されている。地文は単節縄文のほかに、結節片結び(325、372)、結節両結び(370)、結束羽状縄文(371、417)、付加縄文(421)、羽状縄文、撚糸文がある。その他の文様としては、格子目状沈線(378、420)、刺突文(381)、口縁部波状帯の撚糸文(371)、横・縦位の縞状縄文(353、400)などがある。これらの粗製土器の出土状況はほかの精製土器と同様であり、共伴関係は不明である。出土区と層位は下表の通りである。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I B		420					1
II B		334					1
I C		336					1
II C				363			1
I D		330					1
II F				356			1
I G		366, 383, 414, 416, 423		418			6
II G		327, 409, 415, 425		326, 328, 343, 344, 357, 369, 371, 373, 374, 376, 393			15
I H		333, 335, 339, 345, 359, 412, 417, 422		364, 386, 398			11
II H	332, 348, 349, 403, 404, 413, 424	324, 329, 331, 338, 341, 347, 352, 353, 355, 360, 362, 367, 368, 370, 372, 375, 377, 378, 379, 381, 382, 384, 385, 387, 388, 392, 395, 396, 397, 399, 400, 401, 402, 405, 406, 407, 410, 411, 419	421	325, 337, 340, 350, 351, 354, 380, 389, 390, 391, 408	342, 358, 361, 365, 394		63
計	7	60	1	28	5	—	101

8 類土器 (第149・150図426～449、写真図版121)

底部のみの破片を一括した。径7cm以下のものは浅鉢の可能性がある。これらは中央部がやや上げ底で、周辺をミガキ、ナデ調整している。このような底部は浅鉢の完形品にも例が多く認められる。全面ミガキ、ナデ調整されているものは、木葉痕あるいは網代痕の上から整形しており、木葉の痕跡がかすかに認められるものもある(433、436)。1例、同心円状の細い沈線

のめぐるものがある(438)が、何に依ったか不明である。網代痕にはいくつかの網み方がある。網代の上を調整しているので不鮮明であり、断定はできないが「1本越え、2本潜り、1本送り」(439)、「1本越え、1本潜り、1本送り」(440~447)、「緯・3本越え、1本潜り、経・1本越え、3本潜り、2本送り」(448)、「緯・3本越え、1本潜り、経・1本潜り、1本越え、2本潜り、3本送り」(449)がある。明瞭な木葉痕は1例も存在しない。網代痕も全体に占める割合は少なく、ミガキ、ナデが最も多い。底部は小破片が多く、接合資料が少なかったため総点数は算出できなかった。出土区と層位は下表の通りである。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I G		440					1
II G		441		428, 432, 449			4
I H				435, 438			2
II H		429, 431, 433, 434, 436, 439, 442, 444, 445, 448		437, 443, 446, 447	426, 427, 430		17
計	—	12	—	9	3	—	24

東側地区（分類の基準は西側地区のそれに同じである）

1類土器：出土数少量のため、西側地区の土器と併せて前述。

3類土器（第151・152図452~495、写真図版122~123）

器種は深鉢で、口縁部内湾するもの、肥厚するもの、頸部から短く外反するものなどがある。文様は沈線文が多く、隆沈線文は少なく、隆線文はさらに少ない(452、494)。頸部で区画される例多いが、胴部に展開もの数例ある(452、486、487、489)。沈線文には、刻目文、連弧文、渦文、円形文、平行沈線文、曲線文、竹管文、交互刺突状(487)を含む刺突文などがある。隆沈線文にはX字文、渦文などが、隆線文には波状文、円形貼文、X字文がある。隆帯による横位S字文も1例出土している(488)。地文は単節LR、RL縄文が基本で、これに結節片結び(489、494)、無節L(474、476)が加わる。

西側地区で2類とした土器は類例が少なく、これに近いものとしては495の土器がある。大波状口縁で頂部に刻目文があり、X地文、円形貼文、刺突列が施文される。

出土区と層位は下表の通りであり、2層からの出土が卓越している。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I I	487	455, 456, 459, 460, 461, 462, 469, 479, 489					10
II I	452	453, 465, 467, 472, 473, 474, 475, 477, 492, 493, 494		476, 481, 482, 483, 486			17
I J		480		471			2
II J		464, 466, 470, 488	457, 463	454, 458, 468, 478, 484, 485, 490, 491, 495			15
計	2	25	2	15	—	—	44

4 類土器 (第153図496～520、写真図版123～124)

器種は深鉢で、大波状口縁でやや外反するもの(496～500)、平縁で内湾するもの(507～511)山形口縁で内湾するもの(512～515)、頸部から短く強く外反もの(517～520)などがある。文様は隆線文に沿う押圧縄文、押圧縄文によるC字文、(連)弧文、渦文、円形文、撚糸文による頸部の縦位圧痕文(509)、口縁部隆帯の圧痕、回転文(515～520)、地文の上からの圧痕(515)などがある。地文はLR、RL単節縄文、無節縄文である。出土区と層位は下表の通りで、3類と同様2層が卓越している。

Grid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 ^他	計
I I		498, 500, 501, 502					4
II I		504, 505, 506	497, 499	496			6
I J		507, 508, 509, 516					4
II J	503	518, 520	510, 511	512, 513, 514, 515, 517, 519			11
計	1	13	4	7	—	—	25

5 類土器 (第154図525～529、写真図版124)

隆沈線文で施文される深鉢である。器形は外反、内湾、直立があり、口縁は平縁、波状、山形の3形態がある。文様は、平行隆線、波状文、曲線文である。5点の出土でI、J区の2層から2点(525、529)、3点は4層からの出土である。地文は単節縄文のみである。

6 類土器 (第153図521～524)

器種は浅鉢、小形鉢である。1例(521)焼成後の穿孔のある小形鉢で、ほかの3点は浅鉢。体部文様は頸部の隆線(522)のみである。底部はミガキ、ナデ調整である。4点ともJ区の出土で、浅鉢は2層(523)と4層(522、524)、小形鉢は3層からである。

7 類土器 (第154図530～535、写真図版124)

粗製の深鉢で1例(531)を除いて平縁で、口縁部は直立あるいはやや内湾する。地文は太さの異なる1段を撚った単節縄文(530、かすれて不鮮明であるが532も同じと推定される)。無文(531、533)、片結び結節縄文(534、535)などである。J区出土は1点(530)のみで、ほかはI区である。層位は2～4層にわたっている。

8 類土器 (第154図536～540、写真図版124)

底部を一括した。ミガキ、ナデと網代痕あるが、すべて最初は網代が付さがれている。前者は底部の縁(536、537)や中央に部分的に痕跡が残っているが(539)、編み方は不明である。小形のもの(536)は浅鉢の可能性が高い。後者は、「1本越え、2本潜り、1本送り」(538)と不規則な編み(540)をもつ例が出土している。J区出土は1例のみで(536)、他はI区であり、層位は2、4層である。

9類土器（第154図541～555、写真図版124）

縄文時代晩期に属する土器を一括した。器種は小形を含む鉢と粗製深鉢で、他は出土していない。J区の限られた地域に集中しているが、層位は2と4層にわたっている。周辺に同時期に属するとおもわれる遺構は検出されていない。

以上、遺構外出土の土器を1～9類に分類した。図示した554点(39欠番)のグリット別、層位別覧は次頁に示した通りである。

遺構外出土土器のまとめ

1～8類土器は大木7a、7b、8a、8b式に比定されるが、その根拠については遺構内出土の土器も含めて考察の項に譲り、ここでは結論のみ記述しておく。1類は大木7a式、2類は大木7a～7b式、3・4類は大木7b式、5類は大木8a式と8b式(262～267)、6a・6b類はそれぞれ大木7b、8a式、7・8類は上記のいずれかに含まれる。9類は大洞BC、C₁式に相当する。

表2 遺構外出土土器グリッド別・層位別一覧表

Glid	1層表土	2層黒色土	3層黒褐色土	4層褐色土	5層黄褐色土	遺構埋土 風倒木 他	計
I A	139						1
I B		204, 259, 260, 261, 294, 299, 420					7
II B		334					1
I C		336		109			2
II C		271		141, 363			3
I D		530					1
II F				66, 114, 356			3
I G		8, 20, 26, 44, 63, 67, 68, 89, 107, 180, 185, 220, 229, 230, 281, 366, 383, 414, 416, 423, 440		50, 82, 137, 150, 201, 280, 303, 418			30
II G	222	28, 72, 81, 95, 96, 120, 127, 135, 174, 183, 217, 242, 246, 247, 248, 256, 264, 265, 296, 327, 409, 415, 425, 441		2, 12, 18, 22, 29, 32, 47, 57, 69, 71, 85, 90, 98, 102, 111, 14, 134, 142, 144, 145, 147, 149, 154, 156, 160, 163, 169, 170, 173, 186, 187, 224, 234, 236, 238, 239, 243, 250, 252, 255, 262, 283, 284, 290, 293, 297, 302, 306, 308, 313, 318, 319, 321, 328, 343, 357, 360, 371, 373, 374, 376, 393, 428, 449	13, 143	36	106
I H	320	5, 17, 59, 65, 119, 272, 274, 309, 314, 333, 335, 339, 345, 359, 412, 417, 422		4, 53, 73, 88, 112, 113, 125, 148, 162, 167, 178, 191, 197, 208, 216, 228, 353, 267, 337, 364, 386, 348, 435, 438			41
II H	55, 121, 122, 152, 215, 332, 348, 349, 403, 404, 413, 424	6, 7, 9, 10, 11, 14, 15, 16, 21, 23, 25, 30, 34, 38, 43, 45, 48, 54, 56, 61, 70, 74, 75, 76, 77, 78, 86, 93, 94, 97, 100, 101, 104, 105, 106, 108, 110, 115, 116, 117, 118, 123, 128, 131, 132, 136, 155, 157, 164, 165, 168, 171, 176, 177, 181, 189, 196, 205, 207, 213, 218, 219, 223, 227, 231, 232, 235, 237, 241, 263, 266, 269, 270, 282, 285, 286, 287, 291, 292, 300, 301, 304, 307, 310, 311, 312, 315, 323, 324, 329, 331, 338, 341, 347, 352, 353, 356, 360, 362, 367, 368, 370, 372, 375, 377, 378, 379, 381, 382, 384, 385, 387, 399, 400, 401, 402, 405, 406, 407, 410, 411, 419, 429, 433, 434, 436, 439, 442, 444, 445, 448	41, 62, 153, 161, 179, 184, 226, 421	1, 3, 31, 35, 40, 42, 49, 58, 60, 6, 79, 80, 83, 85, 87, 99, 103, 129, 130, 136, 138, 146, 158, 159, 166, 175, 182, 190, 203, 209, 211, 214, 225, 233, 240, 251, 254, 255, 258, 273, 275, 276, 277, 288, 280, 295, 298, 305, 322, 325, 337, 340, 350, 351, 354, 380, 389, 390, 591, 405, 437, 443, 446, 447	27, 46, 31, 52, 91, 92, 190, 193, 202, 221, 245, 249, 267, 278, 279, 342, 358, 361, 365, 394, 426, 427, 430	37, 126, 195	249
I I	487	451, 453, 456, 459, 460, 461, 462, 469, 479, 489, 498, 500, 501, 502, 526, 531, 534					18
II I	452	24, 450, 453, 465, 467, 472, 473, 474, 475, 477, 492, 493, 494, 504, 505, 506, 525, 529, 533, 537, 538, 539	497, 499, 535	316, 317, 341, 476, 481, 482, 483, 486, 496, 532			36
I J		480, 507, 508, 509, 516, 552		471, 550			8
II J	503	464, 466, 470, 488, 518, 520, 523, 542, 543, 545, 548, 549, 555	475, 463, 510, 511, 521, 547	454, 458, 468, 478, 484, 485, 490, 491, 495, 512, 513, 514, 515, 517, 519, 522, 524, 527, 528, 530, 536, 540, 544, 546, 551, 553, 554		541	48
計	18	270	17	219	25	5	554



第128図 遺構外遺物：縄文土器(1)



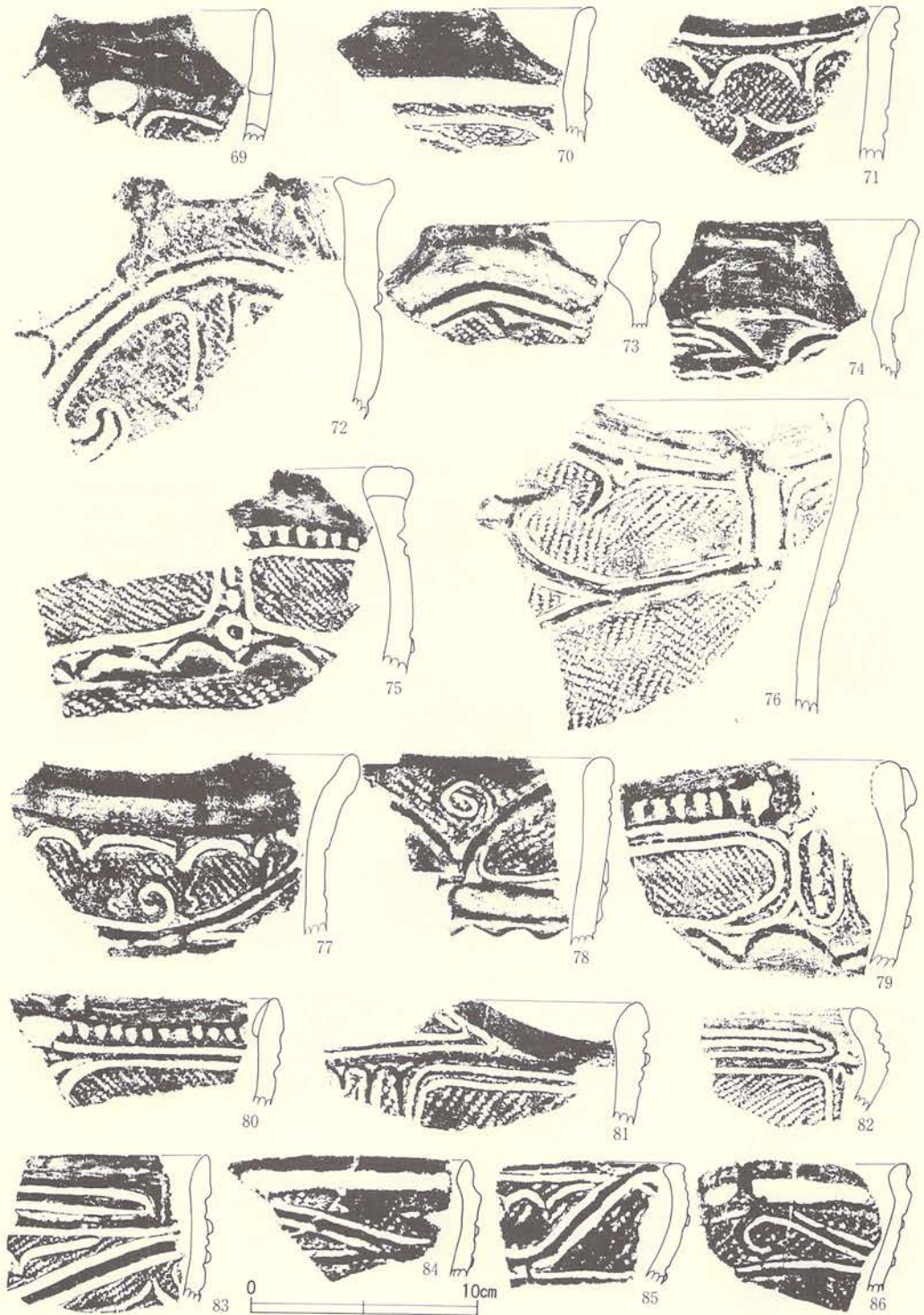
第129図 遺構外遺物：縄文土器(2)



第130図 遺構外遺物：縄文土器(3)



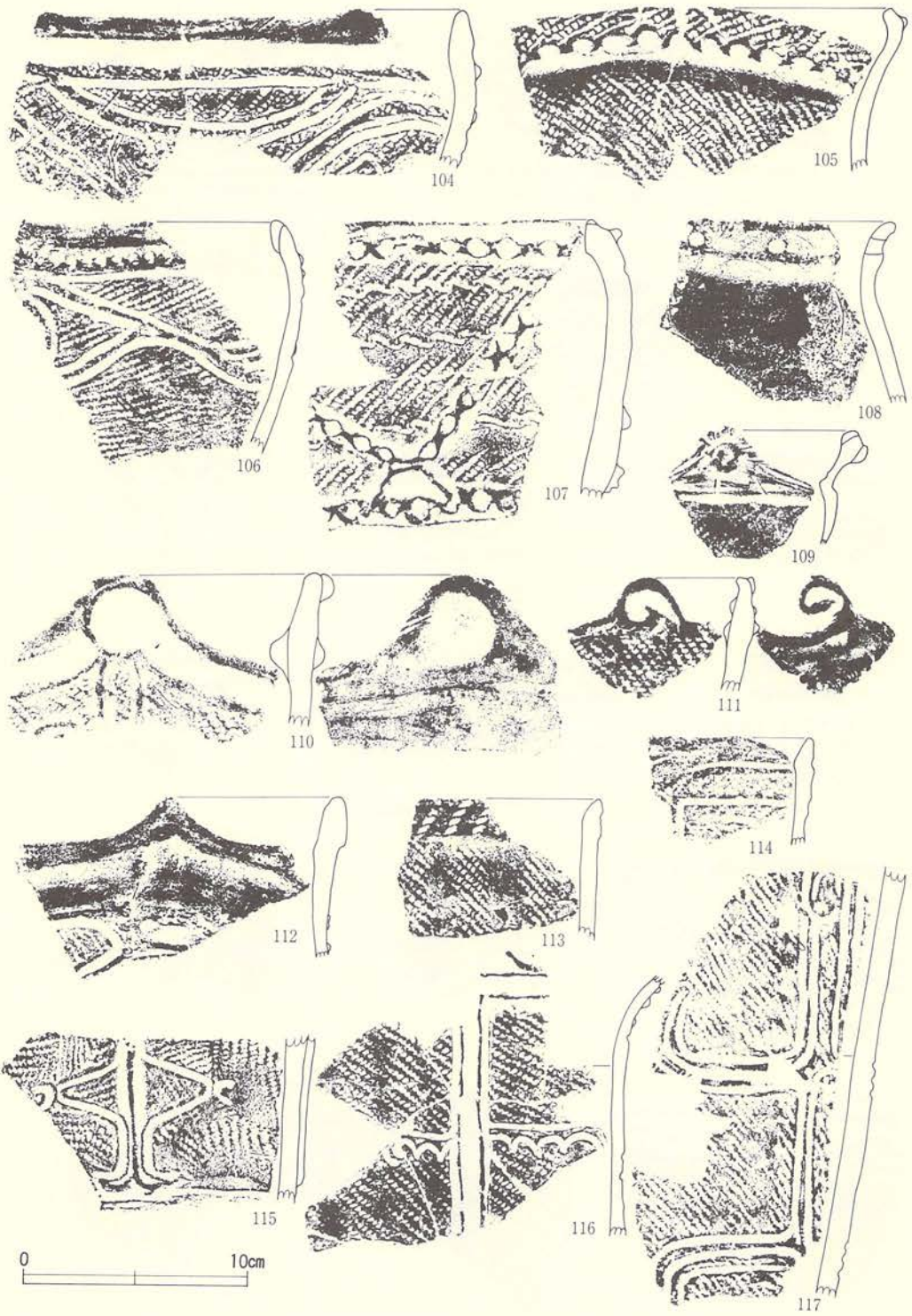
第131図 遺構外遺物：縄文土器(4)



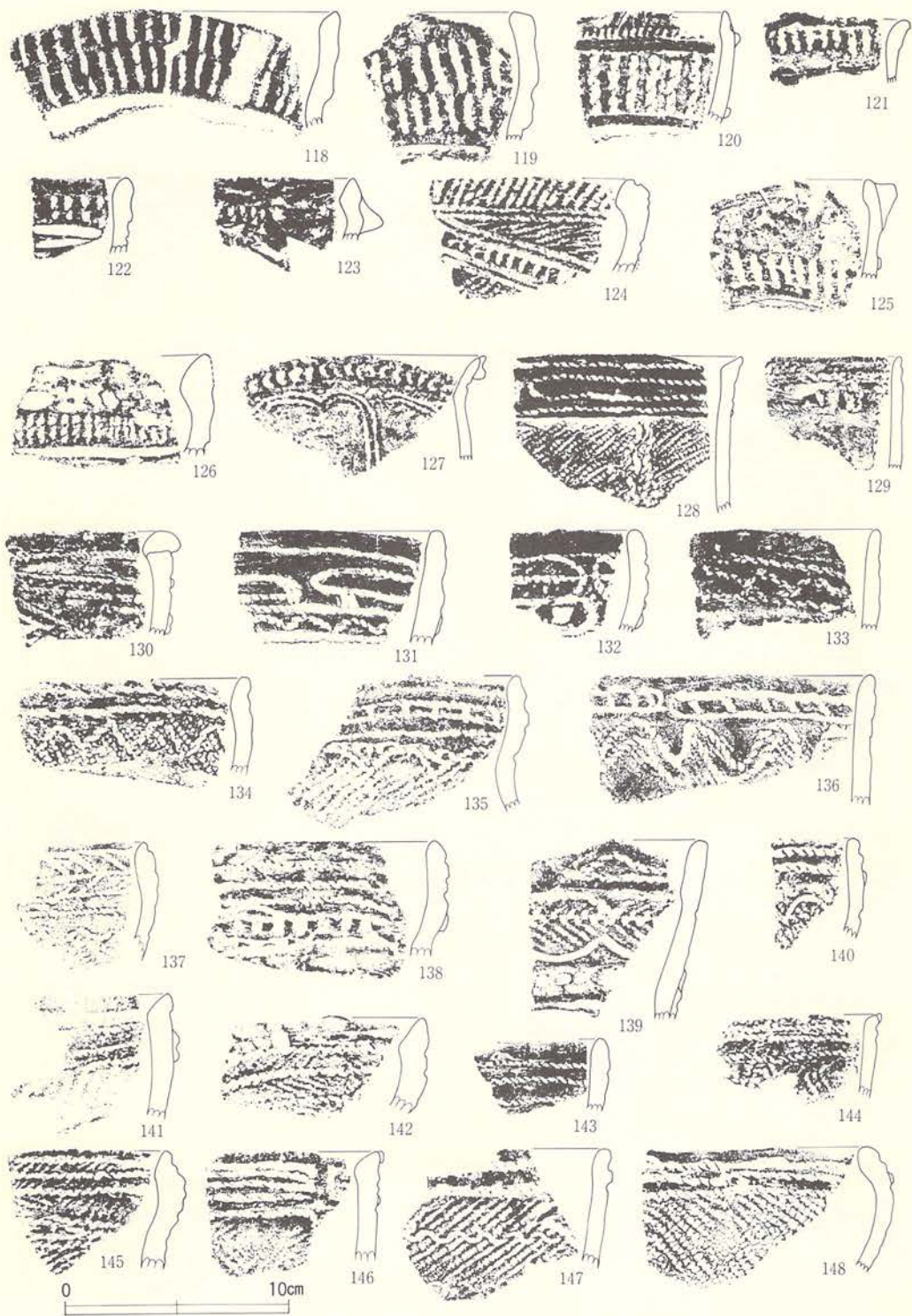
第132図 遺構外遺物：縄文土器(5)



第133図 遺構外遺物：縄文土器(6)



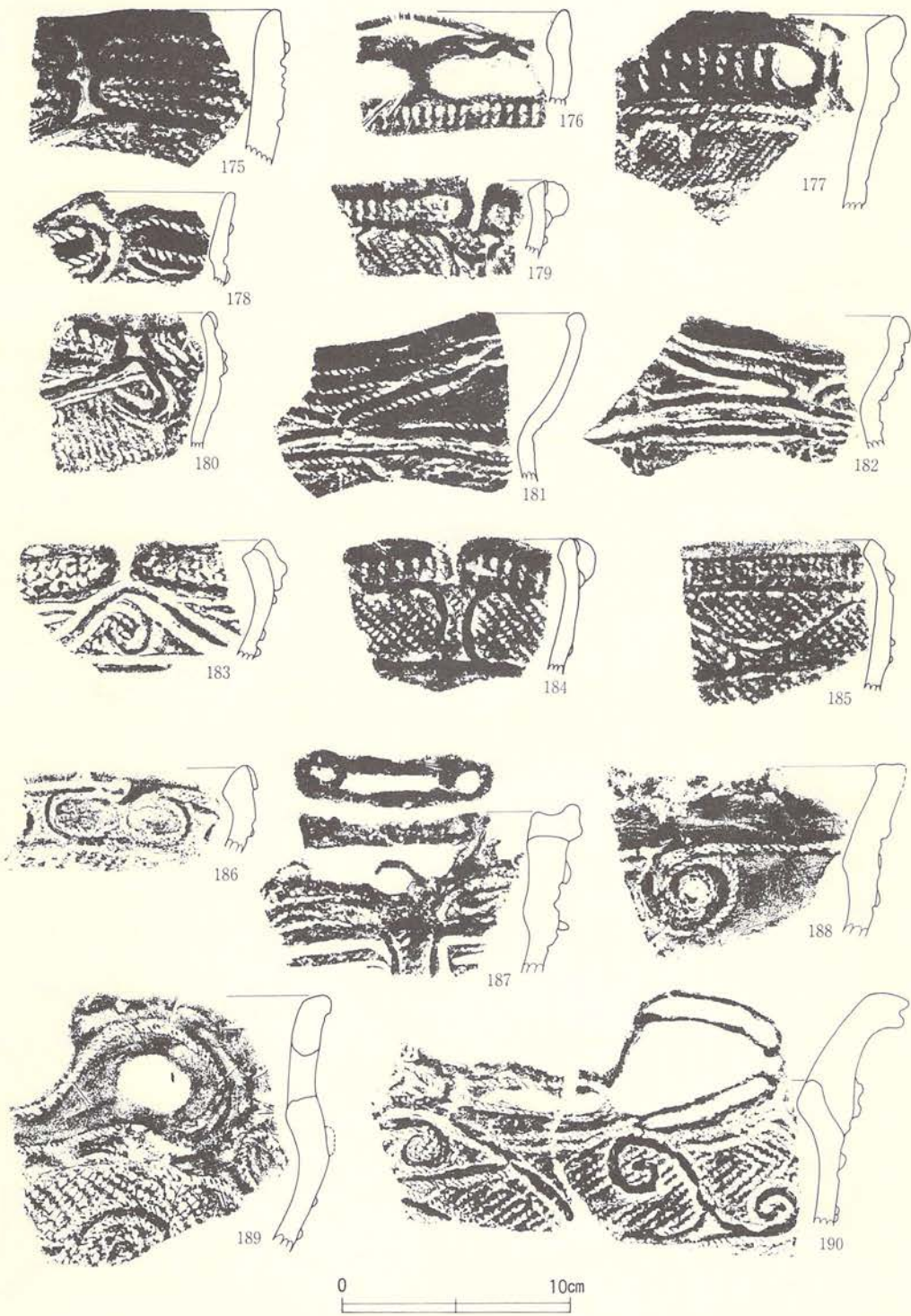
第134図 遺構外遺物：縄文土器(7)



第135図 遺構外遺物：縄文土器(8)



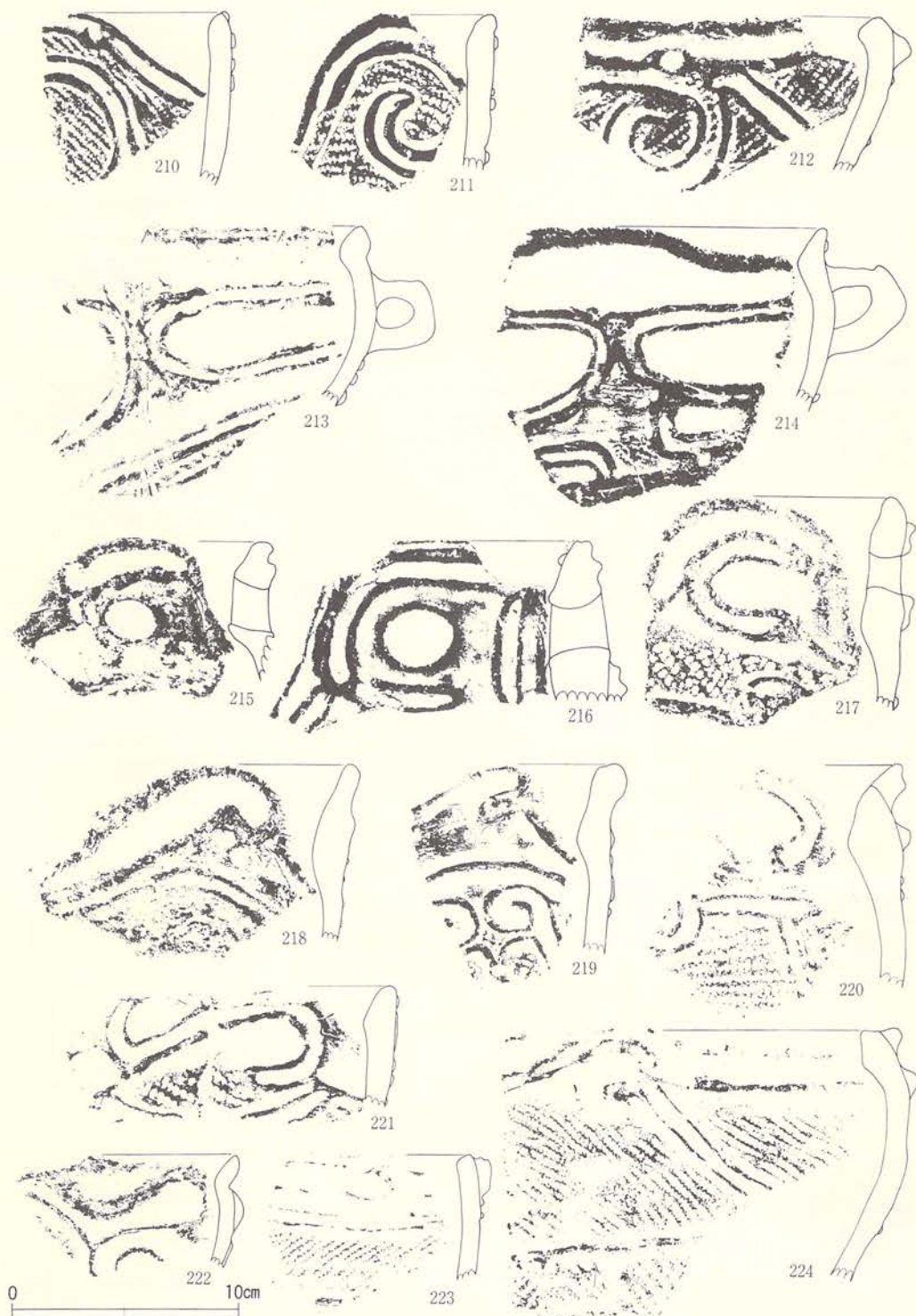
第136図 遺構外遺物：縄文土器(9)



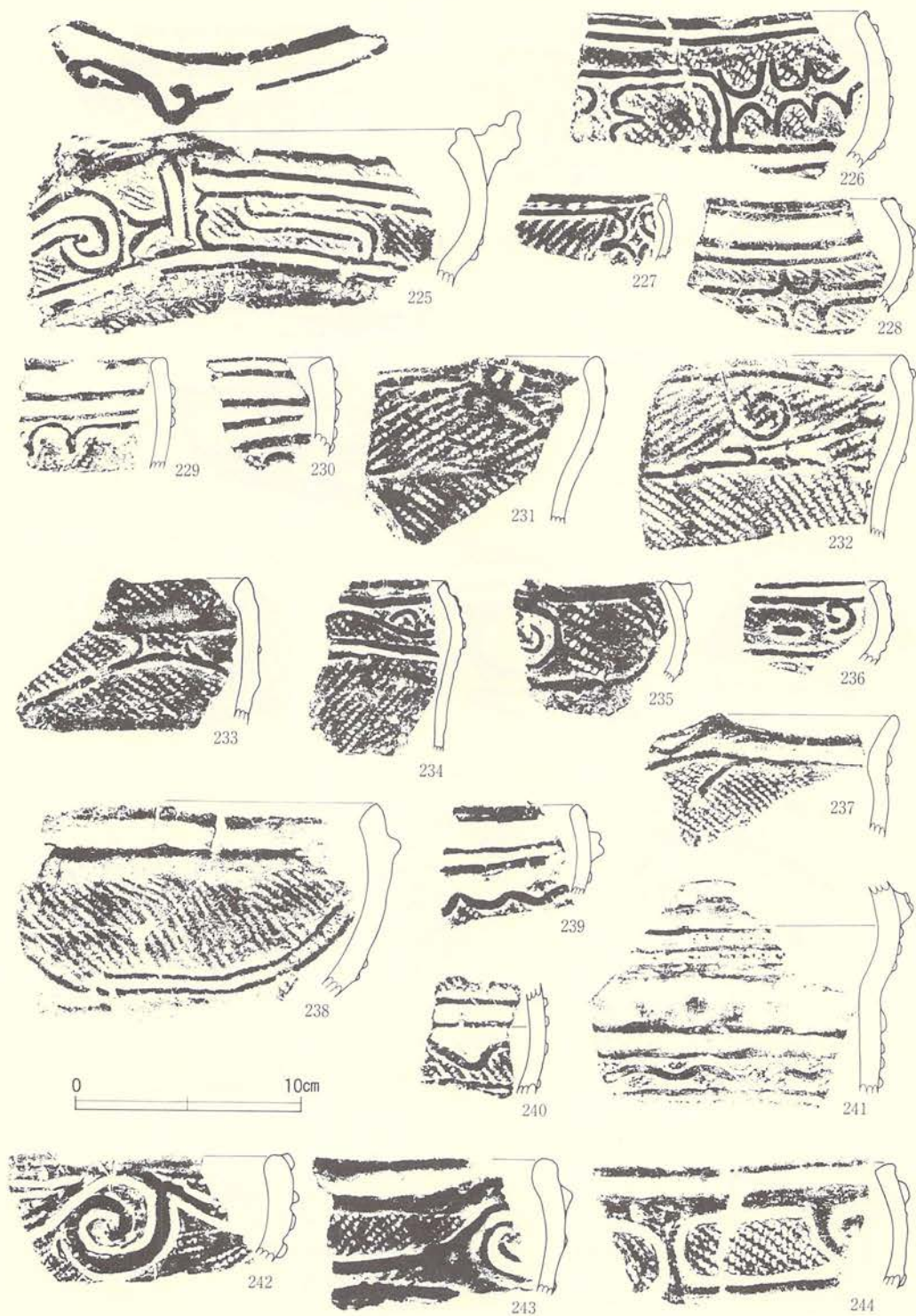
第137图 遺構外遺物：縄文土器(10)



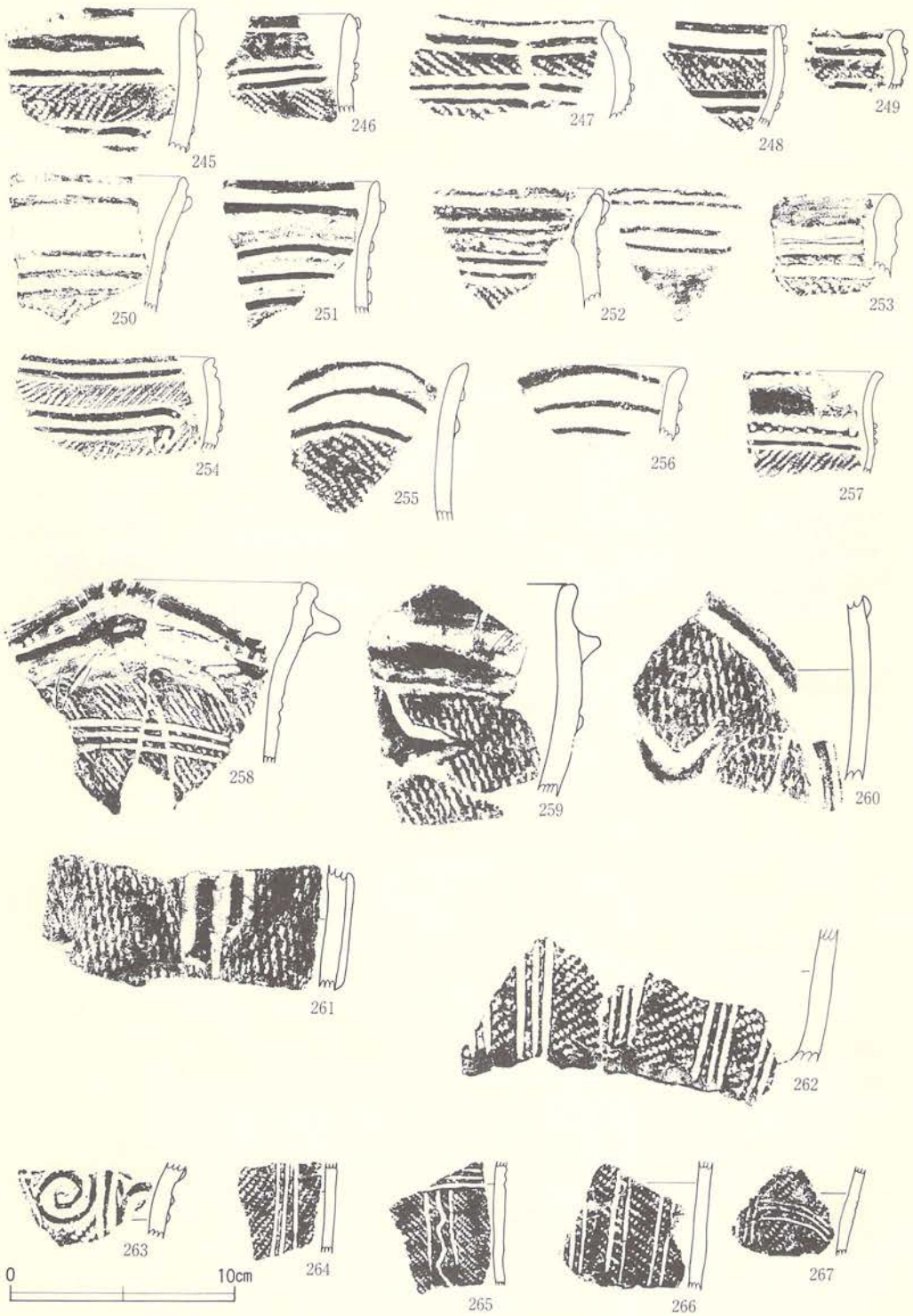
第138図 遺構外遺物：縄文土器(11)



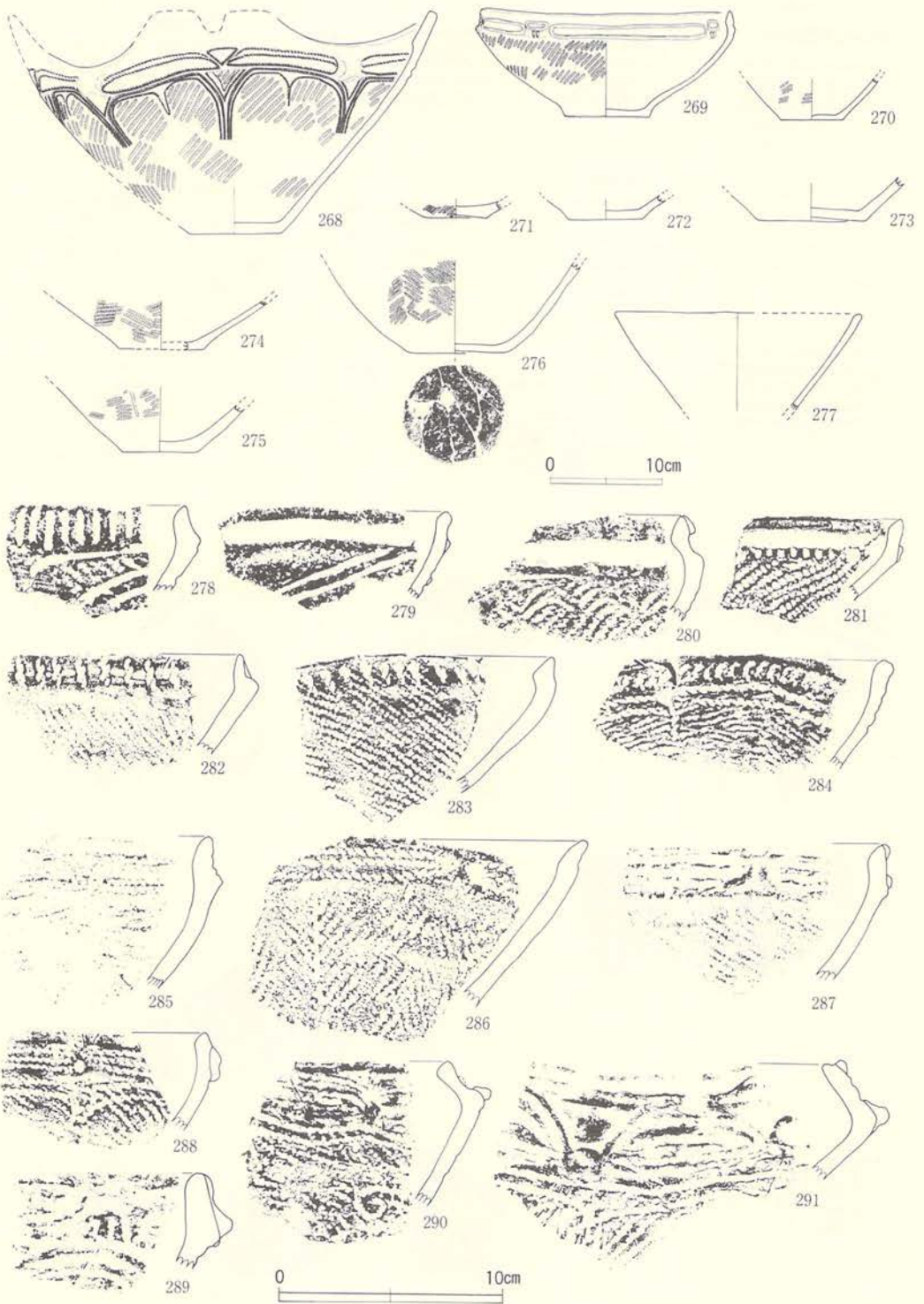
第139図 遺構外遺物：縄文土器(12)



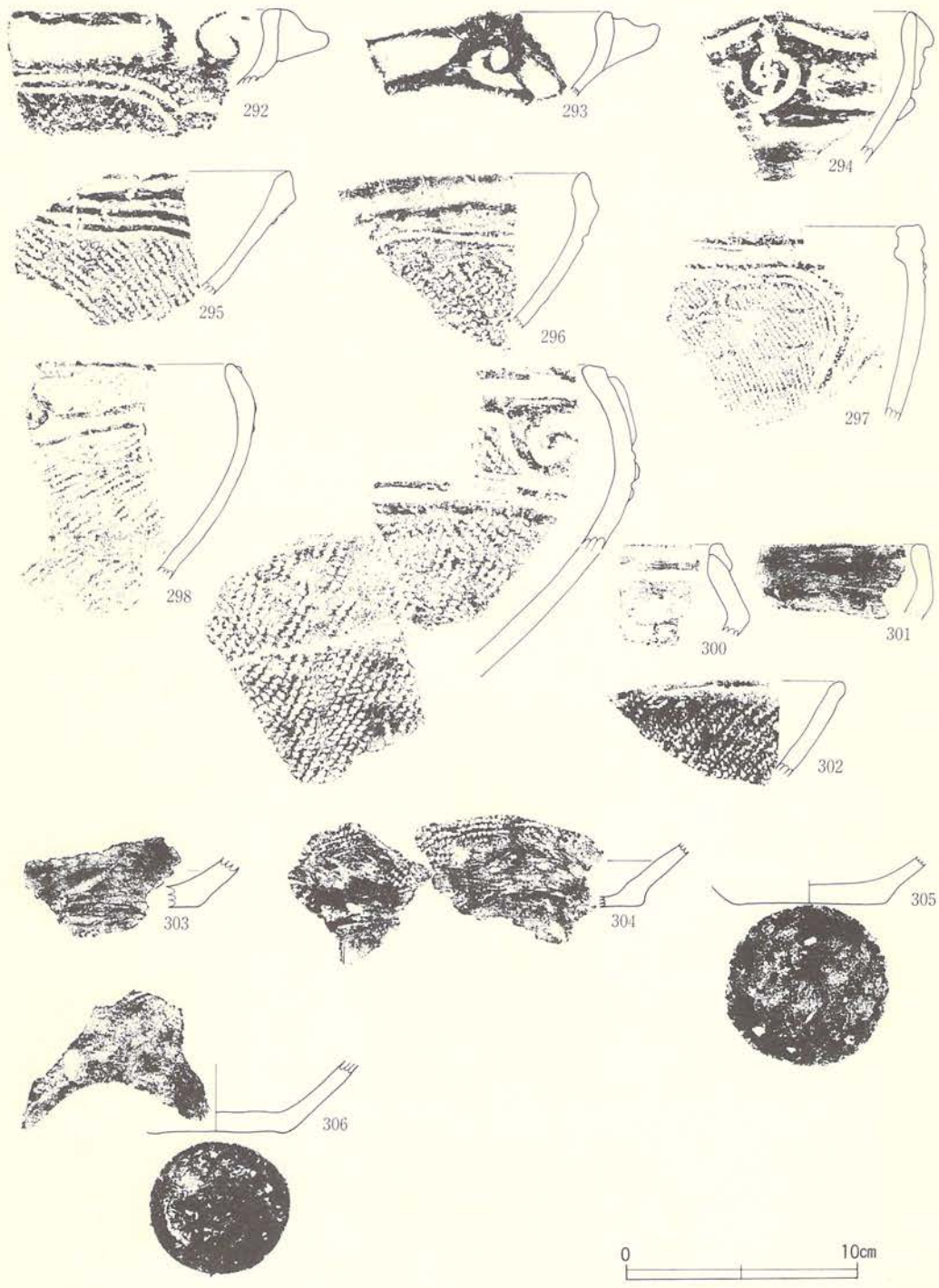
第140図 遺構外遺物：縄文土器(13)



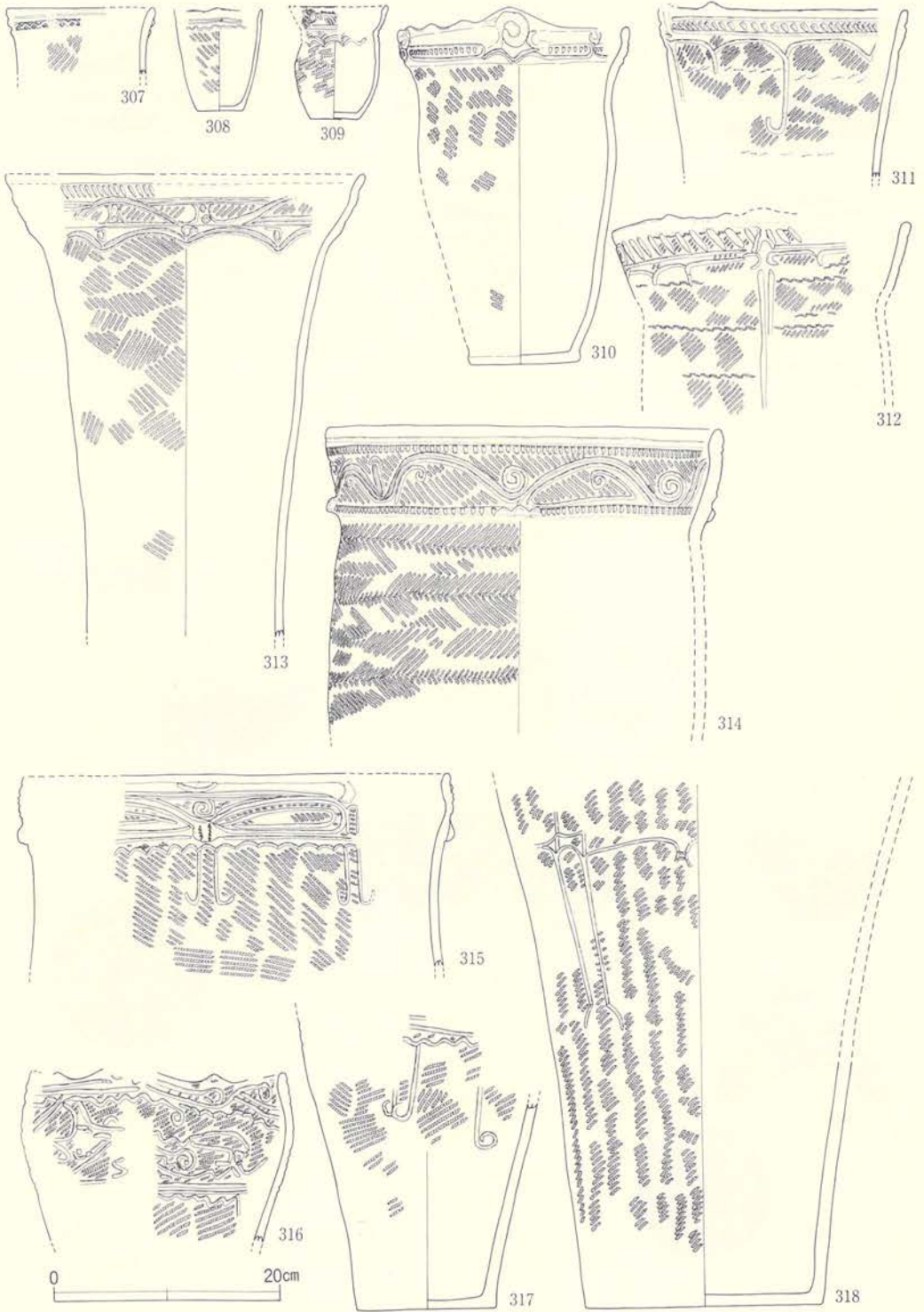
第141図 遺構外遺物：縄文土器(14)



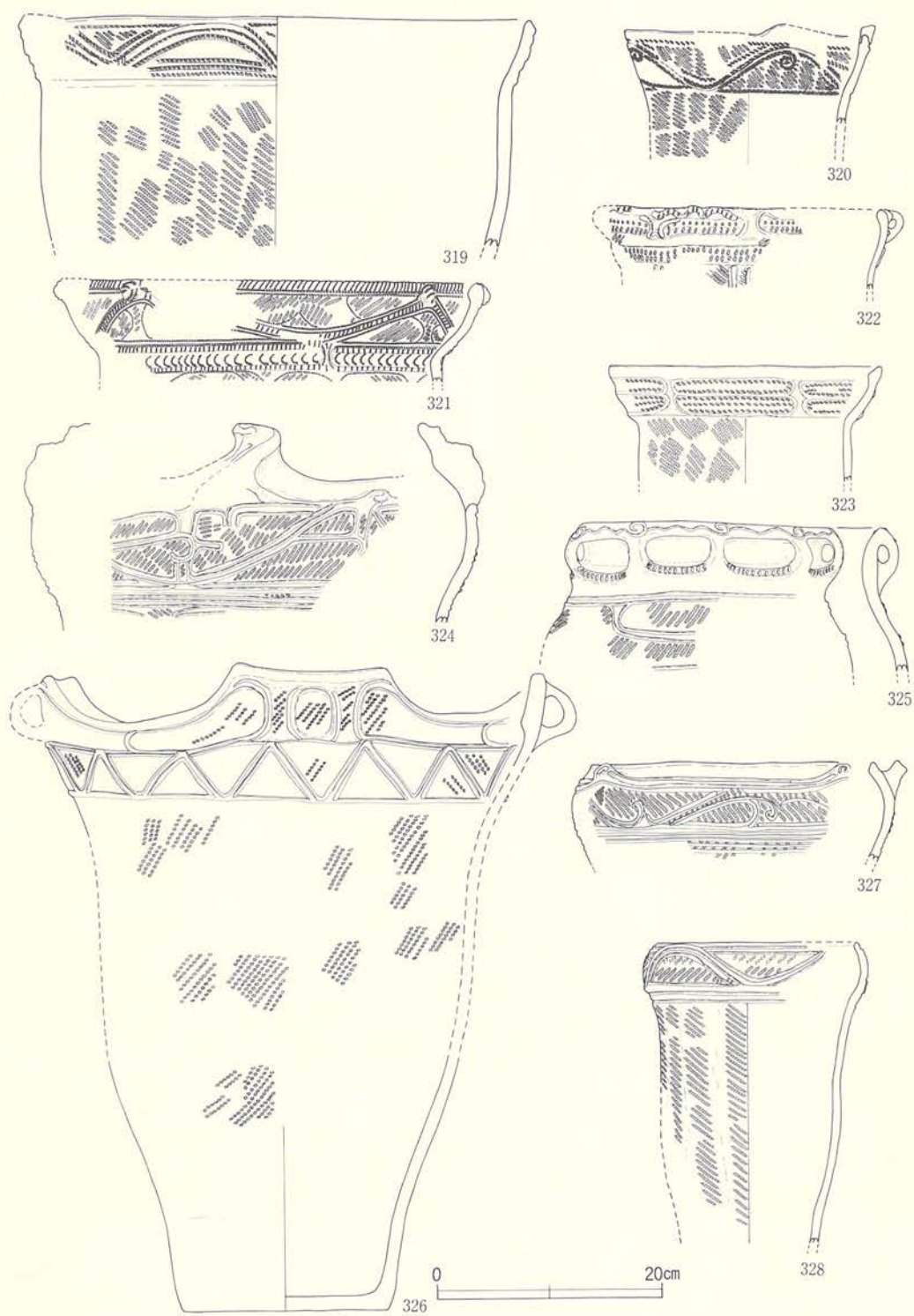
第142図 遺構外遺物：縄文土器(15)



第143図 遺構外遺物：縄文土器(16)



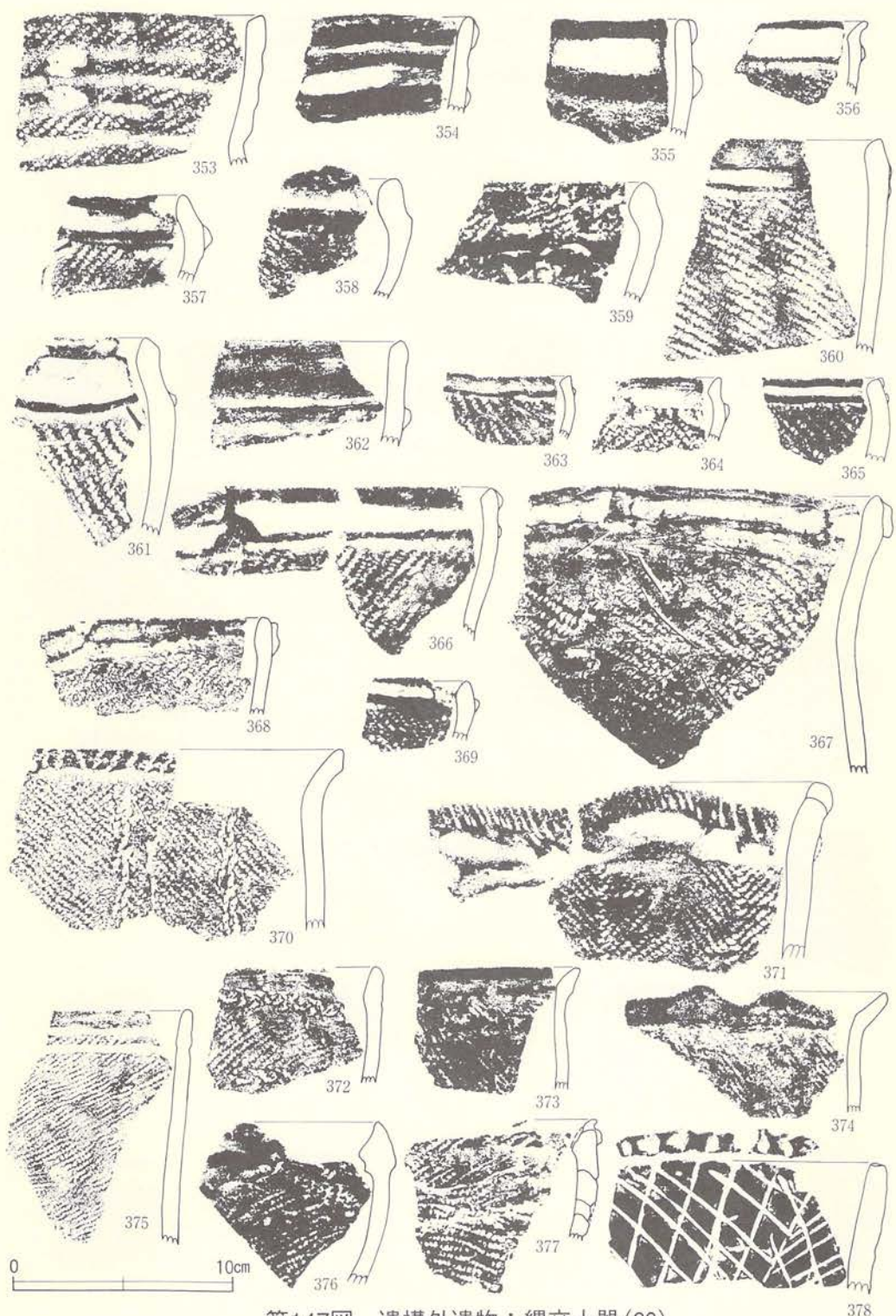
第144図 遺構外遺物：縄文土器(17)



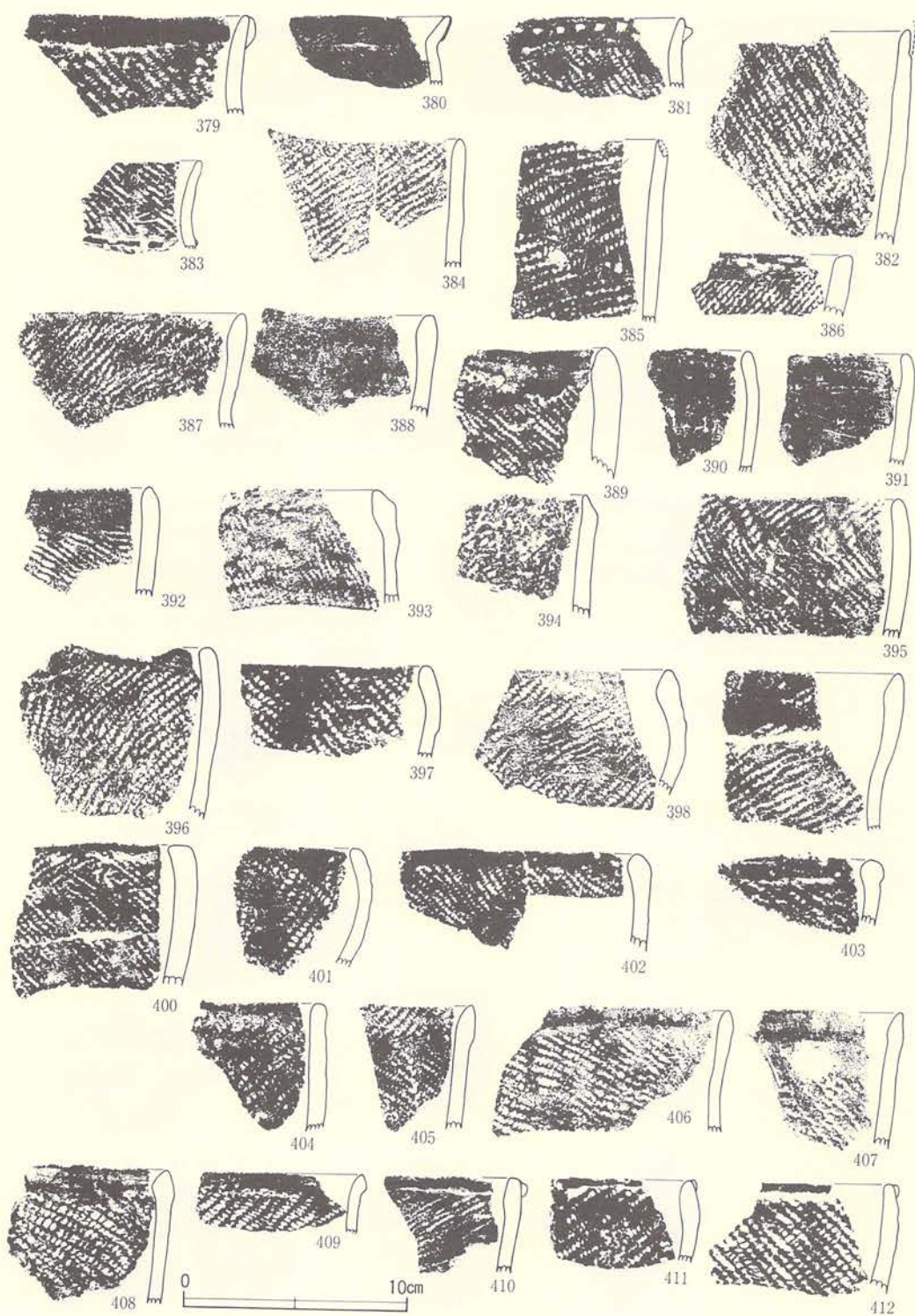
第145図 遺構外遺物：縄文土器(18)



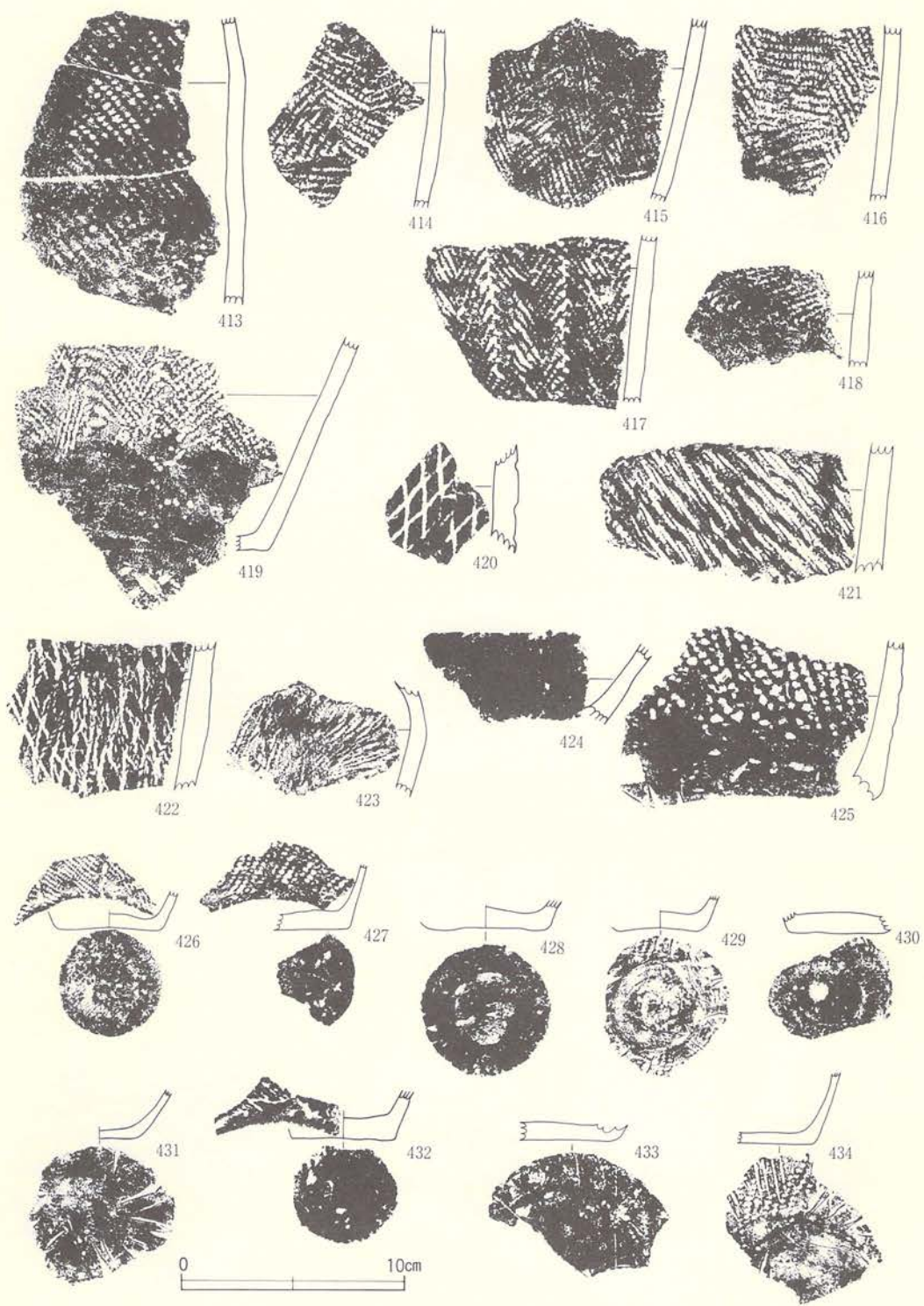
第146図 遺構外遺物：縄文土器 (19)



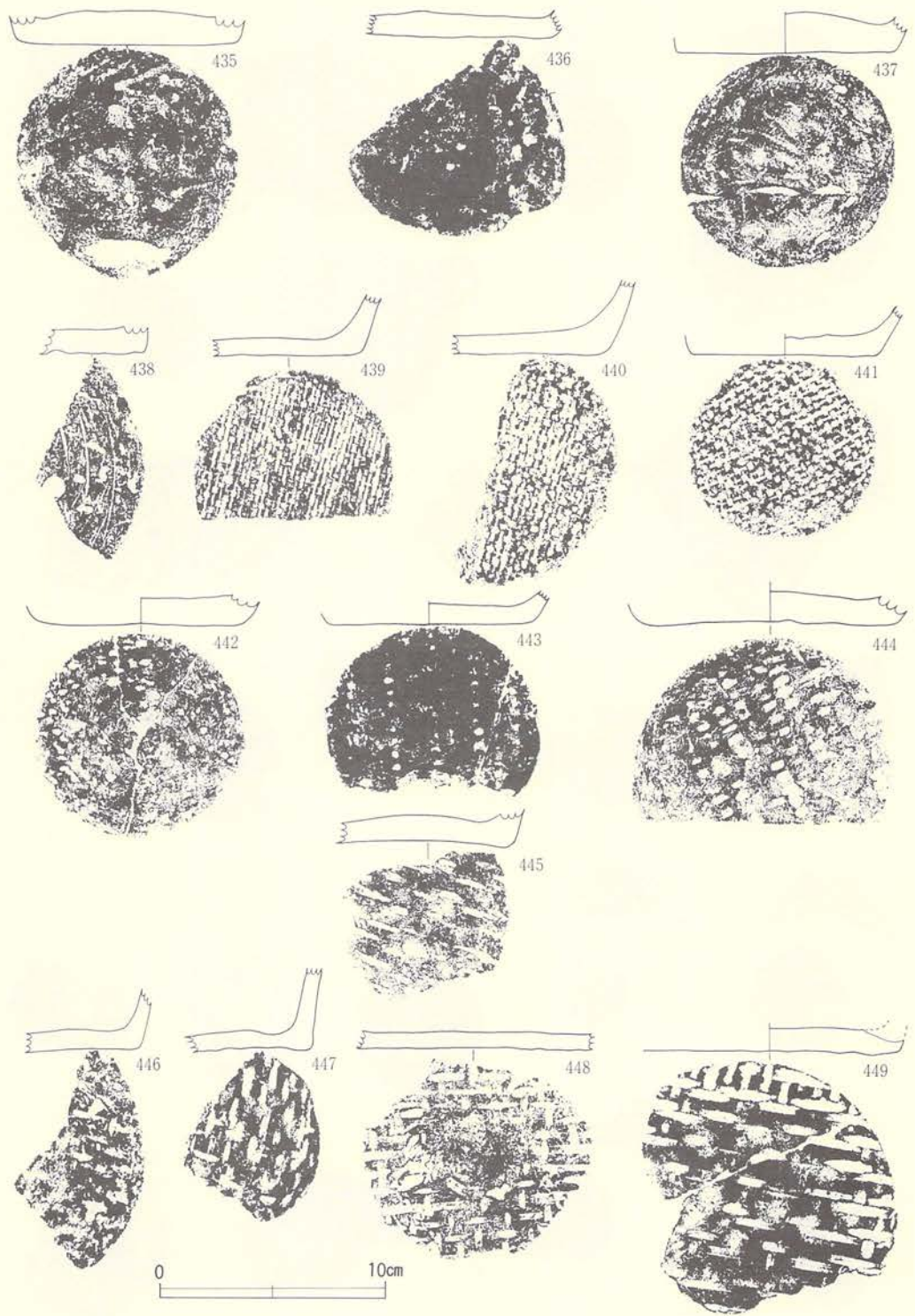
第147図 遺構外遺物：縄文土器(20)



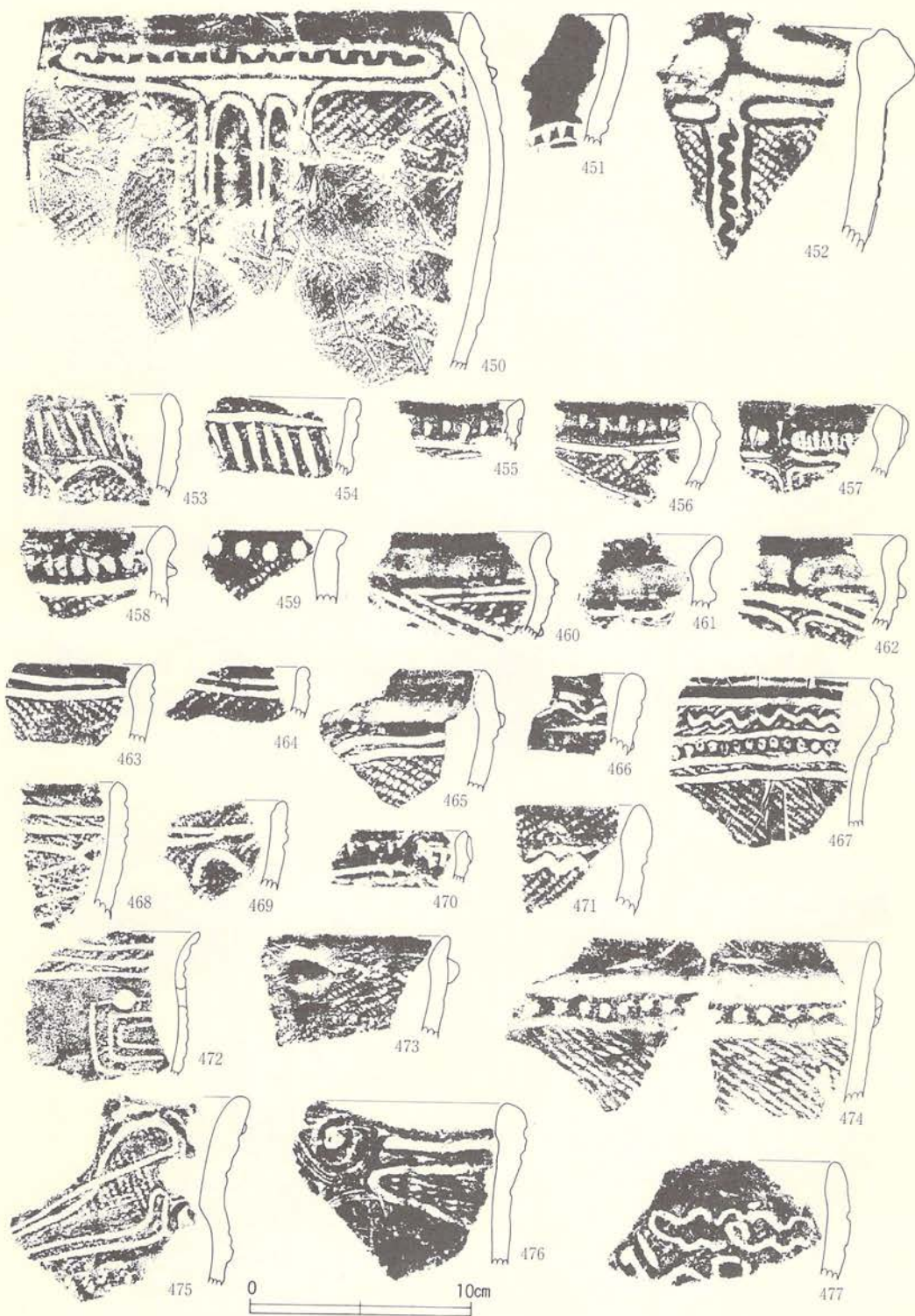
第148図 遺構外遺物：縄文土器(21)



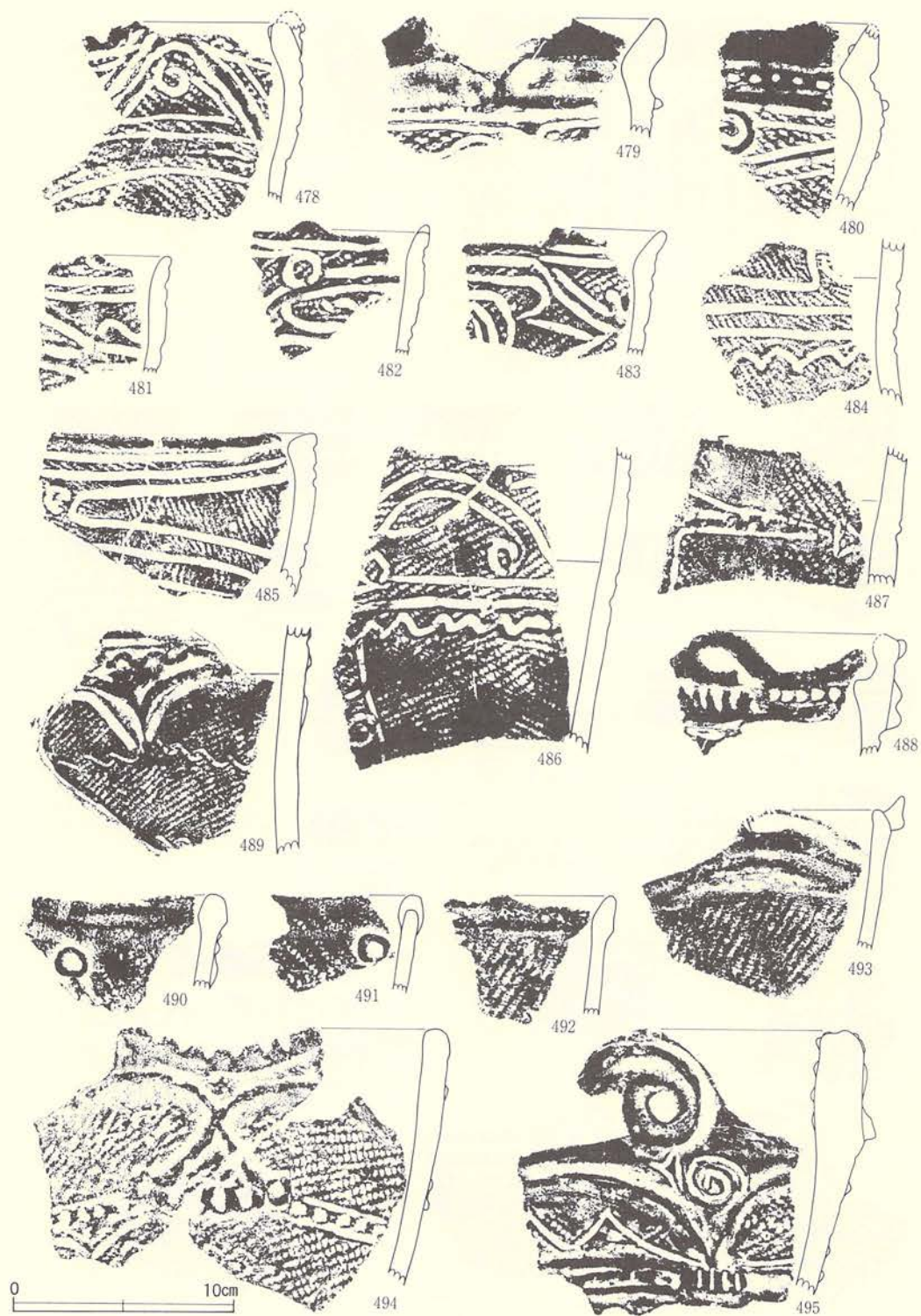
第149図 遺構外遺物：縄文土器(22)



第150図 遺構外遺物：縄文土器(23)



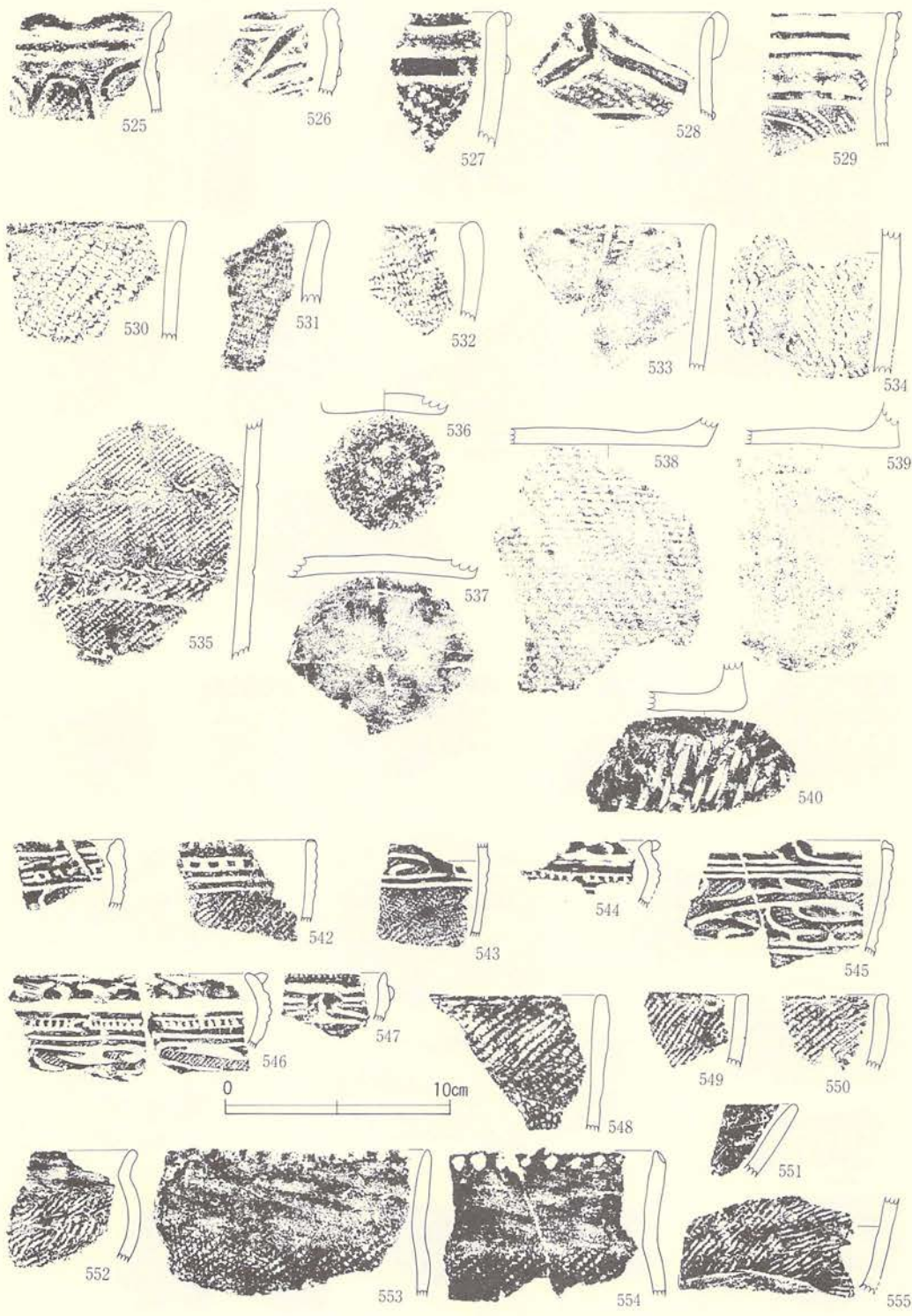
第151図 遺構外遺物：縄文土器(24)



第152図 遺構外遺物：縄文土器 (25)



第153図 遺構外遺物：繩文土器(26)



第154図 遺構外遺物：縄文土器 (27)

(2) 石器 (第155~182、写真図版125~140)

石器として取り上げた資料は685点になるが、このなかには使用痕の無いフレイクは含まれていない。器種と図示した点数は下記の通りである。()内の数字は出土総数である。石鏃7(7)、石槍23(26)、石匙24(26)、石錐10(11)、石篋28(37)、ピエス・エスキュー9(9)、搔削器25(34)、不定形石器24(78)、石斧46(57)、石鋤7(8)、石錘15(21)、凹石16(55)、半円状擦石26(109)、擦石37(121)、敲石11(16)、石皿7(8)、石剣・石刀・石棒5(8)、砥石2(2)、石核0(10)、その他1(40)で、685点中、323点を図示した。掲載した資料のデータは表に示してある。

石 鏃 (第155図1~7、写真図版125)

すべて無茎で、基部は抉り入りあるいは平らである。茎に付着物は認められないが、先端部が黒く変色している例がある(5、6)。全長は4cm、重量は3.5g以下である。石槍に分類したなかには石鏃と同じ形態を示すものもあるが(12、13)、長さ、身幅、厚さなどから敢えて槍としたが鏃の可能性もある。石質は凝灰岩が多く、1例鉄石英が含まれている。石器総数に占める割合は1%で非常に少ない。

石 槍 (第155・156図8~30、写真図版125)

平面形が二等辺三角形のもの(10~13)と長楕円形状のものに分類できる。後者はさらに基部が丸みを帯びるものと直線的なものに分かれる。断面は三角状で平らで薄く、楕円状は菱形あるいは台形状を呈するものが多い。欠損の状況は、なかほどで折れているのが最も多く、先端部欠損がそれに続いている。基部に付着物は無いが、1例(17)中央先端部寄りにタール状の斑点が付着している。石質は珪質凝灰岩と珪質泥岩が卓越している。石器総数に占める割合は3.7%である。

石 匙 (第157・158図31~54、写真図版126・127)

縦長と横長があり比率は18:7、不明1で、圧倒的に前者が多い。縦長の平面形は三角形、木葉状、長方形、楕円形状とさまざまである。1例(35)を除いて全周に調整が施されて刃部を形成しており、片刃よりは両刃のほうが多い。横長の平面形は三角形が多く、片刃と両刃の比率は半々である。つまみ、刃部とも付着物は認められないが、部分的に熱を受けたのか、茶色の珪質泥岩が黒色化している例(33、37)がある。石質は珪質泥岩と珪質凝灰岩が卓越し、幅広のつまみのある1例(42)のみ黒曜石製である。石器総数に占める割合は石槍とほぼ同じ3.7%である。

石 錐 (第158図55~64、写真図版127)

明瞭なつまみを持つものはなく、棒状(55)を除いた他は大形で三角形を呈する。両端に錐部を有する珍しい例もある(62)。錐部の先端は欠損例が多く、残存するものの形状は方形、平坦、ノミ状を呈する。55の先端部は磨耗が著しい。石質は凝灰岩と泥岩の2種類である。石器

の総数に占める割合は1.6%である。

石 篋 (第159～161図65～92、写真図版 128・129)

ヘラ状石器とも呼ばれる長方形の定形的な器形を一括した。平面形は、長方形、楕円形、卵形(81)、バチ形(85、86)、三角形があり、一部(81～83)を除いて最大径は刃部にある。全面にわたる両面調整が最も多く、主要剥離面を残すものは刃部あるいは刃部と側面を調整している(80、88、89、91)。両刃が殆どで、刃部は厚く内湾状の刃となるものが多い。自然面を残す2例(82、83)は内湾する片刃である。細かい斑点のようなタール状炭化物が付着しているもの3点あるが、2点は中央部とそれより基部側に(66・67)、1点は両側の刃部に沿うように弧状に付着している。石質は硬質、珪質の泥岩が卓越している。石器総数に占める割合は5.4%で、剥片石器のなかでは最も高い比率である。

ピエス・エスキーユ (第162図93～101、写真図版 130)

長方形と方形との形態がある。両極剥離痕があり2辺に刃を有するが、3、4辺に刃を持つ例もある(96、98、99)。素材の面や自然面を残すもの(100)と刃部縁辺からの剥離面におおわれているもの(94、96、97)がある。石質は他の剥片石器と同様であるが9点中3点が玉髓と、硬度の高い材質を用いている。石器の機能と密接な関連が考えられる。石器総数に占める割合は1.3%である。

搔・削器 (第162～164図102～138、写真図版 130・131)

形状的には、ある程度定形的な長方形、方形、三角形のもの、非定形的なものがある。刃は片刃と両刃があり、全周するもの(107・108)、三方にあるもの(102、110、111)、両側面にあるもの、先端部にあるもの、どちらかの一辺に部分的にあるもの(118、119、131ほか)と様々である。全体的にフレイクの形を生かして刃部のみを加工しているが、全面調整のうえに抉りを入る例(102)、「く」字状で三辺が片刃となる例(127)、側面の刃部のほかに錐状の鋒をもつ例(133)なども含まれる。石質は珪質泥岩、珪質凝灰岩が卓越している。石器総数に占める割合は6.75%である。

不定形石器 (第165図139～150、写真図版 132)

肉厚の剥片の両面に調整を施した一群と、大型剥片の一部に片刃をもつ一群とがある。前者はピック状の形態(139)と打製石斧状の刃部もつもの(140、141)とがある。数量的には後者が圧倒的に多い。石質は他の器種と同様、泥岩、凝灰岩が多い。石器総数に占める割合は9.6%で、ほぼ1割に達する。

石 斧 (第166～168図151～196、写真図版 133・134)

出土数57点の内訳は、磨製石斧50、打製石斧6(細破片になると他の剥片石器と区別がつかなくなるので、実数は増加すると思われるが)、環状石斧1であり、磨製が88%と圧倒的に多い。完形品は8点、刃部の側が残存するもの23点、基部の側が残存するもの19点、中間部分のみ残

存するもの6点である。磨製はすべて両刃で、片刃は打製に2例(192、194)あり、いずれも片側に自然面を残す。器形は左右対称が基本であるが、細身の2例は(155、156)断面の右側が厚く直線的で、形はやや湾曲する。基部から5cmの範囲に細かいタール状炭化物が付着しているものと、擦切り痕を残すものが1例ずつある(177、194)。折損した部分を打製石斧的に再加工したもの(170~172)や敲石、擦石(173、196)として再利用している例もある。石質は泥岩や凝灰岩のほかホルンヘルス、粘板岩などが加わり多様となる。石器総数に占める割合は8.3%である。

石 鋏 (第169図197~203、写真図版 134)

洋梨形5点、バチ形2点で、刃部のみで器形不明が1点ある。小型のものは全面加工されているが、大型例は中央部分に自然面を残す。刃部は最少例(200)を除いて、薄く鋭利である。石質は凝灰岩、砂岩、ホルンヘルスの3種類である。石器総数に占める割合は1.2%である。

石 錐 (第170図204~218、写真図版 135)

円形あるいは三角状の自然礫の長辺の両端を打ち欠いている。重量は100g台に集中しており石質は安山岩、凝灰岩で占めている。218は中央部が窪んでいるのでこの項で扱ったが、他の器種の可能性が高い。出土数は21点で石器総数に占める割合は3.0%である。

凹 石 (第171・172図219~234、写真図版 135・136)

円形あるいは楕円形の自然礫の1面、両面または3面に凹みを持つ。凹みは単数、複数、それがつながり溝状となるものなどがある。側面が擦石としての機能を有する例も混じる(222、223、234)。石質は凝灰岩、安山岩、閃緑岩が多い。56点出土しており、石器総数に占める割合は8.2%である。

半円状偏平石器(半円状擦石)(第173~175図235~260、写真図版 137・138)

楕円形状の自然礫の1辺あるいは両縁の側面を擦面とする石器で、一定の形に整えるために調整剥離を加えて整形している例も多々ある(241~244他)。凹みを持つものは例がなく、先端部を敲石としているのが1例(251)ある。109点出土したが、そのうち半数以上の59点が折損している。大部分は図示したように中程から折れているが、先端部の欠損3例、3部分以上の分割1例(いずれも図略)で、55点が半欠である。このことは、この石器の用途、機能を暗示しているようでもある。石質は凝灰岩、安山岩が殆どで、石器総数に占める割合は15.9%と高い。

擦 石 (第176~179図261~297、写真図版 139)

具体的には円形、楕円形の自然礫の両面を擦面としているが、方形状や不整形の礫も含まれている。両面を利用するものが普通であるが、側面に擦痕のあるものや、凹みや細かい不規則な溝を有する例もある。石質は凝灰岩、安山岩、デイサイトが大部分である。121点の出土で、

石器総数に占める割合は17.7%で、半円状擦石を加えると33.6%の高い比率となる。

敲石 (第180図298～308、写真図版 139)

さまざまな形の自然礫の先端部あるいは側面を敲として使用している。形や大きさにばらつきがあり、機能は単一ではなかったと思われる。長辺の先端部に直に圧力がかかる例多いためか16点出土しているが欠損品は1点もない。303は凹石も兼ねる。石質は1例を除いて凝灰岩と安山岩である。石器総数に占める割合は2.3%である。

石皿 (第181図309～315、写真図版 140)

8点出土したが、中央部に円形あるいは楕円形の凹みのあるものはすべて小型で完形品は1例(314)のみである。他の4点は自然礫の扁平な部分が微かに窪む程度で、すべて破損品である。

石剣・石刀・石棒 (第182図316～320、写真図版 140)

いずれも破片資料である。316は石剣の、317は石刀の先端部と推定されるが、後者の折損部には再調整痕を残す。

砥石 (第182図322・323、写真図版 140)

2点出土、前者は明らかに縄文時代の砥石の形態であるが、後者は古墳時代以降に属する可能性があるが、周辺には該期の遺構、遺物がないのでここで扱った。321はピック状の石器。

(3) 土・石製品

土偶 (第183図1～3、写真図版 141)

3点とも包含層から土器片と共に出土したもので、特別な遺構や出土状況は認められなかった。1は全面に乳房を表現しているが、背面の対応する位置にも2個の乳房状の突起がある。顔面は省略しており、脚部は左右に開く。右腕は欠損。2は頭部、同部以下を欠損、乳房と腕の表現は1と同じである。頸から胸元にかけて二重のV字状捺糸圧痕文があり、腹部には焼成前の穿孔が2本ある。3は胴部以下が残存。腹部は膨らみを持ち、臍と思われる突起がありその上に2と同様の穿孔がある。背面は無文。いずれも縄文時代中期に属すると思われる。

土版・石版 (第183図4～6、写真図版 141)

3点中4のみが土版で、中央部が楕円形に窪み側面に不規則な沈線が施文される。背面は無文である。5は板状の淡緑色凝灰岩製で、沈線と三叉文の組み合わせ。6も同岩製であるが、極めて薄く、不規則な沈線が走るのみである。いずれとも土偶と同様包含層からの出土で、3は文様からして大木7式期に、5は大洞B式期に属する。6は時期不明。

装飾品 (第183図7・8、写真図版 142)

図化可能なもの2点出土、7は決状耳飾の未完成品とおもわれ、両面に粗い擦痕が走る。8は方形の垂飾りで完形、孔は両側から穿っている。2点とも緑色凝灰岩製で、時期は不明で

表2 遺構外出土石器観察一覧表

石 鏃

No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石 質	産 地
1	ⅡE 0層		2.1	1.3	0.3	0.8	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地・新第三系中新統
2	ⅡH 1層	右側基部欠損	1.6	1.4	0.4	0.8	鉄石英	産地・時代不詳
3	〃 2層	左側面基部欠損	2.8	1.75	0.8	3.5	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
4	〃 〃		2.7	1.3	0.3	0.9	珉質凝灰岩	〃 〃
5	〃 4層	先端の一部黒く変色	2.0	1.5	0.3	0.8	流紋岩	〃 〃
6	I J 2層	先端部黒く変色	2.8	1.6	0.4	1.3	流紋岩	〃 〃
7	ⅡB Ⅱ層下		3.5	2.1	0.5	3.5	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地・新第三系中新統

石 槍

8	ⅡG 4層一括	基部欠損	5.25	1.9	0.7	4.8	珉質泥岩	奥羽山地・中新統
9	ⅡH 2層		3.8	1.4	1.0	3.6	珉質細粒凝灰岩	〃 〃
10	ⅡI 2層	右側基部欠損	4.2	2.6	0.65	5.3	珉質凝灰岩	〃 〃
11	ⅡG 2層	先端、基部右側欠損	5.1	2.3	0.45	4.4	珉質泥岩	〃 〃
12	I A 塚		4.3	1.7	0.8	6.0	濃緑色細粒凝灰岩	〃 ・新第三系中新統
13	ⅡH 2層	基部欠損	5.0	1.9	0.8	5.4	珉質泥岩	〃 ・中新統
14	ⅡG 4層	先端部欠損	5.1	1.9	1.5	13.9	珉質細粒凝灰岩	〃 〃
15	ⅡH 3層		6.1	2.0	0.6	7.6	〃	〃 〃
16	ⅡH 1層	種類、中にF-6根付物	8.15	2.2	1.5	24.1	珉質泥岩	〃 〃
17	ⅡH 2層	先端部欠損	2.3	2.3	1.4	23.9	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
18	ⅡJ 3層	半欠	5.9	2.2	1.0	14.8	珉質泥岩	〃 〃
19	ⅡH 2層	〃	5.8	2.6	1.7	30.8	珉質細粒凝灰岩	〃 〃
20	〃 〃	先端部欠損	4.1	2.6	1.0	12.0	珉質泥岩	〃 〃
21	ⅡG 4層	半欠	(4.3)	2.2	1.3	12.1	硬質泥岩	〃 〃
22	ⅡH 1層		5.8	3.35	2.2	38.2	珉質細粒凝灰岩	〃 〃
23	ⅡG 2層	先端部欠損	7.9	2.4	1.65	28.6	〃	〃 〃
24	ⅡG 1層	〃	7.5	2.8	1.9	36.7	硬質泥岩	〃 〃
25	ⅡH 1層	半欠	7.4	2.1	1.5	28.1	珉質細粒凝灰岩	〃 〃
26	ⅡG 3層	〃	5.6	2.45	1.7	28.3	硬質泥岩	〃 〃
27	ⅡG 2層	基部欠損	4.7	2.6	1.4	17.9	〃	〃 〃
28	〃 〃	〃	5.1	2.2	1.3	15.3	珉質細粒泥岩	〃 〃
29	〃 〃	先端部表面剥落	5.6	2.45	1.6	23.4	珉質細粒凝灰岩	〃 〃
30	ⅡH 4層		5.15	2.8	1.75	20.7	珉質泥岩	〃 〃

石 匙

31	I F 2層	先端部欠損	6.1	2.8	0.55	9.2	珉質凝灰岩	奥羽山地・中新統
32	ⅡH 2層	先端部欠損、つまみの先端黒色化	6.1	2.8	1.0	10.2	〃	〃 〃
33	I A 墓坑群 2層	刃部一部欠損	4.6	1.7	0.4	3.4	珉質泥岩	奥羽山地・新第三系中新統
34	ⅡG 4層	先端部欠損	5.7	3.3	0.65	10.9	〃	〃 ・中新統
35	ⅡH 2層	〃	5.4	2.7	0.7	10.8	珉質凝灰岩	〃 〃
36	ⅡG 1層	刃部の一部黒色化、加典典中	3.5	2.6	0.8	6.3	珉質泥岩	〃 〃
37	I A 塚		4.0	2.4	0.5	4.3	〃	〃 ・新第三系中新統
38	I H 2層		2.8	1.6	0.3	1.0	鉄石英	産地・時代不詳
39	I G 4層		5.0	1.7	0.6	4.1	珉質凝灰岩	奥羽山地・中新統
40	ⅡH 4層		5.6	2.3	0.7	11.9	珉質泥岩	〃 〃
41	ⅡG 3層		4.6	2.1	0.4	4.9	〃	〃 〃
42	ⅡG 4層	先端部再調整	3.7	3.5	0.8	112	黒曜石	産地・時代不詳
43	I G 2層	つまみ欠損	6.0	3.4	1.2	28.6	珉質泥岩	奥羽山地・中新統
44	I G 2層		4.35	2.3	0.5	5.6	〃	〃 〃

No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
45	ⅡH 1層		5.75	4.5	0.95	23.3	〃	〃 〃
46	〃 2層		5.7	4.0	0.6	9.6	〃	〃 〃
47	〃 2層		6.7	5.15	1.1	28.9	硬質泥岩	〃 〃
48	〃 2層	先端部欠損	7.9	4.3	0.7	22.3	珪質泥岩	〃 〃
49	ⅡG 3層		3.6	5.2	0.9	18.7	〃	〃 〃
50	ⅡG 2層		4.0	4.7	0.8	14.8	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
51	ⅡB 2層		3.9	5.9	0.9	17.1	硬質泥岩	〃 新第三系中新統
52	ⅡG 4層		3.0	5.25	0.7	7.3	〃	〃 中新統
53	ⅡG 1層		4.15	6.9	0.6	13.7	珪質泥岩	〃 〃
54	ⅡG 4層		3.9	4.0	0.5	6.1	珪質凝灰岩	〃 〃

石 錐

55	ⅡH 2層	棒状、先端磨耗	2.15	0.45	0.3	0.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
56	〃 2層	先端平端	2.75	1.1	0.15	1.7	〃	〃 〃
57	I I 2層		3.9	2.5	0.4	3.7	〃	〃 〃
58	ⅡH 2層		3.55	1.75	0.3	3.3	輝緑凝灰岩	〃 〃
59	〃 2層	先端部欠損	3.75	1.9	0.25	2.6	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
60	〃 2層中	先端部ノミ状	4.8	2.0	0.2	6.7	〃	〃 〃
61	ⅡG 4層	先端部欠損	5.8	2.8	0.4	9.3	硬質泥岩	〃 〃
62	ⅡH 4層上	両端を使用	5.5	4.1	0.5	18.0	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
63	〃 2層	先端部欠損	4.3	4.5	0.3	10.5	硬質泥岩	〃 〃
64	〃 2層最下部	片側自然面、先端部欠損	8.3	4.5	0.3	45.2	〃	〃 〃

石 籠

65	ⅡG 3層	刃部右側欠損	9.8	3.45	1.8	57.7	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
66	I G 2層	中央部分にナール状の斑点	9.7	3.5	1.7	70.7	珪質泥岩	〃 〃
67	ⅡG 1層	基部に2.5cmにナール状の斑点	7.6	3.0	1.3	35.5	〃	〃 〃
68	ⅡG 4層一括		8.0	3.55	1.8	54.8	〃	〃 〃
69	ⅡG 3層		6.6	3.0	1.6	29.2	〃	〃 〃
70	ⅡH 2層					〃	〃 〃	
71	ⅡG 4層	基部側欠損	4.85	2.3	1.1	13.1	〃	〃 〃
72	ⅡH 2層	〃	4.75	2.8	1.2	17.1	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
73	ⅡF 1層	刃部側欠損	5.8	3.0	1.45	38.2	珪質泥岩	〃 〃
74	ⅡH 2層		8.5	3.15	1.8	46.3	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
75	ⅡH 2層	基部に自然面残る	8.0	3.8	1.5	51.3	硬質泥岩	〃 〃
76	ⅡH 2層最下部		8.7	3.5	1.5	49.7	珪質泥岩	〃 〃
77	ⅡG 3層		8.4	3.3	1.65	53.0	〃	〃 〃
78	ⅡG 2層		8.85	3.0	2.2	52.8	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
79	ⅡG 4層	基部側欠損	5.5	2.9	1.6	26.1	珪質泥岩	〃 〃
80	ⅡG 2層	基部欠損	6.2	2.55	1.25	21.9	硬質泥岩	〃 〃
81	ⅡH 2層		5.4	2.9	0.9	16.6	珪質泥岩	〃 〃
82	ⅡG 1層		6.5	3.8	1.9	40.9	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
83	〃 3層	刃部自然面、片刃	7.8	3.2	1.9	47.2	硬質泥岩	〃 〃
84	〃 1層		8.5	3.4	2.0	65.0	珪質泥岩	〃 〃
85	〃 3層	基部に5cm距離に窪み1ヶ所あり	9.8	4.5	1.5	59.5	〃	〃 〃
86	ⅡH 2層	基部欠損	5.9	3.8	1.25	31.9	〃	〃 〃
87	ⅡG 1層		5.9	2.8	1.4	25.3	〃	〃 〃
88	ⅡH 2層		5.5	3.9	1.3	36.8	玉髓	産地・時代不詳
89	〃 1層	基部欠損刃部再加工?	6.6	4.2	1.3	36.9	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
90	I H 3層		6.5	4.0	1.0	31.5	珪質泥岩	〃 〃

No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地
91	ⅡH 2層	＊	6.1	3.7	1.25	30.5	＊	＊ ＊
92	＊ 2層	硬質泥岩	6.4	4.4	1.6	43.6	硬質泥岩	＊ ＊
ピエスキュー								
93	ⅠG 1層		2.3	1.9	0.6	2.9	玉髓	産地・時代不詳
94	ⅡH 2層		2.2	2.05	0.7	3.1	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
95	＊ ＊		2.2	2.0	0.65	2.4	玉髓	産地・時代不詳・中新統
96	＊ ＊		2.45	2.0	0.8	3.9	＊	＊ ＊ ＊
97	＊ ＊		1.7	2.3	0.4	2.0	珪質泥岩	奥羽山地・ ＊
98	ⅡH 2層		2.8	2.6	0.55	4.3	珪質細粒凝灰岩	北上山地・古生界
99	＊ 2層		3.6	2.7	0.4	3.2	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
100	ⅡG 4層		2.95	1.9	0.4	2.8	珪質細粒凝灰岩	＊ ＊
101	ⅡH 2層		3.4	3.8	1.1	13.1	珪質泥岩	＊ ＊
搔削器								
102	ⅡH 2層		9.6	4.1	1.2	45.4	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
103	ⅡG 4層	先端部欠損	7.9	1.5	1.5	18.8	玉髓	山地・時代不詳
104	＊ 1層		6.4	2.3	1.6	32.6	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
105	ⅡH 2層		5.9	1.4	0.6	4.7	珪質泥岩	＊ ＊
106	ⅠG ＊		5.5	1.75	0.8	9.4	＊	＊ ＊ ＊
107	ⅡH 1層		3.6	2.3	0.7	5.8	珪質細粒凝灰岩	北上山地・古生界
108	ⅠB 2層		3.7	5.5	0.8	21.0	＊	奥羽山地・新第三系中新統
109	ⅡH 2層		5.75	3.0	0.75	14.5	玉髓	山地・時代不詳・中新統
110	＊ 2層		7.5	4.6	1.0	40.6	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
111	＊ 2層		6.4	2.9	0.85	18.2	珪質泥岩	＊ ＊
112	＊ ＊	刃部再加工	4.95	1.8	1.0	8.4	硬質泥岩	＊ ＊
113	Ⅰ ＊		4.9	2.2	0.8	7.9	珪質泥岩	＊ ＊
114	ⅡH 2層		5.6	3.9	1.0	26.6	珪質泥岩凝灰岩	北上山地・古生界
115	ⅡG ＊		5.0	4.7	1.4	34.3	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
116	ⅡH ＊		5.1	5.8	1.0	37.6	＊	＊ ＊
117	ⅠH ＊		7.0	6.15	1.0	36.1	珪質泥岩	＊ ＊
118	ⅡH ＊		5.6	4.2	0.95	24.5	鉄石英	山地・時代不詳
119	ⅠH 0層		4.3	3.1	0.9	12.9	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地・新第三系中新統
120	＊ 4層		5.8	3.7	1.1	19.6	珪質泥岩	＊ ＊ 中新統
121	ⅡG 3層	先端欠損	5.2	2.9	0.5	9.9	珪質細粒凝灰岩	＊ ＊
122	ⅡI 2層		3.05	2.0	0.5	2.3	＊	北上山地・古生界
123	ⅡH 4層		7.0	4.5	1.3	34.4	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
124	＊ 2層		5.8	2.4	0.7	8.8	珪質細粒凝灰岩	北上山地・古生界
125	ⅡG 4層		8.9	4.0	1.4	49.1	＊	＊ ＊
126	ⅠG 4層		6.2	4.8	1.3	35.8	鉄石英	山地・時代不詳
127	ⅠE ＊		8.4	3.4	1.2	44.2	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
128	ⅡG 2層		7.5	5.3	1.0	48.8	珪質細粒凝灰岩	＊ ＊
129	ⅡH 1層		4.2	1.9	0.7	4.8	珪質泥岩	奥羽山地・中新統
130	ⅡG 攪乱		6.5	2.5	1.25	17.7	硬質泥岩	＊ ＊
131	ⅡJ 3層		7.0	3.1	1.4	27.8	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
132	ⅡH 2層		8.5	4.6	1.15	37.7	珪質泥岩	＊ ＊
133	ⅠB 2層下		8.7	3.6	1.0	40.7	珪質泥岩	＊ ＊ 新第三系中新統
134	ⅠG 2層		7.95	3.1	1.1	29.5	珪質細粒凝灰岩	北上山地・古生界
135	ⅡG 1層		7.25	4.2	1.2	40.4	＊	奥羽山地・中新統
136	ⅡG 4層		5.2	3.4	1.2	19.6	硬質泥岩	＊ ＊

No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
137	II G 3層		4.3	6.0	1.5	42.0	㊄	㊄ ㊄
138	I G 4層		5.9	4.15	1.3	31.6	㊄	㊄ ㊄
不定形								
139	I I 1層		12.0	4.25	3.0	115.0	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
140	II G 4層		4.5	8.4	3.45	120.0	㊄	㊄ ㊄
141	㊄ ㊄		5.2	7.1	1.7	80.0	㊄	㊄ ㊄
142	II F 3層		8.55	3.5	0.9	21.0	珪質泥岩	㊄ ㊄
143	II G 1層		11.1	7.15	1.2	80.0	珪質細粒凝灰岩	㊄ ㊄
144	II G 4層		10.65	9.3	1.85	125.0	㊄	㊄ ㊄
145	II J 2層		9.15	7.0	2.1	135.0	珪質泥岩	㊄ ㊄
146	II G 4層		8.7	6.8	1.95	90.0	珪質細粒凝灰岩	㊄ ㊄
147	I H 2層上		13.2	7.0	2.0	1900	流紋岩	奥羽山地・新第三系中新統
148	I J 2層		10.0	5.5	1.5	75.0	珪質泥岩	㊄ ㊄ 中新統
149	II H 4層上		10.5	6.15	2.3	125.0	㊄	㊄ ㊄
150	II G 3層		10.0	4.5	2.3	125.0	珪質細粒凝灰岩	㊄ ㊄
石斧								
151	II G 1層	刃部欠損	3.75	2.65	0.9	14.9	粘板岩	仙人一夏油川・古生界
152	II H 4層	刃部タテの使用痕	4.3	1.65	0.8	7.0	緑色細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
153	㊄ 2層		4.55	2.0	1.0	11.1	粘板岩	仙人一夏油川・古生界
154	I H ㊄	基部欠損	6.5	2.5	1.3	36.6	㊄	㊄ ㊄
155	II G 2層		10.3	2.6	2.1	95.0	緑色細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
156	I I ㊄		14.45	3.85	2.7	230.0	緑色凝灰岩	㊄ ㊄
157	II G ㊄		10.3	3.95	1.4	100.0	粘板岩	仙人一夏油川・古生界
158	II H 3層	基部欠損	10.45	4.8	2.35	215.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
159	II G 4層	刃部一部欠損	8.2	3.65	1.0	42.7	凝灰質砂石	㊄ ㊄
160	I H 4層	基部側半折	8.15	6.0	3.2	30.0	緑色凝灰岩	㊄ ㊄
161	II H 2層	基部側欠損	8.9	5.1	2.55	220.0	閃緑岩	仙人一夏油川・中生界
162	㊄ 3層	基部側半折	8.55	4.2	1.9	90.0	ホルンフェルス	㊄ ㊄ 中生界
163	II G 1層	基部欠損	11.05	4.95	3.25	285.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
164	II J 3層	基部側半折	5.6	4.9	1.95	90.0	㊄	㊄ ㊄
165	I I 2層	基部側・刃部先端欠損	7.75	5.85	3.25	220.0	㊄	㊄ ㊄
166	I H II層上	基部側欠損	(7.1)	4.9	1.7	130.0	淡緑色砂質凝灰岩	㊄ ㊄ 新第三系中新統
167	II G 2層	刃部のみ残存	5.5	5.5	2.9	130.0	緑色凝灰岩	㊄ ㊄ 中新統
168	II H 4層	基部側欠損	6.7	5.7	2.75	150.0	凝灰質砂岩	㊄ ㊄
169	II G ㊄	刃部刃こぼれ	7.6	5.05	3.35	200.0	半花崗岩	仙人一夏油川・中生界
170	II G 1層	基部側の折損部再加工あり	8.6	4.6	3.35	250.0	閃緑岩	㊄ ㊄
171	II G 4層	基部再調整	8.75	4.8	1.9	106.0	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
172	I H 0層	欠損した刃部石表に再利用	10.0	4.9	2.3	200.0	粘板岩	仙人一夏油川・古生界
173	㊄ 2層中	右側に擦切りの溝	(6.2)	4.0	1.9	80.0	淡緑色砂質凝灰岩	奥羽山地・新第三系中新統
174	II G 2層	基部残存	4.6	4.75	2.2	48.9	粘板岩	仙人一夏油川・古生界
175	I H ㊄	基部のみ	5.05	4.1	1.8	55.4	緑色細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
176	I I ㊄	基部にタール状	5.35	3.4	2.2	50.3	流紋岩質凝灰岩	㊄ ㊄
177	II G ㊄	付着物	13.4	4.9	3.35	350.0	緑色凝灰岩	㊄ ㊄
178	II H ㊄	刃部欠損	12.3	5.7	2.9	330.0	淡緑色砂質凝灰岩	奥羽山地・新第三系中新統
179	㊄ 攪乱	㊄	10.3	4.55	3.05	240.0	半花崗岩	仙人一夏油川・中生界
180	I H 2層	刃部欠損	12.5	5.6	3.4	385.0	半花崗岩	仙人一夏油川・中生界
181	II G 4層	基部側のみ残存	7.05	4.85	3.1	145.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
182	II H 2層	刃部側欠損	8.75	5.7	3.6	255.0	㊄	㊄ ㊄

No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地
183	Ⅱ H *	*	8.0	5.35	3.4	215.0	*	* *
184	* *	刃部側半折	7.3	4.85	3.7	180.0	*	* *
185	I G *	基部残存	6.2	5.15	3.45	180.0	*	* *
186	Ⅱ H *		7.5	5.9	3.35	230.0	花崗閃緑岩	仙人一夏油川・中生界
187	I I *	環状石斧	8.75	6.4	2.15	145.0	両輝石安山岩	駒ヶ岳・第四系
188	Ⅱ H *	刃部を打製に再加工	11.35	4.7	2.55	95.0	ホルンフェルス	仙人一夏油川・古生界
189	* *	刃、基部欠損	10.6	4.5	2.55	185.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
190	I H		14.65	6.75	4.05	475.0	ホルンフェルス	仙人一夏油川・古生界
191	Ⅱ H 攪乱		10.5	6.5	3.5	320.0	*	* *
192	Ⅱ H 2層最下部	片側自然面	7.4	4.3	2.3	80.0	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地・中新統
193	* 2層		16.55	4.15	2.25	92.0	硬質泥岩	* *
194	Ⅱ G 4層	基部の一部欠	7.0	6.0	1.9	88.0	緑色凝灰岩	* *
195	Ⅱ H 2層	半割、側面再加工	5.4	3.5	1.65	39.2	流紋岩質凝灰岩	* *
196	Ⅱ G 1層	刃部欠損、側面再加工	14.0	4.8	2.9	305.0	粘板岩	仙人一夏油川・古生界
石 鋏								
197	Ⅱ H 攪乱		19.5	9.9	3.6	750.0	凝灰岩質砂岩	奥羽山地・中新統
198	I I 2層		17.5	9.3	3.1	610.0	*	* *
199	Ⅱ J *		14.95	9.15	3.2	320.0	ホルンフェルス	仙人一夏油川・古生界
200	I I *		10.1	9.7	3.9	310.0	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地・中新統
201	Ⅱ H 攪乱		13.7	9.7	4.2	445.0	*	* *
202	Ⅱ G 4層		15.2	8.7	2.4	315.0	ホルンフェルス	仙人一夏油川・古生界
203	I H 2層		23.1	8.3	2.8	730.0	ホルンフェルス	* *
石 錘								
204	Ⅱ B		5.7	5.7	1.7	75.0	細粒質淡緑色凝灰岩	奥羽山地・新第三系中新統
205	I F 2層下		7.4	6.85	1.6	105.5	両輝石安山岩	* ・鮮新統
206	Ⅱ G 2層		7.5	6.15	2.1	115.0	緑色凝灰岩	* *
207	* 1層		7.3	6.95	2.25	120.5	*	* *
208	* 層		6.9	5.8	1.4	80.0	両輝石安山岩	* *
209	I F 2層		7.9	6.3	1.65	115.0	*	* *
210	I I *		8.55	5.4	1.4	120.5	*	* *
211	I A 墓坑群		9.9	7.8	2.1	220.0	淡緑色砂質凝灰岩	* ・新第三系中新統
212	I F 2層下		6.25	5.55	2.4	105.0	両輝石安山岩	* ・鮮新統
213	I F 2層下		5.5	5.3	1.55	56.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
214	* *		7.7	7.4	2.9	205.0	両輝石安山岩	* ・鮮新統
215	* *		7.4	7.4	2.2	160.5	*	* *
216	* *		8.7	7.9	2.3	190.0	*	* *
217	* *		8.75	7.25	2.5	220.0	*	* *
218	Ⅱ G 1層		7.35	7.55	2.5	220.5	*	* *
凹 石								
219	Ⅱ H 2層		7.3	7.4	4.0	260.0	両輝石安山岩	奥羽山地・鮮新統
220	Ⅱ G 2層		8.9	6.5	2.95	185.0	緑色凝灰岩	* ・中新統
221	Ⅱ I *		9.3	6.5	4.7	365.0	*	* *
222	Ⅱ H *		10.4	5.8	3.2	240.0	*	* *
223	Ⅱ G 4層		12.0	9.15	5.2	760.0	*	* *
224	* 2層		13.6	7.6	5.15	670.0	*	* *
225	* *		12.6	7.9	2.65	355.0	両輝石安山岩	* ・鮮新統
226	I G *		7.9	6.2	4.0	230.0	緑色凝灰岩	* ・中新統
227	Ⅱ G 4層		12.1	8.7	5.95	790.0	*	* *

No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地
228	Ⅱ H 2層		9.4	5.4	4.4	265.0	タ	タ
229	Ⅱ G 1層		9.5	8.0	5.5	320.0	両輝石安山岩(溶岩塊)	駒ヶ岳火山・第四系
230	Ⅱ I 2層		11.3	5.9	5.8	435.0	デイサイト	奥羽山地・中新統
231	Ⅱ H タ		10.8	7.4	5.8	640.0	花崗閃緑岩	仙人一夏油川・中生界
232	Ⅱ G 1層		13.1	11.2	6.95	1.2(kg)	両輝石安山岩	奥羽山地・鮮新統
233	Ⅱ H 4層		18.5	6.0	4.7	710.0	緑色凝灰岩	タ・中新統
234	タ 2層		15.7	8.3	3.8	590.0	タ	タ

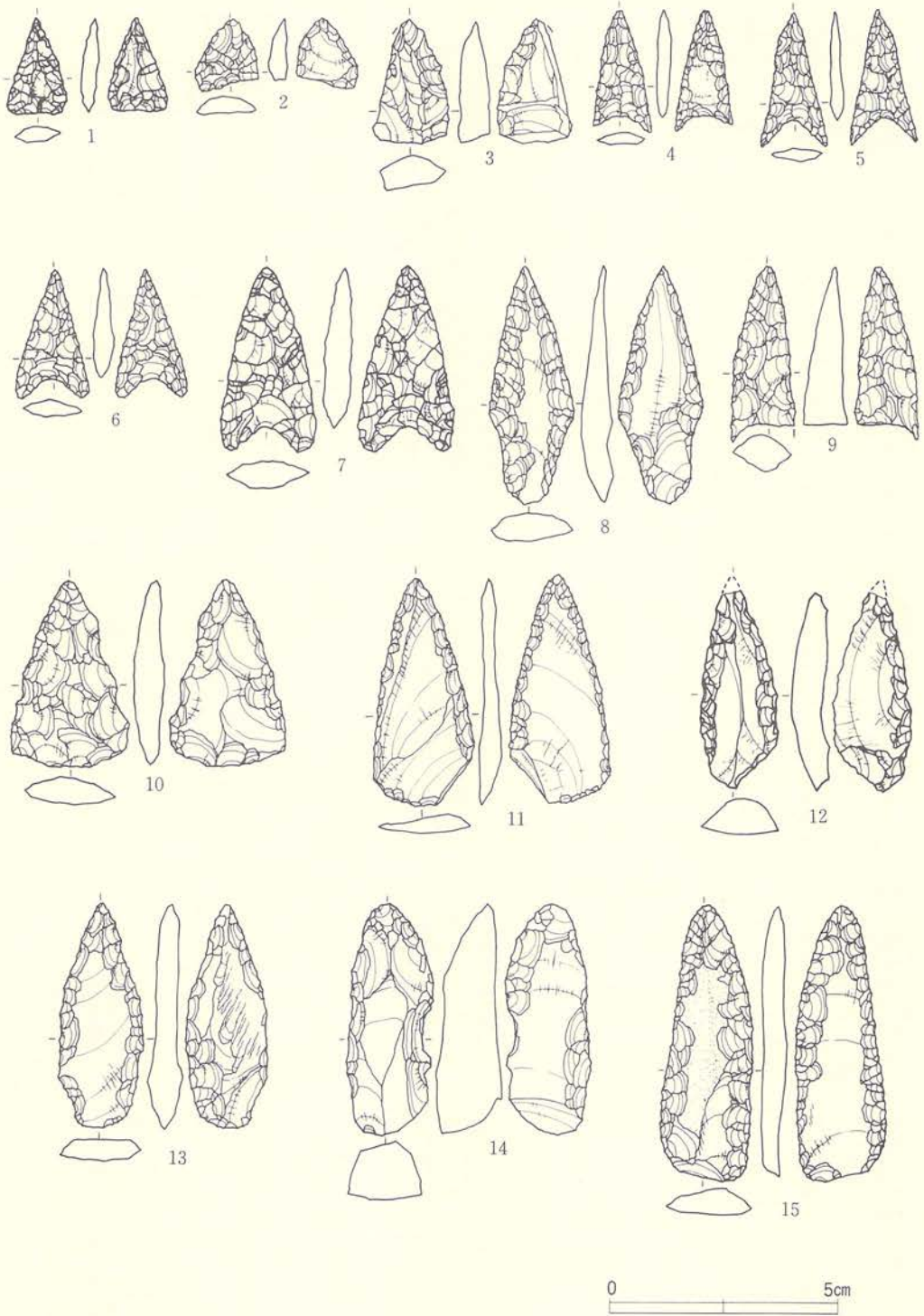
半円状偏平石器

235	Ⅱ G 4層		15.6	6.4	3.3	520.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
236	Ⅰ I 2層		30.8	12.0	7.8	3.32(kg)	デイサイト	タ タ
237	Ⅱ J 3層		13.0	6.2	2.65	300.0	緑色凝灰岩	タ タ
238	タ タ		11.3	5.4	2.6	210.0	タ	タ タ
239	Ⅱ G 4層		12.6	7.0	3.7	520.0	タ	タ タ
240	Ⅱ H 2層		9.65	7.7	3.3	180.0	両輝石安山岩	タ・鮮新統
241	タ 2層最下部		8.2	4.85	2.2	135.0	ホルンフェルス	仙人一夏油川・古生界
242	Ⅱ I 2層		10.0	6.1	2.3	195.0	緑色凝灰岩質砂岩	奥羽山地・中新統
243	Ⅰ H タ		18.1	7.9	3.5	610.0	緑色凝灰岩	タ タ
244	Ⅱ H タ		14.1	8.9	3.0	525.0	タ	タ タ
245	Ⅱ J 2層		15.1	7.5	3.4	485.0	変質安山岩	奥羽山地・中新統
246	Ⅱ H タ		14.4	7.0	3.05	480.0	両輝石安山岩	タ・鮮新統
247	Ⅱ G 1層		13.7	6.65	3.55	395.5	緑色凝灰岩	タ・中新統
248	タ タ		15.0	7.1	4.0	660.0	緑色凝灰質砂岩	タ タ
249	Ⅱ B 2層下	石斧状の刃あり	15.3	5.9	2.9	405.0	輝石安山岩	夏油川・新第三系鮮新統
250	Ⅱ J 3層		7.7	4.6	2.5	120.5	緑色凝灰質砂岩	奥羽山地・中新統
251	Ⅱ G 2層		9.2	7.9	3.6	370.5	緑色凝灰岩	タ タ
252	Ⅱ H 2層最下部		17.6	6.7	4.7	830.0	タ	タ タ
253	Ⅰ F 2層		1.5	9.0	4.5	1.27(kg)	変質安山岩	タ タ
254	Ⅰ H 4層		20.0	9.95	5.5	1.38(kg)	デイサイト	タ タ
255	タ 2層		13.2	8.7	2.75	460.0	緑色凝灰質砂岩	タ タ
256	Ⅱ H 4層		14.0	8.6	3.0	550.0	タ	タ タ
257	Ⅱ I 2層		13.5	9.1	5.7	950.0	タ	タ タ
258	Ⅱ H タ		13.2	8.65	5.5	885.0	タ	タ タ
259	Ⅰ H タ		16.5	7.1	4.4	625.0	タ	タ タ
260	Ⅰ I 1層		21.4	7.5	4.9	915.0	タ	タ タ

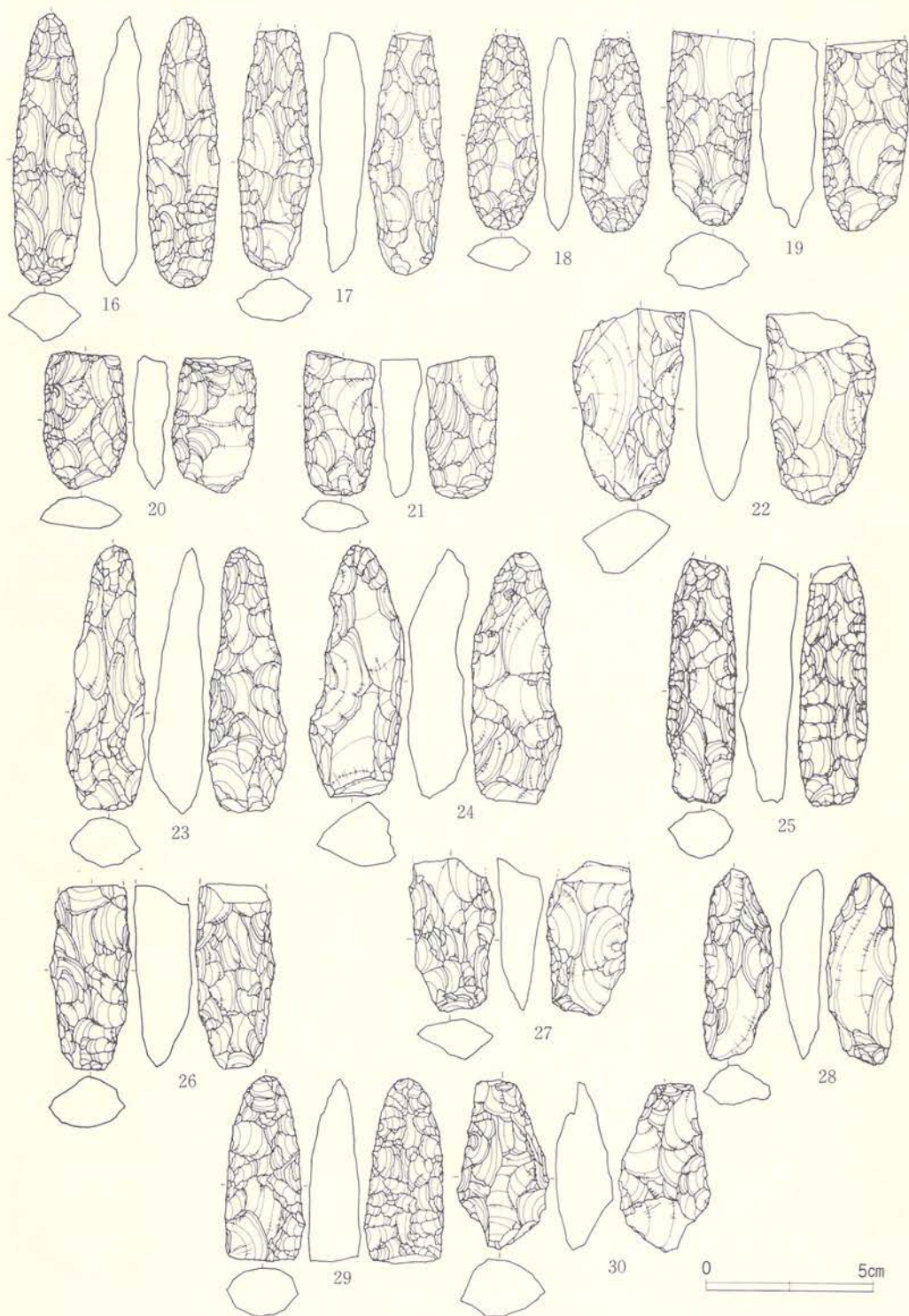
擦 石

261	Ⅰ G 2層		135	6.3	3.4	390.0	緑色凝灰質砂岩	奥羽山地・中新統
262	Ⅰ H タ		8.5	5.7	2.7	170.0	両輝石安山岩	タ・鮮新統
263	Ⅱ H 4層		9.7	8.8	3.6	415.5	緑色凝灰岩	タ・中新統
264	Ⅰ H 2層		8.9	5.1	2.9	185.5	緑色凝灰質砂岩	タ タ
265	タ タ		9.4	6.3	4.4	320.0	両輝石安山岩	タ・鮮新統
266	Ⅱ G タ		10.1	6.0	3.0	245.0	緑色凝灰岩	タ・中新統
267	Ⅱ H 4層		12.6	10.1	5.85	1.08(kg)	両輝石安山岩	タ・鮮新統
268	Ⅰ I 2層		12.6	9.3	5.3	900.0	花崗閃緑岩	仙人一夏油川・中生界
269	タ タ		12.3	10.4	7.3	1.4(kg)	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
270	Ⅱ G 攪乱		13.9	9.6	5.4	1.1(kg)	両輝石安山岩	タ タ
271	Ⅰ H 2層		12.8	9.15	6.3	780.0	タ	タ・鮮新統
272	Ⅰ G 1層		9.8	6.2	3.85	360.0	タ	タ タ
273	Ⅱ G 3層		11.6	6.9	4.1	425.0	タ	タ タ

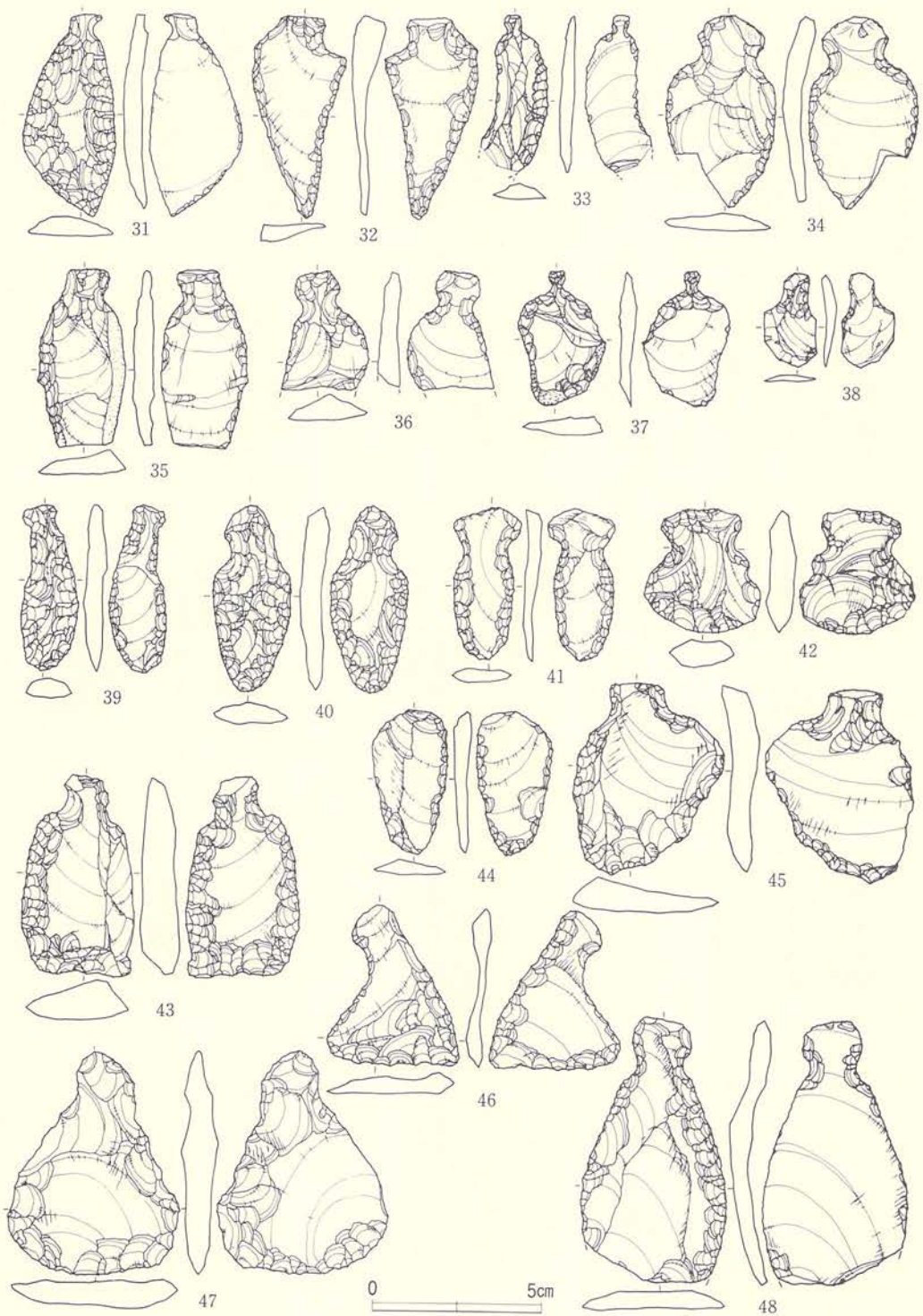
No.	出土区・層位	特徴・備考	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
274	ⅡH 2層		9.1	8.4	6.0	690.0	＊	＊
275	＊		12.5	7.3	4.9	660.0	花崗閃緑岩	仙人一夏油川・中生界
276	ⅡG 3層		16.0	6.9	4.4	810.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
277	ⅡI 2層(一括)		17.1	6.7	3.4	540.0	＊	＊
278	ⅡH 2層		6.6	6.2	2.0	95.0	両輝石安山岩	奥羽山地・鮮新統
279	ⅡG 4層		10.6	6.9	5.8	845.0	緑色凝灰岩	＊・中新統
280	ⅡI 2層		11.8	11.2	3.2	610.0	両輝石安山岩	＊・鮮新統
281	ⅡH 2層		11.3	10.3	5.2	480.0	デイサイト	＊・中新統
282	＊		8.0	5.7	2.5	140.0	緑色凝灰岩	仙人一夏油川・中生界
283	＊		10.9	8.1	3.5	500.0	花崗閃緑岩	＊
284	＊ 2層		6.4	4.6	1.25	46.3	細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
285	＊ 2層最下部		18.3	15.0	3.5	1.4kg	両輝石安山岩	＊・鮮新統
286	＊ 2層		10.7	9.1	5.7	780.0	＊	＊
287	ⅡI 1層		13.6	6.5	2.8	410.0	緑色凝灰岩	＊・中新統
288	ⅠH 1層		15.3	6.1	2.6	390.0	＊	＊
289	ⅡH 1層		7.6	5.95	2.25	120.	＊	＊
290	＊		8.6	5.0	3.1	160.0	＊	＊
291	ⅠH 1層		10.3	4.4	1.8	105.0	細粒凝灰岩	＊
292	ⅡH 1層		10.4	4.9	3.0	235.0	緑色凝灰岩	＊
293	＊ 4層		10.3	6.0	4.2	335.0	両輝石安山岩	＊・鮮新統
294	＊ 2層最下部		11.6	8.1	5.4	760.0	＊	＊
295	ⅡG 4層		15.1	8.3	3.15	600.0	両輝石安山岩	奥羽山地・鮮新統
296	ⅡG 2層		15.1	8.3	3.8	550.0	デイサイト	＊・中新統
297	＊		14.0	7.4	3.0	455.0	両輝石安山岩	＊・鮮新統
敲石								
298	ⅡH 4層		8.3	4.7	2.85	165.0	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
299	＊ 2層		7.1	4.15	2.0	75.5	＊	＊
300	＊		5.8	2.4	1.2	25.6	＊	＊
301	＊		5.2	4.7	1.6	49.0	＊	＊
302	＊		10.2	8.5	3.4	375.5	玉髓	産地・時代不詳
303	ⅡG 2層		12.2	7.0	2.7	290.5	緑色凝灰岩	奥羽山地・中新統
304	ⅡH 2層		12.3	5.6	2.8	275.0	＊	＊
305	＊ 4層		10.5	6.7	2.7	265.5	＊	＊
306	＊ 2層		14.7	8.2	3.5	610.0	＊	＊
307	＊ 4層		15.2	9.6	5.7	1.2kg	＊	＊
308	ⅠF 1層		17.5	7.3	3.3	570.0	＊	＊
石皿								
309	ⅡJ 3層		8.3	9.8	3.65	815.0	両輝石安山岩	奥羽山地・中新統
310	ⅡG 4層下		11.1	9.1	5.4		デイサイト	＊
311	ⅡJ 3層		24.8	25.6	6.4		緑色凝灰岩	＊
312	ⅡH 2層		38.2	30.7	11.2		両輝石安山岩	＊・鮮新統
313	ⅠH 1層		18.5	11.7	5.9		＊	＊・中新統
314	ⅡI 1層		38.0	22.6	12.0		＊	＊・鮮新統
315	ⅠH 1層		20.6	15.6	7.6		＊	＊
石刀・石棒								
316	ⅡH 2層		10.55	3.0	1.0	42.7	粘板岩	仙人・古生界
317	＊ 4層		7.85	4.5	1.0	48.8	ホルンフェルス	仙人一夏油川・＊
318	＊		14.2	4.9	2.0	150.0	＊	＊
319	ⅡG 1層		14.8	12.0	9.6	2.5kg	デイサイト	奥羽山地・中新統
320	ⅡH 2層		21.1	11.3	8.2	2.6kg	輝石安山岩	＊・鮮新統
その他								
321	ⅠJ 4層		14.65	8.45	3.75	420.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地・中新統
砥石								
322	ⅡI 4層		11.9	7.5	5.6	625.0	両輝石安山岩	奥羽山地・鮮新統
323	ⅠI 1層		8.15	3.8	3.05	150.0	デイサイト質凝灰岩	＊・中新統



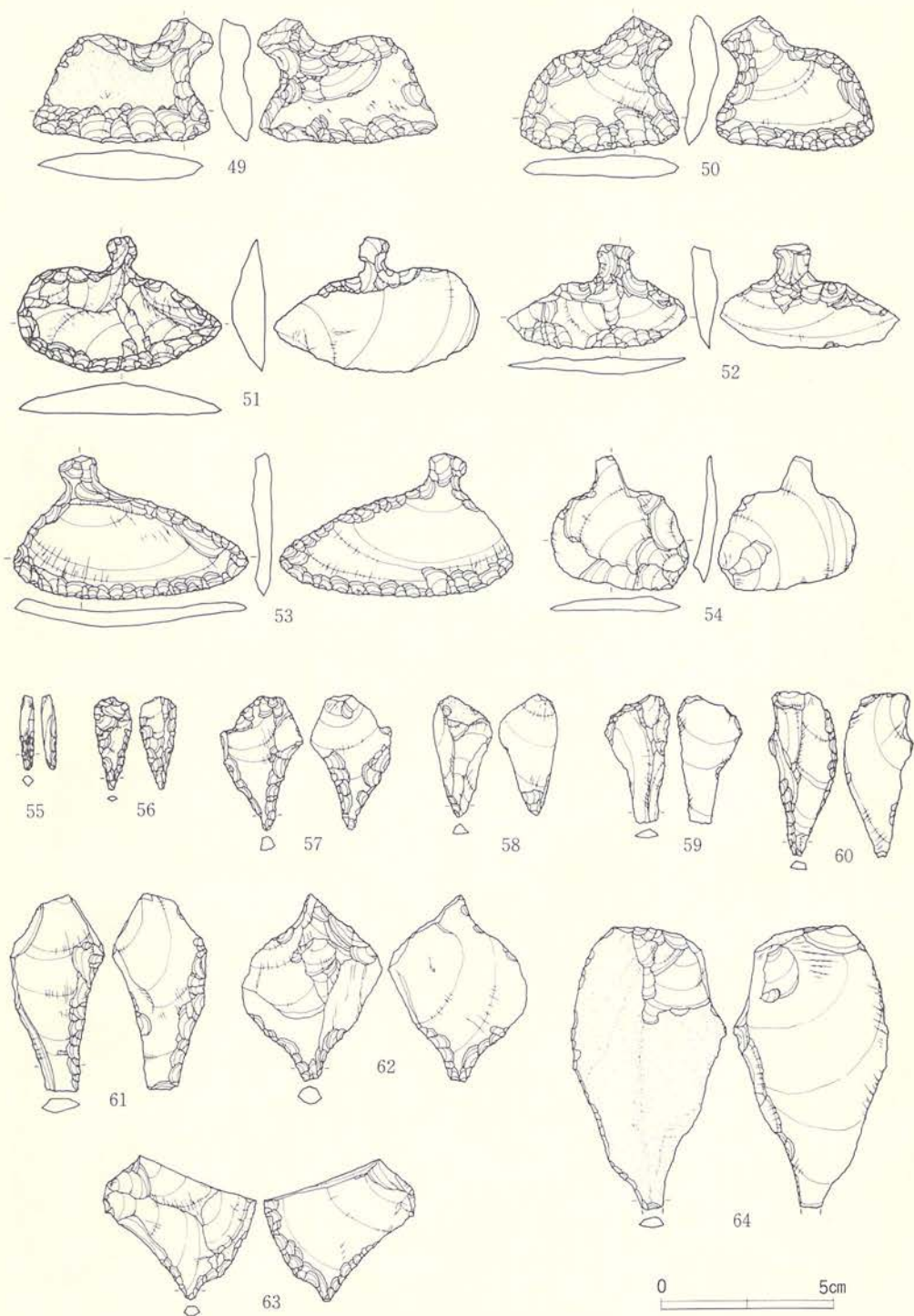
第155図 遺構外遺物：石器(1)



第156図 遺構外遺物：石器(2)



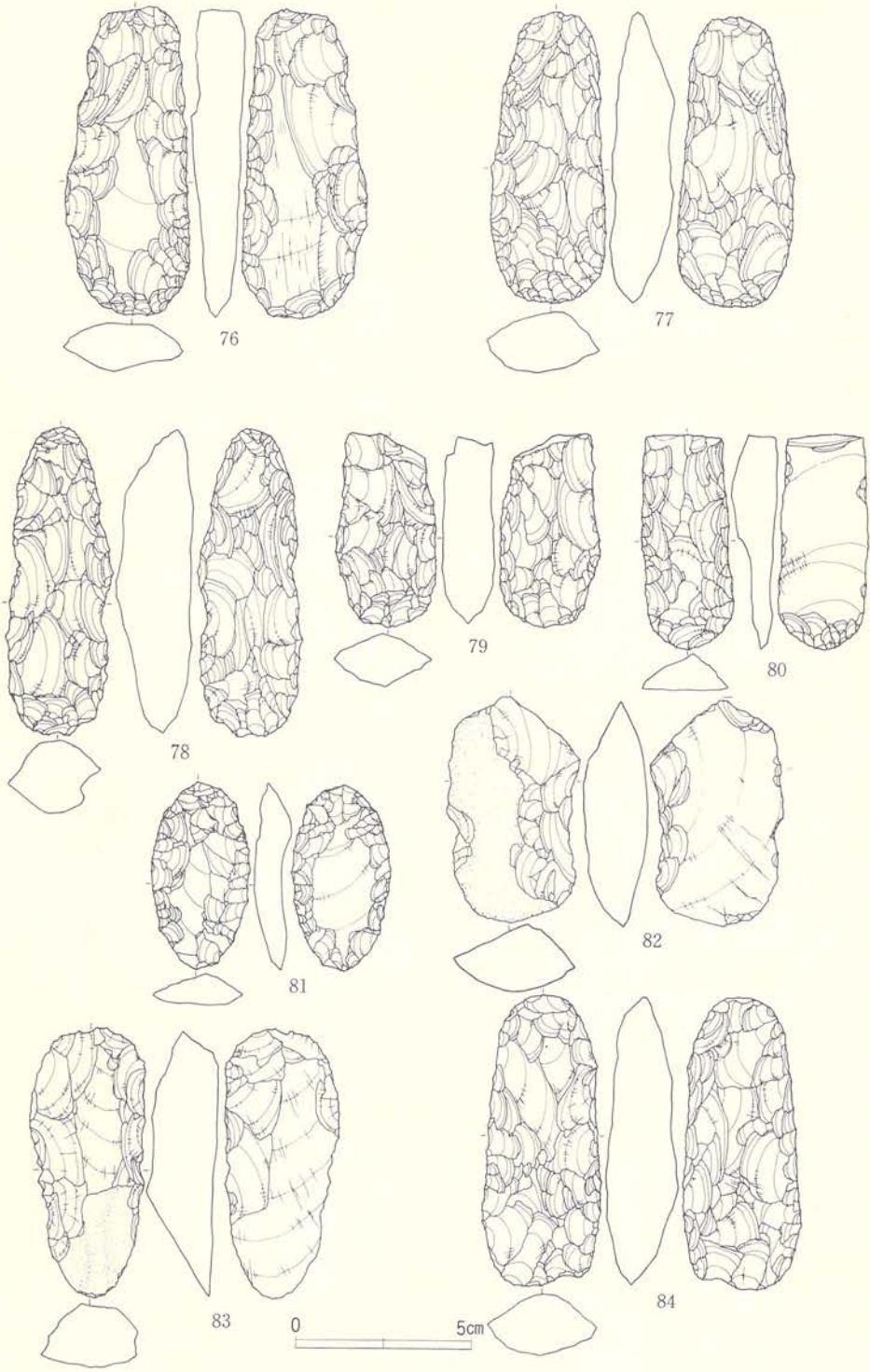
第157図 遺構外遺物：石器(3)



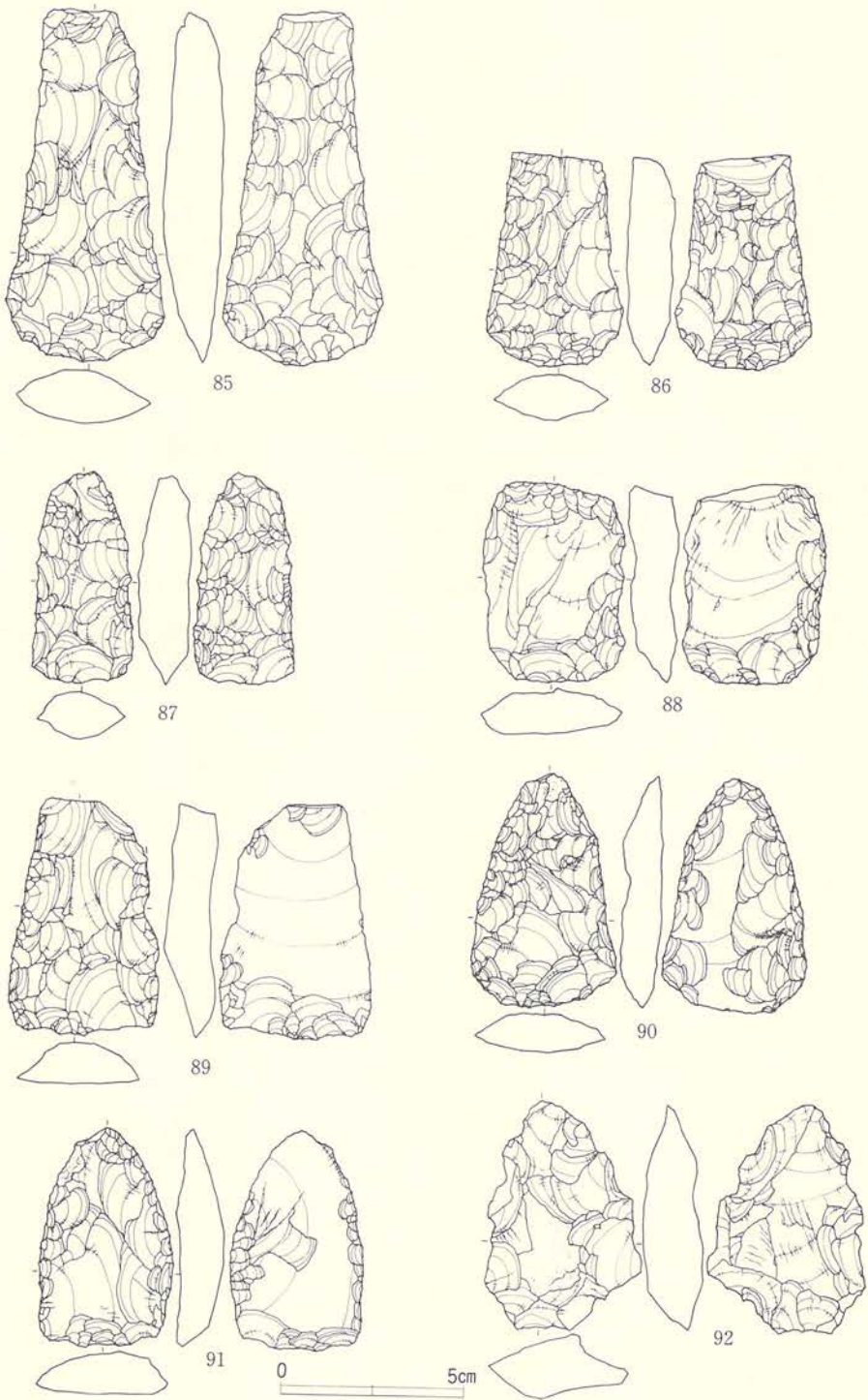
第158図 遺構外遺物：石器(4)



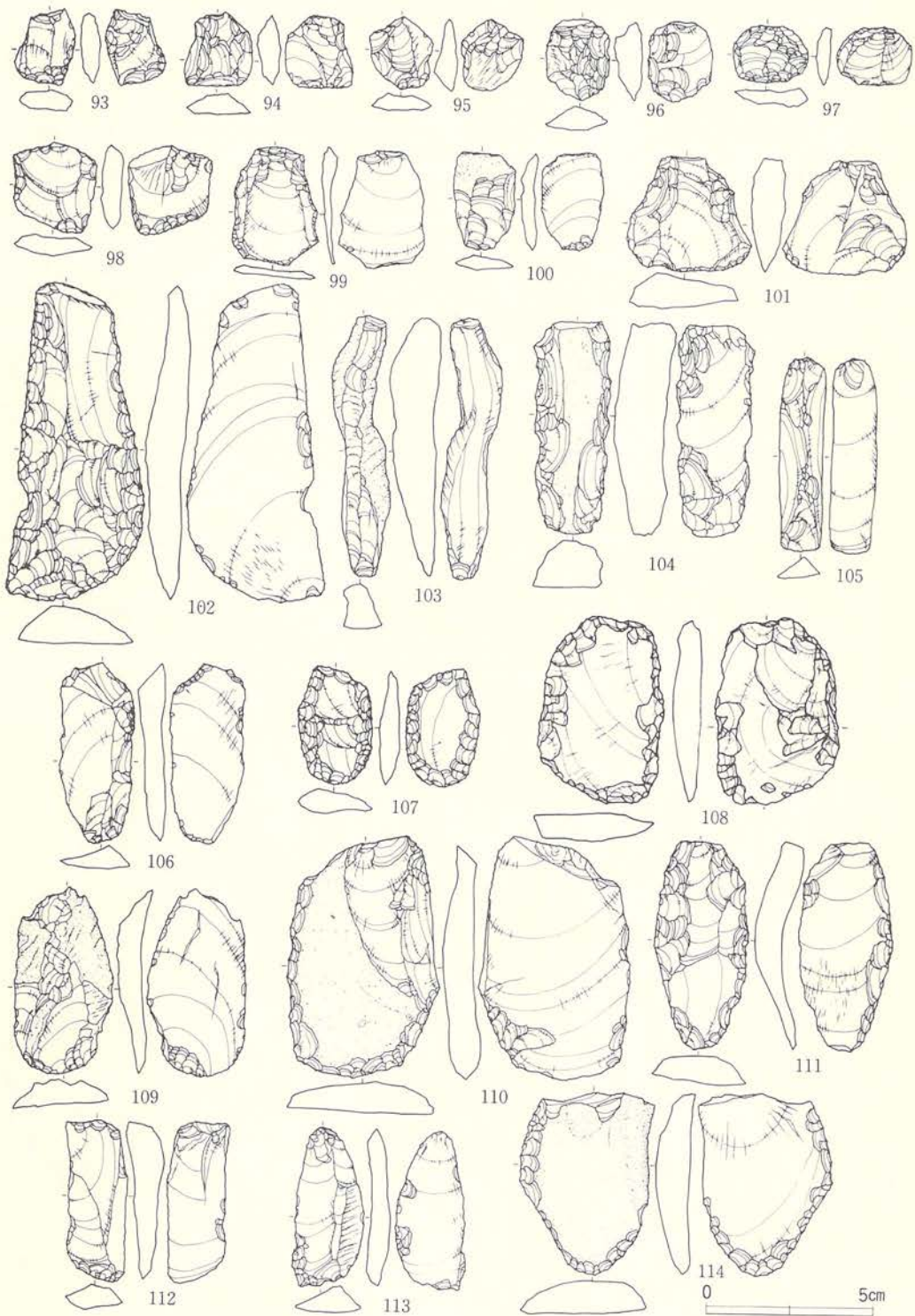
第159図 遺構外遺物：石器(5)



第160図 遺構外遺物：石器(6)



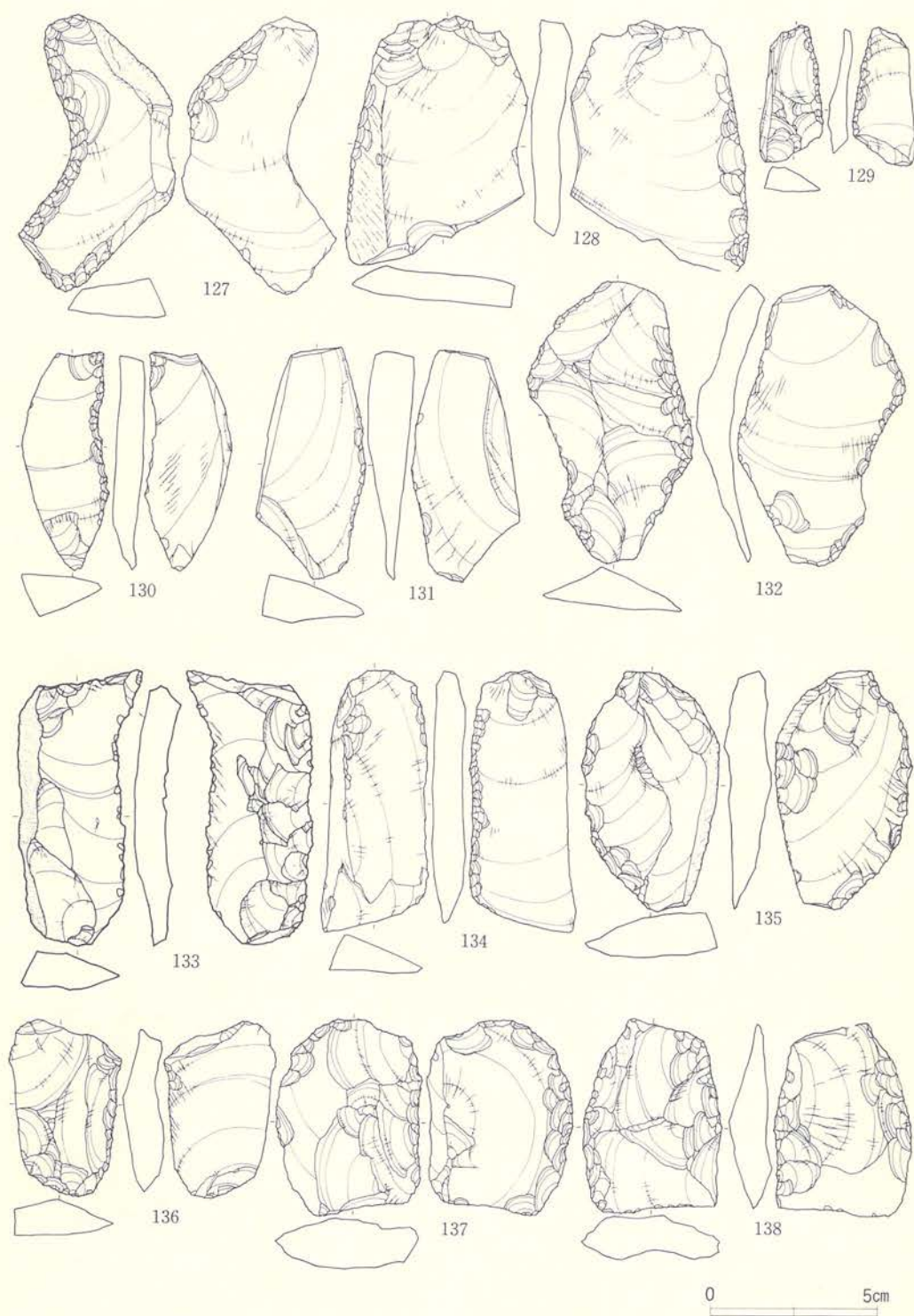
第161図 遺構外遺物：石器(7)



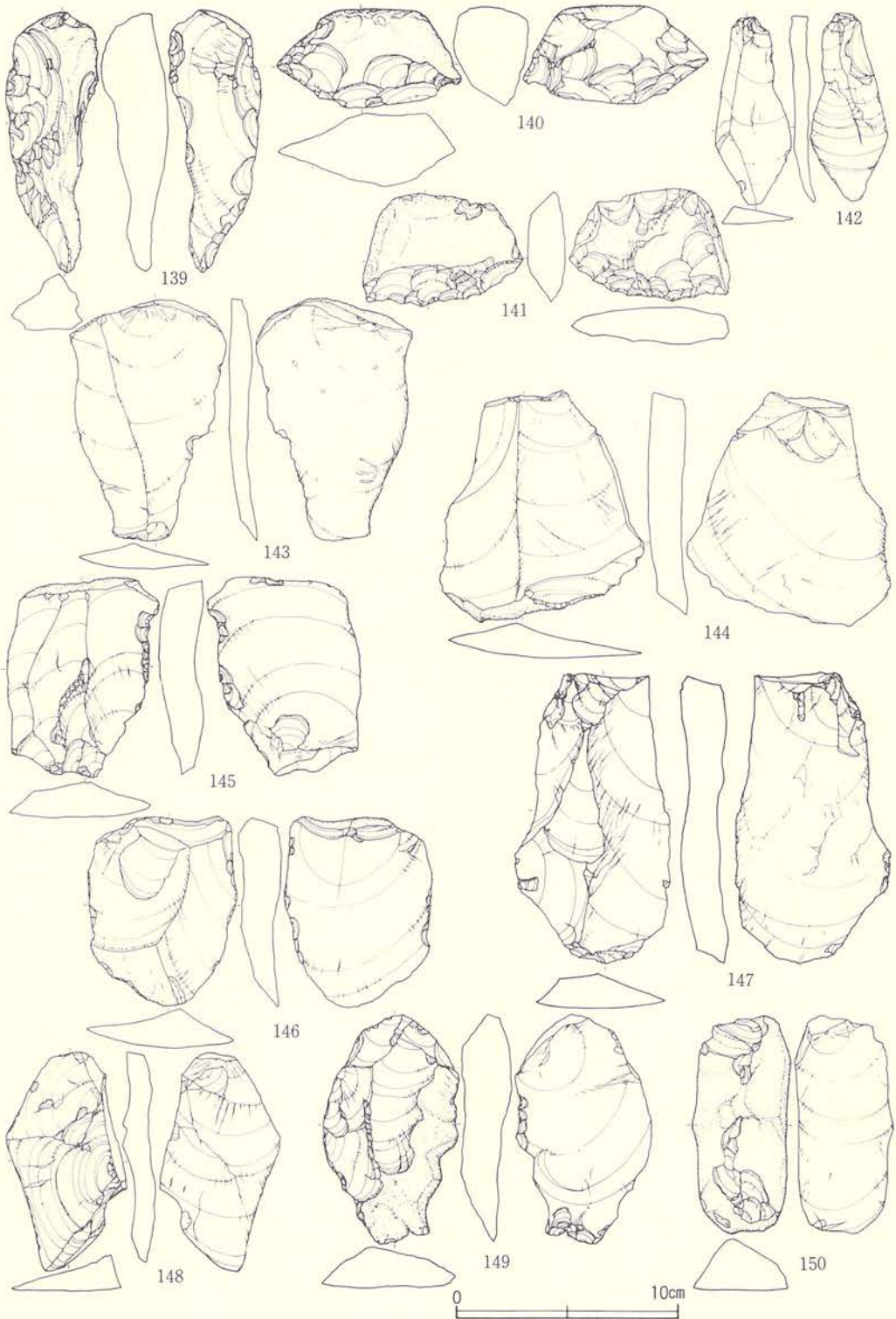
第162図 遺構外遺物：石器(8)



第163図 遺構外遺物：石器(9)



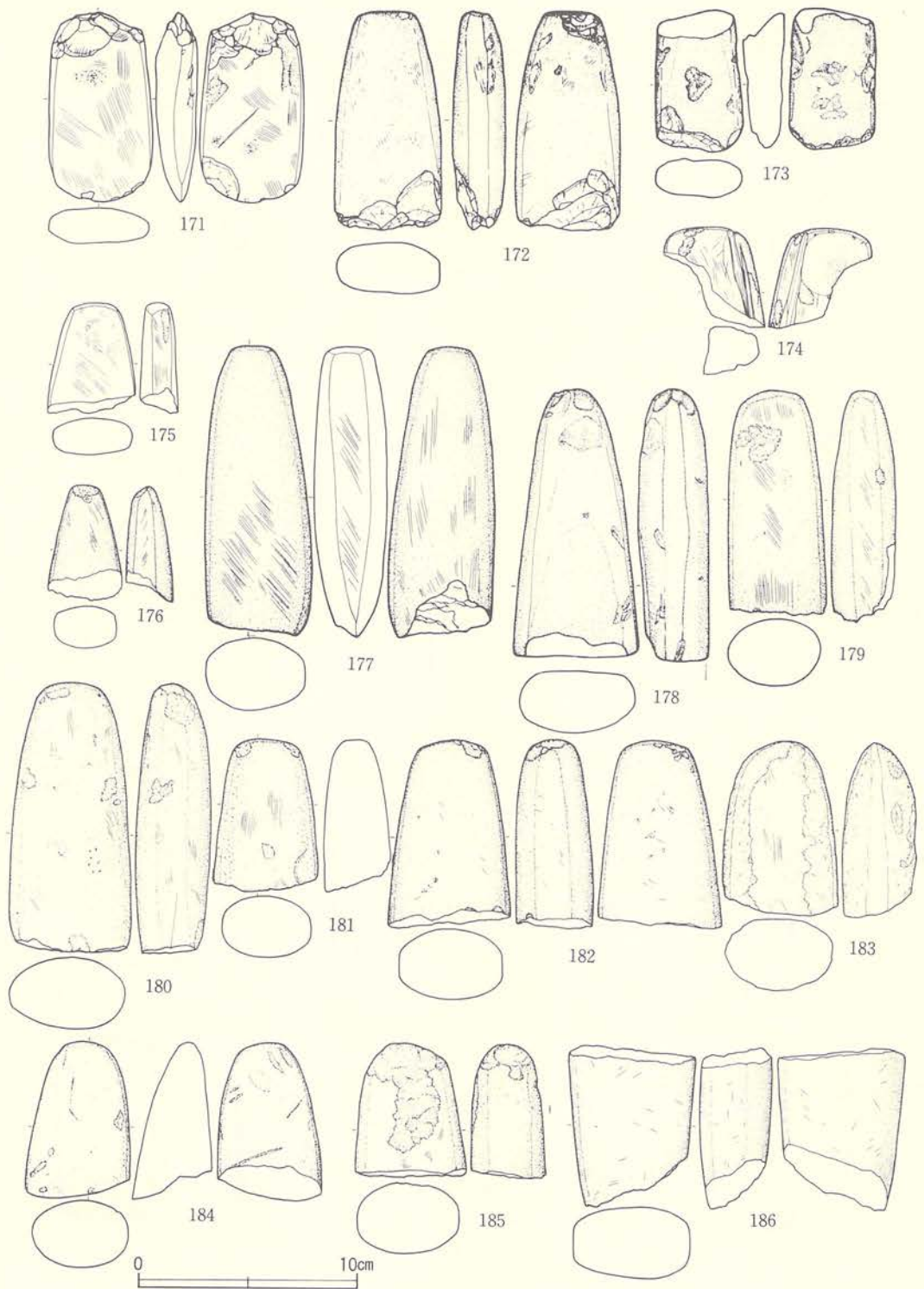
第164図 遺構外遺物：石器(10)



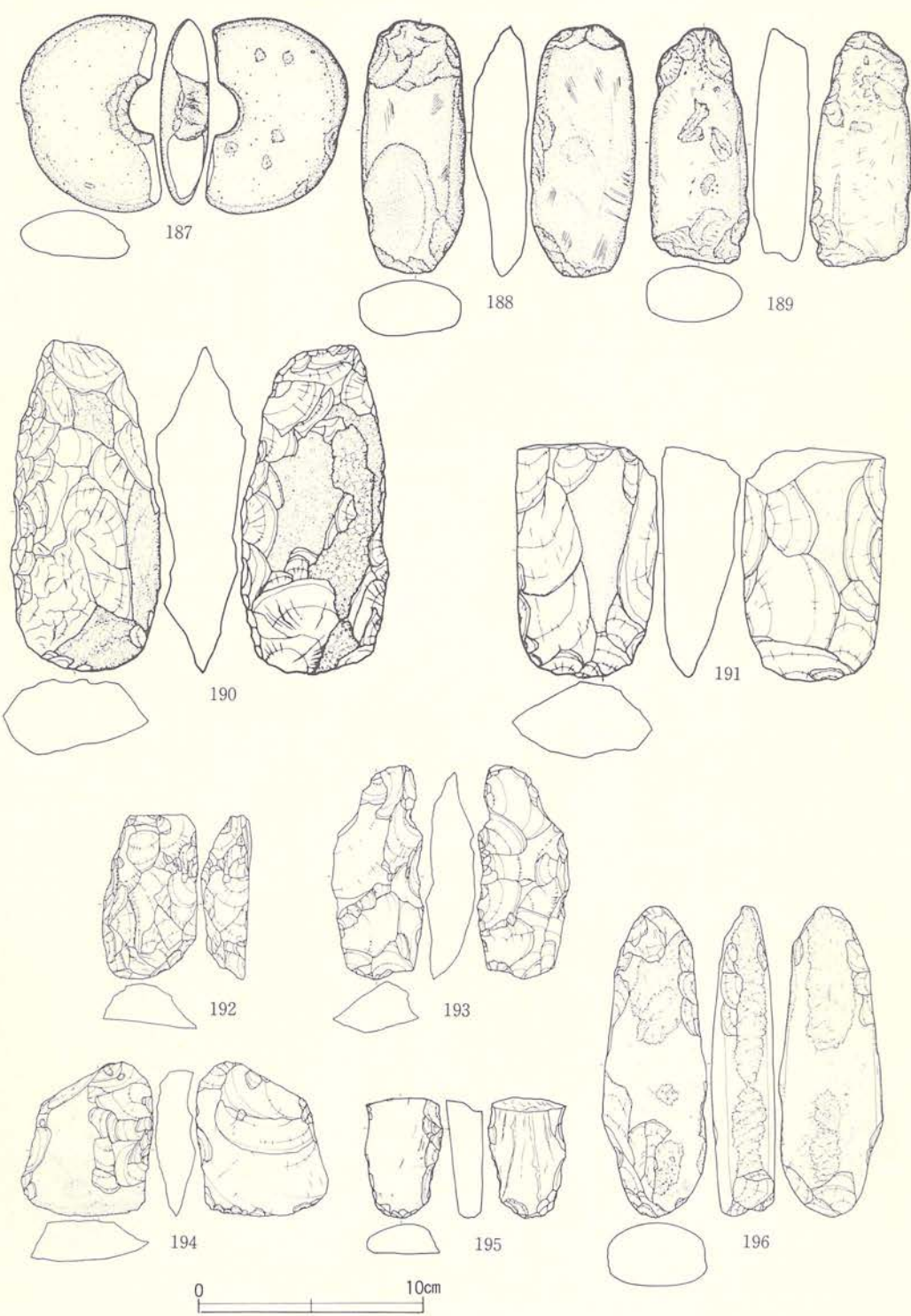
第165図 遺構外遺物：石器(11)



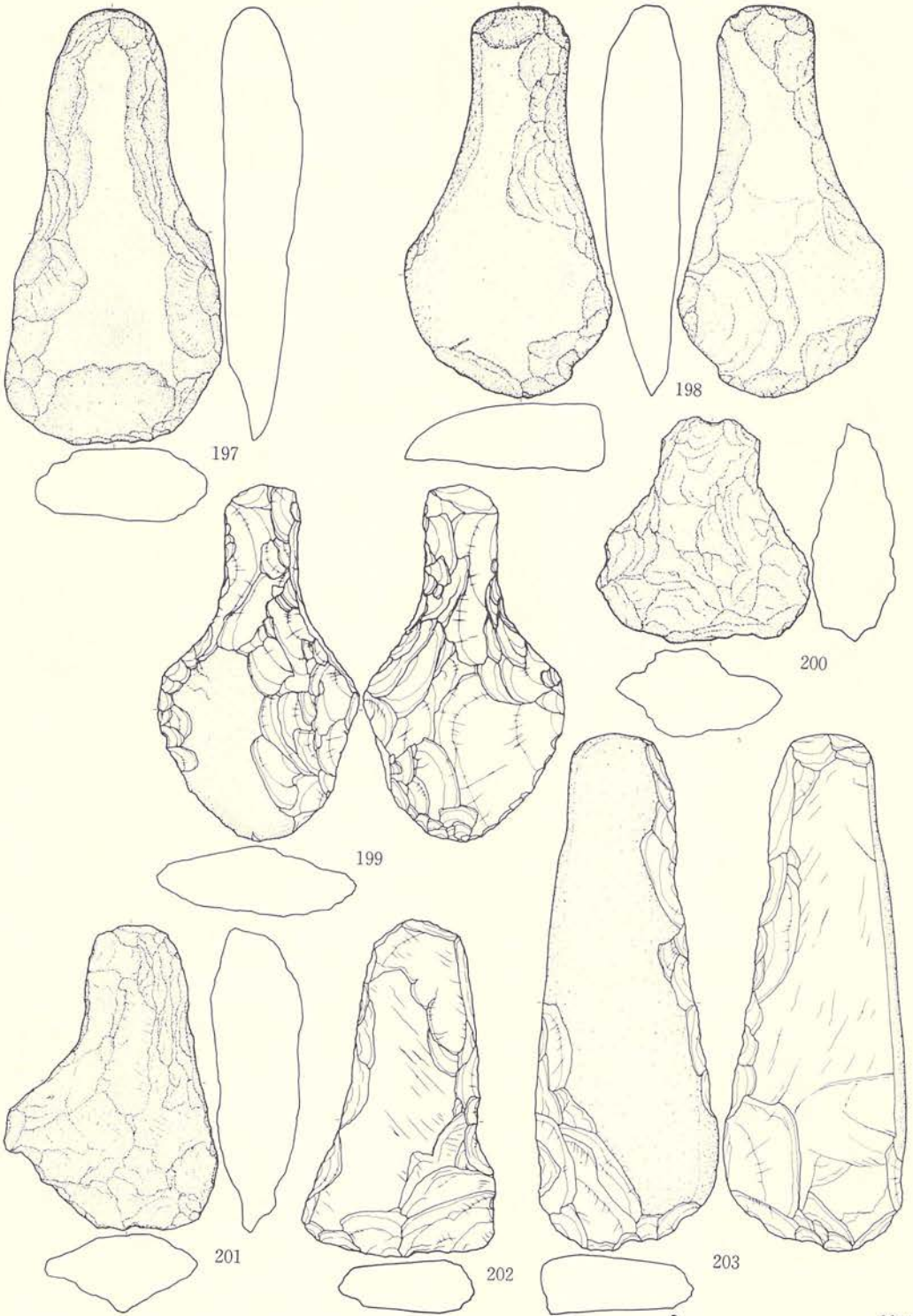
第166図 遺構外遺物：石器(12)



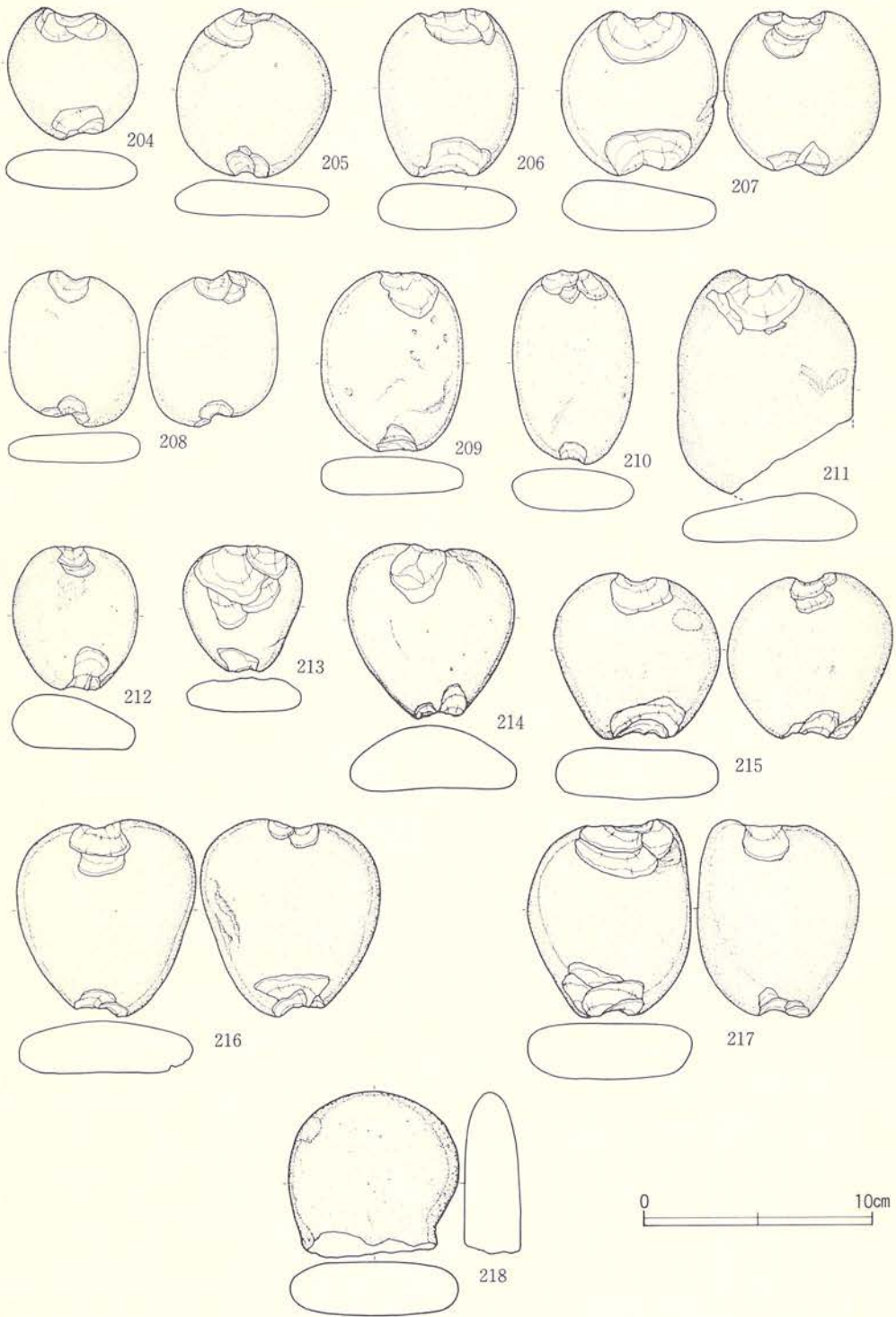
第167図 遺構外遺物：石器(13)



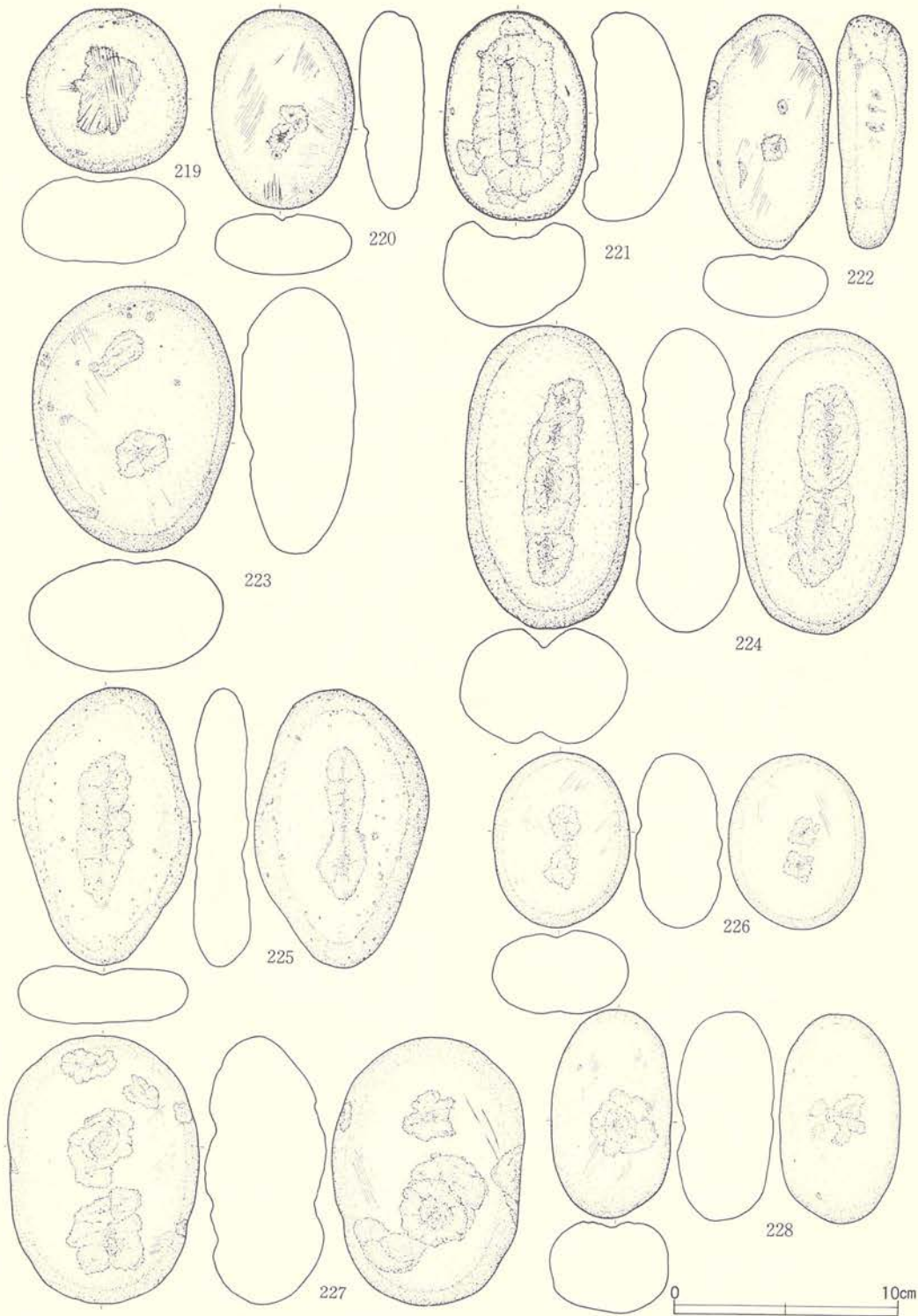
第168図 遺構外遺物：石器(14)



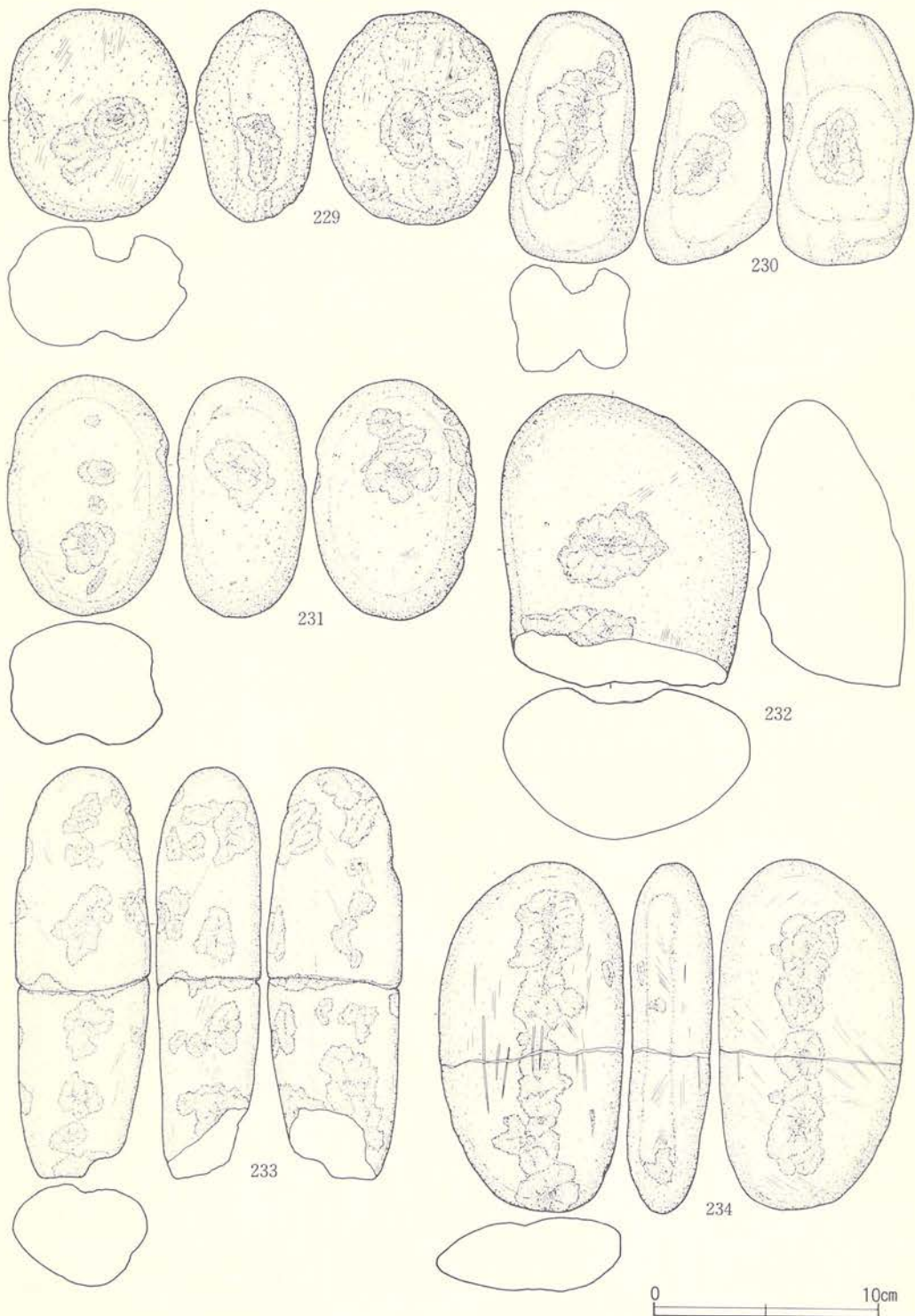
第169図 遺構外遺物：石器(15)



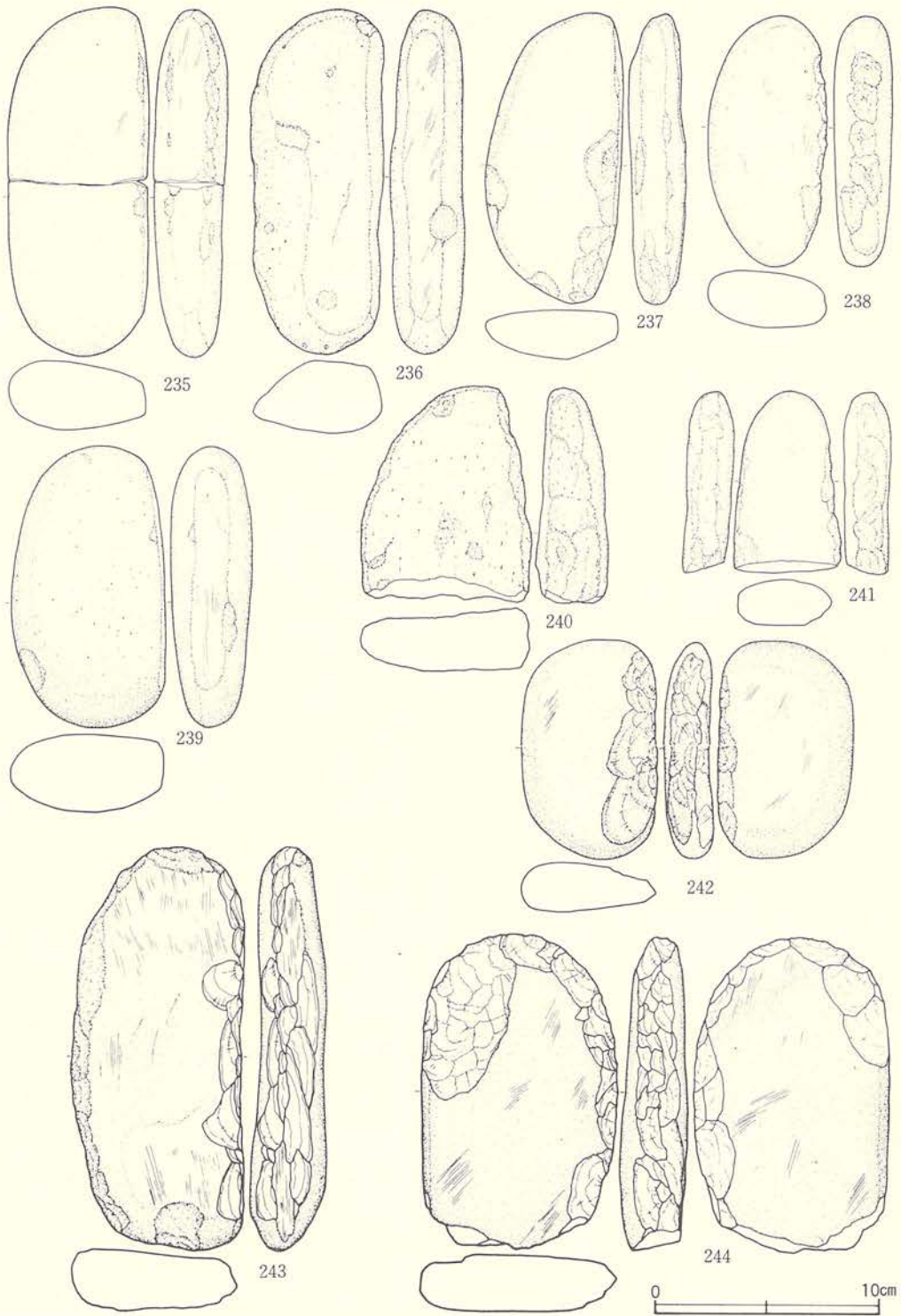
第170図 遺構外遺物：石器 (16)



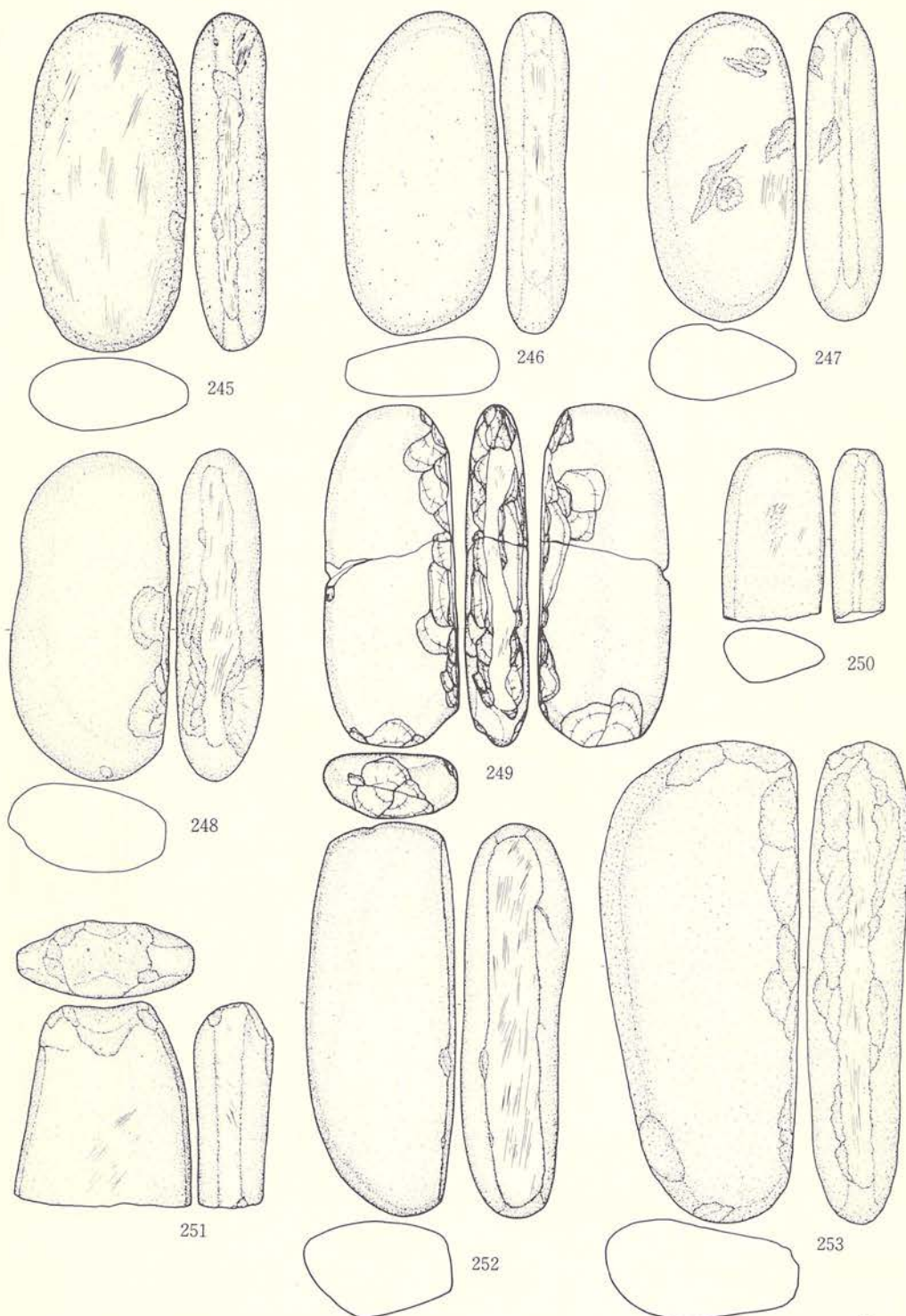
第171図 遺構外遺物：石器(17)



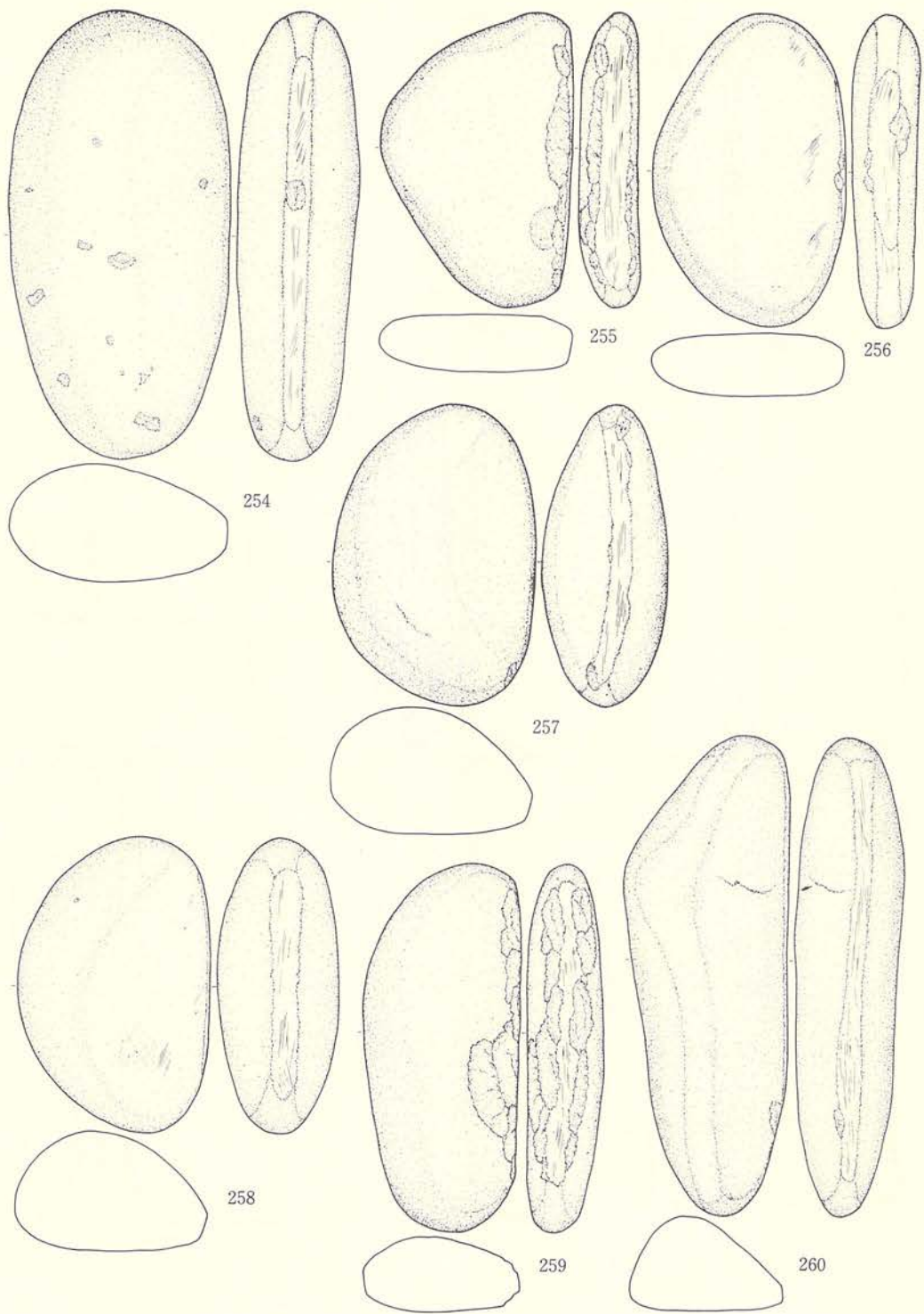
第172図 遺構外遺物：石器(18)



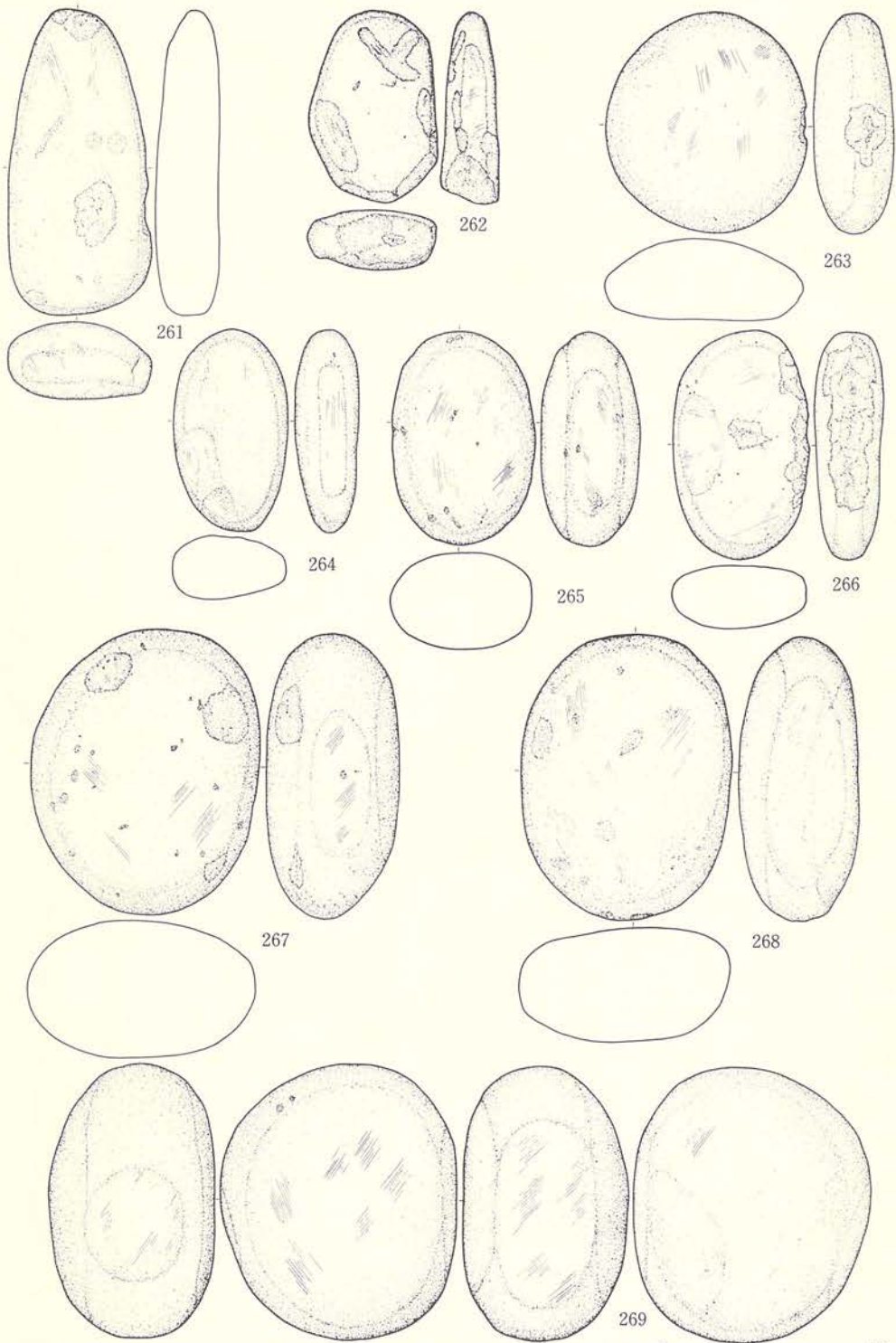
第173図 遺構外遺物：石器(19)



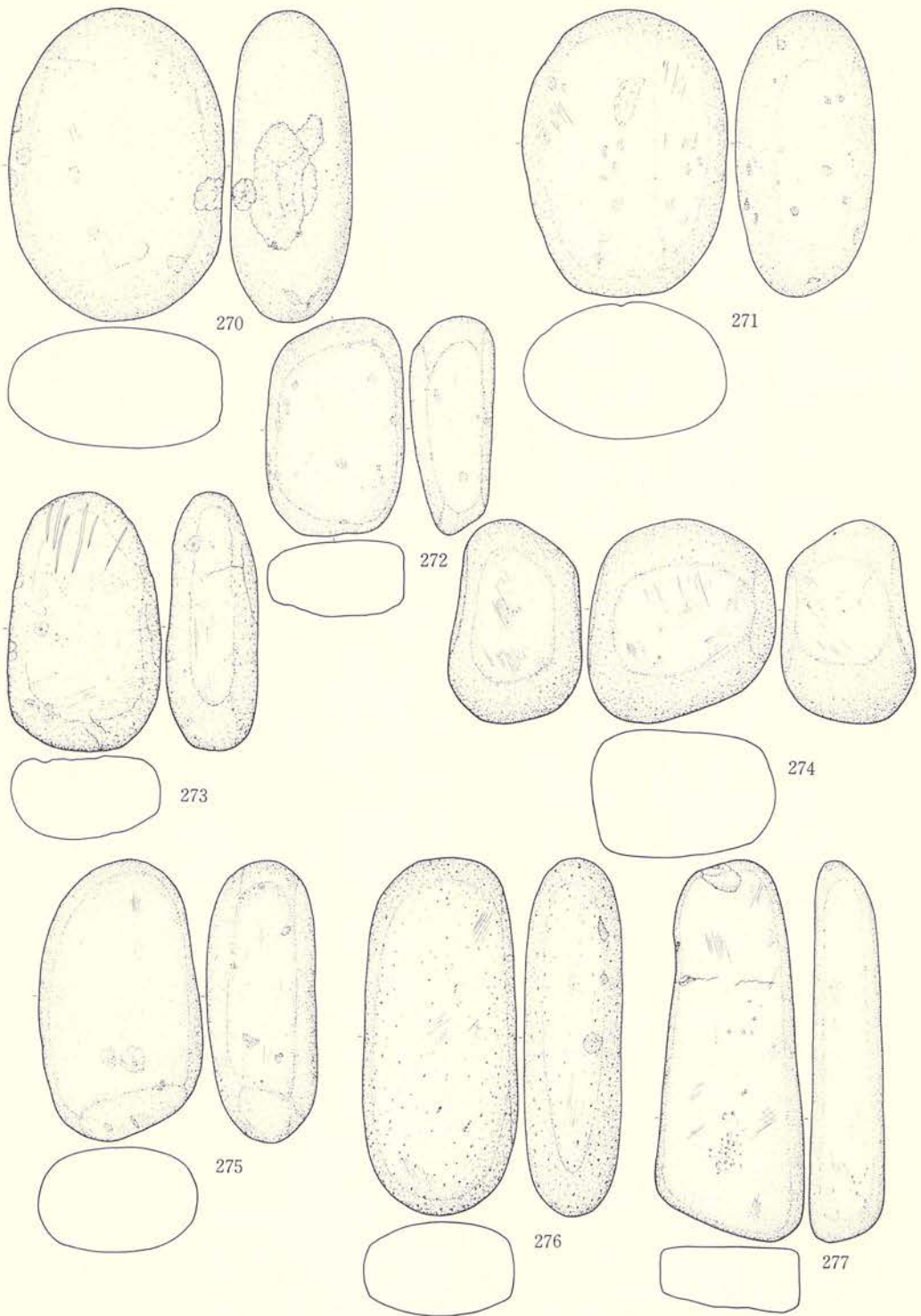
第174図 遺構外遺物：石器(20)



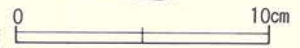
第175図 遺構外遺物：石器(21)

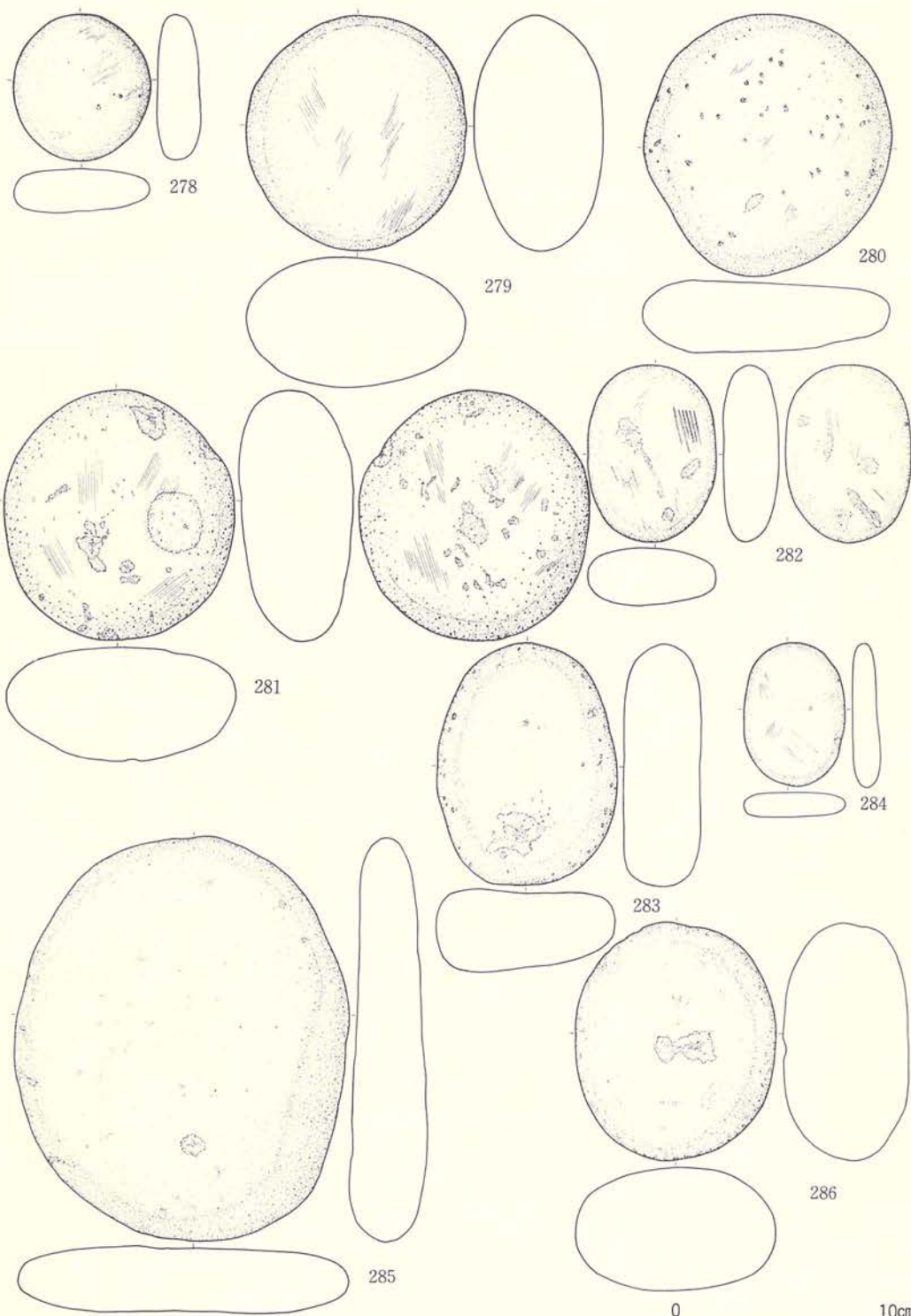


第176図 遺構外遺物：石器(22) 0 10cm



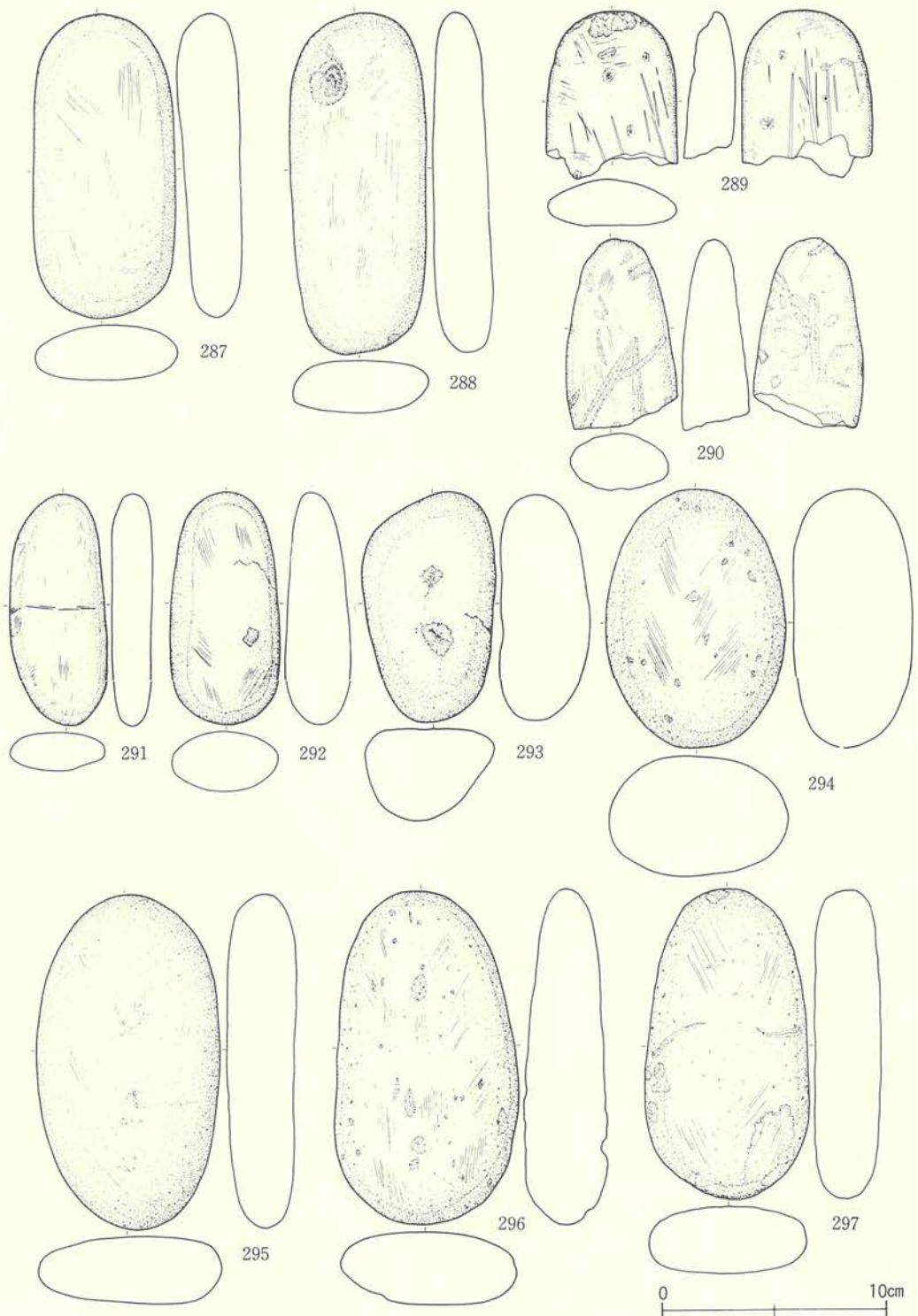
第177図 遺構外遺物：石器(23)



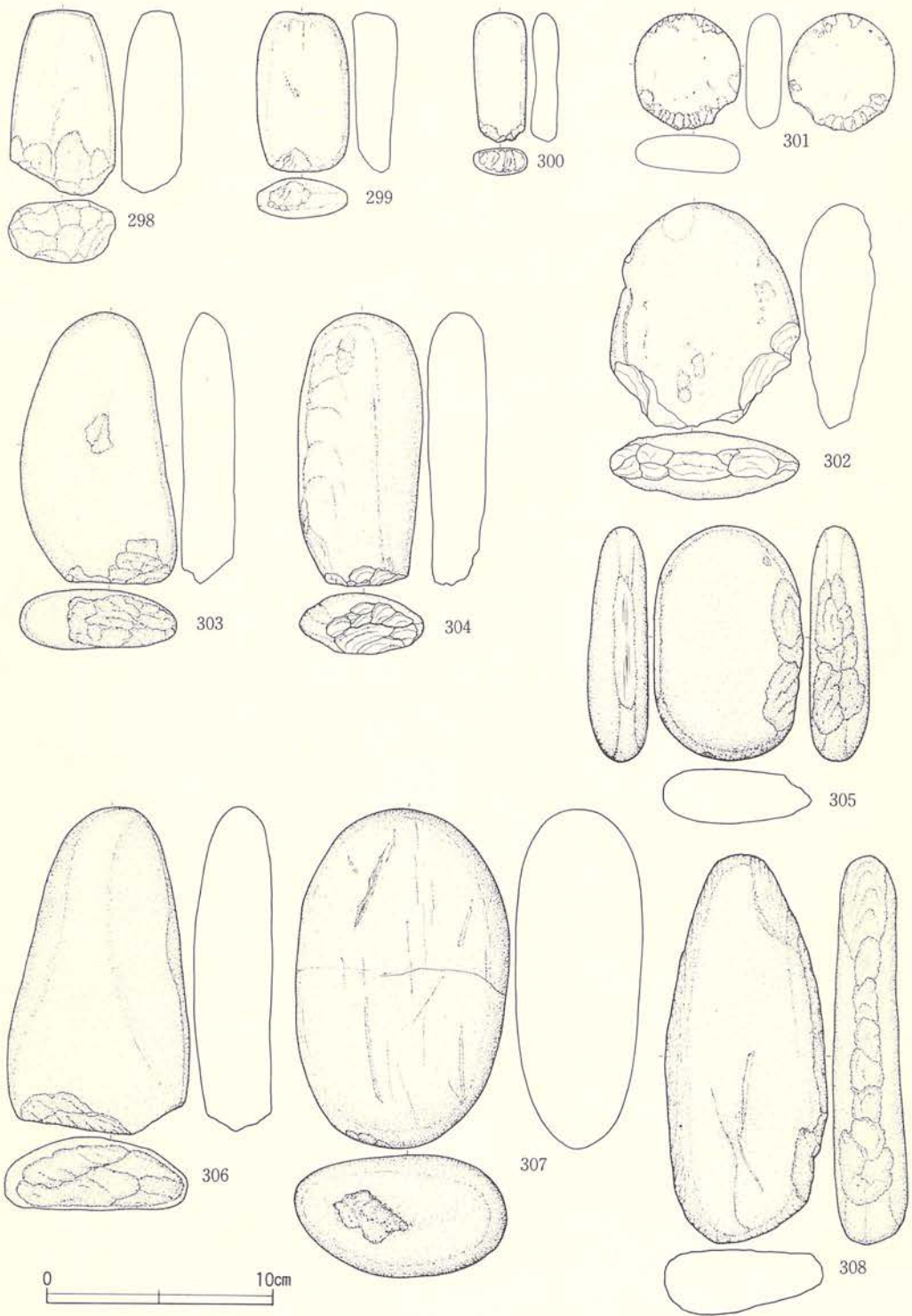


第178図 遺構外遺物：石器 (24)

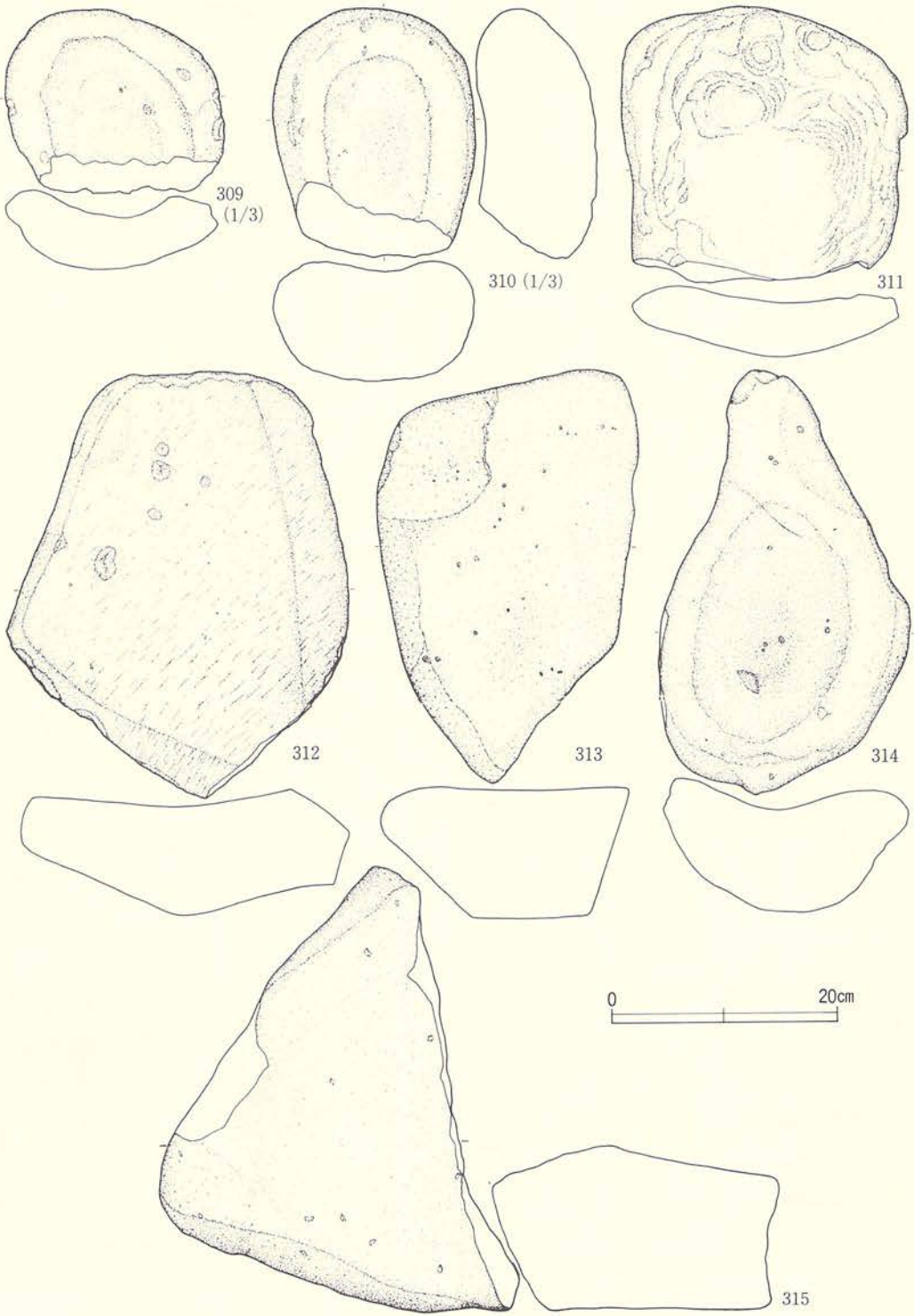
0 10cm



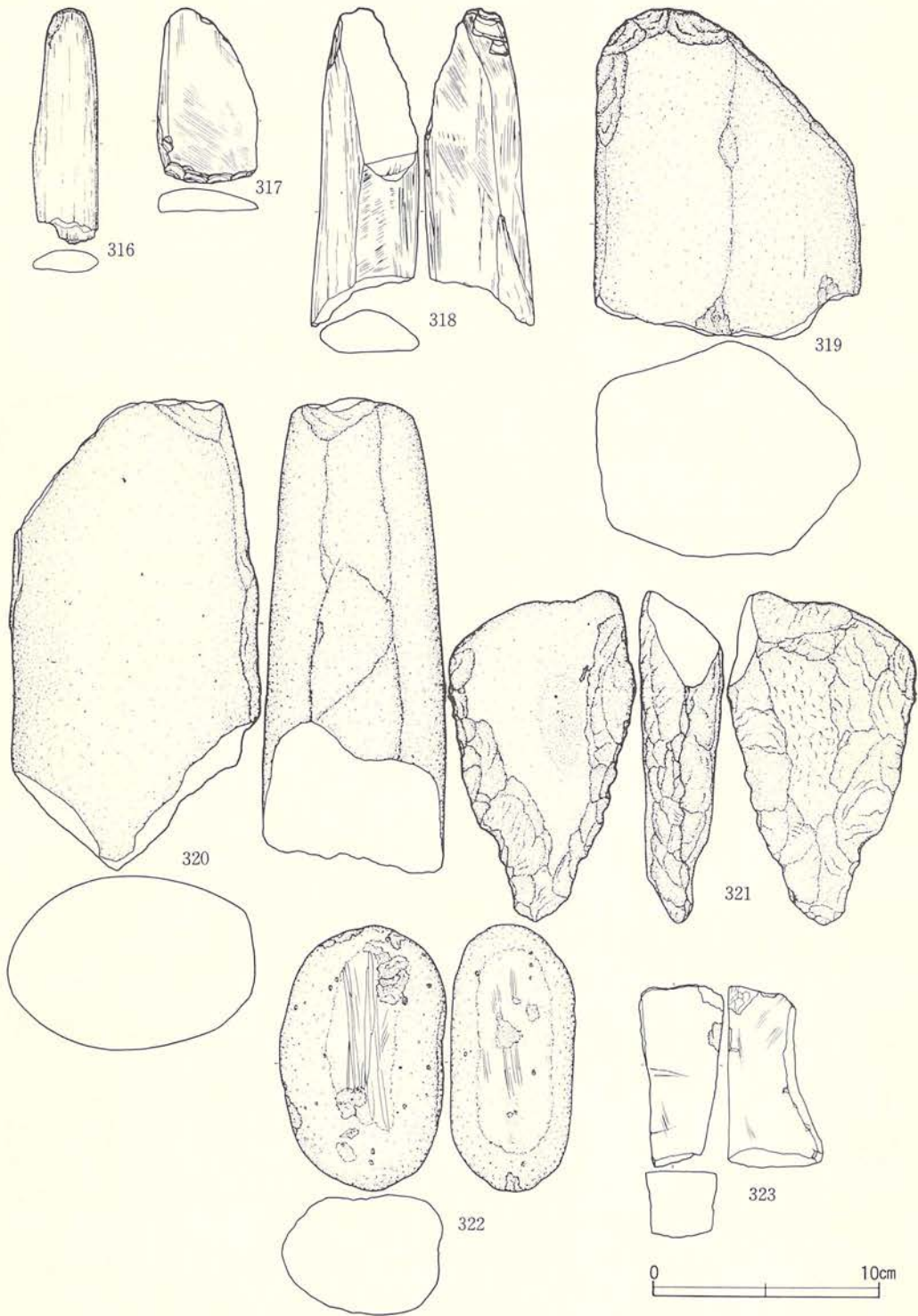
第179図 遺構外遺物：石器 (25)



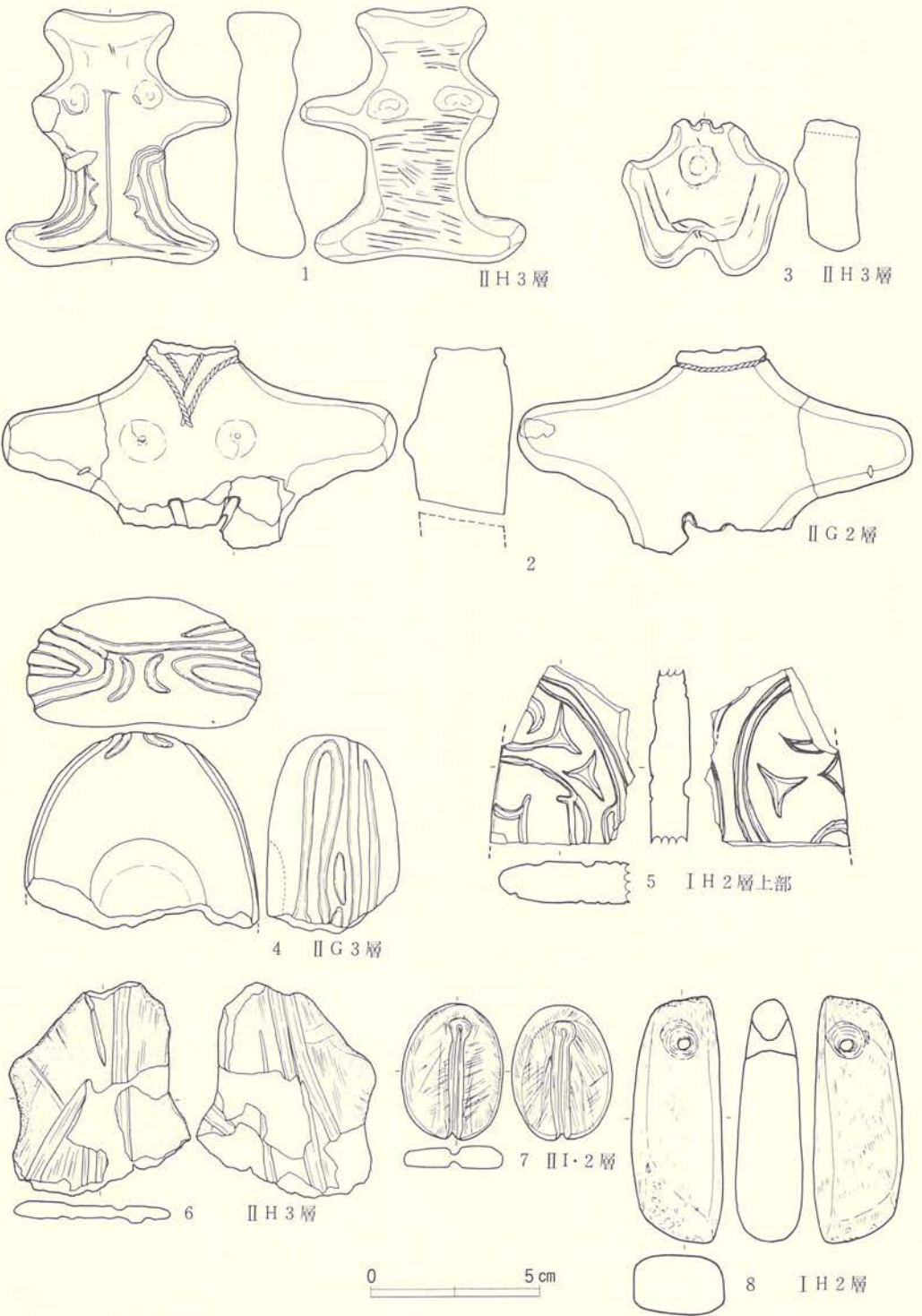
第180図 遺構外遺物：石器 (26)



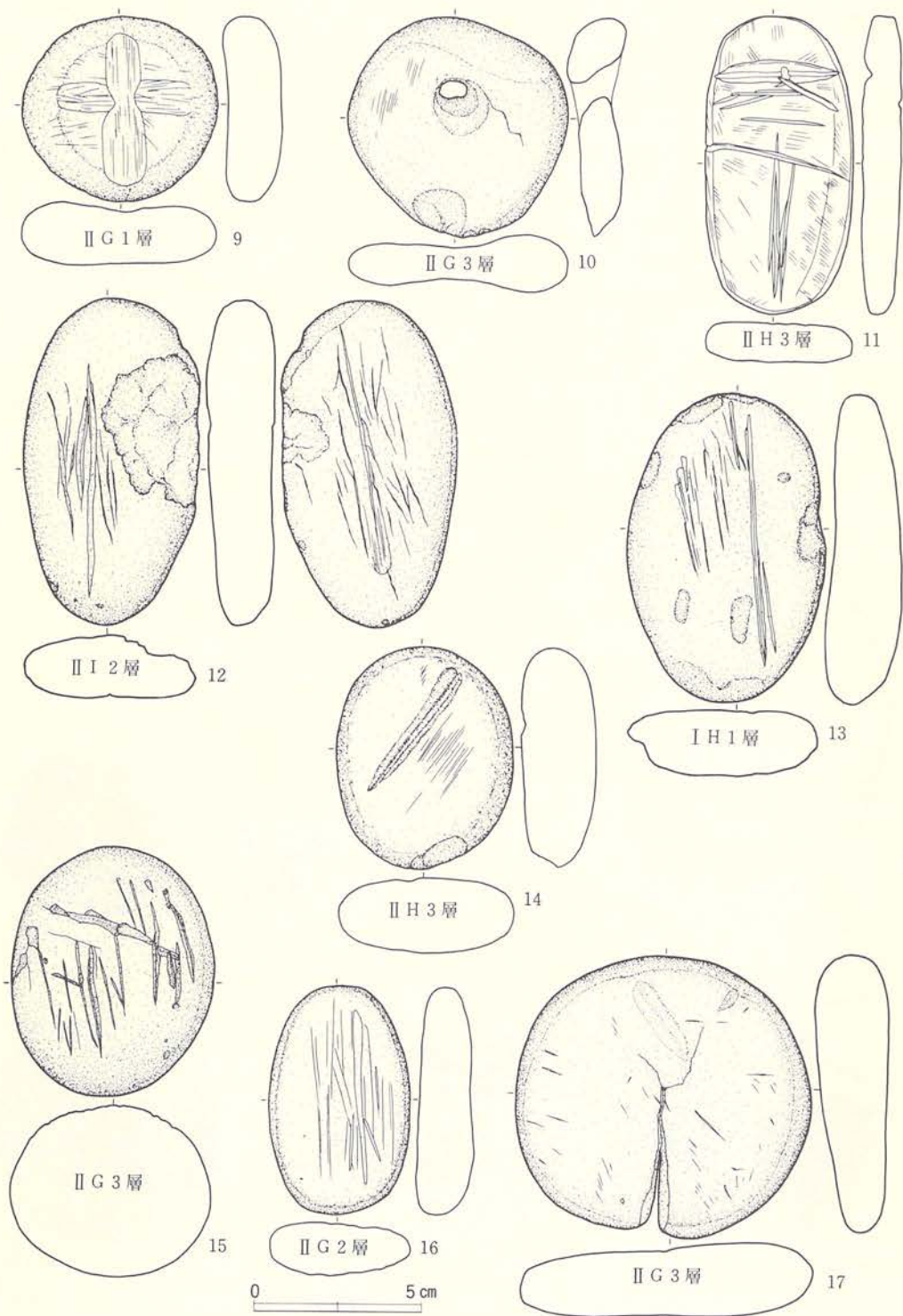
第181図 遺構外遺物：石器(27)



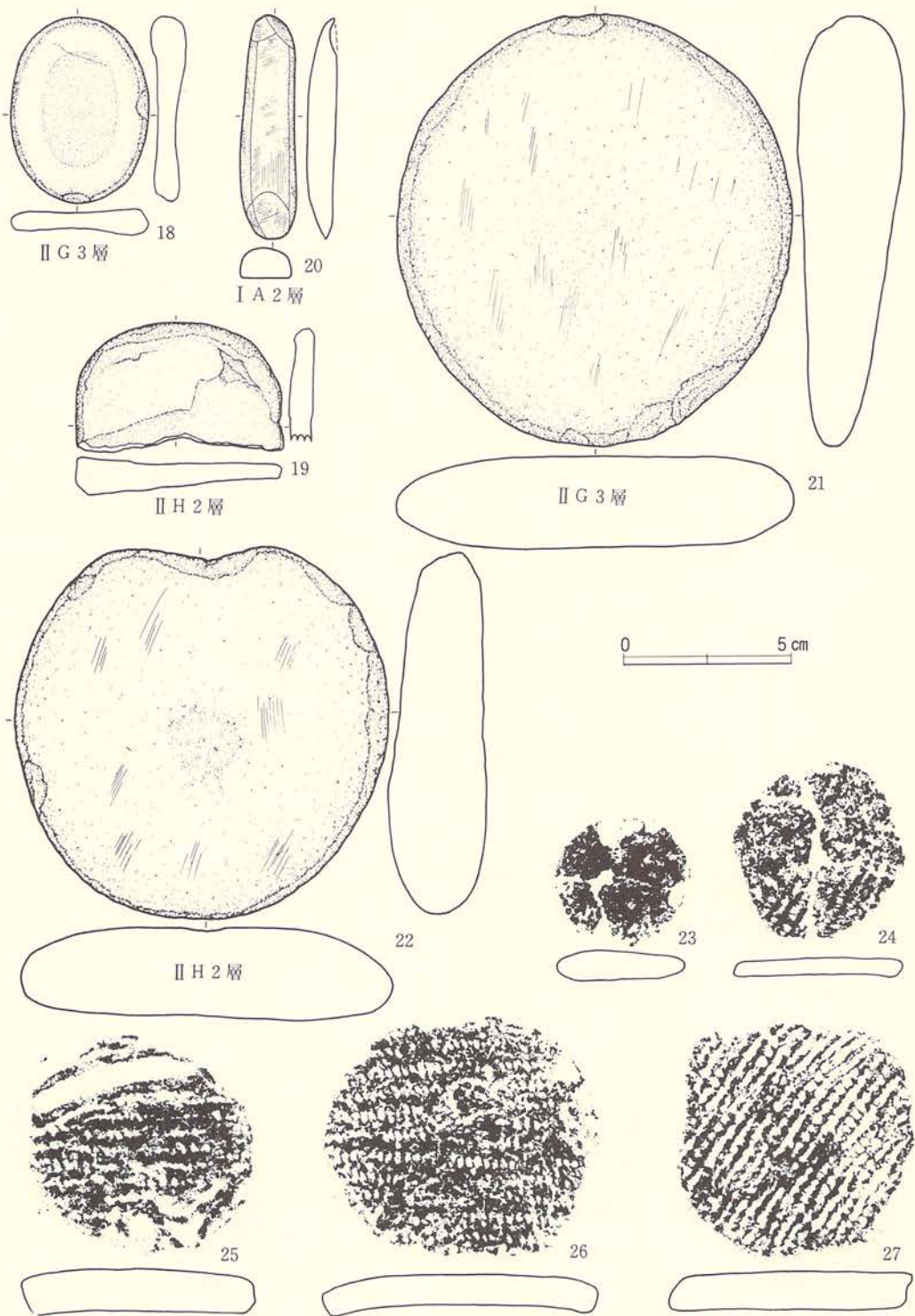
第182図 遺構外遺物：石器(28)



第183図 遺構外遺物：土・石製品(1)



第184図 遺構外遺物：土・石製品(2)



第185図 遺構外遺物：土・石製品(3)

あるが、周辺からは縄文時代中期に土器が多く出土している。

その外の石製品（第184・185図9～22、写真図版142・143）

溝や擦痕、打ち欠きのあるものを一括した。10は自然孔、17は溝を截っているが中央にひび割れが生じた未成品か。18、19は縁辺が高く、盆状となる。19にはタール状の物質が付着している。21、22はあらかじめ扁平な礫の縁辺を打ち欠き円形に整えたものであるが、完成品か否か不明である。

円盤状土製品（第185図23～27、写真図版143）

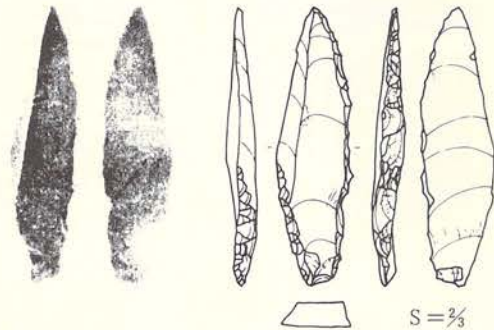
円盤状と認定できたのは5点である。4点は中期の土器片を加工して円、方形(27)しているが、23はあらかじめ円形に製作したもので無文。

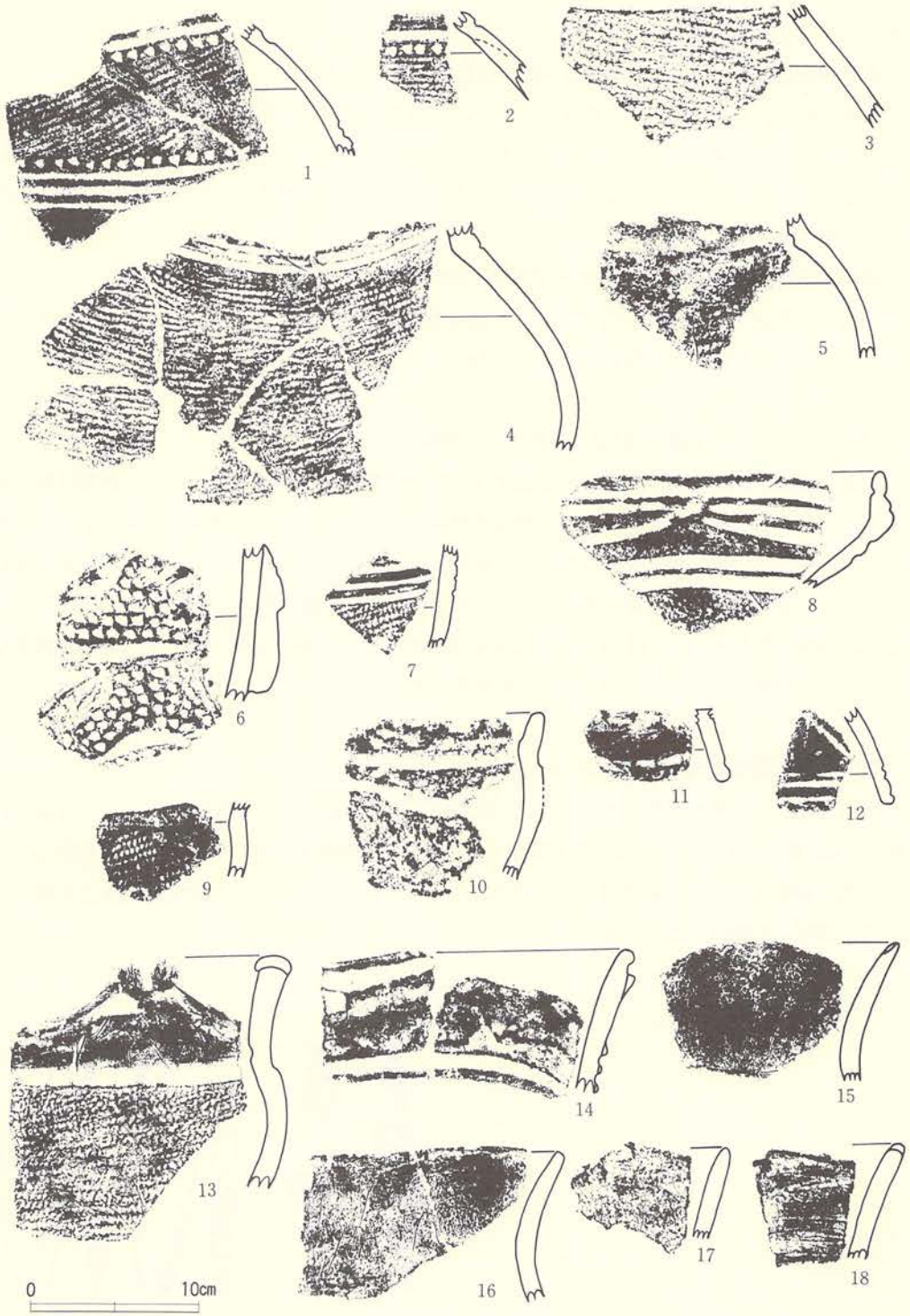
(4) 弥生時代の土器（第186・187図、写真図版144）

おもに遺跡の西側のB、C区及び北側のIH区の2層黒色土中から出土した。器種は壺、高坏(8、12)、台付鉢、甕である。壺は縄文が横走する。1、2は同一個体で沈線に沿って三角の刺突文が巡る。11の台は晩期の可能性もある。6の鉢は口縁部に近い部分で、「大」字状の貼付けに1と同じ三角の刺突文を充填している。手足を伸ばした動物意匠と見ることも可能である。甕は口縁部が外反するものが多い。14は波状口縁の直下に沈線が巡り、32は太い条痕が体部を走る。やや時間差はあるものの、弥生時代初期に属する土器群である。

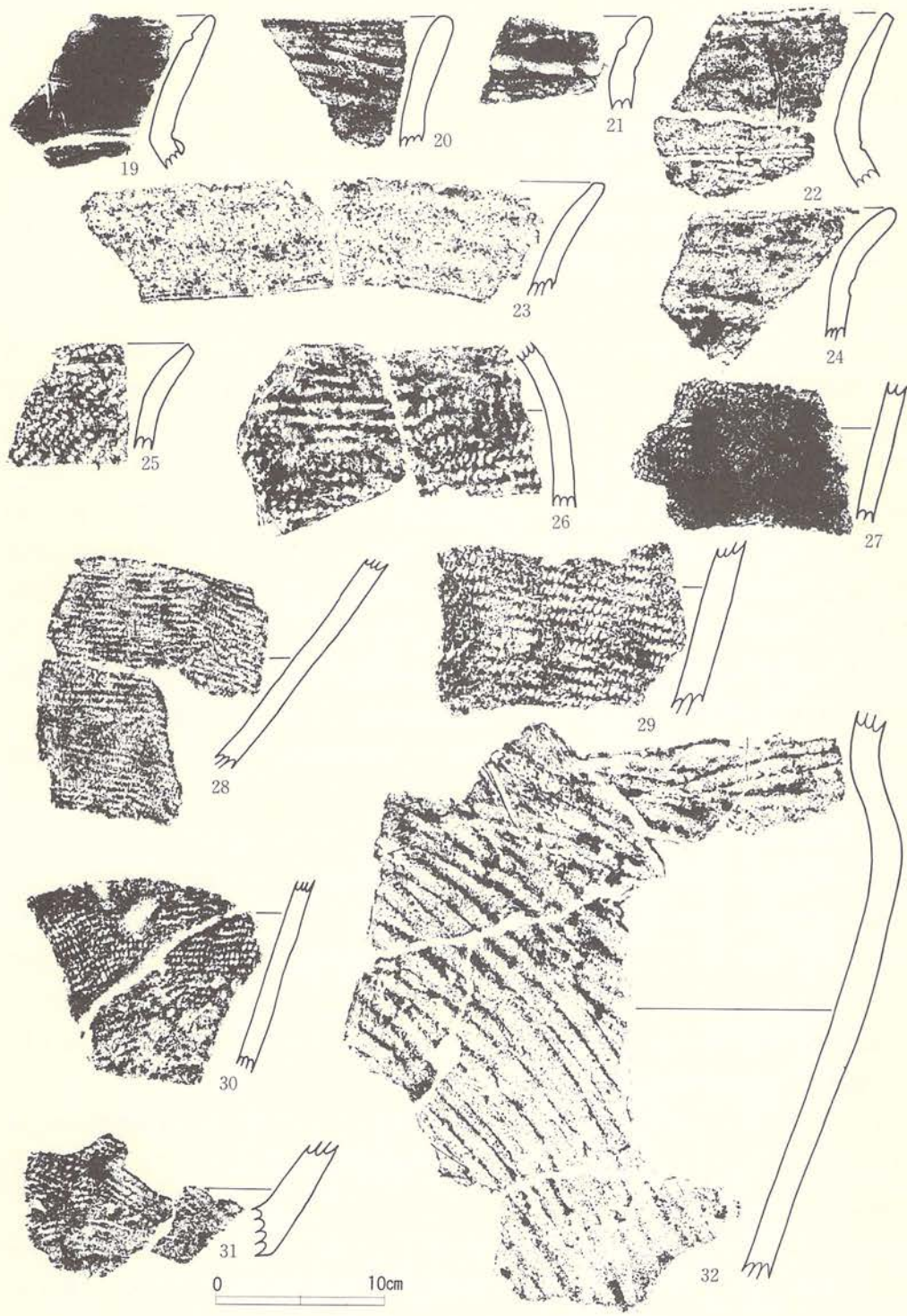
(5) 先土器時代の遺物（下図、写真図版 ）

両縁の基部と片縁が調整されている杉久保型のナイフ形石器で、先端部を少し欠く。全長5.7、幅1.6cm。背付き尖頭器と呼ばれる器種である。珪質細粒凝灰岩製で、1層からの表採資料である。先土器時代に属する資料はこの1点のみで、部分的に小グリットを設定して赤土を掘り下げたが該期の遺物は検出できなかった。





第186図 遺構外遺物：弥生土器(1)



第187図 遺構外遺物：弥生土器(2)

4. 古代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

I F-1 号住居跡 (第188図、写真図版145)

〈検出状況〉黄褐色土面で黒色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉2.9×2.7mの隅丸方形を呈し、南東壁際に不整な段を有する。

〈埋土〉粗掘の段階で重機による削平を受け、埋土の一部を欠くが、上部は黒色土、下部は炭化物・焼土粒を含む黒褐色土で構成されている。なお、層中には粉状の浮石は認められなかった。

〈壁・床面〉壁高は5～20cm、一部で木根の攪乱を受けているが、ほぼ垂直に立ち上がる。床は、中央部を中心に明褐色土による薄い貼床が施され、平坦で堅くしまる。壁溝は検出されていない。

〈カマド・炉〉カマドは、南東壁の北隅に構築されている。天井部は崩壊しているが、残存状態は比較的良い。袖部は10～30cm大の川原礫を芯材とし、これを黄褐色の粘土質土で覆っている。また、右袖では芯材として須恵器大甕の破片も利用している。燃焼部には約60×40cmの範囲に最大9cmの厚さで焼土が形成され、中央部やや壁寄りの位置に支脚として中型の甕を倒立させていた。壁際では、検出面まではほぼ垂直に立ち上がる。煙道部は掘り込み式と考えられるが、浅く不明瞭である。壁際からの長さは約1mで、不整な溝状を呈する。煙出し部は、木根によって攪乱され明確に把握できなかったが、径30cm前後で深さ数cmの小土壙と考えられる。

床面中央やや東寄りに地床炉を1基検出した。掘り込み等の施設はなく、約30×25cmの範囲に薄く現地性焼土が分布していた。

〈付属施設〉南東壁の南半部に、不整な孤状の段をもつ。最大幅は22cmで、床面と比高は、10cm内外である。性格は不明であるが、出入口の可能性はある。柱穴は検出されていない。

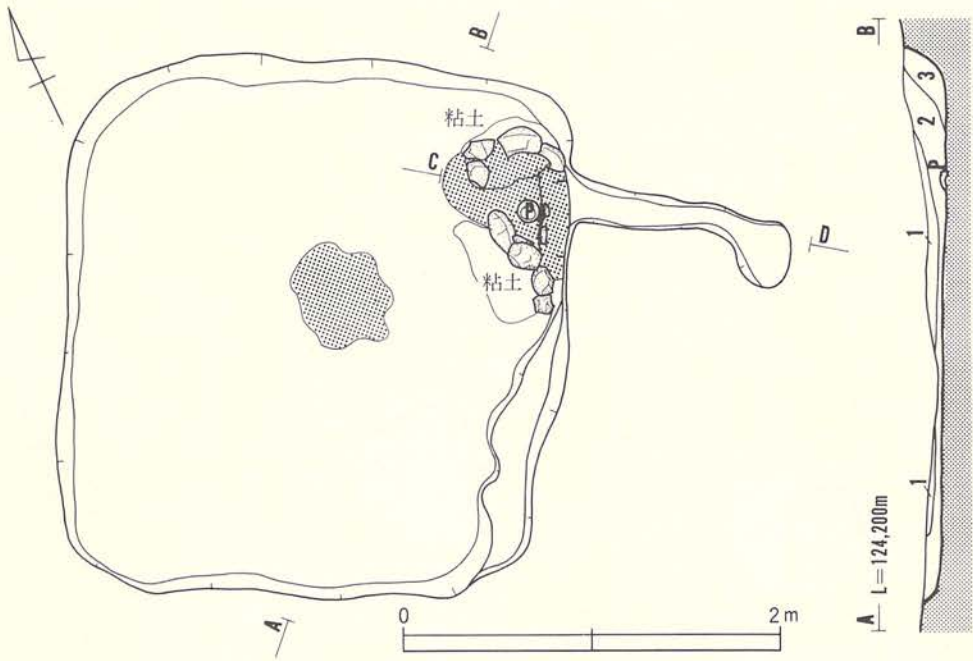
遺物 (第189図、写真図版150)

〈出土状況〉床面、カマド内から土器が出土している。床面出土のものは、カマドの周辺部に集中していた。

〈土器〉あかやき土器の坏、土師器甕、須恵器大甕がある。なお、須恵器大甕は隣接するI F-2住居跡のものと接合したため、2住居の項で述べる。

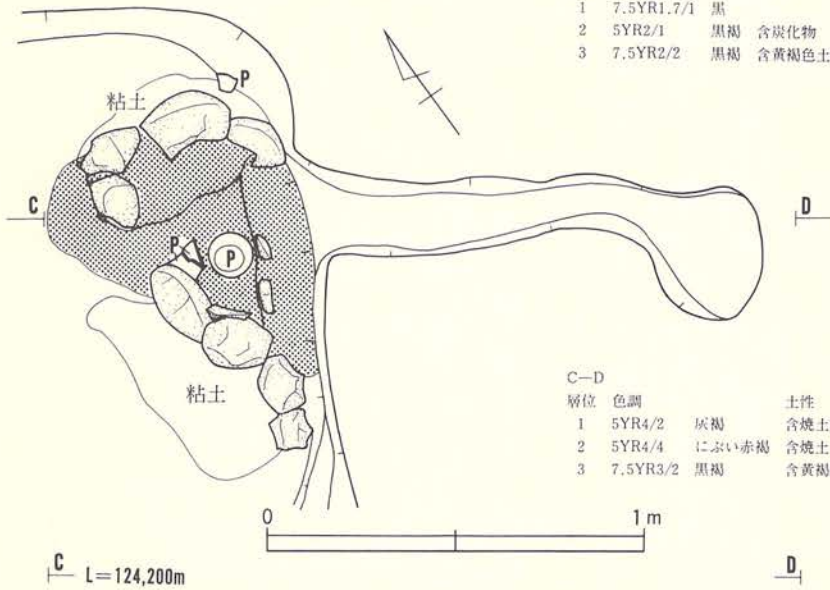
1・2はあかやき土器の坏である。共にロクロ成形され、ロクロ痕以外の器面調整は持たない。底部外面には回転糸切り痕を残し、2は内面に渦巻き状の成形痕が見られる。また、1の器面には黒斑をもつ。

3～8は甕で、いずれもロクロ不使用の成形である。3は手捏ね的な小型甕で、口縁部が僅かに外反する。4～7は、中型の甕である。6は口縁部がほぼ直立するが、他は短く外傾する。



A-B

層位	色調	土性
1	7.5YR1.7/1	黒
2	5YR2/1	黒褐 含炭化物
3	7.5YR2/2	黒褐 含黄褐色土粒(微量)、炭化物(多量)



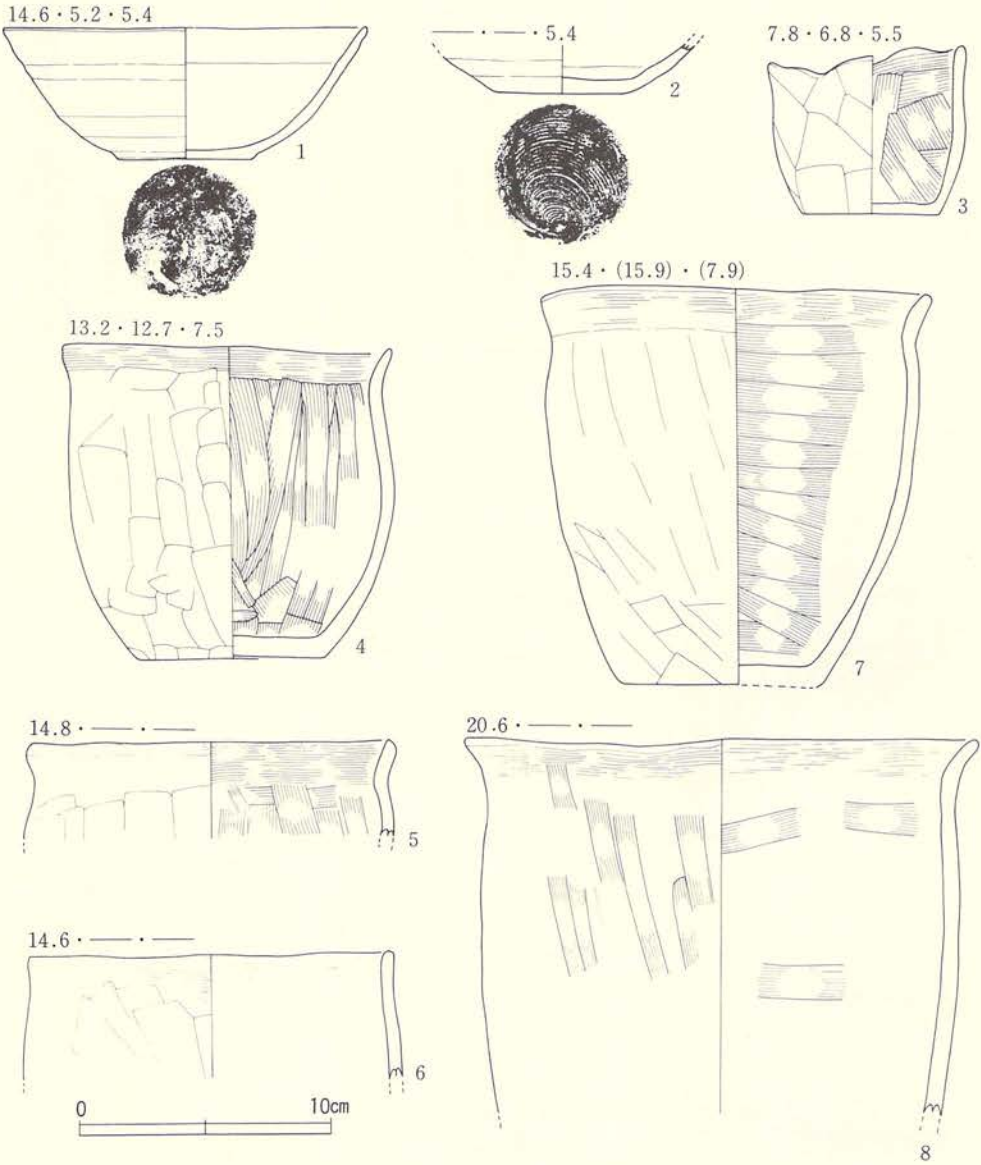
C-D

層位	色調	土性
1	5YR4/2	灰褐 含焼土粒(少量)、炭化物(微量)
2	5YR4/4	にぶい赤褐 含焼土、炭化物
3	7.5YR3/2	黒褐 含黄褐色土粒(少量)

第188図 I F-1号住居跡

4・5の胴部は緩い膨らみをもつ。器面調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面は縦方向のヘラケズリ、内面は4・5が縦方向、他が横方向のナデである。8は大型の甕で底部を欠く。胴部はほぼ直線的で、口縁部は短く外反する。胴部内面には炭化物が付着する。口縁部内外面はヨコナデ、胴部は外面が縦、内面は横方向のナデ調整である。

〈時期〉 出土した土器の特徴から平安時代の住居である。



第189図 I F-1号住居跡遺物

I F-2号住居跡（第190図、写真図版146）

〈検出状況〉黄褐色土面で黒色土～黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉2.4×2.2mの隅丸方形を呈し、北壁東隅にの不整な張り出しを有する。

〈埋土〉木根の攪乱を受けているが、3層に大別される。上部は黒褐色土、中部は黒色土、下部は炭化物・焼土粒を含む黒褐色土で構成されている。当住居でも、層中に粉状の浮石は認められなかった。

〈壁・床面〉壁高は18～25cm、各部ともほぼ垂直に立ち上がる。床は、中央部を中心に明褐色土による薄い貼床が施され、平坦で堅くしまる。壁溝は検出されていない。

〈カマド〉カマドは、北壁の西側に構築されている。大半は崩壊しているが、袖の芯材と支脚が残存している。袖部は30～50cm大の川原礫を芯材とし、これを黄褐色の粘土質土で覆っていたと考えられ、左袖部では1住居跡と同様に、須恵器大甕の破片を芯材として利用している。燃烧部には、約40×30の範囲に最大7cmの厚さで壁際まで焼土が形成され、中央部やや壁寄りの位置に、約15×10×20cmの柱状の礫が支脚として埋置されていた。壁際では、検出面までほぼ垂直に立ち上がる。煙道部は掘り込み式と考えられるが、浅く不明瞭である。壁際からの長さは約1.1mで、不整な溝状を呈する。煙出し部も明瞭なものではなく、煙道部底面から僅かに凹む程度である。

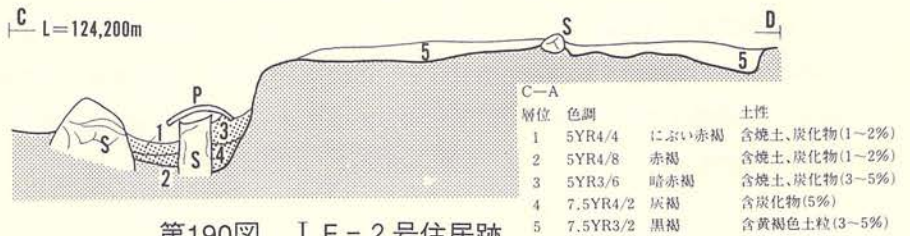
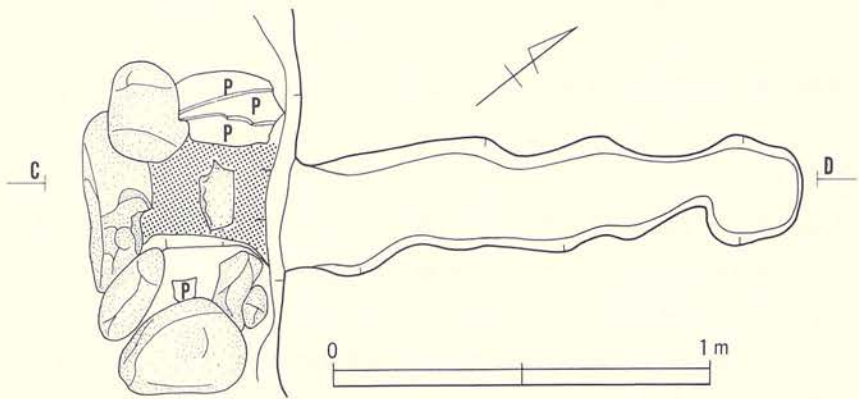
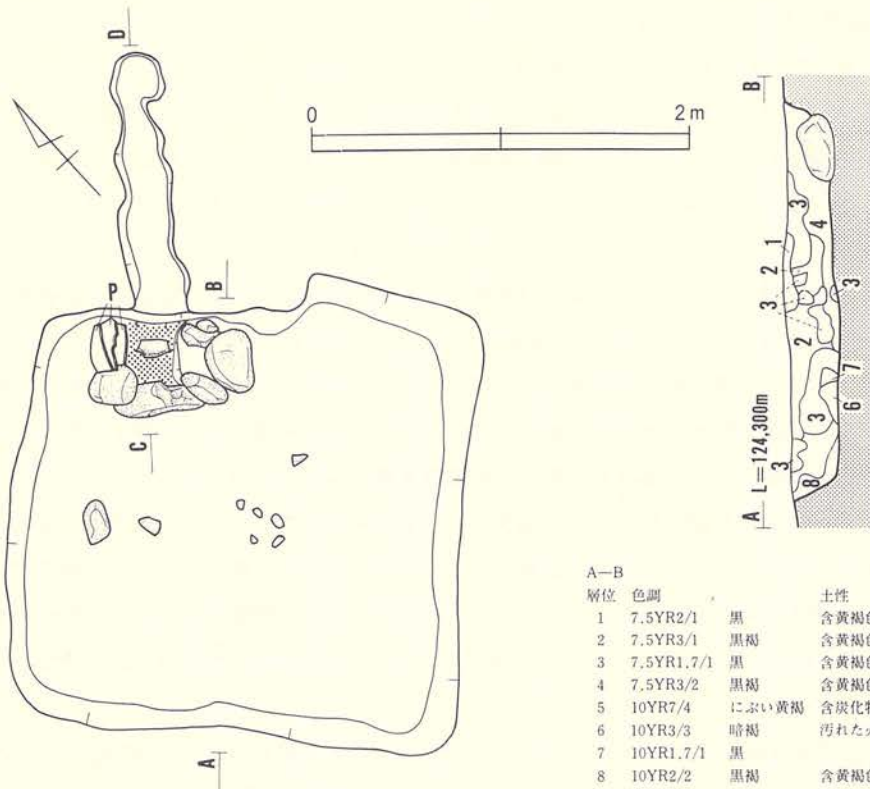
〈付属施設〉北壁東半部に1×0.4mの不整な長方形を呈する張り出しがある。他の部分と比べて、床の堅さ等に差はなく性格は不明であるが、出入口の可能性がある。柱穴は検出されていない。

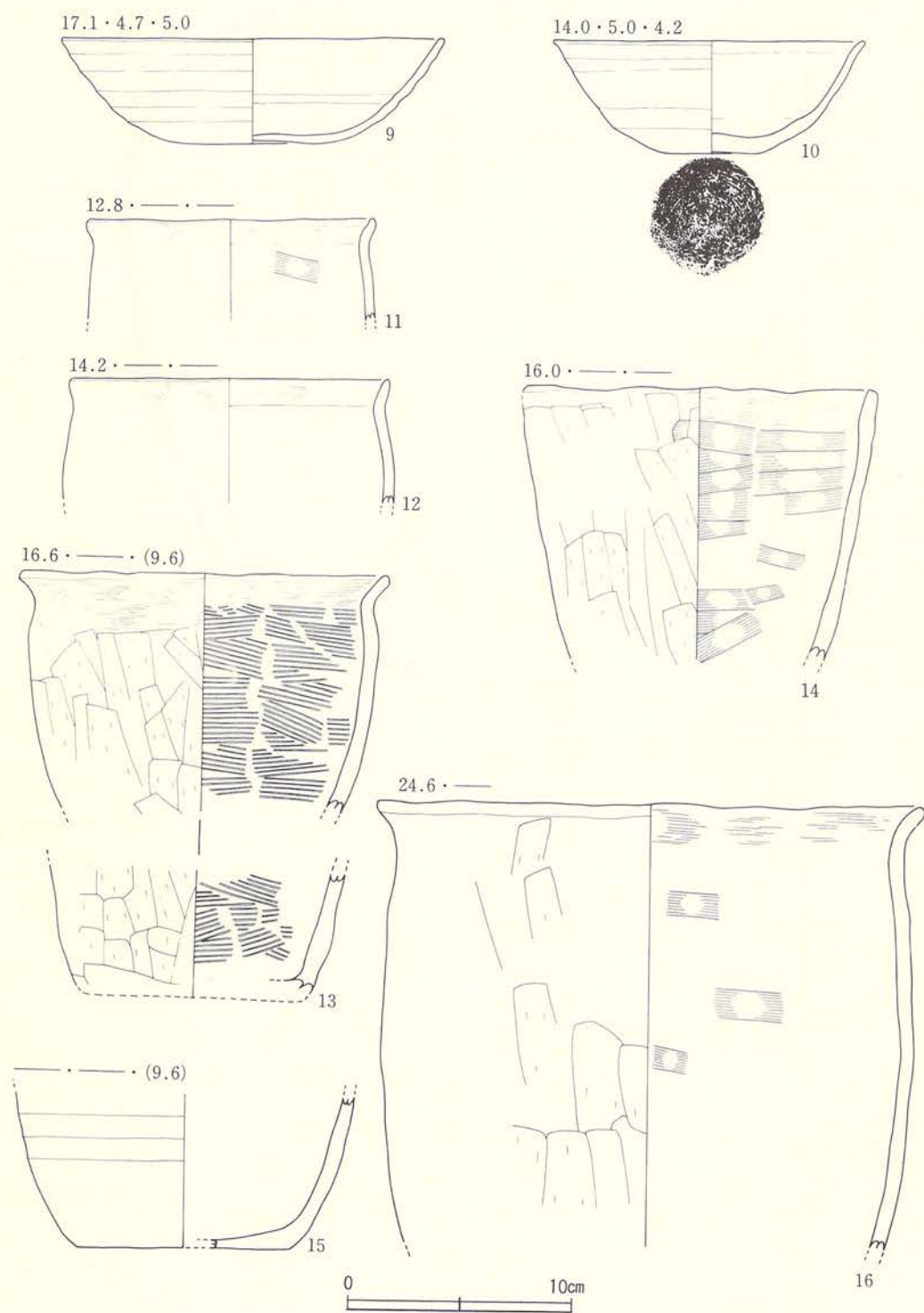
遺物（第191・192図、写真図版150・151）

〈出土状況〉床面、カマド内から土器が出土している。床面出土の多くはカマドの周辺部に集中している。

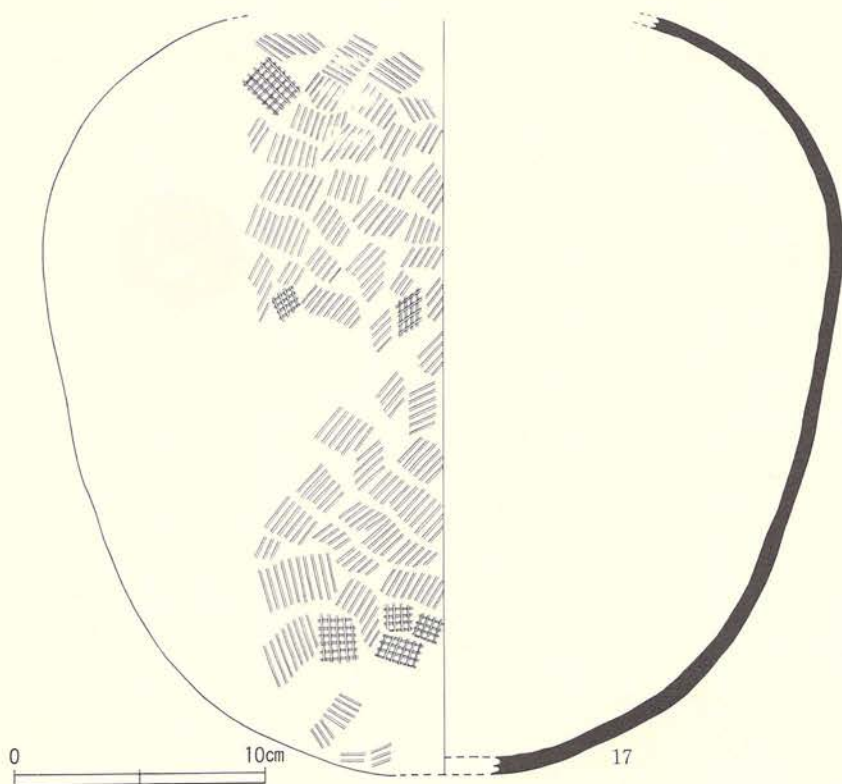
〈土器〉9・10はあかやき土器の坏で、共にロクロナデ以外の調整痕はもたないが、黒斑が見られる。底部の切り離し技法は、回転糸切り後無調整である。10は9より器高が高く、底部は小さい。また、口縁部は僅かに外反する。

11～16は土師器の甕である。11・12はロクロ不使用の小型の甕で、口縁部は短く外傾する。11の内面には炭化物が付着する。13は口縁部が短く外反し、胴部上端はいくぶん膨みをもつ。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はハケメ調整されている。14は胴部から口縁部までほぼ直線的につづく外面は粗いヘラケズリ、内面はナデが主体で一部ミガキが施されている。15はロクロ使用の甕である。16はロクロ不使用の大型甕で、胴部に緩い膨らみを持ち、口縁部は短く外反する。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面は横方向のナデが施されている。なお、胴部内面には、炭化物が付着する。





第191图 I F-2号住居跡遺物(1)



第192図 I F-2号住居跡遺物(2)

17は、カマド袖部の芯材に利用されていた須恵器大甕である。胴部の約1/5が残存する。外傾して立ち上がった胴部は、上端で強く内湾しこの部分に最大径を有する。底部は、丸底を呈すると考えられる。外面は幅3mm程の平行叩き目、内面は径約4cmの凹みが連続する他、一部にハケメ状のヘラケズリが施されている。

〈時期〉出土した土器の特徴から、平安時代の住居跡と考えられる。

I G-1号住居跡 (第193図、写真図版147)

〈検出状況〉地表下30~50cm、褐色土層面で黒色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉4.3×4.5mの方形を呈し、東壁中央南寄りに土壙状の張り出しをもつ。

〈埋土〉粗掘段階で重機による削平を受け埋土の上部を欠くが、上部の黒色土、下部の黒褐色土に大別され、東壁付近ではこの間に淡黄色の粉状浮石を挟む。

〈壁・床面〉削平のため壁高はいずれも浅く5~27cm、各部分ともほぼ垂直に立ち上がる。床

は全体に黄褐色土によって貼床が施され、いくぶん凹凸はあるものの堅くしまる。貼床下部にはほぼ全面に掘り方を持ち、南西隅の部分は他に比べて深い。壁溝は検出されていない。

〈カマド〉東壁中央やや北よりに構築されている。残存状況は悪く、芯材に用いたと考えられる礫と、これを覆う焼土混じりの黄褐色土の広がりを残すだけである。燃烧部には65×70cmの範囲に最大4cmの厚さで焼土が形成されていた。また、最も奥まった位置から土師器の甕が出土しており、支脚として利用されていた可能性がある。煙道部は削平を受けているが、くりぬき式と考えられる。壁際からの長さは約1mで、約20°の角度で煙出し部に向かって下る。煙出し部も攪乱を受けており明確ではないが、径25cm前後、深さ40cmの円筒状土壌が推定される。

〈柱穴〉柱穴状の小土壌は、P₁～P₆の6基が検出された。P₁～P₄の4本が歪な台形の配置を示す。P₁・P₂は隅から内側に入った位置にあり、P₃は北東隅、P₄はカマド北脇の壁際に位置する。また、カマド燃烧部の下位からP₅、貼床除去後に東壁際からP₆が検出され、建て替えが行われた可能性がある。

〈付属施設〉P₇～P₉の土壌が3基検出されている。P₇は東壁中央部、カマドの南脇に位置し、不整な張り出しとなっている。規模は1×0.4m、検出面からの深さは32cmで平面形は不整な楕円形を呈す。

P₈は北東隅に位置する。規模は66×80cm、床面からの深さは31cm、平面形は歪な長方形を呈する。埋土は上部が黒褐色土、中～下部が汚れた黄褐色土から成り、上部から坏がまとまって出土した。埋土の状態や遺物の出土状況から、この土壌は住居廃絶時点では、大半が埋められていたものと考えられる。

P₉は北西隅に位置する。規模は52×60cm、床面からの深さは27cmで不整な円形を呈する。

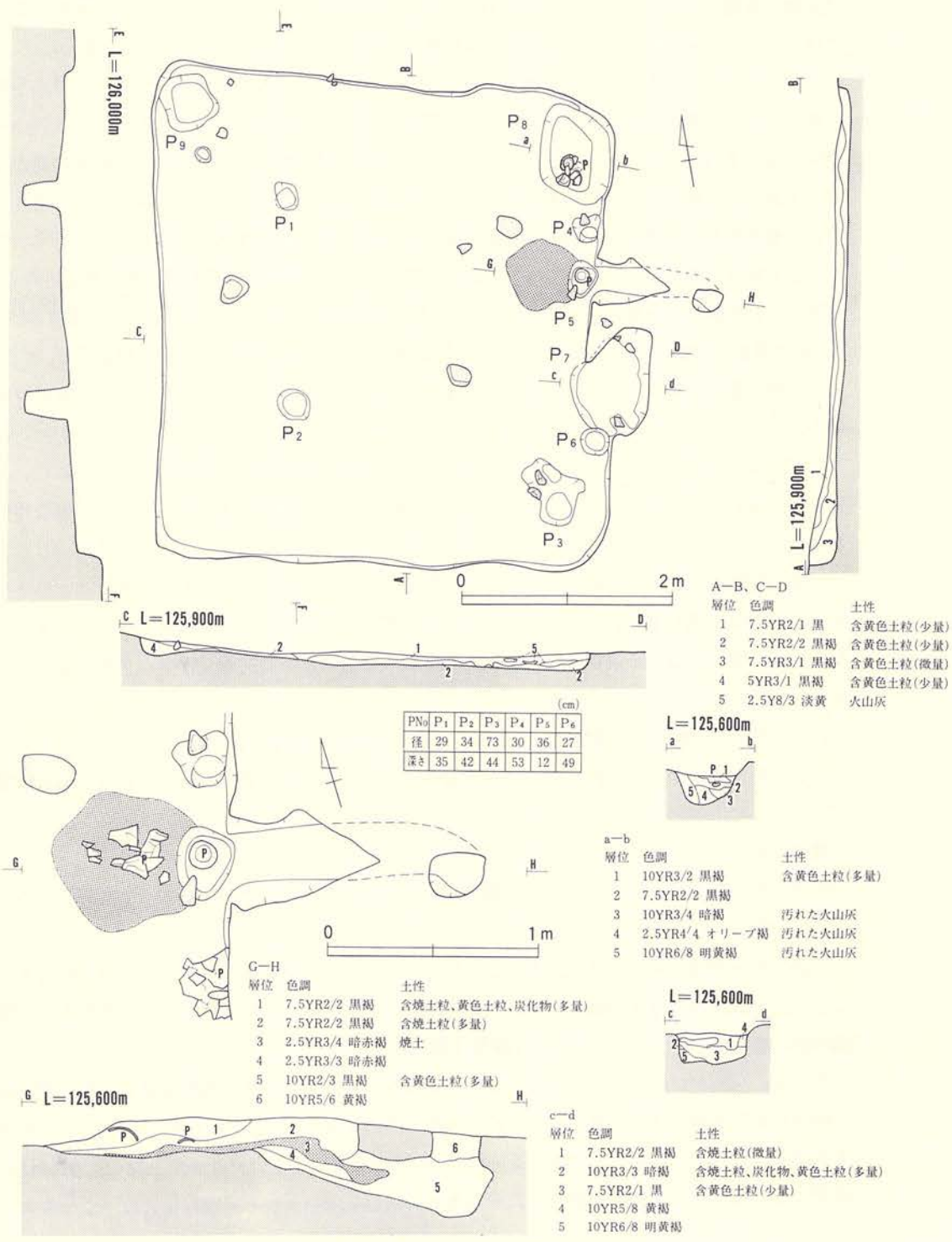
これらの土壌につて、性格を断定できる資料は乏しく詳細は不明であるが、検出された位置から推定して、貯蔵穴的な機能が考えられる。

遺物（第194～197図、写真図版151～153）

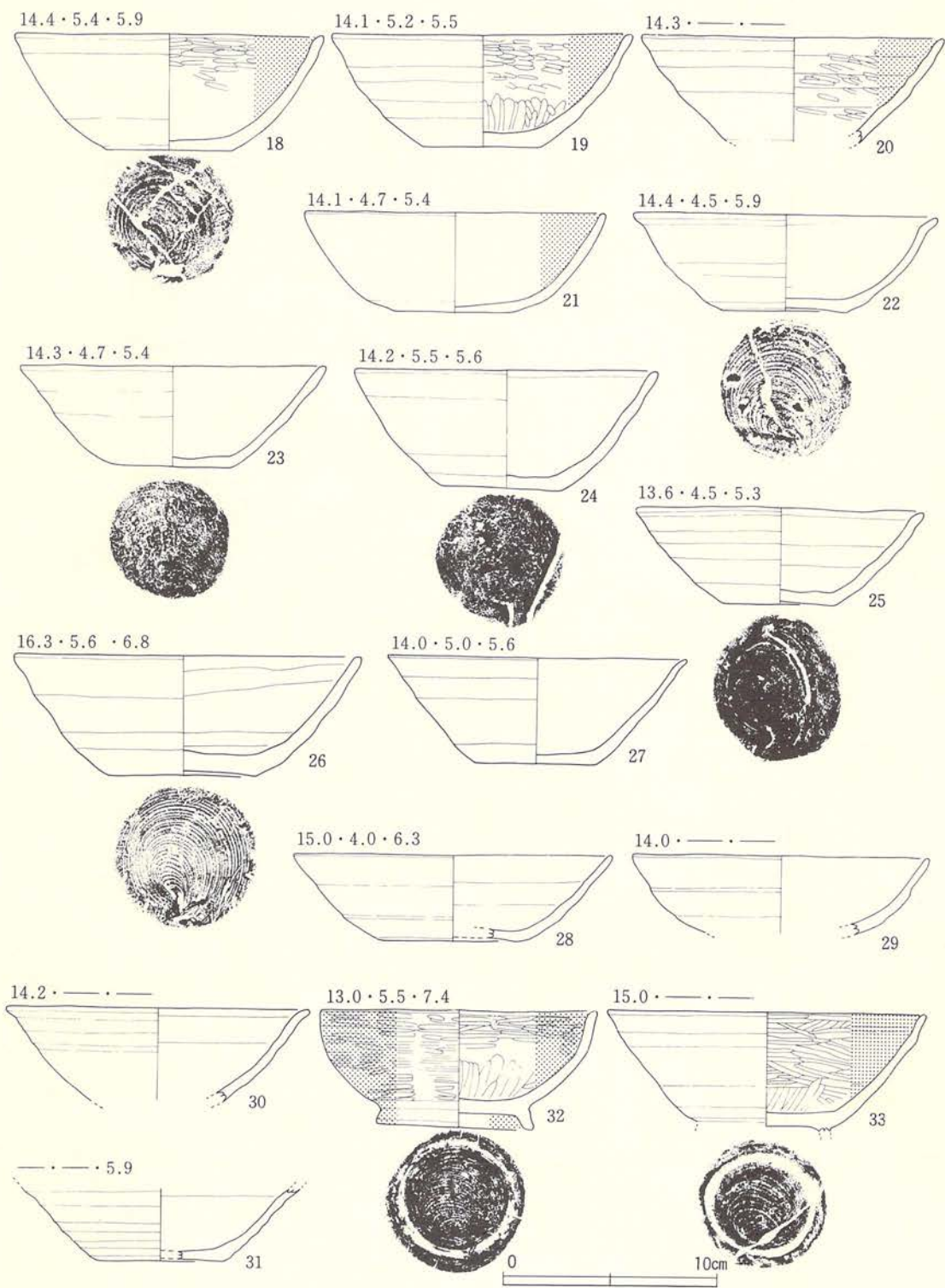
〈出土状況〉埋土、床面、カマド、土壌内から土器と鉄製品が出土している。土壌(P₈)内からは、坏が重なった状態で出土している。

〈土器〉18～20は土師器の坏で、内面は黒色処理されミガキが施されている。胴部は内湾ぎみに立ち上がる。18・19は口縁部上端が僅かに外反、20は外傾、21は胴部からそのまま続く。底部の切り離し技法は、回転糸切りで再調整は施されない。

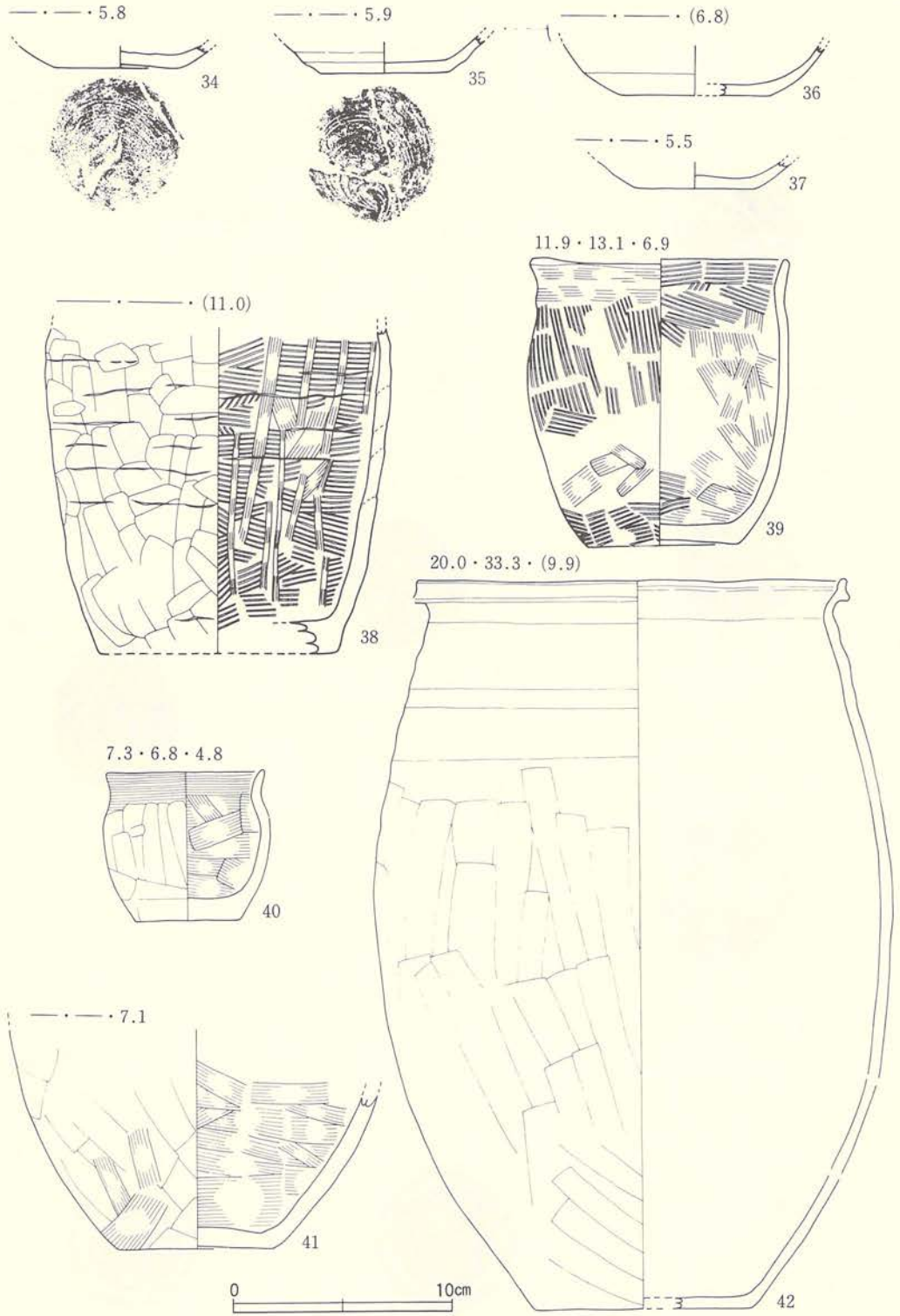
22～31、34～37はあかやき土器の坏で、いずれもロクロナデ以外の調整痕はもたず、切り離し技法は回転糸切り後無調整である。胴部は緩く内湾するもの(22・26・29・30・36)と、外傾するもの(23～25・31)ある。口縁部は、胴部からそのまま続くものが多いが、22・30等は外傾、外反する。また、24・34は底部内面に渦巻き状の成形痕が見られる。25は他に比べてやや大型



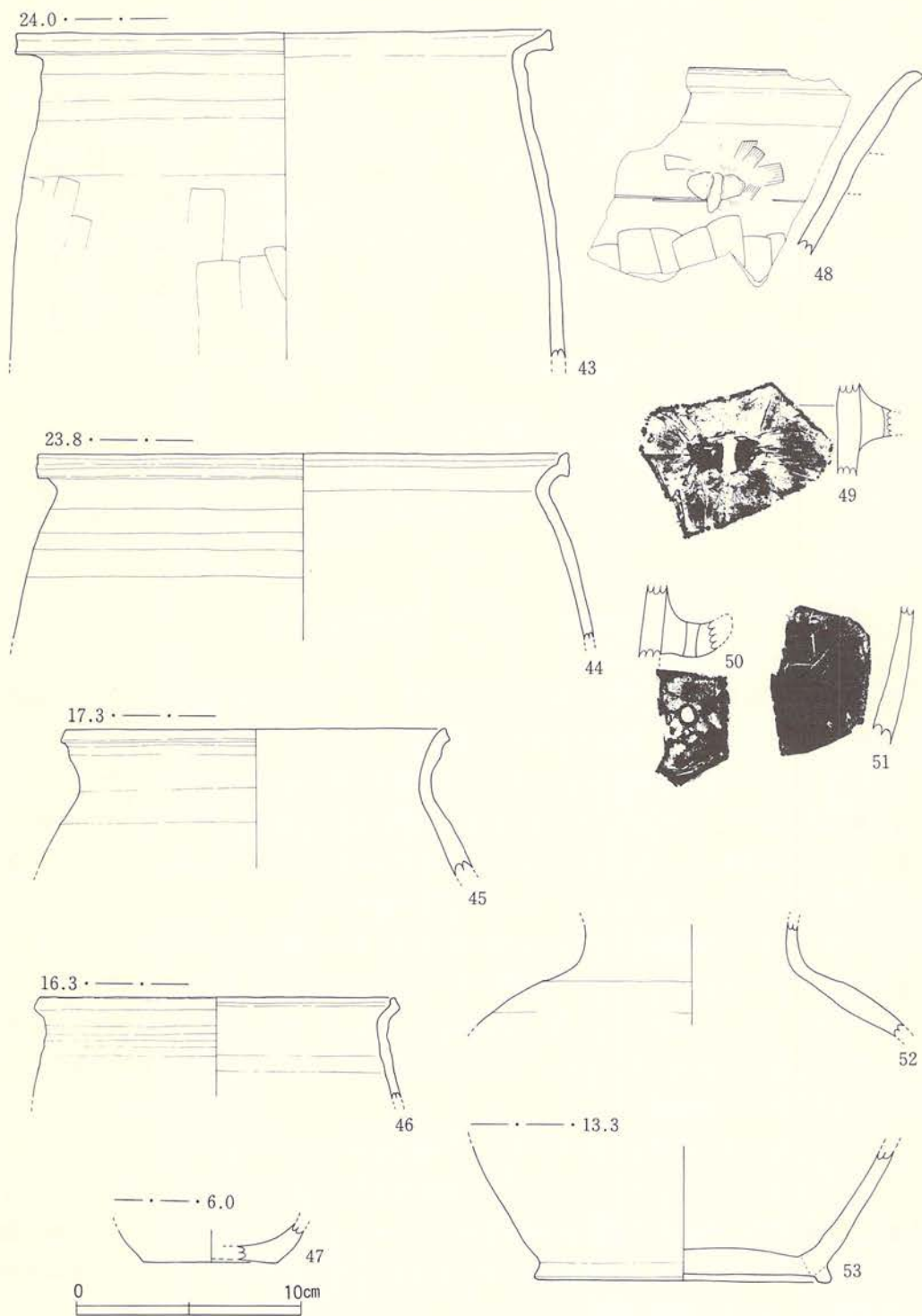
第193図 I G-1号住居跡



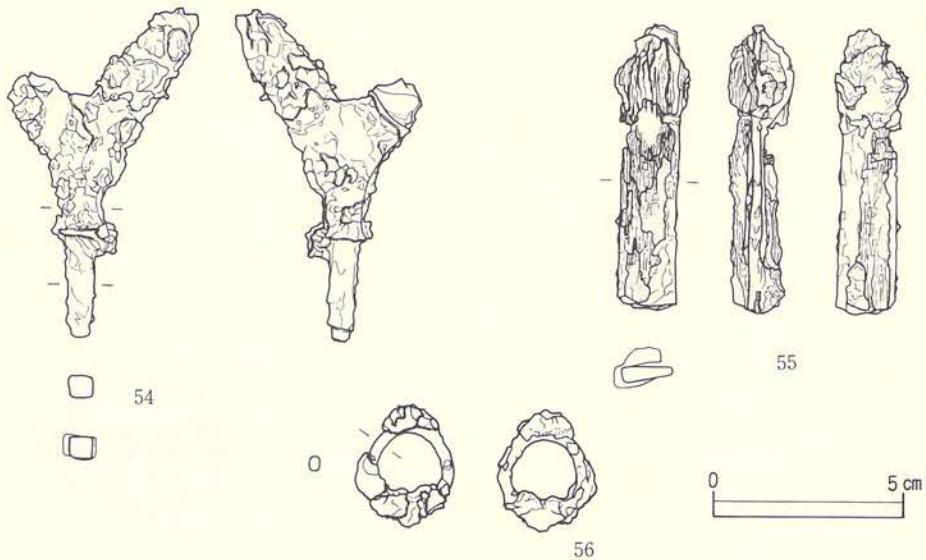
第194図 I G-1号住居跡遺物(1)



第195図 I G-1号住居跡遺物(2)



第196图 IG-1号住居跡遺物(3)



第197図 I G-1号住居跡遺物(4)

である。器面に巻き上げ痕を残し口縁部に黒斑を伴う。この他27にも黒斑が見られ、31・35は色調が全体に黒ずむ。29は一部に赤色顔料が付着する。

32・33は土師器の高台付坏である。共にロクロ使用で、坏の底部外面に回転糸切痕を残す。32は胴部が外傾して立ち上がった後、直立ぎみに口縁部に続く。高台部は、短くハ字状に開く。器面全体に黒色処理され、底部外面を除いてミガキが施されている。33は高台部を欠く。胴部はほぼ外傾して立ち上がり内面にミガキと黒色処理が施される。

38～40はロクロ不使用の甕である。38は雑な作りで、器面に輪積痕を残す。39・40は小型の甕である。38の内面及び39はハケメ調整が多用されている。41はロクロ使用の可能性がある。

42～47はロクロ使用の甕である。42・43は胴部にヘラケズリが加えられ、44は胴部外面に叩き目が見られる。口縁部は強く外反し、口唇部は上方に挽きだされる。45は口縁部が長く外反し、46は口唇部が内傾する。

48は鍋の破片と考えられる。胴部は外傾し、口縁部は僅かに外反する。ロクロによって成形され、胴部外面にはヘラケズリが加えられる。欠落するが、胴部上端に把手を有する。49～51は同一個体と考えられる。小破片のため器種は不明であるが、甕あるいは鍋であろう。49・50は共に中央に縦の小孔をもち、端部が上を向く把手を有する。51は胴部片で外面に意匠は不明であるが細いヘラ書き刻線をもつ。

52・53は同一個体で、長頸の壺である。ロクロ成形され、他の調整痕はもたない。底部にはハ字状に開く低い台が付く。器形は須恵器に似るが色調は黄灰色を呈し、土師器とした。

〈鉄製品〉床面と埋土の下部から4点が出土した。この内床面から出土した紡錘車は、精査時の不手際により紛失してしまった。

54は、身部先端と茎の下半を欠損する雁股鏃である。銹化が著しく、身部は肥厚するが、箆被と茎の境に段を持つ。55は木質が付着する鉄製品で、残存部の形状から刀子の可能性がある。56は細い環状を呈する鉄製品である。錆のため接合部分は不明である。

〈鉄滓〉南東隅の床面から出土した。片面が緩く湾曲する所謂碗形滓で、重量は360gである。

〈時期〉出土した土器の特徴から、平安時代の住居跡と考えられる。

I G-2 住居跡（第198図、写真図版148、149）

〈検出状況〉地表下30～50cm、暗褐色土層面で黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉4.8×5.2mの東西がやや長い長方形を呈する。

〈埋土〉全体に自然堆積の様相を呈し、上部は黒褐色土、下部は黒色から黒褐色土で構成され、壁際の黒褐色土中には、淡黄色の粉状浮石のブロックが含まれる。

〈壁・床面〉壁高は30～60cmで、各部分ともほぼ垂直に立ち上がる。床は全体に黄褐色土によって貼床が施され、ほぼ平坦で堅くしまる。貼床下部には全面に掘り方を持ち、北壁寄りの部分はやや深い。壁溝は検出されていない。

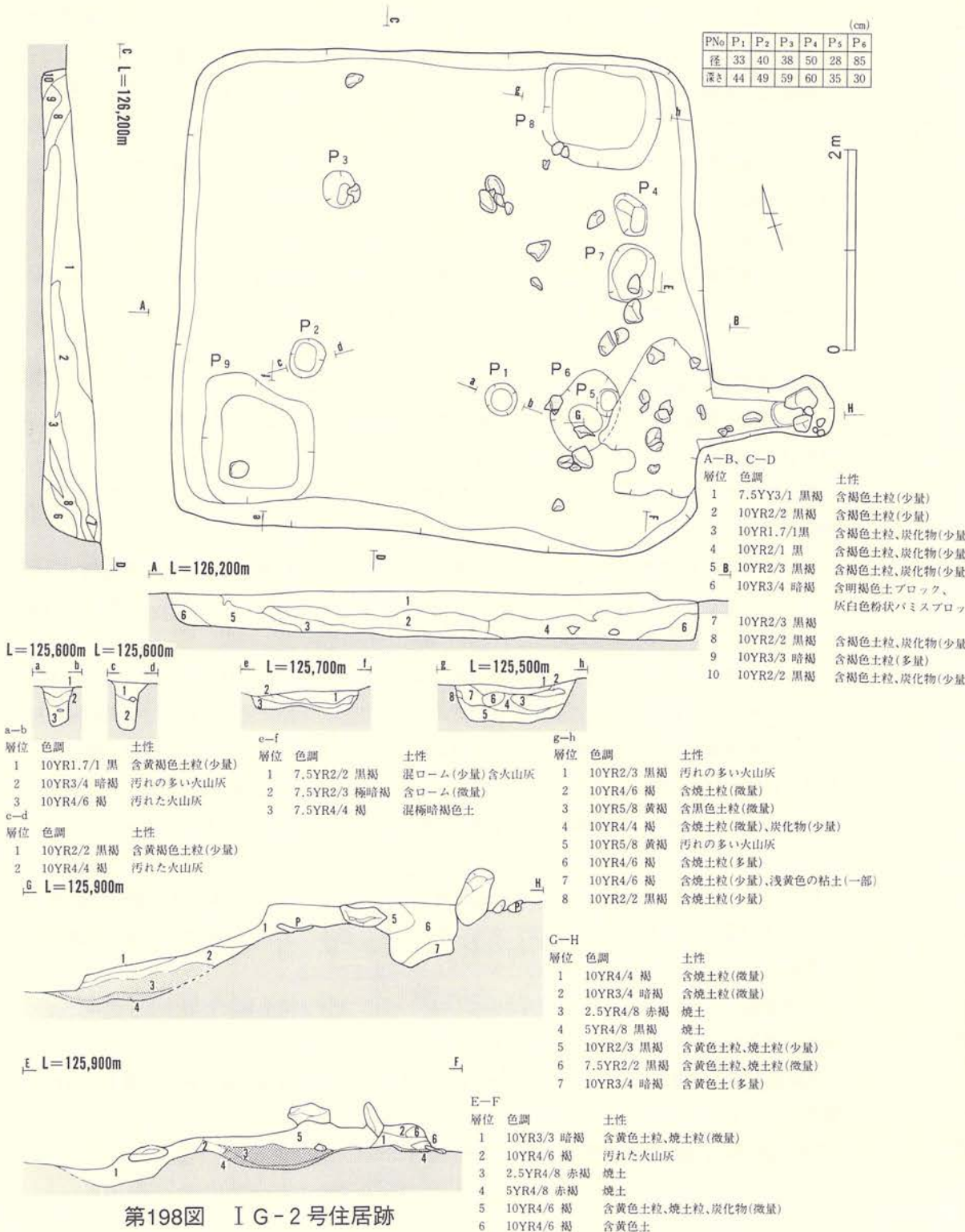
〈カマド〉東壁の南側に構築されている。残存状態は悪く、袖部の芯材や天井部に用いたと考えられる礫と、黄褐色土が周辺部に散乱していた。燃烧部には65×90cmの範囲に最大12cmの厚さで焼土が形成され、壁際は外傾して煙道部に続く。煙道部は掘り込み式で、煙出し部までの長さは約70cmで、底面は平坦である。煙出し部は径36cm、深さ32cmの円筒状土壇で、煙道部底面から約16cm下がる。この外側に、上部構造に関わっていたと考えられる30～10cm大の礫が6個埋置されていた。

〈柱穴〉柱穴状の小土壇は、 P_1 ～ P_6 の6基が検出された。 P_1 ～ P_4 の4本が台形の配置を示す。 P_1 ・ P_2 ・ P_3 は隅から内側に入った位置にあり、 P_4 は東壁に寄る。また、貼床除去後カマド燃烧部の手前から P_5 ・ P_6 が検出され、建て替えが行われた可能性がある。

〈付属施設〉 P_7 ～ P_9 の土壇が3基検出されている。 P_7 は、カマドの北側に位置する。規模は60×50cm、深さは20cmで平面形は不整な楕円形を呈する。

P_8 は北東隅に位置し、規模は1×1.2cm、深さは37cmで平面形は長方形である。埋土は汚れた黄褐色土が大半を占め、人為的に埋められたものと考えられる。

P_9 は北西隅に位置する。規模は1.1×1.3cm深さは25cmで不整な方形を呈する。



第198図 I G-2号住居跡

これらの土壌について、性格を断定できる資料は乏しく詳細は不明であるが、検出された位置から推定して、貯蔵穴的な機能が考えられる。

遺物（第199・200図、写真図版153・154）

〈出土状況〉床面、カマド内から土器と石器が出土している。床面出土の土器の多くは、カマドの周囲に集中していた。また、カマド内からのものには、煙出し部出土の甕がある。

〈土器〉57～60は土師器の坏で、内面はヘラミガキされ、黒色処理が施されている。59は底部の大半を欠き詳細は不明であるが、胴部下端から底部にかけて切り離し後再調整が施されている。60はやや大型で、胴部は緩く内湾する。内面の調整は、ヘラミガキのほか口縁部と底部にナデ調整が加えられる。切り離し技法は、回転糸切りで再調整はなく、いくぶん上げ底になる。61は土師器の高台付坏である。坏胴部は内湾し、高台部は八字状に開く。坏底部外面には糸切り痕を残し、この部分を除いてヘラミガキされ、全面に黒色処理が施されている。

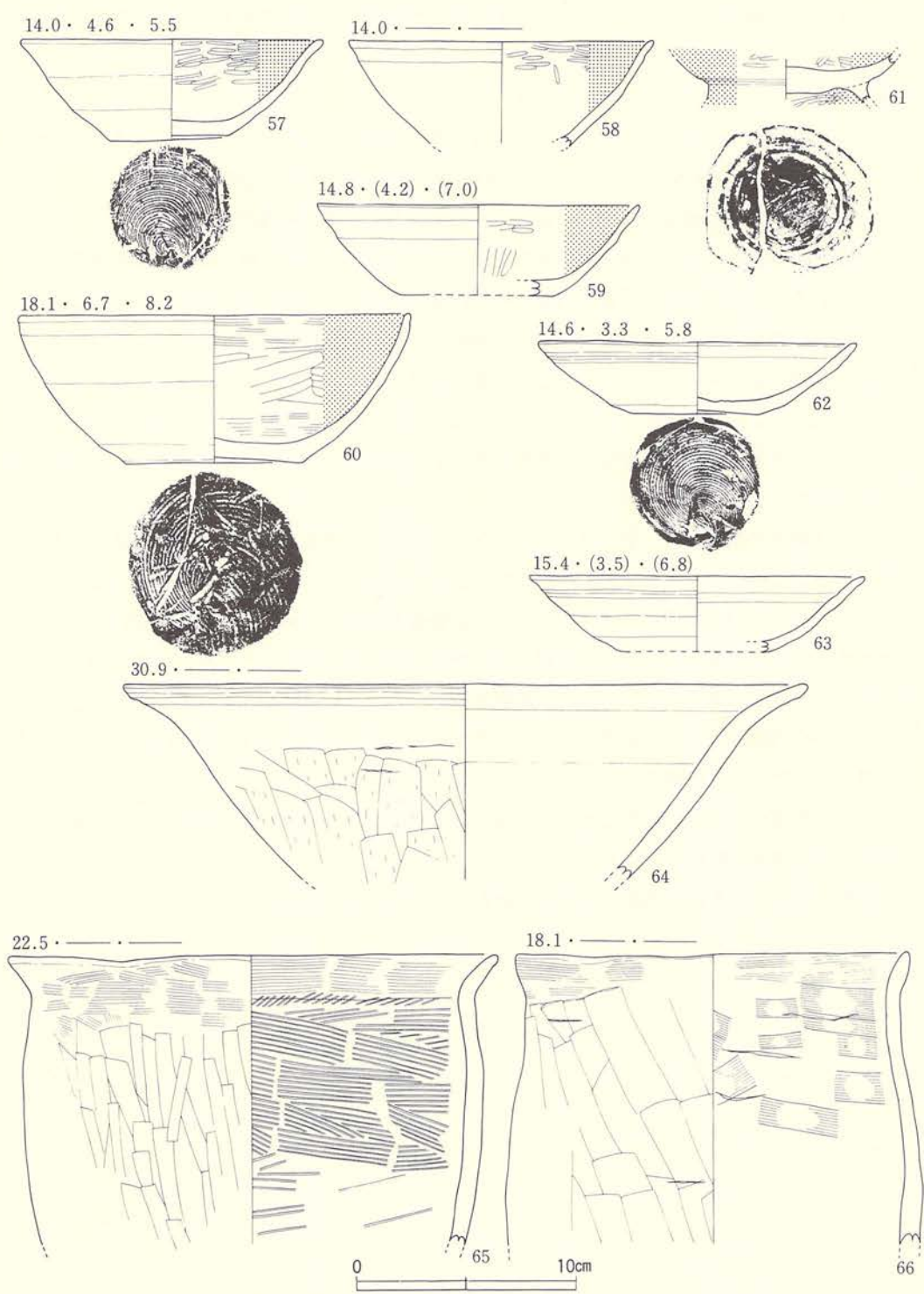
62・63はあかやき土器の坏で、土師器に比べて、器高が高い。切り離し技法は、共に回転糸切り無調整である。

64は土師器の鍋である。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反して開く。ロクロ成形され、胴部には粗いヘラケズリが加えられている。

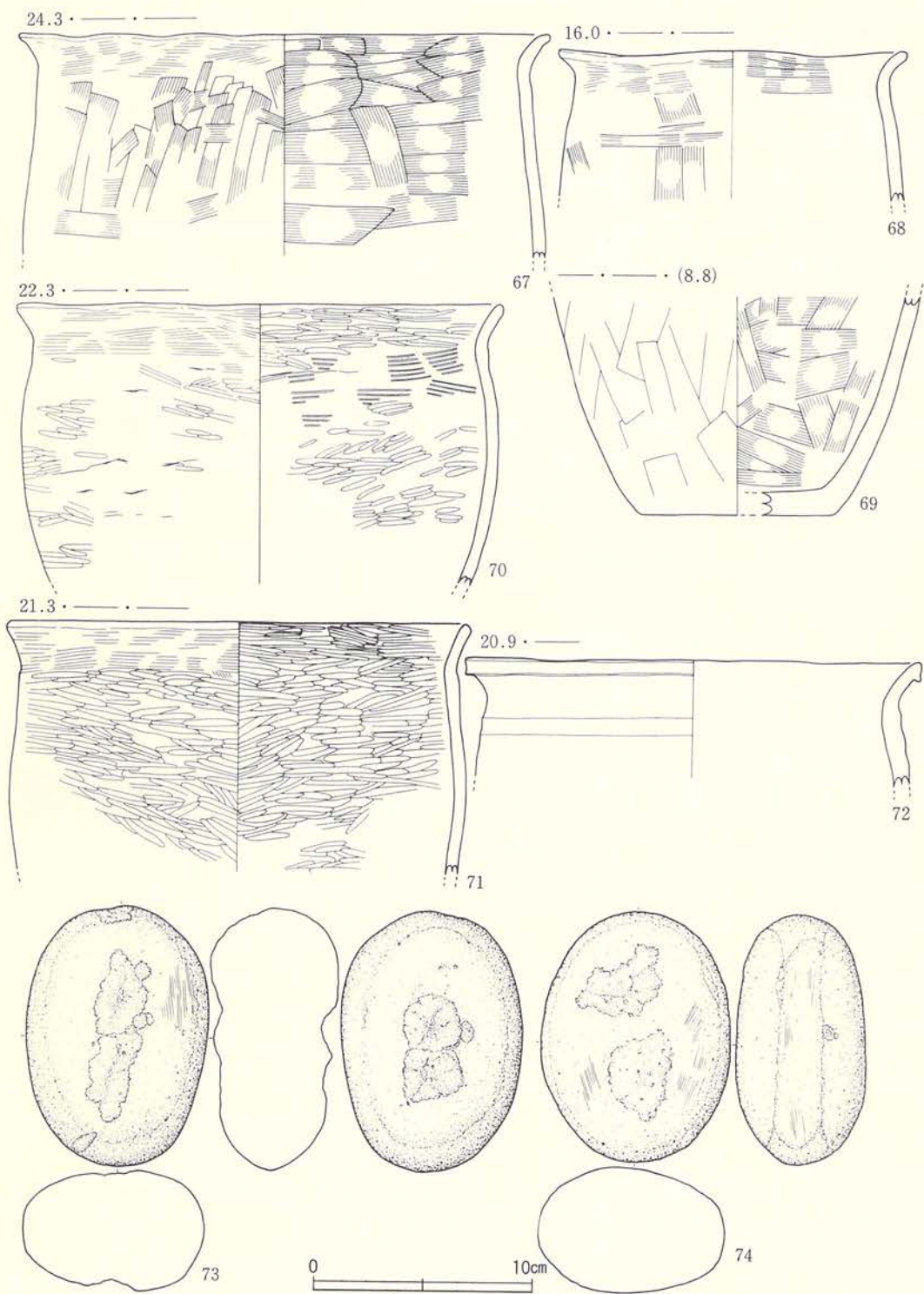
65～71はロクロ不使用の甕である。いずれも胴部外面はヘラケズリ調整されているが、67・68は弱くナデ状となっている。内面調整は65がハケメ、他はヘラナデである。なお、65の内面には、炭化物が付着する。70・71は口縁部外面を除いて、丁寧なヘラミガキが施されている。また、70の内面にはミガキ調整前のハケメ痕が見られる。72はロクロ使用の甕であるが、全体に雑な作りである。口縁部は外反し、口唇部は下方に挽きだされる。

〈石器〉床面から凹石が2個出土している。共に磨石からの転用・併用である。73は両面、74は片面と1側面に使用痕を有する。

〈時期〉出土した土器の特徴から、平安時代の住居跡と考えられる。



第199图 I G-2号住居跡遺物(1)



第200图 IG-2号住居跡遺物(2)

(2) 土 壙

I G-1 土壙 (第201図、写真図版155)

〈検出状況〉褐色～黄褐色土層面で、黒～黒褐色土の広がりとして検出された。北側で I G-3 陥し穴と重複し、これを切っている。

〈形状・規模〉2.5×2 mの不整な隅丸長方形を呈する。

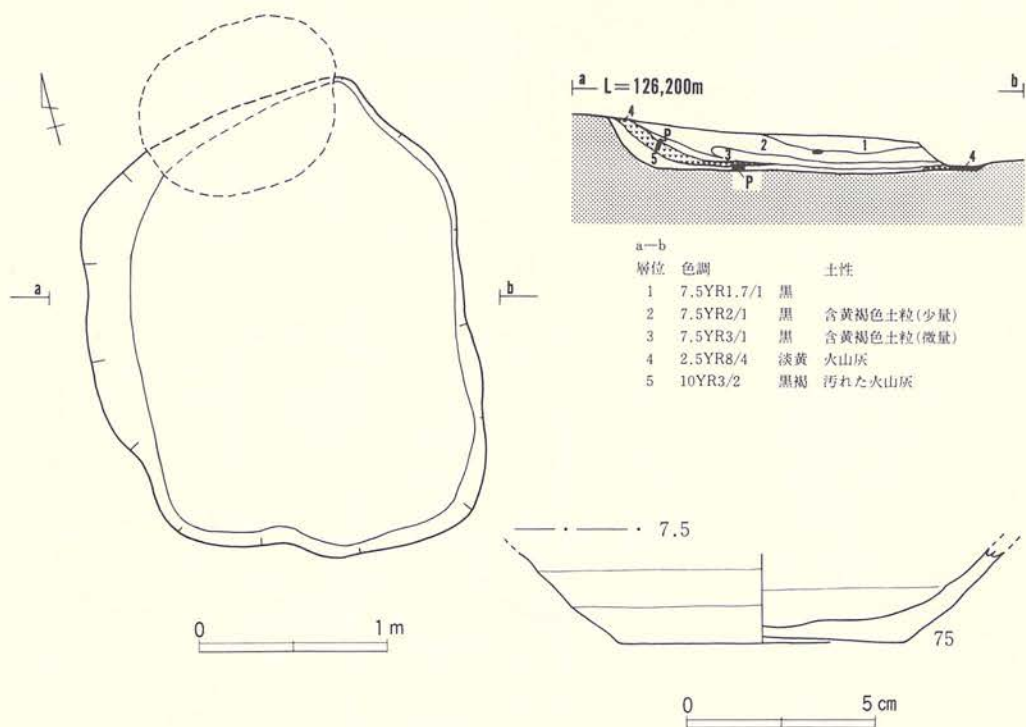
〈埋土〉自然堆積で上部は黒色土、中部は黒褐色土、下部は黒色土で構成される。なお、西壁際から底面にかけて淡黄色の粉状火山灰が堆積する。

〈壁・底面〉壁高は7～30cmで、各部分とも僅かに外傾して立ち上がる。底面は黄褐色土層面で、平坦で堅くしまる。

遺物 (第201図、写真図版157)

床面から、あかやき土器の坏(75)が出土している。内外面にはロクロ痕以外の調整はもたず、底部内面は中央が凹む。切り離し技法は、回転糸切りで、再調整はほどこされない。

〈時期〉出土した土器の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。



第201図 I G-1号土壙・遺物

I G-2 土壙 (第202図、写真図版155)

〈検出状況〉褐色～黄褐色土層面で、粉状火山灰のブロックを含む黒褐色土の広がりとして検出された。

〈形状・規模〉1.6×1.2mの不整な隅丸長方形を呈する。

〈埋土〉2層に大別され、上部は淡黄色の火山灰ブロックを含む黒色土、下部は黒褐色土で構成される。

〈壁・底面〉壁高は9～25cmで、各部分とも緩く外傾して立ち上がる。底面は黄褐色土層面で、いくぶん凹凸はあるが堅くしまる。

遺物 (第202図、写真図版157)

埋土の下部から土器と石器が出土している。

〈土器〉76～78は土師器の甕である。76・77はロクロ成形され、口縁部は短く外傾する。76はやや大型、77はいくぶん小ぶりで雑な作りである。78は底部で、外面はヘラケズリ、内面はナデ調整が施されている。

79・80はロクロ使用の土師器の坏で、内面はヘラミガキと黒色処理が施されている。切り離し技法は共に回転糸切りで、再調整は加えられない。

〈石器〉81は側辺部に、使用に伴って生じたと考えられる擦り痕をもつ石器である。

〈時期〉出土した土器の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。

(3) 焼土

I G-1 焼土 (第203図、写真図版156)

黒褐色土層面で検出された。50×50、60×50、85×50cm大のものが3ヵ所に分布する。いずれも汚れが著しく分布も散在状態を呈することから、廃棄されたものと考えられる。

焼土内から土師器の甕と坏の破片(82～84)が出土しており、平安時代の遺構と考えられる。

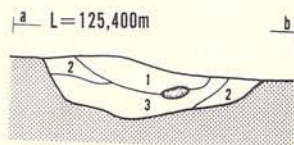
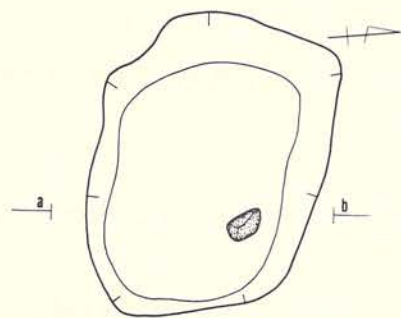
(4) 遺構外出土遺物

古代に属する遺構外出土遺物は少なく、若干の土器と土錘が出土しているだけである。この内土錘はI G-1住居跡と2住居跡の中間地点から18個がまとまって出土している。

土器 (第204図、写真図版157)

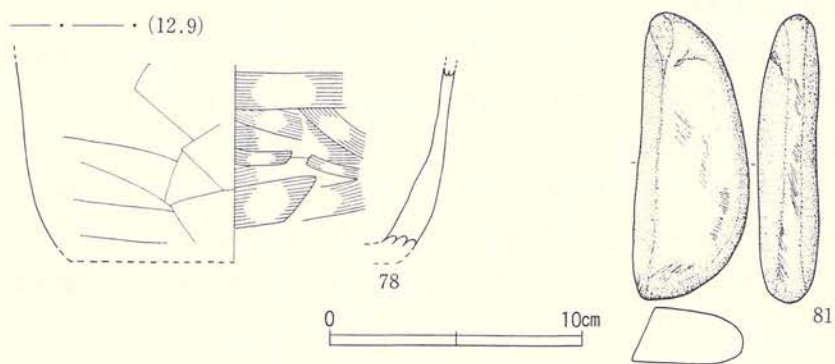
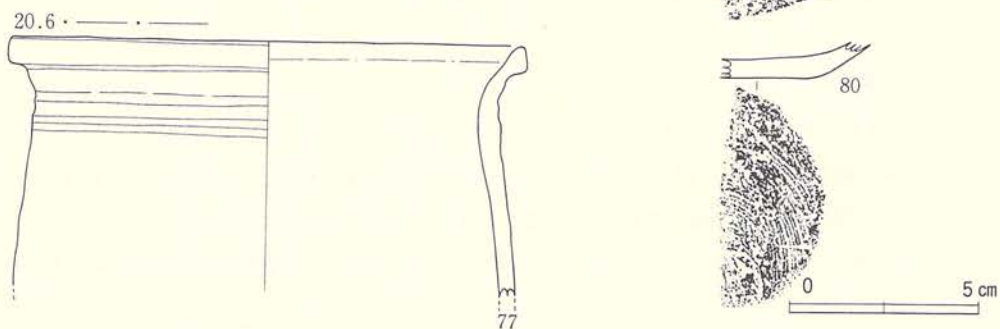
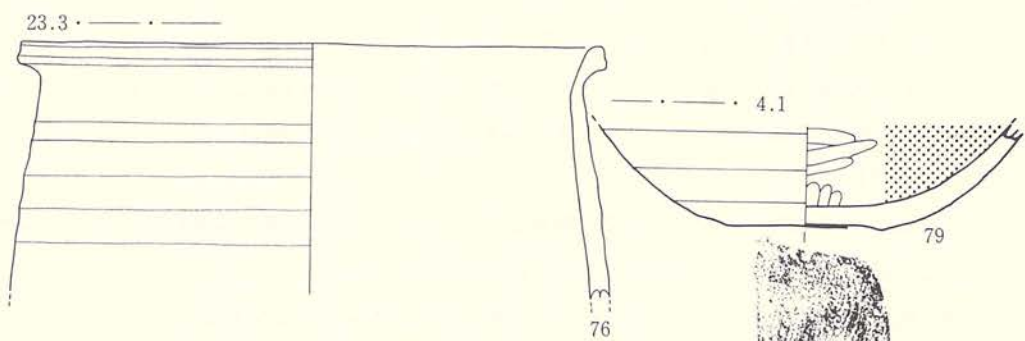
土師器の坏と甕があり、いずれも黒～黒褐色土からの出土である。85はロクロ使用の坏で、胴部は内湾気味に立ち上がる。内面はヘラミガキされ、黒色処理が施されている。

86はロクロ使用の小型の甕である。ロクロ痕以外の調整は持たず、底面には回転糸切り痕を残す。

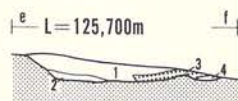
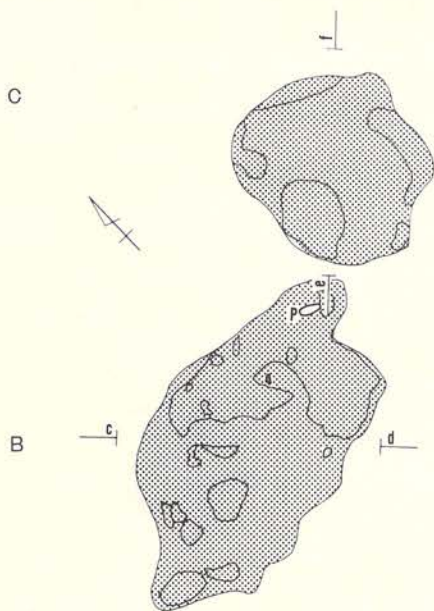


a-b

層位	色調	土性
1	7.5YR2/2 黒褐	含灰白色火山灰ブロック、焼土粒
2	10YR2/1 黒	含褐色土粒(少量)
3	7.5YR2/2 黒	含黄褐色土ブロック、焼土粒

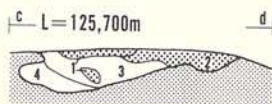


第202図 I G-2号土壌・遺物



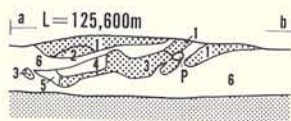
e-f

層位	色調	土性
1	2.5YR3/1 暗赤灰	含燒土粒(微量)、炭化物(少量)
2	10YR2/2 黑褐	炭化物層
3	5YR3/2 暗赤褐	燒土、含炭化物(少量)
4	7.5YR3/2 黑褐	含炭化物(微量)



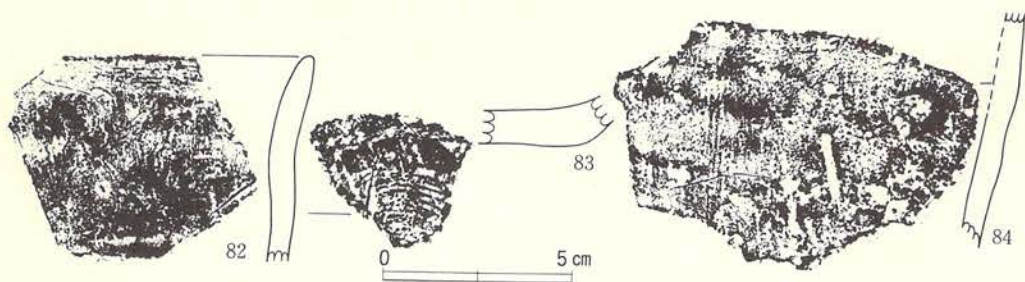
c-d

層位	色調	土性
1	5YR5/6 明赤褐	燒土、含炭化物(多量)
2	5YR2/2 黑褐	燒土
3	2.5YR2/1 赤黑	含燒土粒(少量)
4	5YR2/1 黑褐	含炭化物(少量) 燒土粒



a-b

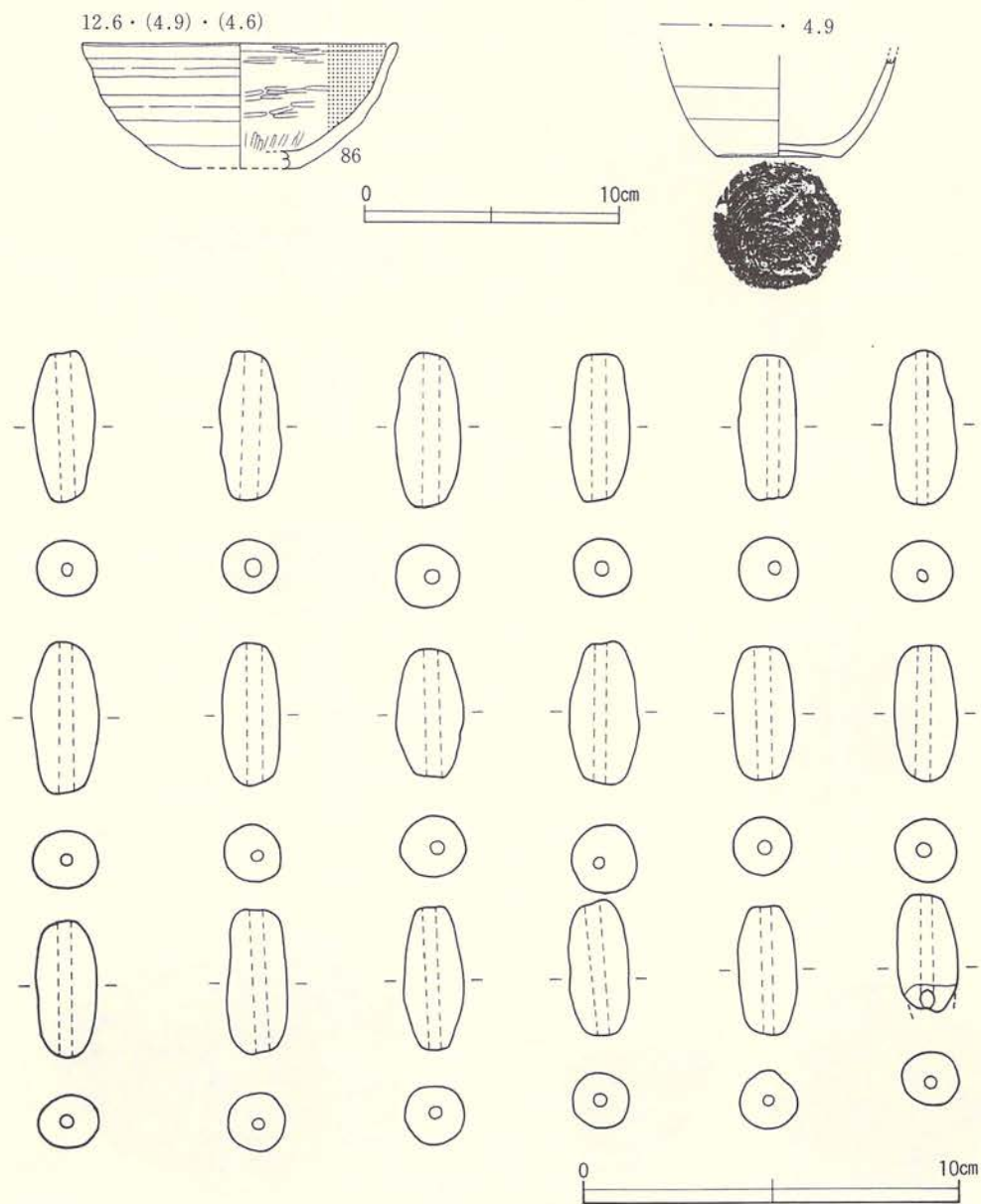
層位	色調	土性
1	10YR2/3 黑褐	燒土
2	5YR2/3 極暗赤褐	燒土
3	5YR4/4 にぶい赤褐	燒土
4	7.5YR5/6 明褐	含灰(少量)
5	7.5YR2/3 極暗褐	含燒土粒、炭化物(少量)
6	10YR2/2 黑褐	含燒土粒、黃褐色土粒(少量)



第203図 IG-1号焼土・遺物

土 錘 (第204図、写真図版157)

全て同位置地点からの出土である。いずれも中央部が僅かに膨らむ紡錘形を呈し、径3mm前後の貫通孔を有する。長さは4.5~3.5cm、厚さは1.5~1.8cmで、平均重量は8.4gである。胎土は土師器甕のそれと類似し、器面に黒斑を伴うものが多い。



第204図 古代遺構外遺物

(5) まとめ

今回の調査で検出・出土した古代の遺構・遺物について、住居跡と土器組成を中心に簡単にまとめる。

1. 竪穴住居跡

〈占地〉縄文時代の住居が密集する尾根の北側低位面（ⅡF・ⅡG区）に占地し、見掛けの上では2棟1対の小規模なまとまりで分布する。また、周辺の地形から推定して、分布域は調査区の北側にさらに広がるものと考えられる。なお、小群における各住居跡間の距離は、ⅡF区で2.2m、ⅡG区で3.5mで、やや接近しているものの同時期の存在が可能な距離と思われる。

〈規模・平面形〉ⅡF区の2棟は共に小規模で、床面積は1住居跡が約6.3㎡、2住居跡が約5.2㎡である。ⅡG区の2棟は、1住居跡が約18.8㎡、2住居跡が約21.2㎡で該期の住居跡としては通常の規模を持つ。

平面形は4棟とも方形を基調とするが、ⅡG-2住居は東西がやや長い長方形を呈し、ⅡF区の2棟は、出入口の可能性を持つ段や張り出しを持つ。また、ⅡG-1住居にはカマド脇に貯蔵穴状の土壌が張り出す。

〈カマド〉4棟全てカマドをもつ。設置される場所は、ⅡF-1住は南東の壁北側、2住は北壁西側、ⅡG-1住は東壁北側、2住は東壁南側で、小群内においても斉一性は見られない。礫等の芯材を用いこれを黄褐色の粘土質土で覆って構築されている。ⅡF区の2棟では、芯材として須恵器の大甕破片を利用しており、互いに接合する。

燃焼部は良く焼けており、ⅡG-2住居を除き支脚を伴う。煙道部の形態は、ⅡF区の2棟は不明な点を残すが、これらとⅡG-2住は掘り込み式で、ⅡG-1住はくりぬき式である。また、前者は壁際から煙出し部にかけてほぼ水平であるのに対し、後者は下降する。

〈軸方向〉カマドが設けられている壁に直交する線が、東西南北線(第十系)から偏する角度を軸方向とすると、ⅡF-1住=E-25°-S、ⅡF-2住=N-46°-E、ⅡG-1住=E-11°-S、ⅡG-2住=E-19°-Sとなる。ⅡF区では相互の隔たりが大きい、ⅡG区の2棟は、ほぼ同一方向を示している。

〈柱穴〉ⅡF区の2棟は柱穴を持たないが、ⅡG区の2棟は柱穴を伴う。竪穴住居跡における柱穴の有無は、床面積との相関関係が指摘されている(宮本,1986)。有無の境は20㎡とされ、当遺跡の事例もほぼこれと一致している。

配置は、いずれもカマドの反対側に位置する2基は住居の内側に入り、他の2基は、壁際かあるいは壁に寄った地点に設置される。

〈埋土〉4棟とも埋め戻し等の痕跡は認められず、自然堆積と考えられる。ⅡG区の2棟には、層中に粉状の火山灰の堆積が見られたが、ⅡF区の2棟はこれを欠く。

〈小結〉住居の形態面では、カマドの設置場所、軸方向に相違点が見られる一方、規模や埋土中の火山灰の有無、須恵器の接合状況から立地場所で括られる2つの小群内では、まとまりが認められる。

2. 土器

ここでは、住居ごとの土器組成についてまとめ、比較してみたい。

〈ⅡF-1住居〉あかやき土器の坏、土師器の甕、須恵器の甕から構成される。あかやき土器の坏はロクロを用い、切り離し技法は回転糸切りで、成形後の再調整は一切行われていない。

土師器の甕はいずれもロクロ不使用で、大型、中型、小型のものがある。須恵器は、カマドの芯材に使われていた大甕の破片で、外面には平行叩き目をもち、2住居のものと接合する。

〈ⅡF-2住居〉1住居と同一の組成である。異なる点は、土師器の甕にロクロ使用の可能性を持つものが1点含まれる。

〈ⅡG-1住居〉土師器の坏、高台付坏、甕、鍋、長頸壺、あかやき土器の坏から構成される。

坏は土師器、あかやき土器ともロクロ成形され、切り離し技法は回転糸切りである。これらの内、底部の切り離し後に再調整が加えられた可能性のあるものは、あかやき土器に1点あるのみで、あとは全て無調整である。量的には、あかやき土器がやや多い。

甕には、ロクロ使用のものと不使用のものがあり、量的には後者のほうが多い。また、ロクロ使用の甕は、相対的に大型である。なお、ロクロ使用の甕の内1点には、外面に叩き目痕が観察される。

鍋もロクロによる成形で、胴部の上部に把手をもつ。長頸壺は器形は須恵器のそれに類似し、胎土はきめが細かく、他の土師器とはやや異なる。

〈ⅡG-2住居〉基本的には1住居と同じ器種から構成されるが、長頸壺を欠く。また、坏では土師器が多く、甕ではロクロ不使用のものが大半を占める。なお、他の3棟には見られないものに、器面調整にミガキを用いた甕がある。

〈小結〉土器組成の点から見ると器種の割合に違いはあるものの、ⅡF区の2棟はあかやき土器の坏と、ロクロ不使用の土師器甕から成り、ⅡG区の2棟は、あかやき土器と土師器の坏及び高台付坏、ロクロ使用・不使用の土師器甕、鍋で構成される。小群内には共通性が見られるものの、小群相互では異なっており、この相違は時間的差を示すと考えられる。

差を示すと考えられる。

これらの住居について絶対年代を知り得る資料はないが、土器組成から推定して、ⅡF区の2棟は11世紀、ⅡG区の2棟は、10世紀代に位置づけられよう。

なお、ⅡG区から検出されている2基の土壌は、埋土内に火山灰が堆積することと出土した

土器の様相から、同区の2棟の住居跡に付随する遺構と考えられる。

古代住居跡観察表

No.	住居跡名	平面形	規模m	床面積㎡	軸方向	柱穴	カマド		火山灰	備 考
							位 置	煙道部		
1	ⅡF-1	隅丸方形	2.9×2.7	6.4	E-25°-S	無し	南東壁北側	掘り込み式	無し	南東壁際に不整な段。
2	ⅡF-2	隅丸方形	2.4×2.2	5.2	N-46°-E	無し	北壁西側	ク	ク	北壁東隅に張り出し。
3	ⅡG-1	方 形	4.3×4.5	18.8	E-11°-S	4本	東壁北側	ク	有り	貯蔵穴3基。掘り方あり。煙道部降下。
4	ⅡG-2	長 方形	4.8×5.4	21.2	E-19°-S	4本	東壁南側	くりぬき式	ク	貯蔵穴3基。掘り方あり。

註) ここで「あかやき土器」としたものは、底部を除く器面にロクロ痕以外の調整を持たず、酸化炎焼成された土器を指す。このような形態を持つ土器群は、「須恵系土器」「あかやき土器」「酸化炎焼成の須恵器」「赤褐色土器」等と呼ばれ、該期の土器研究の上で大きな問題となっている。しかし、長年論議が繰り返されているにも関わらず、未だ明確な定義はなされていない。ここでは、上記の特徴を以て、他の土師器や須恵器と見かけ上の区別が為し得るため(特に坏)この言葉を用いた。なお、今回は土師器としたが、ⅡG-1住出土の長頸壺がどの範疇に入るものかは今後検討したい。

《参考・引用文献》

宮本長二郎(1986)：「住居」『岩波講座 日本考古学4』岩波書店
 三浦謙一他(1988)：「飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
 佐藤嘉広他(1988)：「石田Ⅱ・寺領・西光田Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
 高橋信雄他(1982)：「岩手の土器」岩手県立博物館

5. 中世以降の遺構と出土遺物

(1) 塚・集合墓

塚と考えられる遺構は、調査区北西端から2基検出された。この地区は、段丘が2本の小沢によって開析を受け三角形に突出した部分で、2基の塚はいずれもこの自然地形を利用して構築されている。段丘崖下の水田との比高は、約22mである。現状は、50cm内外の不整な高まりで、樹木に覆われていたこともあって、事前に遺構の存在を掴むことはできなかった。

精査の結果、東側の塚（IA-1塚）は複数の火葬墓と複合していた。遺骨の検出状況から火葬墓と塚とは密接な関わりをもつと考えられるため、これらと合わせて記述を行なう。

IA-1塚（第205図、写真図版158～162、164）

〈検出状況〉粗掘時点で、集積の一部が露出したことから存在が確認された。精査の結果、後世に改築が行われていることが明らかになった。古期のものをa、新期のものをbとして記述する。

IA-1 a塚

〈規模・形状〉周溝部を含んだ規模は、東西7.2m、南北10.1m、高さ0.4mで、形状は長方形の台状を呈していたものと考えられる。

〈封土〉封土は、褐色土のブロックを僅かに含む黒褐色土が主体となり、旧表土から40～50cmの厚さで盛られている。

〈周溝〉北辺部を除いて、b塚の周溝と重複しているが、残存状況から塚の周囲を隅丸長方形（楕円形）に取り巻くものと考えられる。規模は、幅1～1.5m、深さは20～30cmで、断面形は緩いU字状を呈する。埋土は、封土の崩落による黒褐色土で構成される。

IA-1 b塚

〈規模・形状〉a塚の北側に土を盛り上げ、拡張した形となっている。周溝部を含んだ規模は、最大幅10m、長さ17.5m、高さ0.9mで、形状は三角形の台状を呈し、頂部の約7×3mの範囲はほぼ平坦である。

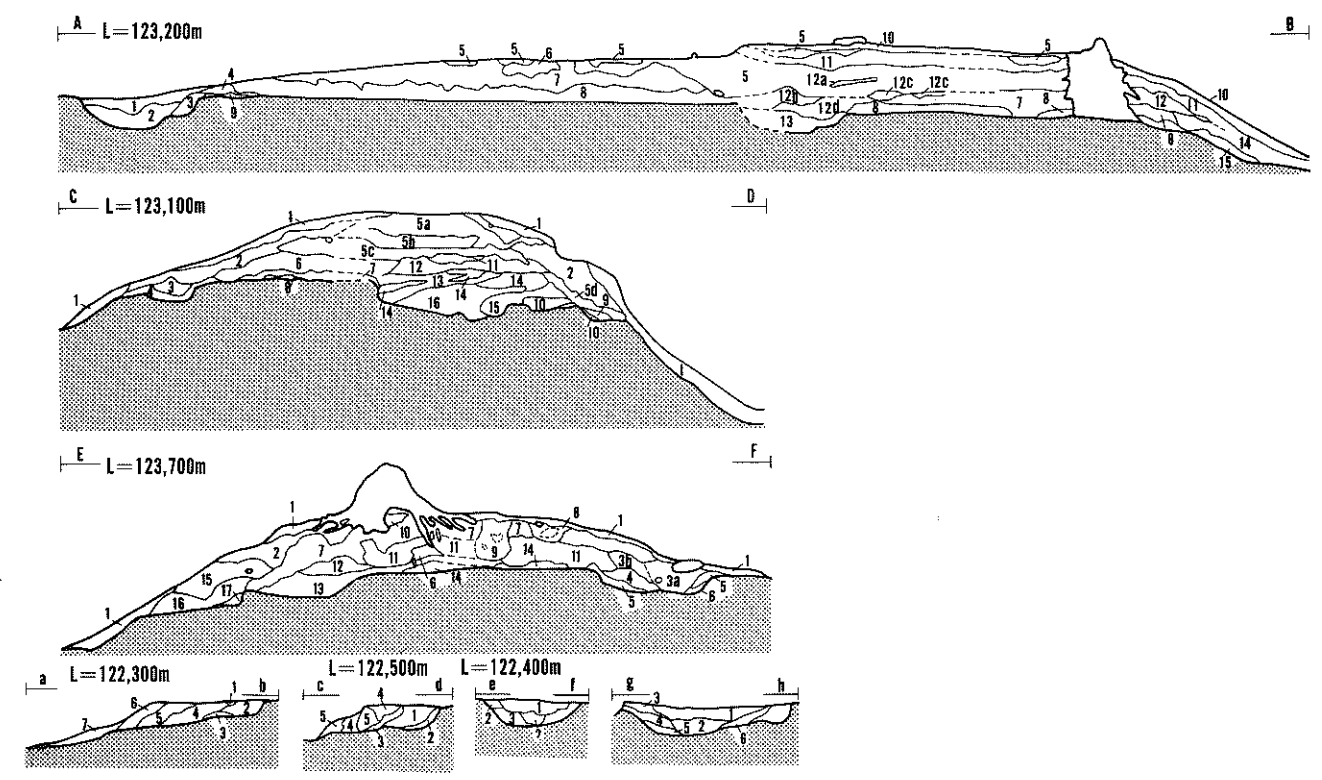
〈封土〉大きく2層に分けられる。下部は地山の黄褐色土を主体とし、上部は黄褐色土のブロックを含む黒褐色土で構成され、旧表土から50～80cmの厚さで盛られている。この封土は、a塚上にも及ぶが範囲、厚さとも多くはない。

〈周溝〉南辺部と東辺部は、a塚の周溝を再利用する形で東北部分を除いて周囲を囲む。また、南辺は東側の沢に向かって延びる。この部分がa塚の構築時点に造られたものかどうかは不明である。規模は幅1.2～1.6m、深さ12～40cmで、断面形は緩いU字状を呈する。

埋土の大部分は黒褐色土を主体として構成されるが、東辺の一部では上部に黄褐色土が見られ、この部分は人為的に埋め戻されたものと考えられる。



第205図 I A-1 塚



a-b

層位	色調	土性
1	10YR4/6	褐 混土
2	10YR2/1	黒 含黄褐色土粒(少量)
3	10YR4/4	褐 含黄褐色土ブロック
4	10YR3/4	暗褐 含黄褐色土ブロック
5	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック
6	10YR3/2	黒褐
7	10YR3/1	黒褐

e-f

層位	色調	土性
1	2.5Y7/6	明黄褐
2	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック
3	10YR2/2	黒褐 含黄褐色土粒(少量)

e-d

層位	色調	土性
1	10YR2/1	黒 含黄褐色土ブロック
2	10YR4/4	褐 明黄褐色土との混土
3	10YR4/6	褐 黄褐色土との混土
4	10YR3/2	黒褐 黄褐色土との混土
5	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック

e-h

層位	色調	土性
1	10YR3/2	黒褐
2	10YR2/3	黒褐 含黄褐色土ブロック
3	10YR3/2	黒褐
4	10YR4/3	にぶい黄褐色 含炭化物(微量)黄褐色土との混土
5	10YR5/4	にぶい黄褐色 含炭化物(微量)黄褐色土との混土
6	10YR3/1	黒褐 黄褐色土との混土

A-B

層位	色調	土性
1	10YR3/2	黒褐
2	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)炭化物(微量)
3	10YR2/3	黒褐 含炭化物(微量)
4	10YR3/2	黒褐
5	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(多量)
6	10YR3/3	黒褐 含炭化物(微量)
7	10YR2/2	黒褐 含褐色土ブロック
8	10YR2/1	黒
9	10YR5/4	にぶい黄褐
10	10YR3/1	黒褐
11	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック
12a	10YR3/4	暗褐 黄褐色土との混土
12b	10YR2/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)
12c	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)
12d	10YR3/4	暗褐 黄褐色土との混土
13	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)炭化物(微量)
14	10YR2/3	黒褐
15	2.5Y7/6	明黄褐 含黒褐色土ブロック

C-D

層位	色調	土性
1	10YR3/1	黒褐
2	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(微量)
3	10YR2/2	黒褐
4	10YR3/3	暗褐 含黄褐色土ブロック炭化物(微量)
5a	10YR5/6	黄褐 含小礫、褐色土との混土
5b	10YR2/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)
5c	10YR3/4	暗褐 黄褐色土との混土
5d	10YR4/4	褐 黄褐色土との混土
6	10YR2/2	黒褐 含褐色土ブロック
7	10YR2/1	黒
8	10YR5/4	にぶい黄褐
9	10YR4/4	褐 黄褐色土との混土
10	10YR6/6	明黄褐 黒褐色土との混土
11	10YR2/1	黒 含黄褐色土ブロック(微量)
12	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(微量)
13	10YR2/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(微量)
14	10YR4/4	褐 黄褐色土との混土
15	10YR6/6	明黄褐 黒色土との混土
16	7.5YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック、炭化物(微量)

E-F

層位	色調	土性
1	10YR3/1	黒褐
2	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック(微量)
3a	10YR2/1	黒 含黄褐色土ブロック
3b	10YR2/3	黒褐
4	10YR2/2	黒褐
5	10YR2/1	黒 含黄褐色土粒
6	10YR4/4	褐
7	10YR3/4	暗褐
8	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土粒(埋葬人骨)
9	10YR3/3	暗褐 含黄褐色土粒(埋葬人骨)
10	10YR2/2	黒褐 含炭土粒、炭火物(埋葬人骨)
11	10YR3/2	黒褐 含黄褐色土ブロック
12	10YR2/1	黒 含黄褐色土ブロック
13	10YR2/1	黒 含黄褐色土ブロック(少量)
14	10YR2/1	黒
15	10YR3/1	黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)
16	10YR3/1	黒褐
17	10YR4/6	褐 黄褐色土、黒褐色土との混土

〈集石〉頂部から東側を中心に、長径75cmの大型のものから拳大までの川原礫が散在する。崩落等で原位置を保っていないものも存在すると考えられるが、一部で集中する所も見られ、集石状を呈する。

礫のまとまりは、6カ所程捉えられる。頂部付近では、径50cm大の扁平な大型礫と拳大の礫が葺き石状に分布する。東側では、長径60cm大の長楕円形の大型礫3～5個が並べられているものや、これの上部や周辺に拳大の礫を集めているもの等がある。

これらの礫群は、いずれも現表土中に存在し、封土内や周溝の埋土中には見られない。

〈火葬墓〉遺骨は全て火葬骨で、9カ所から検出された。掘り込みが浅いことや木根による攪乱のため、地点や墓壙の規模等は明確に把握できなかった。

封土断面の観察では、径40～50cm、深さ25～60cmの小土壙内に埋納されているのが4基確認された。いずれもb塚の封土を掘り込んでいるが、内1基はさらに上部を封土に覆われている。土壙の上位に小礫群を伴うものが1基あるが、集石との相関関係が明らかなものはない。副葬品を伴うものは6基で、いずれも寛永通寶である。

〈土壙類〉塚を切る形で2基(P₁・P₂)、封土除去後に4基(P₃～P₆)が検出された。いずれからも遺物は出土しておらず、性格は不明であるが、埋土の状況及び形状からP₅とP₆は土取り穴の可能性はある。

P₁は周溝東辺の北側に位置し、周溝の西壁を切っている。規模は62×40cm、深さ50cmで、平面形は長方形を呈する。

P₂は周溝東辺の中央に位置し、周溝の東壁を切っている。規模は53×39cm、深さ33.5cmで、形態は柱穴状の小土壙である。

P₃は、旧表土除去後に検出された。a塚周溝内北西部に位置する。規模は径36cm、深さ52cmで、形態は柱穴状の小土壙である。

P₄も旧表土下から検出された。b塚の北東部に位置する。規模は径31×39cm、深さ47cmで、形態は柱穴状の小土壙である。

P₅・P₆は共に、b塚北西端部の封土下位から検出された。2基は結合し、全体は不整な凹みとなっており、底面は凹凸が著しい。2基を合わせた規模は幅2.1～3.1m、長さ6.7m、深さ30～57cmである。埋土は、黄褐色土と黒褐色土の混合土で構成される。

遺物 (第206図, 写真図版157)

〈出土状況〉磁器と古銭が出土している。古銭の内6点は遺骨の周辺部から出土した。磁器は、a塚の封土の上部に散在した状態で出土した。

〈磁器〉写真図版a～gは白磁四耳壺の破片で、同一個体である。a～dと肩部片で、内面上端は内削ぎ状になっており、断面の観察から頸部は別造りと考えられる。肩部と胴部の境には

明瞭な稜をもち、この上位に横耳を有する。eは耳で低い橋状を呈し、頂部に2本の沈線をもつ。gは胴部片で、丸味をもって底部に続き、下方に向かって厚みを増す。

胎土は粗く、断面に多くの鬆穴が見られる。釉は透明で薄く、内面は斑で露胎の部分も見られる。

なお、この白磁について東京国立博物館矢部良明氏から、「埼玉県東松山市光福寺境内、元享3年(1323)銘宝篋印塔々基出土の白磁四耳壺と類似する」との御教示を受けた。

〈古銭〉1は皇宋通寶(初発年次1037年)であるが、文字が明瞭でないことや文字間に穴があることから、所謂本邦悪銭の類であろう。2～7は寛永通寶で、2～5は古寛永、6・7は新寛永である。8は鑄のため銘が判読できない。また、いずれも火を受けた痕跡を持つ。

〈時期〉墓壇の検出状況や出土した古銭から、b塚は近世(江戸期)に集合墓として構築された可能性が強く、集石の状態からみてこの後数回の改築が行われたものと考えられる。

a塚に関しては、直接時代を判断できる遺物はなく詳細は不明といわざるをえない。出土状況から積極的な資料とはいえないが、白磁の四耳壺は経塚に伴って出土する例が多く、この点からするとa塚が中世の経塚の可能性はある。

I A-2 塚 (第207図, 写真図版163・164)

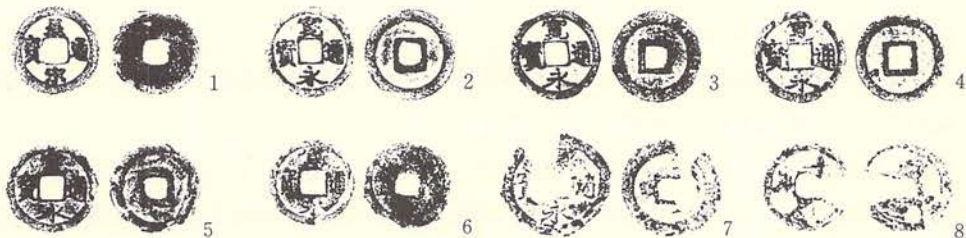
〈検出状況〉現状では、約50cmの不整な高まりであった。現代の攪乱を多く受けている。

〈規模・形状〉周溝部を含んだ規模は、東西5.7m、南北9m、高さ0.5mで、形状は長方形の台状を呈する。

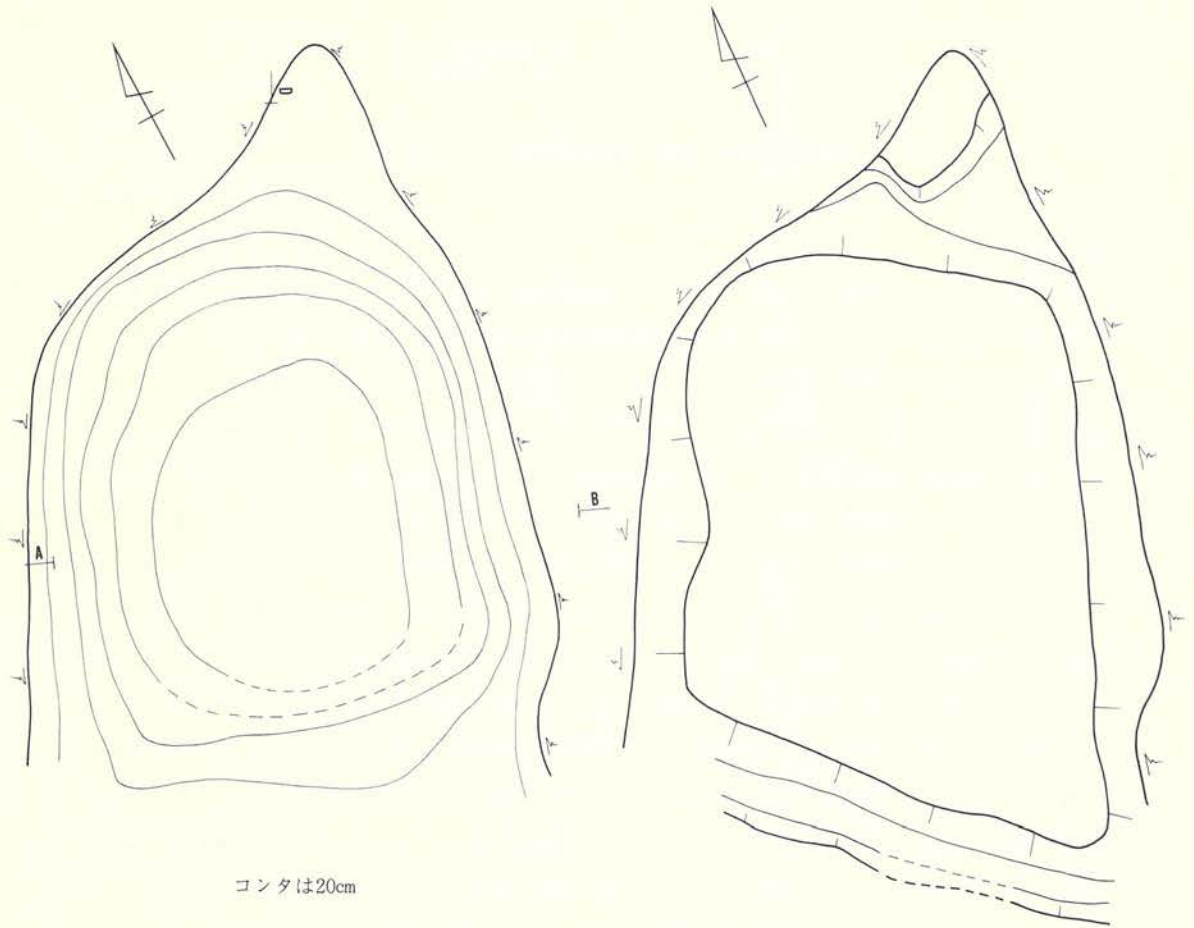
〈封土〉封土は、褐色土のブロックを僅かに含む黒褐色土が主体となり、旧表土から30～40の厚さで盛られている。層相はI A-1 a塚の封土に似る。

〈周溝〉南側と北側に検出されているが、全体を囲むものではない。規模は幅0.9～1.2m、深さ10～30で、断面形は緩いU字型を呈するが全体に不明瞭である。

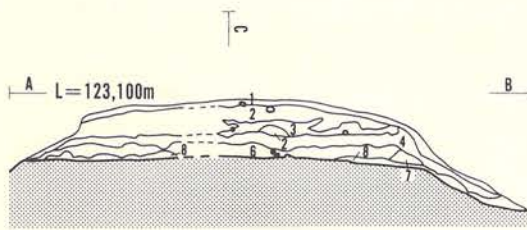
〈時期〉出土遺物はなく時期は不明であるが、隣接する1塚との関わりが考えられる。



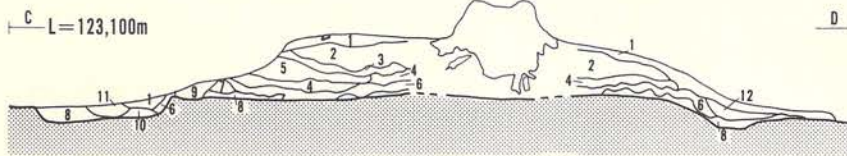
第206図 I A-1 塚出土遺物



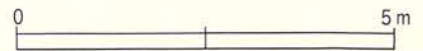
コンタは20cm



A-B		
層位	色調	土性
1	10YR4/3	にぶい黄褐
2	10YR4/4	褐
3	10YR4/4	褐
4	10YR3/3	暗褐
5	10YR2/2	黒褐
6	10YR2/3	黒褐
7	10YR2/3	黒褐
8	10YR5/3	にぶい黄褐



C-D		
層位	色調	土性
1	10YR4/3	にぶい黄褐
2	10YR4/4	褐
3	10YR4/4	褐
4	10YR3/3	暗褐
5	10YR2/2	黒褐
6	10YR2/3	黒褐
7	10YR2/3	黒褐
8	10YR5/3	にぶい黄褐
9	10YR2/1	黒
10	10YR3/2	黒褐
11	10YR4/3	にぶい黄褐
12	10YR2/2	黒褐



第207図 I A-2 塚

Ⅵ 考察とまとめ

1. 縄文時代

(1) 集落について

住居跡：本郷遺跡からは22棟の竪穴住居跡が検出されたが、平安時代の4棟を除いた他はすべて縄文時代中期に属する。これらの住居跡は、遺跡西側のG、H区に集中している。地形的にはやや緩斜面に位置しており、平坦な面はここより更に西側に延びている。集落の中心部分はこの平坦部と想定され、発掘した地区は集落の縁辺部に相当するものと考えられる。

土器型式別に分類すると大木7a式期2棟、7b式期8棟、8a式期6棟、断定できないもの2棟である。7a式期はG区とH区に1棟ずつ、7b式期もG、H区に集中しているが1棟のみJ区に離れて存在している。8a式期は3棟がG、H区の密集地区にあるが他の3棟の西端のB区、平安時代の住居と同じやや低い面のIH区にあり、分散する傾向が認められる。土器型式からのみ判断すると大木7a～8a式まで連続しているが、実際は住居跡と陥穴、土壌が数多く重複しており、何回かの断絶期間を挟んでいるものと考えられる。

土 壌：様々なタイプの土壌が数多く検出されたが、ここでは集石を伴う土壌について述べる比較的小規模な円形プランで、そのなかに数個の礫を伴う遺構は、散發的ではあるが県内外で検出されている。しかし、その性格については不明としているものが多い。本郷遺跡での特徴を挙げると、住居跡群からは離れた位置にあること、集中して存在しており同一遺構の重複が認められないこと、焼土、炭化物、焼石は検出されるが火を用いた痕跡が無いなどである。したがって、貯蔵穴、調理施設とはなりがたく、墓塚とするにも規模は小さく、かつ副葬品も認められない。配置からすると、ほぼ同一時期に造られたものと判断され、埋土は人為的なものの方が多い。このことは土壌に石を置き、それを埋めることが目的であったことを示している何等かの儀礼的行為のための施設、と判断しておきたい。

(2) 縄文土器について

大木式土器の提唱者である山内清男博士が、大木7a、7b式として公表した資料は岩手県史第1巻（小岩1961）の数葉の写真のみである。それによれば大木7a式は、突起部分に半截竹管の二段の連続刺突文と体部に縦の平行沈線文のある深鉢、同じ半截竹管文が横、縦走る2本の平行沈線間に連続刺突文が巡る深鉢あるいは浅鉢の胴部片、口唇部に刻目があり橋状把手の付く破片、以上が精製土器で、粗製土器は複合、山形口縁、平縁で地文はタテヨコの結節縄を伴う。地文以外は粘土紐貼付けによる「八」状の文様がある。大木7b式は、大波状あるいは山形口縁の深鉢が3点、浅鉢と思われる資料が4点示されている。前者のうちの2点は刻目のある隆帯が波頂部に平行および縦に3本、施文されている（類例は本遺跡にも認められる。第25図12、134図107他）。もう1点は山形突起状の左右にX字状の半截竹管連続刺突、キャリパー状の

口縁部には隆沈線による曲線文が施文されている。後者は口縁部にボタン状貼付文、口唇部撚糸圧痕文、X字状区画の中に撚糸圧痕などが見られ、体部は縦の粘土貼付のY字状文1点で、他は無文あるいは結節を含む縄文である。

以上の資料と本郷遺跡の土器と比較すると、7a式においては山内資料に見られる半截竹管による連続刺突文が全く存在しないことが挙げられる。粗製土器はいくつかの類似する例が認められる（第147図370、148図379他）。7b式においては7a式にも見られた連続刺突文が全く存在しない事が挙げられる。他の深鉢や浅鉢は多くの類例がある。

大木7式については多くの研究者により細分が試みられているが、型式名の使用は別として7a式の前に糠塚式（加藤1955）をおき、中期の初頭に位置づけるのは大方の一致するところであろう。糠塚式は長根貝塚（藤沼1969）の資料により内容が明確にされ、7a式をⅠ、Ⅱ段階に細分する説、7式を古、中、新相に分ける説（丹羽1989）や、糠塚、長根貝塚、山内資料を含めて7a式とする説（相原1986）などが提唱されている。相原説によると、糠塚式、長根3群土器は大木7aの古式に、山内資料の7a式は7aの新式になろうか。丹羽説も古相を糠塚、長根の資料に、中相を山内7a式資料に、新相を山内7b式資料に充てている。

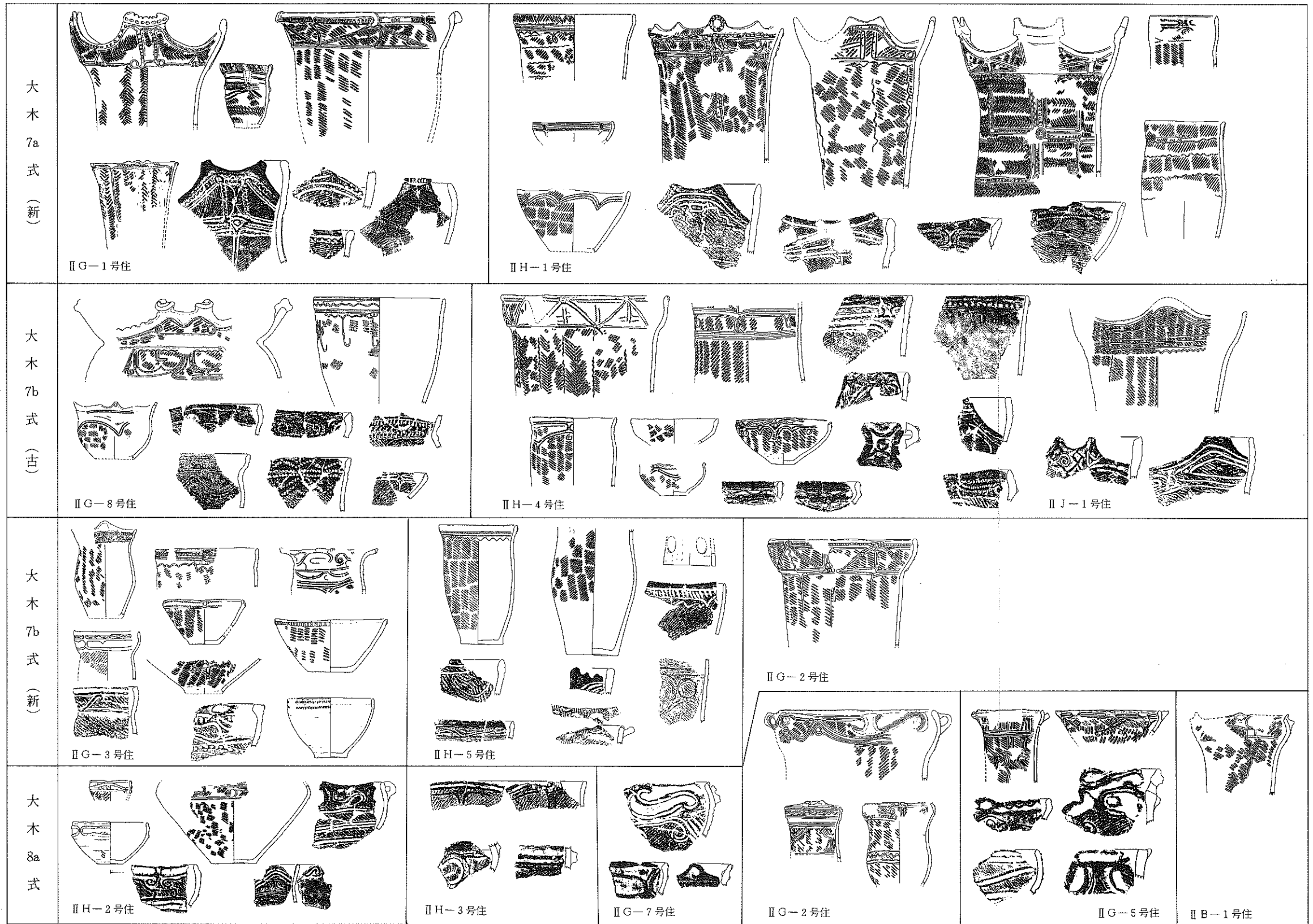
本郷遺跡の大木7a式：これに相当する資料はⅡG-1号住居跡床面出土土器、ⅡH-1号住居跡床面および3層出土の一部の土器、遺構外出土の1類土器である。器種は深鉢と浅鉢で、比率はおおよそ10:1である。深鉢の口縁は4個の大波状、山形、平縁があり、口頸部が膨らみ口縁部が外反する器形は波状口縁の土器に多い。文様帯は口頸部で区画される例多いが、体部下半まで展開するものもある。施文手法は隆線文、沈線文を基本とした交互刺突文、連弧文、三角文、円文、短沈文、X字状文、渦文や円、三角形の刺突文、円、半円、X字状の貼付文などで、沈線は棒状工具が多く、隆線は単純な貼付けではなく、両側を整形している。地文は、縄文、結節・結束縄文の縦回転が多く、横回転は量的に少ない。押圧縄文、撚糸圧痕文は見られない。浅鉢は類例が乏しく、体部下半のみで縄文と無文である。6類とした遺構外出土の浅鉢の中には7a式が含まれているかも知れないが層位的な裏付けを欠く。以上の特徴を有する土器群であるが、7a式のその他の特徴、半截竹管文（連続刺突文）、三角形の彫去、橋状把手、押し引き沈線、あるいは金魚鉢形の深鉢が欠落している。ただし、本郷遺跡で欠落しているこれらの要素は隣接する石曽根遺跡、煤孫遺跡（註1）では出土している。これらの器形、文様は7a式では古い要素であることが宮城県長根貝塚、北上市滝ノ沢遺跡（稲野1983）、大迫町天神ヶ丘遺跡（草間他1974）、盛岡市大館遺跡（武田他1978）、で明らかにされている。したがって、本遺跡で大木7a式とした土器は、これを新旧あるいは新古と二分した場合は新期に含まれる。これが丹羽氏の7式中相に相当するか否かは、さらに分布、施文方法、文様、器形等の詳細な比較検討が必要である。

本郷遺跡の大木7b式土器：7b式に相当する土器はⅡG-8、ⅡH-4、ⅡJ-1、ⅡG-3、ⅡH-5、ⅡG-2、ⅡG-5号住居跡床面および埋土出土土器と遺構外出土器の2類の一部、3類、4類、6a類である。器種は深鉢、浅鉢が基本で1例円形の透かしのある台付き土器（第75図3）がある。浅鉢の占める割合は7a式よりは多くなる。深鉢の器形は大波状口縁が減少し、山形あるいは突起口縁に変化し、平縁も多くなり、口縁部がやや内傾して膨らむ器形が多くなる。文様帯は口頸部で区画されるもの多く、体部にまでおよぶものは少ない。施文手法は隆線文、沈線文、原体圧痕文を基本とした山形文、波状文、連弧文、渦文、Y字文、短沈線、押圧縄文、撚糸圧痕文、刺突文、刻目文、曲線文などである。地文は縄文の縦回転が多く、結束・結節縄文は減少する傾向が見られる。まれに複節縄文あるが撚糸文は無い。浅鉢は一部（第68図12、142図268）を除いて平縁で、口縁部が内湾するもの直立するもの、外反するものがある。施文手法は原体押圧が多く、刺突列、隆帯の刻目文等は類例の少ない文様である。体部にまで施文が及ぶのも特徴の一つである。以上の土器群は、半截竹管文が存在しないことを除けば、山内資料の大木7b式に相当する。そしてこれらの土器は互いに重複する遺構からも出土している。7b式期の重複は住居跡のまとめで述べたような関係にあり、住居跡の新旧の土器および単独住居の類似する土器を配列したのが図Aである。これによると、ⅡG-8、ⅡH-4、ⅡJ-1号住居の土器が古く、ⅡG-2、ⅡG-3、ⅡH-5号住居がこれに続く。

本郷遺跡の大木8a式土器：8a式に相当する土器はⅡG-2号住居埋土上層、ⅡG-5、7号住、ⅡH-2、3号住、ⅠB-1号住床面および埋土出土の土器と、遺構外出土の5、6b類である。器種は深鉢と浅鉢が基本である。深鉢は平縁が多くなり、波状口縁は殆ど見られないが口縁の一部が突起あるいは山形となるものはある。口縁部はゆるやかなキャリパー状が最も多く、これに外反するもの、直立するものが続く。

以上を模式化すると

住居跡 土器	ⅡG-1	ⅡH-1	ⅡG-8	ⅡH-4	ⅡJ-1	ⅡG-3	ⅡH-5	ⅡG-2	ⅡG-5	ⅡB-1	ⅡH-2	ⅡG-7
7 a	↑ 床直	↑ 床直・3層										
7 b (古)	↓ 埋土	↑ 2・3層・2層	↑	↑	↑	↑	↑					
7 b (新)						↑	↑	↑ 床面・埋土下	↑ 床面			
8 a								↓ 埋土上	↑ 埋土	↑	↑	↑



付図 住居跡出土土器一覽 (縮尺不同)

となる。付図として、これらの代表的土器をP 289、290に示しておいた。和賀川流域で同様の時期の遺物が出土しているのは、本郷より約4 km下流に位置する梅ノ木遺跡（吉田1981）がある。大木7b、8a式を主体としており、出土した土器も当遺跡とほぼ同じ特徴を有している。この他には旧江釣子村にある鳩岡崎遺跡、衣川村北館遺跡などでも同様の資料が出土しており、これら一群の土器は北上川中流域における大木7b式の地域性を示す良好な資料となりえる。

註1：いずれも当センターの調査によるもので、報告書はそれぞれ1992、1993年刊行の予定。

相原 淳一他	1986	「小梁川遺跡」	宮城県文化財調査報告書117	
田村 壮一他	1980	「北館・伝大手門遺跡」	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書V	
			岩手県教育委員会	
吉田 努他	1981	「梅ノ木遺跡」	同上	IX
相原 康二他	1982	「江釣子村鳩岡崎遺跡」	同上	XV-1、2
加藤 孝	1956	「宮城県登米郡新田村糠塚貝塚について」	地域社会研究会資料7	
草間 俊一他	1974	「天神ヶ丘遺跡」	大迫町教育委員会	
稲野 裕介他	1983	「滝ノ沢遺跡」	北上市文化財調査報告33	
熊谷 常正	1989	「北上川中流域における大木8a式土器」	岩手県立博物館研究報告7	
武田 将男他	1978	「大館町遺跡」	岩手大学考古学研究会	
丹羽 茂	1989	「中期大木式土器様式」	縄文土器大観3	
藤沼 邦彦他	1969	「長根貝塚」	宮城県文化財調査報告書19	

2 弥生時代

弥生時代に属する遺構は土壙3基のみである。プラン、埋土には共通性があるが調査区の両端に位置している。本文では再葬墓と考えられると述べたが、これを再葬墓とすると北関東・東南北部に一般的に見られる完形の精製土器や玉類を副葬品として伴う例とは異なる墓制と思われる。それは出土する土器が壙あるいは小型の鉢であること、副葬品をまったく伴わないなどによる。同様の例は旧和賀町では鳥谷脇Ⅱ遺跡（浅田1992）がある。ここでも土壙のみの検出であり、住居跡等の遺構は検出されていない。居住空間と墓域がある程度距離をもって存在していたと考えられる。県内ではこの時期に属する多くの住居跡が検出されているが、墓の存在については不明の点が多く、明確な遺構は検出されていない。住居と墓が距離を置いて別個に存在すると考えるならこれらの遺構の在り方は納得ができよう。

浅田知世・鈴木明美1991「鳥谷脇Ⅱ遺跡調査報告」和賀町文化財調査報告書26

3 中世以降

古代の遺構、遺物については本文中でまとめてあるので割愛し、ここでは中世以降について触れる。和賀郡地方には中世から近世にかけての経塚、塚の形をした墓（墳墓）が他の地域より数多く存在している。が、経塚そのものは墳墓より類例に乏しい。明確に経塚あるいは経塚

と推定されているのは北上市鬼柳古墓群1号塚(桜井他1953)、同福田蝦夷塚(菊池1955)、同南館遺跡(菅原1980)、東和町丹内山神社参道上の塚(草間1965)などが知られているが、丹内山を除いては明確な遺構、遺物は検出されていない。このうち南館例は中世末から近世初期と考えられる一字一石経を伴う経塚である。

規模、形態は不明確な丹内山を除くと長方形、円形で、殆どに空濠が巡り、8~20数mの径を有している。年代は中世に属すると思われるが、本県で年代の判明している最古の例は太平洋に面する宮古市和見ある永和2年(1376)の年号を刻んだ一字一石板碑である。当遺跡の1号塚が14世紀に属する白磁を出土していることは、これに近い時期のものと考えられる。また、隣接する遠野市山谷観音堂には天正12年(1581)の銘のある金銅製の経筒が知られている。

和賀地方には明確に中世に属する経塚出土の経筒は知られていないが、北上市口内町水神新山神社裏発見と伝えられる13世紀代の常滑壺は経筒の可能性がある。1号塚の白磁片は経筒として使用されたと考えられ、2号塚も同様と推測される。礫経塚も和賀地方では多く知られているが、本郷遺跡では一字一石経は皆無であり、これらは中世末期から近世に属するものが多いようである。塚に単数、複数の遺体を伴う火葬墓は中世から和賀郡に多く、上述の鬼柳、蝦夷塚、南館のほか旧和賀町梅ノ木古墓群(菊池1978)、北上市宝積寺古墓群(菊池1957)、旧江釣子村鳩岡崎遺跡(石川他1982)などが調査されている。これらは中世末期から江戸時代にかけてのものが多く、永楽通宝に代表される宋銭が多く寛永通宝は殆ど出土していない。I A-1 b塚とこれらの古墓群がどのような関連を有するのか、今後の課題である。

石川長喜・相原康二 1982「江釣子村鳩岡崎遺跡」東北縦貫道埋文調査報告XV-1,2

菊池啓治郎 1955「和賀群岩崎村福田蝦夷塚発掘報告」岩手史学研究18

同 1975「北上市口内町宝積寺古墓群の調査」古代23

同 1978「和賀町史」和賀町

草間 俊一 1965「岩手県和賀郡丹内山神社経塚」日本考古学年報13

桜井清彦・菊池啓治郎「北上市鬼柳町古墓群調査報告」古代11

菅原弘太郎 1980「南館遺跡」東北新幹線埋文調査報告VI 岩手県教育委員会

附表：I B-1号住居跡石器観察表

番号	器種	出土地点	長さcm	幅cm	厚cm	重量g	石質	産地
4	擦石	床面	13.4	6.3	3.4	385	輝石安山岩	夏油川、新第三系、鮮新統
5	〃	〃	12.4	6.0	5.4	590	細礫質淡緑凝灰岩	奥羽山地 〃 中新統
6	〃	〃	8.7	7.5	3.5	319	デイサイト	鈴嶋川 夏油川 〃 〃
7	〃	〃	14.9	6.7	5.3	857	輝石安山岩	夏油川 〃 鮮新統
8	〃	埋土	17.5	6.8	4.1	653	〃	〃 〃 中新統
9	〃	〃	9.4	7.0	3.6	493	〃	〃 〃 鮮新統
10	〃	〃	18.7	8.5	4.4	1088	淡緑色砂質凝灰岩	奥羽山地 〃 中新統
11	〃	〃	14.3	7.0	5.1	692	輝石安山岩	夏油川 〃 鮮新統
12	〃	〃	8.3	7.0	3.5	323	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 〃 中新統
13	〃	〃	9.4	7.0	3.6	355	輝石安山岩	夏油川 〃 鮮新統
14	〃	〃	14.8	7.7	4.7	749	〃	〃 〃 〃
15	〃	〃	17.4	7.1	3.7	737	片麻岩	和賀仙人、古生界
16	〃	〃	17.8	7.6	4.4	825	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系、中新統
17	〃	〃	17.4	7.6	3.0	653	〃 砂質凝灰岩	〃 〃 〃
18	〃	〃	18.1	8.5	4.6	975	〃 〃	〃 〃 〃

写 真 图 版

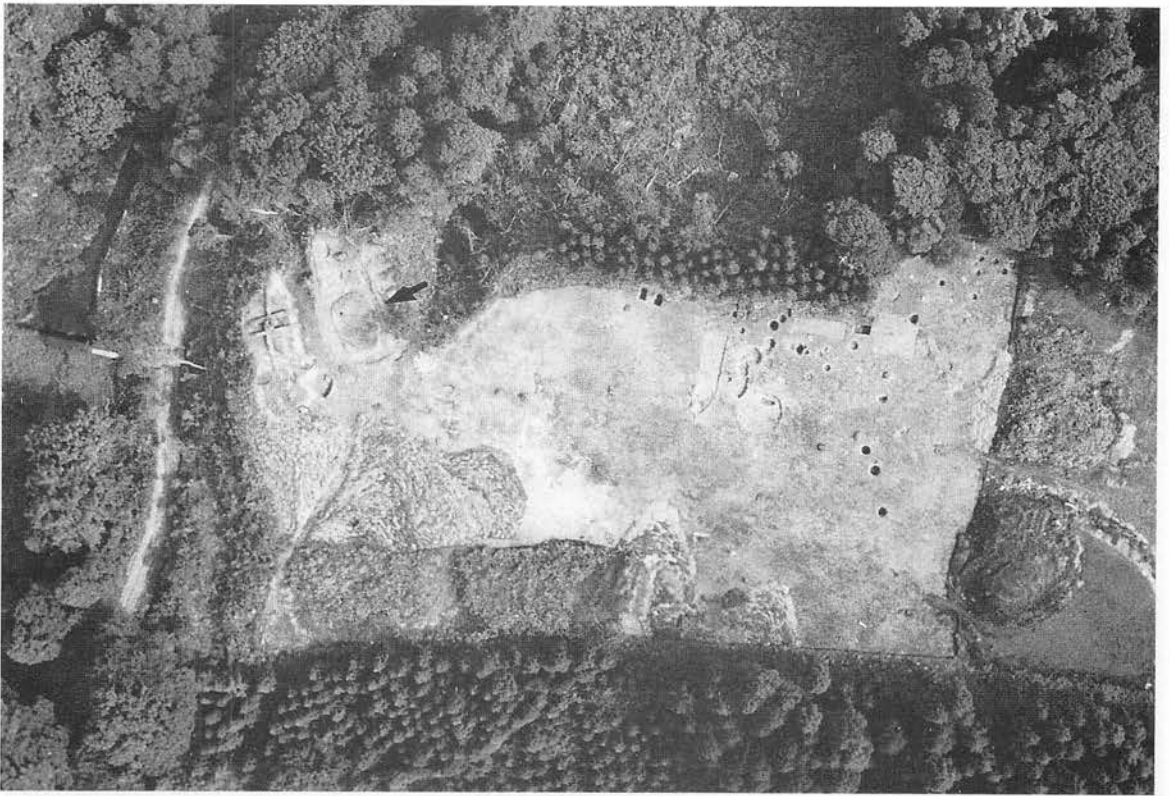


本郷遺跡全景（南西から。1989年10月11日撮影）

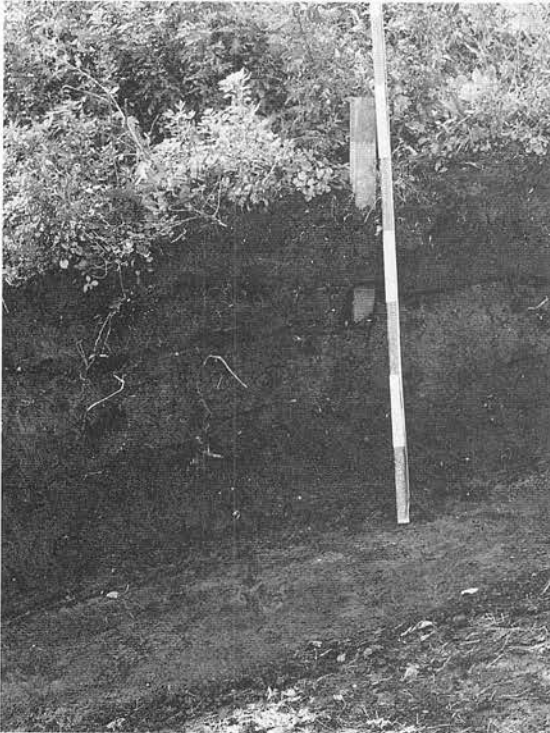


1989年度調査区

写真図版1 空中写真(1)



1990年調査区域 (A~D区・南西から)



II H区基本層序



II I区基本層序

写真図版2 空中写真(2)・基本層序

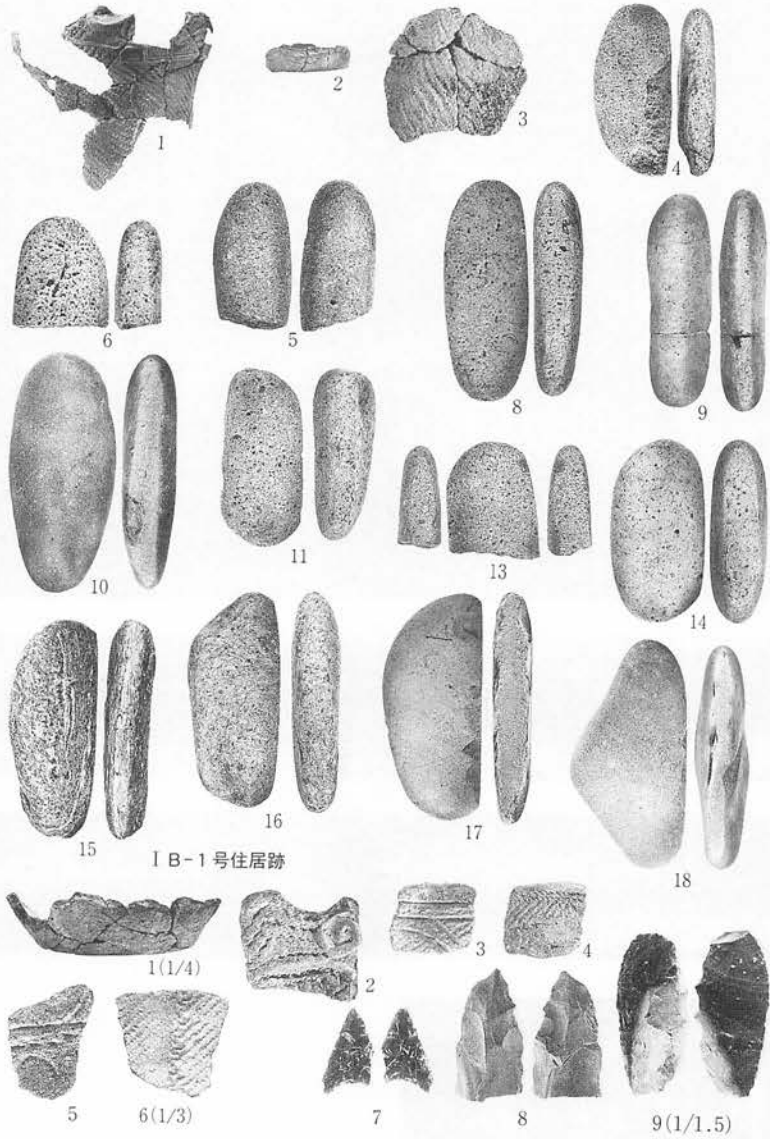


埋土断面



礫出土状況

写真図版3 IB-1号住居跡

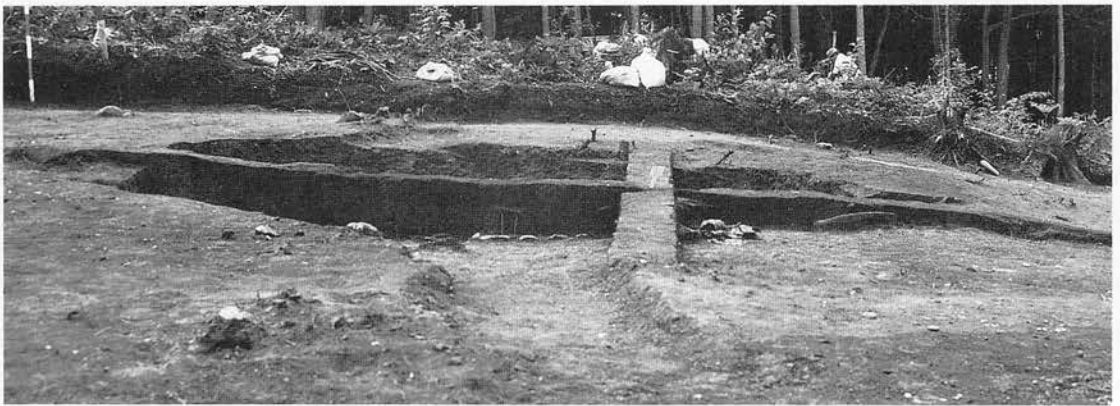


(ナンバーは実測図に同じ、以下同)

写真図版 4 I B-1 号、2 号住居跡遺物

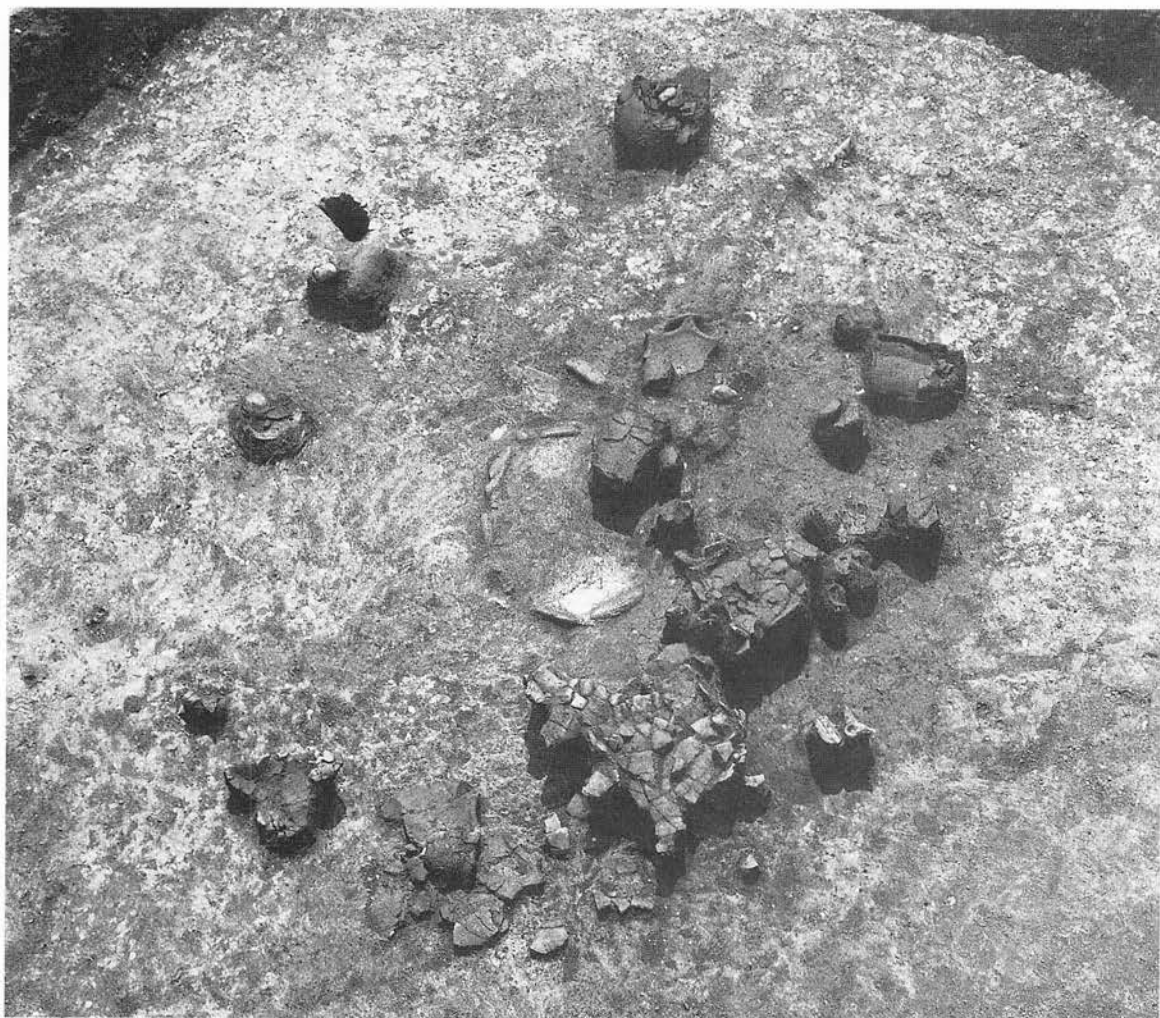


Ⅱ G-1号住居跡 全景（北から）

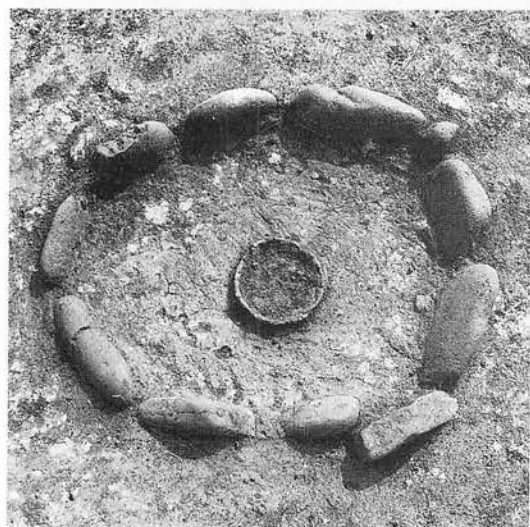


埋土断面（東から）

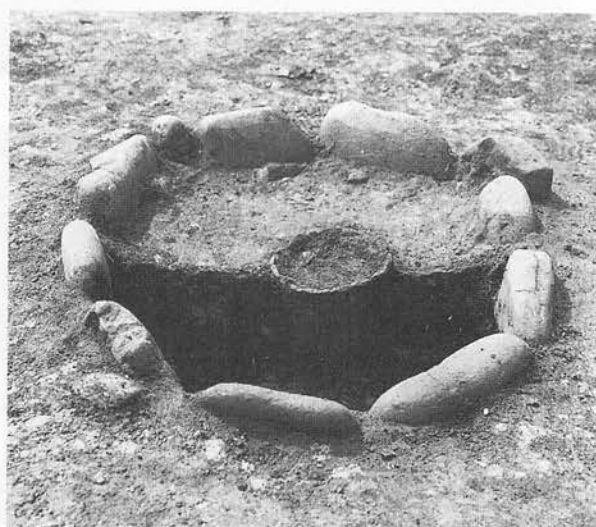
写真図版5 Ⅱ G-1号住居跡(1)



床面遺物出土状況



平面（西から）



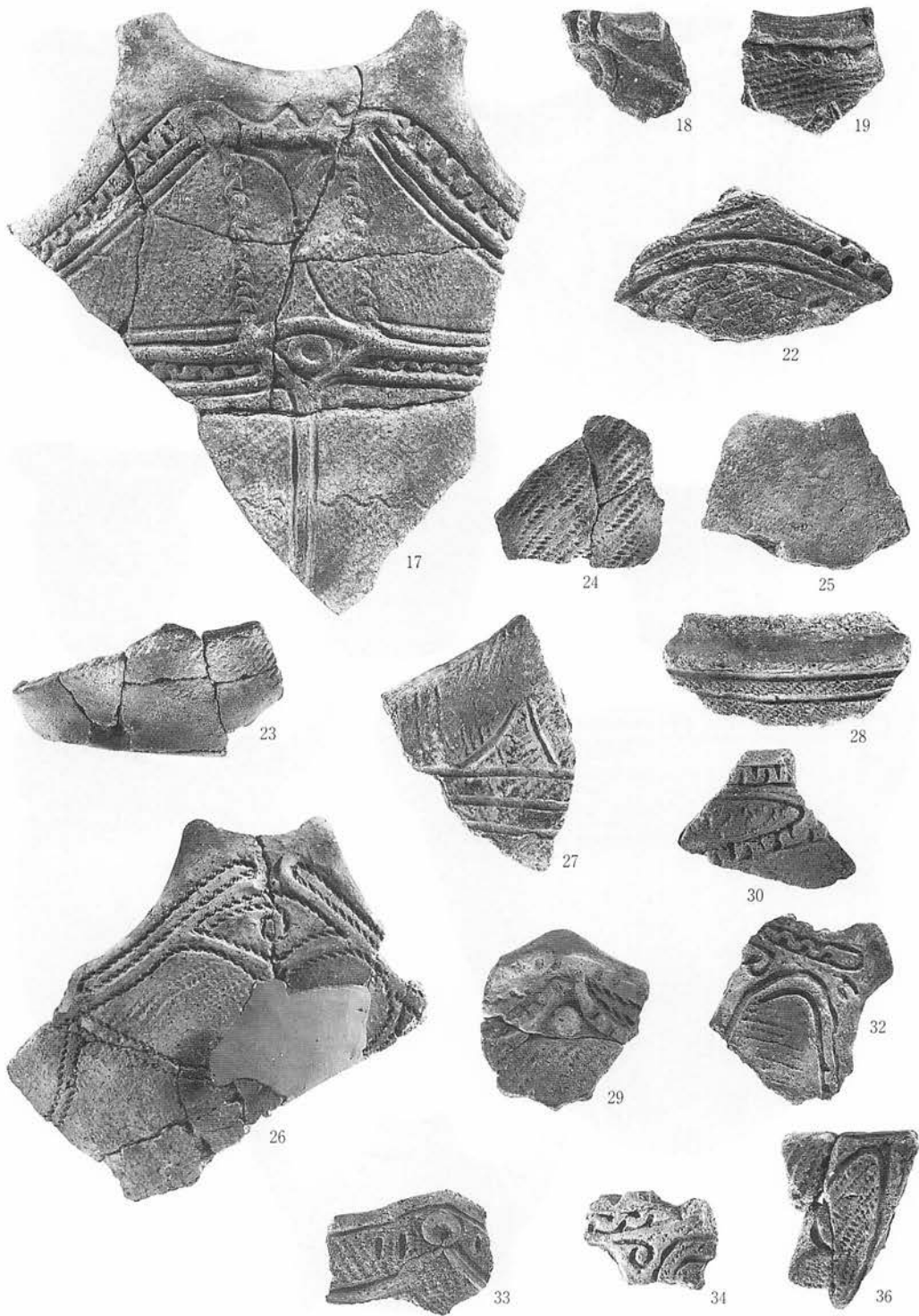
断面（東から）

土器埋設石囲炉

写真図版 6 II G-1 号住居跡(2)



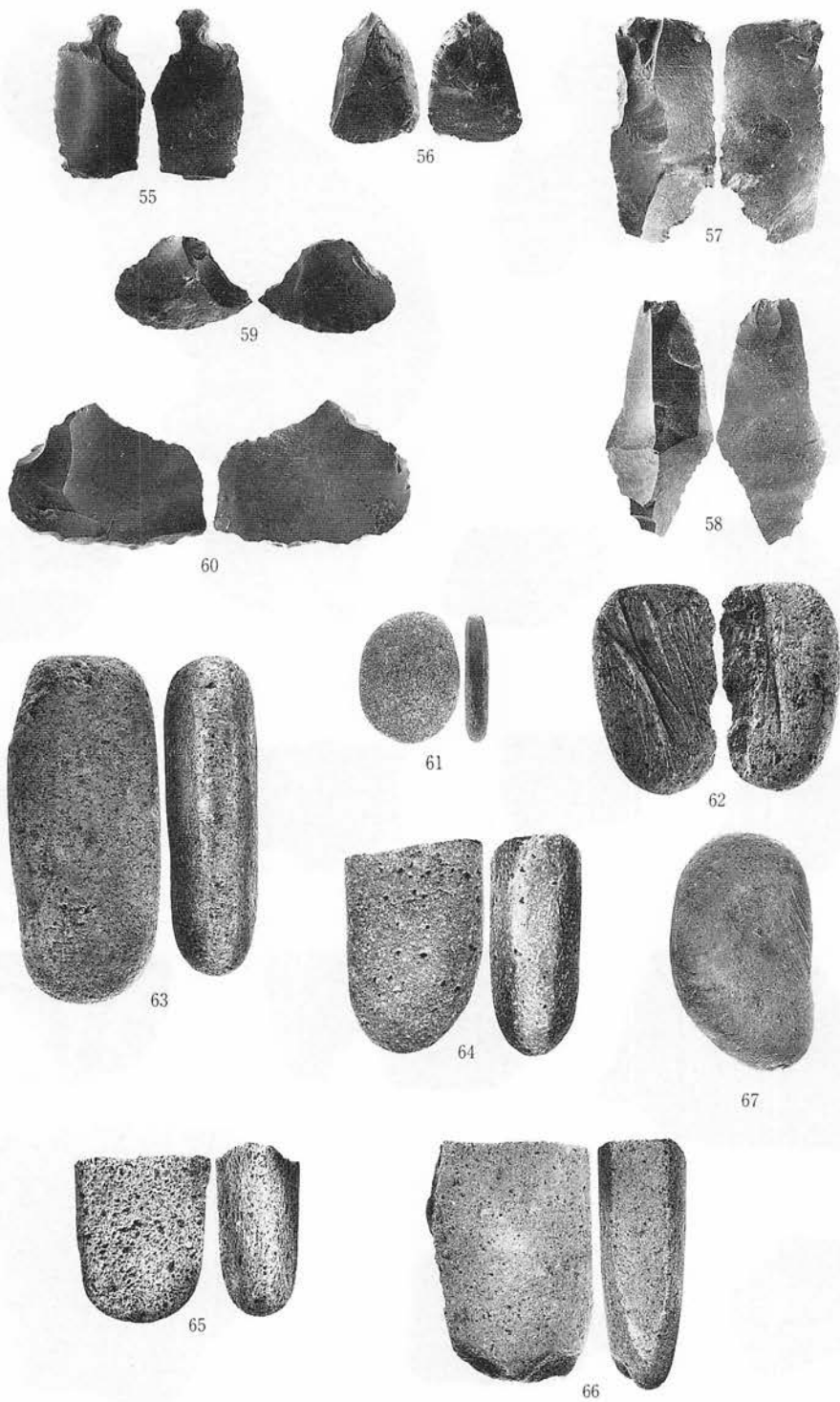
写真図版7 II G-1号住居跡遺物(1)



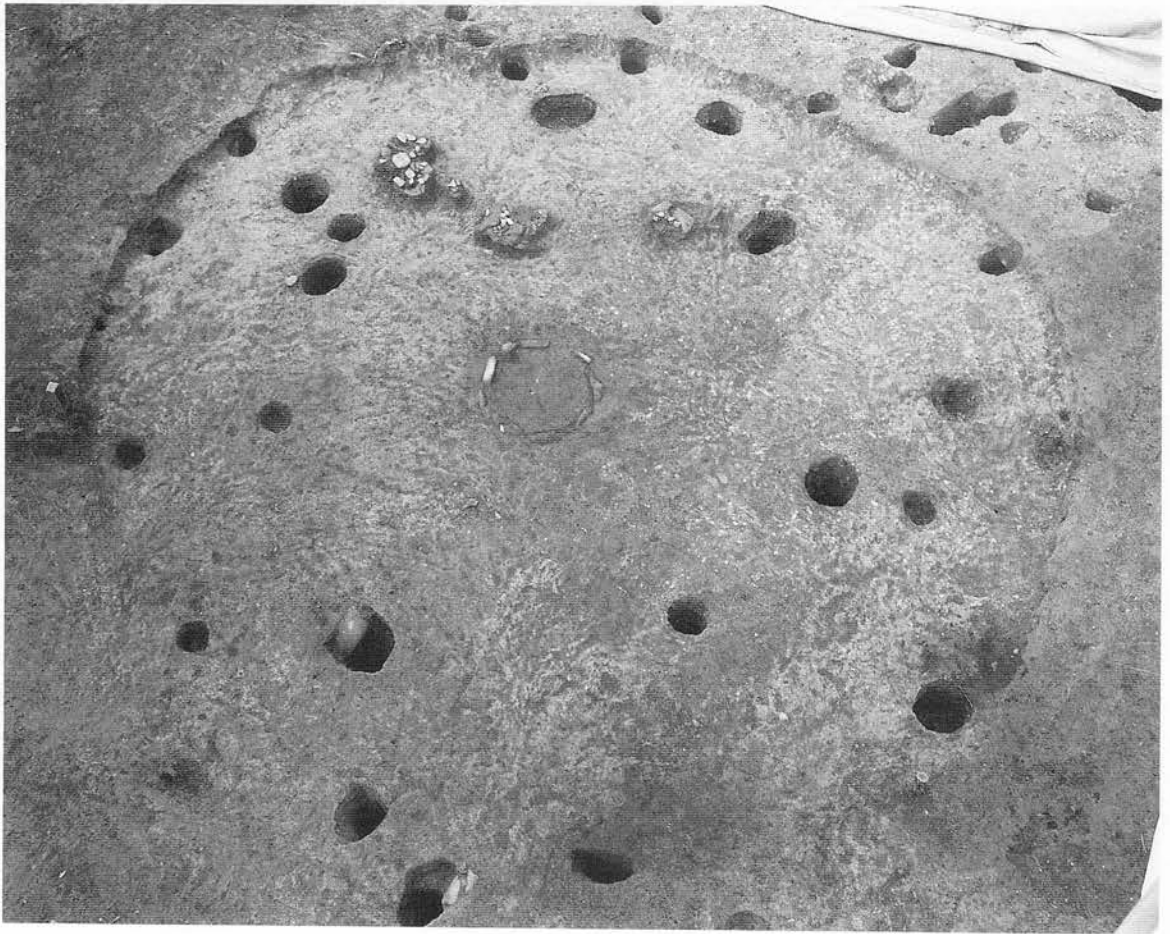
写真図版 8 II G-1 号住居跡遺物(2)



写真図版 9 II G-1号住居跡遺物(3)



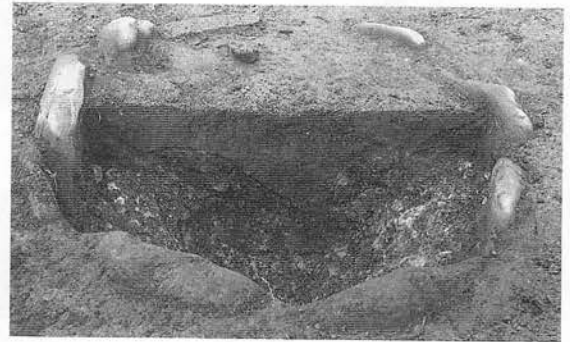
写真図版10 II G-1号住居跡遺物(4)



II G-2住居跡 全景（北東から）



石囲炉平面（北から）



石囲炉断面（北東から）



左よりII G-2、5住居跡

写真図版11 II G-2号住居跡



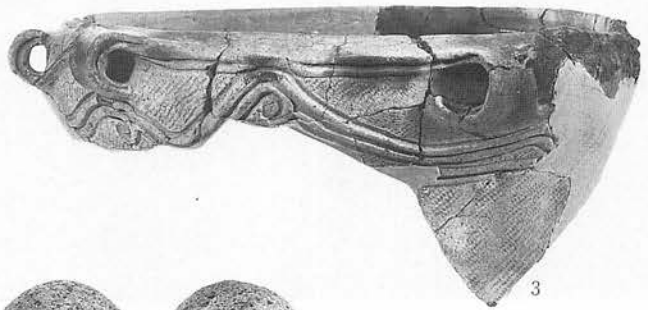
1



2



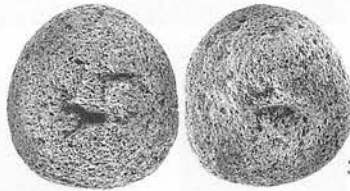
4



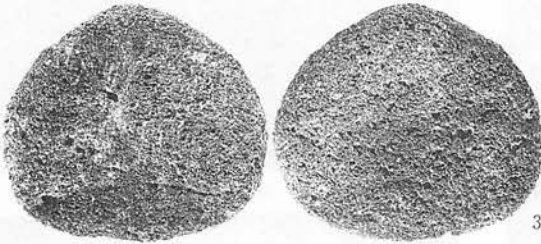
3



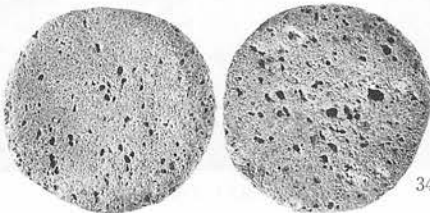
30



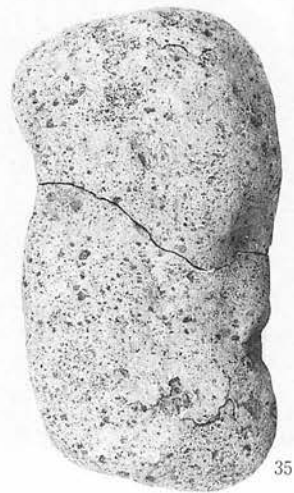
32



33

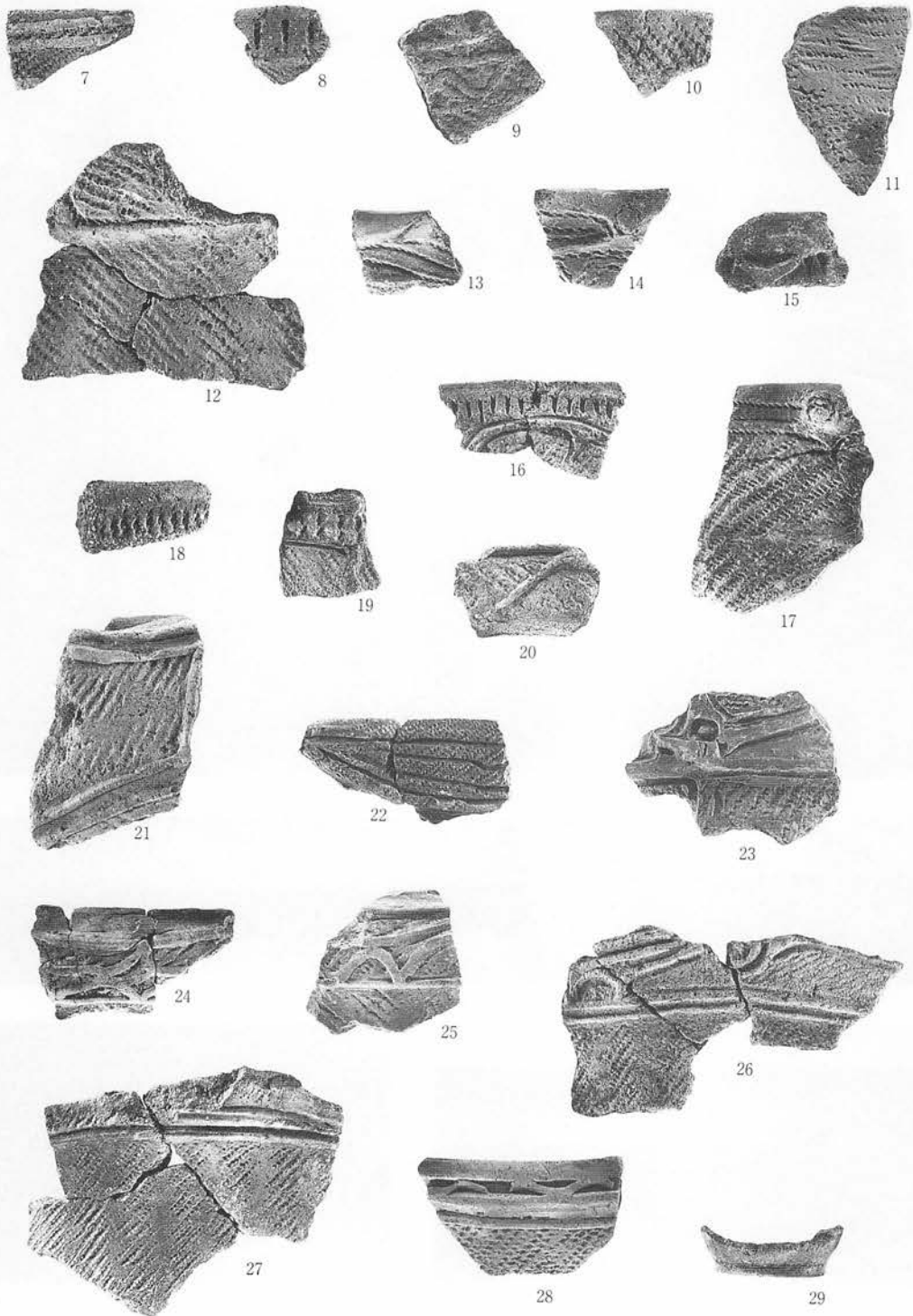


34

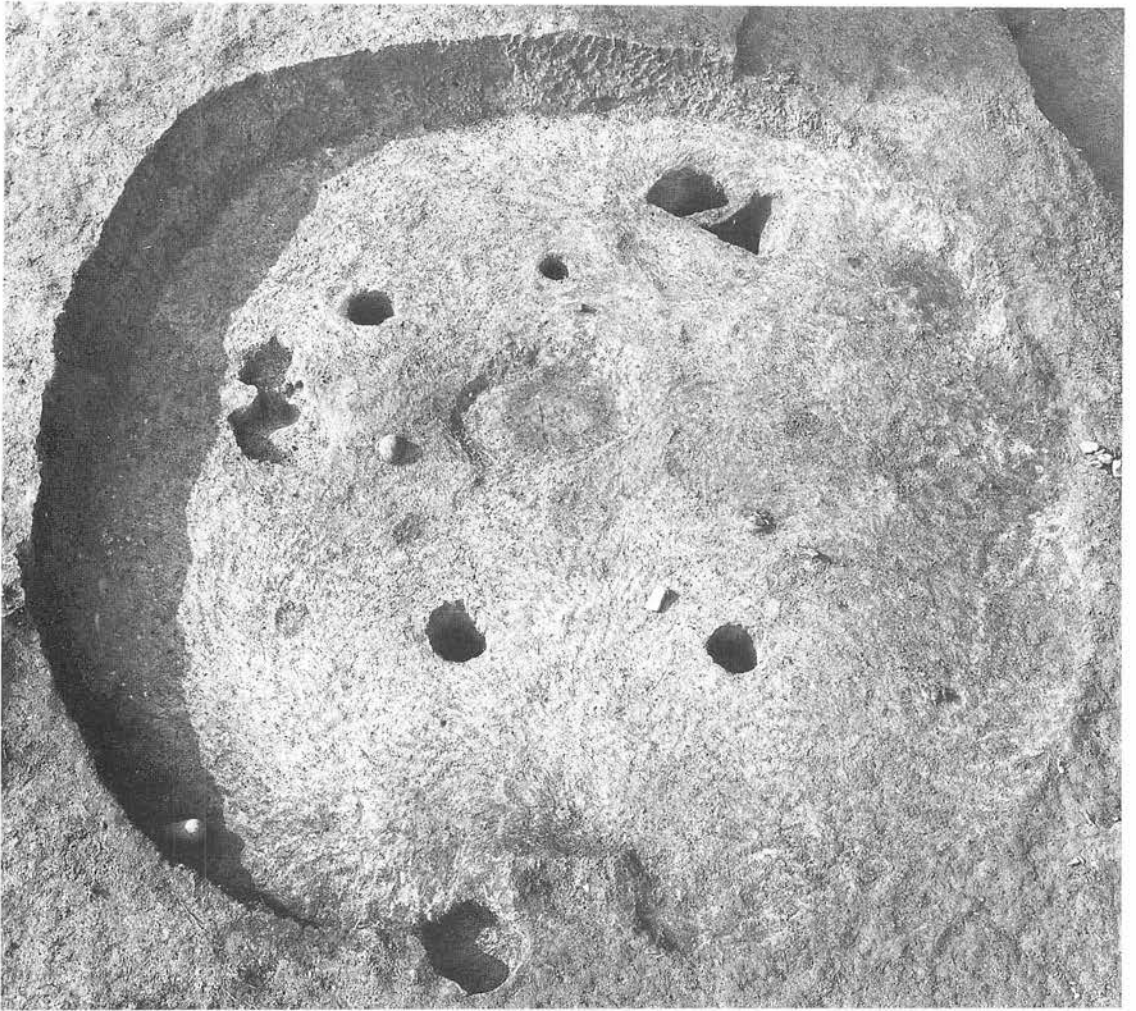


35

写真図版12 II G-2号住居跡遺物(1)



写真図版13 II G-2号住居跡遺物(2)



Ⅱ G-3号住居跡 全景（北東から）

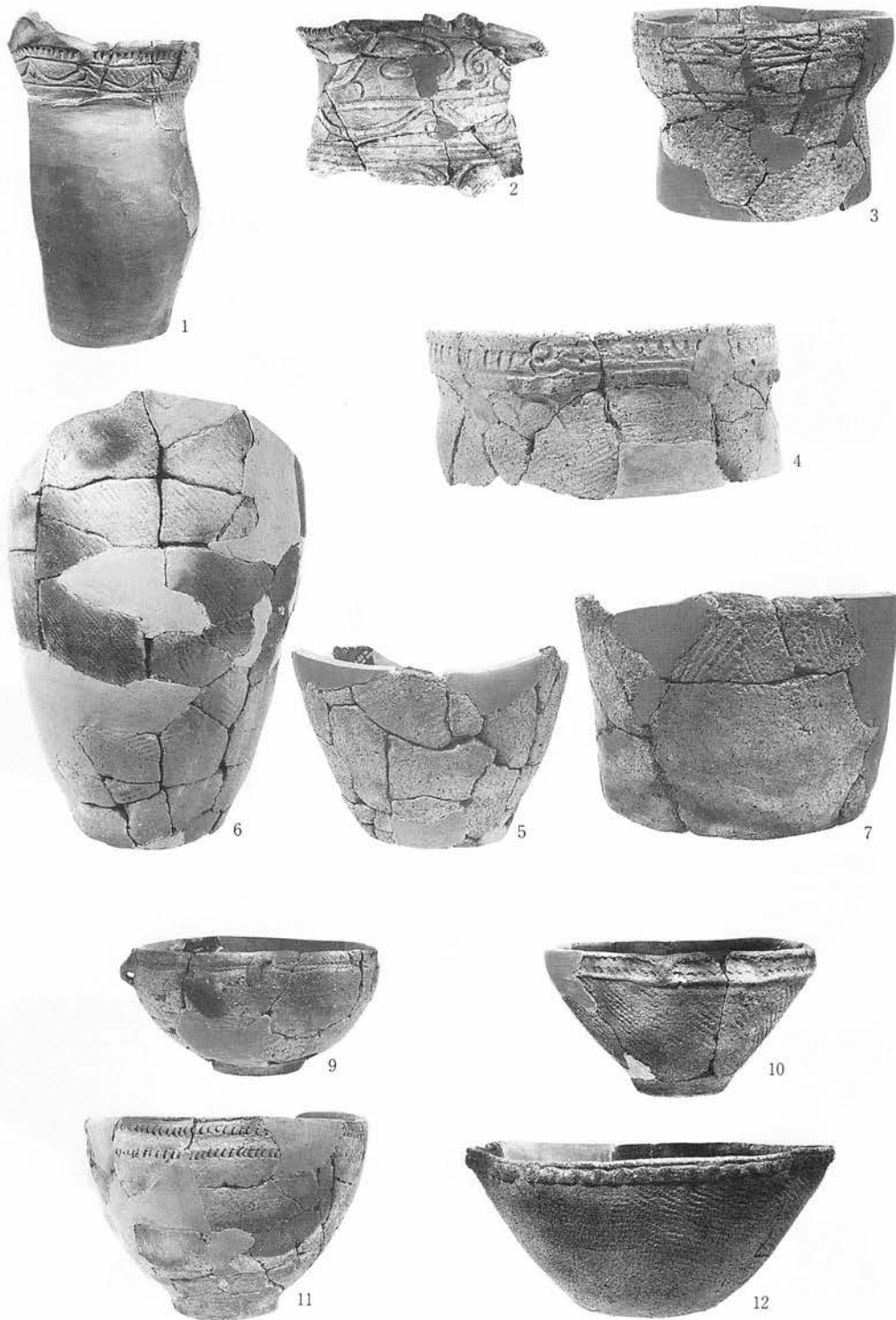


埋土断面（北東から）

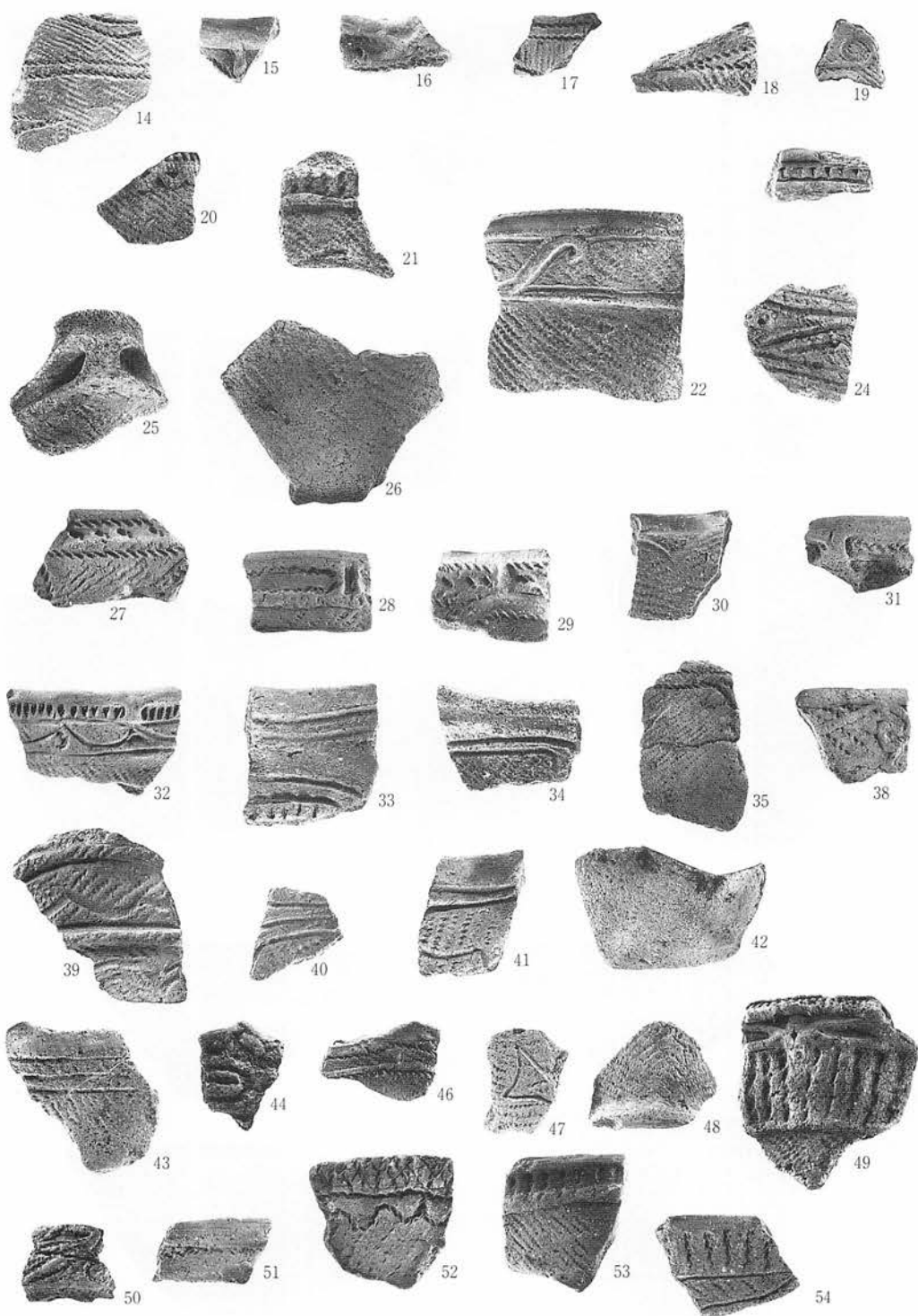


床面、埋土遺物出土状況

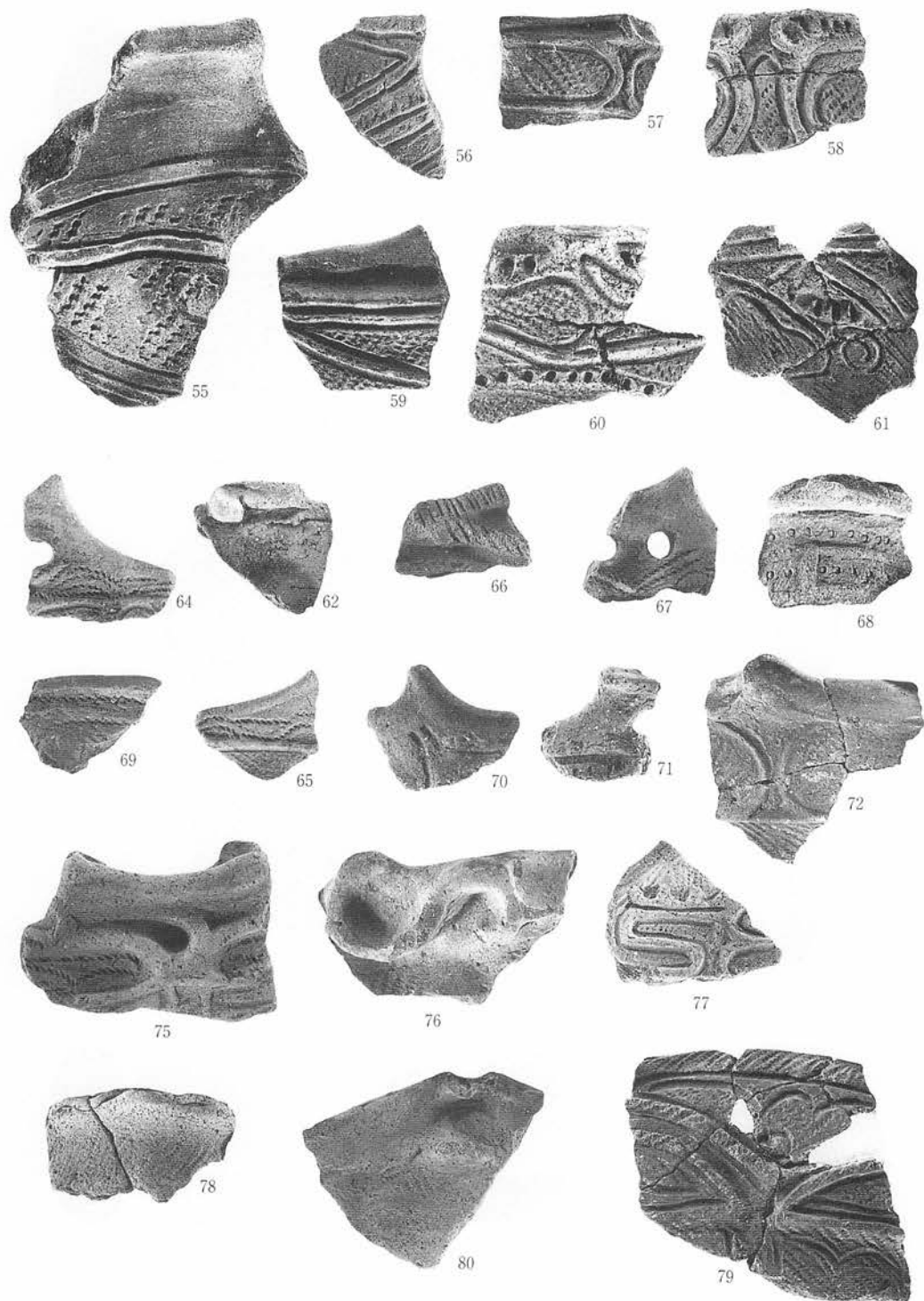
写真図版14 Ⅱ G-3号住居跡



写真図版15 II G-3号住居跡遺物(1)



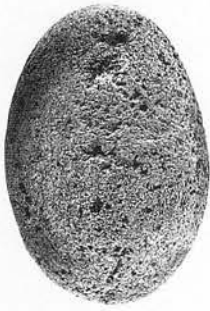
写真図版16 II G-3号住居跡遺物(2)



写真图版17 II G-3号住居跡遺物(3)



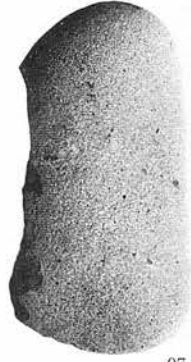
写真図版18 II G-3号住居跡遺物(4)



95



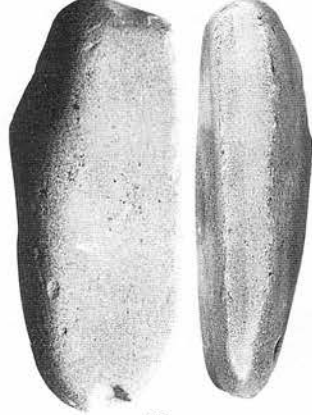
96



97



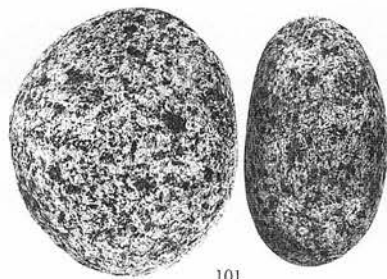
98



99



100

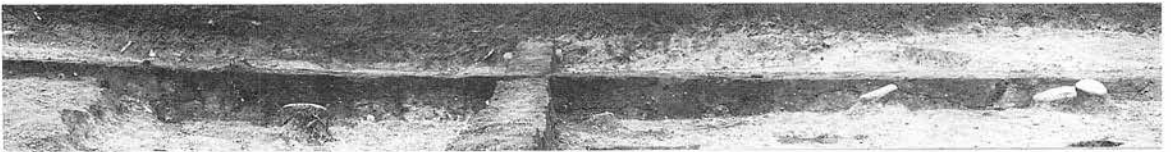


101

写真図版19 II G-3号住居跡遺物(5)



Ⅱ G-4、6号住居跡 全景（北東から）



埋土断面（北東から）



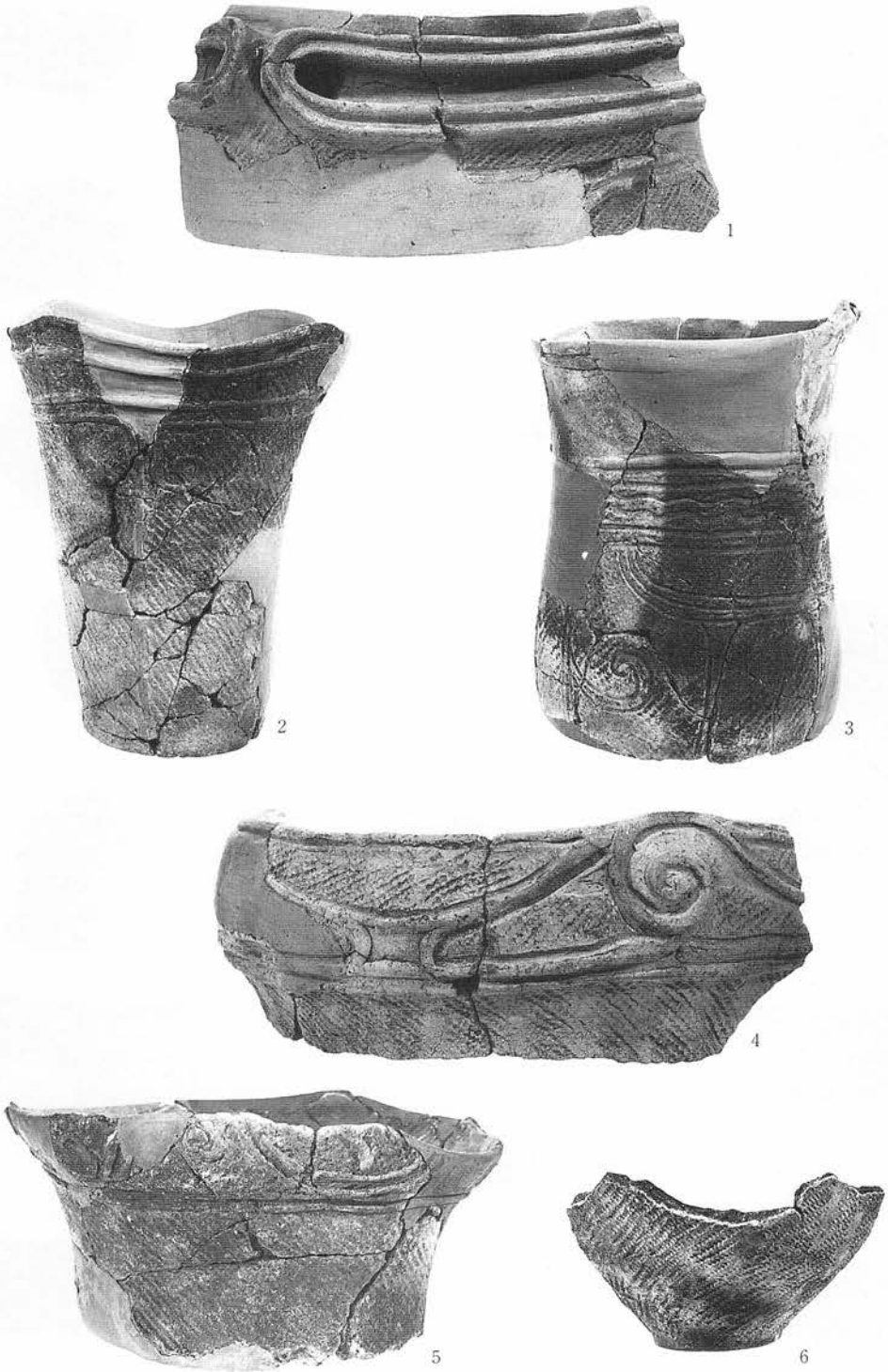
埋土断面（南東から）



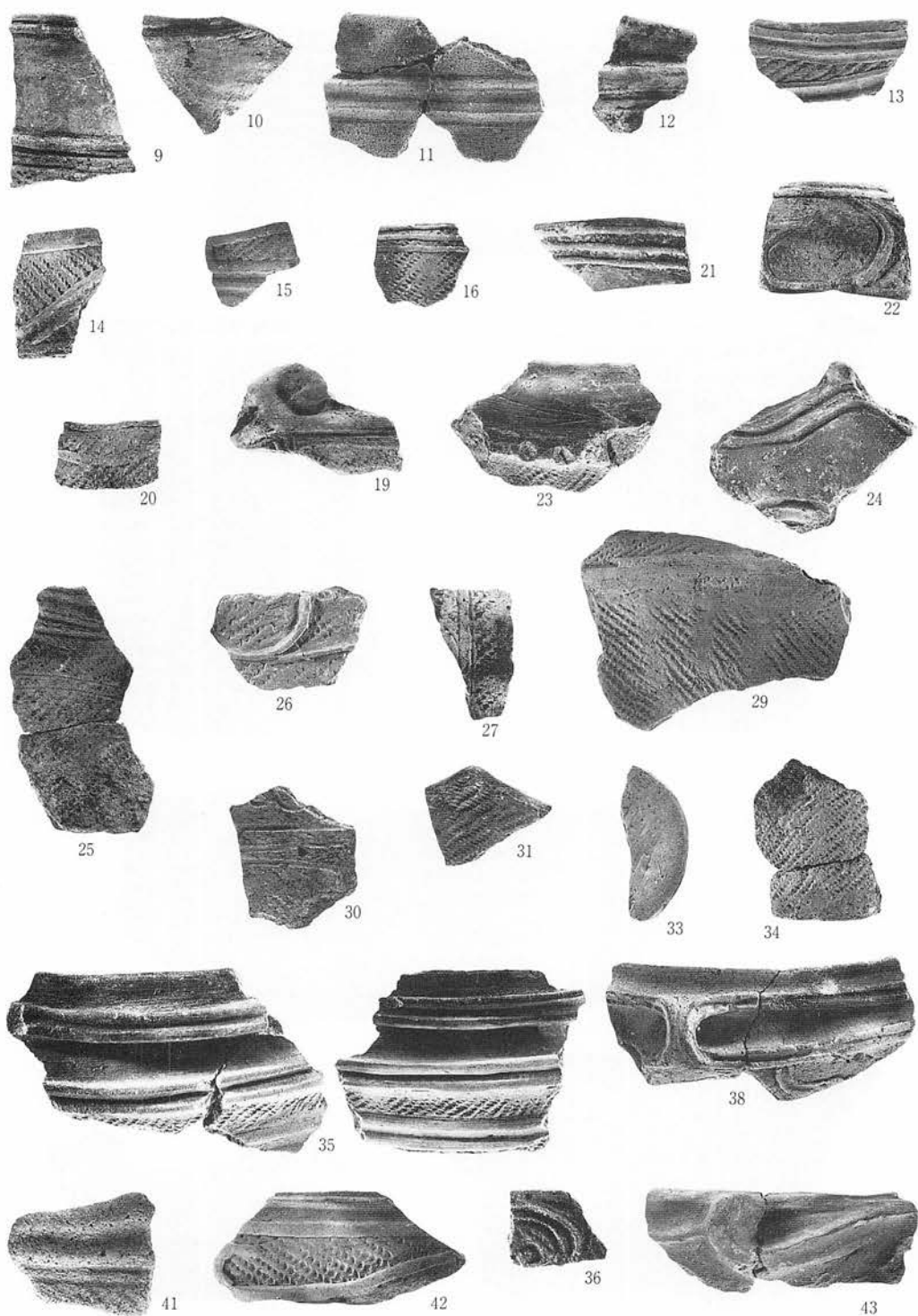
発掘状況

Ⅱ H-6 住地床炉断面（南から）
左側のⅡ G-10陥穴に切られている

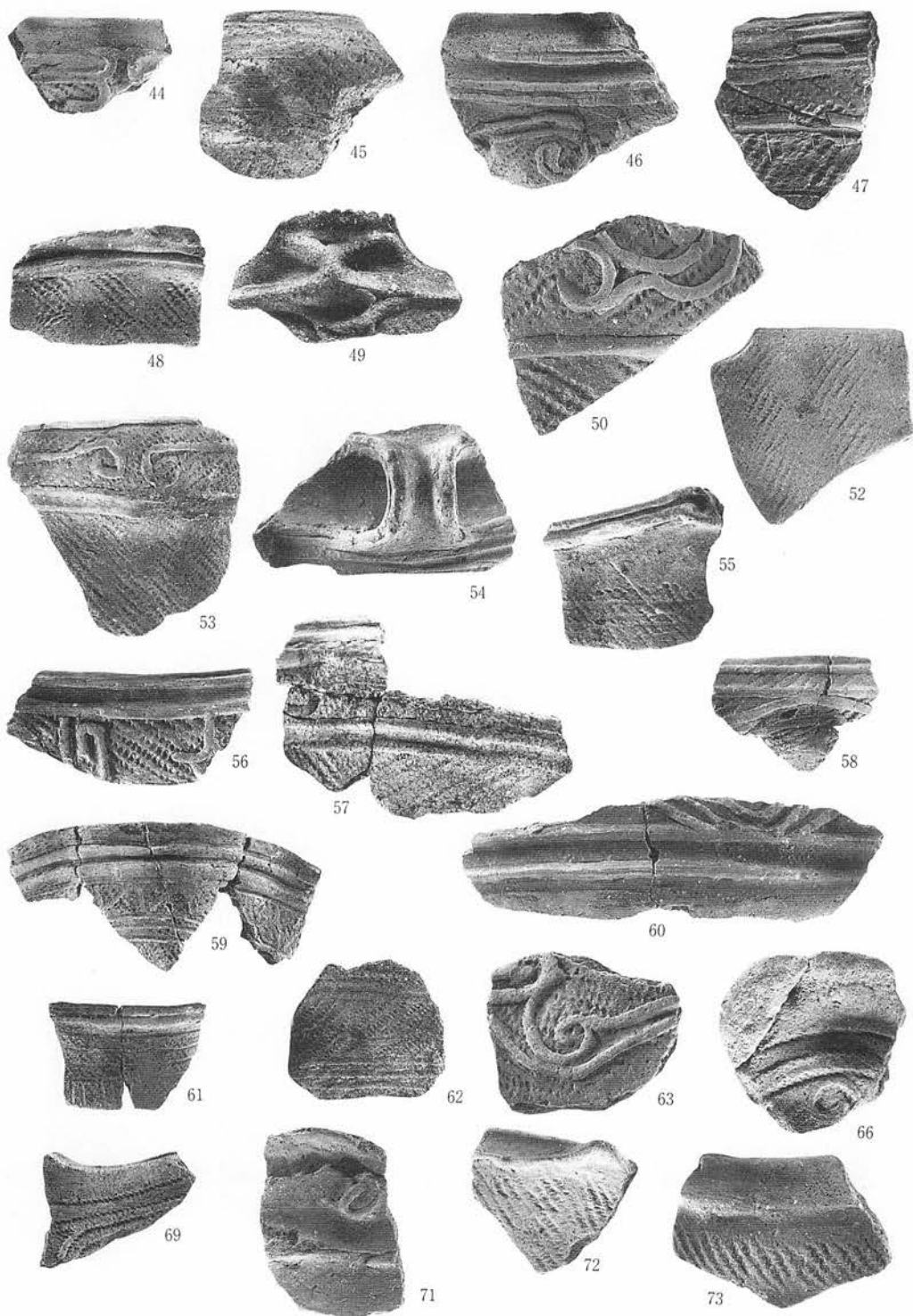
写真図版20 Ⅱ G-4号、6号住居跡



写真図版21 II G-4号住居跡遺物(1)



写真図版22 II G-4号住居跡遺物(2)



写真图版23 II G-4号住居跡遺物(3)



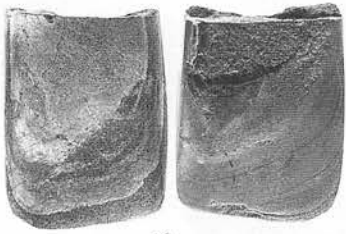
76



77



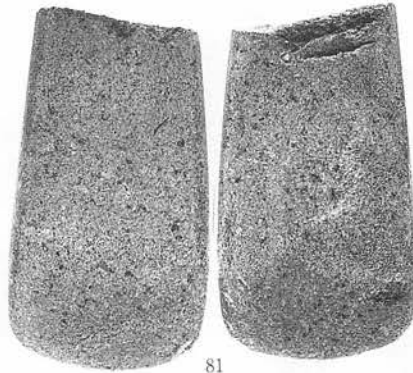
78



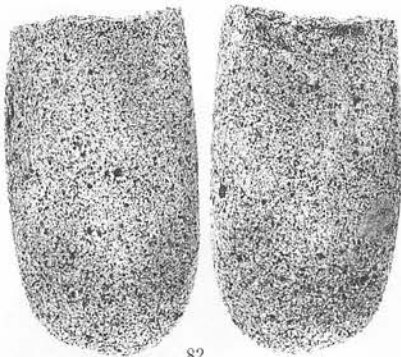
79



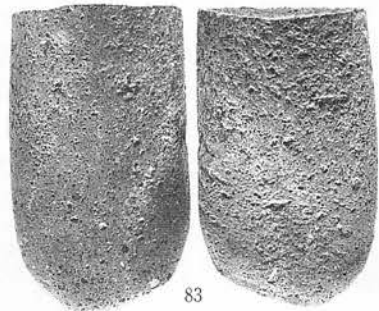
80



81



82

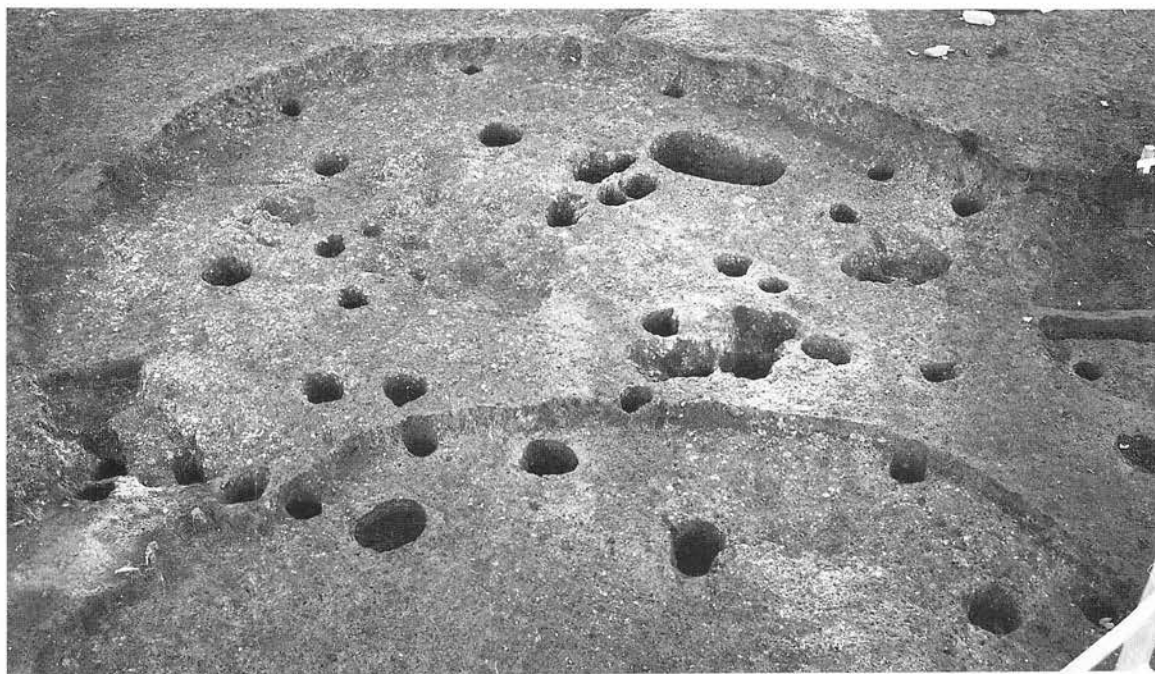


83

写真図版24 II G-4号住居跡遺物(4)



写真図版25 II G-4号住居跡遺物(5)



Ⅱ G-5号住居跡 全景（東から）



埋土断面（西から）



床面土器出土状況

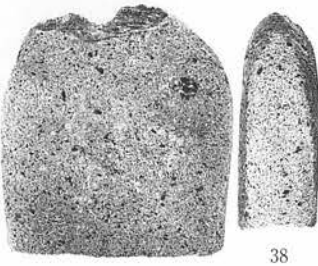
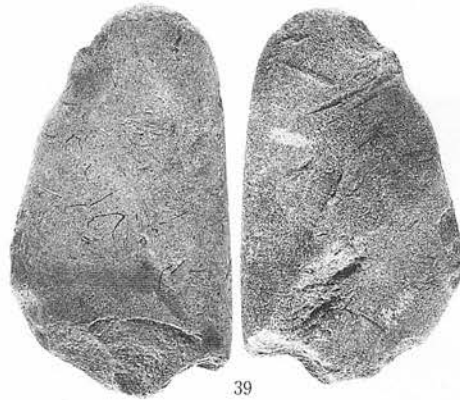
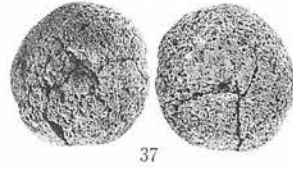
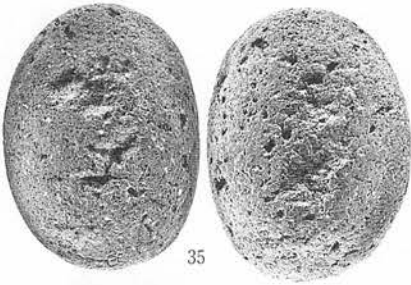
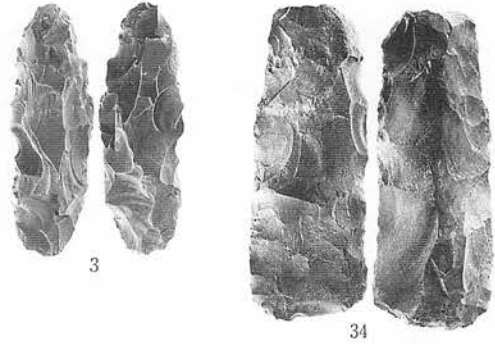
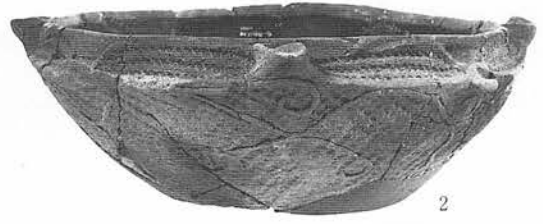


床面凹石出土状況

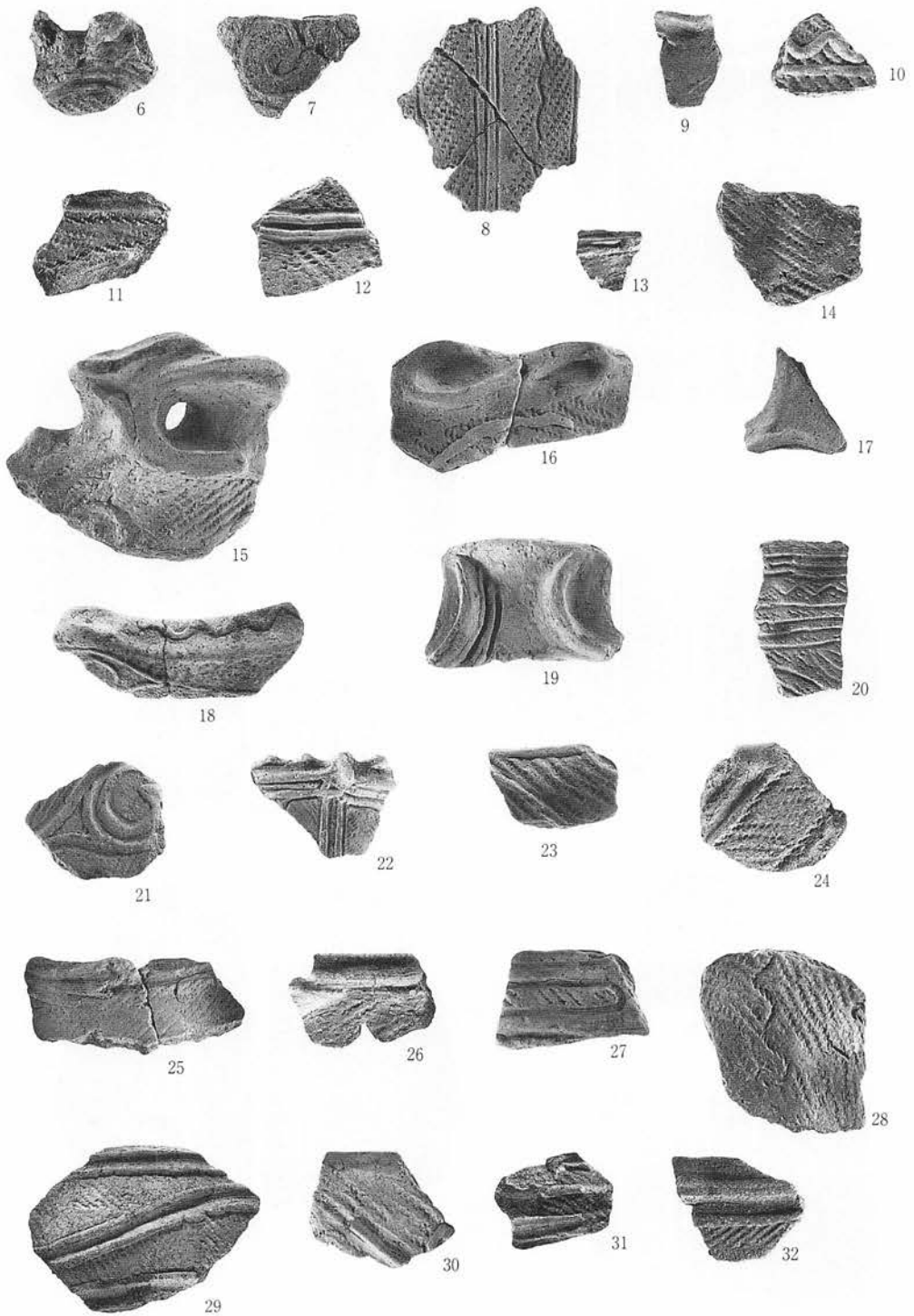


本郷遺跡現地説明会（1989年10月13日）

写真図版26 Ⅱ G-5号住居跡



写真図版27 II G-5号住居跡遺物(1)



写真図版28 II G-5号住居跡遺物(2)

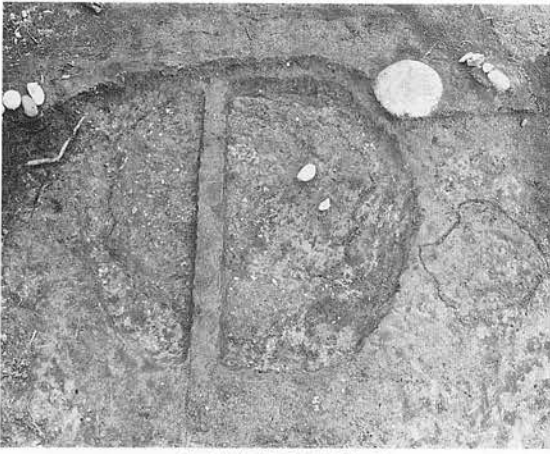


ⅡG-7号住居跡全景（東から）石囲炉はⅡ-2号住。点線は推定プラン

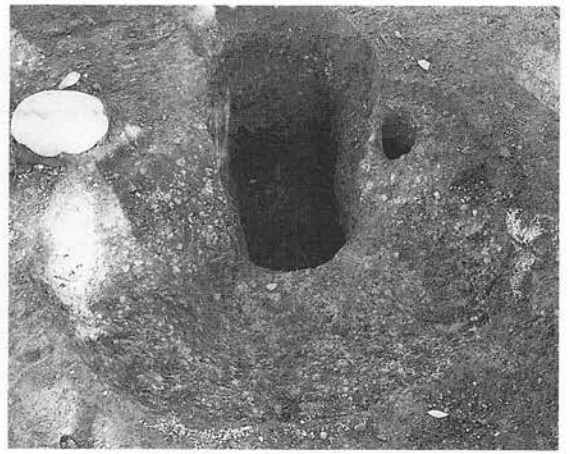


ⅡG区作業風景（北西から）中央がⅡG-7号住

写真図版29 ⅡG-7号住居跡(1)



地床炉検出面（南東から）



地床炉完掘（西から）上部はⅡG-7号陥穴



埋土断面（北東から）

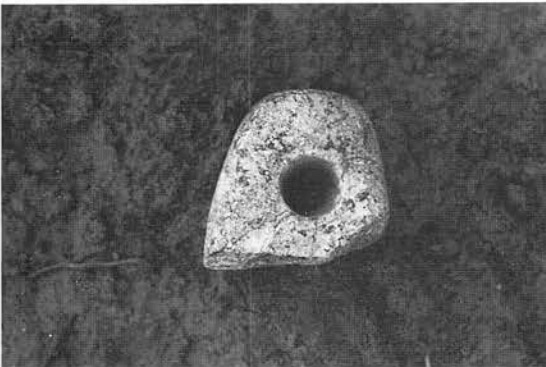
ⅡG-7号住居跡出土遺物



埋土土器



手捏土器

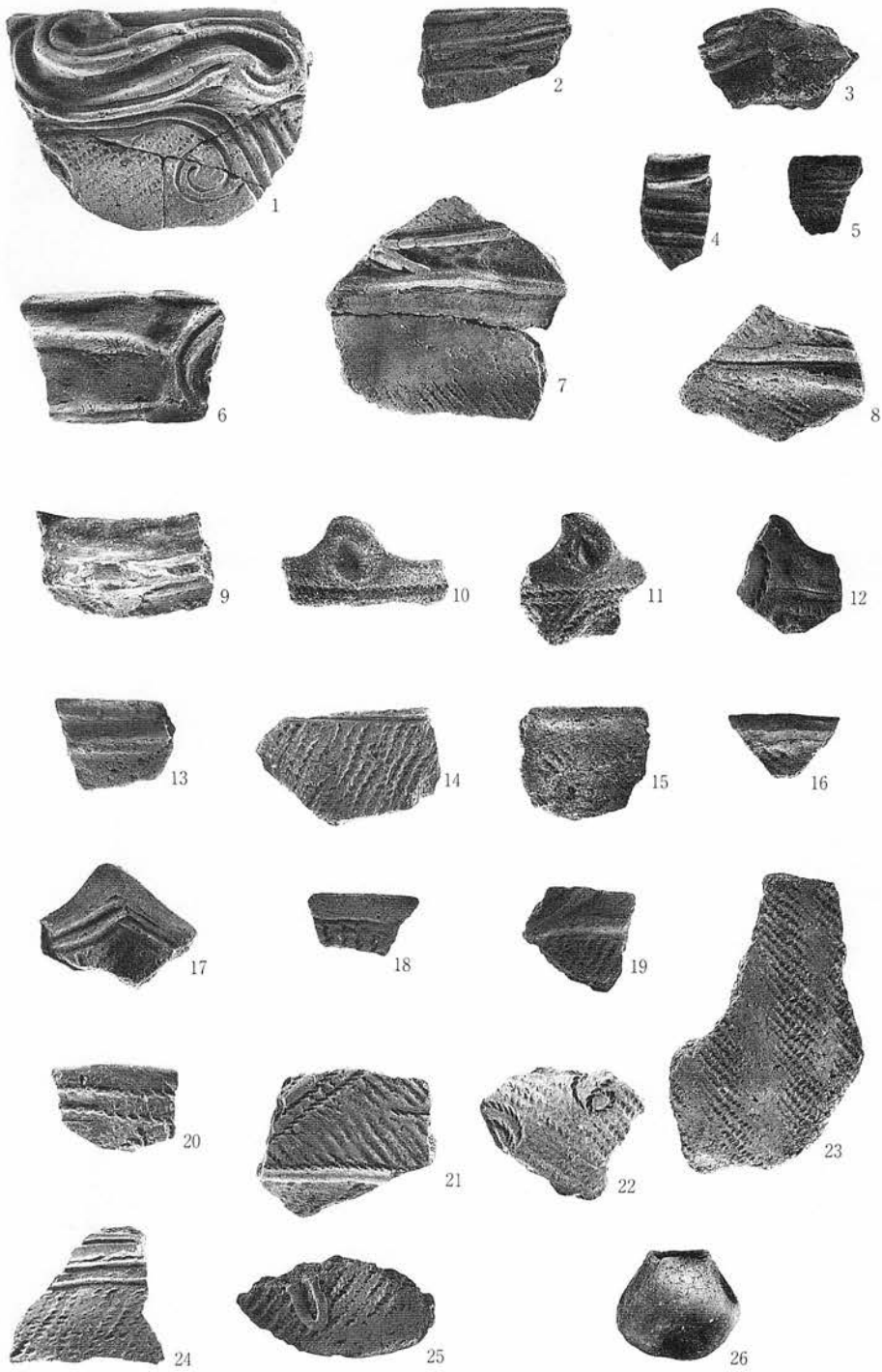


玉髓製垂飾り：柱穴埋土より出土

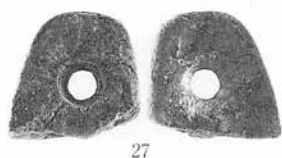


有孔軽石製品

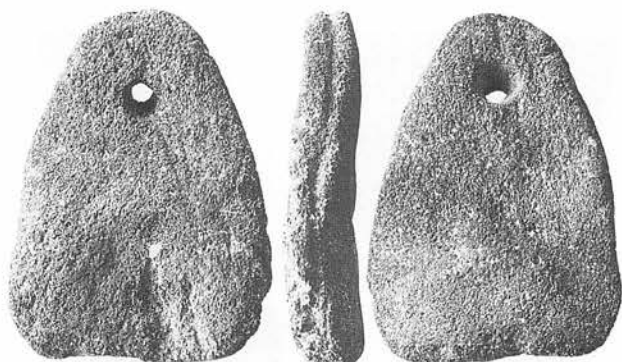
写真図版30 ⅡG-7号住居跡(2)



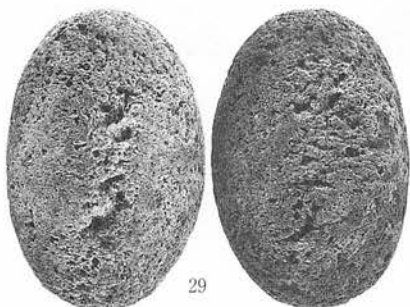
写真図版31 II G-7号住居跡遺物(1)



27



28



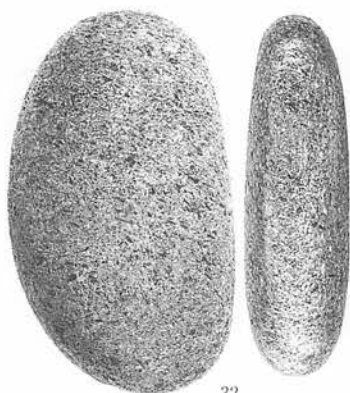
29



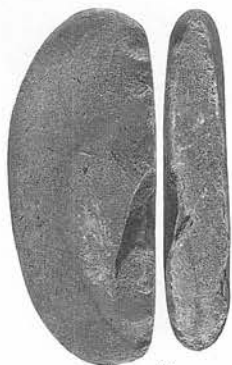
31



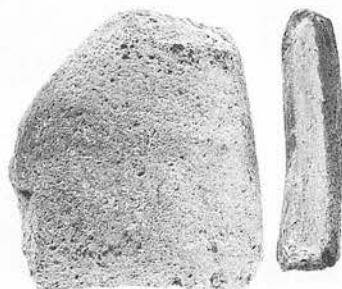
30



32

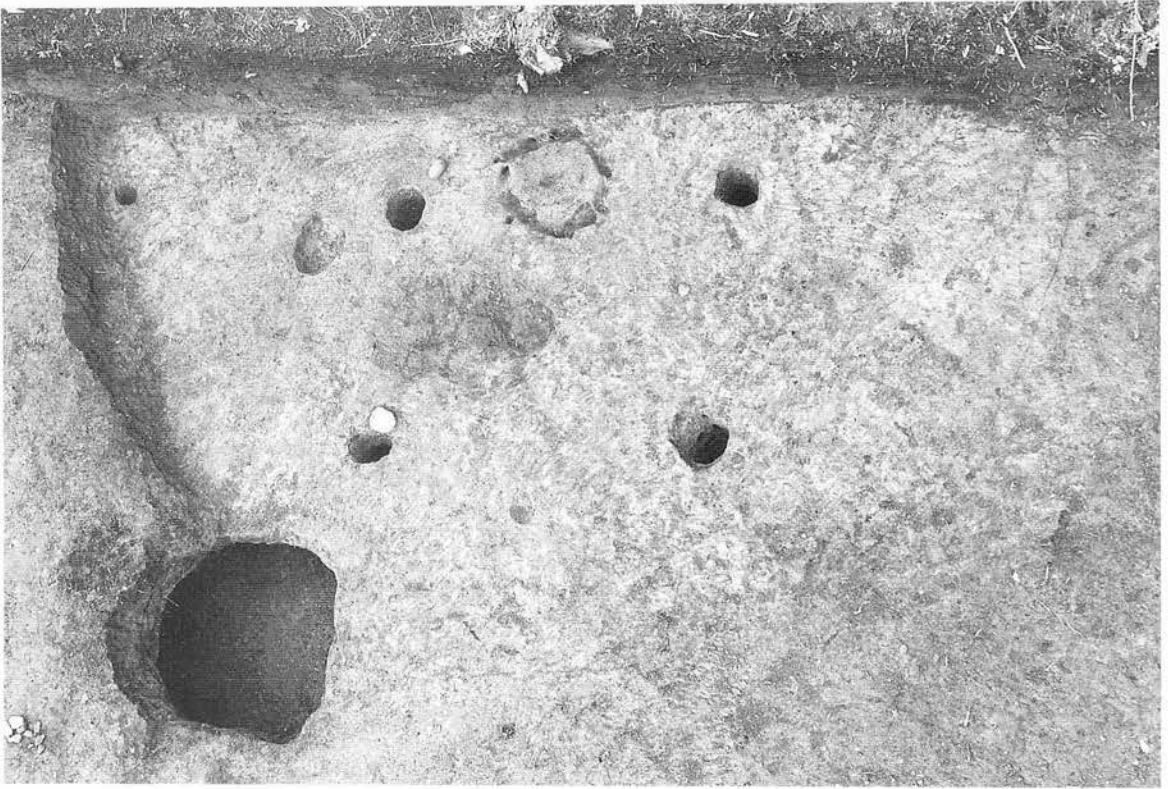


34



33

写真図版32 II G-7号住居跡遺物(2)



Ⅱ G-8 号住居跡 全景（北東から）



埋土断面（北東から）



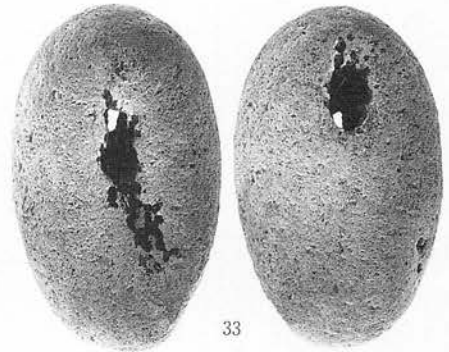
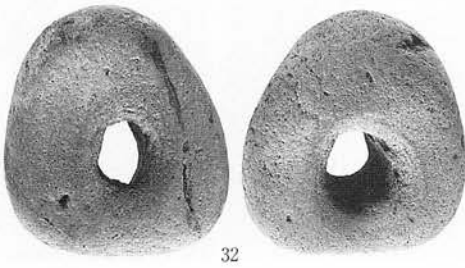
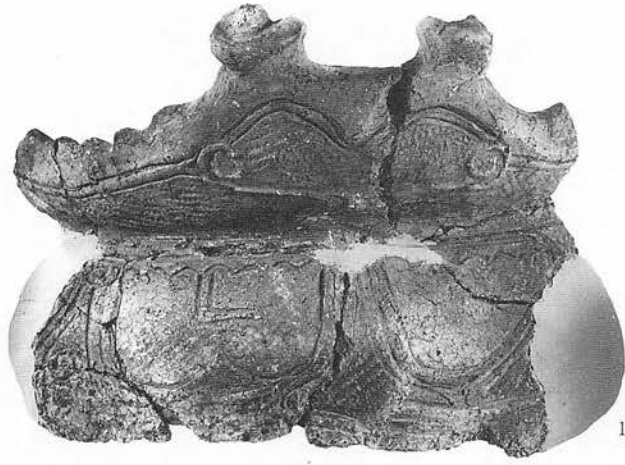
平面（南西から）



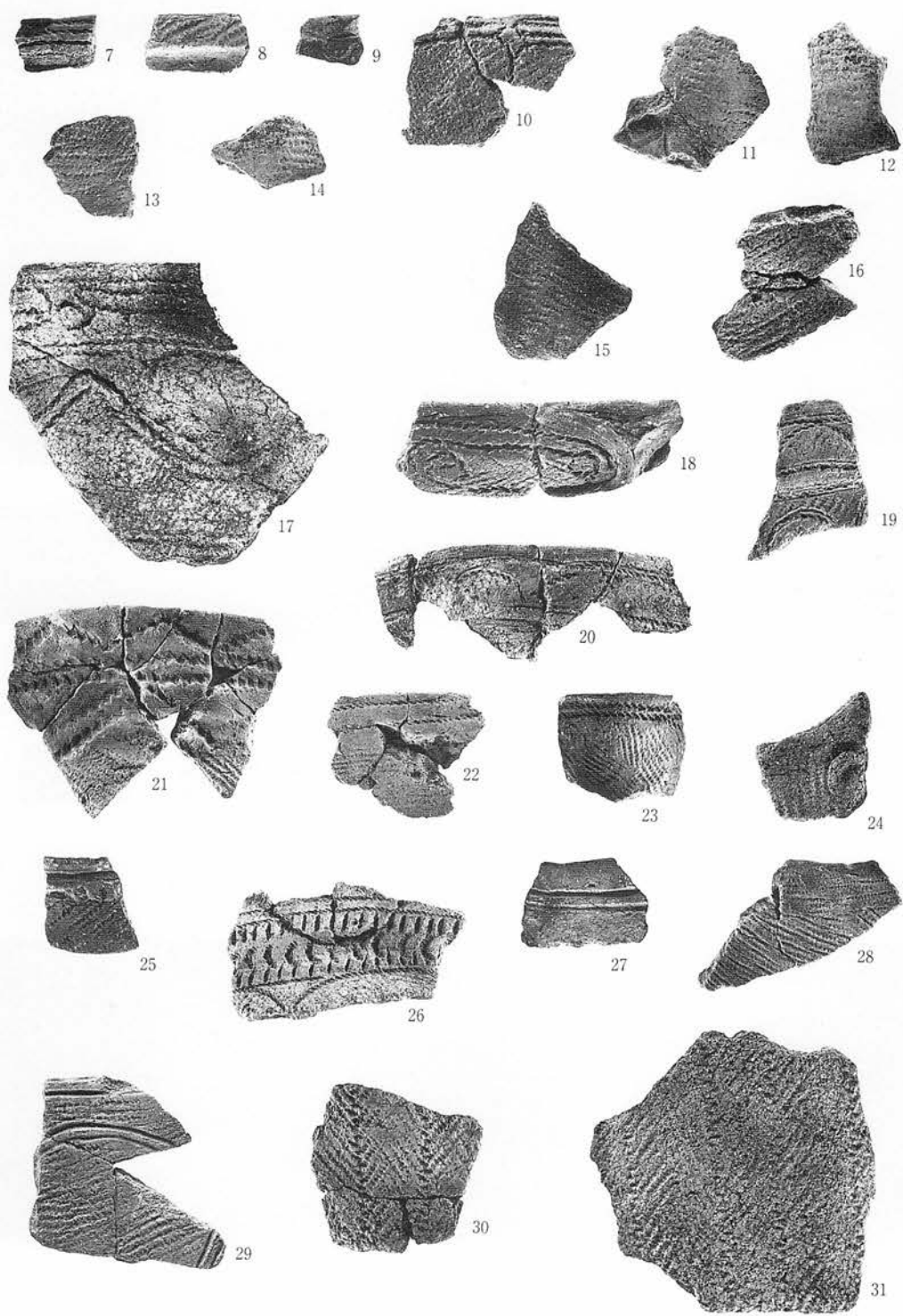
断面（北西から）

石の抜き取り痕のあるが

写真図版33 Ⅱ G-8 号住居跡



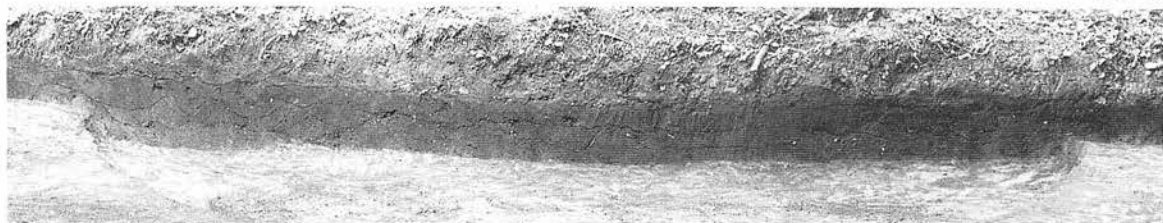
写真図版34 II G-8号住居跡遺物(1)



写真図版35 II G-8号住居跡遺物(2)



(東から)



ⅡH-1号住居跡

埋土断面



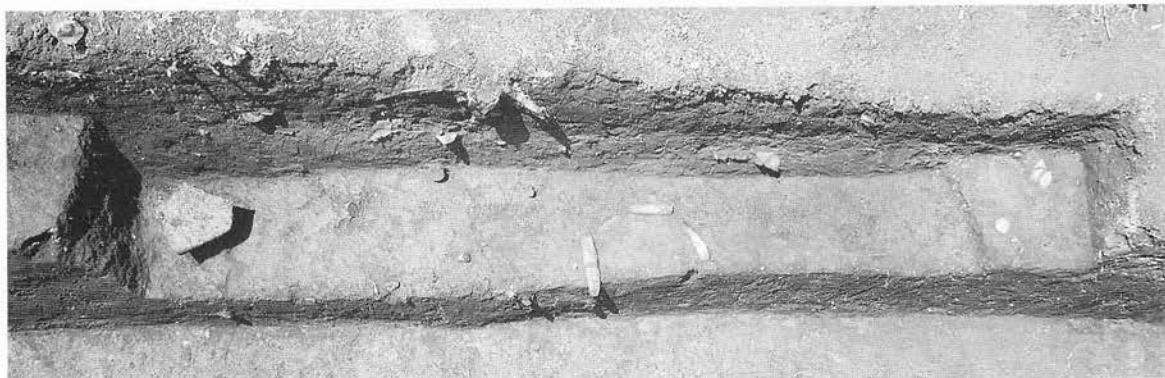
ⅡH-1号住居跡遺物



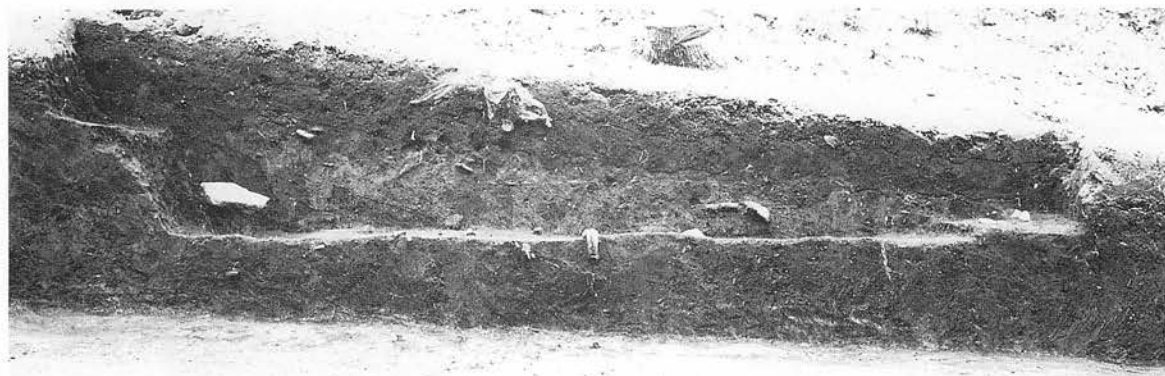
ⅠB-2号住居

(南から)

写真図版36 ⅠH-1号、ⅠB-2号住居跡



Ⅱ H-1号住居跡 全景（東から）



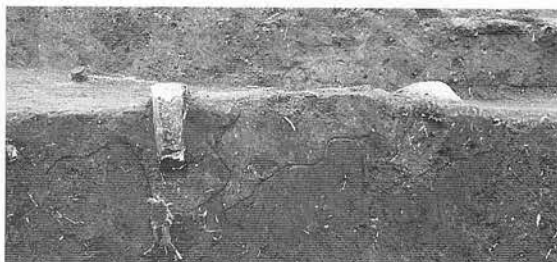
埋土断面（東から）



石囲炉平面（南から）

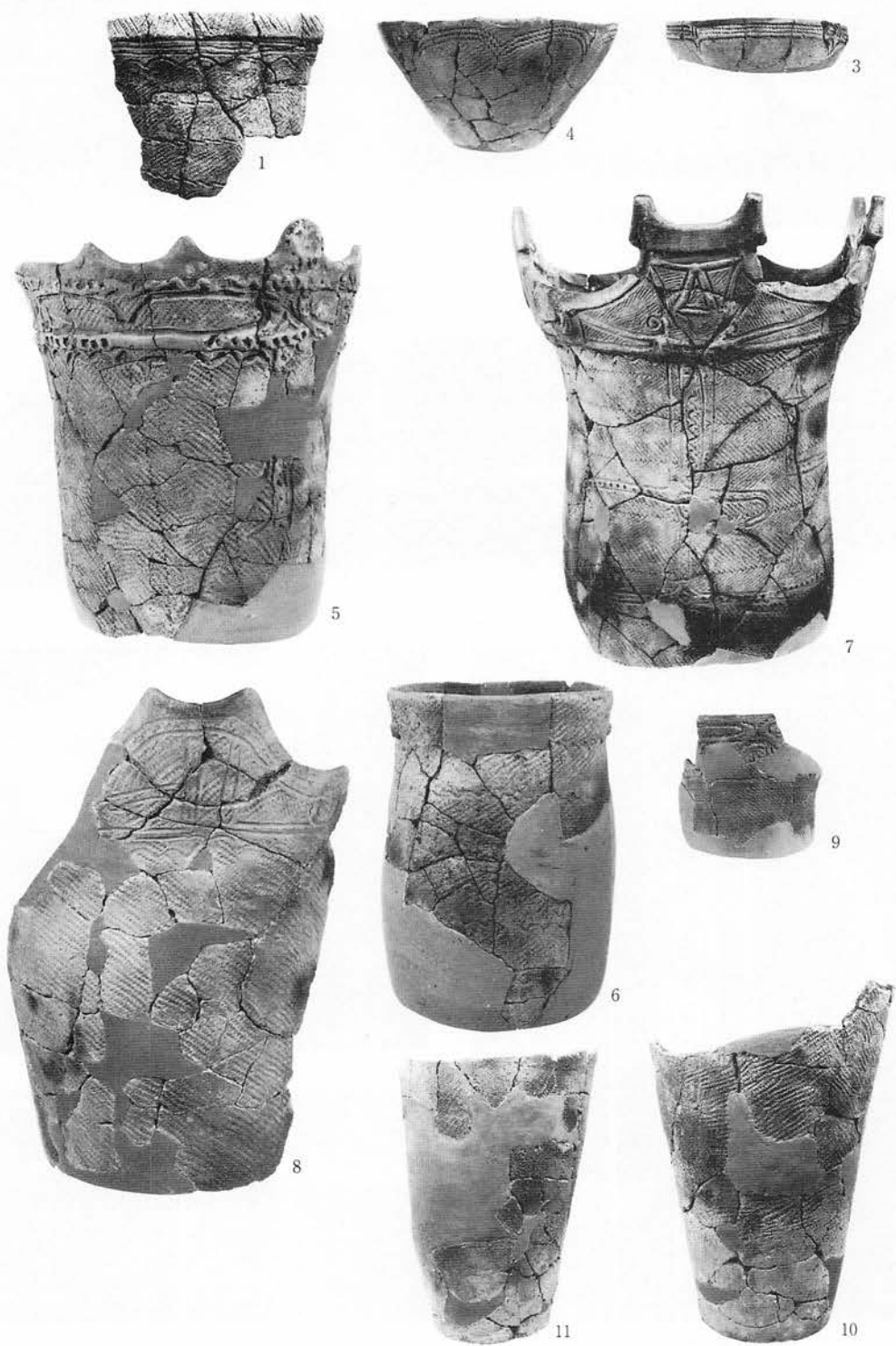


埋土上層遺物出土状況

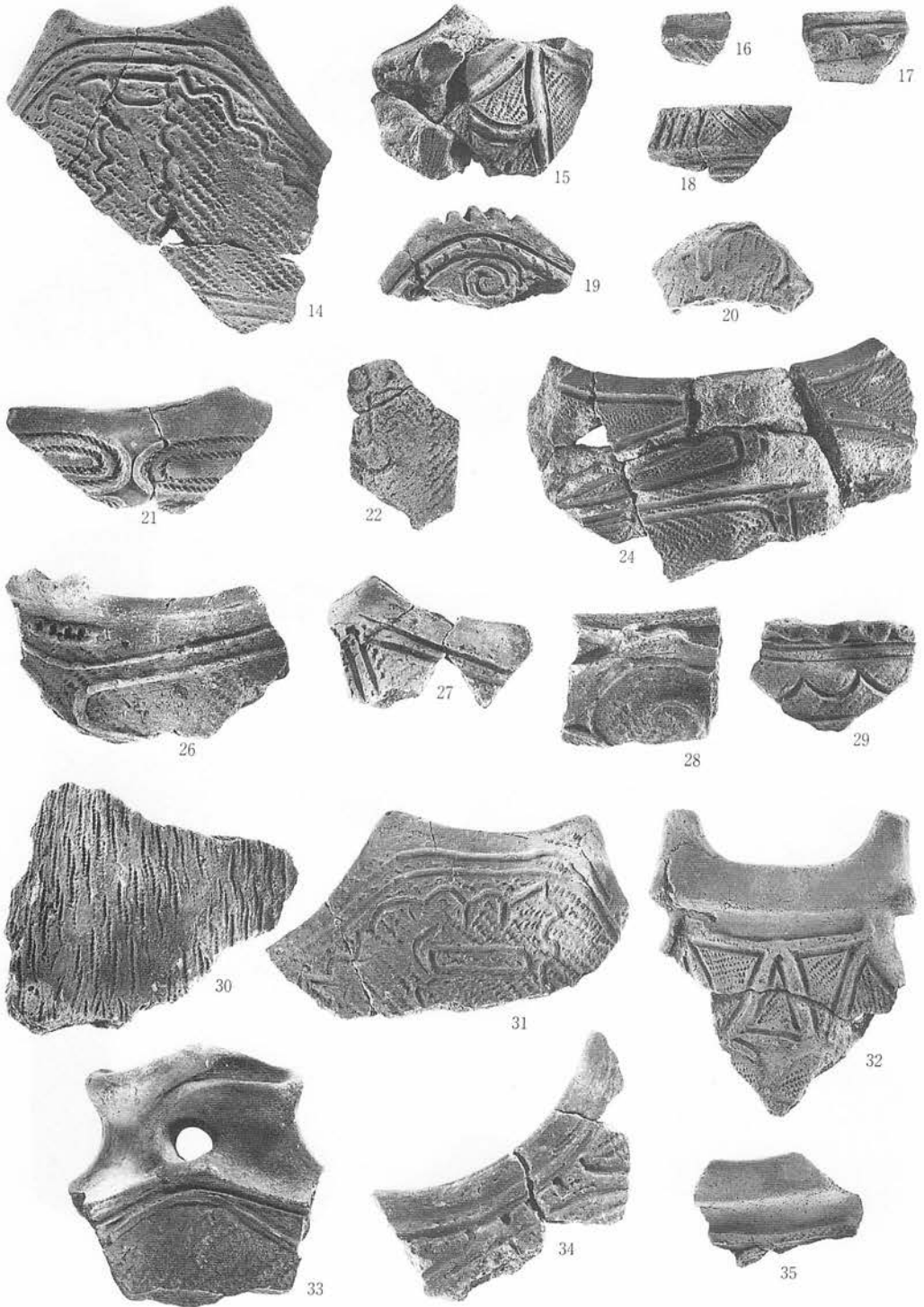


石囲炉断面（東から）

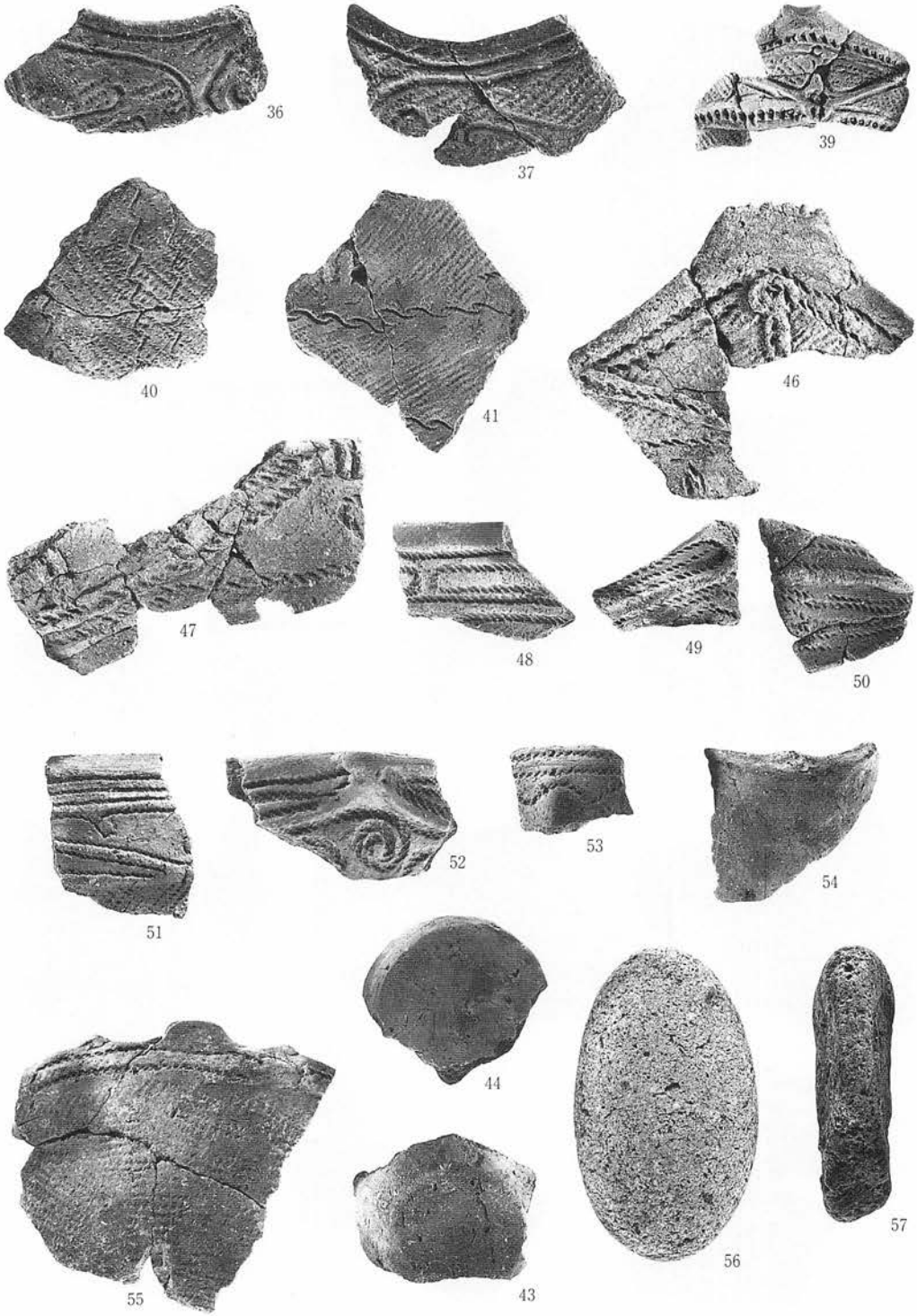
写真図版37 Ⅱ H-1号住居跡



写真図版38 II H-1号住居跡遺物(1)



写真図版39 II H-1号住居跡遺物(2)



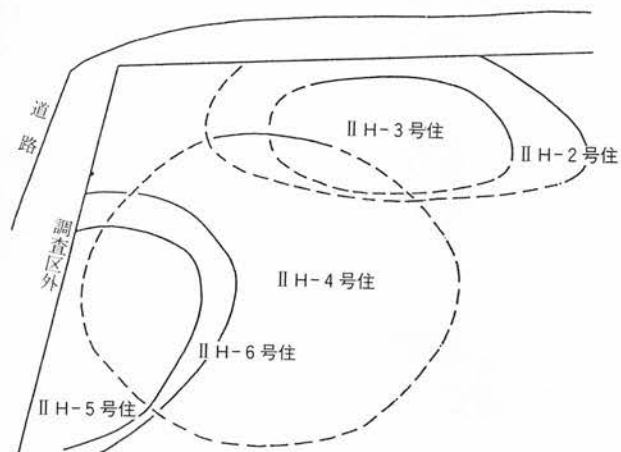
写真図版40 II H-1号住居跡遺物(3)



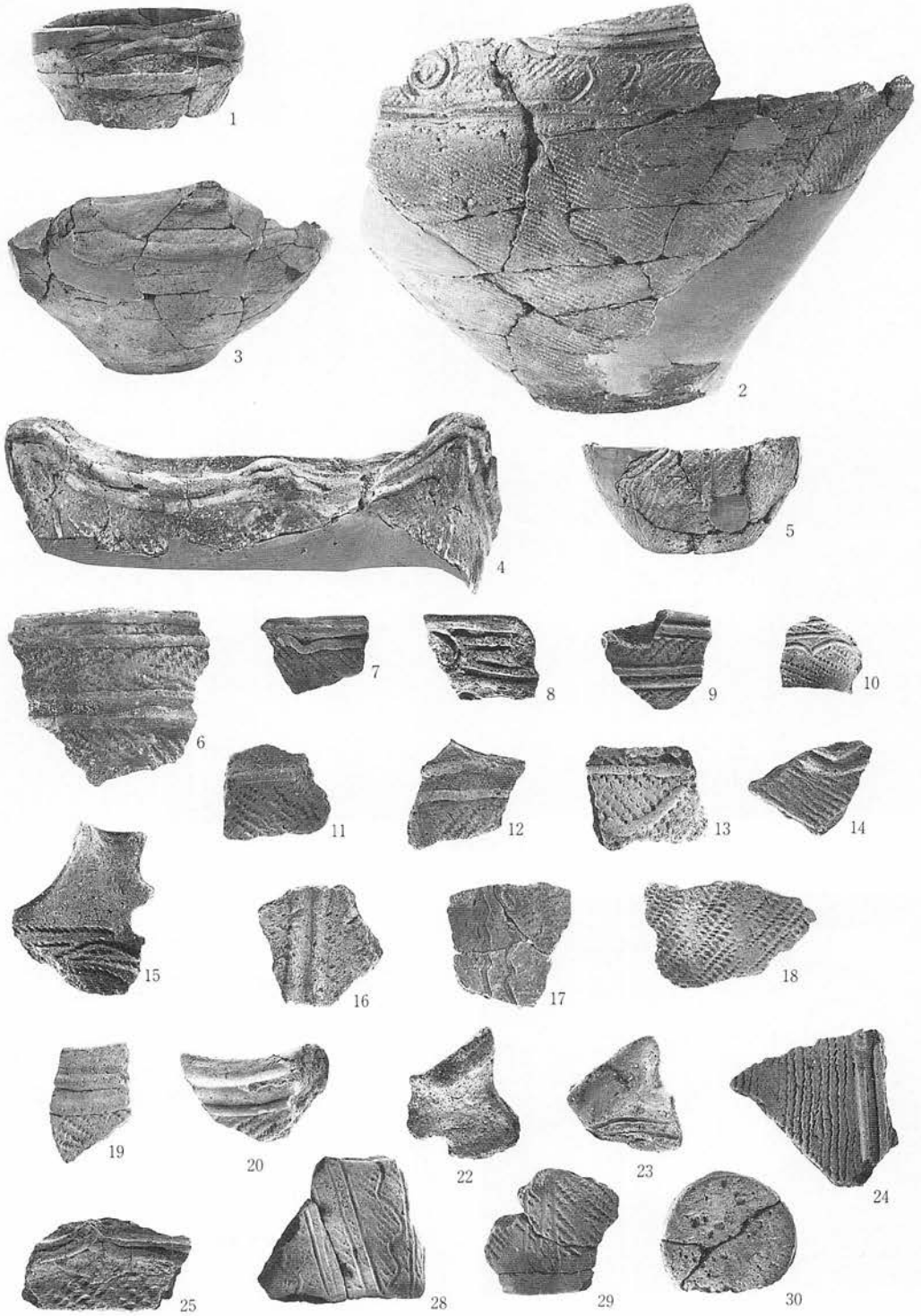
ⅡH-2、3号住居跡 全景（南から）



ⅡH-2、3、4、5、6号住居跡



写真図版41 ⅡH-2号、3号住居跡



写真図版42 II H-2号住居跡遺物(1)



写真図版43 II H-2号住居跡遺物(2)



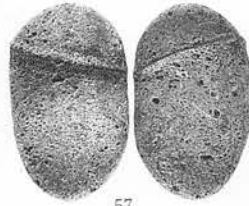
53



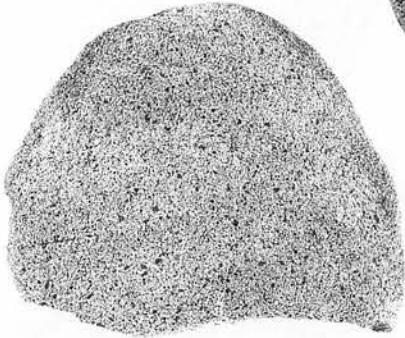
55



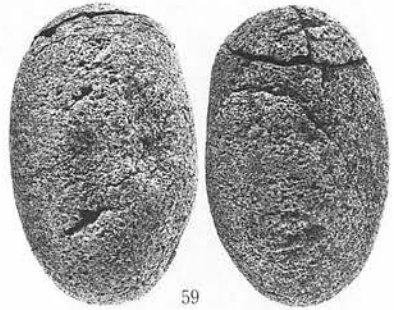
56



57



58



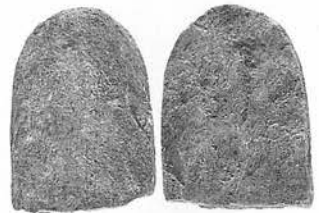
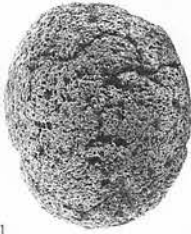
59



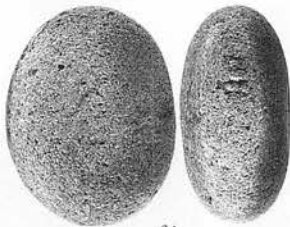
60



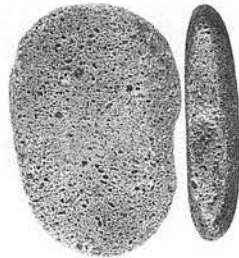
61



62



64

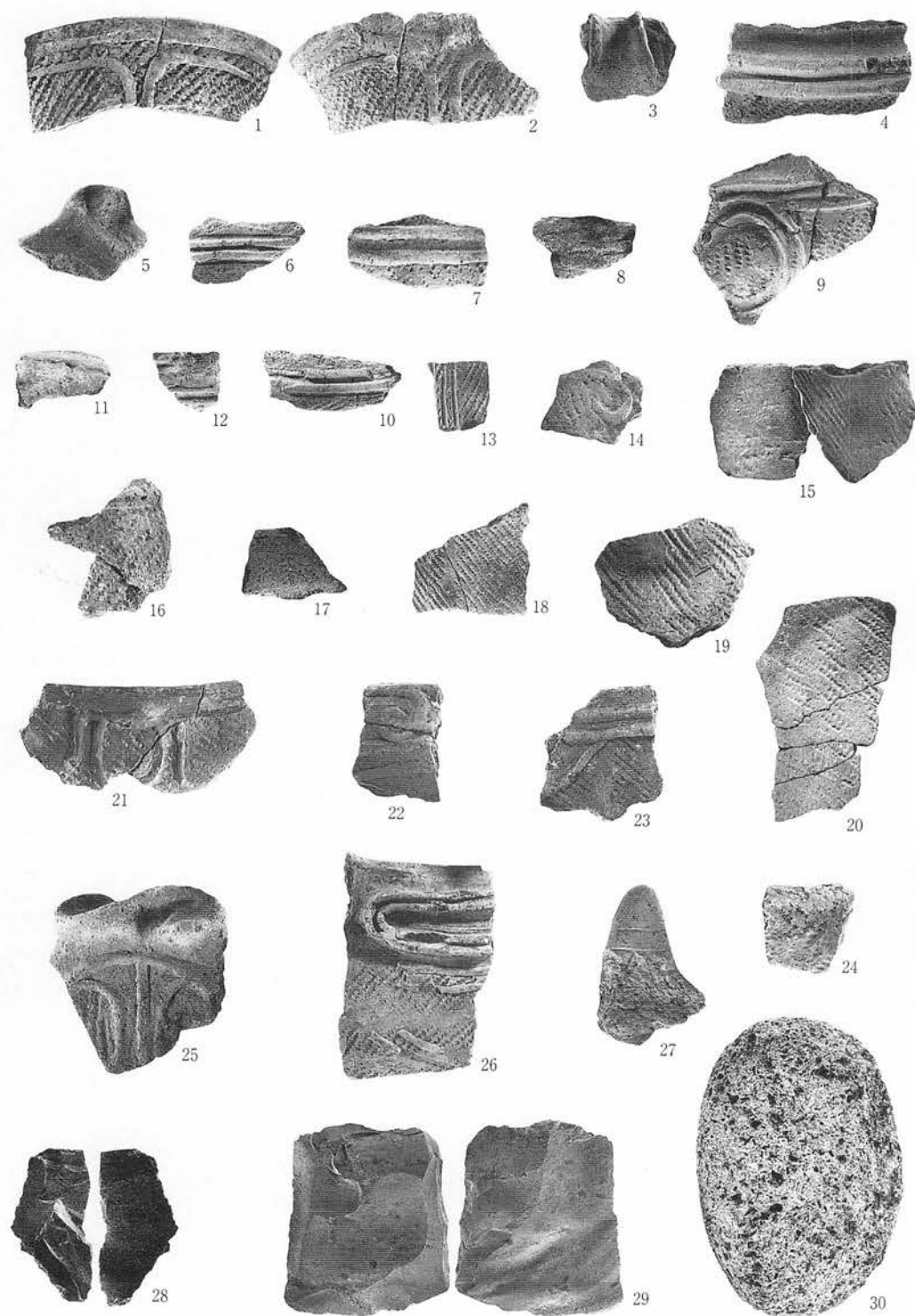


65



66

写真図版44 II H-2号住居跡遺物(3)



写真图版45 II H-3号住居跡遺物



ⅡH-4号住居跡 全景（北東から）



石囲炉完掘平面（東から）

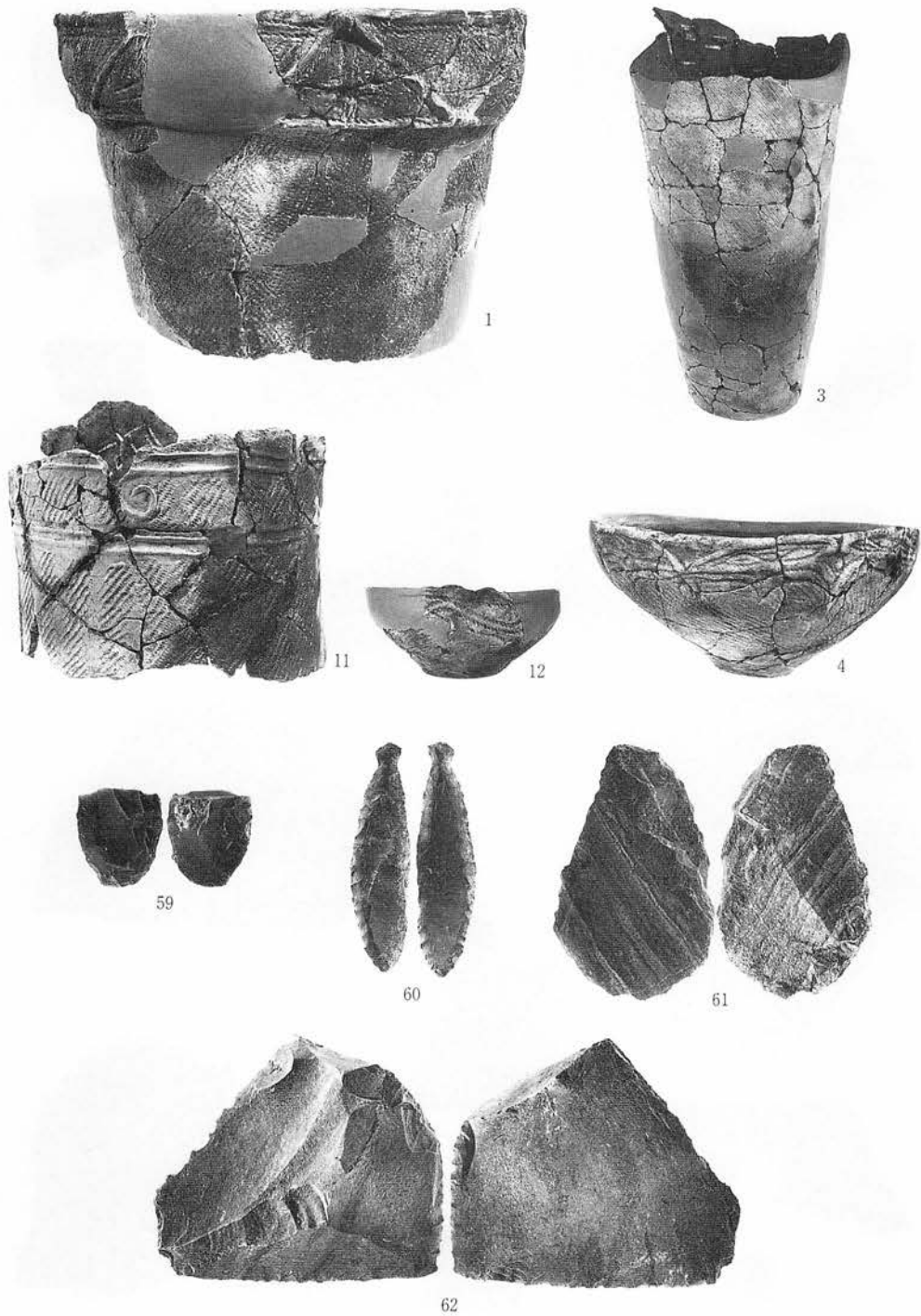


床面遺物出土状況（東から）

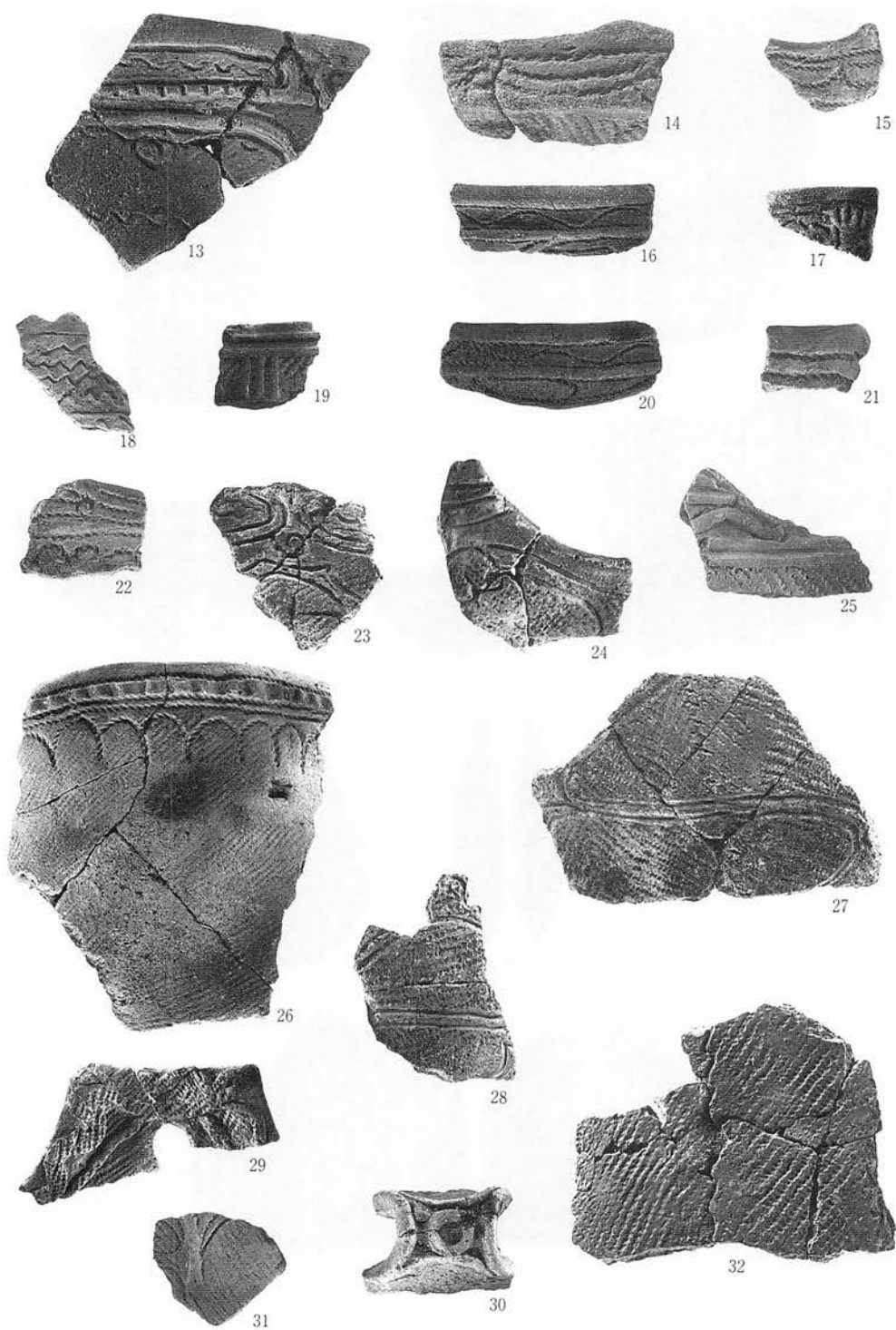


石囲炉断面（東から）両側はⅡH-6号住居壁面

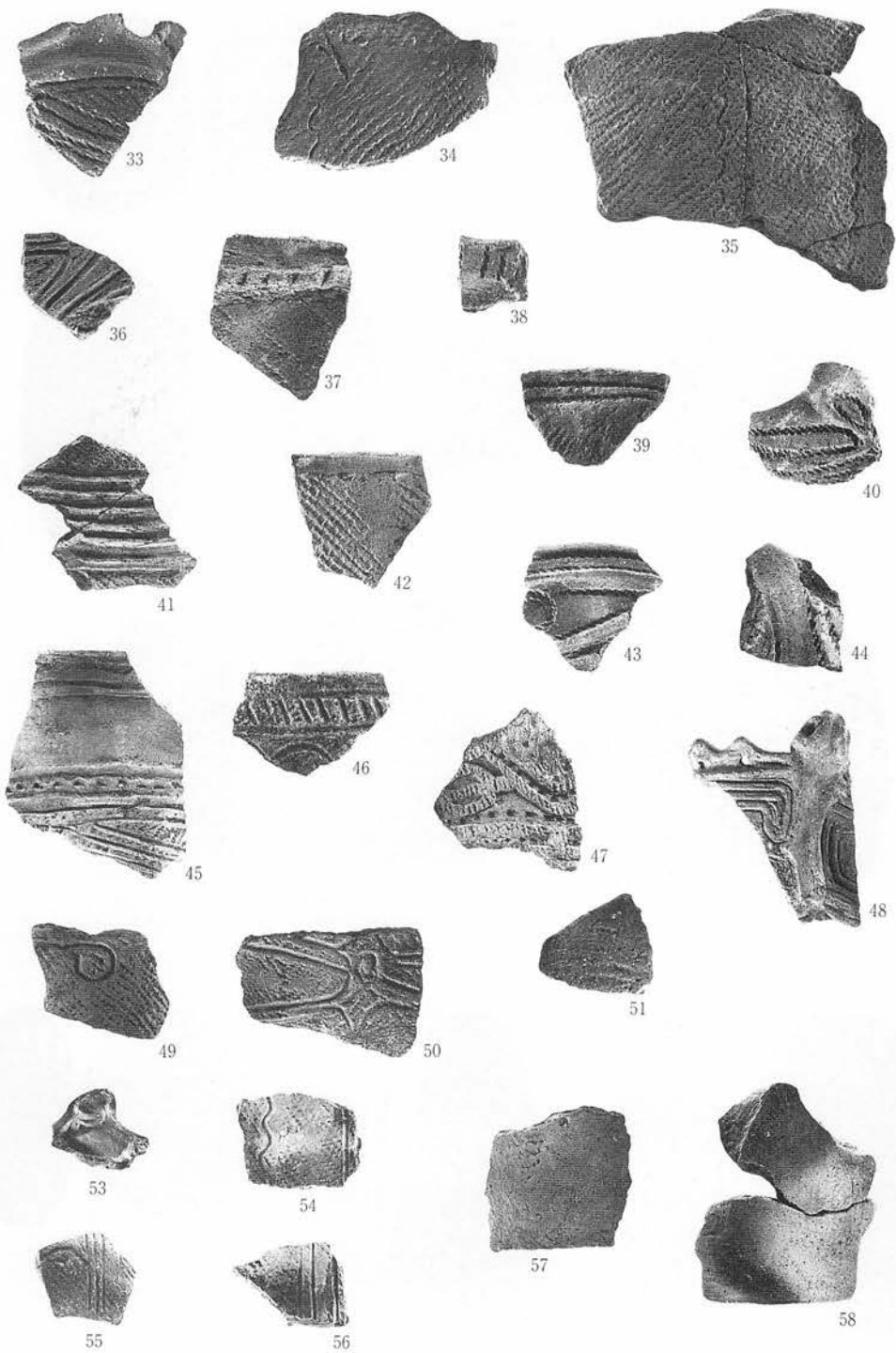
写真図版46 ⅡH-4号住居跡



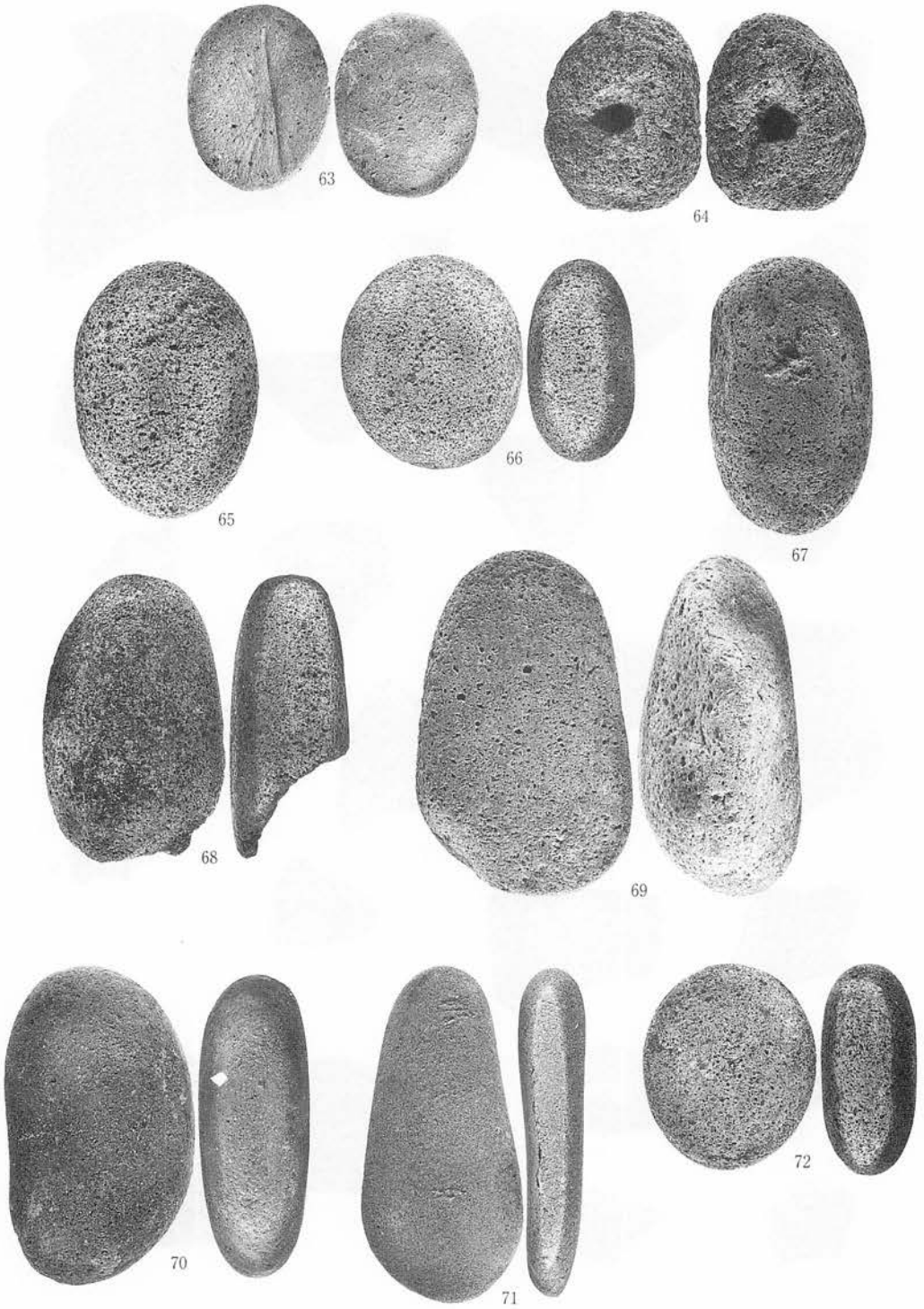
写真図版47 II H-4号住居跡遺物(1)



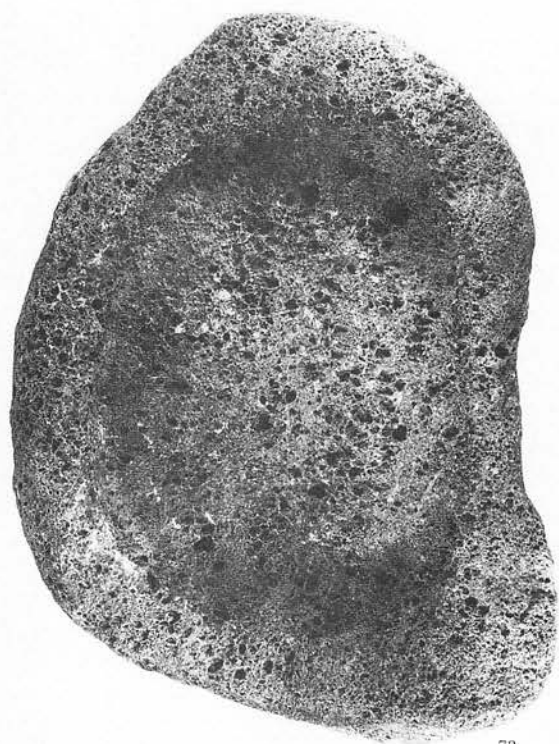
写真図版48 II H-4号住居跡遺物(2)



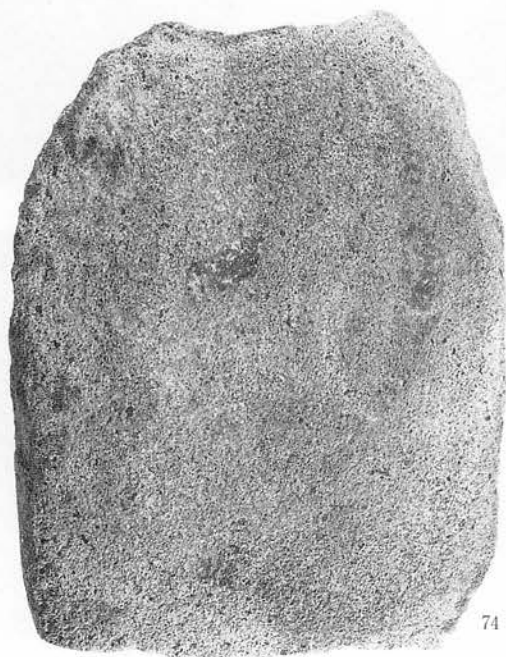
写真図版49 II H-4号住居跡遺物(3)



写真図版50 II H-4号住居跡遺物(4)



73



74

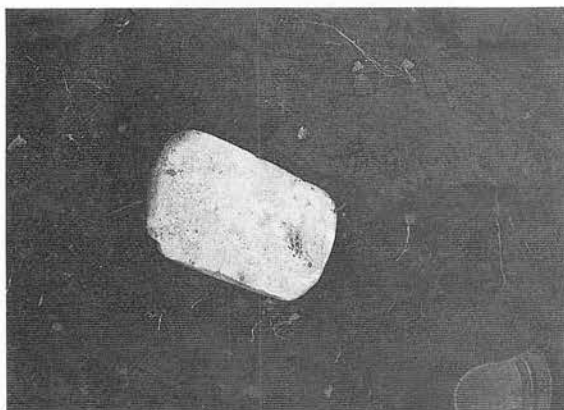


75

写真図版51 II H-4号住居跡遺物(5)



ⅡH-5、6号住居跡 全景（北東から）下位面が5号住。上位面が6号住。右上の石囲炉はⅡH-4号住

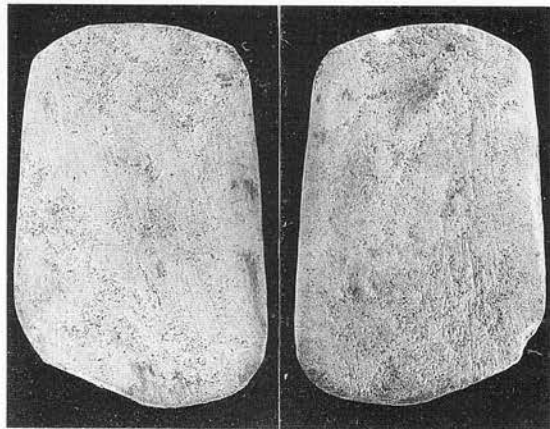
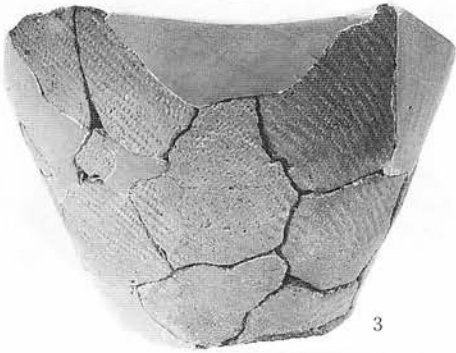
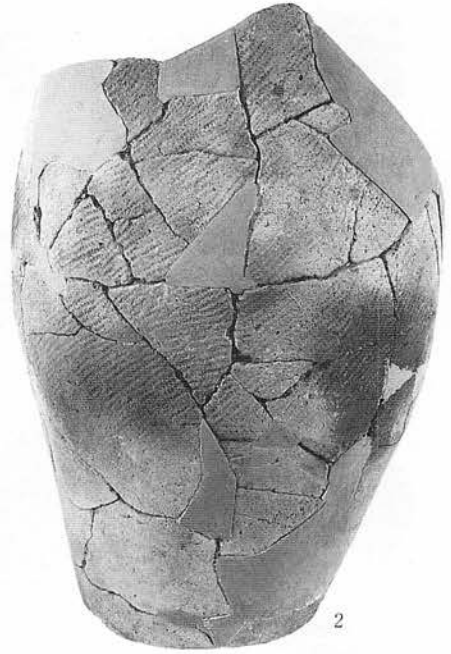


ⅡH-6号住埋土出土の岩版

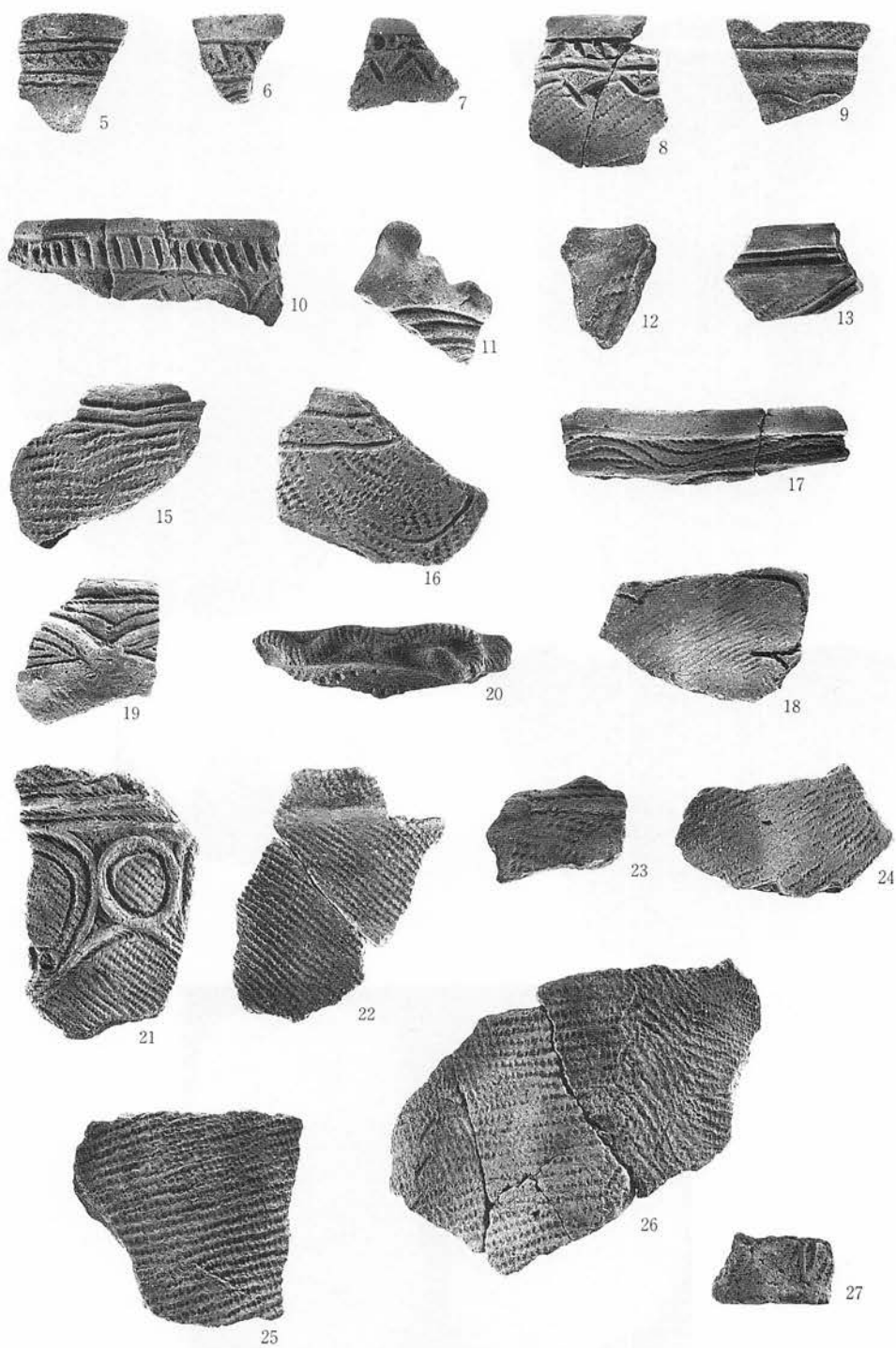


ⅡH-5号住P₁₀断面

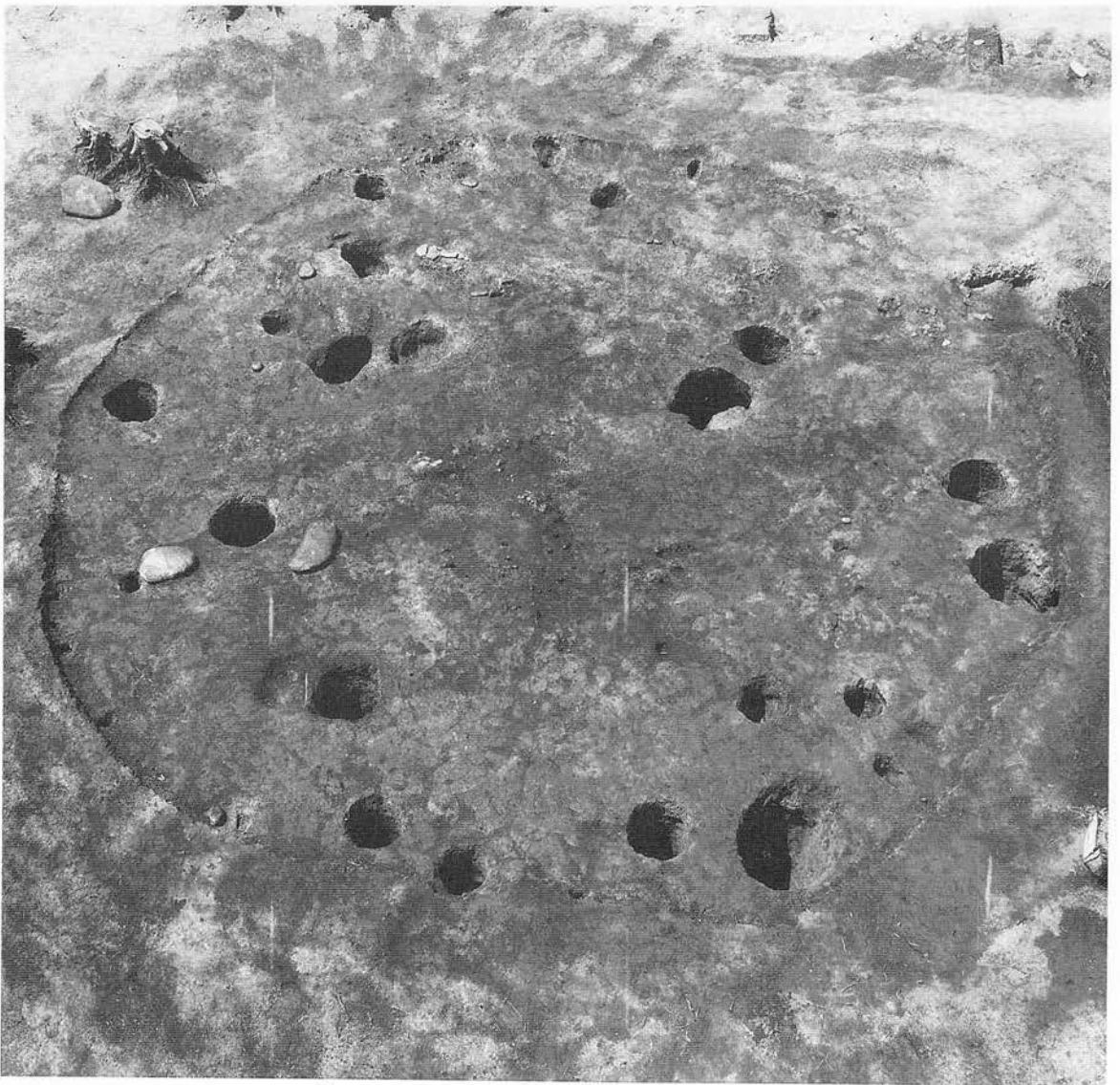
写真図版52 ⅡH-5号、6号住居跡



写真図版53 II H-5号住居跡遺物(1)



写真図版54 II H-5号住居跡遺物(2)

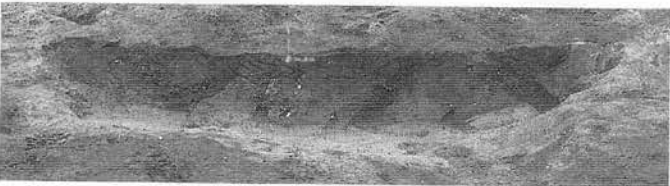


Ⅱ J-1号住居跡

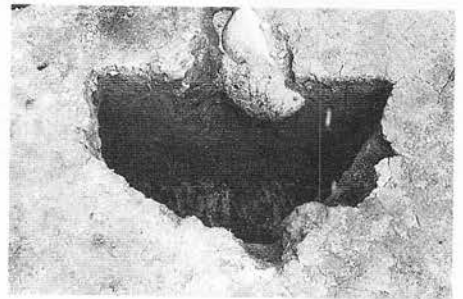
全景（北東から）



地床No.1断面（南西から）

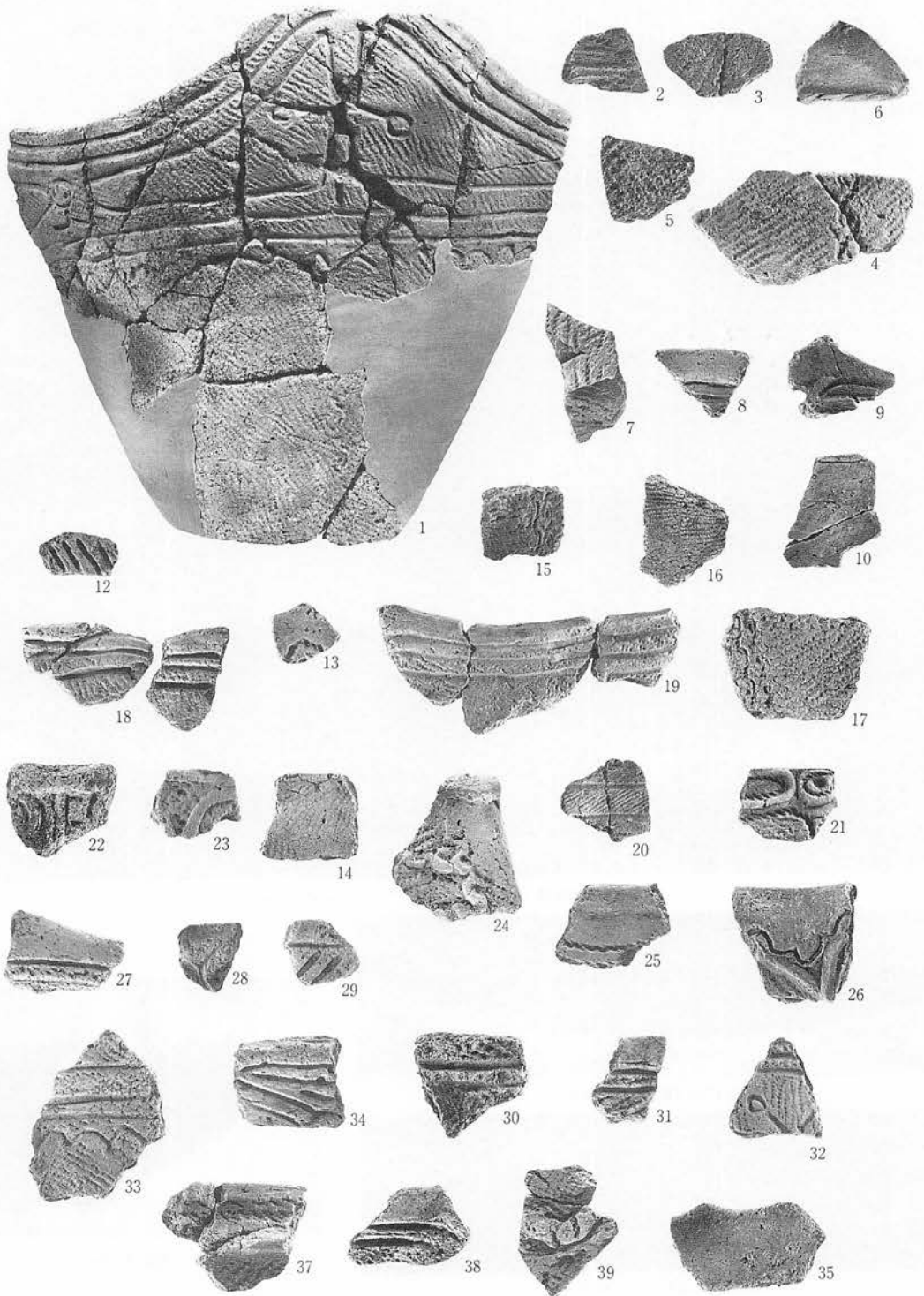


地床No.2断面（南西から）

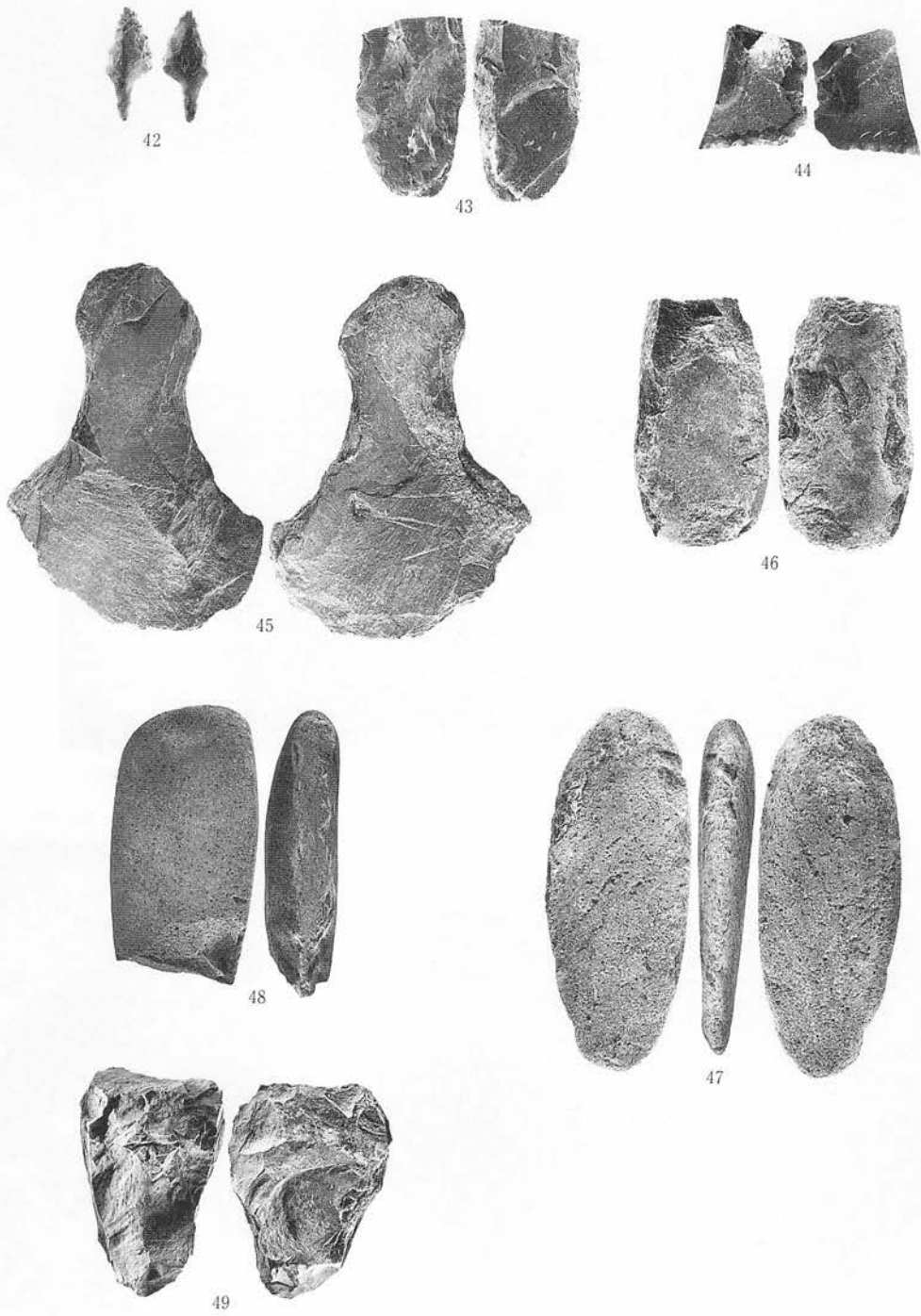


柱穴埋土断面

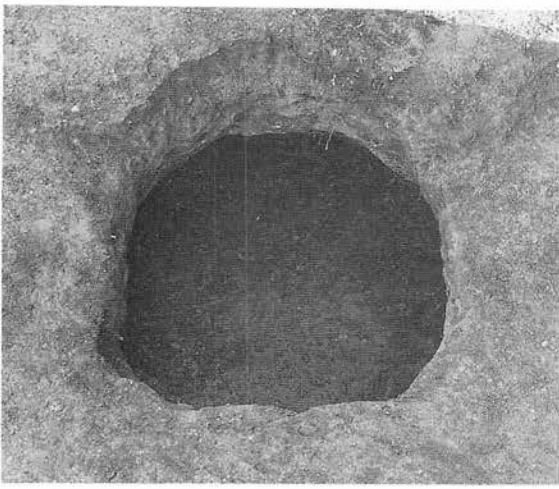
写真図版55 Ⅱ J-1号住居跡



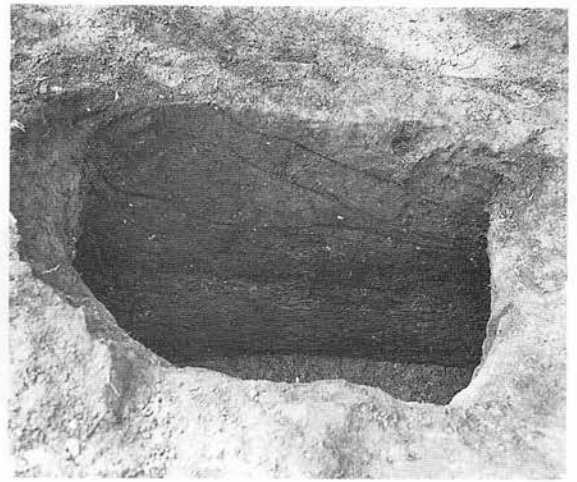
写真図版56 II J-1号住居跡遺物(1)



写真図版57 II J-1号住居跡遺物(2)



平面（北西から）



断面（北東から）

Ⅱ G-1号フラスコビット



Ⅱ H-1号フラスコビット

断面（北東から）

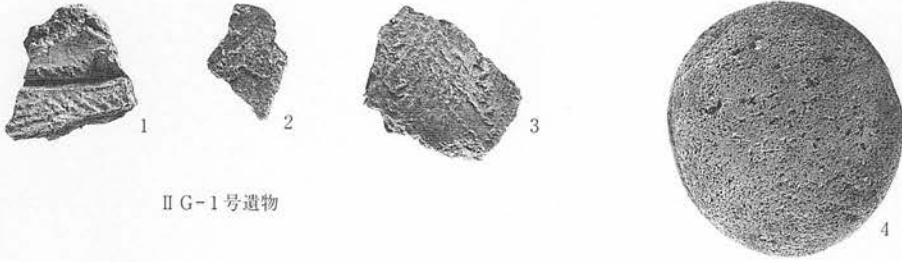
南半分全景（東から）



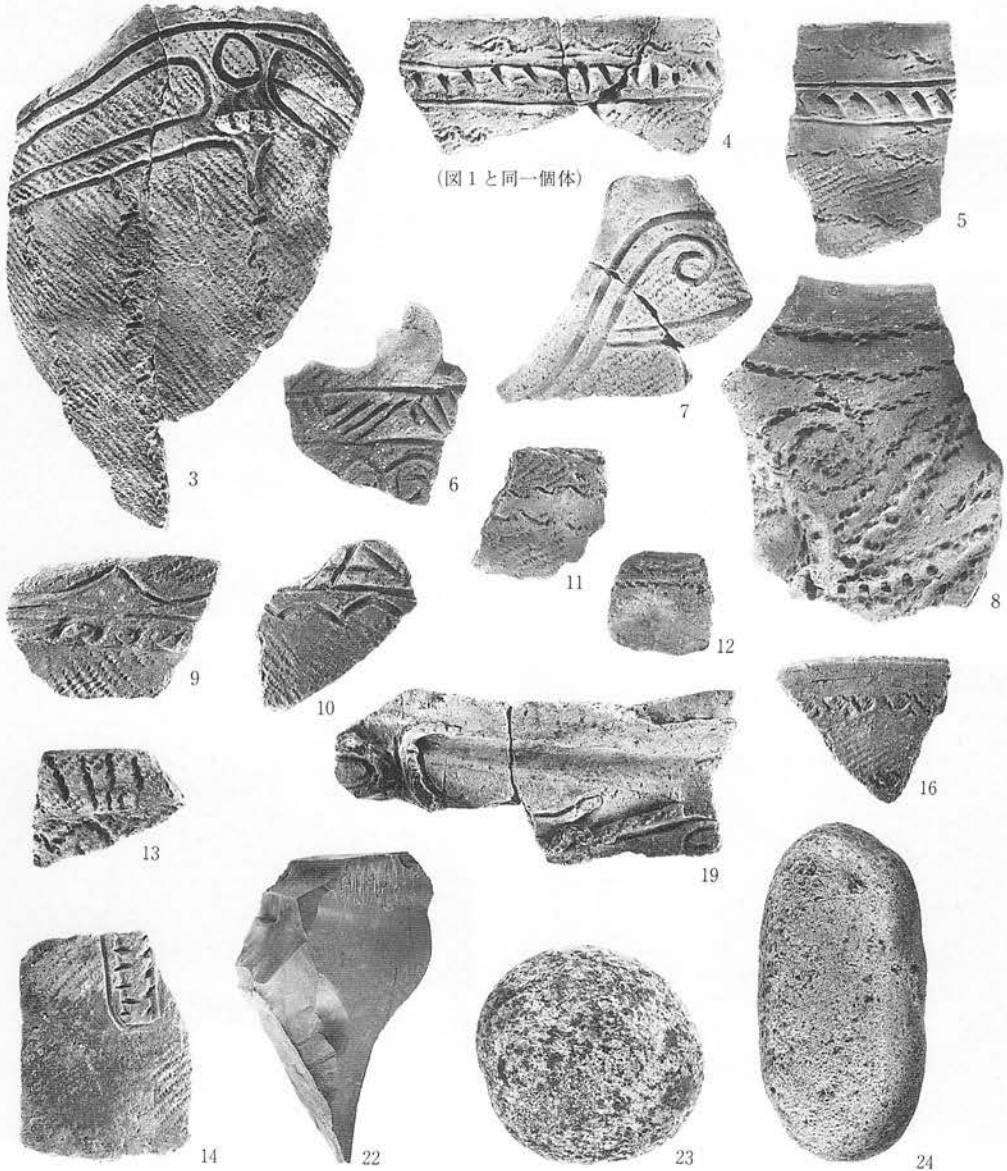
北半分全景（南東から）



写真図版58 Ⅱ G-1、Ⅱ H-1号フラスコビット



Ⅱ G-1号遺物



(図1と同一個体)

Ⅱ H-1号遺物

写真図版59 フラスコピット遺物

I B-4号



平面



礫出土状況



断面

I B-5号



平面



礫出土状況



断面

写真図版60 I B-4、I B-5号集石土壌

IC-1号



平面

IC-2号



平面



磔出土状況



磔出土状況



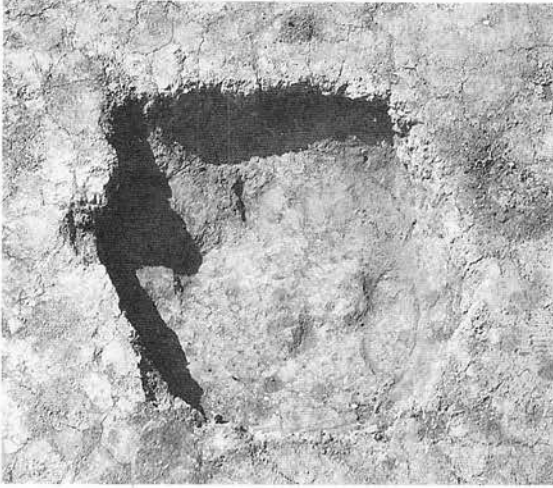
断面



断面

写真図版61 IC-1、IC-2号集石土壇

I C-5号



平面

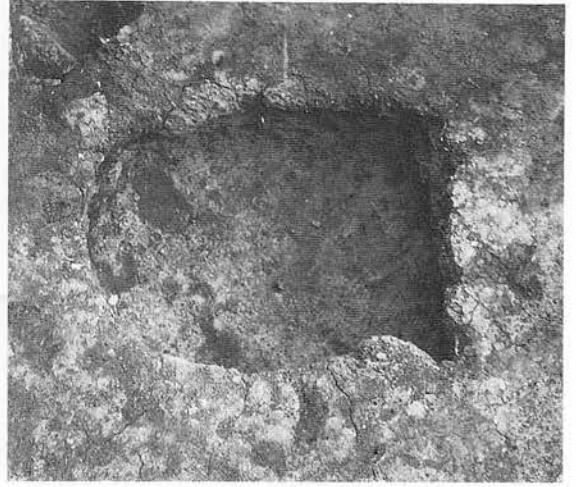


礫出土状況

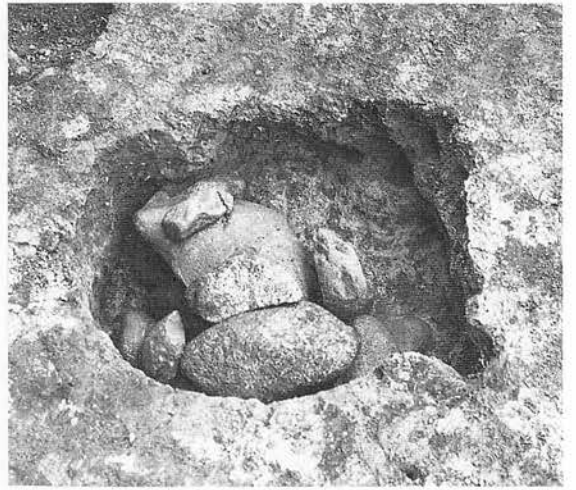


断面

I C-6号



平面



礫出土状況



断面

写真図版62 I C-5、I C-6号集石土坑

IC-7号



平面



磔出土状況



断面

IC-8号



平面



磔出土状況



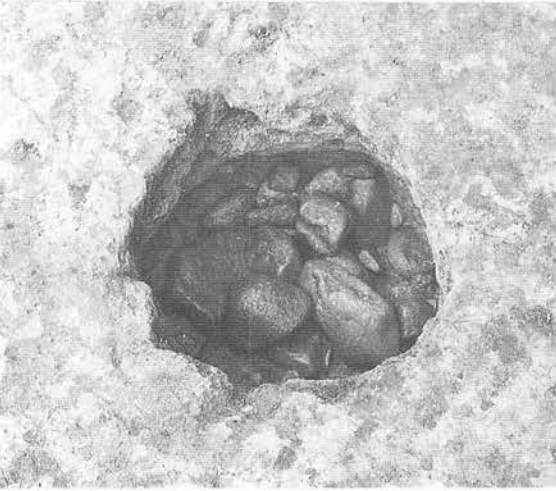
断面

写真図版63 IC-7、IC-8号集石土壙

I C-9号



平面



磔出土状況



断面

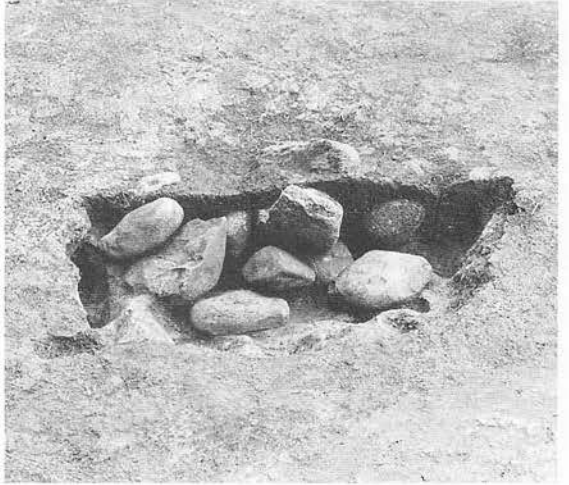
I C-12号



平面



磔出土状況



断面

写真図版64 I C-9、I C-12号集石土坑

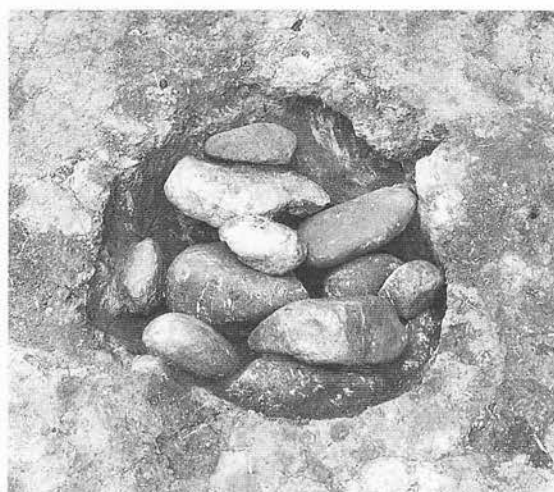


平面



I C-10号

断面



礫出土状況（南から）



I C-10号

礫出土状況（北から）



平面



I C-20号

断面

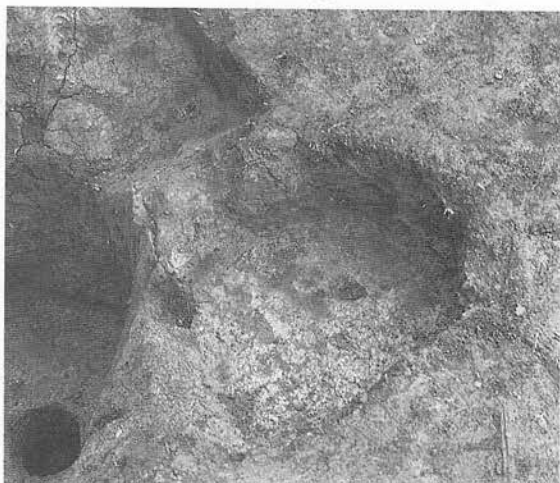
写真図版65 I C-10、I C-20号集石土壌

I C-21号



平面

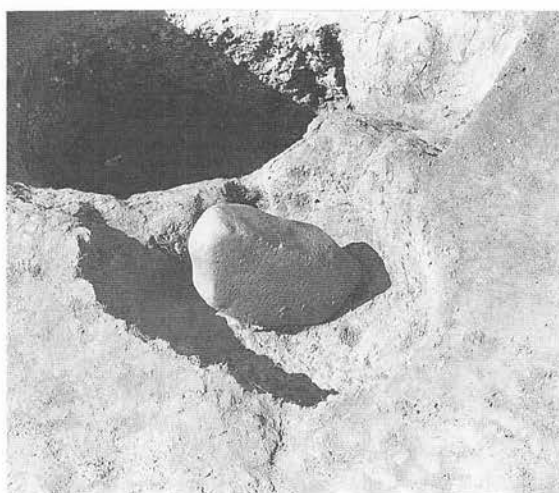
I C-23号



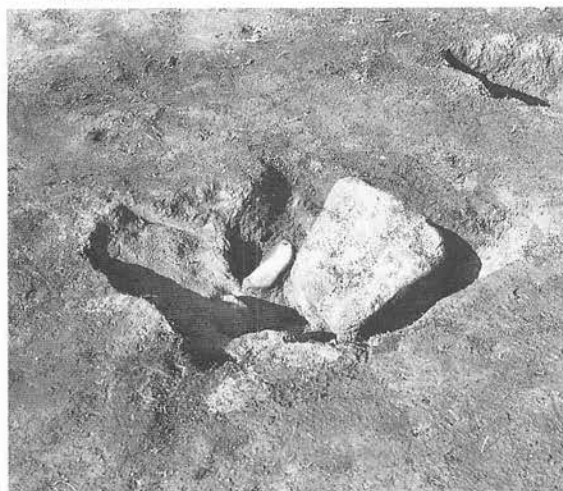
平面



磔出土状況



磔出土状況



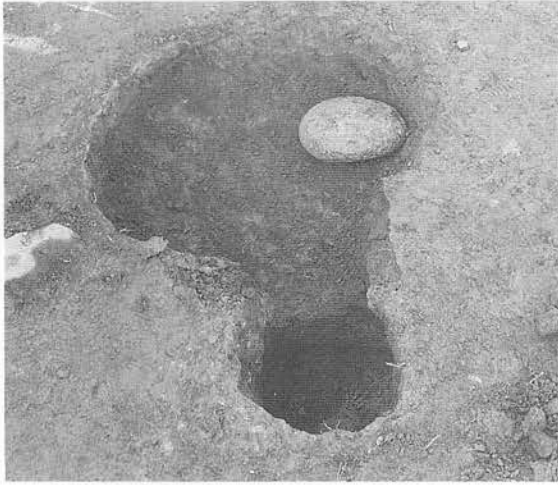
断面



断面

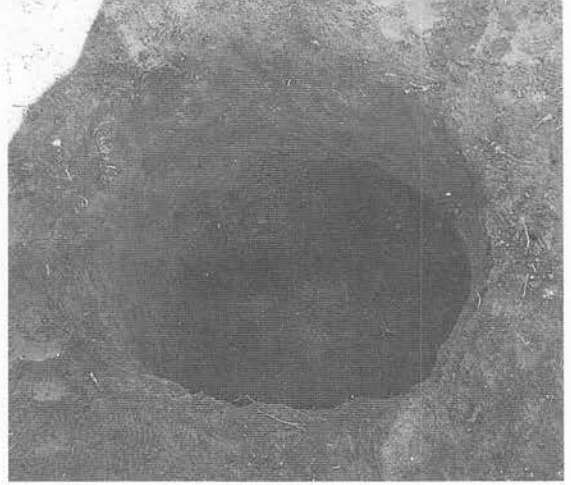
写真図版66 I C-21、I C-23号集石土壙

ⅡG-2号

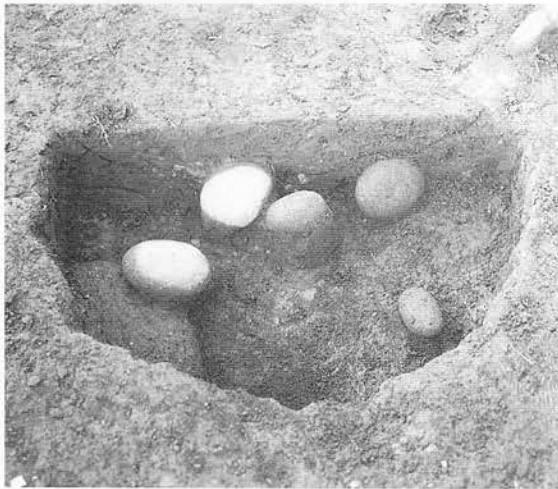


平面 石皿出土状況

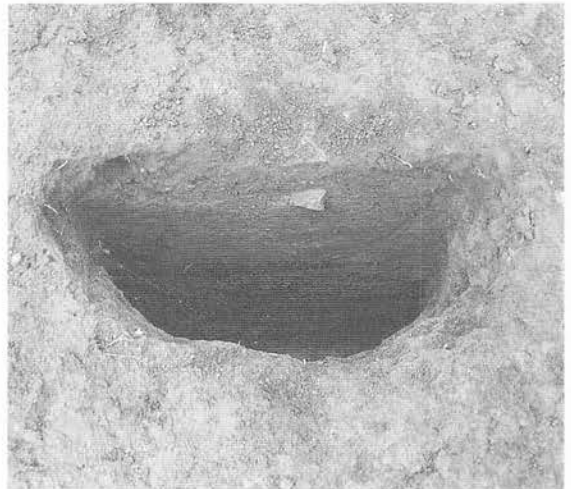
ⅡG-3号



平面



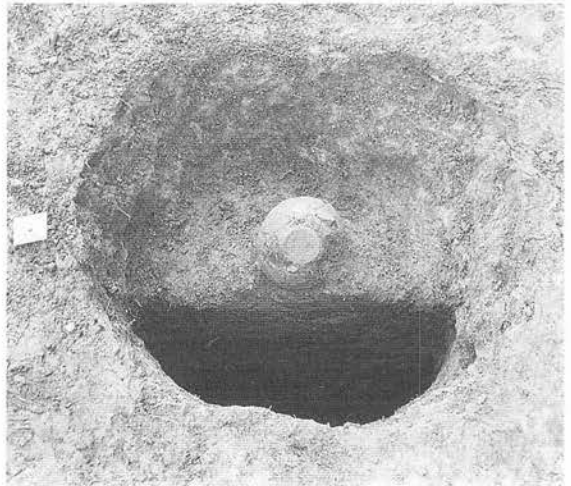
断面 碟出土状況



断面

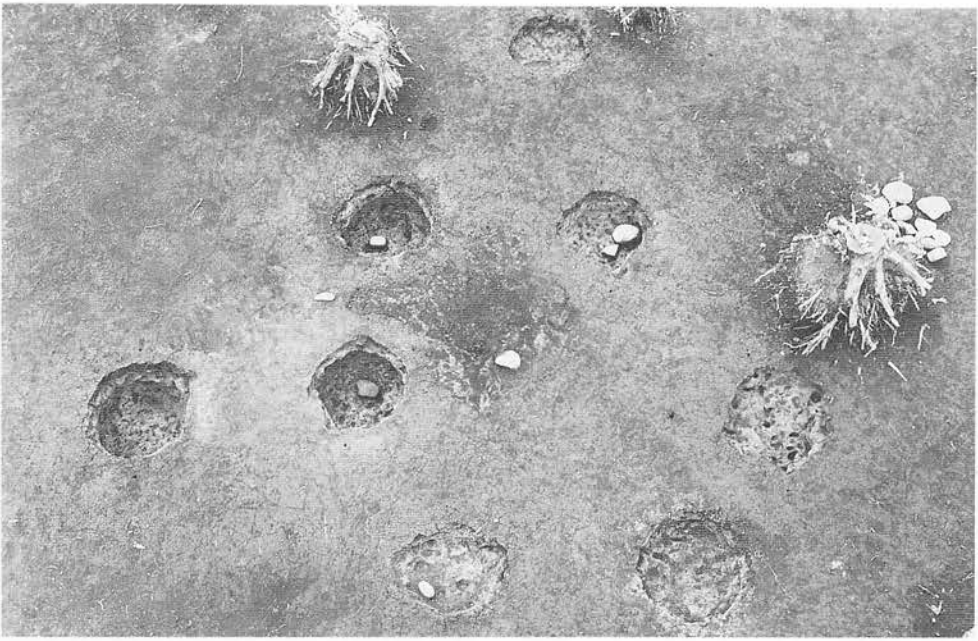


土器出土状況(北から)



浅鉢出土状況(北から)

写真図版67 ⅡG-2号集石土壌、3号土壌

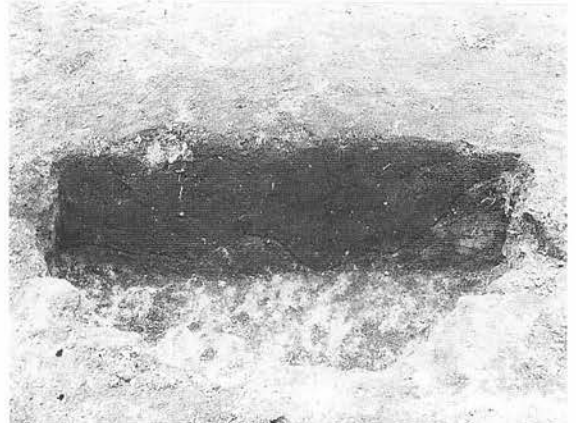


IJ土壌群 (IJ-1、2、4~9土壌) 全景 (南西から)



平面

IJ-1号

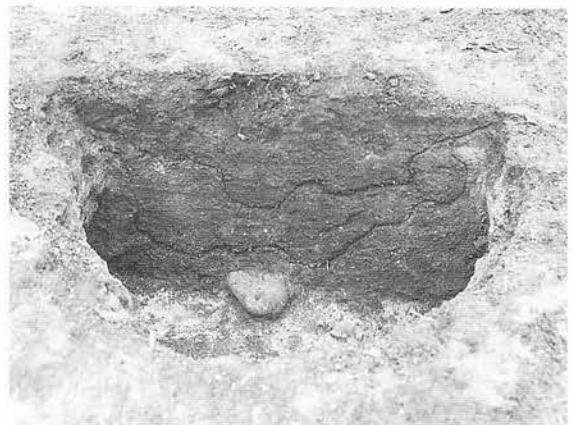


断面



平面

IJ-2号

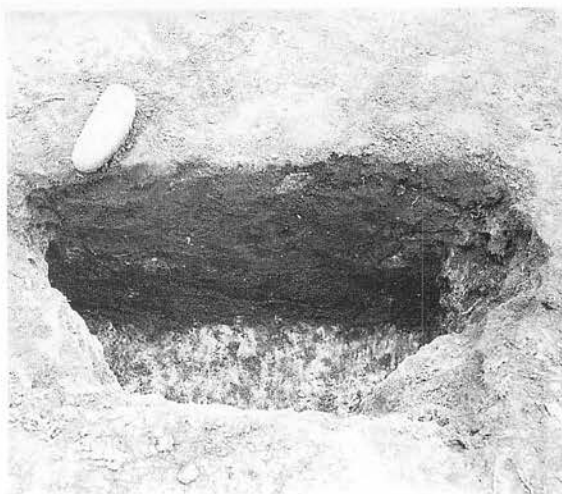


断面

写真図版68 IJ土壌群 : IJ-1、2号土壌



平面

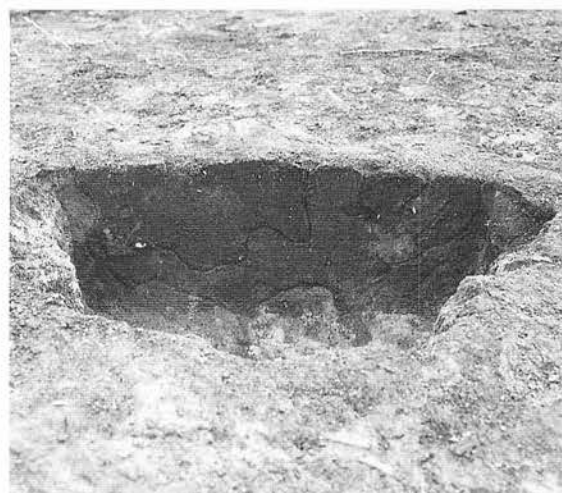


断面

I J-4号



平面

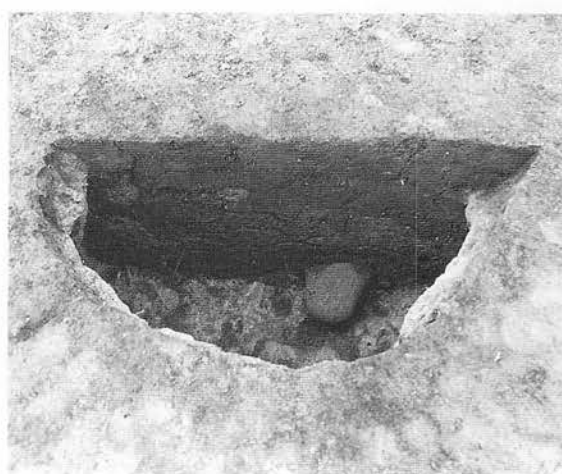


断面

I J-5号



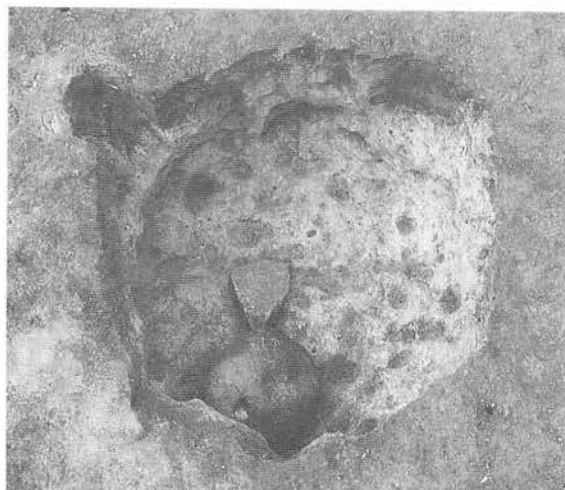
平面



断面

I J-6号

写真図版69 I J-4、5、6号集石土塊



平面



断面

I J-7号

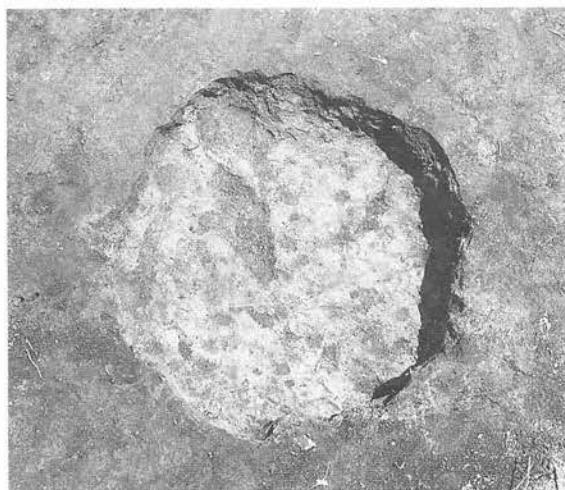


礫検出面

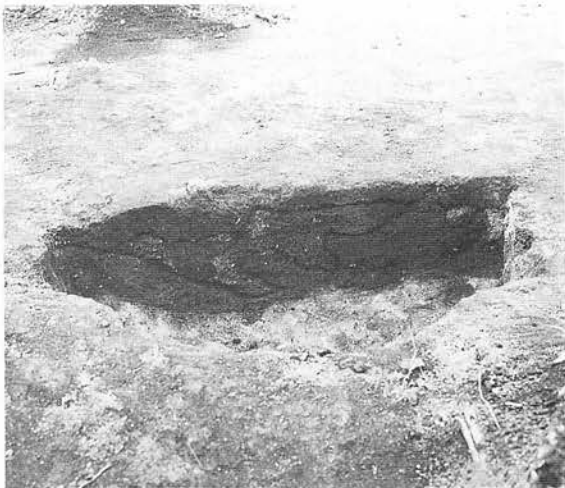


平面

I J-8号



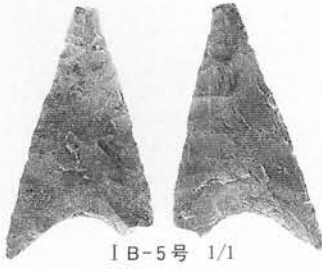
平面



断面

I J-9号

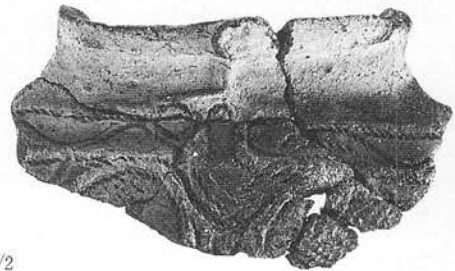
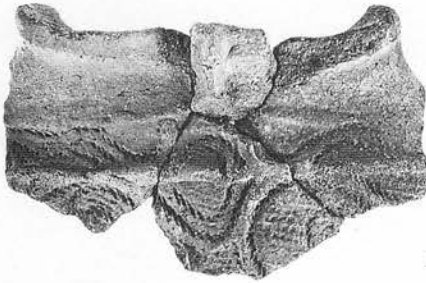
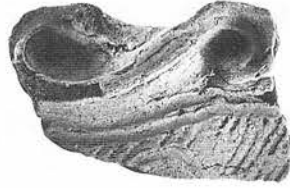
写真図版70 I J-7、8、9号(集石)土壇



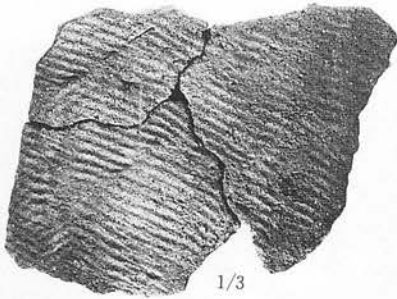
I B-5号 1/1



I B-4号 1/3

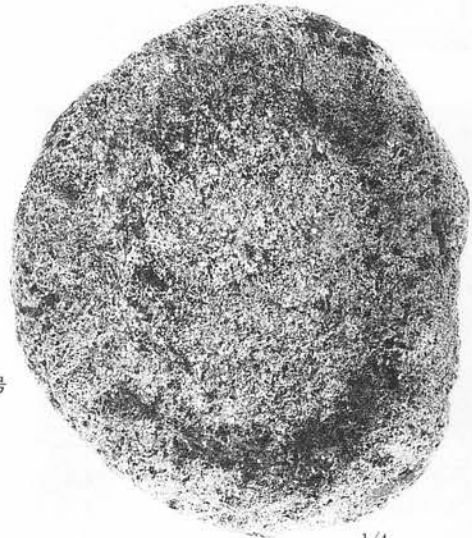


I C-7号 1/2



1/3

II G-2号



1/4



I J-1号 1/3

写真図版71 集石土壙遺物

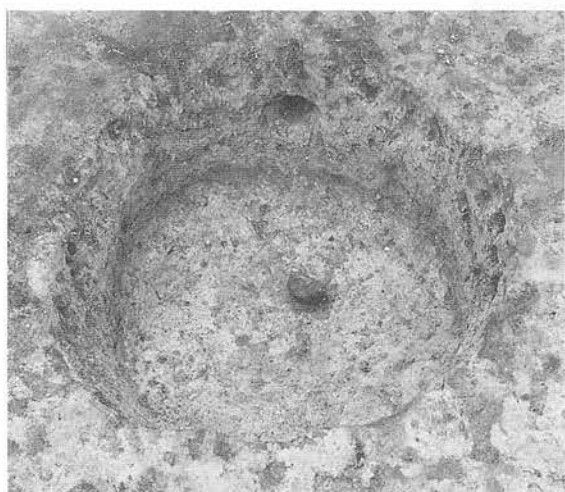


平面

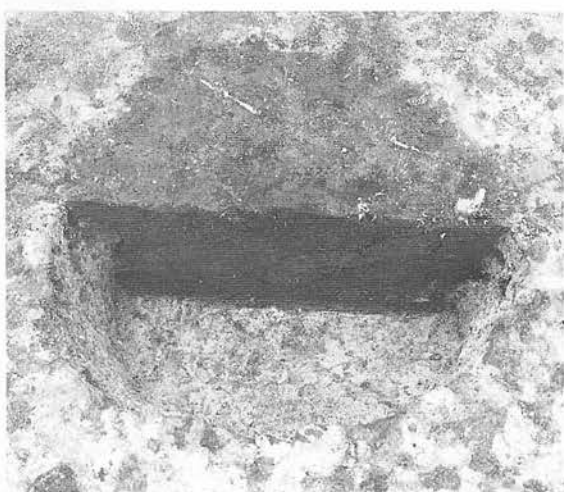


断面

I B-1号



平面

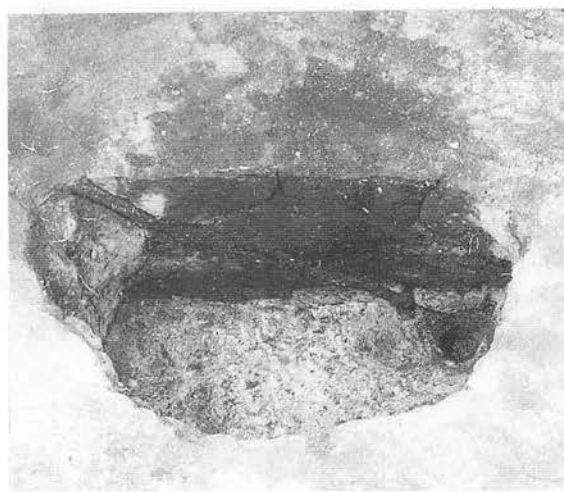


断面

I C-15号



平面



断面

I C-4号

写真图版72 I B-1、I C-4、15号土壤



平面

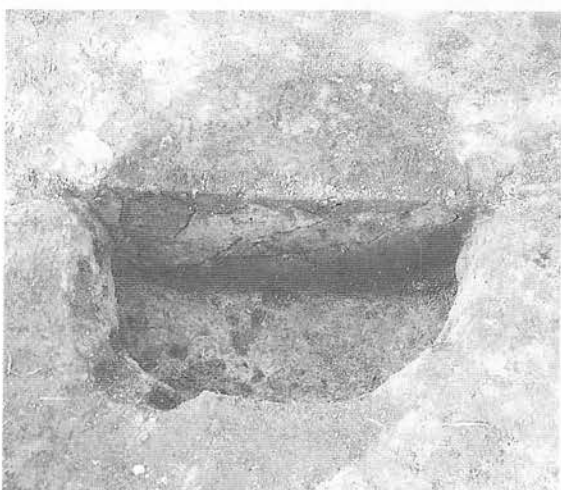


断面

I C-3号

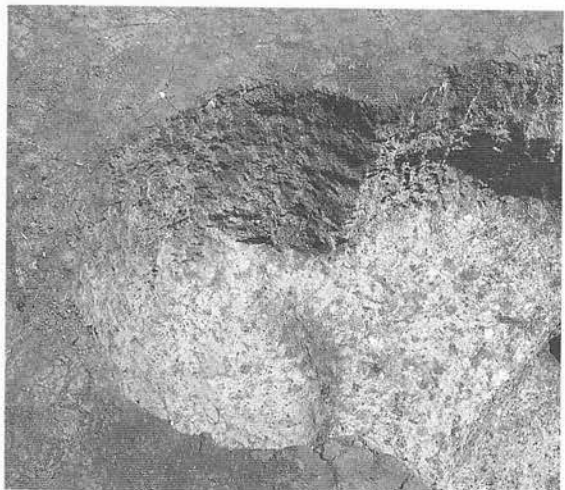


平面

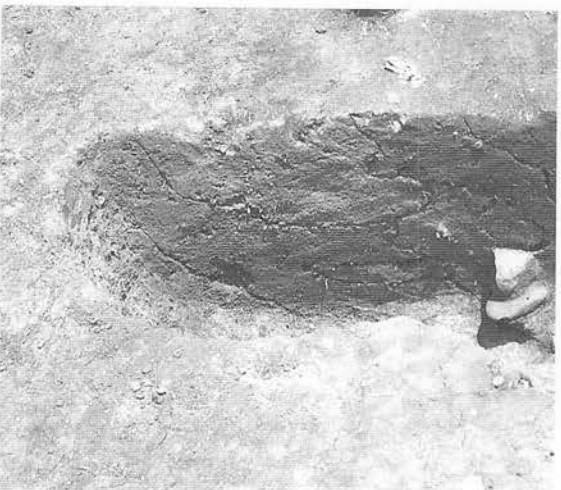


断面

I C-16号



平面 (右、I C-19号土壤)



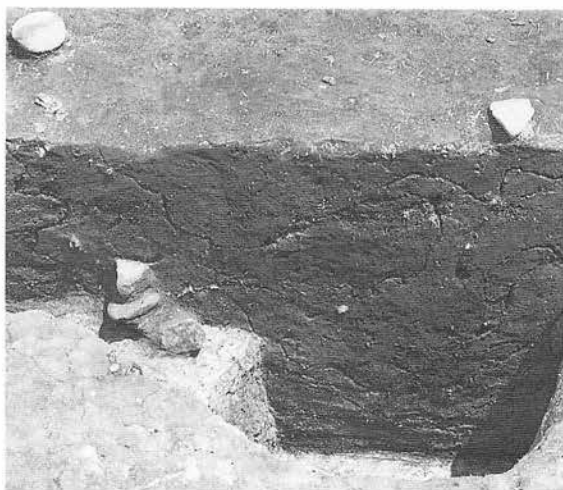
断面

I C-18号

写真图版73 I C-3、16、18号土壤



平面 (左、I C-18号土坑)



I C-19号

断面

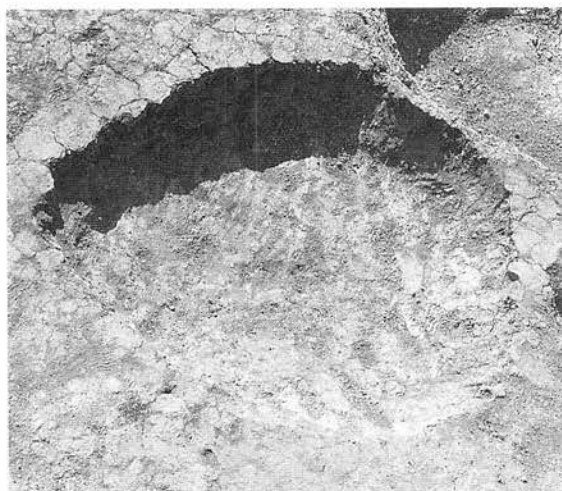


平面 礫出土状況

I B-2号

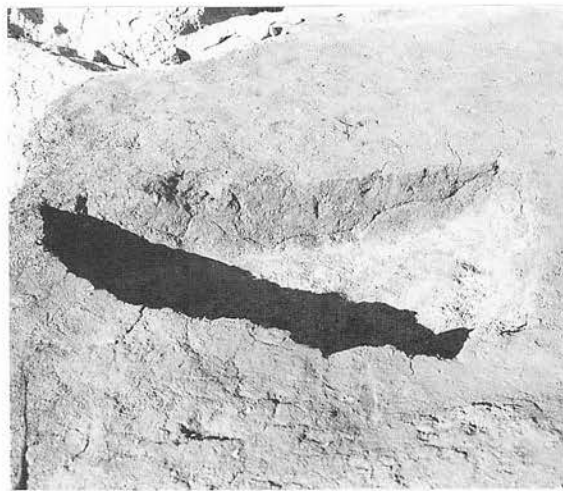


断面



平面

I B-3号

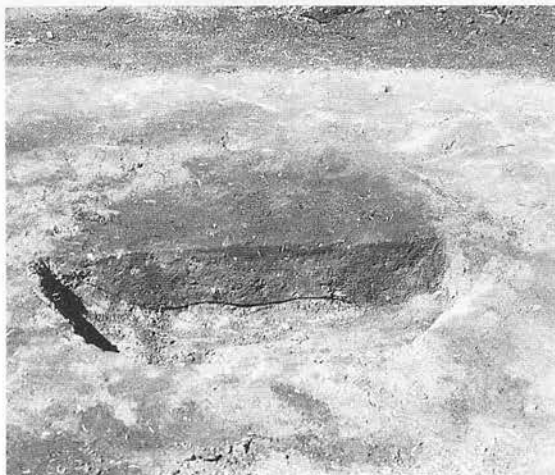


断面

写真図版74 I C-19、I B-2、3号土坑

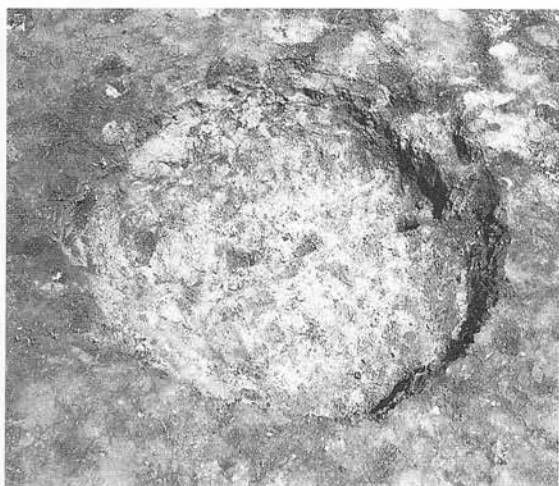


平面

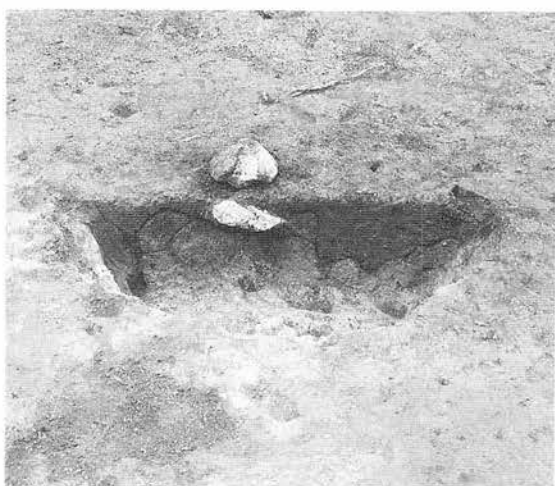


断面

I C-14号



平面

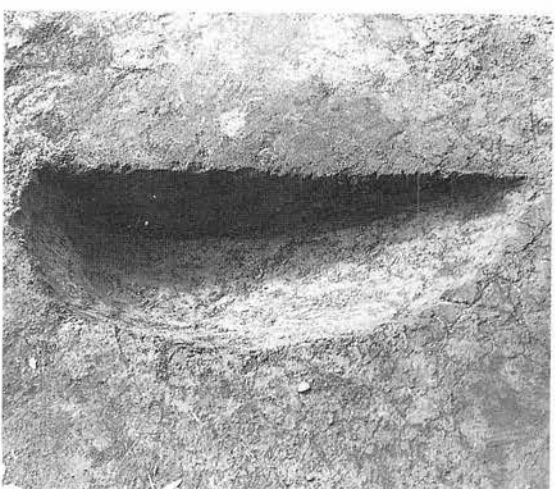


断面 磔出土状況

I C-22号



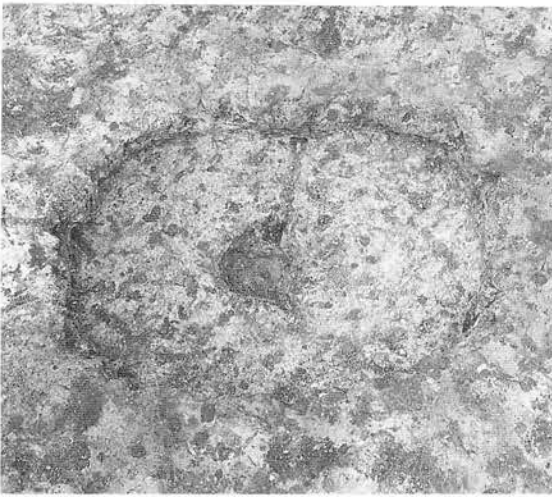
平面



断面

OH-1号

写真図版75 I C-14、22、OH-1号土壤



I D-1号

平面



I D-2号

平面



I D-3号

平面

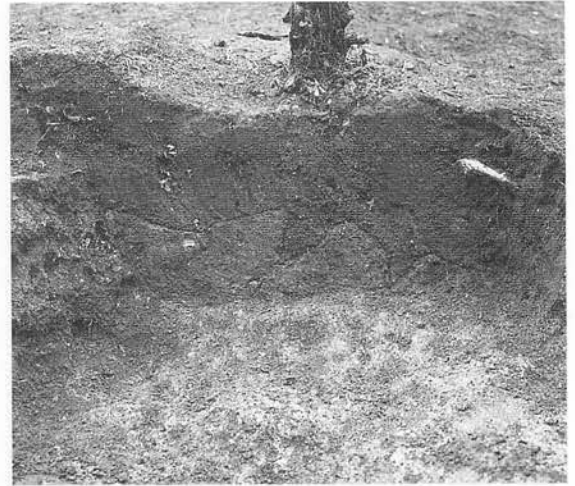


I D区作業風景



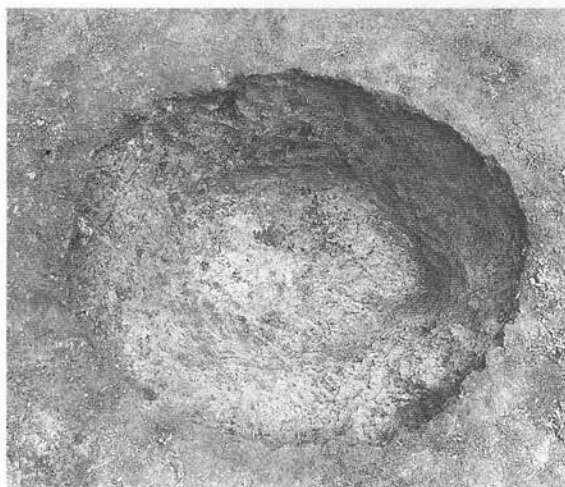
平面

II G-1号



断面

写真図版76 I D-1、2、3、II G-1号土壌

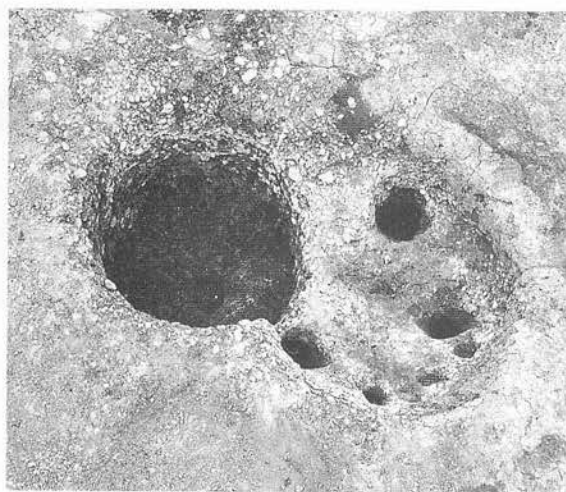


平面



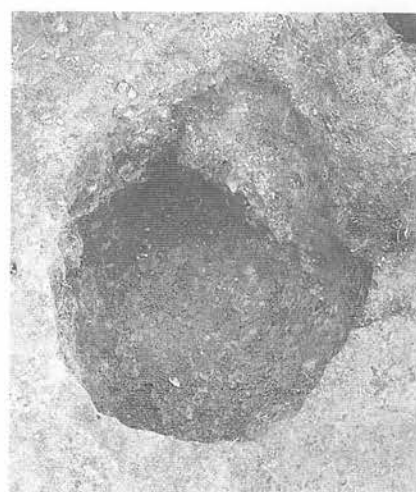
断面

I H-1号



左よりII H-1、2号

平面

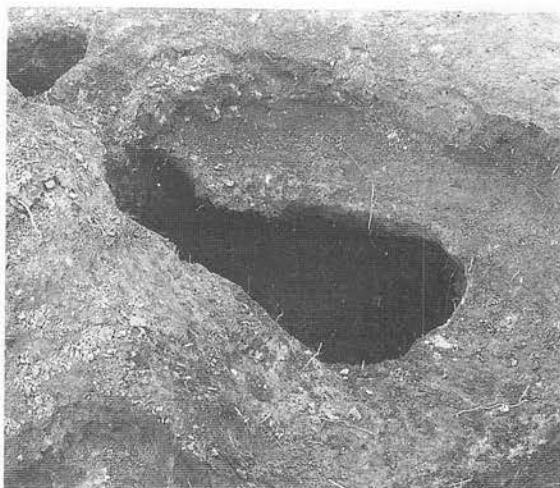


平面



平面

II H-4号

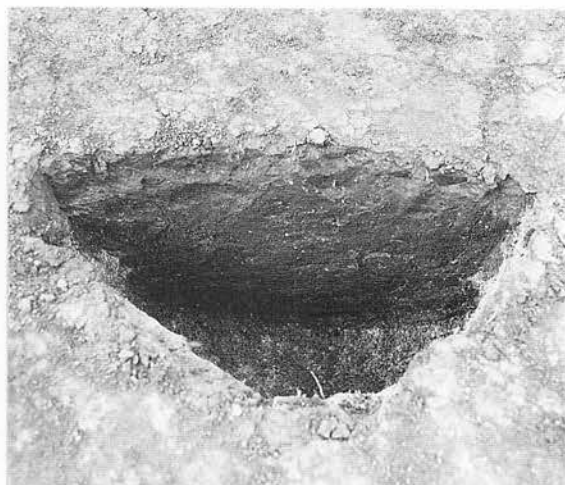


II H-4号住居跡の貼り床

写真図版77 I H-1、II H-1、2、3号土坑



平面

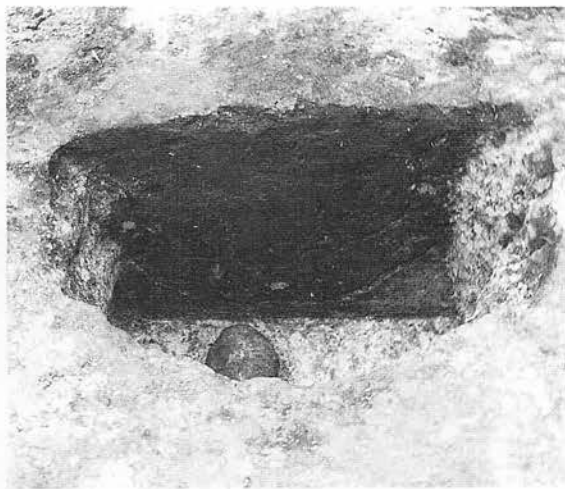


断面

I 1-1号



平面 礫出土状況

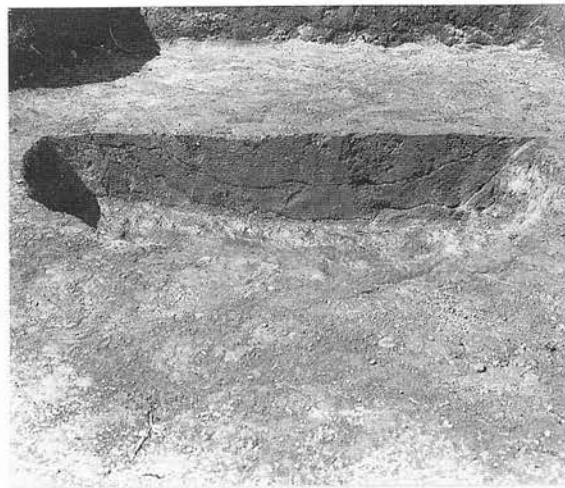


断面

I 1-2号



平面



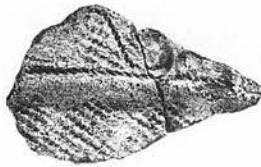
断面

II 1-1号

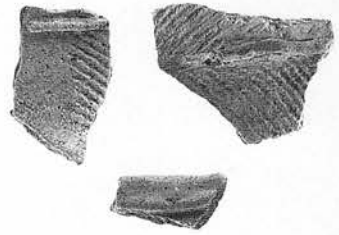
写真図版78 I 1-1、2、II 1-1号土壤



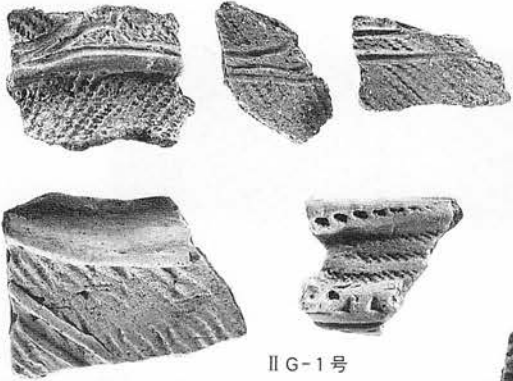
I C-15号



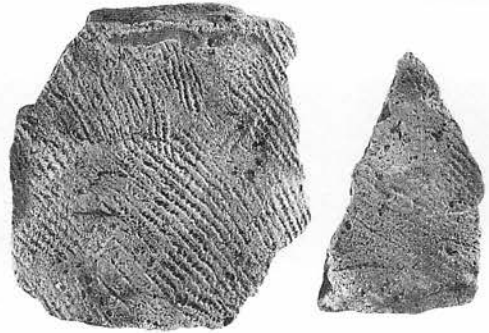
I C-4号



I D-1号



II G-1号



II G-3号

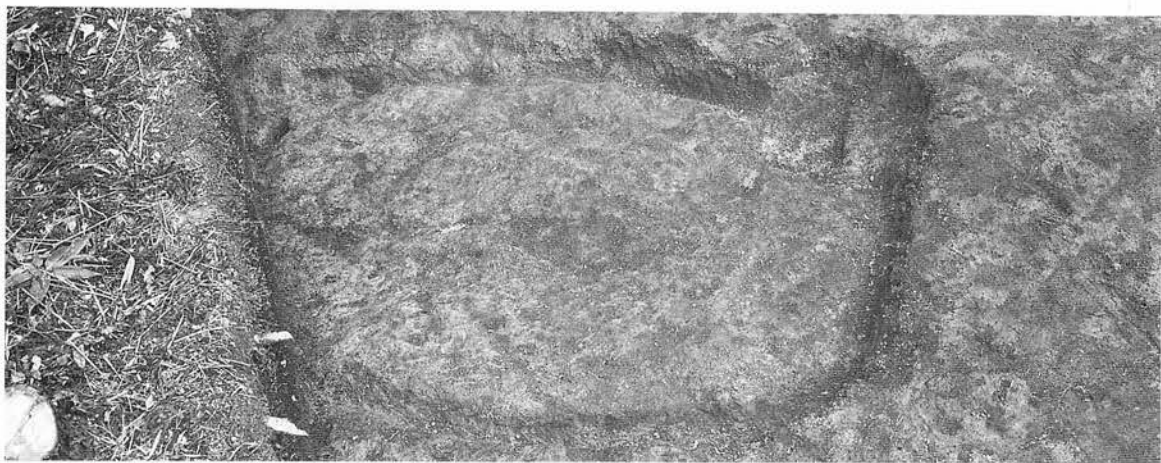


左: II H-2号

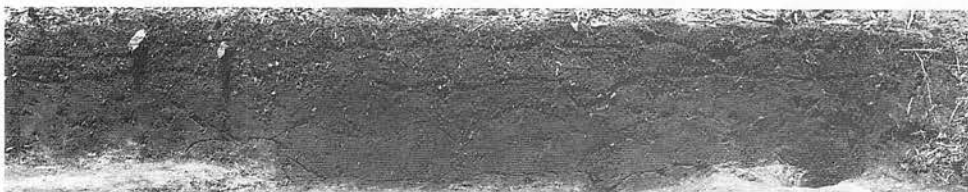
下: II H-3号



写真図版79 土壙出土遺物



平面



I C-1 号方形土壇

断面



基本土層

土層断面

写真図版80 方形土壇・基本土層



平面

IB-2号



断面



平面

IB-3号



断面



平面

IB-1号

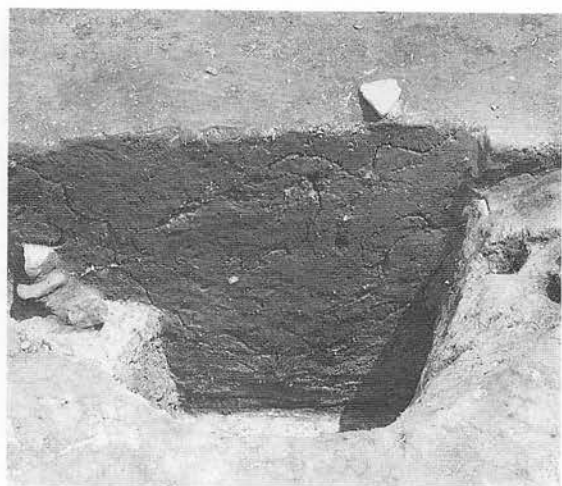


断面

写真図版81 IB-1、2、3号陷穴

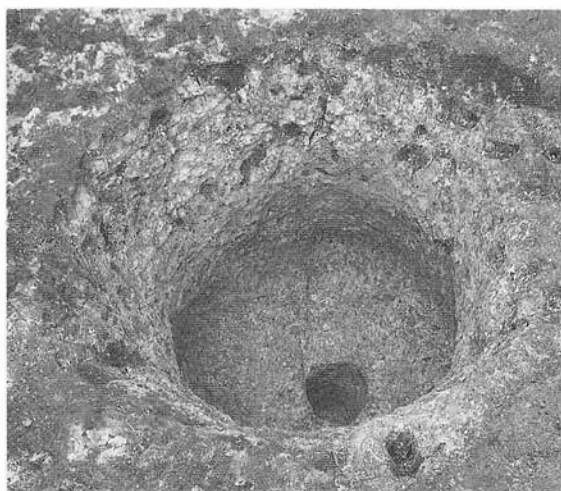


平面(右 C-19号土壤)



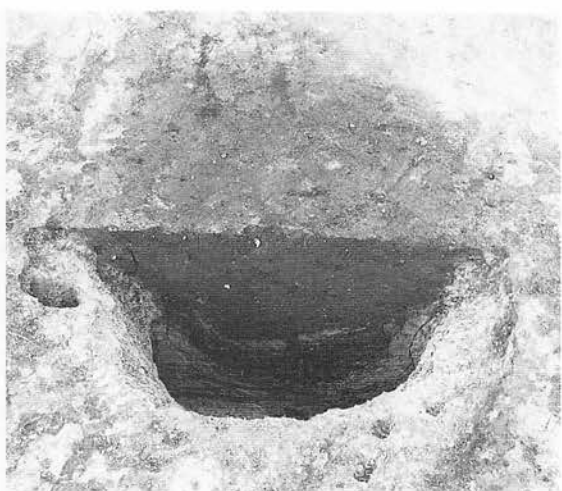
I C-1号

断面



平面

II C-1号

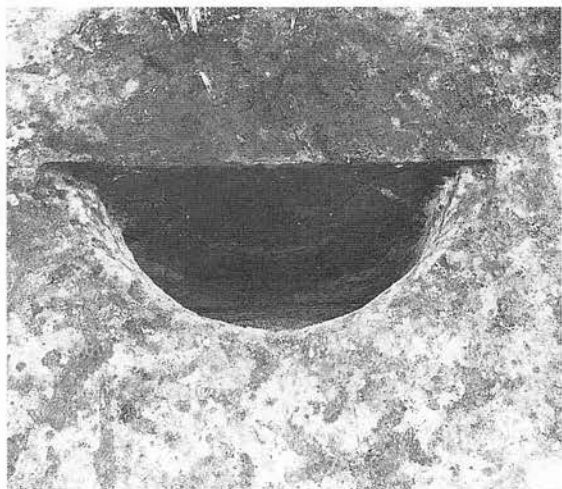


断面



平面

II C-2号

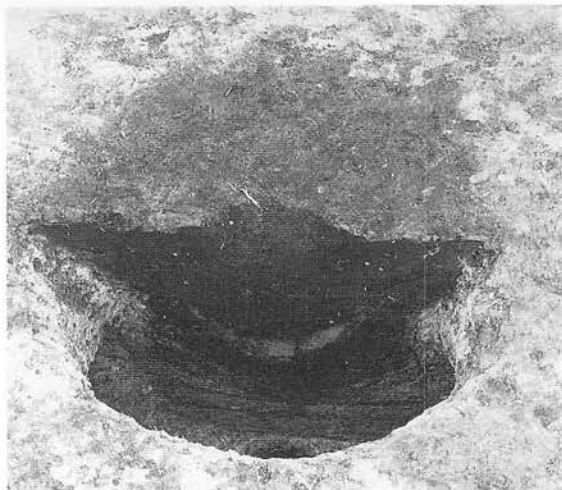


断面

写真图版82 I C-1、II C-1、2号陷穴



平面



断面

II C-3号



平面

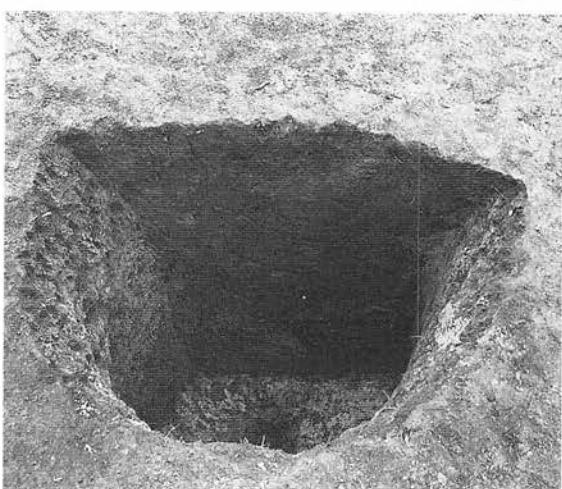


断面

I G-1号



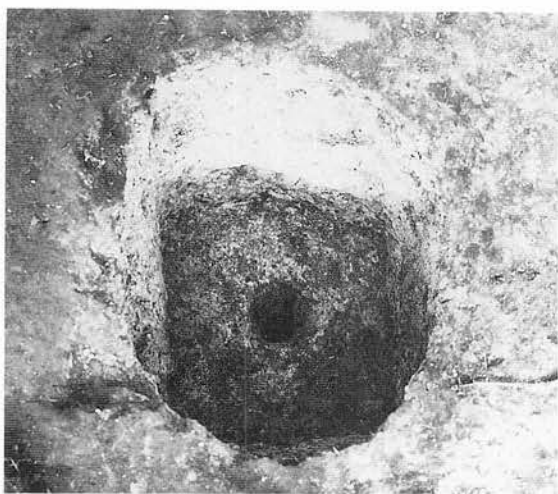
平面



断面

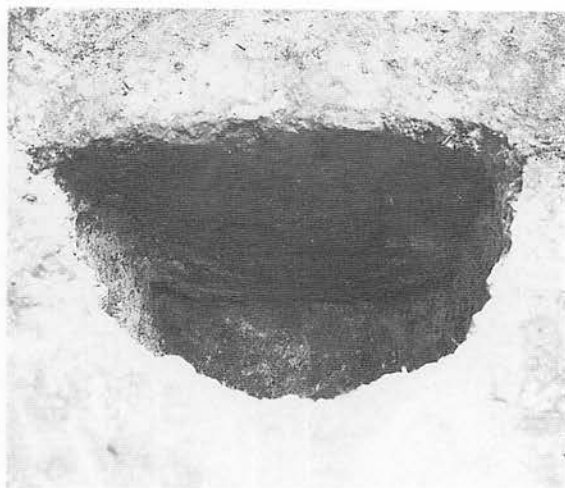
I G-2号

写真図版83 II C-3、I G-1、2号陷穴



平面

IG-3号

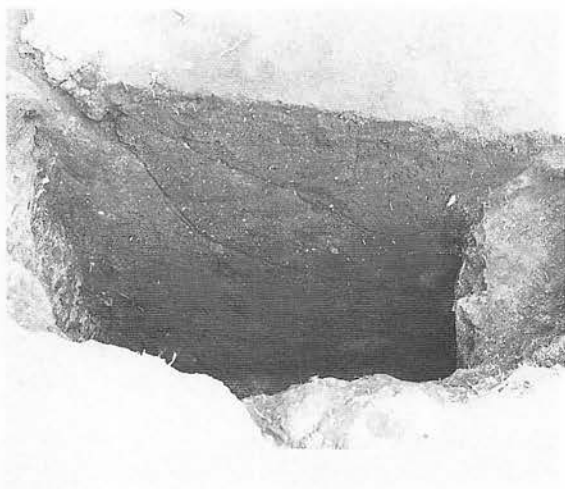


断面

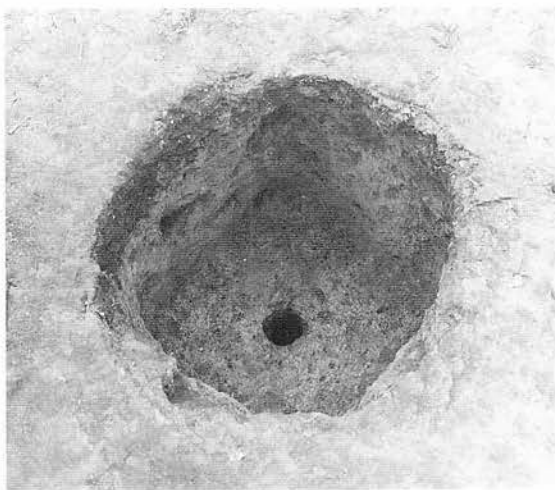


平面

IG-4号

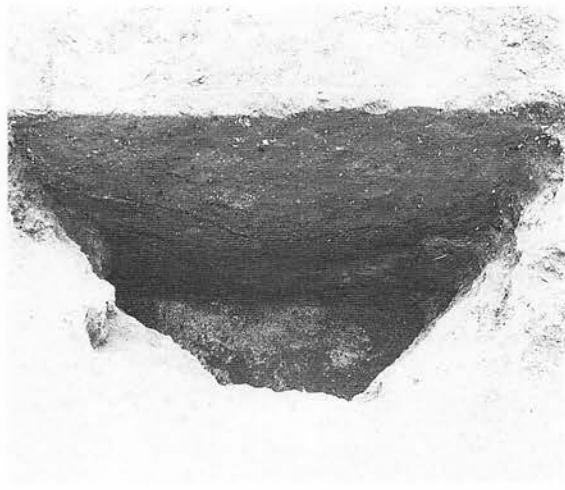


断面



平面

IG-5号



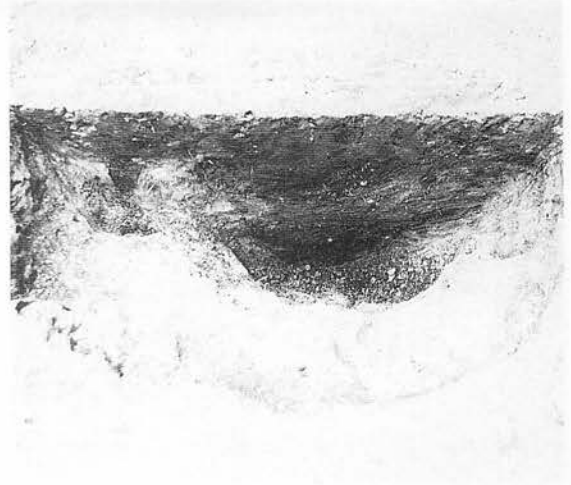
断面

写真图版84 IG-3、4、5号陷穴

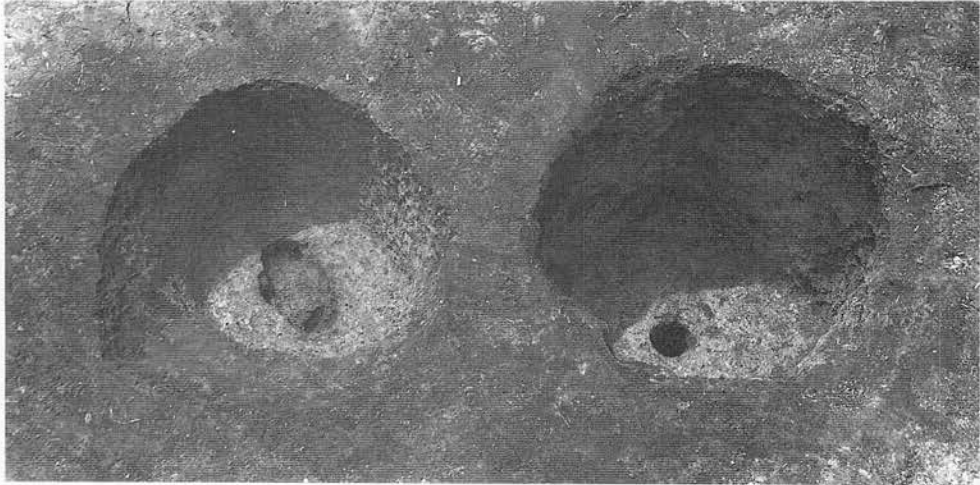


平面

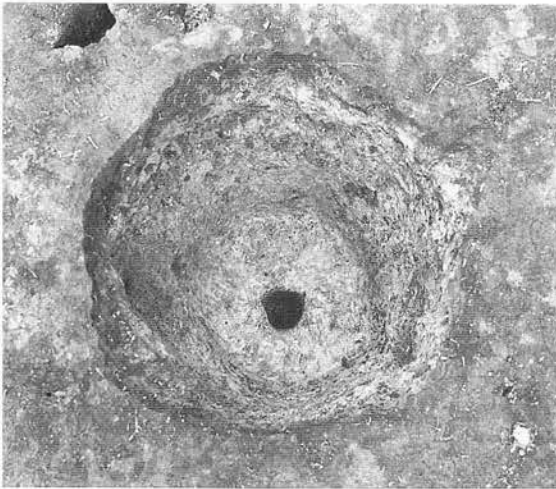
IG-6号



断面



左より IG-6号・5号陥穴(北東から)

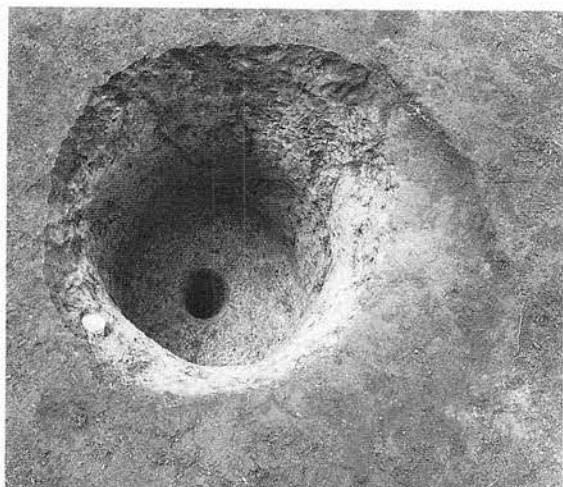


平面

IG-10号

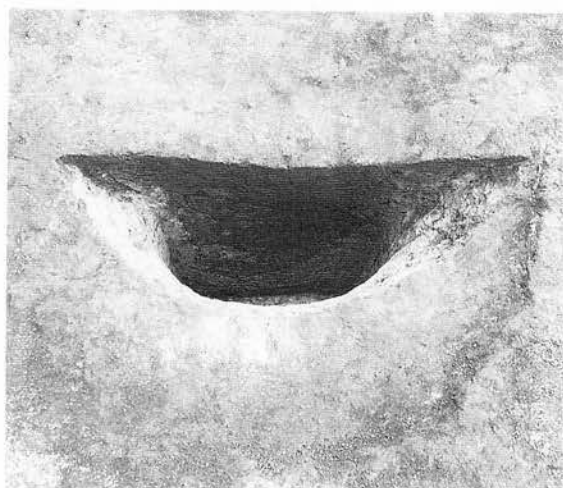


写真図版85 IG-6、10号陥穴



平面

I G-11号



断面



平面

I H-1号

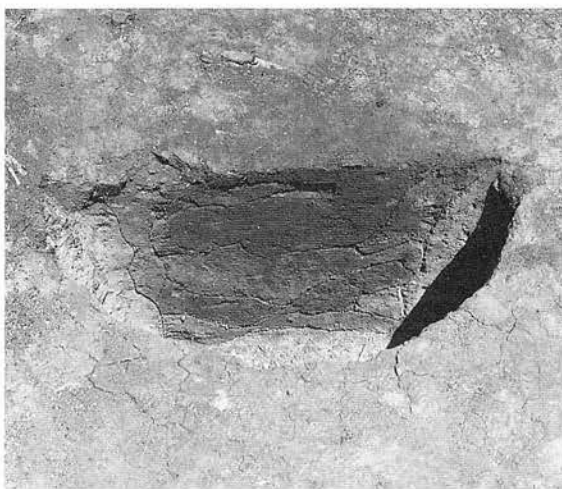


断面



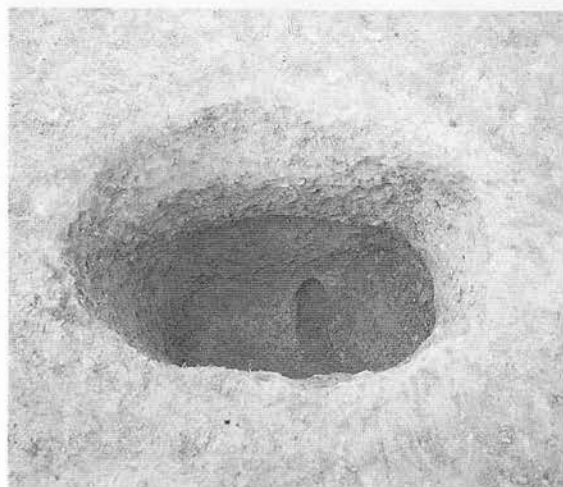
平面

I H-2号

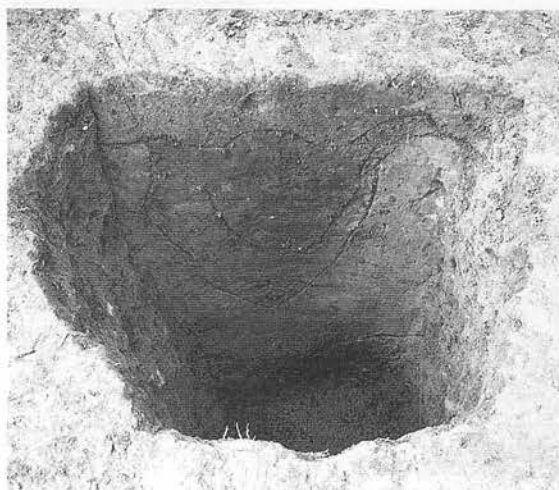


断面

写真图版86 I G-11、I H-1、2号陷穴



平面



断面

II G-1号



平面

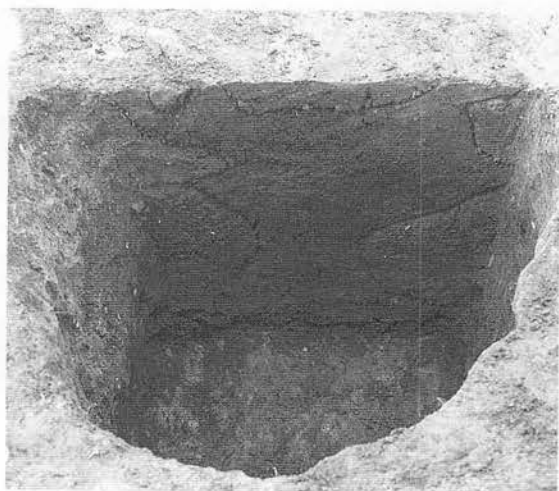


断面

II G-2号



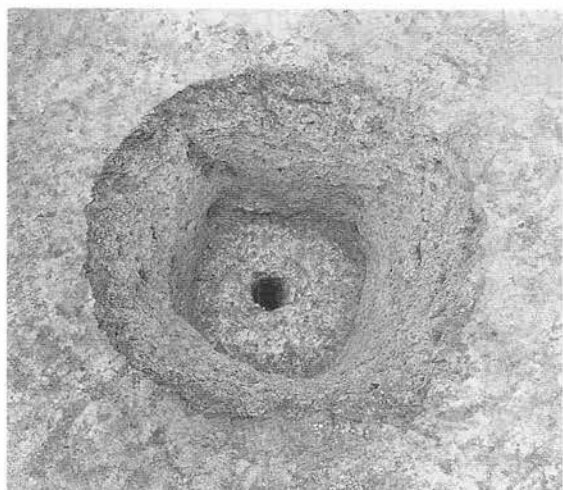
平面



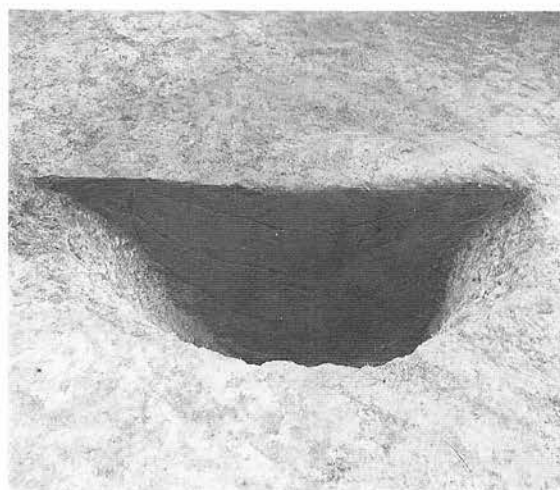
断面

II G-9号

写真图版87 II G-1、2、9号陷穴

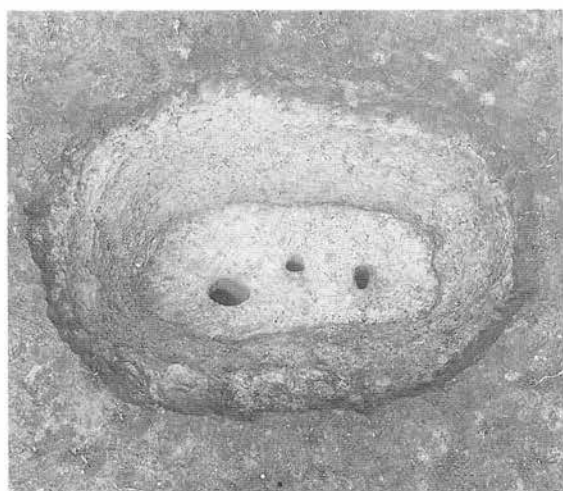


平面

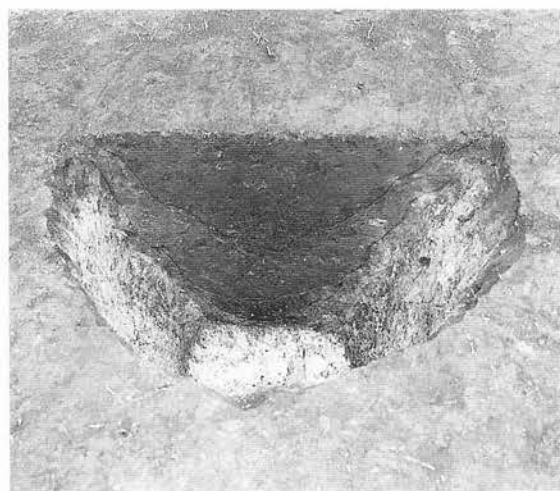


断面

II H-1号

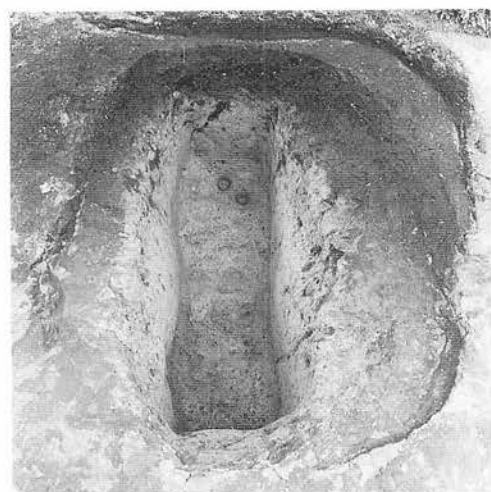


平面



断面

I G-9号



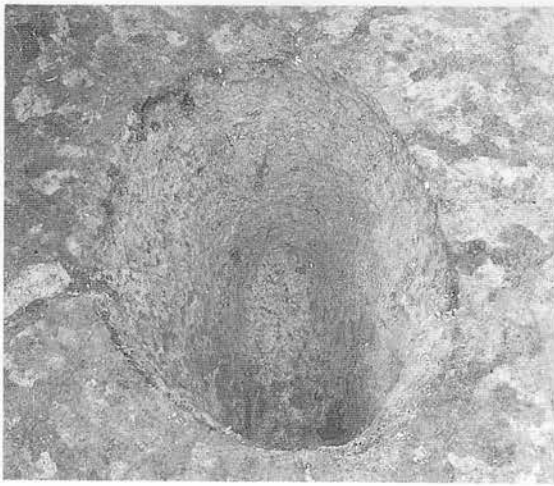
平面



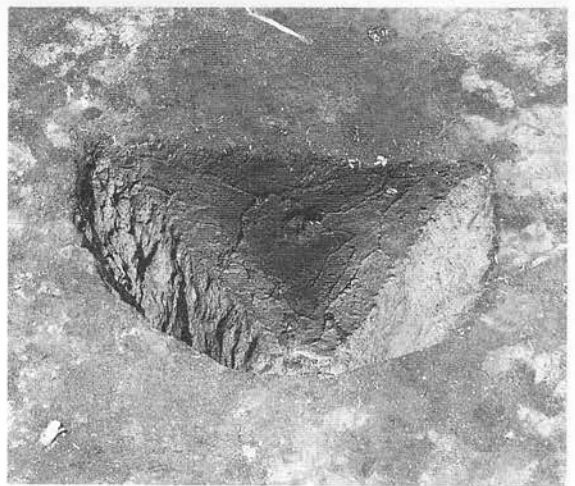
断面

II H-2号

写真图版88 II H-1、2、I G-9号陷穴

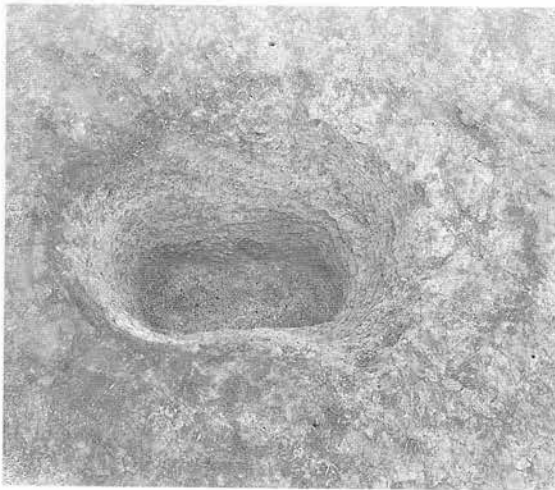


平面

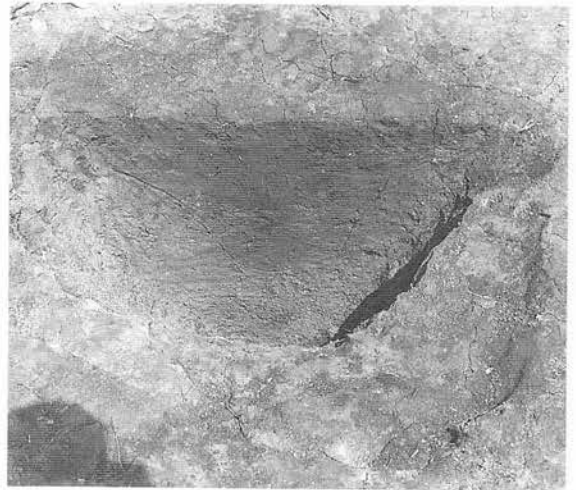


断面

I C-2号



平面

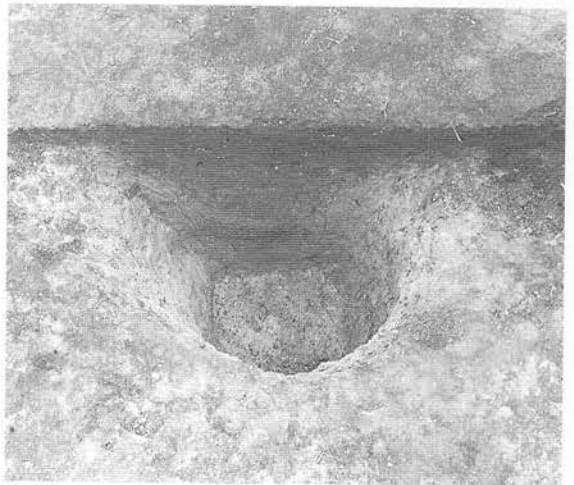


断面

I G-7号



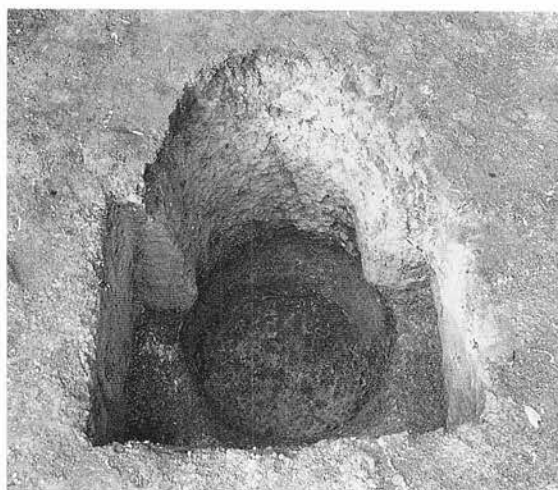
平面



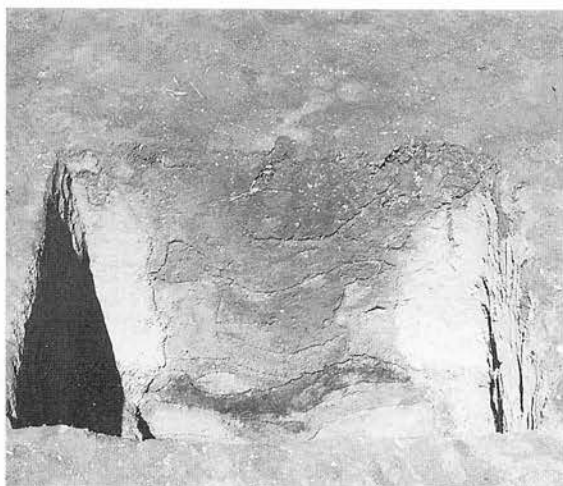
断面

I G-8号

写真图版89 I C-2、I G-7、8号陷穴

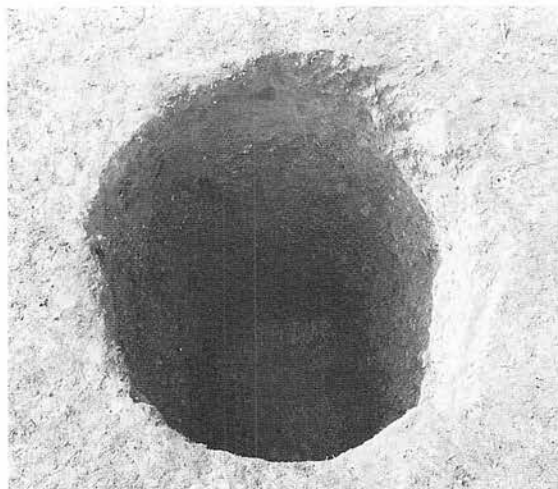


平面

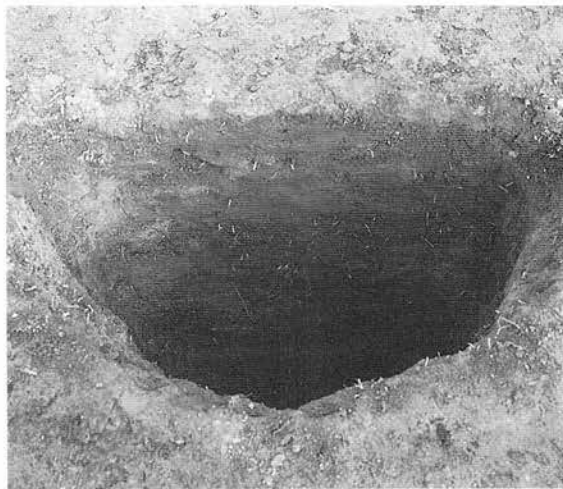


断面

I H-3号

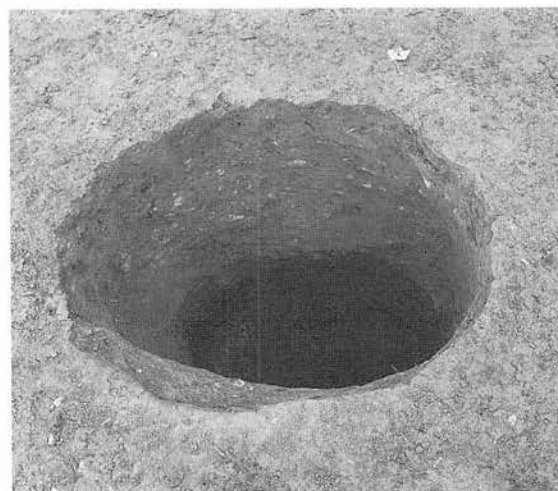


平面



断面

II G-3号



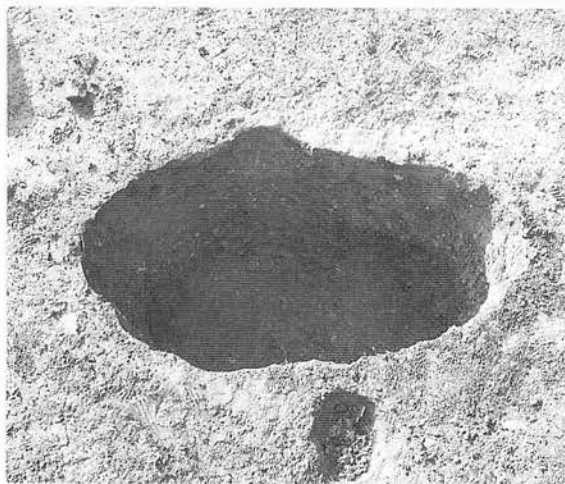
平面



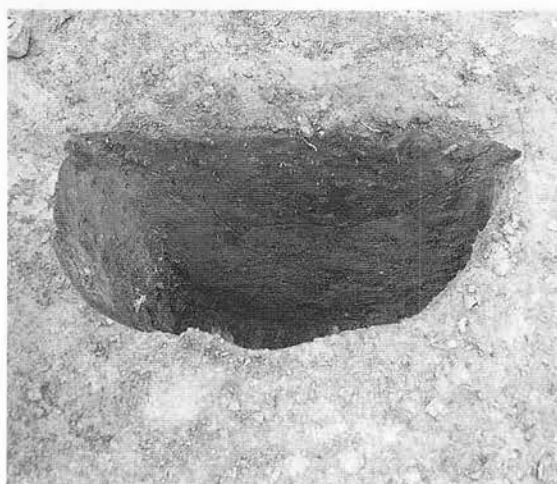
断面

II G-4号

写真图版90 I H-3、II G-3、4号陷穴

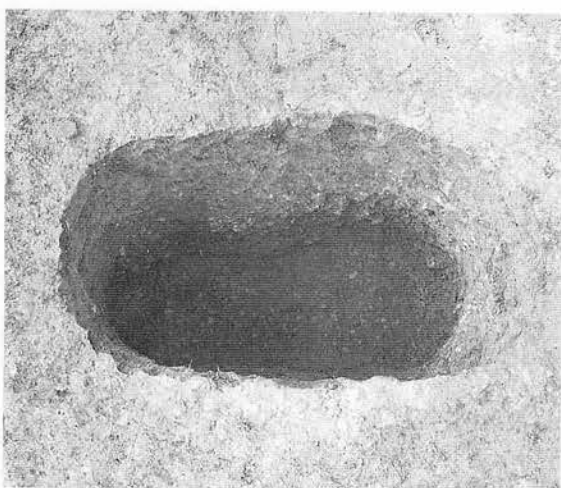


平面

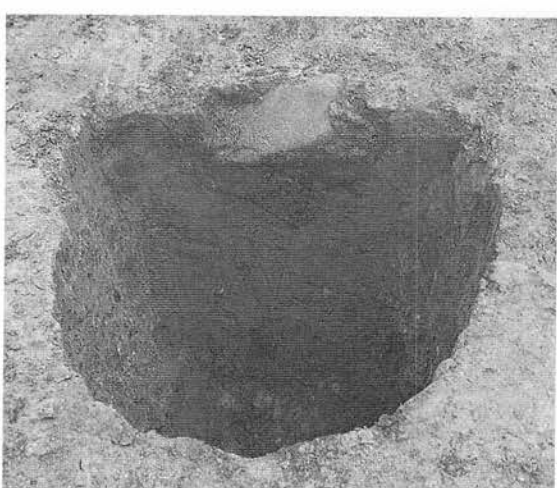


断面

II G-5号



平面



断面

II G-6号



平面



住居跡内のピット群

II G-7号

写真図版91 II G-5、6、7号陥穴

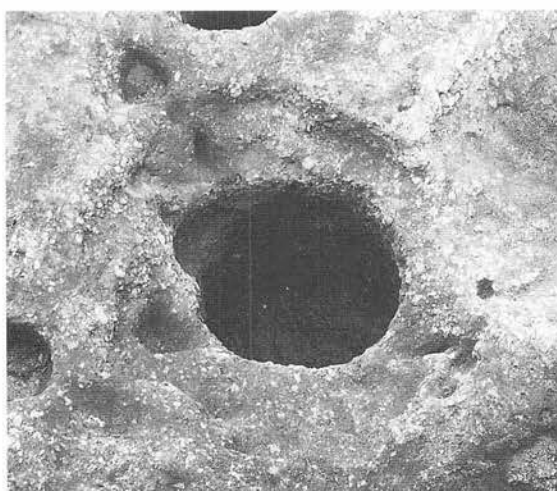


平面

Ⅱ G-10号

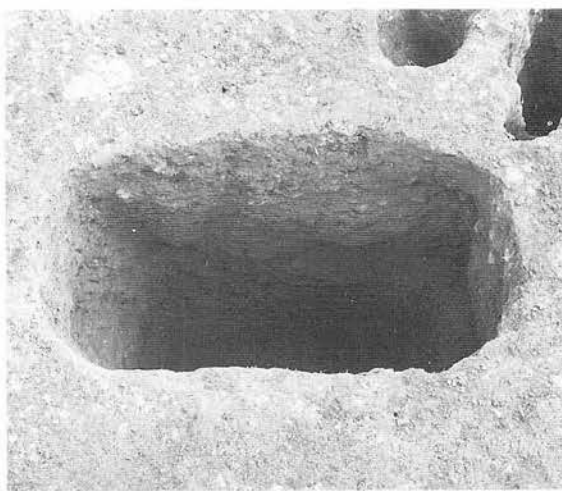


断面



平面

Ⅱ G-11号

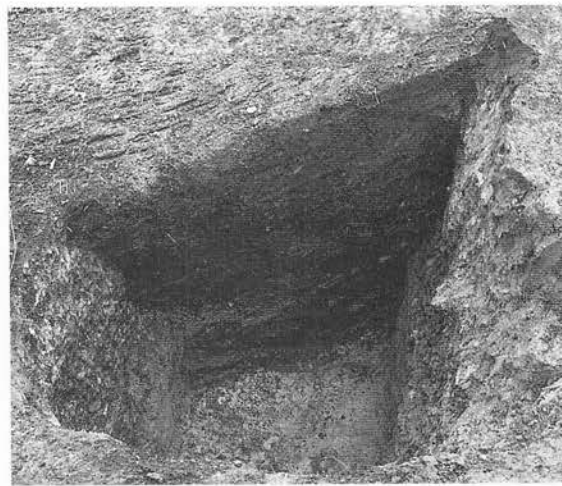


断面



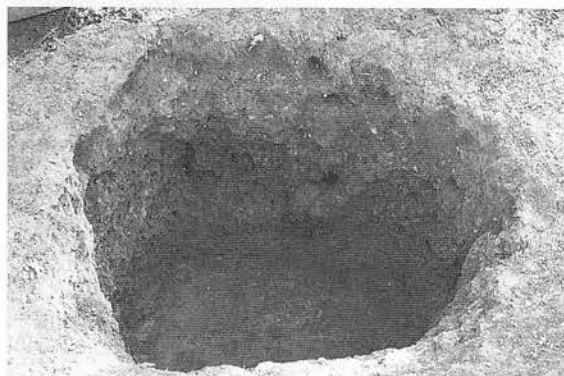
平面

Ⅱ H-3号



断面

写真图版92 Ⅱ G-10、11、Ⅱ H-3号陷穴

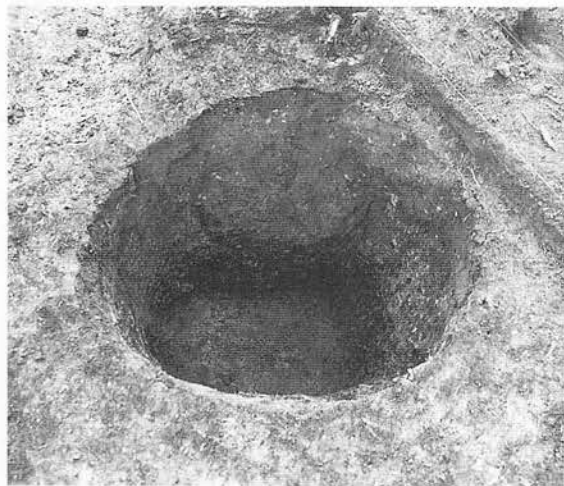


平面

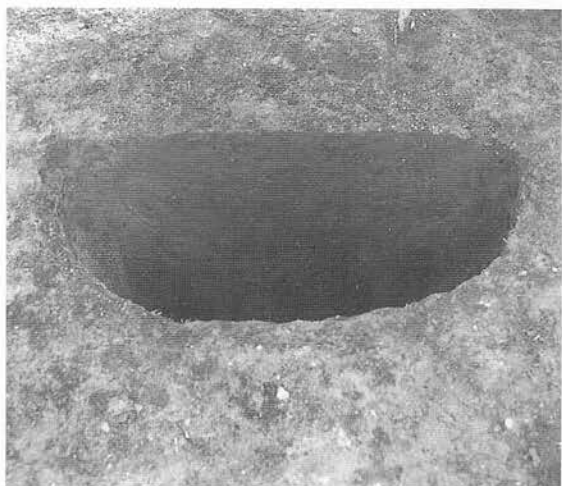


断面

ⅡH-4号

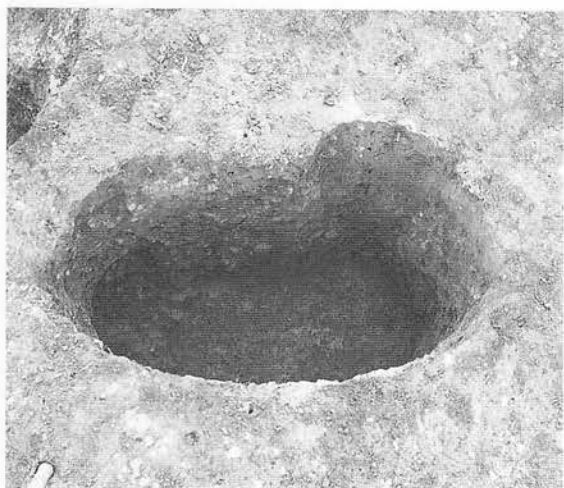


平面

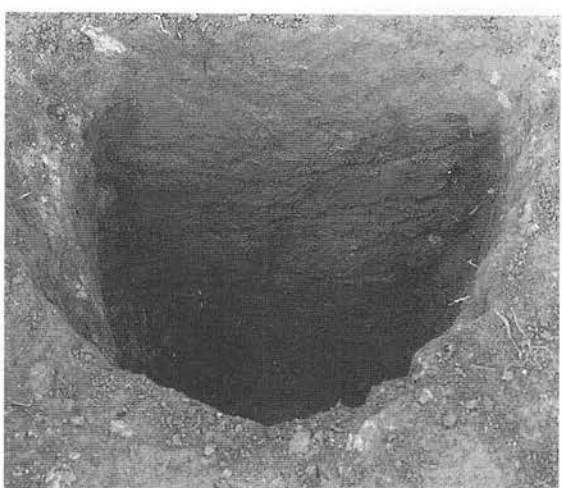


断面

ⅡH-5号



平面



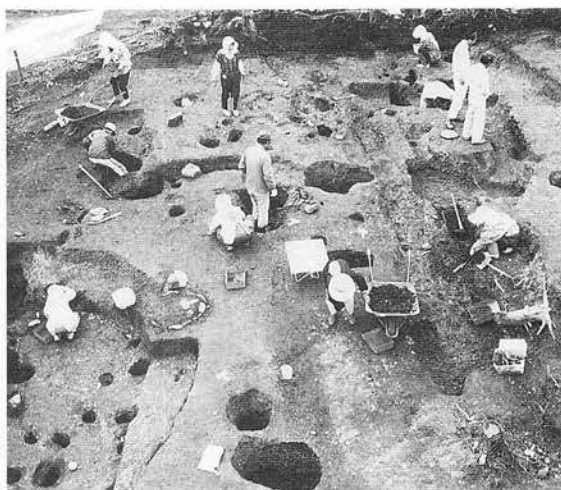
断面

ⅡH-6号

写真图版93 ⅡH-4、5、6号陷穴



平面

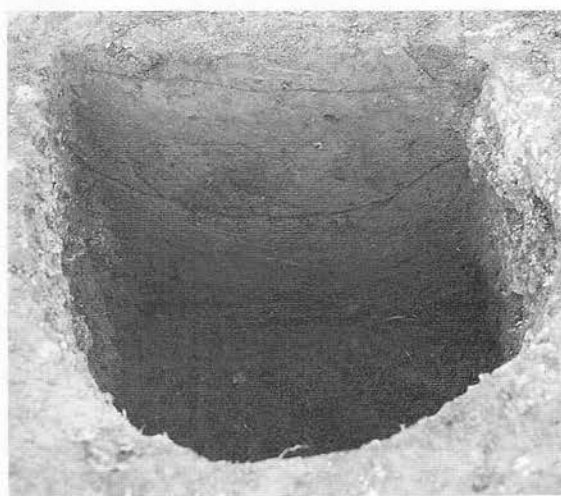


作業風景

ⅡH-7号

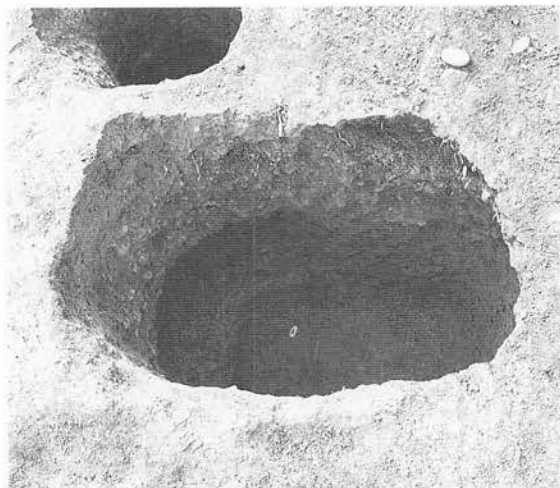


平面

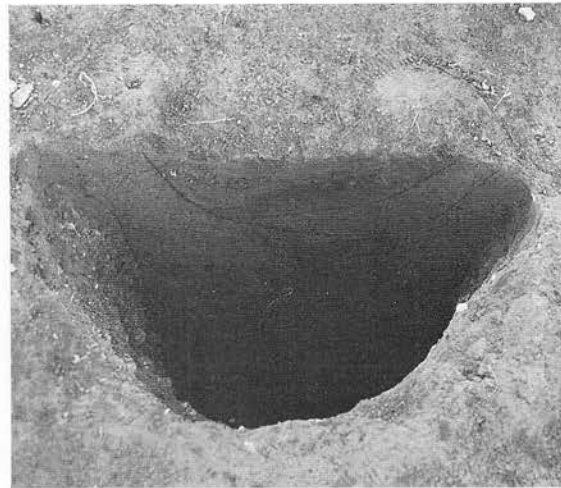


断面

ⅡH-8号



平面



断面

ⅡH-9号

写真図版94 ⅡH-7、8、9号陥穴



平面



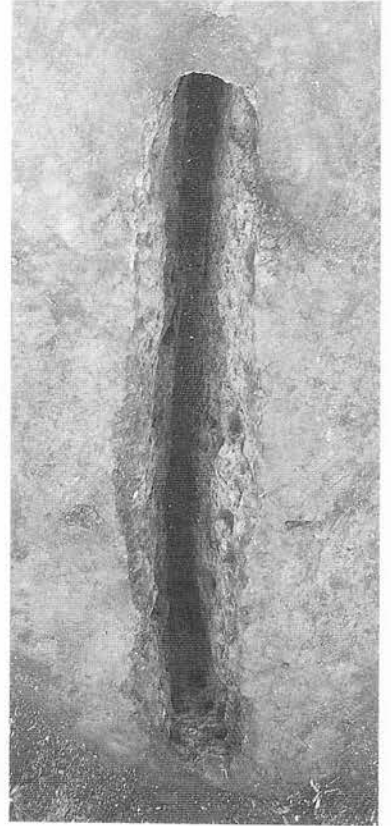
断面

I J-1号



断面

I J-2号



平面



平面



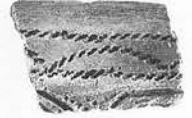
断面

I J-3号

写真图版95 I J-1、2、3号陷穴



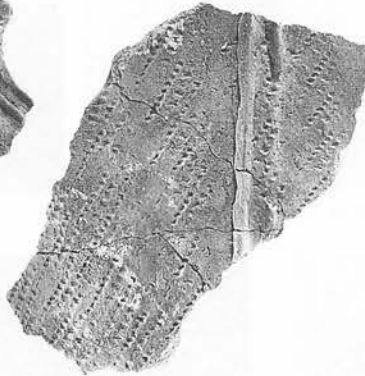
I G-11号



II H-2号

II H-2号

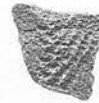
(石斧)



II H-7号



II G-10号

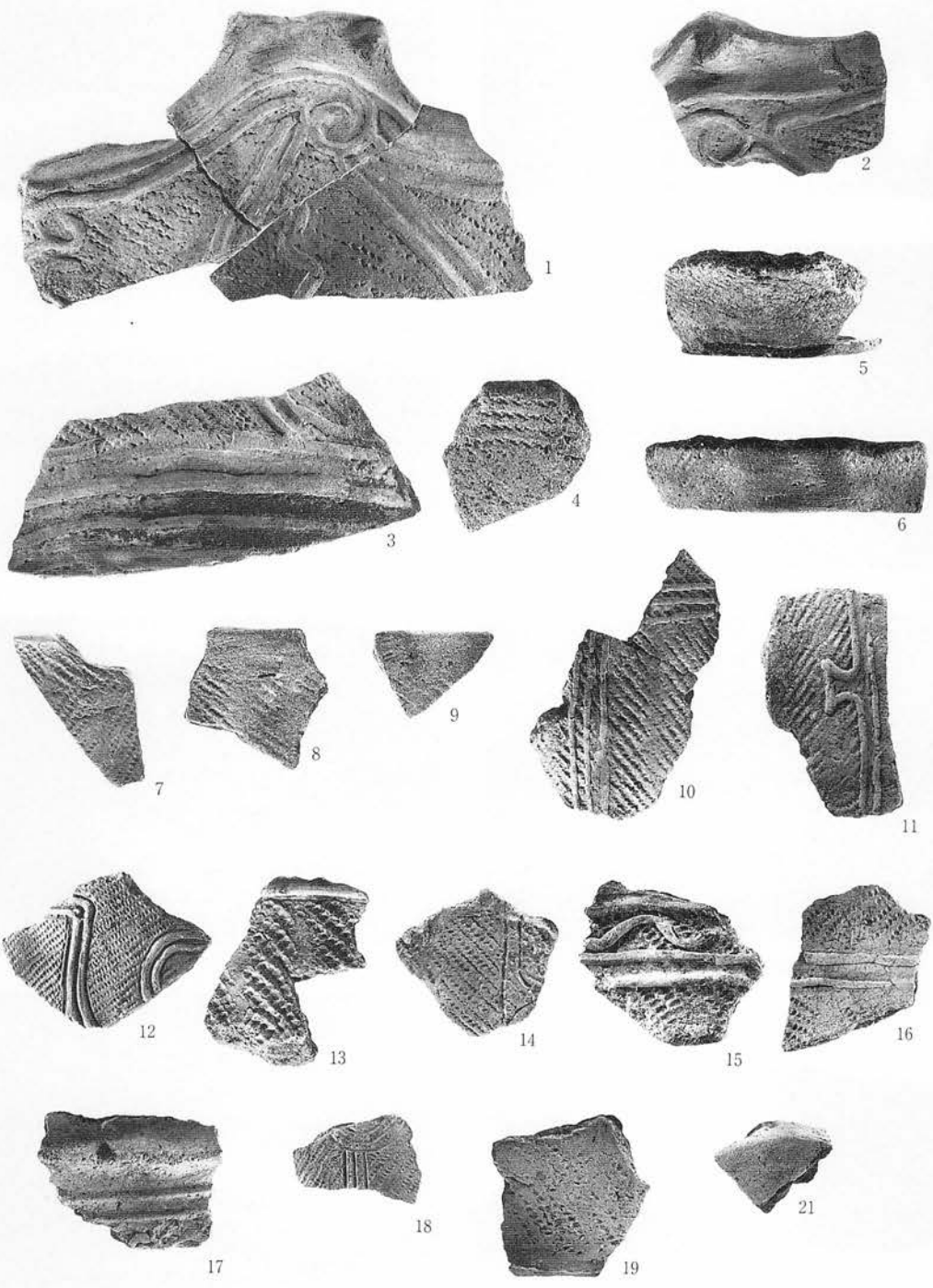


I J-2号



I J-3号

写真図版96 陷穴出土遺物(1)



ⅡH-3号

写真図版97 陷穴出土遺物(2)



平面



I H-1号炉

断面



平面



I G-2号烧土

断面



II G-1号烧土 断面



II G-2号烧土 断面



I H-1号炉 (1/4)

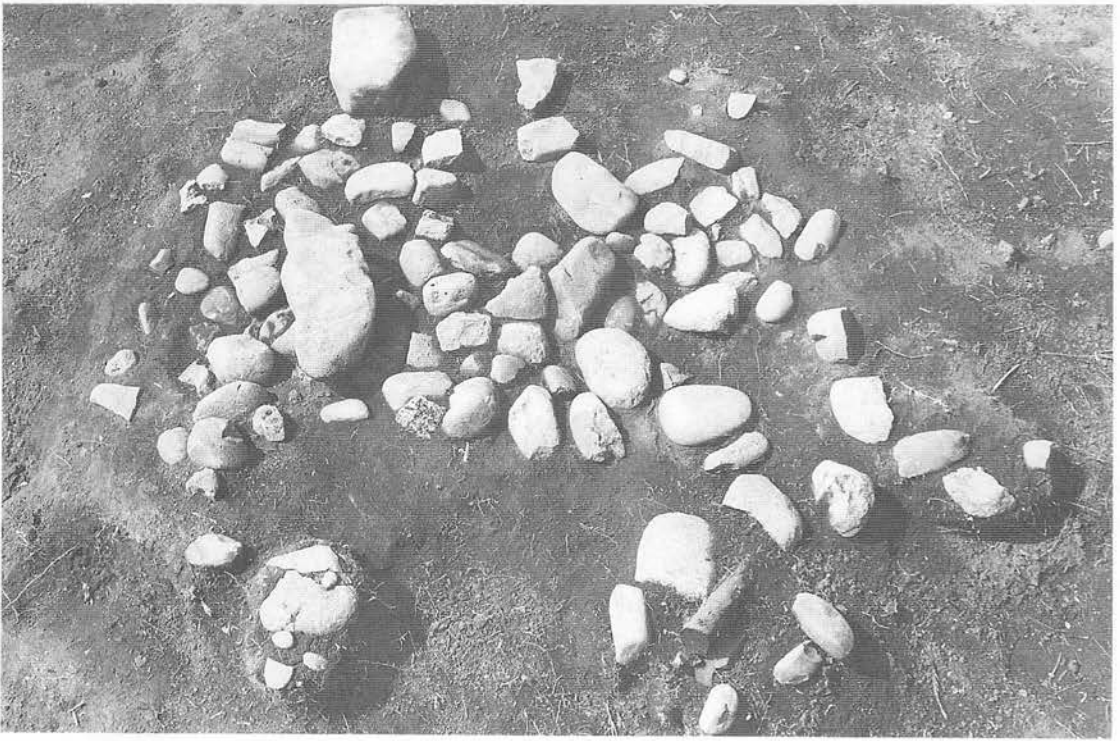


II G-2号烧土 (1/3)

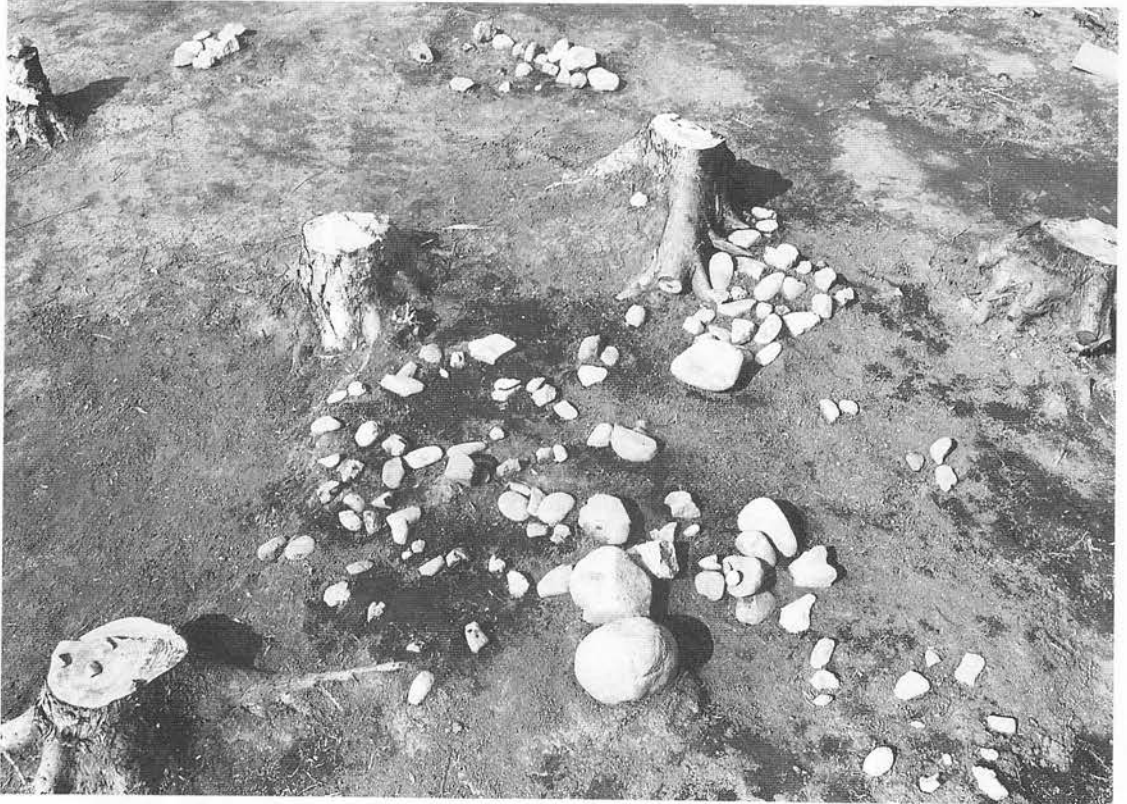


II G-3号烧土 断面

写真図版98 屋外炉・烧土と遺物



I 1-1号集石 全景 (南から)

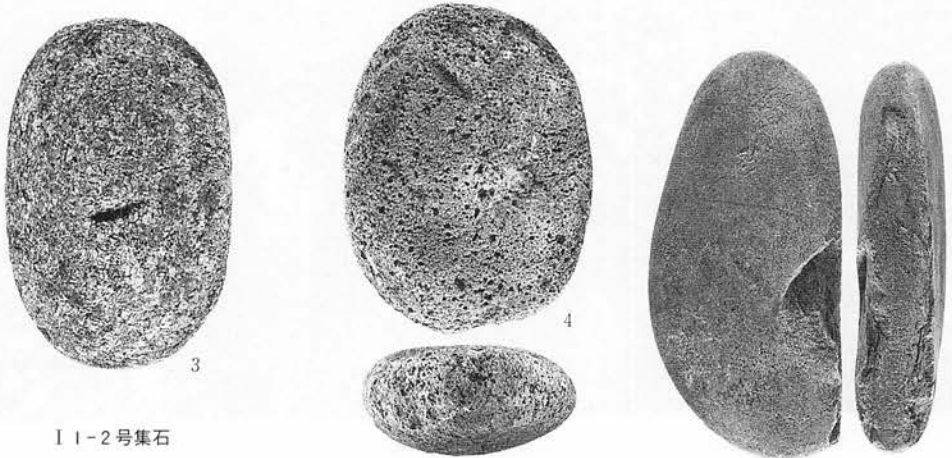


I 1-2号集石 全景 (南西から)

写真図版99 I 1-1、2号集石

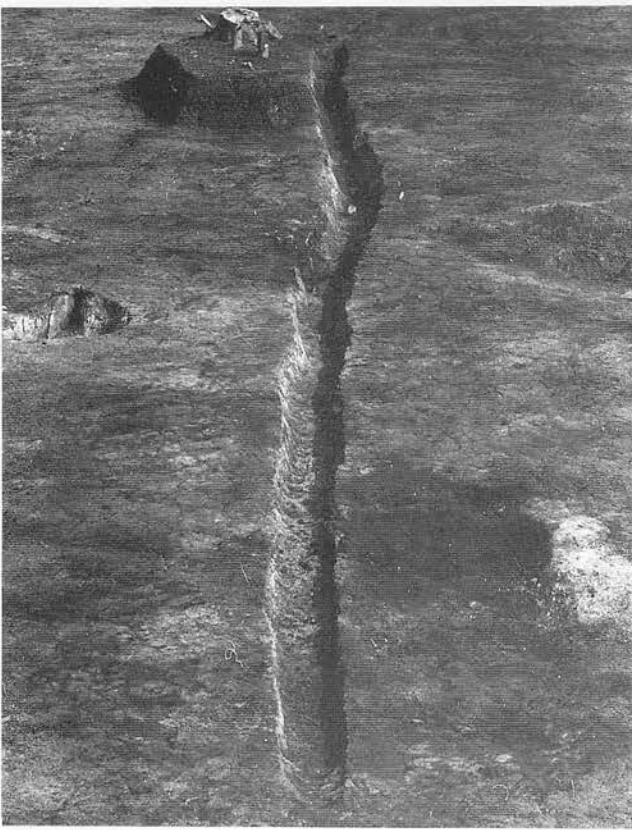


I 1-1号集石

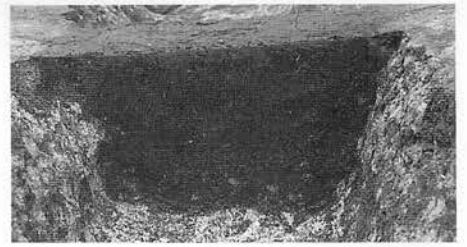


I 1-2号集石

写真図版100 I 1-1、2号集石遺物



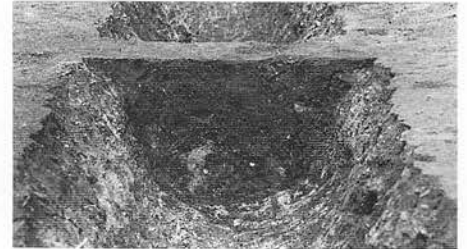
全景 (北から)



a-b 断面



c-d 断面



e-f 断面

I H 溝



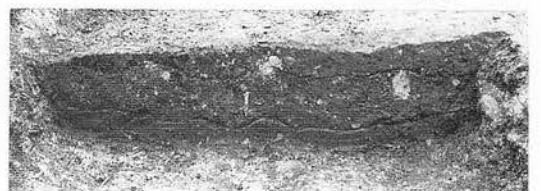
I I 溝

全景 (南から)
断面



II 炭窯

平面 (東から)
断面

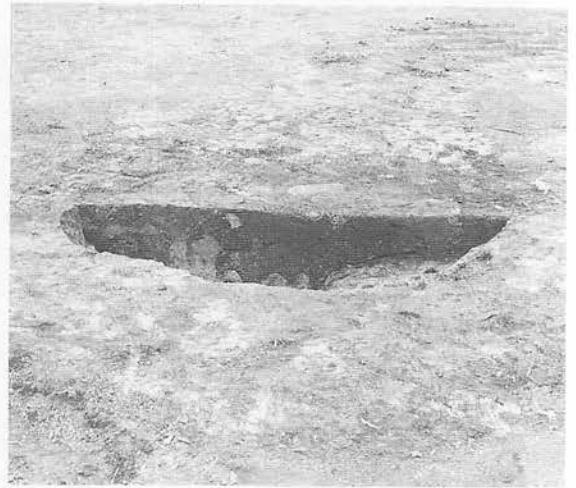


写真図版101 I H、I I 溝・II 炭窯



平面

I C-13号



断面

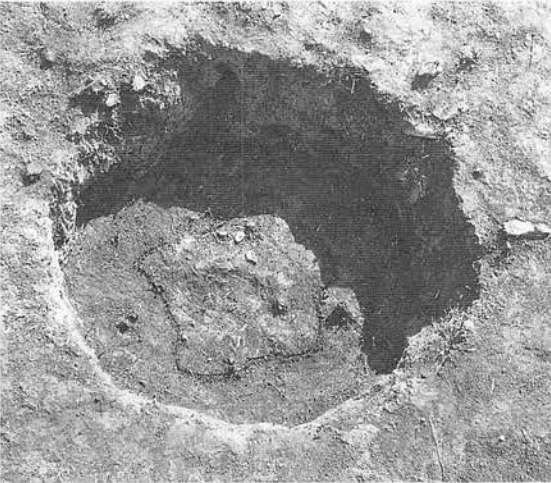


平面

I J-10号



断面 (遺物検出状況)



焼土検出面

II J-1号



完掘平面

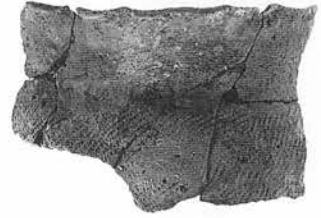
写真図版102 弥生時代の遺構・土壇



I C-13号土城



I J-10号土城

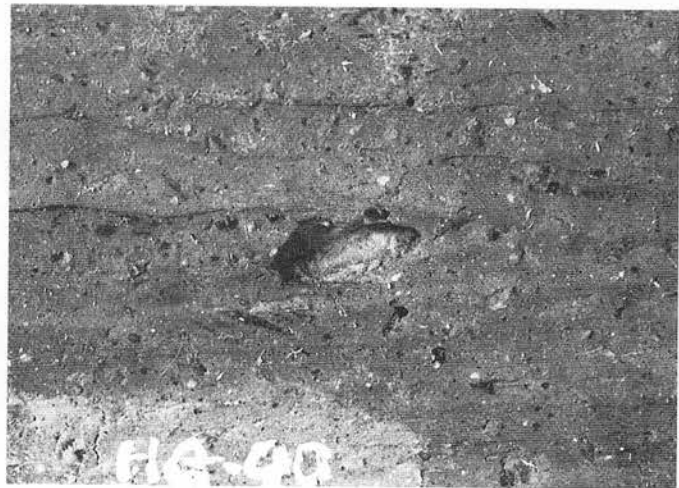


II J-1号土城

I C-13号土城粗痕拡大写真

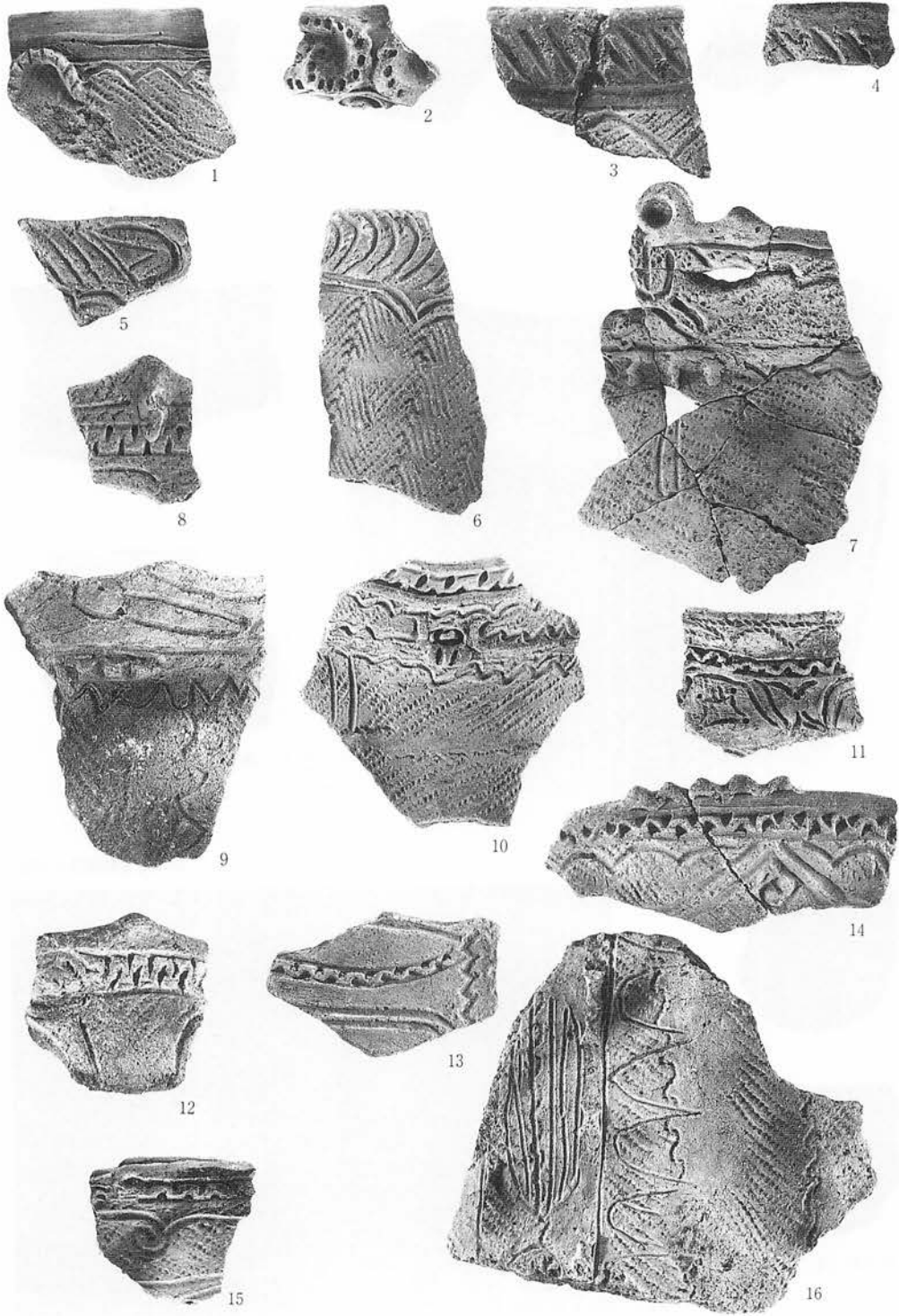


粗圧痕土器 X1/2

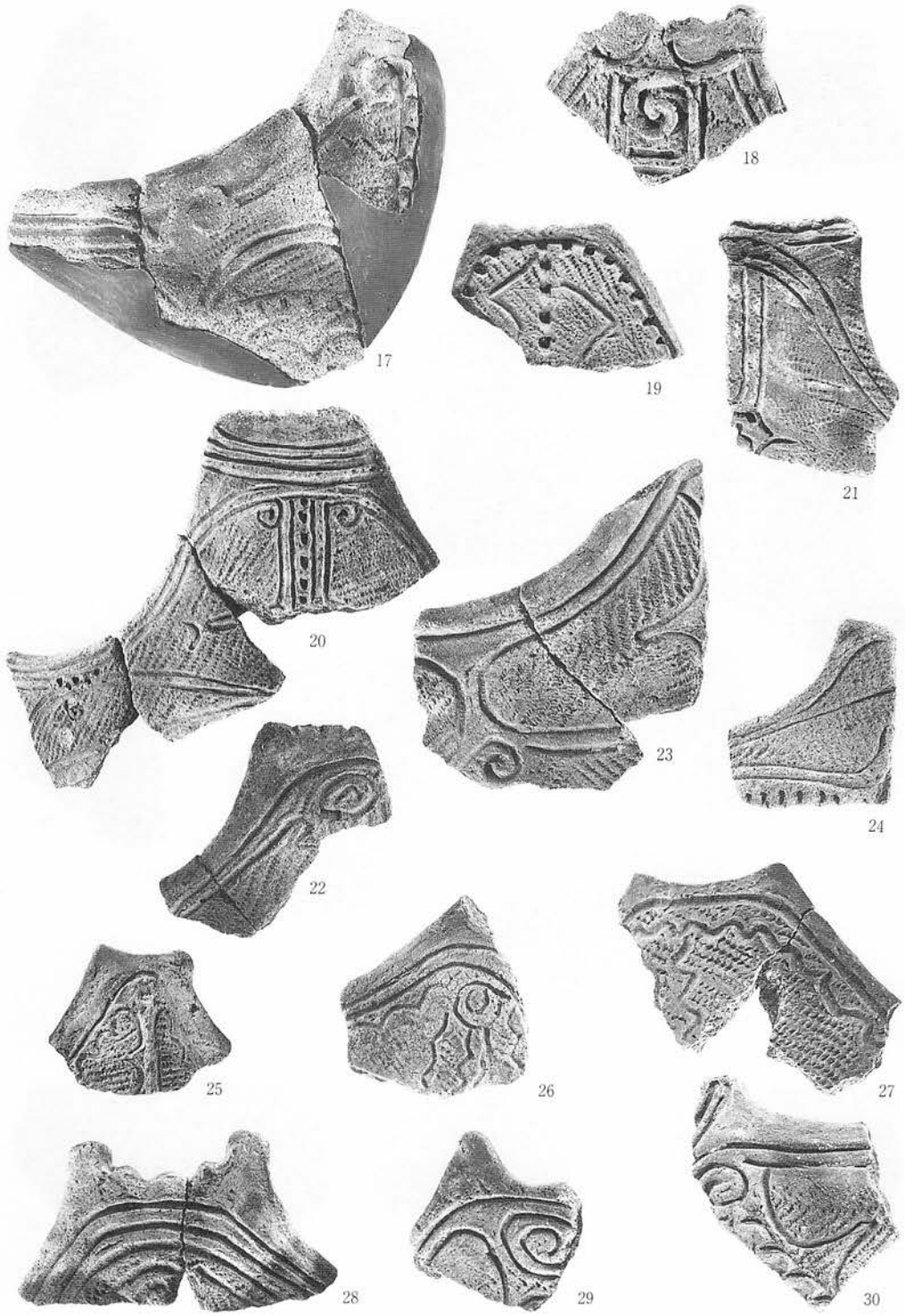


X2.7

写真図版103 弥生時代の遺構内遺物



写真図版104 遺構外遺物：縄文土器(1)



写真図版105 遺構外遺物：縄文土器(2)



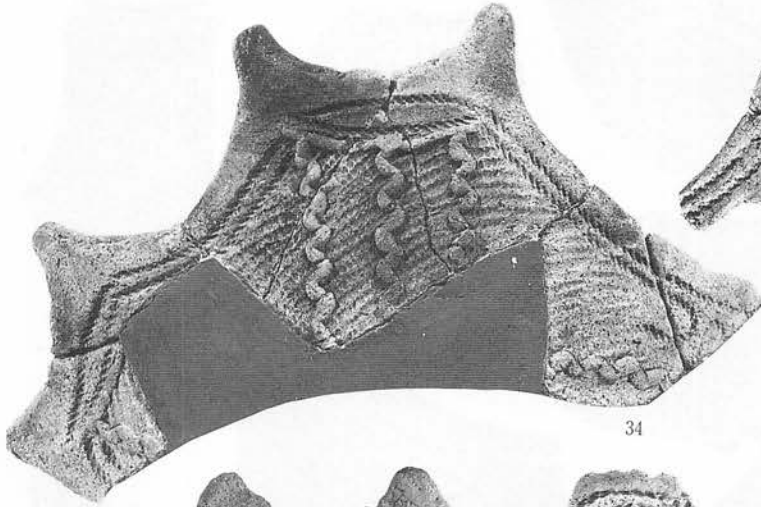
31



32



33



34



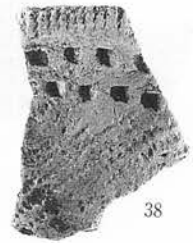
35



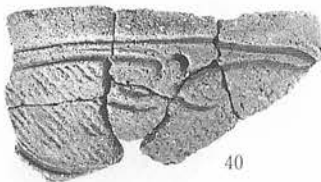
36



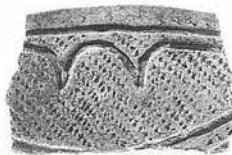
37



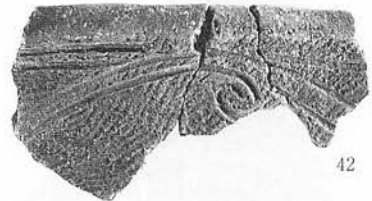
38



40

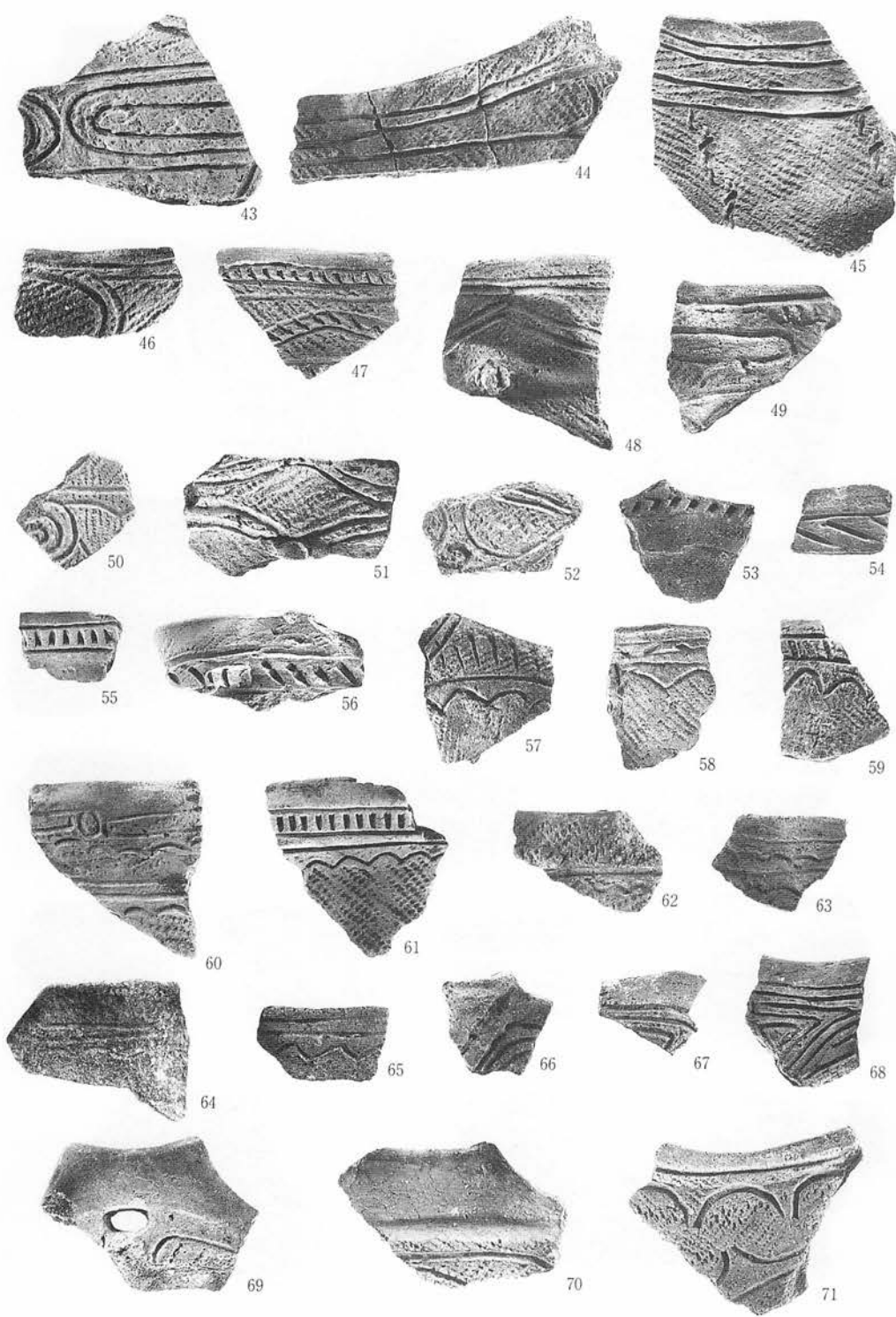


41

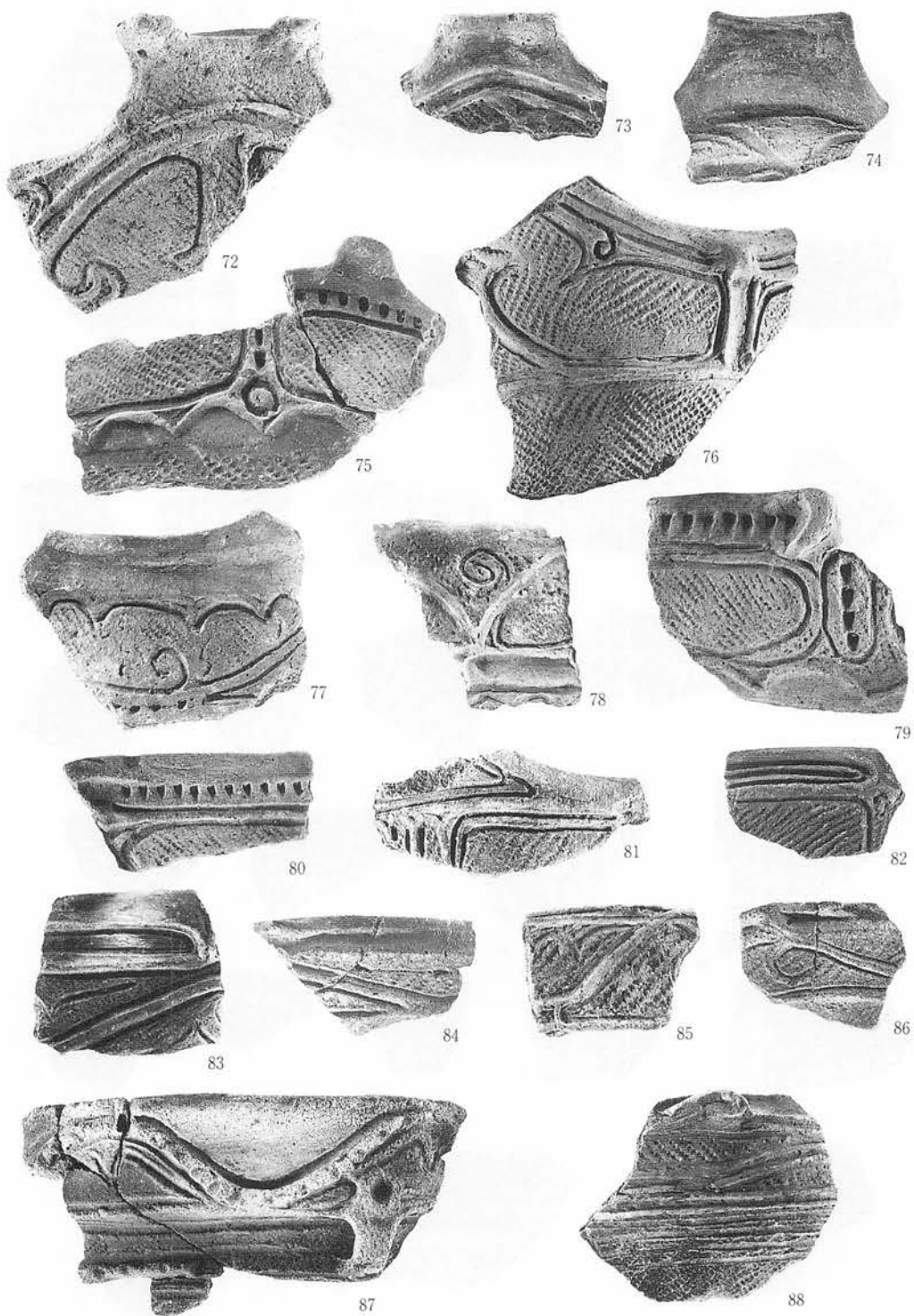


42

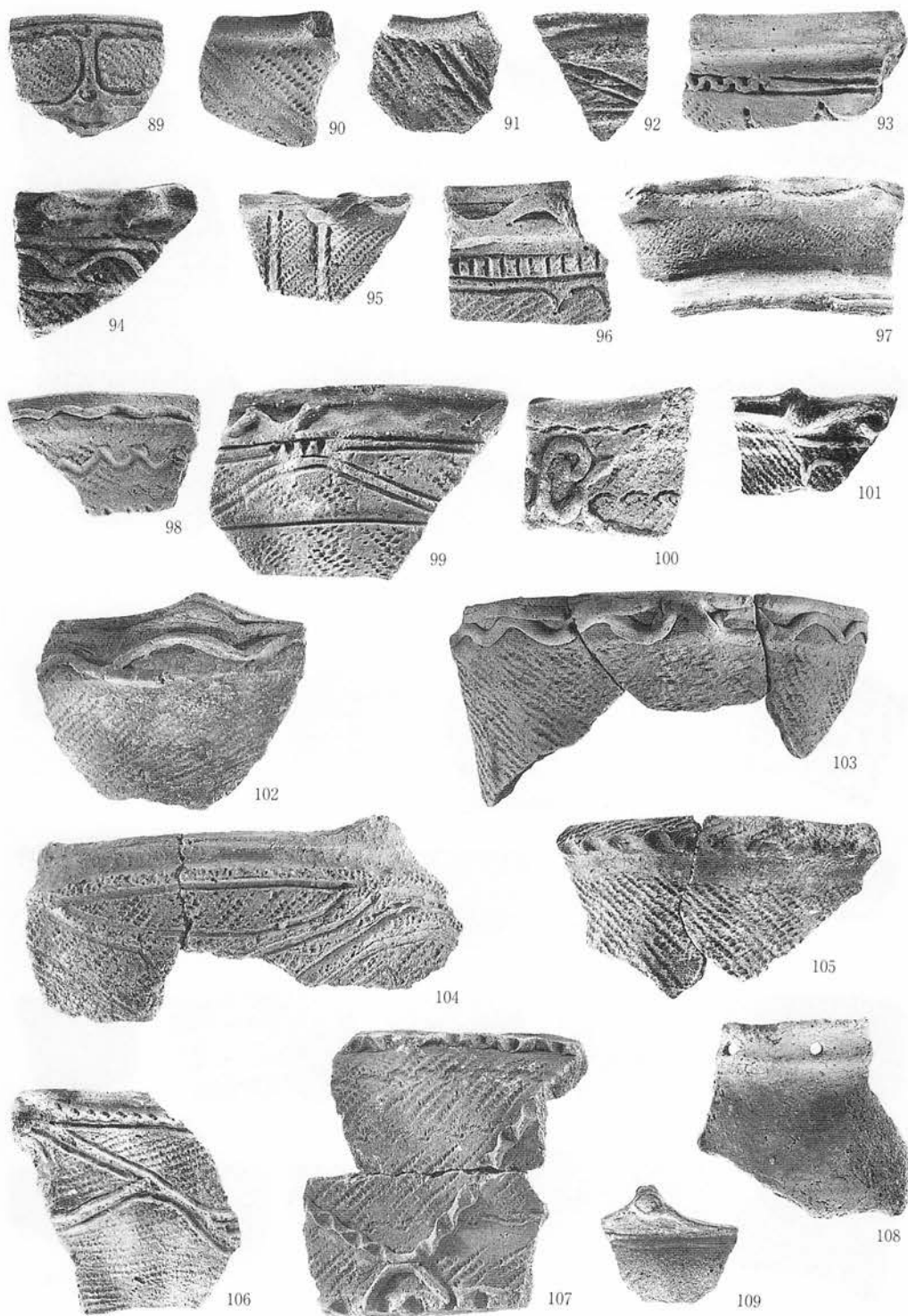
写真図版106 遺構外遺物：縄文土器(3)



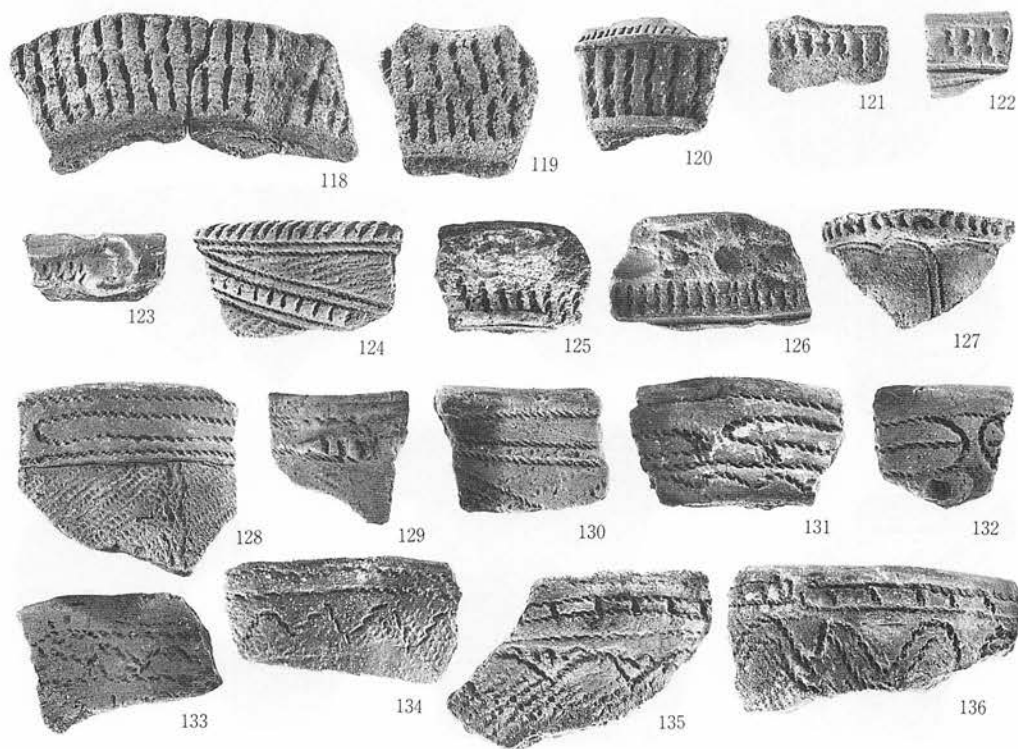
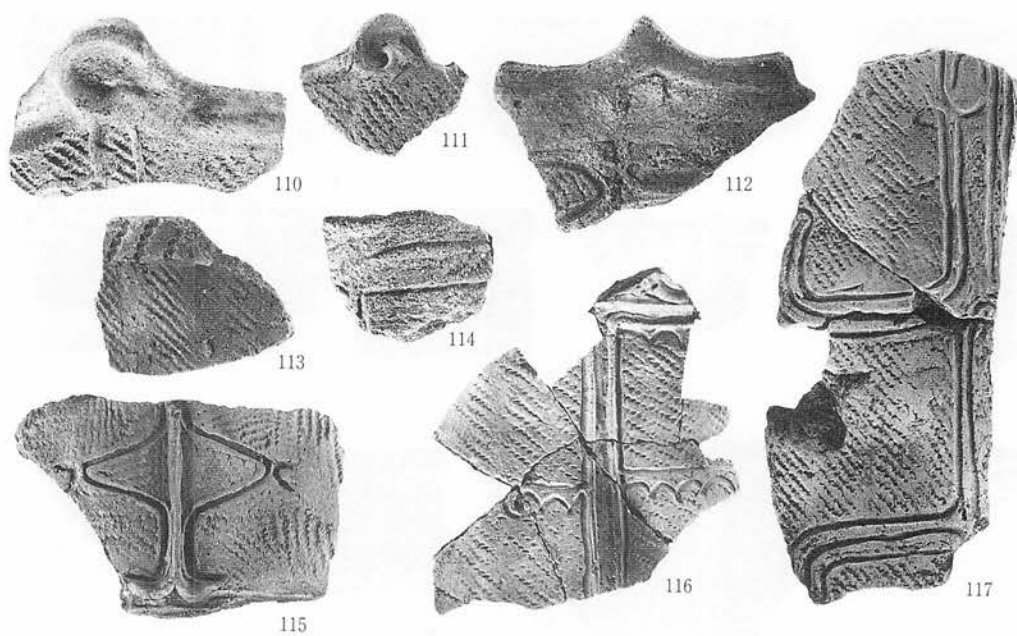
写真図版107 遺構外遺物：縄文土器(4)



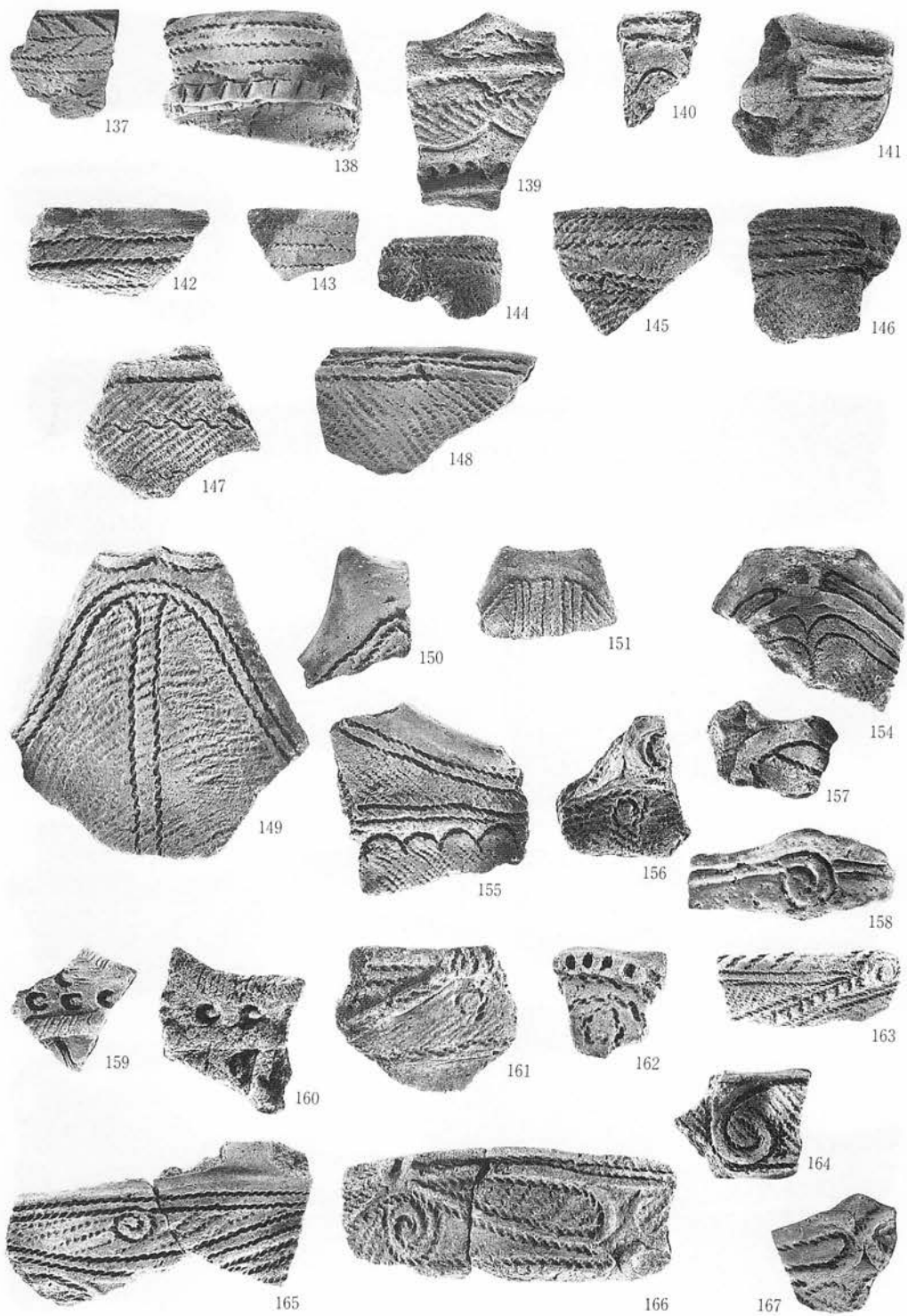
写真図版108 遺構外遺物：縄文土器(5)



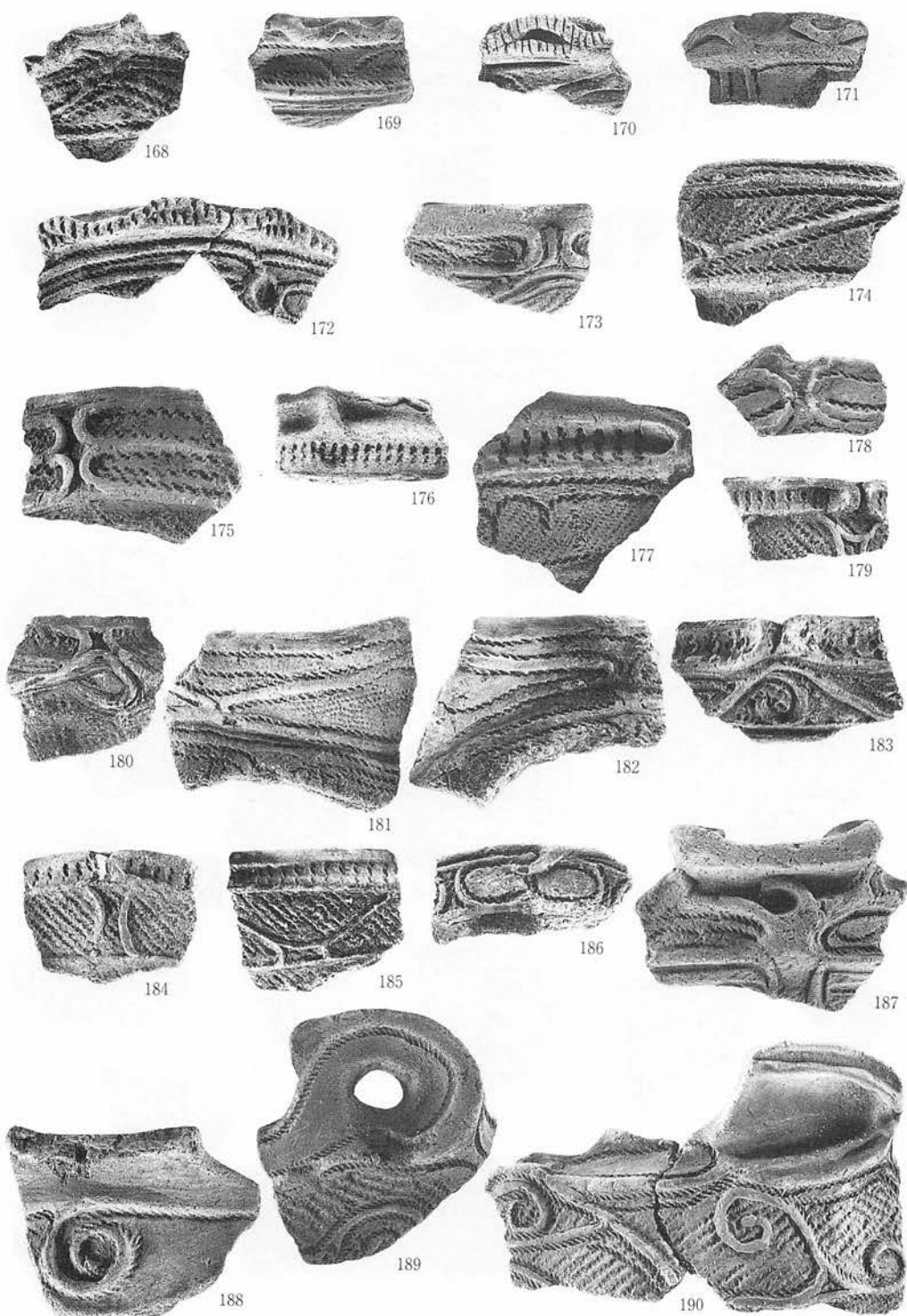
写真図版109 遺構外遺物：縄文土器(6)



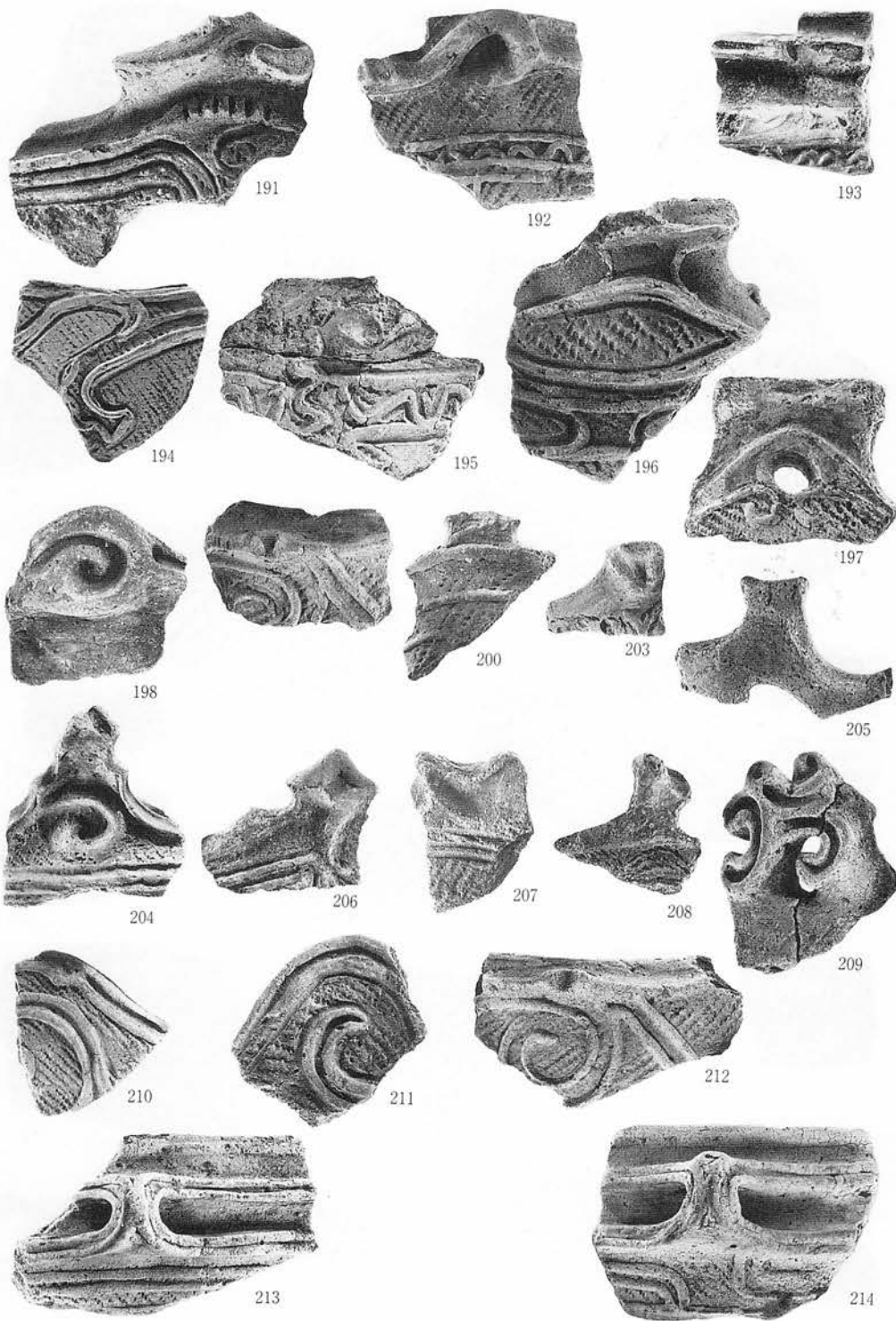
写真図版110 遺構外遺物：縄文土器(7)



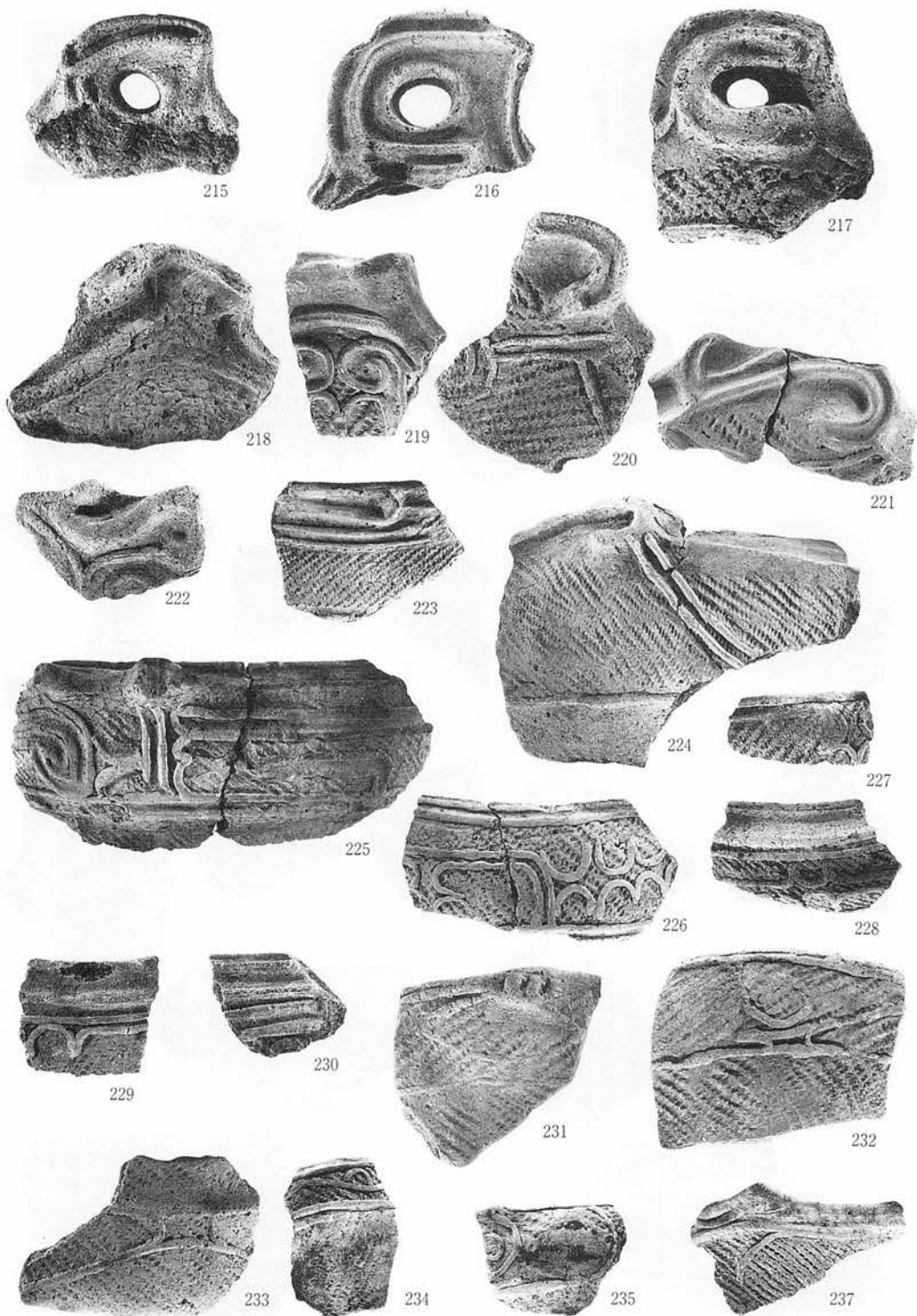
写真図版111 遺構外遺物：縄文土器(8)



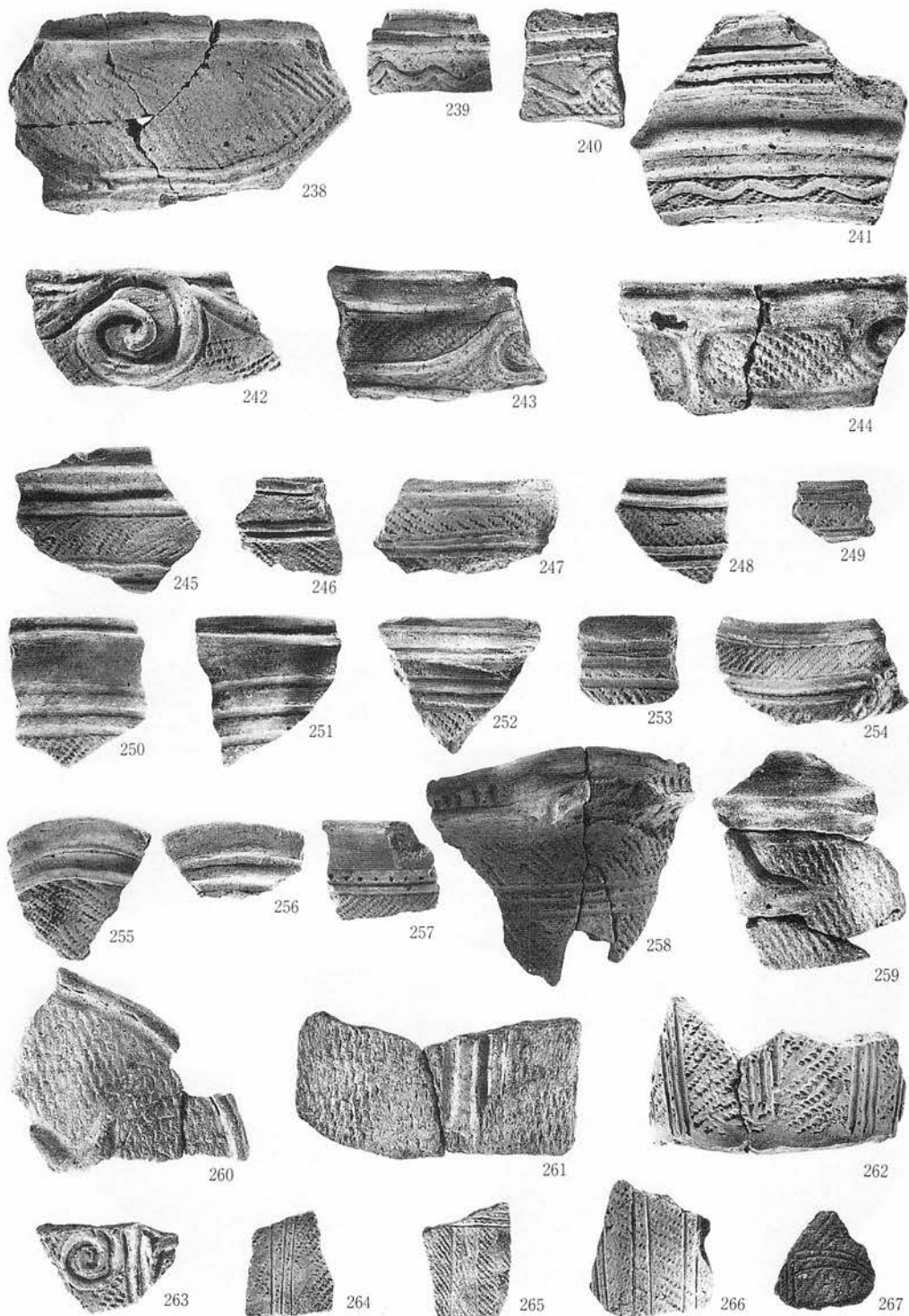
写真図版112 遺構外遺物：縄文土器(9)



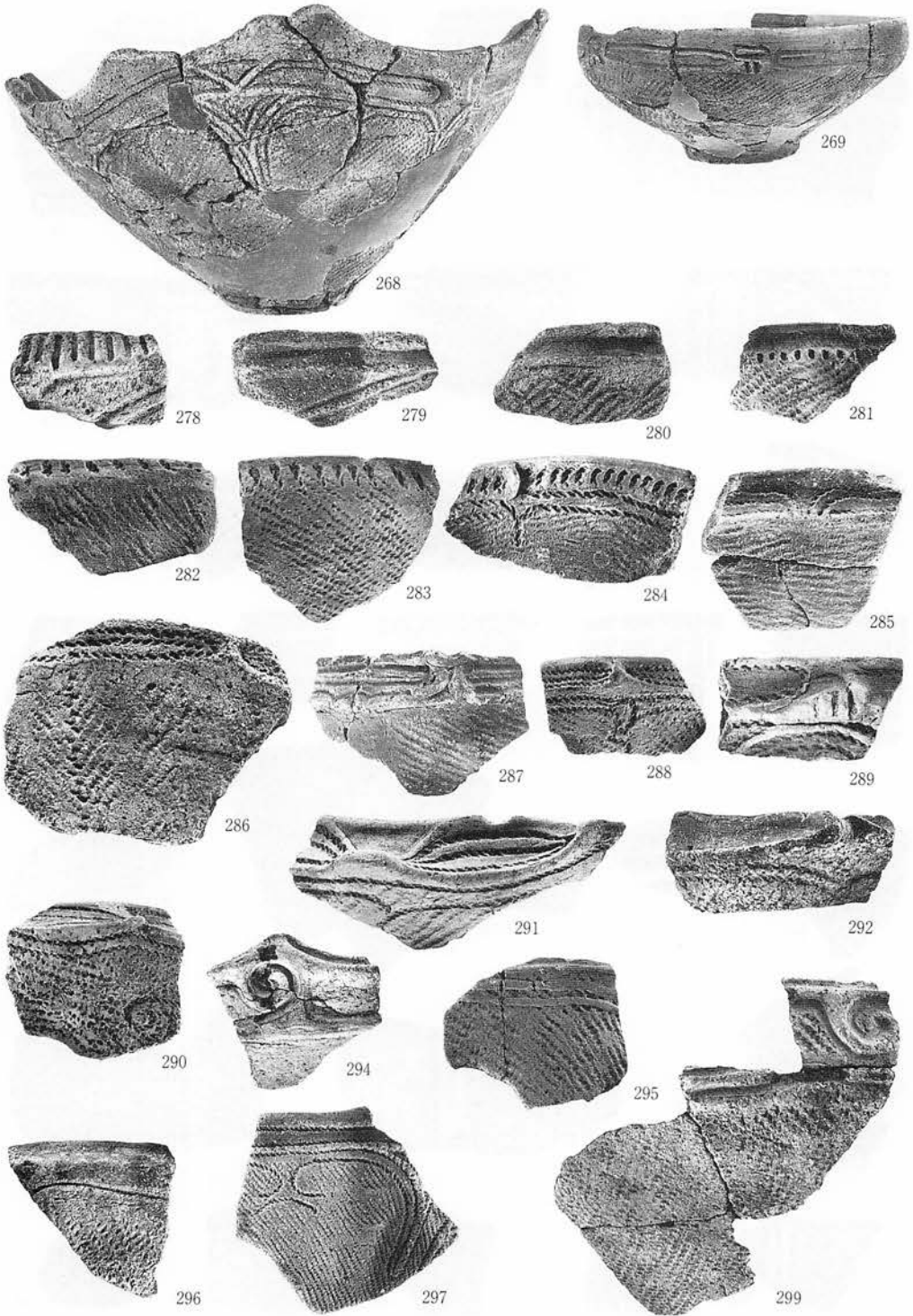
写真図版113 遺構外遺物：縄文土器(10)



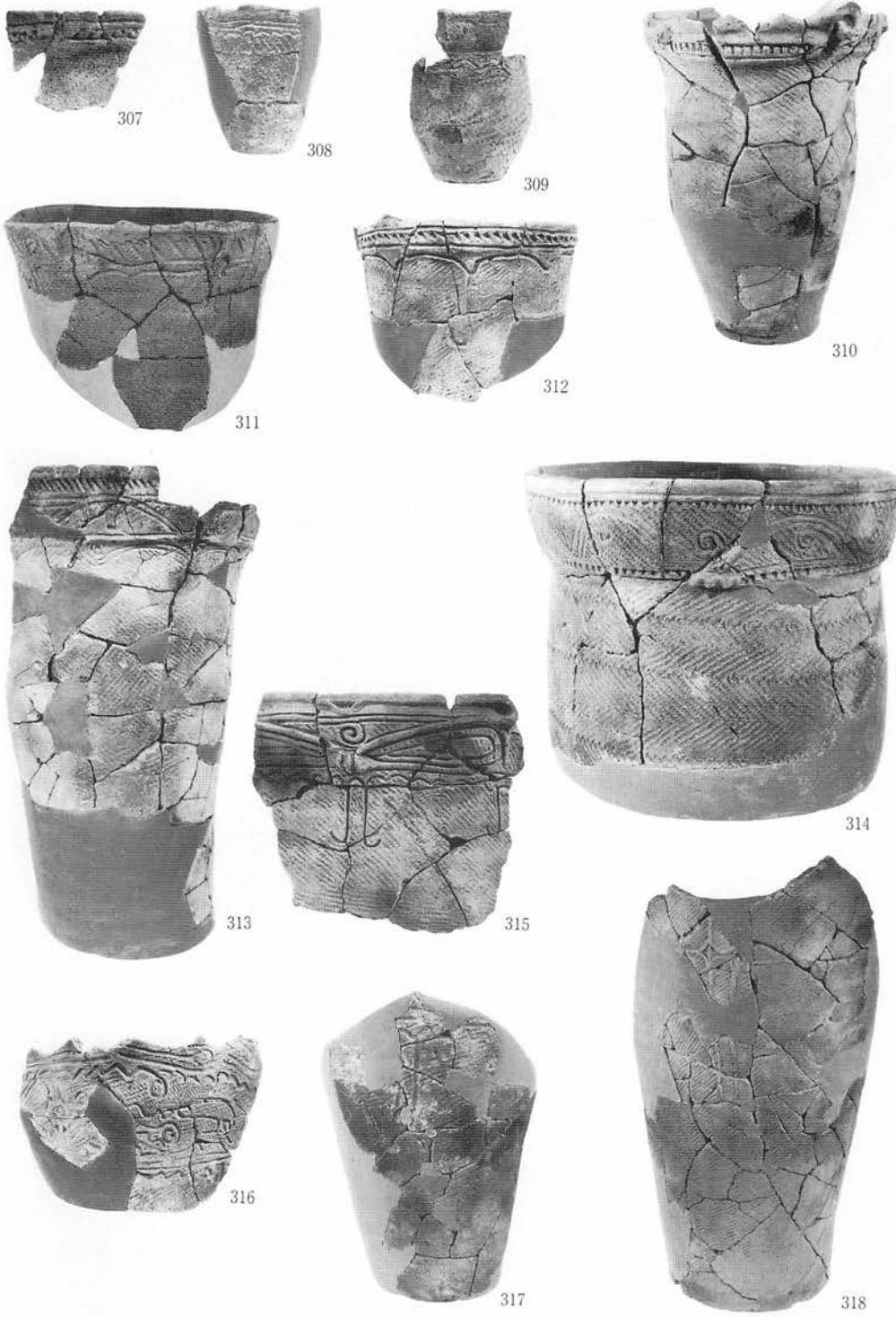
写真図版114 遺構外遺物：縄文土器(11)



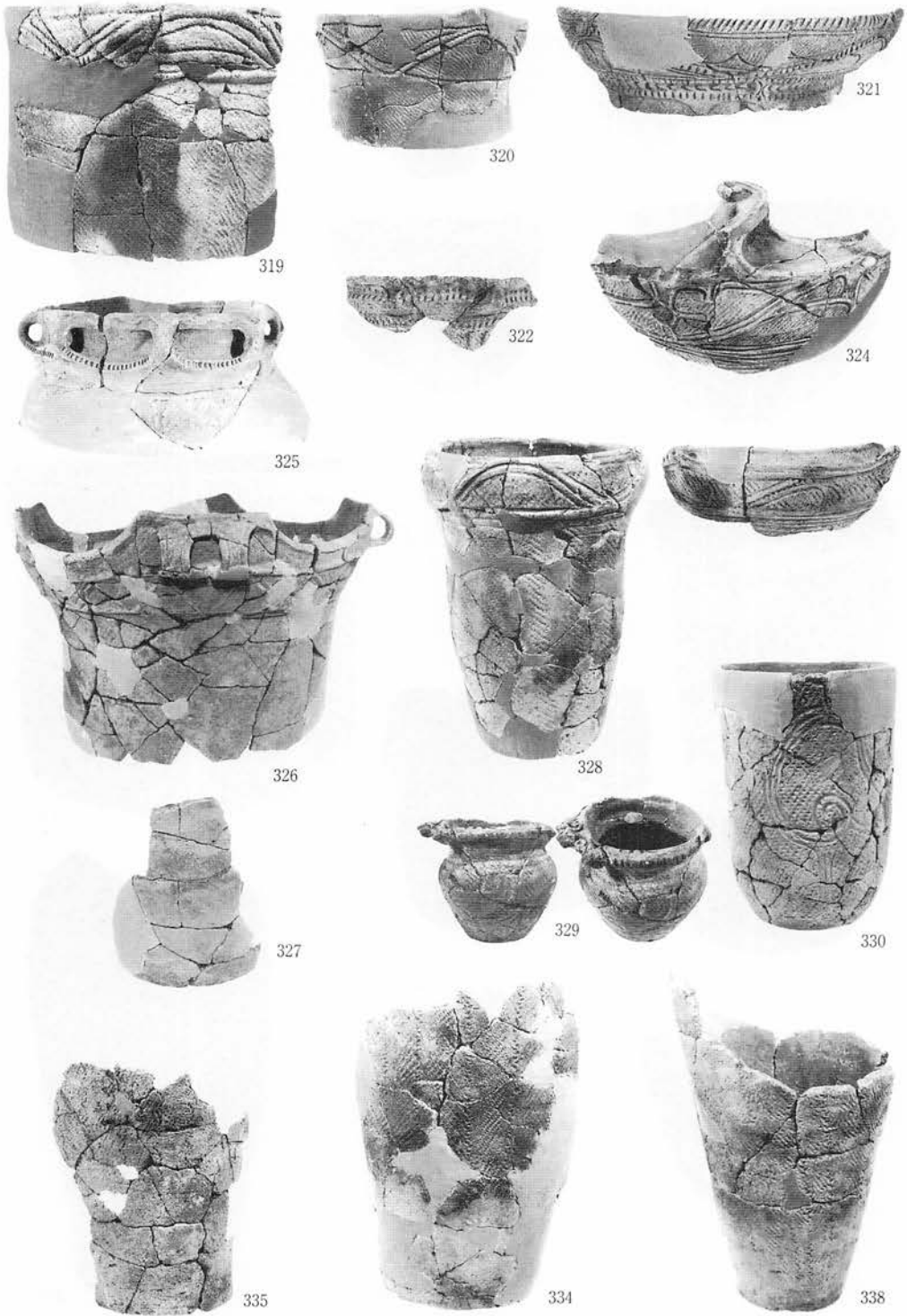
写真図版115 遺構外遺物：縄文土器(12)



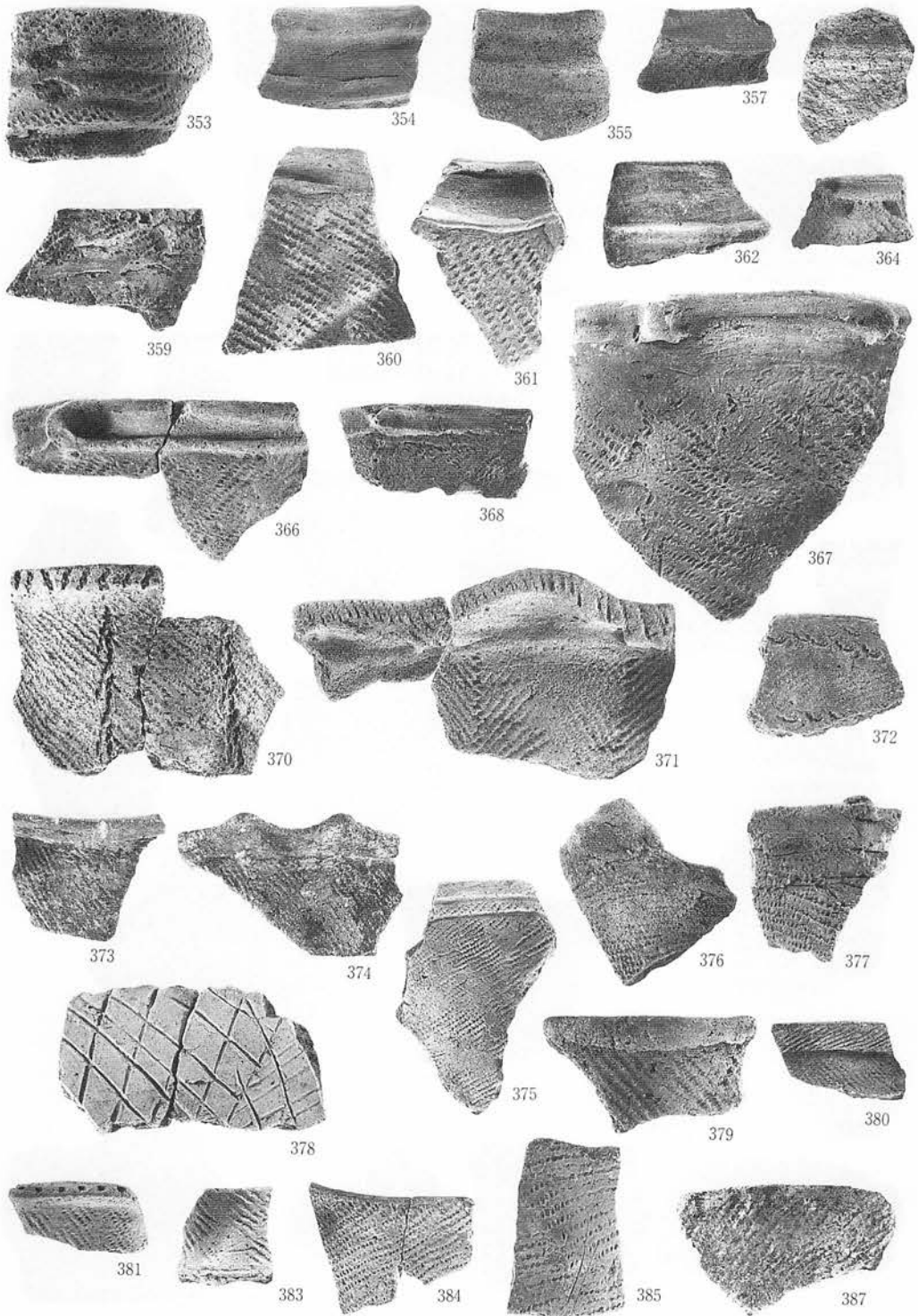
写真図版116 遺構外遺物：縄文土器(13)



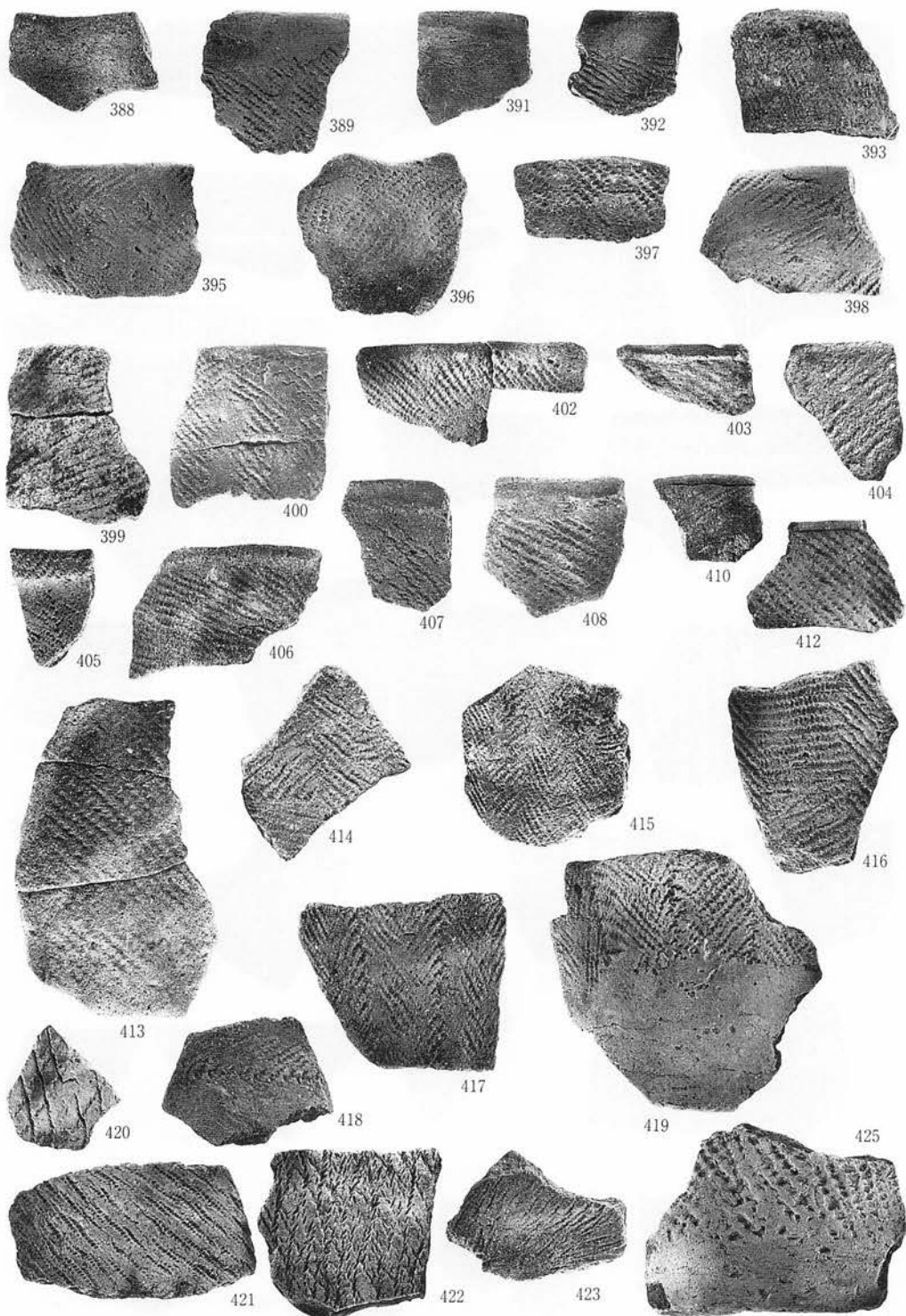
写真図版117 遺構外遺物：縄文土器(14)



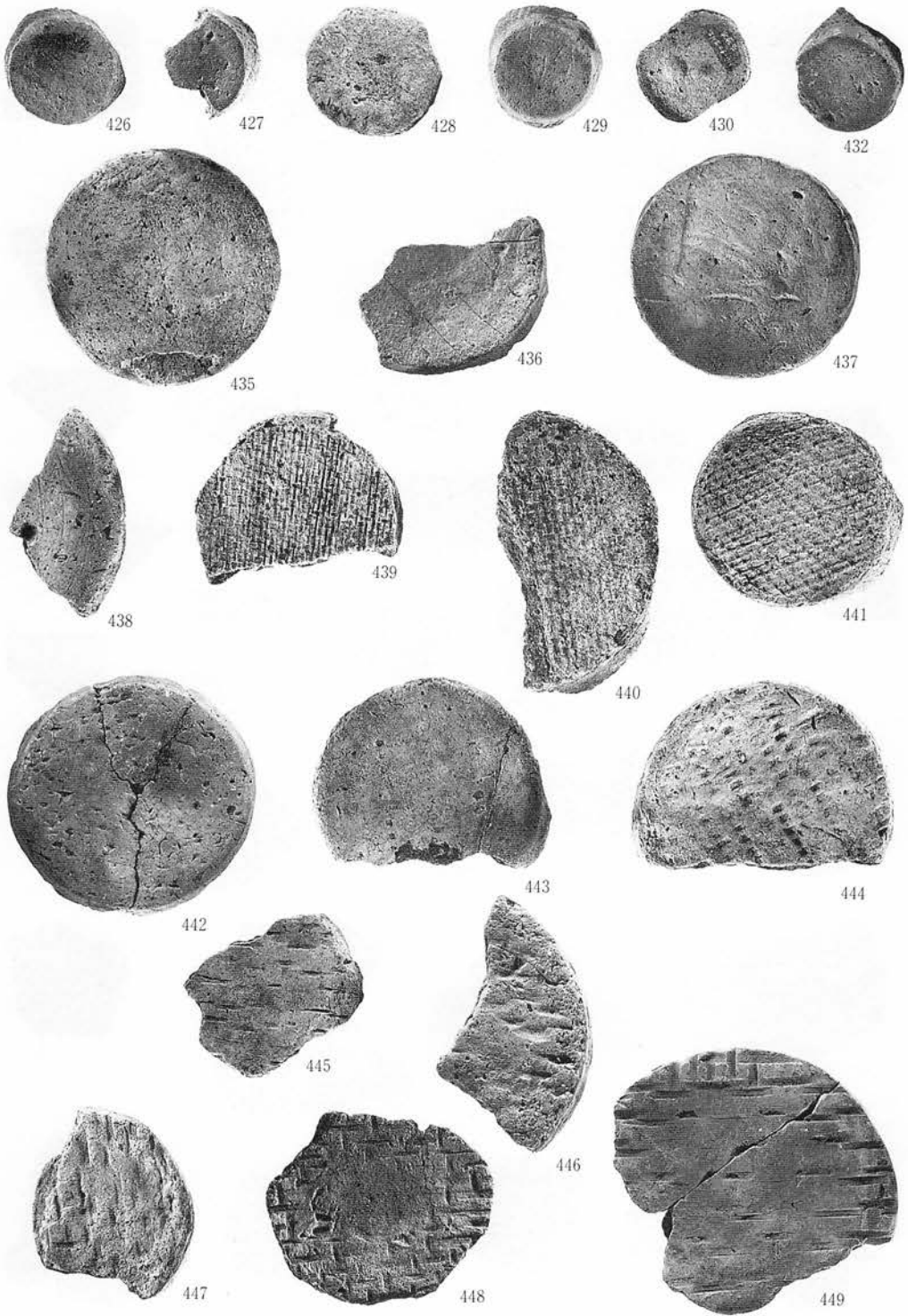
写真図版118 遺構外遺物：縄文土器(15)



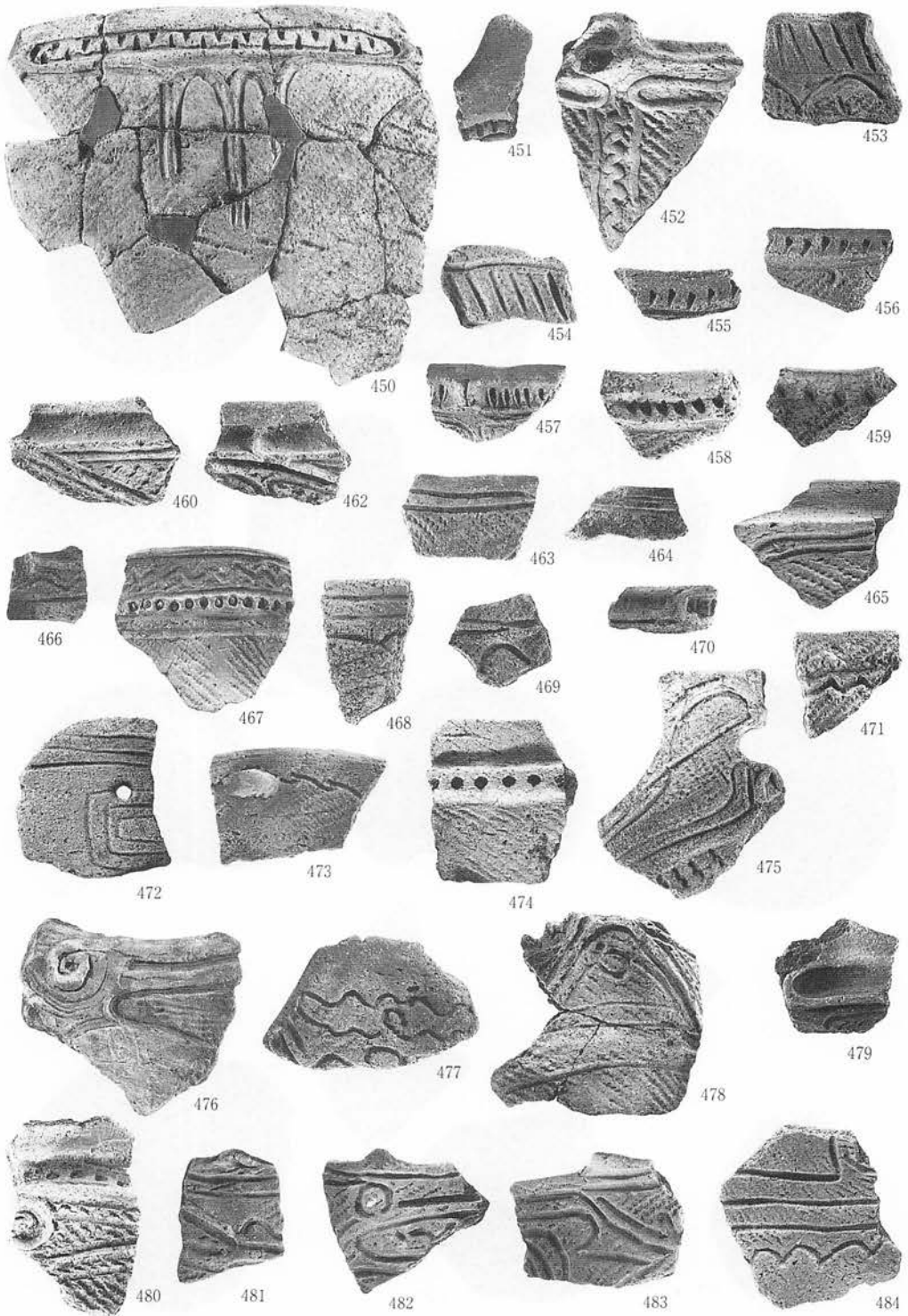
写真図版119 遺構外遺物：縄文土器(16)



写真図版120 遺構外遺物：縄文土器(17)



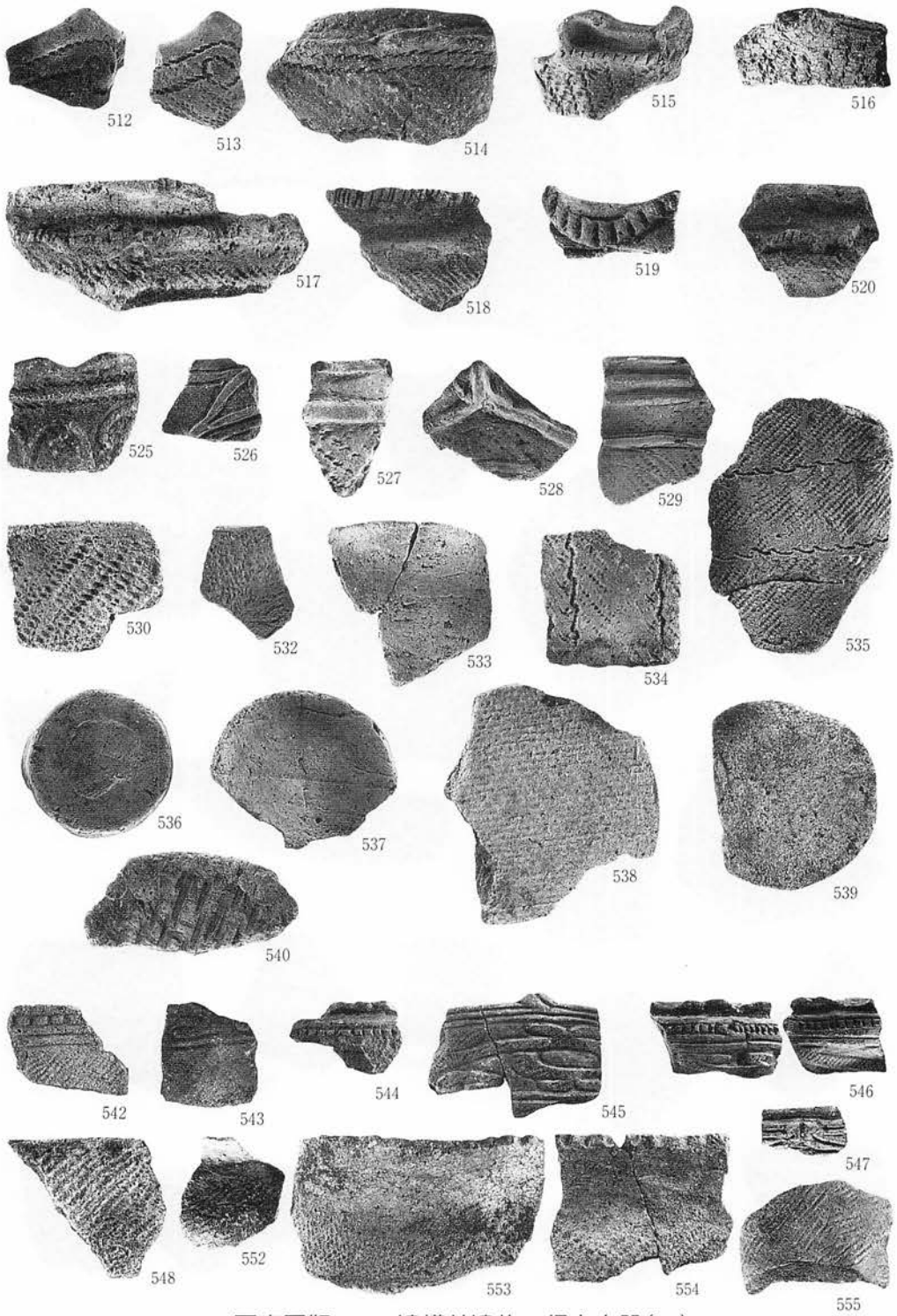
写真図版121 遺構外遺物：縄文土器(18)



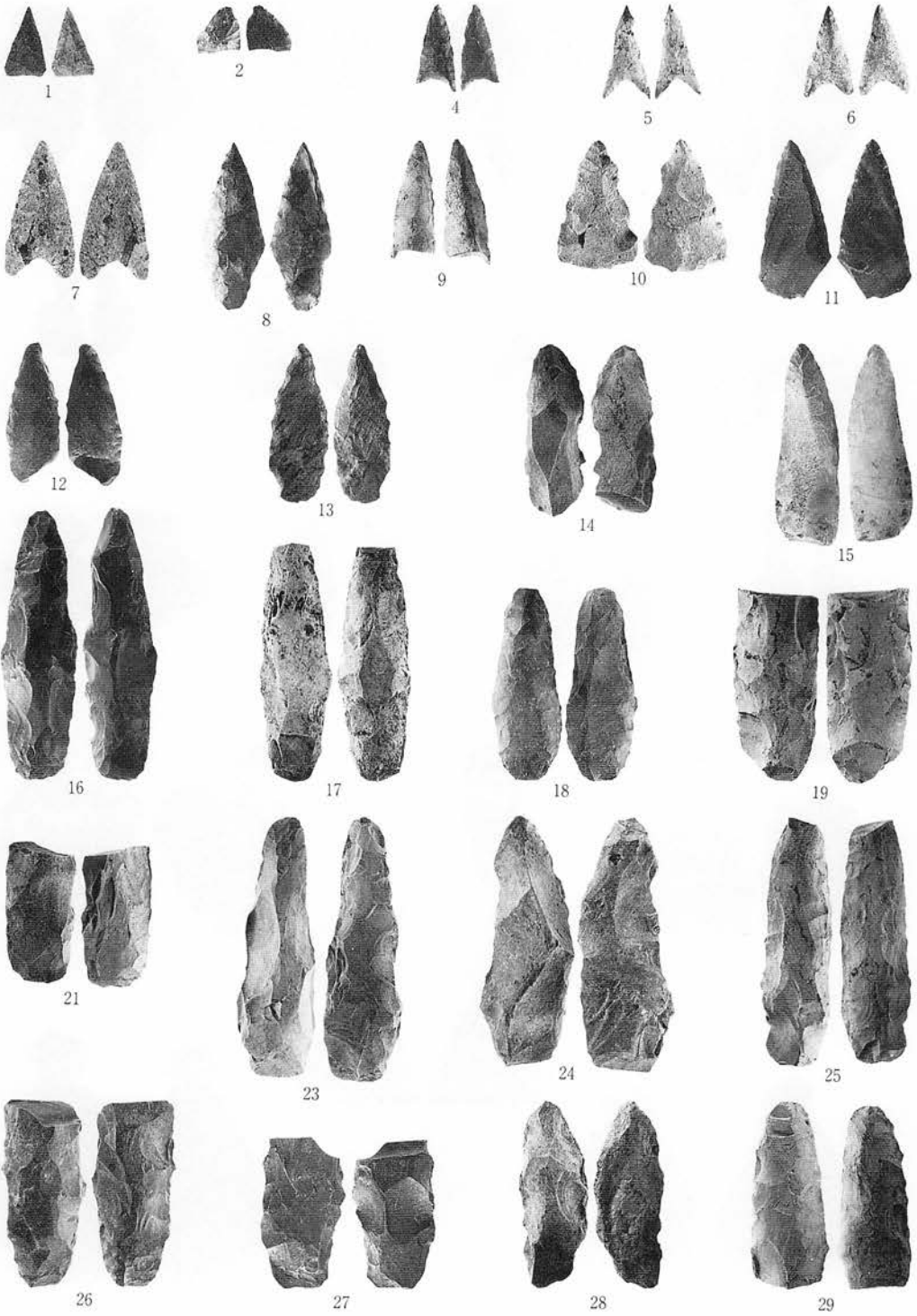
写真図版122 遺構外遺物：縄文土器(19)



写真図版123 遺構外遺物：縄文土器(20)



写真図版124 遺構外遺物：縄文土器(21)



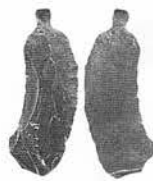
写真図版125 遺構外遺物：石器(1)



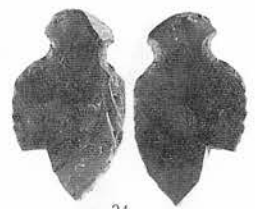
31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



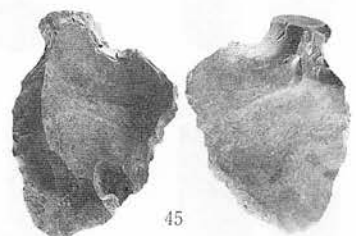
42



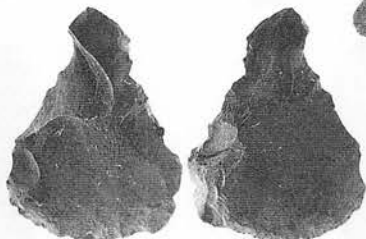
43



44



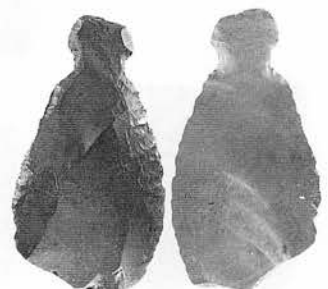
45



47



46

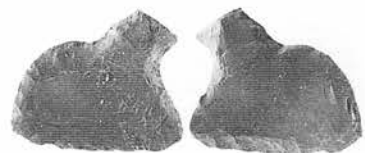


48

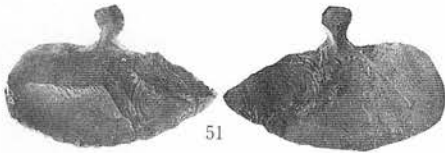
写真図版126 遺構外遺物：石器(2)



49



50



51



52



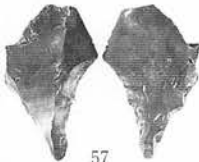
53



54



55



57



58



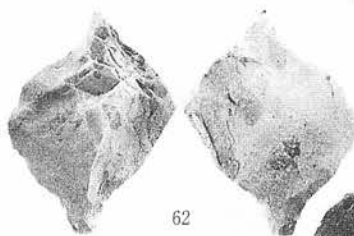
59



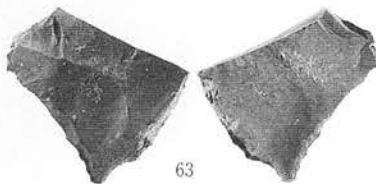
60



61



62

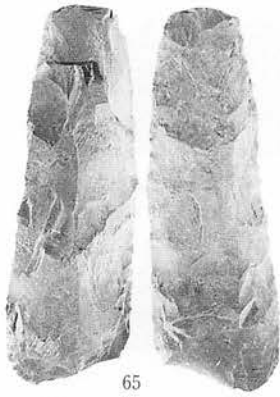


63

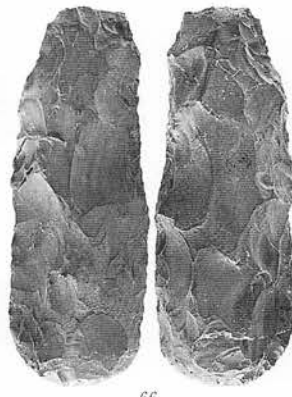


64

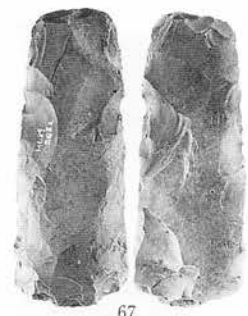
写真図版127 遺構外遺物：石器(3)



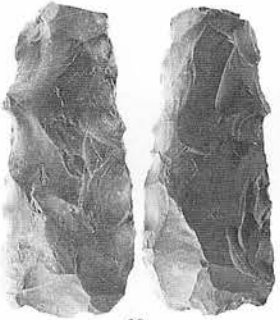
65



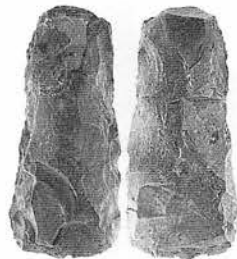
66



67



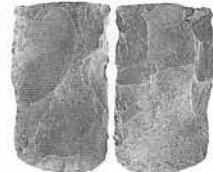
68



69



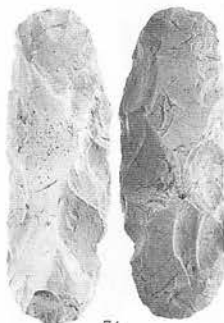
71



72



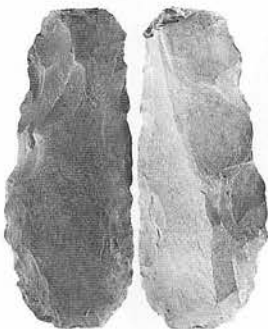
73



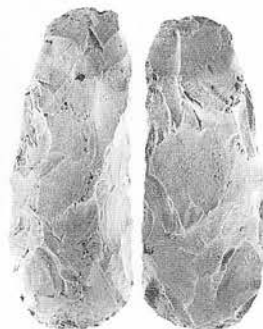
74



75



76

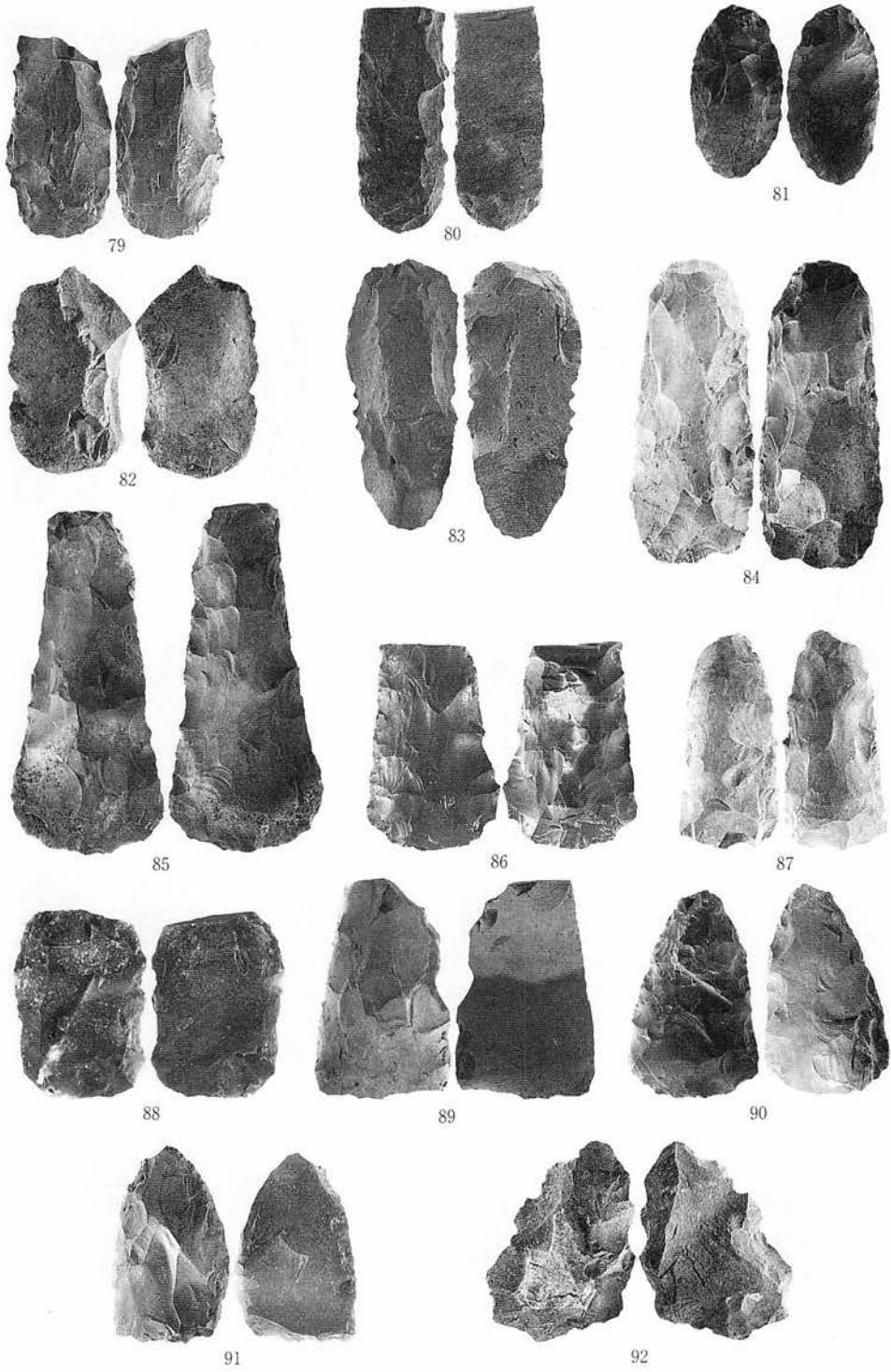


77

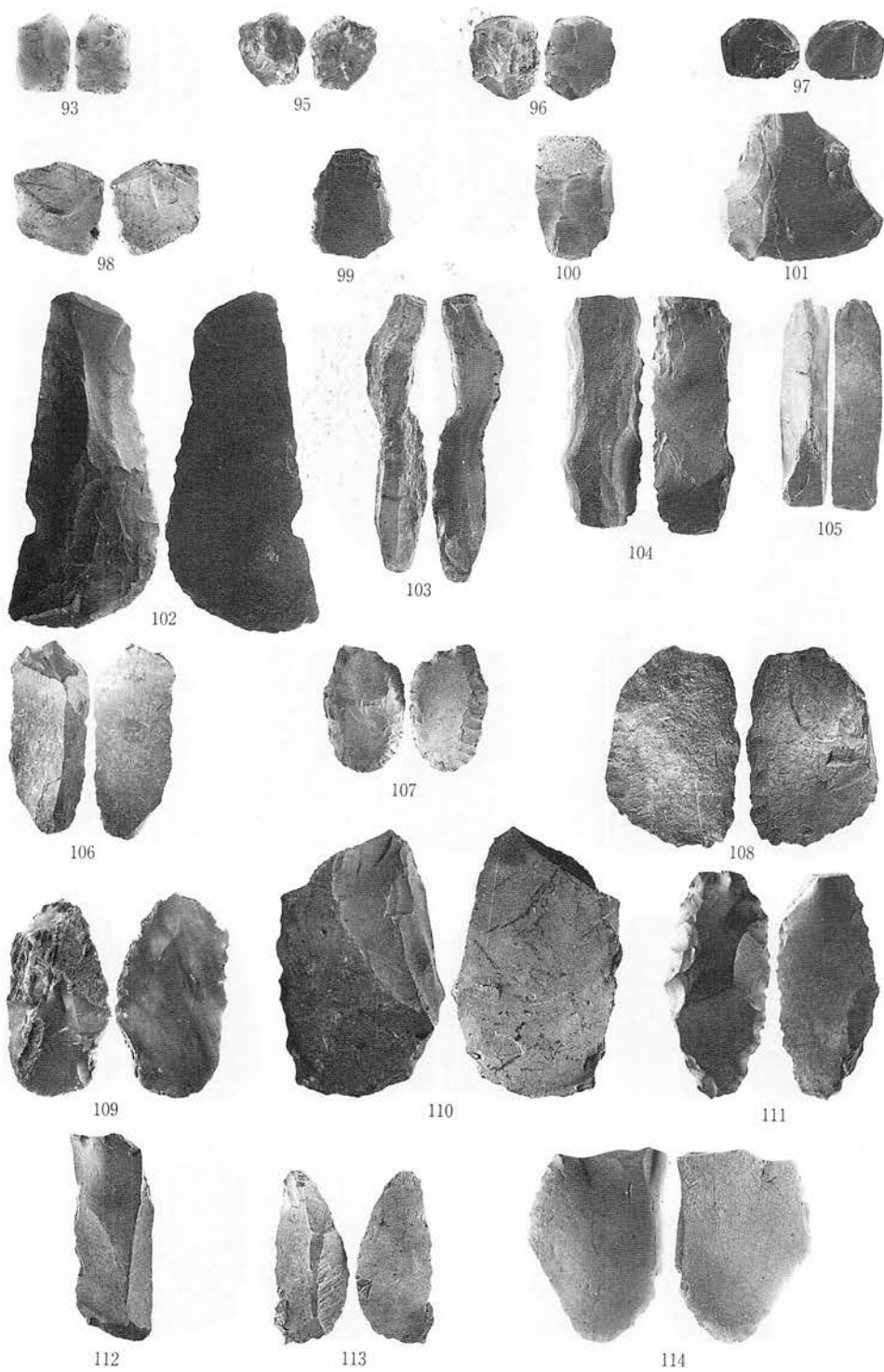


78

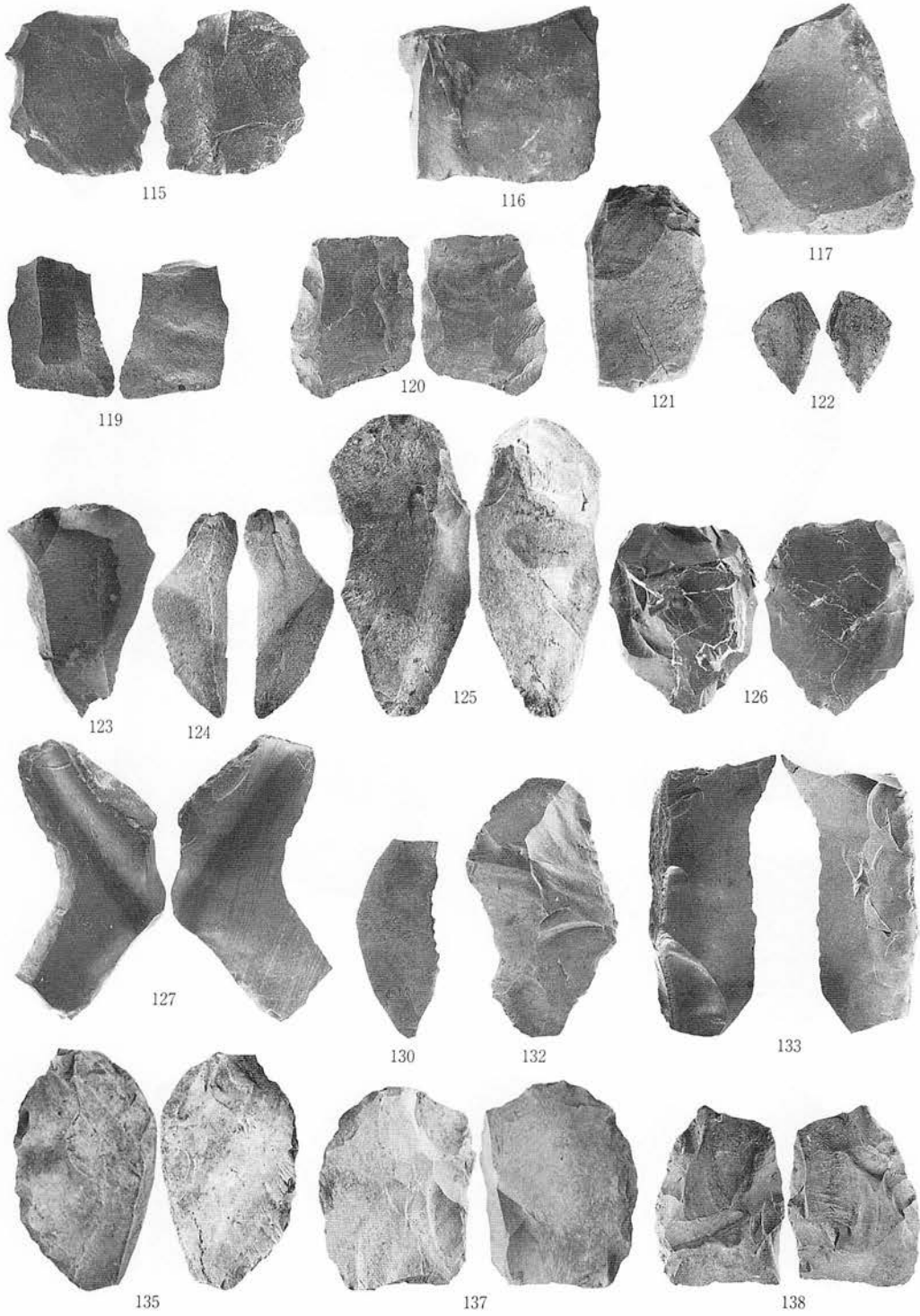
写真図版128 遺構外遺物：石器(4)



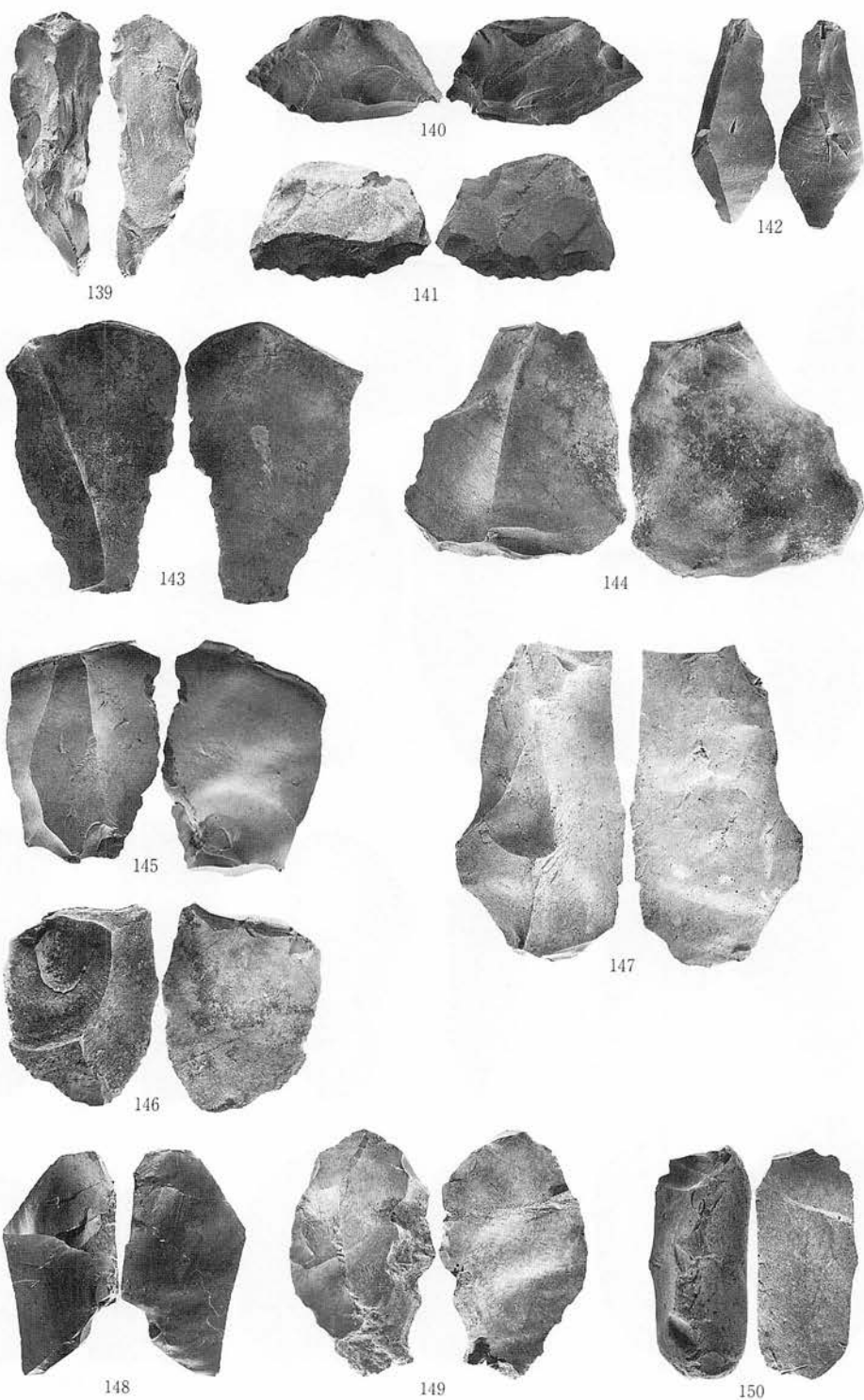
写真図版129 遺構外遺物：石器(5)



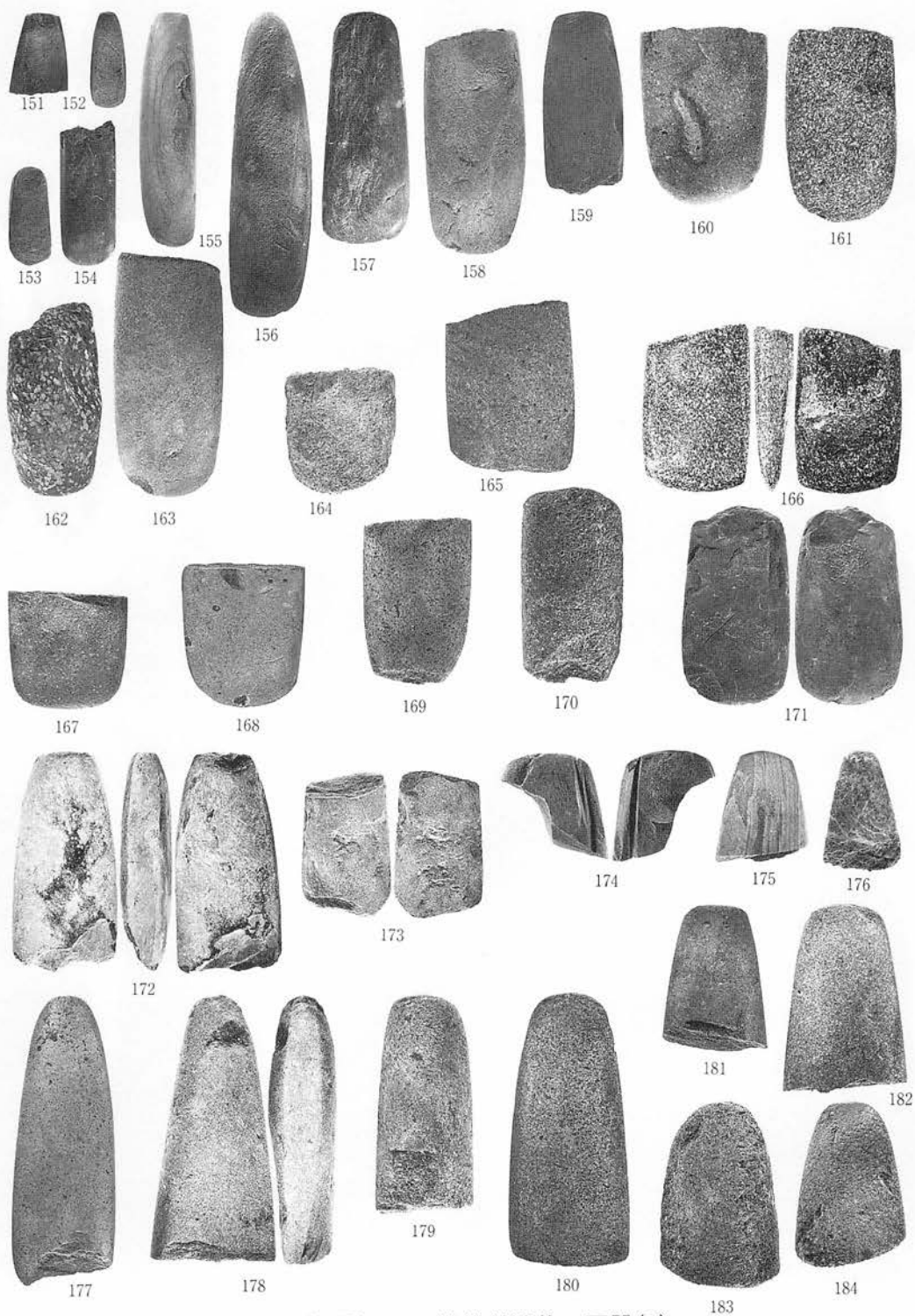
写真図版130 遺構外遺物：石器(6)



写真図版131 遺構外遺物：石器(7)



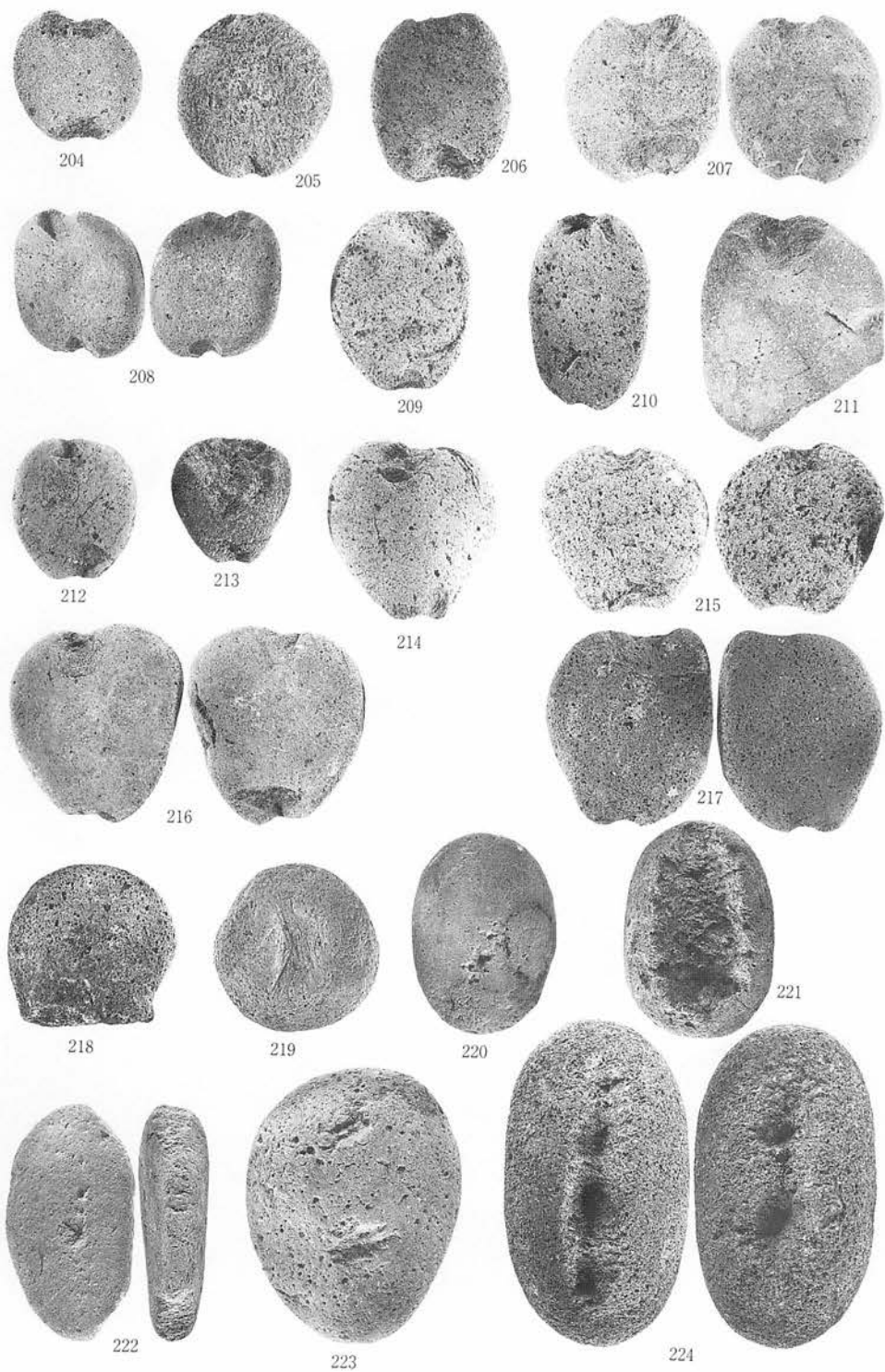
写真図版132 遺構外遺物：石器(8)



写真図版133 遺構外遺物：石器(9)



写真図版134 遺構外遺物：石器(10)



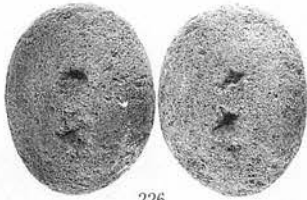
写真図版135 遺構外遺物：石器(11)



225



227



226



229



228



231



230



232

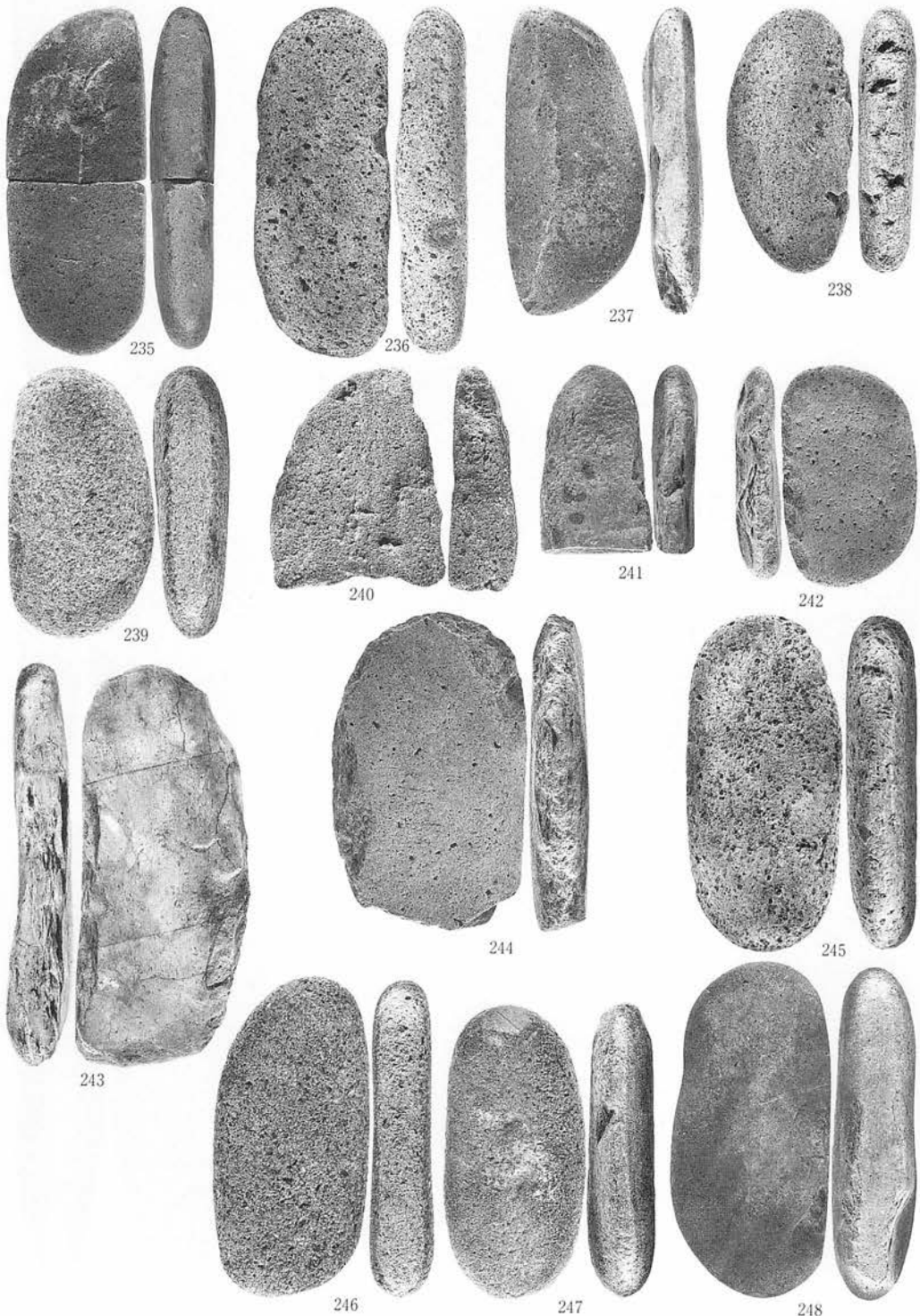


233



234

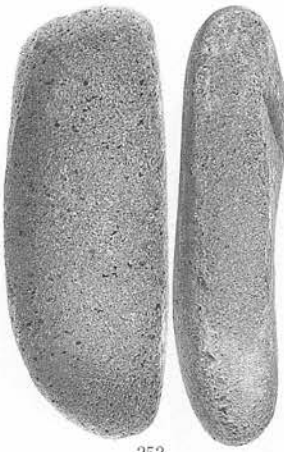
写真図版136 遺構外遺物：石器(12)



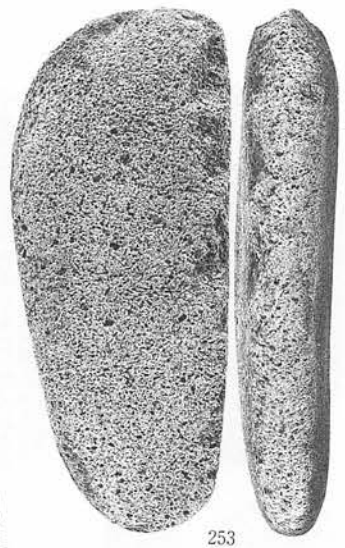
写真図版137 遺構外遺物：石器(13)



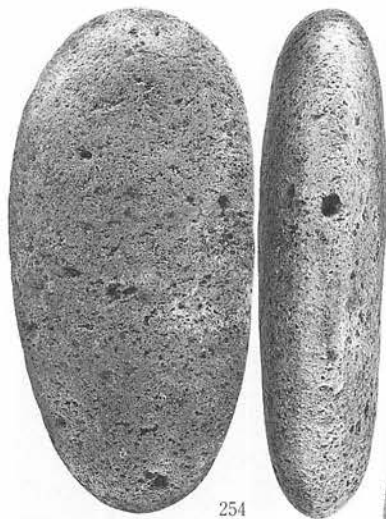
251



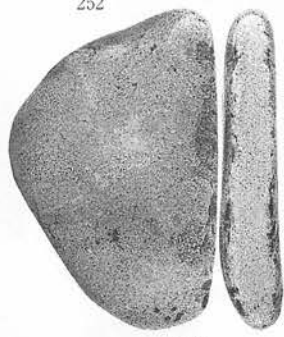
252



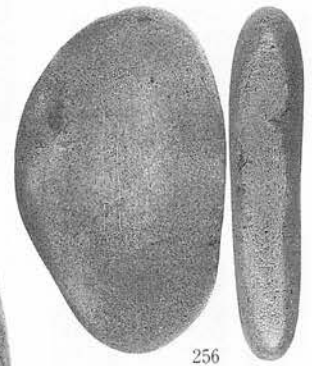
253



254



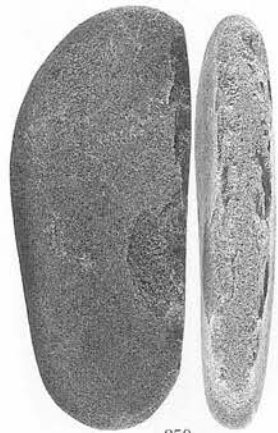
255



256



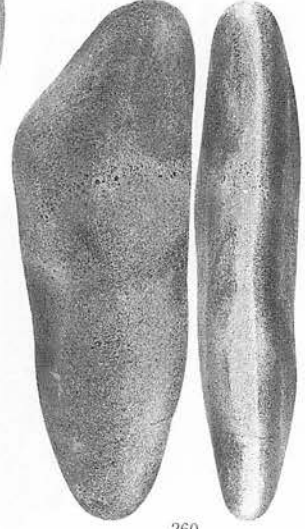
257



259



258



260

写真図版138 遺構外遺物：石器(14)



写真図版139 遺構外遺物：石器(15)



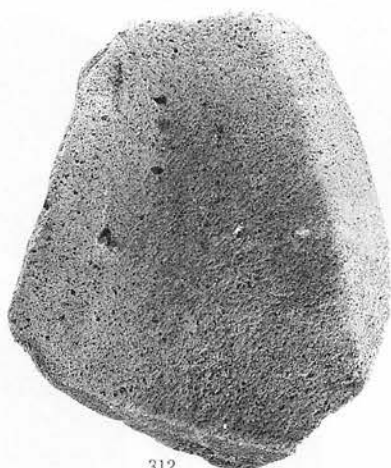
309



310



311



312



313



314



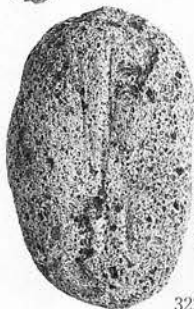
316



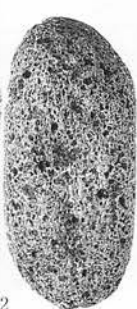
317



318



322



320



写真図版140 遺構外遺物：石器(16)



土偶1 出土状況



土偶3 出土状況



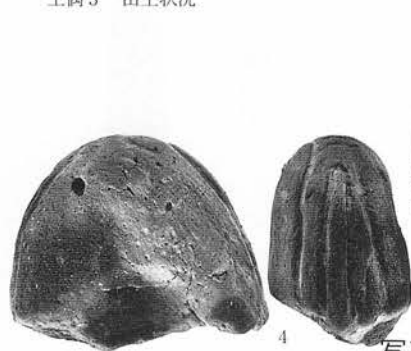
1



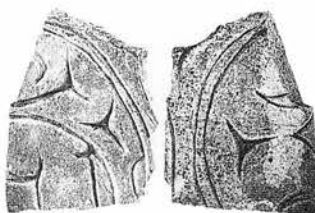
3



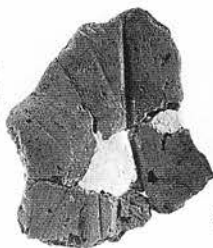
2



4



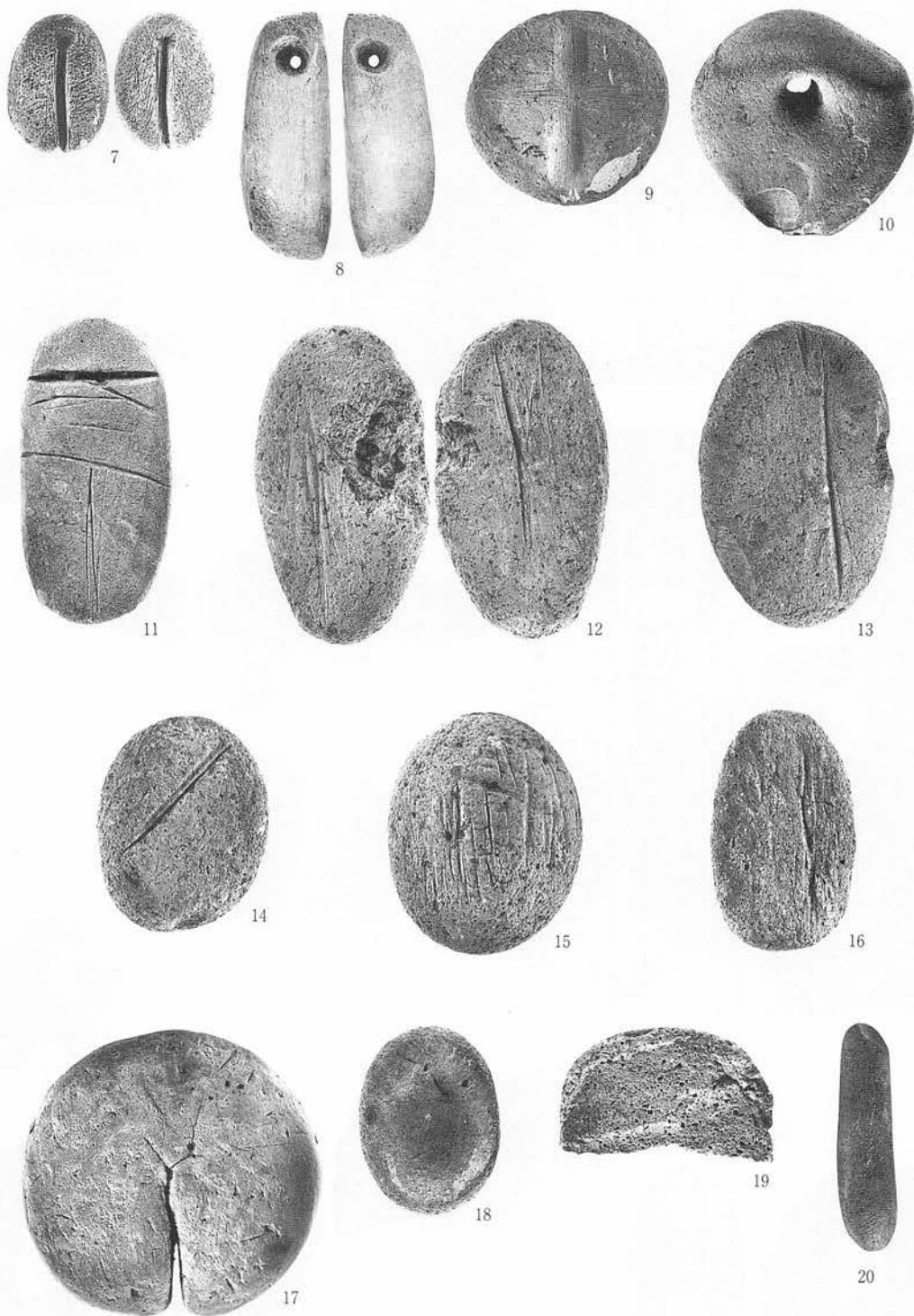
5



6



写真図版141 遺構外特殊遺物(1)



写真図版142 遺構外特殊遺物(2)



21



22



23



24



25

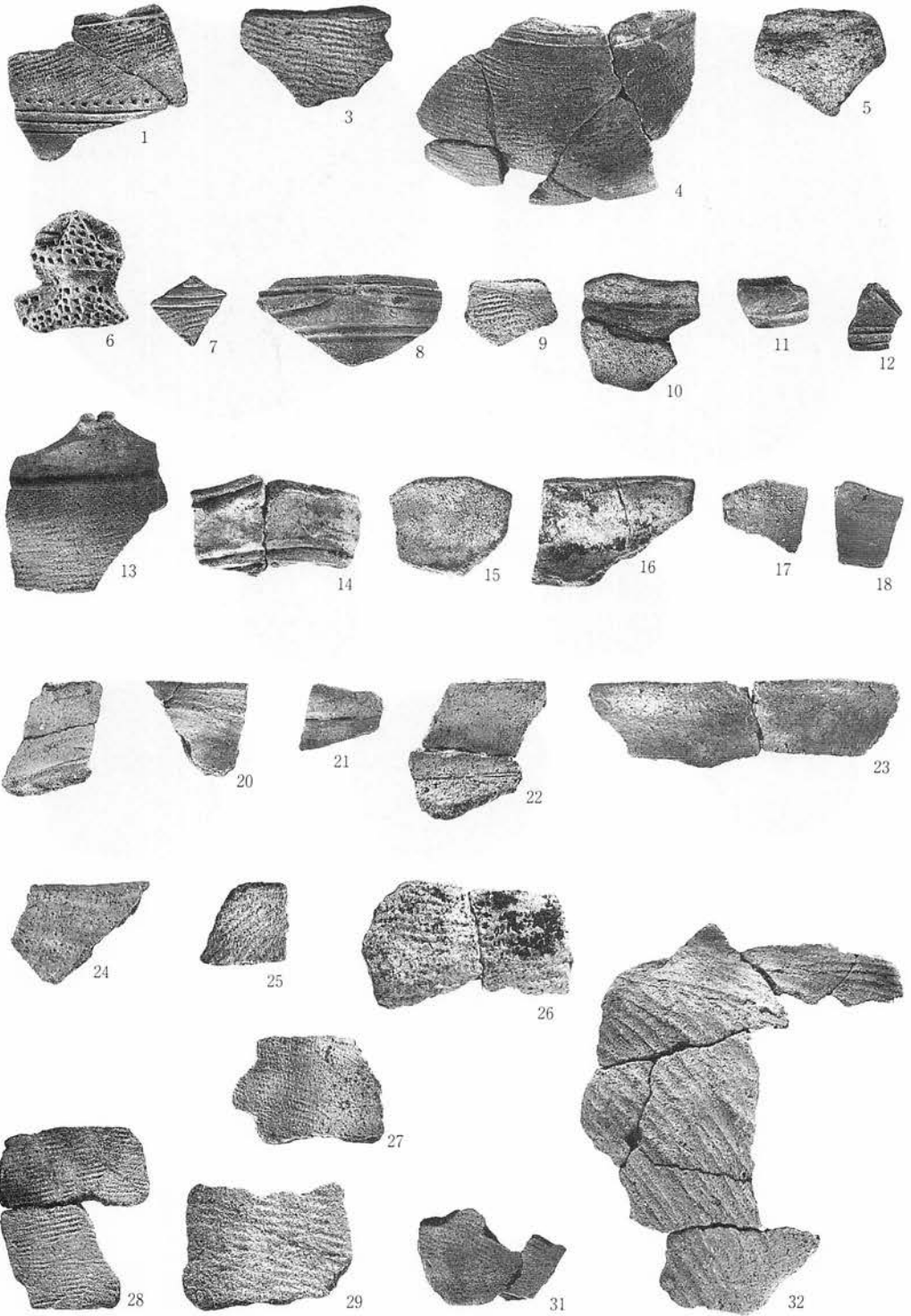


26

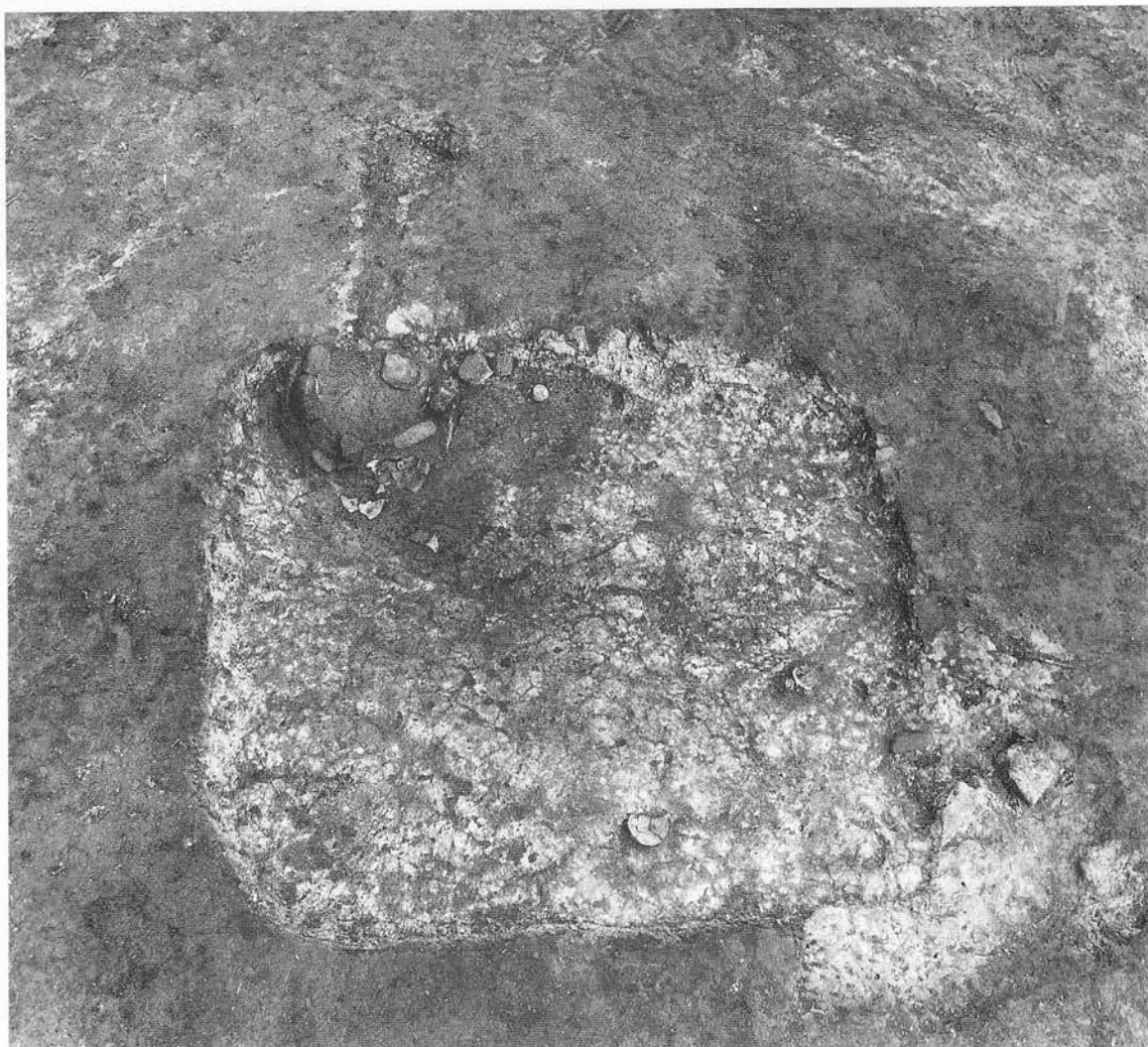


27

写真図版143 遺構外特殊遺物(3)



写真図版144 遺構外遺物：弥生土器



I F-1 住居跡 全景 (西から)



カマド検出状況 (西から)



カマド支脚の土師器 (南から)

写真図版145 I F-1 号住居跡



I F-2 住居跡 全景 (南西から)

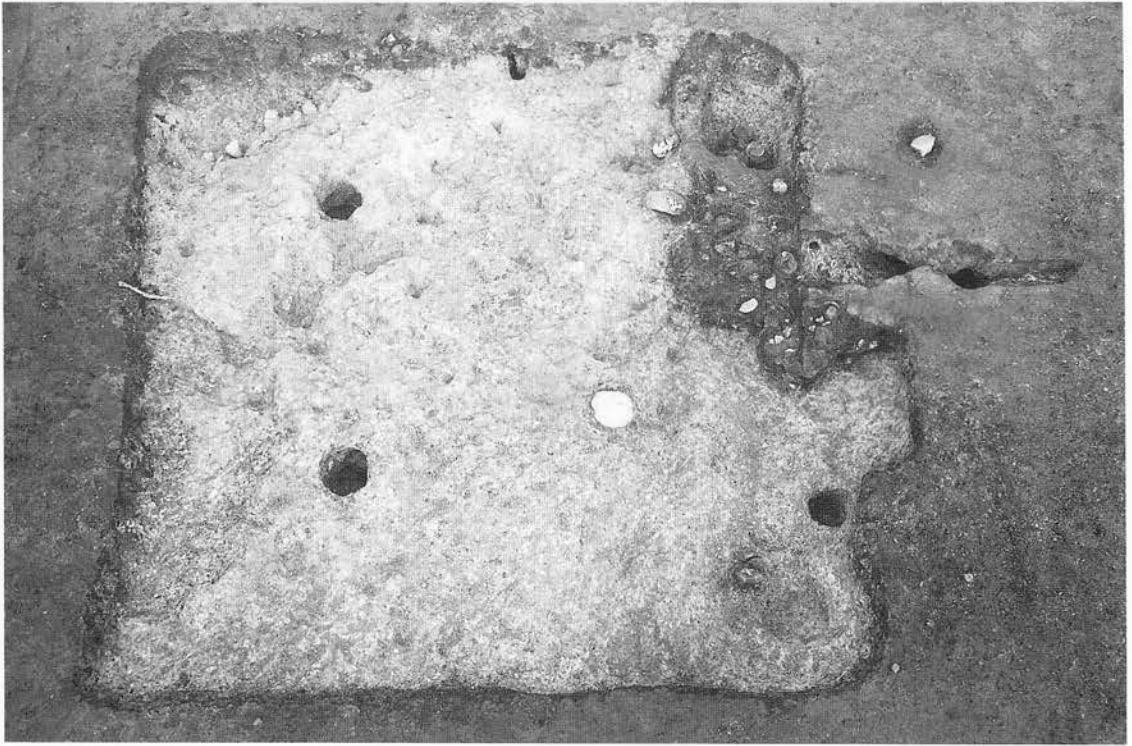


手前より I F-1、2 住 (北西から)



カマド袖部の須恵器 (南東から)

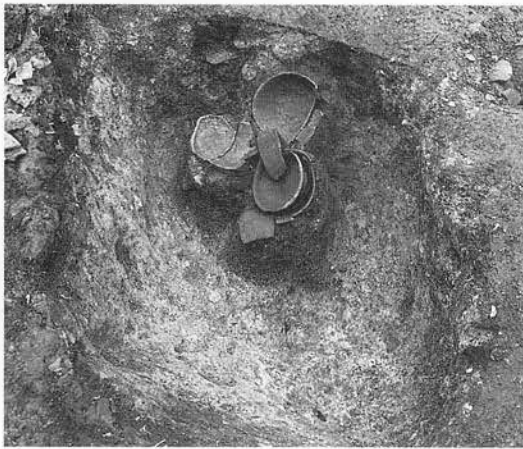
写真図版146 I F-2 号住居跡



I G-1 住居跡 貼り床除去後全景 (南から)



カマド燃焼部断面 (北から)

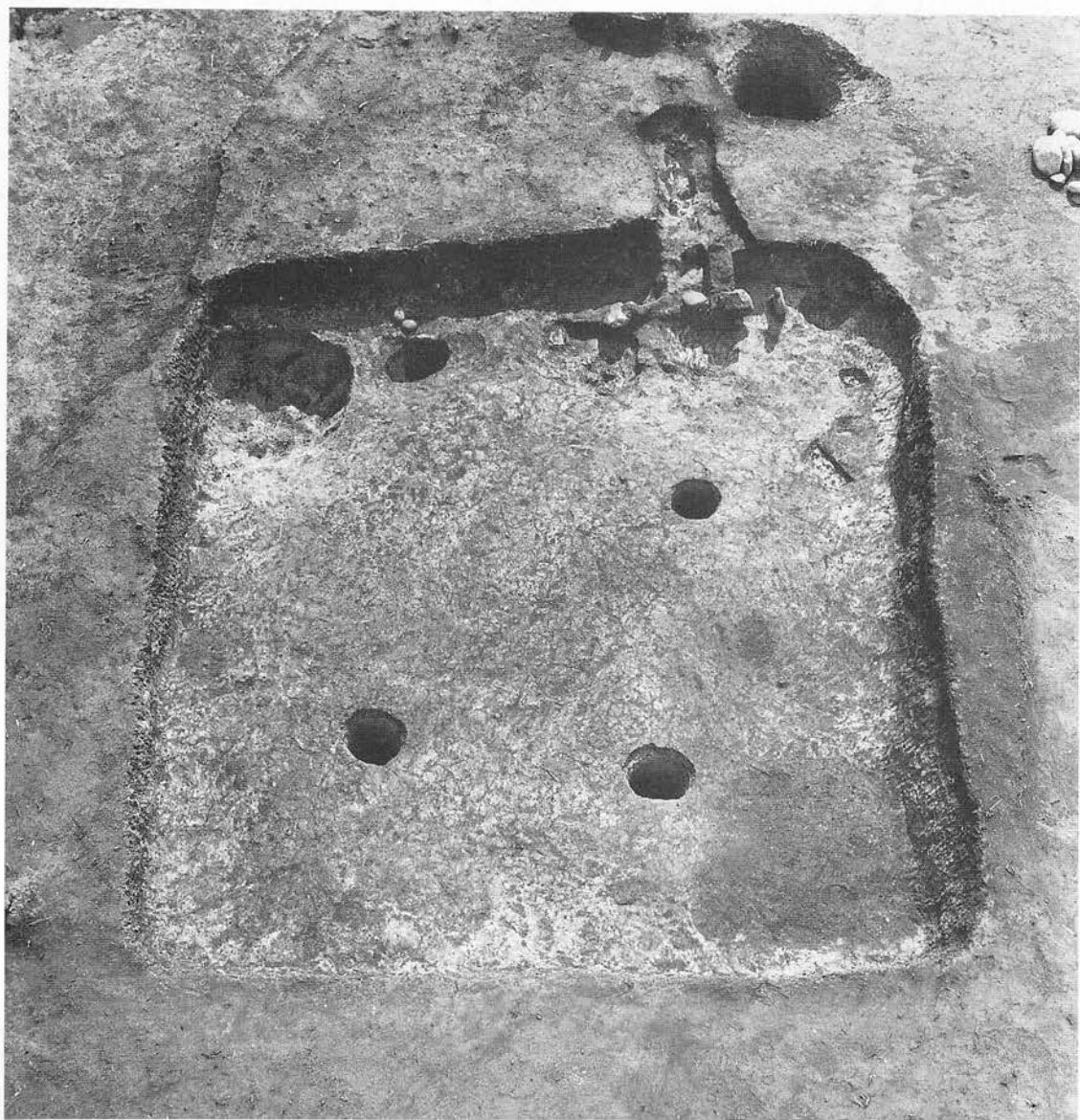


土城内遺物出土状況

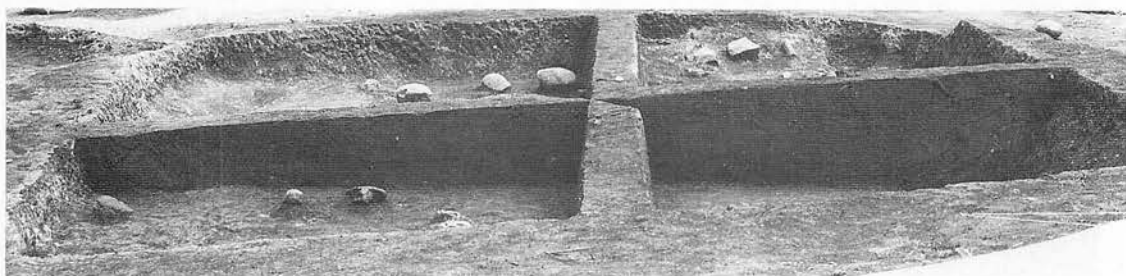


カマドくりぬき式煙道部 (西から)

写真図版147 I G-1 号住居跡



I G-2 住居跡 全景 (西から)



埋土断面 (西から)

写真図版148 I G-2号住居跡(1)



カマド検出面（西から）

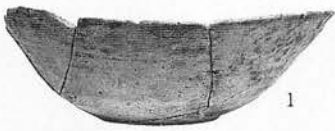


カマド全景（西から）



IG-2住居跡 貼り床除去後全景（東から）

写真図版149 IG-2号住居跡(2)



1



3



4



7



8



9



10

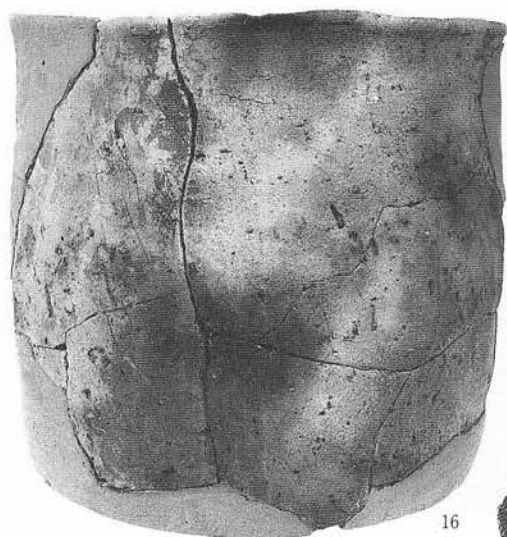


14

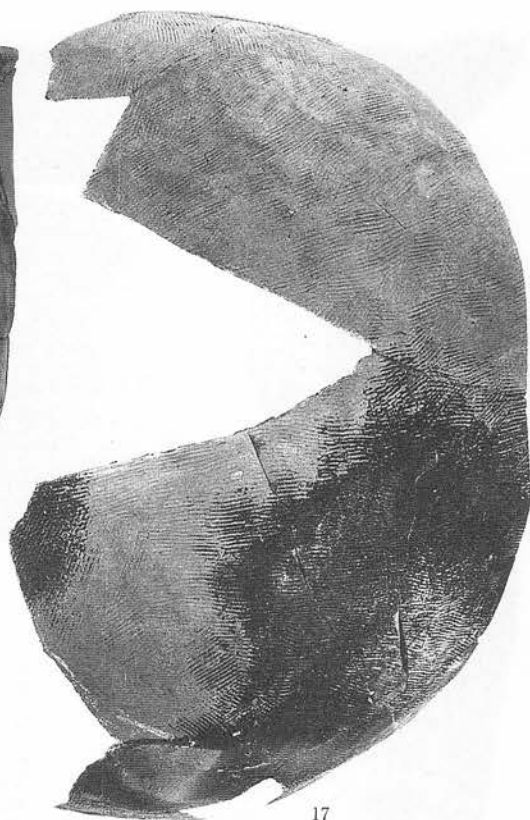


13

写真図版150 I F-1、2号住居跡遺物



16



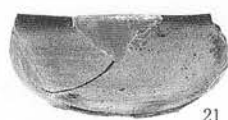
17



18



19



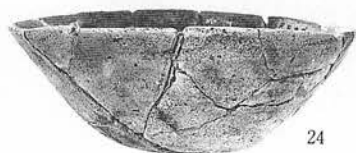
21



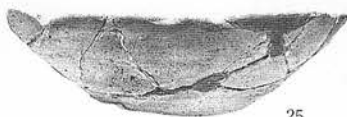
22



23



24



25

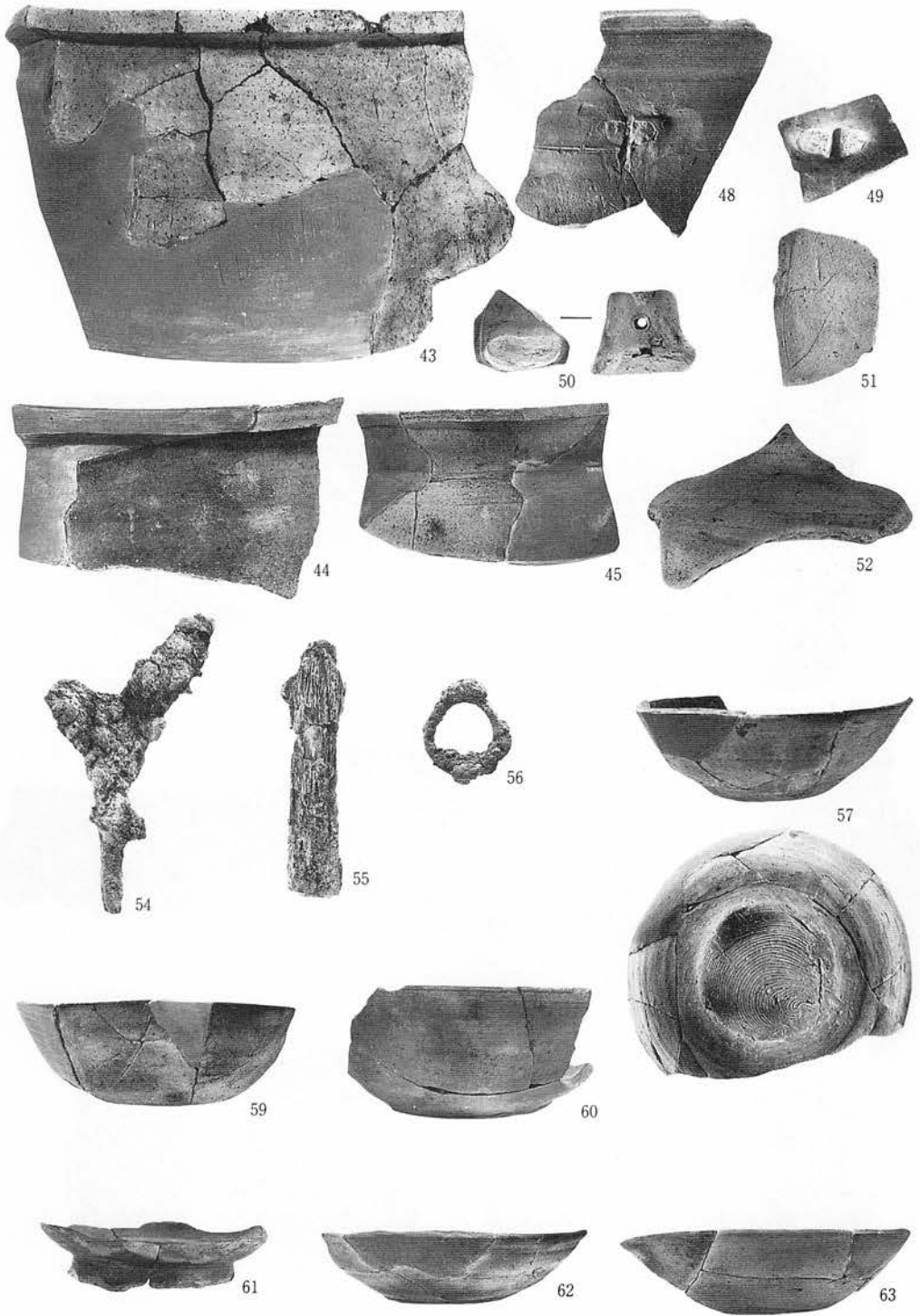


27

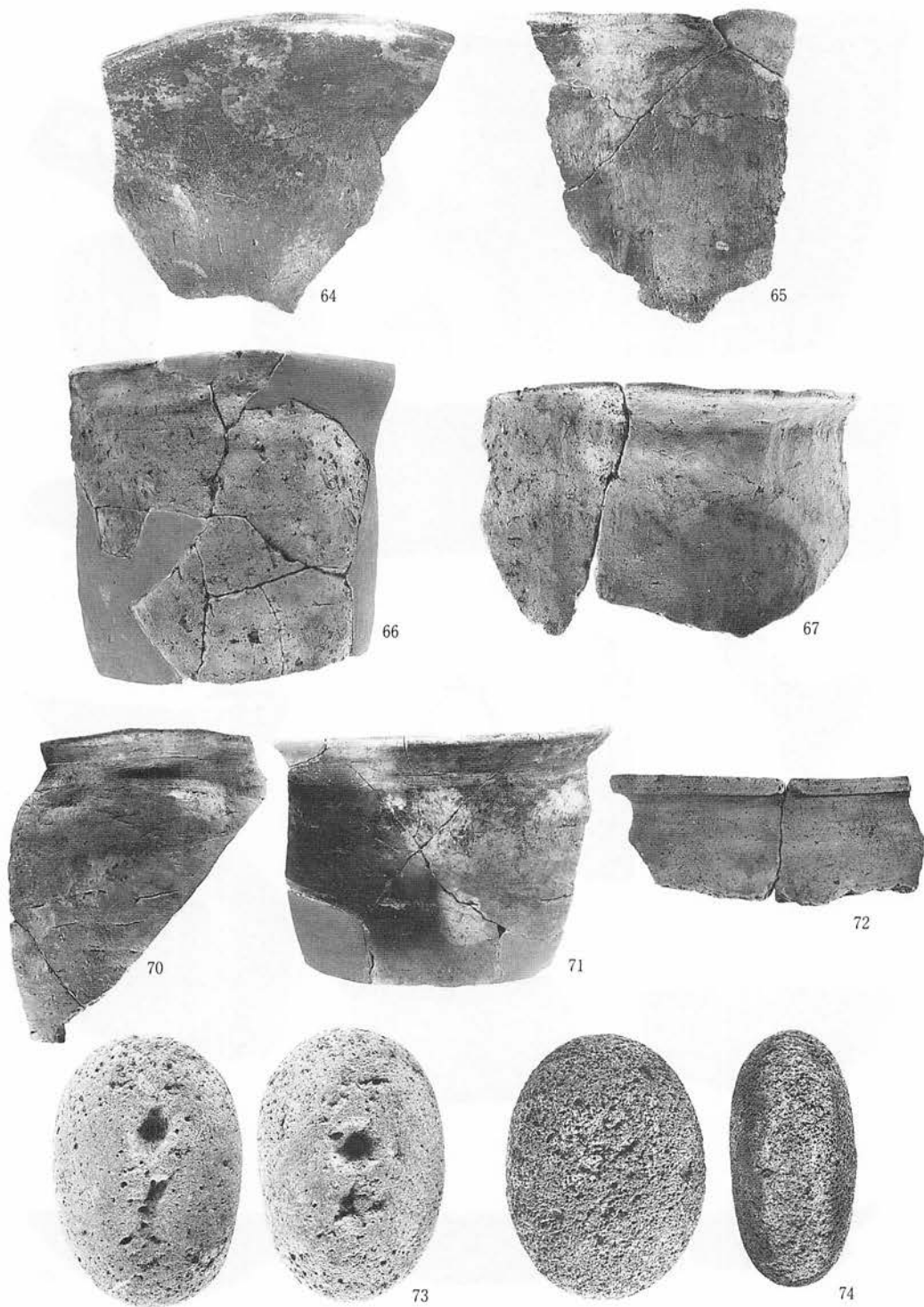
写真図版151 I F-2、I G-1号住居跡遺物



写真図版152 I G-1号住居跡遺物

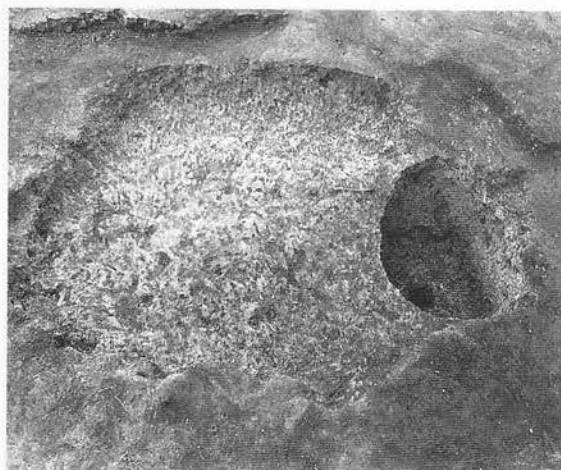


写真図版153 IG-1、2号住居跡遺物

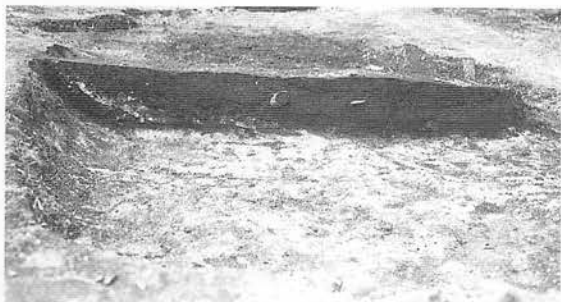


写真図版154 I G-2号住居跡遺物

I G-1 方形土壇



平面 (東から)

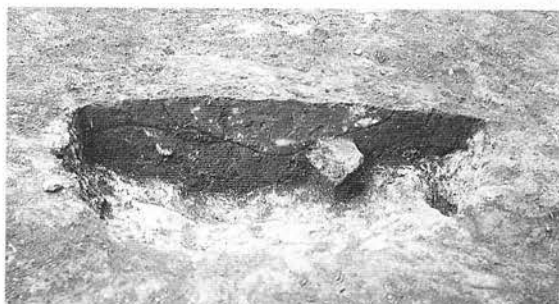


断面 (南から)

I G-2 方形土壇



平面 (南から)



断面 (東から)



土錘出土状況

(I G-1 方形土壇の近く)



本郷遺跡現場作業員のみなさん

写真図版155 I G-1、2号方形土壇



平面（北東から）



焼土内環出土状況

I G-1 焼土遺構 A



断面（西から）



I G-1 焼土遺構 B

平面（北から）

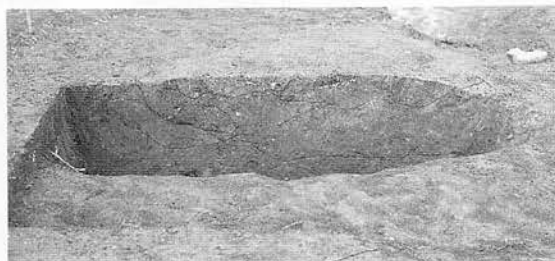


I G-1 焼土遺構 C

平面（南西から）

断面（南西から）

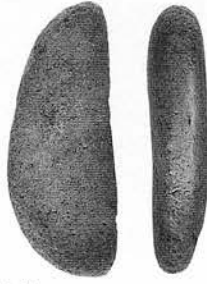
断面（北東から）



写真図版156 I G-1 焼土遺構 A、B、C



77



81



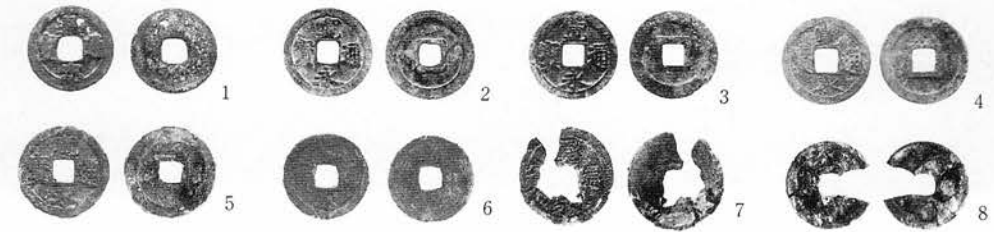
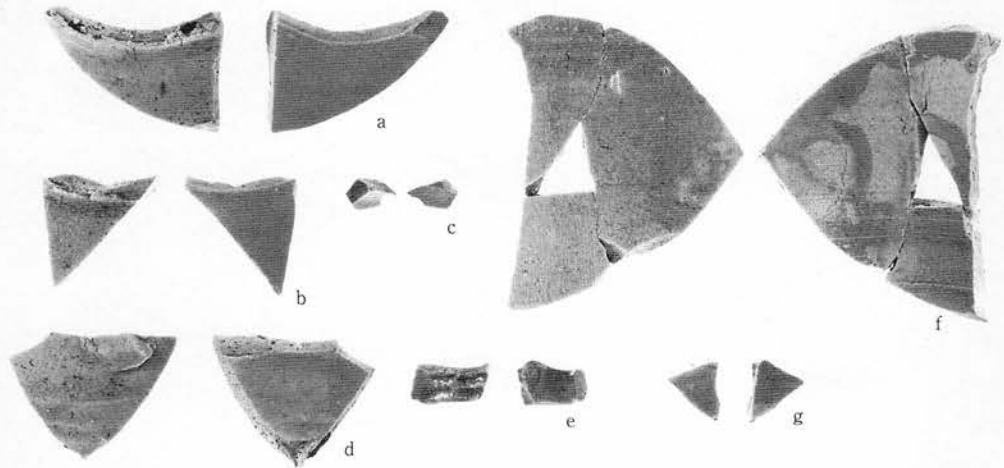
86

II G-1 号土壙

II G-2 号土壙



遺構外

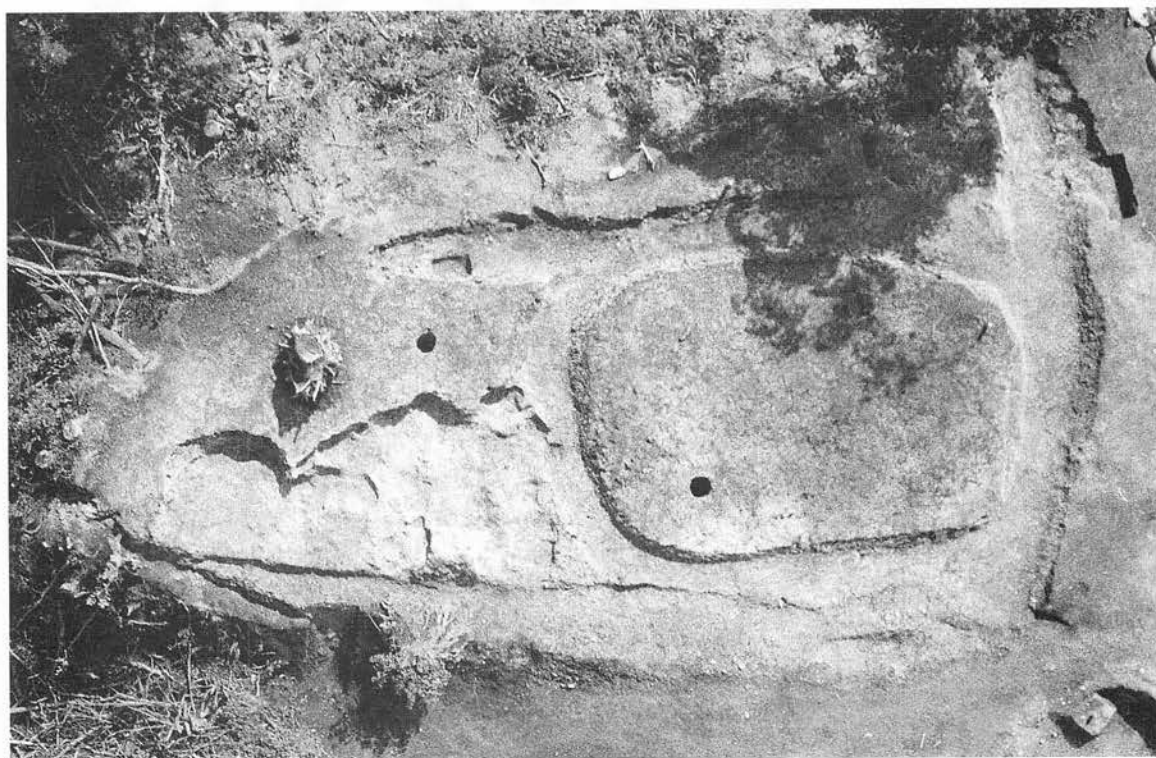


写真図版157 土壙・遺構外・I A-1 塚遺物

I A-1 塚



表土除去後



完掘状況

写真図版158 I A-1 塚(1)



周溝検出状況



土層断面



土層断面

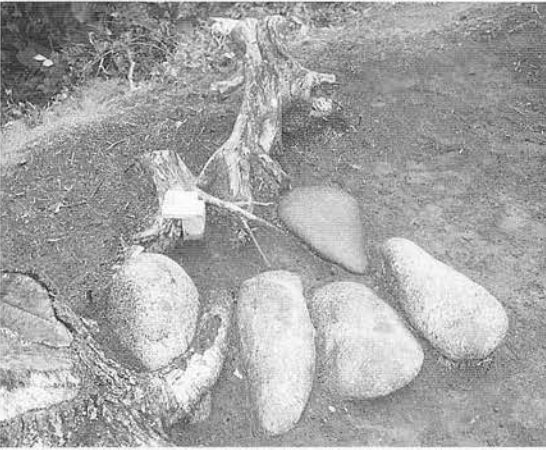
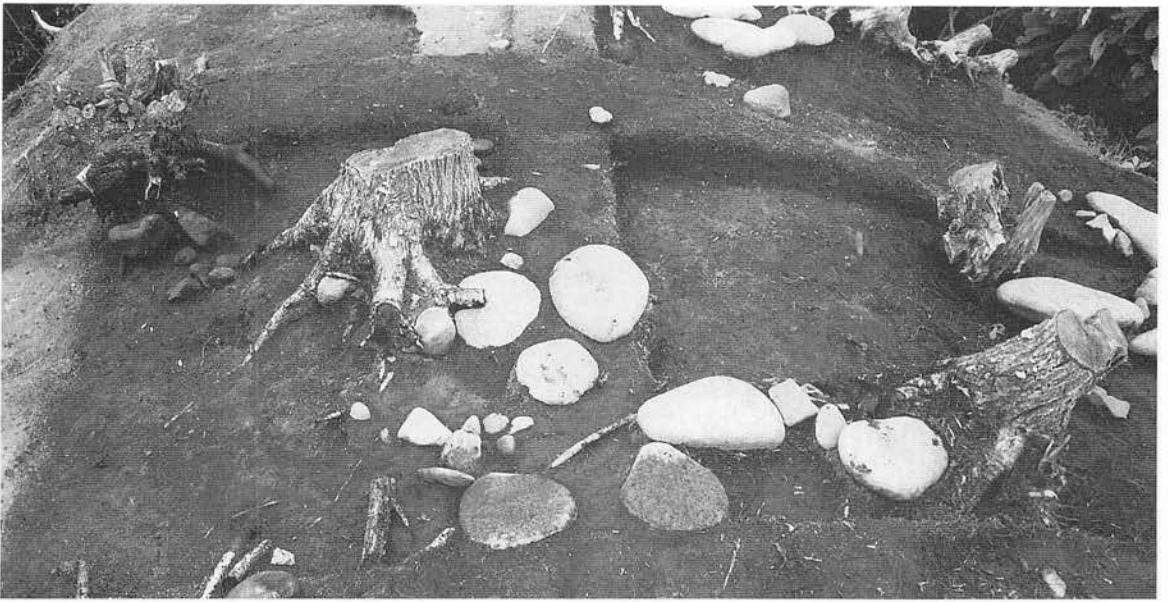


遺骨検出状況



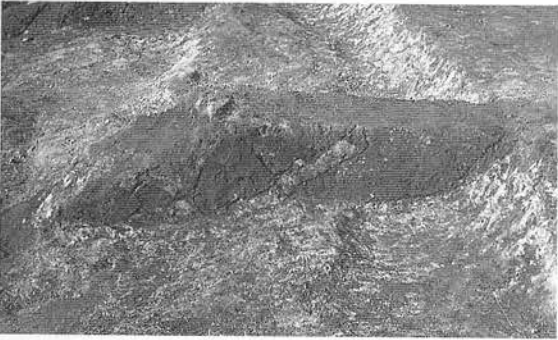
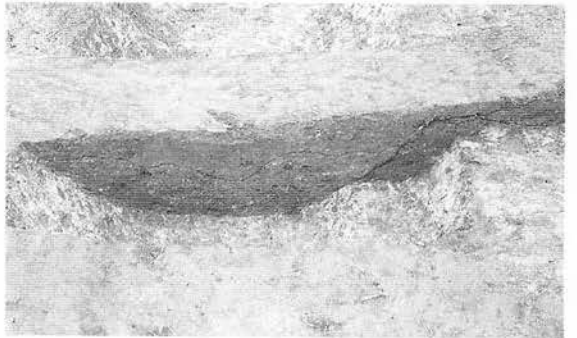
遺骨検出状況

写真図版159 I A-1 塚(2)



集石各部

写真図版160 I A-1 塚(3)



周溝埋土断面

写真図版161 I A-1 塚(4)



P 1 平面



P 2 平面



P 3 平面



P 4 平面



P 5・P 6 平面

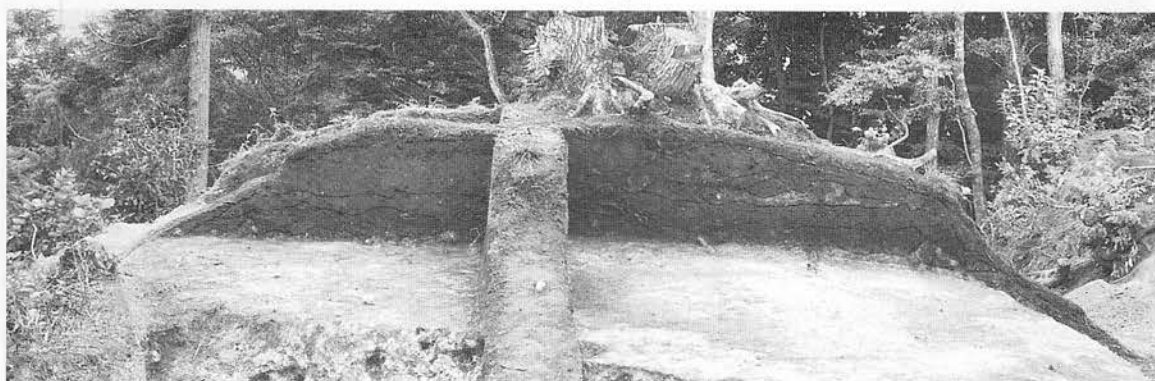


P 5・P 6 埋土断面

写真図版162 I A-1 塚(5)



表土除去後

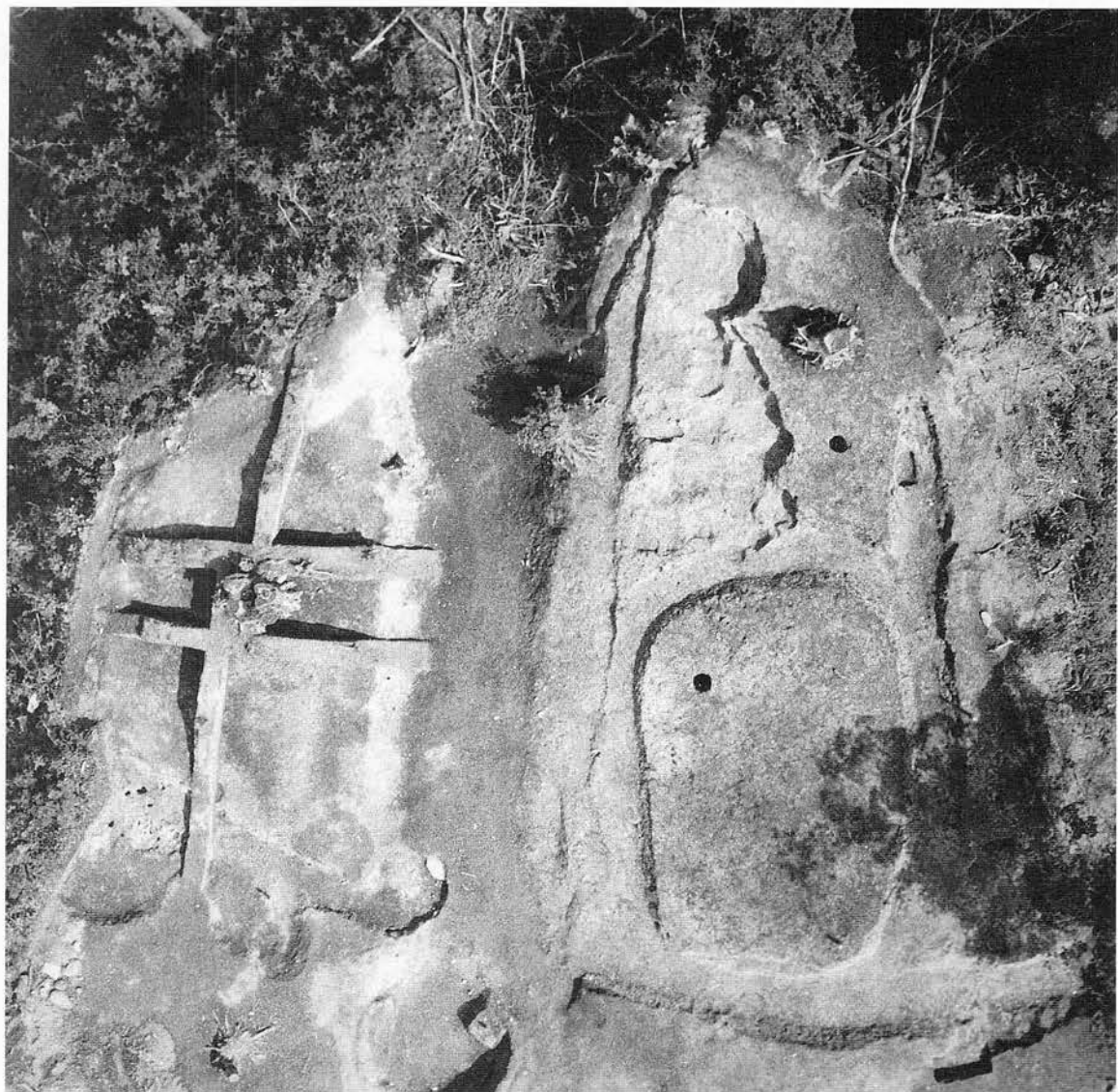


土層断面



土層断面

写真図版163 I A-2 塚



完掘状況

写真図版164 I A-1、2 塚完掘写真

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員(平成3年度)

理事兼
所長 小笠原 喜 一
副所長 高 橋 敬 明

〔管 理 課〕

管理課長(兼) 高 橋 敬 明
課長補佐 森 岡 陽 一
主 事 佐 藤 理

嘱 託 吉 田 一 男
〃 根 橋 文 一
運 転 技 術 士 佐 藤 春 男
兼 技 能 員

〔調 査 課〕

調査課長 村 上 康 昭
課長補佐 佐々木 嘉 直
(第一班) 鈴木 恵 治
課長補佐 小 田 野 哲 憲
(第二班) 三 浦 謙 一
主任文化財 工 藤 利 幸
専門調査員 高 橋 与 右 衛 門
〃 平 井 進
〃 中 川 重 紀
〃 藤 村 敏 男
〃 高 橋 義 介
文 化 財 齋 藤 實
専門調査員 佐 瀬 隆
〃 千 葉 孝 雄
〃 齋 藤 博 司
〃 東 海 林 隆 幹
〃 佐 々 木 弘
〃 川 村 均
〃 鈴 木 貞 行
〃 伊 東 格
〃 遠 藤 修
〃 齋 藤 邦 雄
〃 神 敏 明

文 化 財 佐々木 信 一
専門調査員 小 原 眞 一
〃 村 上 修
〃 酒 井 宗 孝
〃 松 本 建 速
〃 笹 平 克 子
〃 花 坂 政 博
〃 佐々木 務
〃 金 子 昭 彦
〃 濱 田 宏 造
期 限 付 専 門 鎌 田 精 造
職 員 阿 部 勝 則
〃 安 藤 邦 彦
〃 星 雅 之
〃 引 屋 敷 学
〃 鈴 木 知 己
〃 藤 村 隆
〃 千 葉 悟
〃 熊 谷 博 由
〃 新 倉 信 一 郎
〃 山 口 博 英
〃 川 村 聡
〃 八 重 座 の り 子

〔資 料 課〕

資料課長 村 松 義 夫
主任文化財 田 鎖 寿 夫
専門調査員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第164集

本郷遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成4年3月25日

発行 平成4年3月30日

発行 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 紫波郡都南村大字下飯岡11字高屋敷185

電話 (0196) 38-9001~2

印刷

川口印刷工業(株)

〒020 盛岡市本町通2-13-8

電話 (0196) 23-3351